

# 鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 33

## 平成28年度発掘調査報告

(第1分冊)

長谷小路周辺遺跡

材木座町屋遺跡

下馬周辺遺跡

由比ヶ浜南遺跡

今小路西遺跡

極楽寺旧境内遺跡

平成29年3月

鎌倉市教育委員会





長谷小路周辺遺跡（由比ガ浜三丁目 254 番 1）土坑 21 出土の貝



材木座町屋遺跡（材木座二丁目 208 番 1 地点）第 2 面全景（西から）





## ご あ い さ つ

本市は、市域のおおよそ6割が埋蔵文化財包蔵地であり、多くの市民が埋蔵文化財の眠る土地で生活を送っています。

近年、古い家屋や店舗の建て替えに伴い、埋蔵文化財に影響を及ぼす工事が増加し、長い年月地下で眠っていた文化財が失われることも増加してきています。

私たちが日々の生活を送っていく上で、やむを得ず失われる埋蔵文化財について記録を保存し後世に残すことは、現在を生きる私たちの責務であると言えます。

鎌倉市教育委員会では、昭和59年度から個人専用住宅等の建設に係る発掘調査を実施しています。本書は平成18・20・22・23・25・27年度に実施した、個人専用住宅等の建築に伴う発掘調査11ヶ所の調査記録を掲載しています。

本書が、武家政治発祥の地として知られ、今なお観光・文化都市として栄える鎌倉の歴史を解き明かす一助となればと願う次第です。

最後になりましたが、調査の実施に当たり、関係者の皆様に発掘調査に対し深いご理解を賜るとともに、調査の期間中、さまざまなお協力をいただきましたことを心からお礼を申し上げます。

平成29年3月31日

鎌倉市教育委員会

## 例 言

- 1 本書は平成28年度の国庫補助事業埋蔵文化財緊急調査に係る発掘調査報告書（第1分冊及び第2分冊）である。
- 2 本書所収の調査地点及び所収分冊は別表・別図のとおりである。
- 3 現地調査及び出土資料の整理は、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。
- 4 出土遺物及び調査に関する図面及び写真等は、鎌倉市教育委員会文化財課が保管している。
- 5 各調査の成果は、それぞれの報告を参照されたい。

# 総目次

## (第1分冊)

ごあいさつ	I
例言	II
目次	III
本誌掲載の平成18・20・22・23・25・27年度発掘調査地点一覧	VI
平成28年度調査の概観	VII
調査地点位置図	IX
<b>1 長谷小路周辺遺跡 (No.236) 由比ガ浜三丁目254番1地点</b>	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	4
第二章 検出した遺構と遺物	9
第三章 まとめ	19
<b>2 材木座町屋遺跡 (No.261) 材木座二丁目208番1地点</b>	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	46
第二章 検出遺構と出土遺物	54
第三章 まとめ	92
<b>3 下馬周辺遺跡 (No.200) 由比ガ浜二丁目54番15地点</b>	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	136
第二章 発見された遺構と遺物	140
第三章 まとめ	149
<b>4 由比ヶ浜南遺跡 (No.315) 長谷二丁目176番8地点</b>	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	170
第二章 発見された遺構と遺物	176
第三章 まとめ	185
<b>5 今小路西遺跡 (No.201) 由比ガ浜一丁目134番4地点</b>	
第一章 遺跡の概要	201
第二章 検出遺構と出土遺物	204
第三章 まとめ	209
<b>6 極楽寺旧境内遺跡 (No.291) 極楽寺四丁目923番2の一部地点</b>	
第一章 遺跡の位置と歴史的環境	222

第二章	調査の方法と経過	225
第三章	基本土層	226
第四章	発見された遺構と遺物	228
第五章	調査成果のまとめ	237

(第2分冊)

例言	II
目次	III

**7 米町遺跡 (No.245) 大町二丁目2340番1地点**

第一章	遺跡の位置と歴史的環境	5
第二章	調査の方法と経過	5
第三章	基本土層	8
第四章	発見された遺構と遺物	12
第五章	調査成果のまとめ	28
付 編	米町遺跡の寄生虫卵分析・花粉分析	47

**8 名越ヶ谷遺跡 (No.231) 大町六丁目1506番11の一部地点**

第一章	遺跡の位置と歴史的環境	73
第二章	調査の方法と経過	75
第三章	基本土層	76
第四章	発見された遺構と遺物	78
第五章	調査成果のまとめ	86

**9 北条小町邸跡 (No.282) 雪ノ下一丁目403番14地点**

第一章	遺跡の位置と歴史的環境	97
第二章	調査の方法と経過	99
第三章	基本土層	100
第四章	発見された遺構と遺物	106
第五章	調査成果のまとめ	120

**10 長谷小路周辺遺跡 (No.236) 由比ガ浜三丁目194番71地点**

第一章	遺跡の位置と歴史的環境	159
第二章	検出遺構と出土遺物	167
第三章	まとめ	170

## 11 台山遺跡 (No. 29) 山ノ内860番2地点

第一章	遺跡の位置と歴史的環境	217
第二章	調査の方法と経過	220
第三章	基本土層	221
第四章	発見された遺構と遺物	221
第五章	調査成果のまとめ	231
付 編	台山遺跡の花粉分析とプラント・オパール分析	232

## 本誌掲載の平成18・20・22・23・25・27年度発掘調査地点一覧

### 第1分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
1 ▲	長谷小路周辺遺跡 (N0.236)	由比ガ浜三丁目254番1	自己用店舗併用住宅 (柱状改良工事)	都市	33.00	平成18年8月21日 ～平成18年10月3日
2 ▲	材木座町屋遺跡 (N0.261)	材木座二丁目208番1	個人専用住宅兼事務所 (柱状改良工事)	都市	45.00	平成19年2月26日 ～平成19年5月1日
3 △	下馬周辺遺跡 (N0.200)	由比ガ浜二丁目54番15	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	都市	18.00	平成20年6月10日 ～平成20年7月7日
4 △	由比ガ浜南遺跡 (N0.315)	長谷二丁目176番8	個人専用住宅 (基礎工事)	都市	55.00	平成20年7月23日 ～平成20年8月15日
5 △	今小路西遺跡 (N0.201)	由比ガ浜一丁目134番4	個人専用住宅 (基礎工事)	都市	48.00	平成20年10月20日 ～平成20年11月10日
6 ●	極楽寺旧境内遺跡 (N0.291)	極楽寺四丁目923番2の 一部	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	社寺	65.00	平成23年1月31日 ～平成23年3月31日

### 第2分冊

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
7 ○	米町遺跡 (N0.245)	大町二丁目2340番1	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	72.00	平成23年4月25日 ～平成23年7月8日
8 ■	名越ヶ谷遺跡 (N0.231)	大町六丁目1506番11の 一部	個人専用住宅 (柱状改良工事)	屋敷跡	55.00	平成25年4月15日 ～平成25年5月31日
9 ■	北条小町邸跡 (N0.282)	雪ノ下一丁目403番14	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	屋敷跡	41.80	平成25年10月10日 ～平成25年12月27日
10 ■	長谷小路周辺遺跡 (N0.236)	由比ガ浜三丁目194番71	個人専用住宅 (柱状改良工事)	都市	140.00	平成25年11月1日 ～平成26年3月7日
11 □	台山遺跡 (N0.29)	山ノ内860番2の一部	個人専用住宅 (鋼管杭工事)	遺物散布地 中世館跡 岩跡 集落跡	69.60	平成27年4月28日 ～平成27年6月23日

▲印は平成18年度実施の発掘調査  
 △印は平成20年度実施の発掘調査  
 ●印は平成22年度実施の発掘調査  
 ○印は平成23年度実施の発掘調査  
 ■印は平成25年度実施の発掘調査  
 □印は平成27年度実施の発掘調査

## 平成 28 年度調査の概観

平成 28 年度の緊急調査実施件数は 4 件であり、調査面積は 423.04㎡であった。これを前年度の 3 件、199.61㎡と比較してみると件数は 1 件の増加となり、調査面積は 223.43㎡の増加となった。1 件の調査面積は平均で 105.76㎡（前年度は 66.53㎡）であり、前年度よりも増加となるが、この増加は、面積の広い調査 1 件の影響によるものである。

調査原因は 4 件とも個人専用住宅の建設である。これらの工種別内訳は、杭基礎工事が 1 件、地盤改良工事が 3 件となっている。今年度も地盤改良工事や杭打ち工事が発掘調査の主体的な原因になっている傾向が顕著である。以下、各地点の調査成果の概要を紹介する。（調査面積及び調査期間等については「平成 28 年度調査地点一覧」を参照。）

### 1 積善遺跡（No.440）

十二所字積善に所在し、明王院の南方約 175m に位置する。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。調査の結果、13 世紀から 15 世紀にかけて 6 時期にわたる生活面が確認でき、石列、溝状遺構、土坑、柱穴、井戸を検出した。かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、瓦、木製品、石製品などが出土している。

### 2 大倉幕府周辺遺跡群（No.49）

市内東部の二階堂字荏柄に所在し、鎌倉駅から北東へ約 1320m に位置している。杭基礎工事を行う個人専用住宅の建築にともない発掘調査を実施した。調査の結果、二階堂大路に並行して延びる 13 世紀代の溝や柱穴列、それ以前に遡る小規模な溝などを確認した。遺物にはかわらけや国産陶器、舶載陶磁器、瓦があり、古代の土師器、須恵器も一定量が出土している。

### 3 今小路西遺跡（No.201）

市内中心部の由比ガ浜一丁目に所在し、鎌倉駅から南西へ約 650m に位置している。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。調査の結果、13 世紀から 14 世紀の整地面を確認し、竪穴建物や土坑、ピットを検出した。遺物はかわらけ、国産陶器、舶載陶磁器、金属製品が出土している。

### 4 名越ヶ谷遺跡（No.231）

市内東南部の大町に所在し、安国論寺の西約 150m に位置している。地盤の柱状改良工事を行う個人専用住宅の建築にともない、発掘調査を実施した。調査の結果、複数の生活面が確認でき、土坑、溝、柱穴などを検出した。かわらけ、国産陶器、舶載陶磁器が出土している。

平成28年度発掘調査地点一覧

	遺跡名	所在地	調査原因	遺跡種別	調査面積	調査期間
1	積善遺跡 (No. 440)	十二所字積善 944 番 6,7,10	個人専用住宅	散布地	67.90	平成28年5月12日 ～平成28年9月7日
2	大倉幕府周辺遺跡群 (No. 49)	二階堂字荏柄 12 番 8	個人専用住宅	官衙跡	69.14	平成28年5月10日 ～平成28年7月15日
3	今小路西遺跡 (No. 201)	由比ガ浜一丁目 163 番 1	個人専用住宅	城館跡 都市遺跡	250.00	平成28年10月31日 ～平成29年3月17日
4	名越ヶ谷遺跡 (No. 231)	大町四丁目 2370 番 2 の一部	個人専用住宅	城館跡	36.00	平成29年1月10日 ～平成29年3月8日



# 鎌倉市全図

平成28年度の緊急発掘調査地点 (1~4)  
本書掲載の平成18・20・22・23・25・27年度発掘調査地点 (①~⑪)  
※遺跡名は一覧表を参照





# 長谷小路周辺遺跡 (No.236)

鎌倉市由比ガ浜三丁目 254 番 1 地点

## 例 言

1. 本報は鎌倉市由比ガ浜三丁目 254 番 1 地点に所在する、個人専用住宅の新築に先だち行われた長谷小路周辺遺跡（県遺跡台帳No.236）の発掘調査報告書で、遺跡の略号はH K S 0 6 1 3である。
2. 発掘調査は平成 18 年 8 月 16 日から同年 10 月 3 日にかけて、鎌倉市教育委員会文化財課が実施した。調査面積は 33㎡である。
3. 本報使用の遺物実測図及び遺物トレースは調査員が分担し、原稿執筆、図版版組、遺物写真撮影、は福田 誠が担当し、編集も福田が行った。
4. 本報に使用した遺構写真は、鈴木絵美、古田土俊一が、出土遺物写真は、福田が撮影を行った。
5. 発掘調査の体制は以下の通りである。  
調査担当者 鈴木絵美 福田誠（鎌倉市教育委員会嘱託）  
調 査 員 菊川泉 古田土俊一 石元道子  
作 業 員 （社）鎌倉市シルバー人材センター 清水光一 天野隆男 川島仁司 赤坂進
6. 資料整理の体制は以下の通りである。  
整理担当者 福田誠（鎌倉市教育委員会嘱託）  
調 査 員 岡田慶子 佐藤千尋（鎌倉市文化財課臨時的任用職員）
7. 発掘調査資料（記録図面・写真・出土遺物）は、鎌倉市教育委員会が一括保管している。
8. 調査時に用いた鎌倉市 4 級基準点（旧地系）座標は、資料整理の段階で国土地理院世界測地系座標変換ソフト Web 版（TKY2JGD）を用い世界測地系座標に変換した。

	旧地系	→	世界測地系
D233	X=-76425.723		X=-76068.998
	Y=-26040.913		Y=-26334.346
原点 1	X=-76441.288		X=-76084.562
	Y=-26054.785		Y=-26348.219

水準点は鎌倉市 3 級基準点 53123 (L=10.745m) の海拔を原点 1 (L=11.196m) に移動し用いた。

## 目 次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	4
第1節 遺跡の位置	
第2節 歴史的環境	
第3節 調査の経過	
第二章 検出した遺構と遺物	9
第1節 第1面の遺構と遺物	
第2節 第2面の遺構と遺物	
第3節 第3面の遺構と遺物	
第4節 最終トレンチ	
第三章 まとめ	19

## 挿図目次

図1 調査地点位置図	5	図7 表土・表採、1面までの遺物	12
図2 国土座標値	6	図8 1面までの遺物	13
図3 調査地点周辺図①	7	図9 1面まで・1面遺構の遺物	14
図4 調査地点周辺図②	8	図10 1面遺構・2面までの遺物	15
図5 1・2面全測図と土層断面図	10	図11 2面まで・2面遺構の遺物	17
図6 3面全測図、最終トレンチ平面図	11	図12 2面遺構・3面・3面遺構の遺物	18
遺物観察表1・2・3（図7・8・9・10・11・12）	20	土坑20 出土貝類の分類表	16
		土坑21 出土貝類の分類表	16

## 図版目次

図版1 長谷通りと並行して検出された道路	23	図版10 表土、表採・1面までの出土遺物	32
図版2 1面全景	24	図版11 1面までの出土遺物	33
図版3 1面道路	25	図版12 1面まで・1面遺構の遺物	34
図版4 1面の遺構	26	図版13 1面遺構・2面までの遺物	35
図版5 2面全景	27	図版14 2面まで・2面・2面遺構の遺物	36
図版6 2面の遺構	28	図版15 2面遺構・3面・3面遺構の遺物	37
図版7 3面全景	29	図版16 土坑20 出土の貝類	38
図版8 3面の遺構	30	図版17 土坑21 出土の巻き貝	39
図版9 最終トレンチ	31	図版18 土坑21 出土の二枚貝	40



# 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

## 第1節 遺跡の位置

調査地点の鎌倉市由比ヶ浜三丁目 254 番 1 は、笹目郵便局の東隣りに位置し、若宮大路下馬交差点より長谷寺に向かい西に延びる由比ヶ浜通り（国道 134 号線）の南側、塔ノ辻で分岐し稲瀬川口を経て稲村ヶ崎に向かう市道の北側、二つの道路に挟まれている。

## 第2節 歴史的環境

調査地点の北側に面する由比ヶ浜通りは「長谷小路」の道筋に当たると考えられる。この長谷小路の名は長谷寺が創建（註1）されて以降の名で、大町大路の一部とも考えられる。また、調査地点の南側を東西に、長谷小路から稲村ヶ崎に向かって延びる路は、稲村崎路にあたると考えられている。

「吾妻鏡」によると建長4年4月、宗尊親王が京都から下り鎌倉に入ったときに、極楽寺坂は通らず、稲村ヶ崎を廻り由比ヶ浜の鳥居の西を経て下の下馬橋に至ることが見えている。この稲村ヶ崎（註2）からの道筋は、海づたいに稲村ヶ崎を廻り、稲瀬川から内陸に入り六地蔵・若宮大路一の鳥居を経て北に、そこから下の下馬橋に至ったと考えられる。

稲村崎路が稲瀬川口から内陸に入り六地蔵に向かう途中、長谷小路との合流地点（佐々目の塔ノ辻）の西側が調査地点の位置と思われる。この一帯は、一の鳥居辺りから西に延びる砂丘の端にあたり、西側は長谷、南側は海岸に向かいなだらかに下っている。北側には砂丘に沿って東西に長く後背湿地（ラグーン）が広がっていたと考えられ、しばしば古代の土器片など遺物が採取されている。

調査地点一帯の町名「笹目」は、佐助ヶ谷と長谷の間、笹目ヶ谷に由来すると考えられる比較的古い地名で、『吾妻鏡』によれば鎌倉幕府第四代執権の北条経時はここ笹目ヶ谷に葬られたという。

註1 長谷寺は天平8年(736)の創建と云われているが、大和長谷寺の縁起にならったものと思われる。詳しい創建年代は不明であるが、梵鐘に文永元年(1264)7月15日の銘が見られることから鎌倉時代末には成立していたと考えられる。

註2 この稲村ヶ崎から稲瀬川・六地蔵・一の鳥居・元八幡宮・辻の薬師を経て名越に至る道筋は、車大路や旧東海道の道筋に近いともいわれ大町大路よりも古い路と考えられる。

## 第3節 調査の経過

長谷小路周辺遺跡内の、神奈川県鎌倉市由比ヶ浜三丁目 254 番 1 の個人専用住宅新築工事に伴う建築申請を受け、鎌倉市教育委員会文化財課は周辺の発掘調査の状況から、新築工事に先立ち埋蔵文化財の発掘調査の必要性を認めた。施主の了解を戴き、住宅の基礎が入る部分に鎌倉市教育委員会が埋蔵文化財発掘調査を行う運びとなった。発掘調査は、平成18年8月16日より同年10月3日までの日程で行われ、調査対象面積は33㎡である。

調査にあたって、調査地の北側を東西に走る由比ヶ浜通りを意識して測量用の方眼を設定した。道脇にある市4級基準点のうちD232 (X=-76384.983・Y=-26063.193) とD233 (X=-76068.998・Y=-26334.346) を用いて調査原点 (X=-76084.562・Y=-26348.219) を設置した。また、交差点脇に設置してある市3級基準点 (No. 53,123) の海拔高 (10.730 m) を移動し、調査地の脇に設けた仮水準点 (11.196 m) を用いた。調査地に設定した方眼の南北軸線は真北より N -12° 24' 30" - W である。

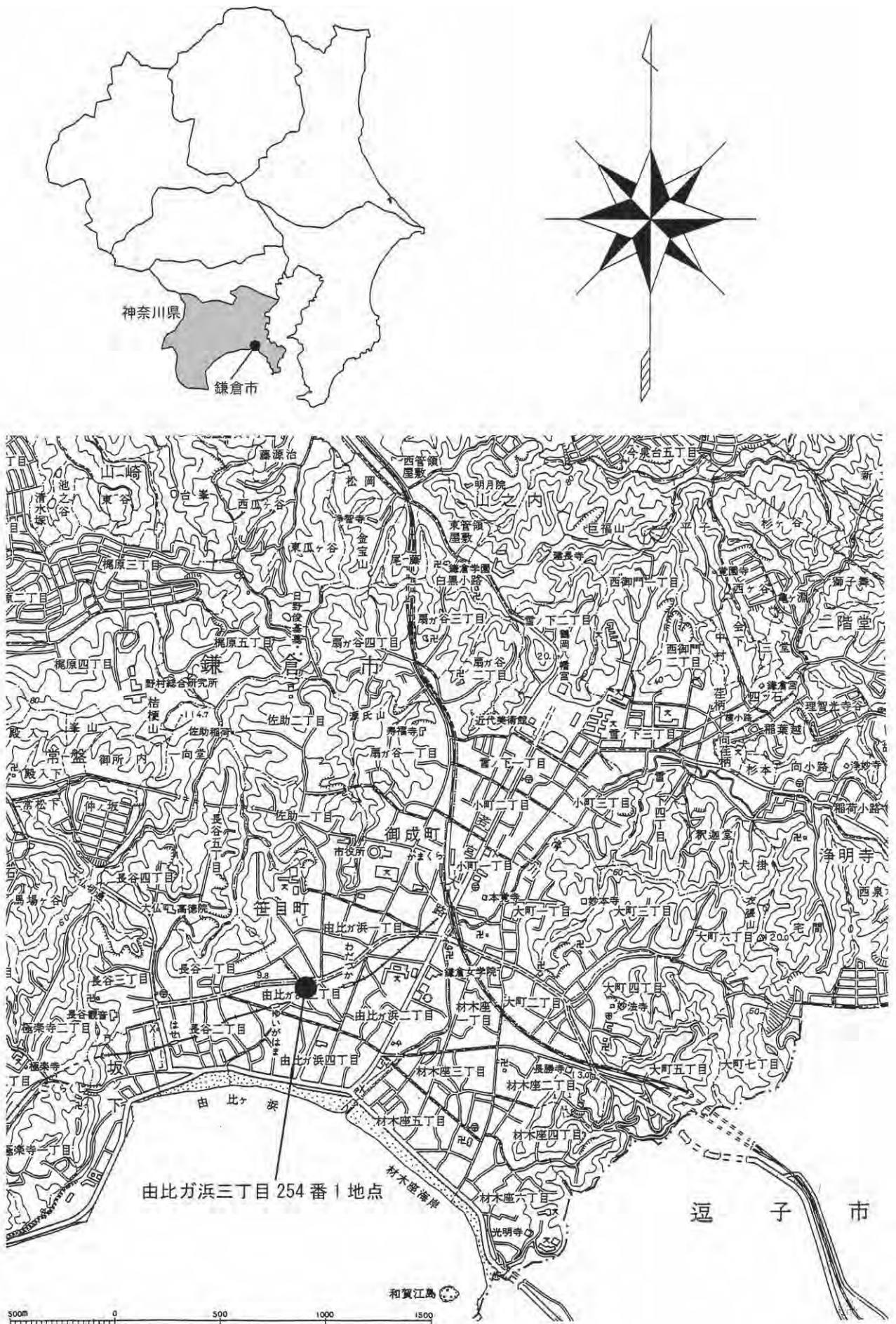


図1 調査地点位置図



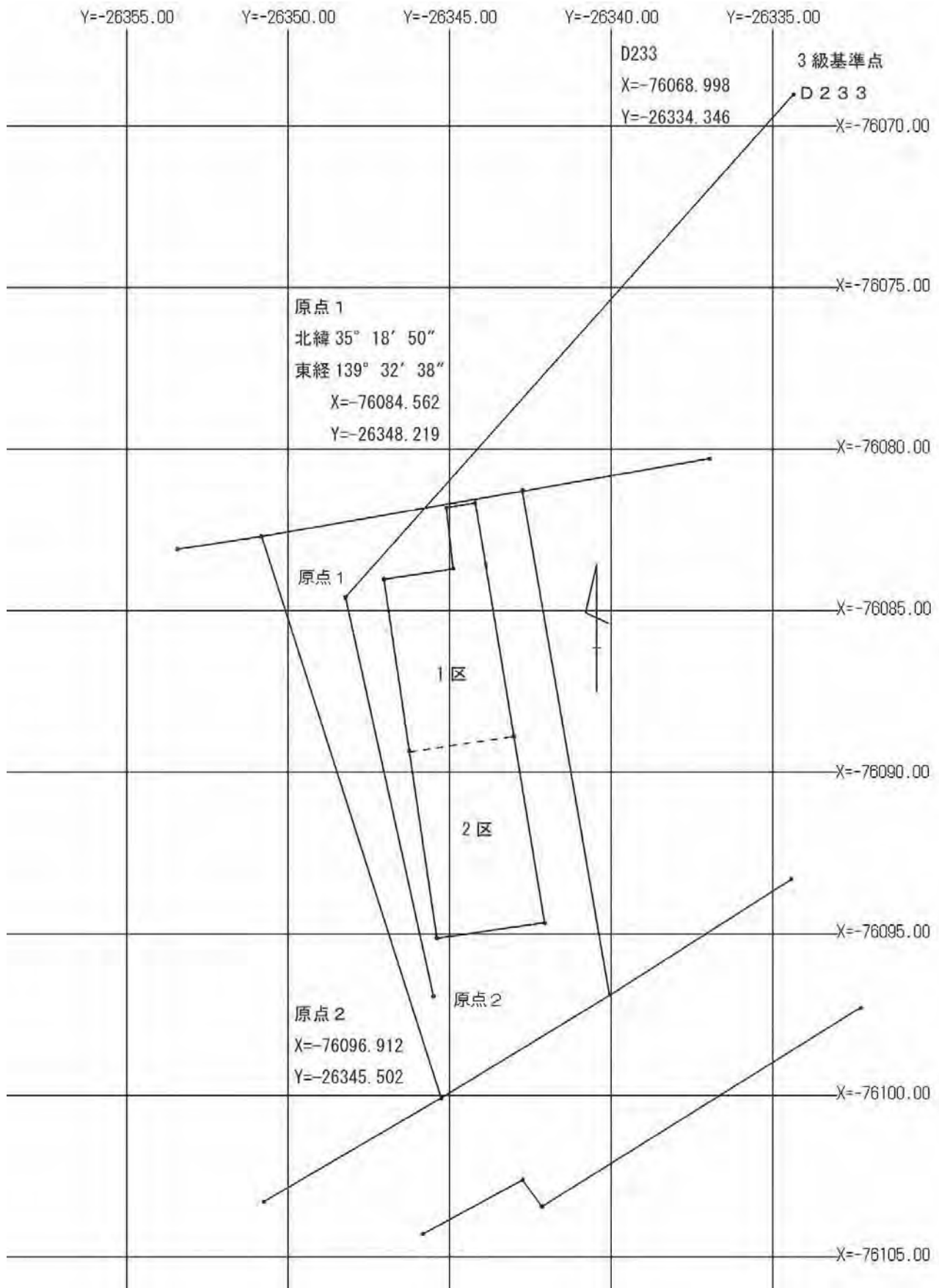


図2 国土座標



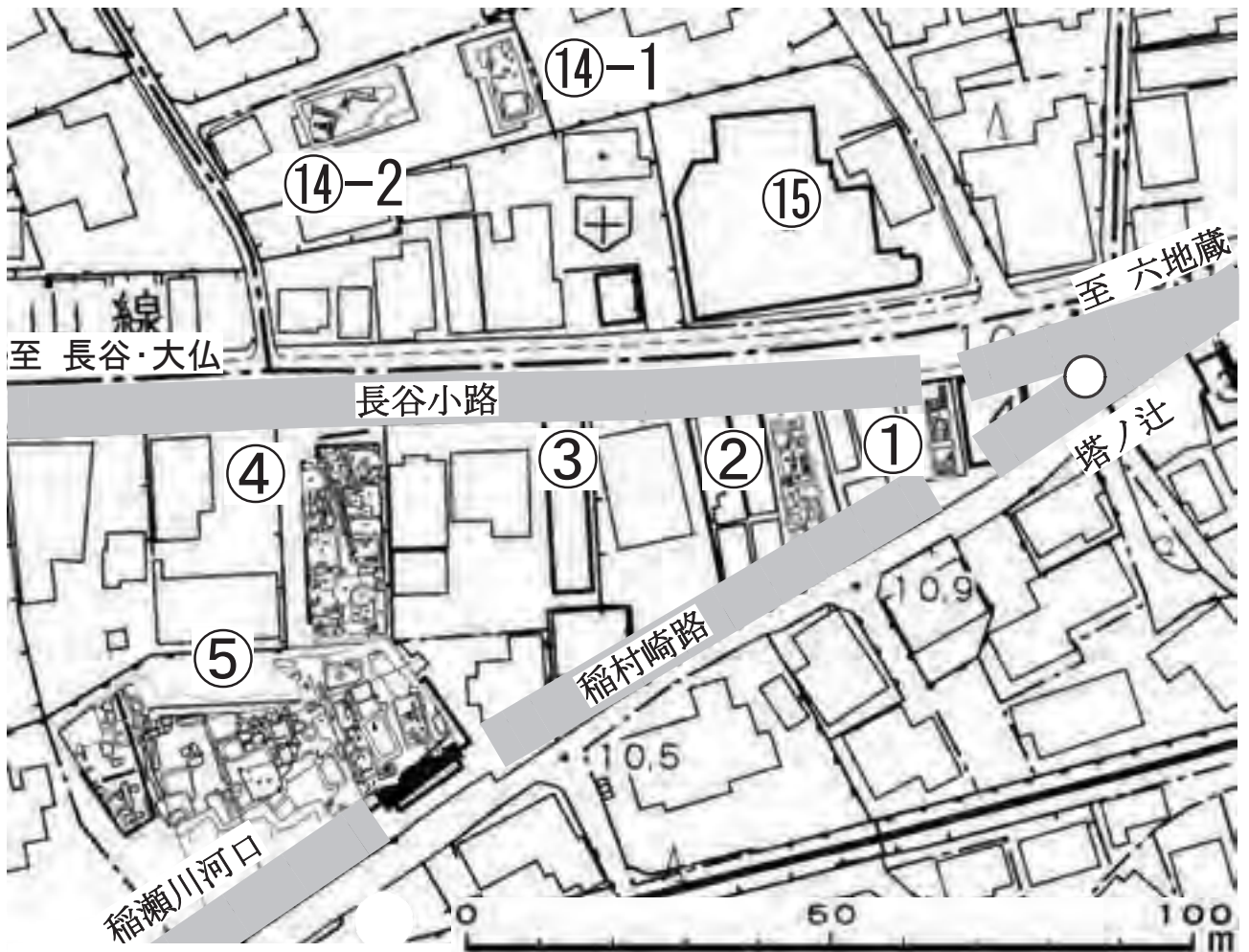


図3 調査地点周辺図①

### 長谷小路周辺遺跡

- ①由比ガ浜三丁目254番1地点 本調査地点
- ②由比ガ浜三丁目254番15地点「長谷小路周辺遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-1』2001
- ③由比ガ浜三丁目254番24地点(県埋蔵報告32)
- ④由比ガ浜三丁目258番8地点「長谷小路周辺遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6』1990
- ⑤由比ガ浜三丁目258番1地点『長谷小路周辺遺跡』長谷小路周辺遺跡発掘調査団1995
- ⑥由比ガ浜三丁目194番40地点『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』1997
- ⑦由比ガ浜三丁目1175番2地点「長谷小路周辺遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書10』1994
- ⑧由比ガ浜三丁目1173番3他地点「長谷小路周辺遺跡 -第20地点発掘調査報告-」長谷小路周辺遺跡発掘調査団2001
- ⑨由比ガ浜三丁目1262番2地点「長谷小路周辺遺跡由比ガ浜三丁目1262番2、1251番1・2地点発掘調査報告書」『東国歴史考古学研究所調査研究報告31集』東国歴史考古学研究所2002
- ⑩由比ガ浜三丁目1262番6地点『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』2000
- ⑪由比ガ浜三丁目1256番4・5、1260番1・3・4・5地点『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』2005
- ⑫由比ガ浜三丁目229番外地点「長谷小路周辺遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書9』1993
- ⑬由比ガ浜三丁目223番11地点(県埋蔵報告33)

### 笹目遺跡

- ⑭-1笹目町285番1外地点「笹目遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告17-2』2001
- ⑭-2笹目町286番1外地点「笹目遺跡」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告17-2』2001
- ⑮笹目町316番10地点(未報告)



図4 調査地点周辺図②

### 今小路西遺跡

- ⑬ 由比ガ浜一丁目213番3地点『今小路西遺跡』今小路西遺跡発掘調査団1993
- ⑭ 由比ガ浜一丁目213番12地点『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書28-2』鎌倉市教育委員会2012
- ⑮ 由比ガ浜一丁目211番18、19外地点『今小路西遺跡』(有)鎌倉遺跡調査会2015

### 由比ガ浜集団墓地遺跡

- ⑯ 由比ガ浜四丁目1130地点(県埋蔵報告37)
- ⑰ 由比ガ浜四丁目1136番地点『由比ガ浜集団墓地遺跡発掘調査報告書』1997
- ⑱ 由比ガ浜四丁目6番9地点『由比ガ浜集団墓地遺跡発掘調査報告書』1994
- ⑲ 由比ガ浜四丁目1170番1地点『由比ガ浜集団墓地遺跡(No.372)発掘調査報告書』(株)博通2014
- ⑳ 由比ガ浜四丁目1171番3他地点(県埋蔵報告30)
- ㉑ 由比ガ浜四丁目1179番1外地点『由比ガ浜中世集団墓地遺跡』「第5地点1次・2次発掘調査」
- ㉒ 由比ガ浜四丁目1181番地点『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報Ⅰ』1983

### 向原古墳群

- ㉓ 和田塚(采女塚)



## 第二章 検出した遺構と遺物

本遺跡では残土を場内に置く必要性から便宜的に調査を1区・2区に分けて調査を行ったが、調査面積が狭いことから、遺構面を合成した状態で報告することとする。

地表から掘り下げて、最初の遺構面を1面として順次掘り下げて確認した遺構面を2面、3面として建物基礎が及ばない深さに確認のために開けた小トレンチを最終トレンチと呼ぶ。

### 第1節 第1面の遺構と遺物（図5、図7～10、図版1～4、図版10～13）

調査地の海拔は北側で約11.2m、南側で約11.7mで南側が50cmほど盛土で高まっている。逆に1面は北側では地表下約50cmの海拔10.7m、南側では約120cmの海拔10.2mで検出し、南側が低くなっている。

1面で確認された遺構は土丹を敷き詰めた道路と素掘りの溝と土坑、柱穴等である。出土の1面まで、1面、1面遺構の遺物を見てみると、かわらけ、青磁蓮弁文碗、梅瓶、瀬戸折縁皿、瀬戸卸皿、瀬戸入子、瀬戸平碗、瀬戸仏華瓶、常滑甕、常滑Ⅰ類片口鉢、常滑Ⅱ類片口鉢、鉄釘、銭等が出土している。常滑製品の多くが常滑編年6a・6b、瀬戸製品の多くが中期Ⅰ期・Ⅱ期といずれも13世紀中から14世紀初頭の年代と考えられる。かわらけも器壁が厚く、器高が低め、胎土は砂が多め、口径は12cm大と7cm大の2種類に分けられることから、概ね13世紀後半代の年代が考えられる。

#### 道路

調査地の北隅から南に約3m、東西に3mの範囲に大きさ約20cmの土丹を突き固めた面と砂層が互層状に重なった道路と考えられる遺構が検出された。突き固めた面と砂層が交互に少なくとも3回以上積み重なり、一番下の道路面は南北に約5mと幅が広い。

3軒西側の調査（鎌倉市緊急調査報告17 由比ヶ浜三丁目254番15地点 2001年）でも同じ道路遺構が（東西4.5m、幅1.3m）確認されている。道路面は現在の由比ヶ浜通りの下に広がる。道幅は不明だが、通りに並行し東西方向に延びていると考えられる。現由比ヶ浜通りと並行することから、長谷小路と推測される。

#### 溝と道路

調査地の南隅でも長さ約3m、幅約1m程の溝1と道路面が確認された。当遺跡の東、塔ノ辻から稲瀬川河口に向かう稲村崎路に沿っていることから溝は道路側溝の可能性はある。溝脇の遺構面は灰色砂質土に5～10cm大の土丹を混ぜ造られた道路面と推察される。溝内からは青磁鎚蓮弁文碗、器高が低めの糸切りかわらけが出土している。

#### 土坑

土坑は8穴確認された。その多くがゴミ捨て穴と考えられるが、砂質の土壌のために有機質は分解されて遺存していない。土坑1ではかわらけのほか軽石製の浮子が、土坑2では砥石と切り出し途中の加工骨が検出されている。

### 第2節 第2面の遺構と遺物（図5、図10～12、図版5・6、図版13～15）

#### 道路面の下

1面で確認された長谷小路と推察される道路面は確認されない。2面の上で常滑編年6a、Ⅱ類片口鉢と大、小2点の手捏ね成形のかわらけが出土している。常滑編年6aの年代が13世紀中頃、手捏ね成形かわらけも13世紀中～後、長谷小路を通すきっかけになったと云われている長谷寺の創建年代

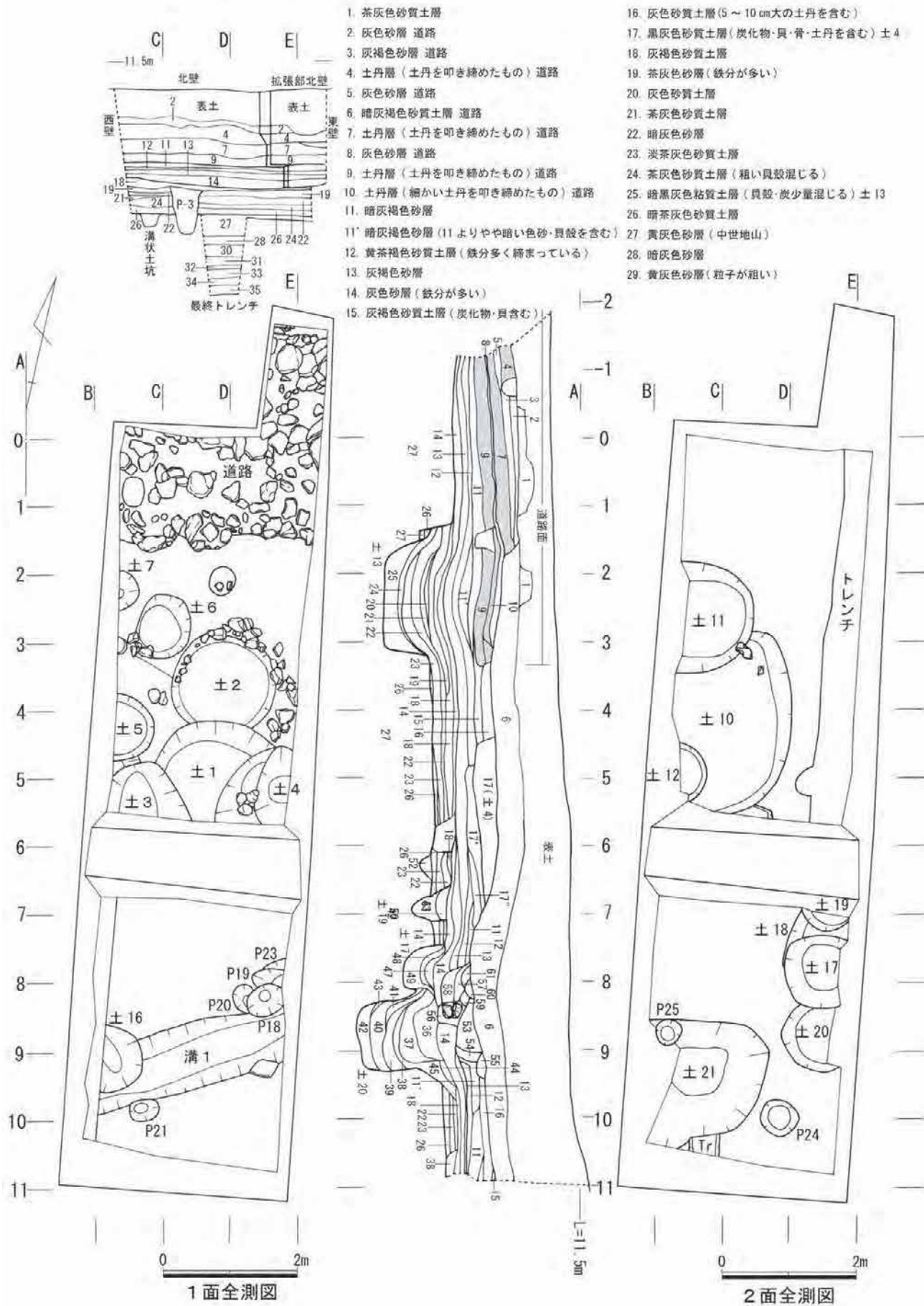


図5 1・2面全測図と土層断面図

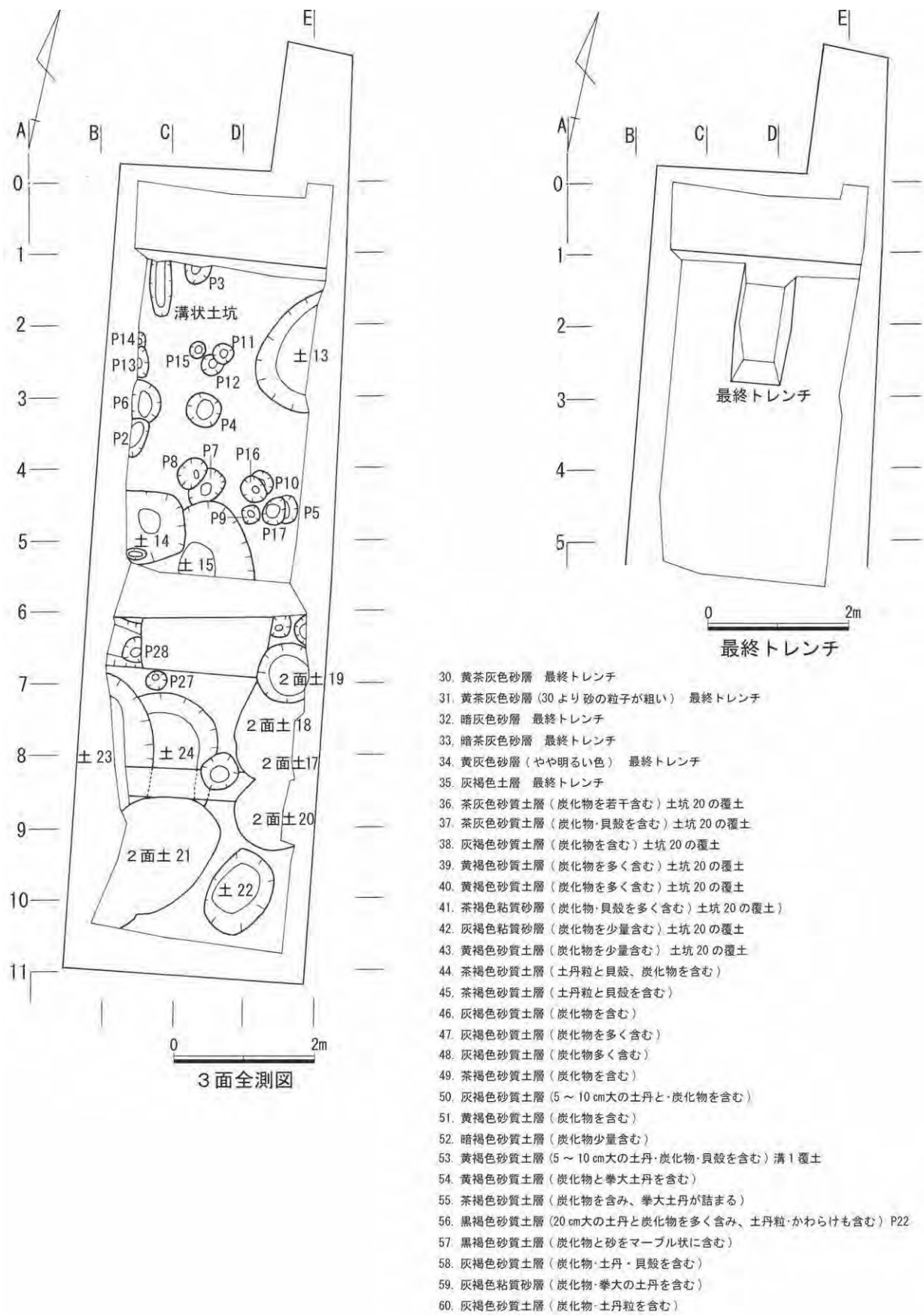


図6 3面全測図・最終トレンチ平面図



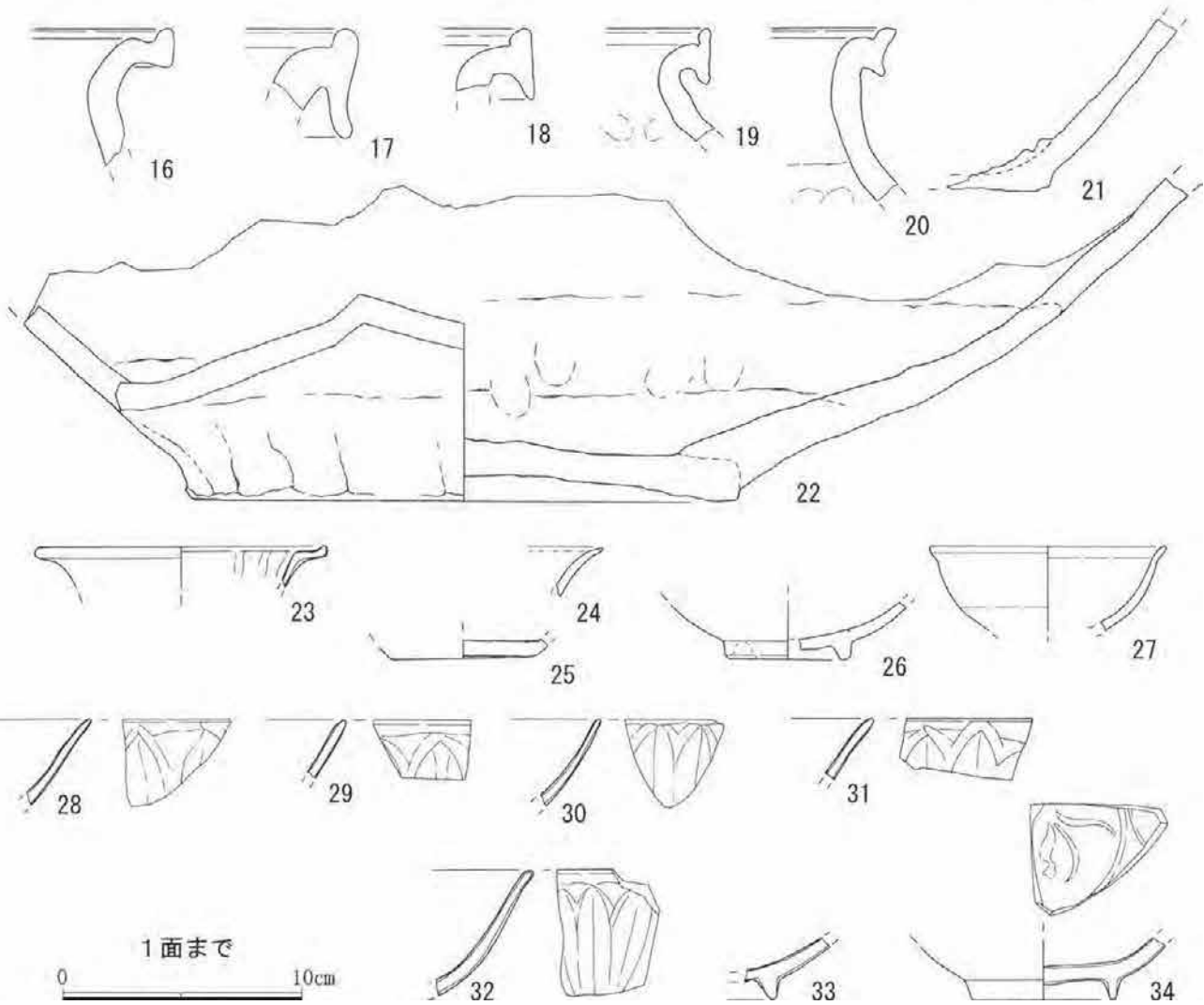
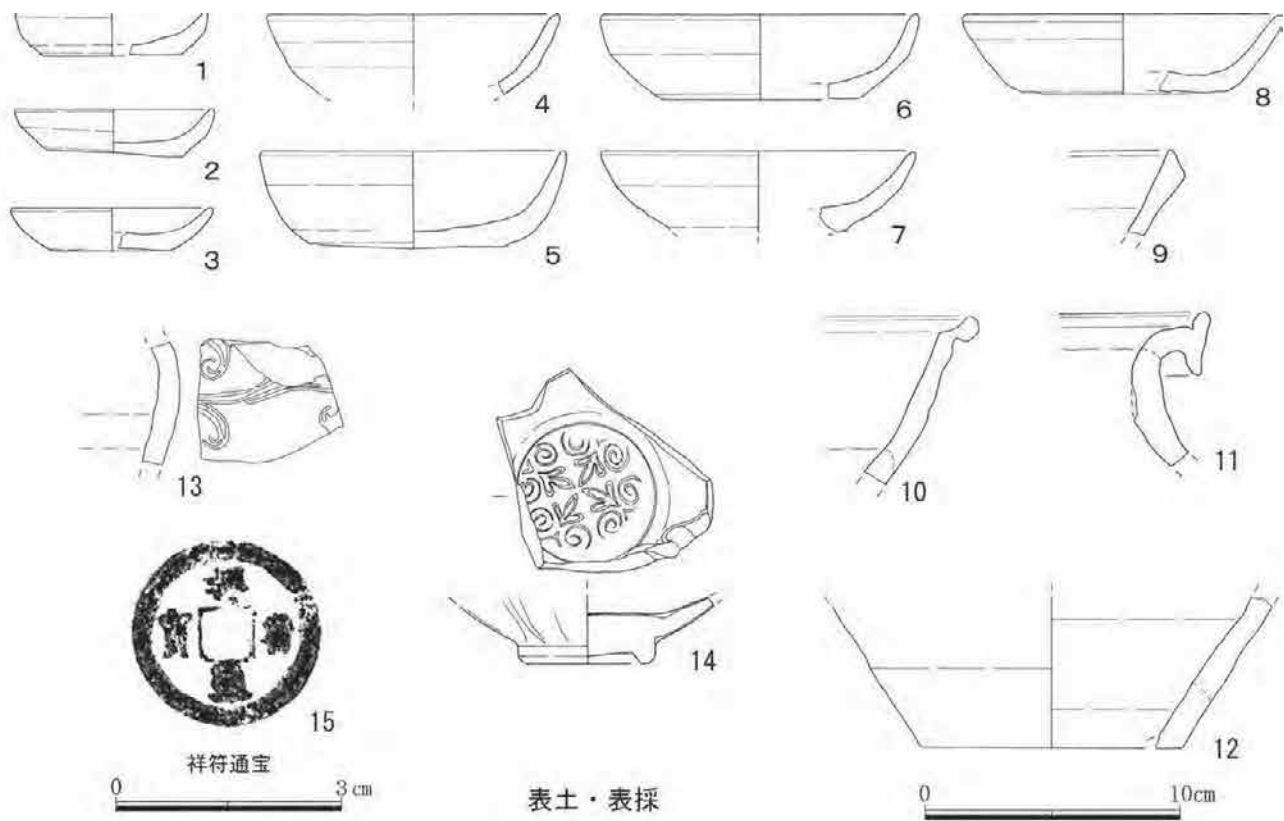


図7 表土・表採、1面までの遺物

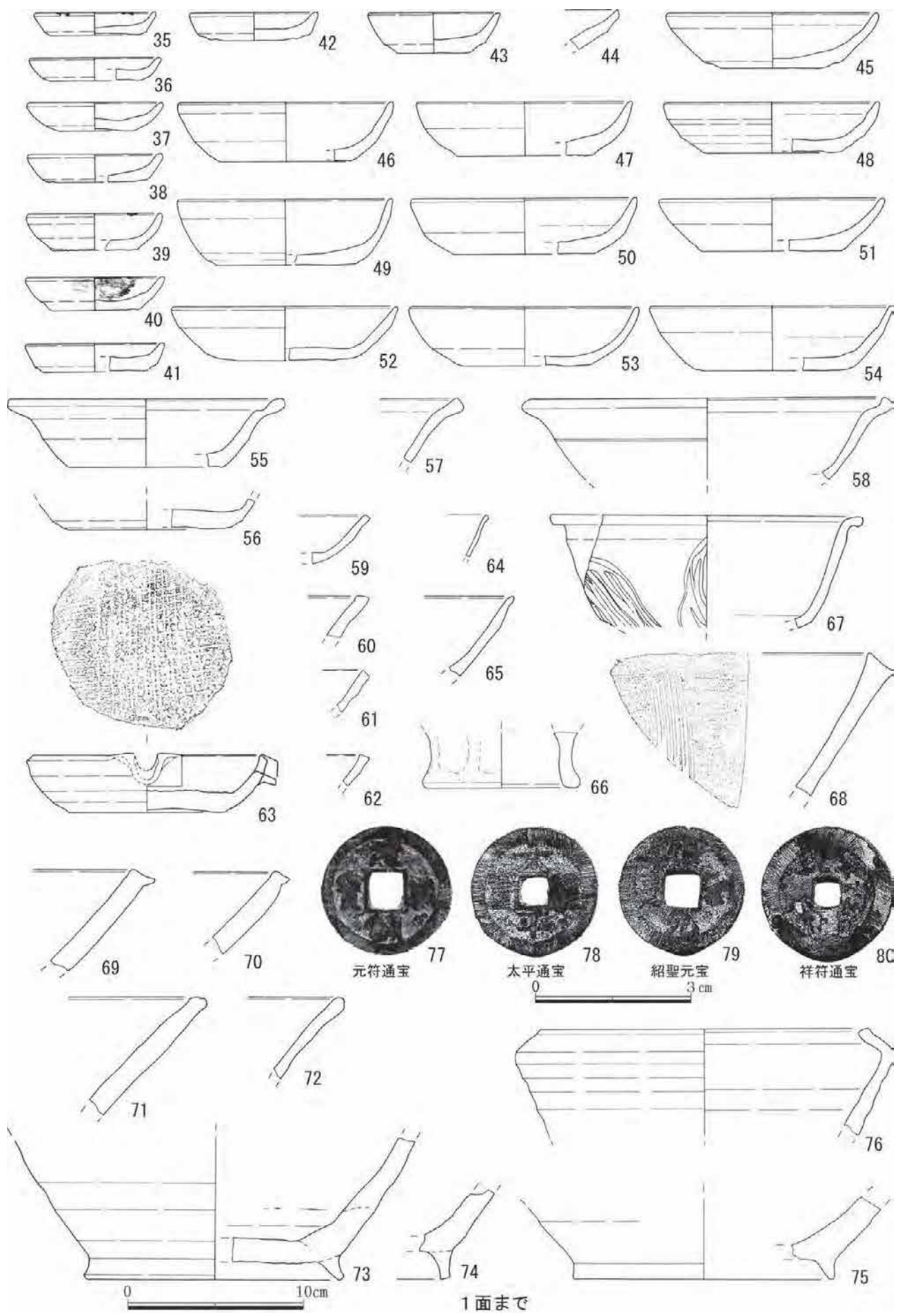


図8 1面までの遺物

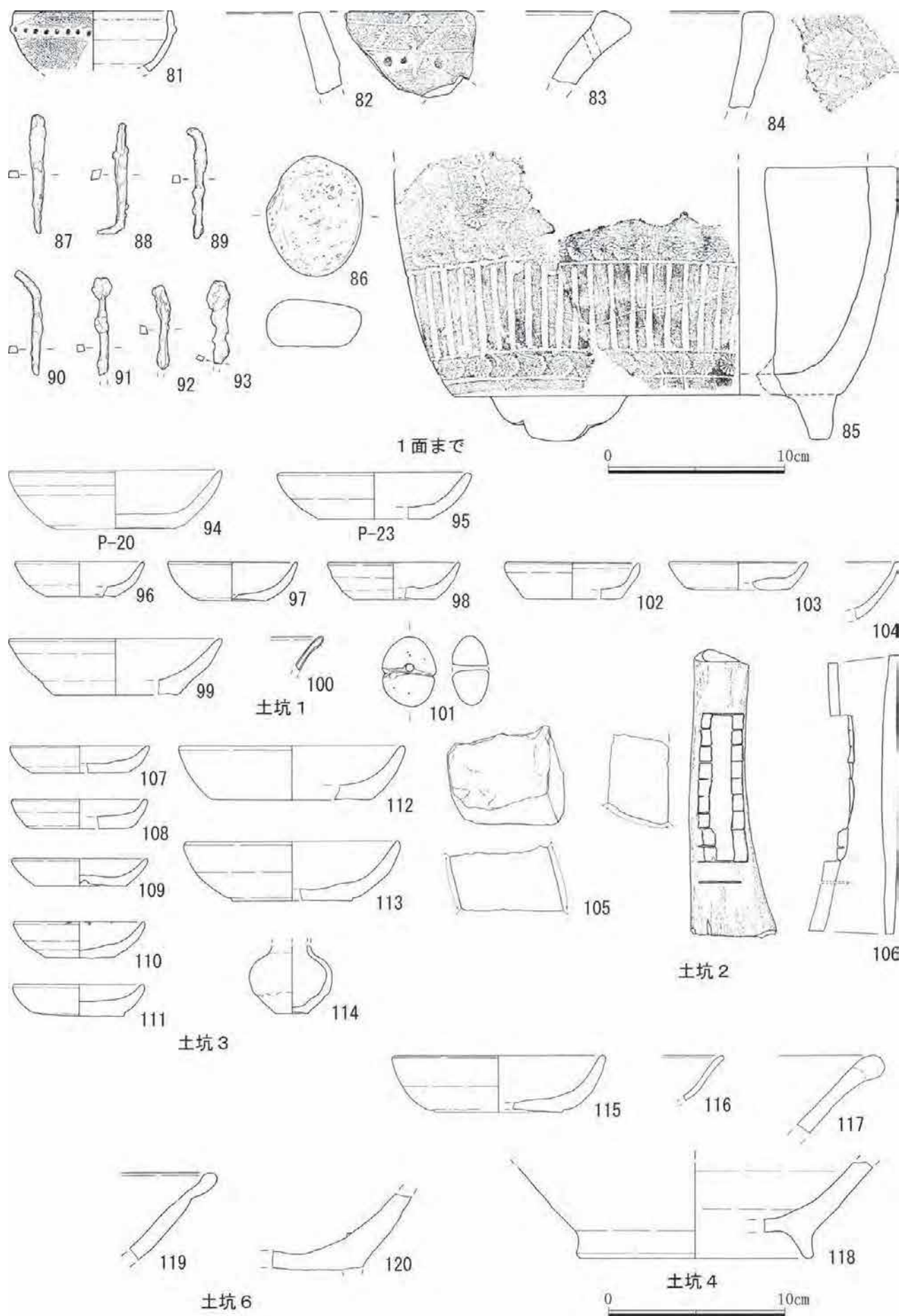


図9 1面まで、1面遺構の遺物



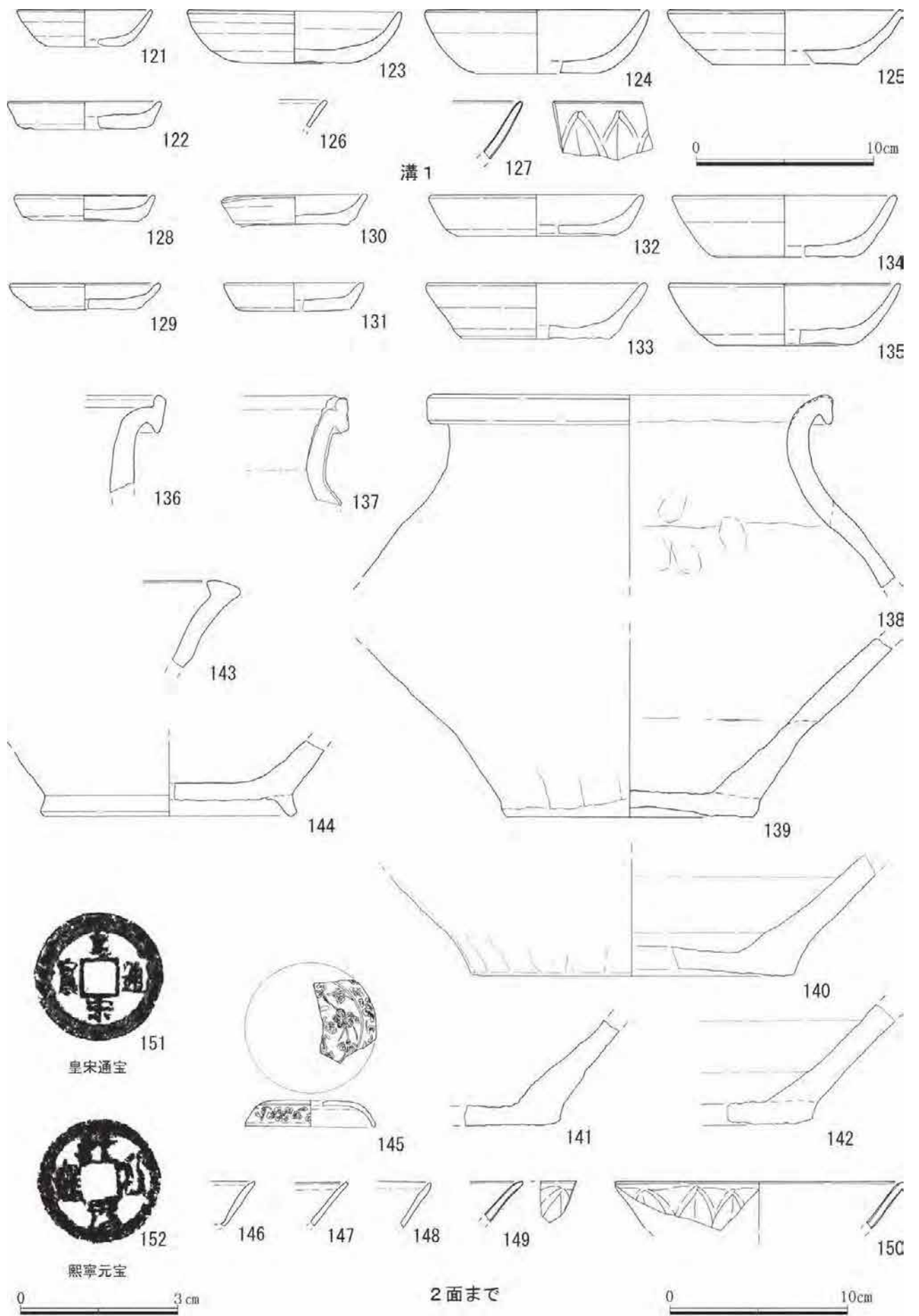
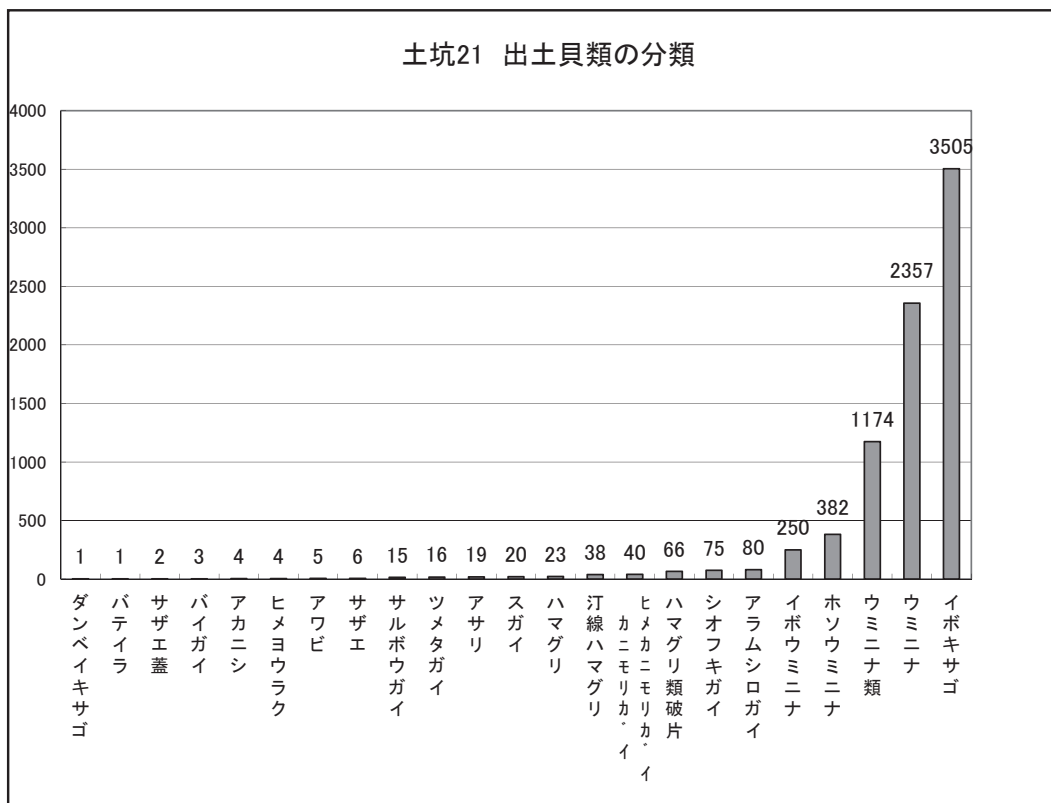
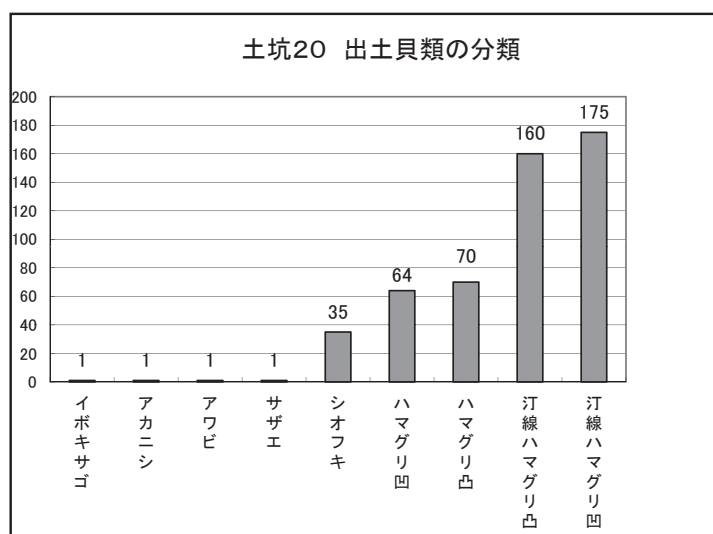


図 10 1面遺構、2面までの遺物

を文永元年（1264）7月15日銘の梵鐘が手がかりと考えるならば、2面時期の後に長谷小路が開通した可能性が考えられる。

### 土坑（図版 16～18、土坑 20・21 出土貝類の分類表）

2面では土坑が8穴確認された。器壁が厚ぼったい糸切り成形かわらけの他、常滑三耳壺、常滑玉縁口縁小壺、銭等が出土。年代観は道路面の下出土遺物と同じである。土坑20（図版16）からは貝類がまとまって計251個出土した。二枚貝のチョウセンハマグリ、ハマグリ、シオフキガイがほとんどで、他にサザエ、アワビ、アカニシ、イボキサゴが各1点ずつみられた。食用後に殻をまとめて遺棄したと考えられる。土坑21（図版17・18）からさらに多くの貝が出土している。総数8086個の貝類が出土し、95%が小型巻貝のイボキサゴ、ウミナナ類、アラムシロガイが占めていた。食用にしていたのだろうか。他にサザエ、アワビ、アカニシ、バテイラ、サルボウガイ、ハマグリ、チョウセンハマグリ、アサリ、バイガイ等が出土している。



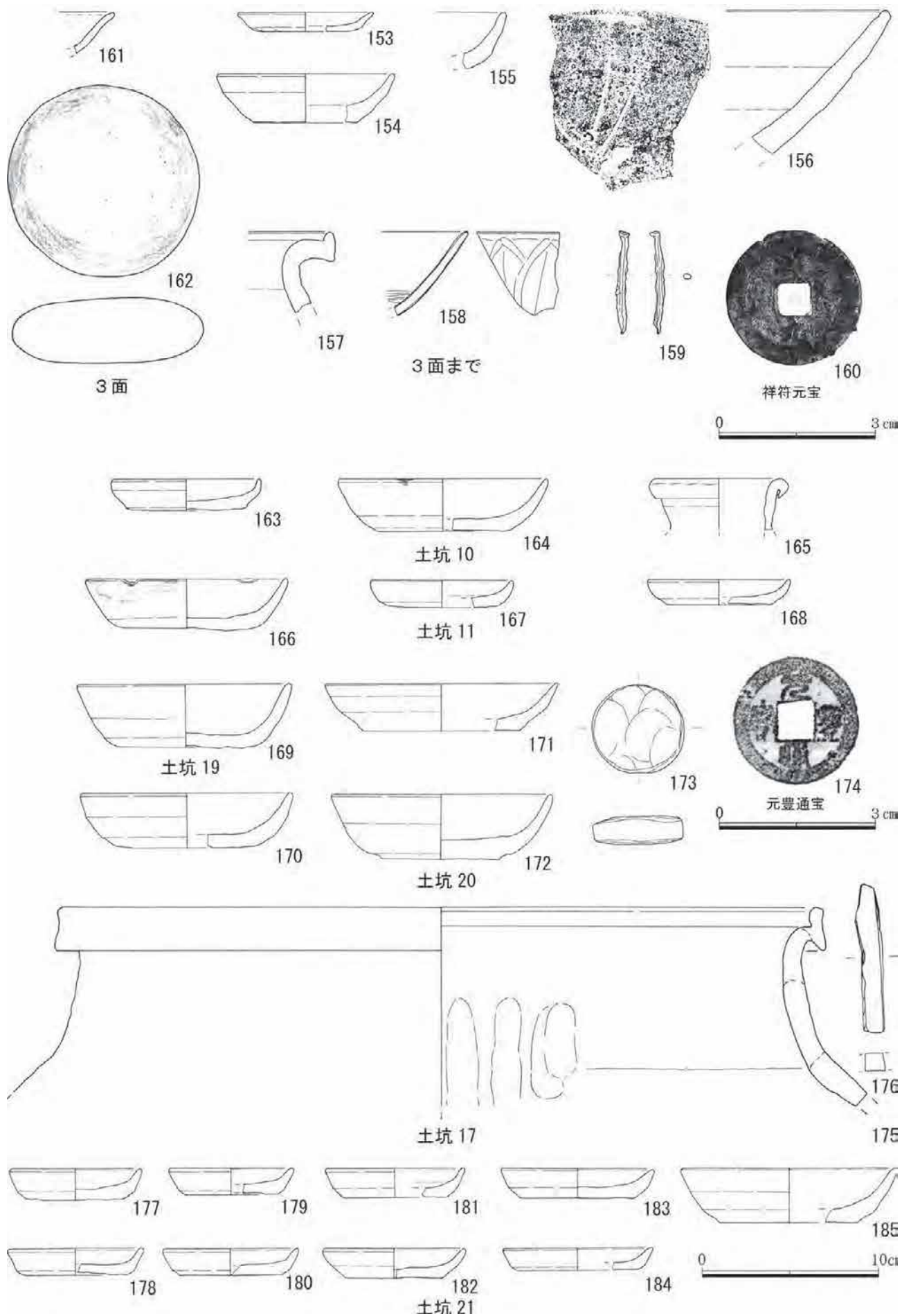


図 11 2面まで、2面遺構の遺物

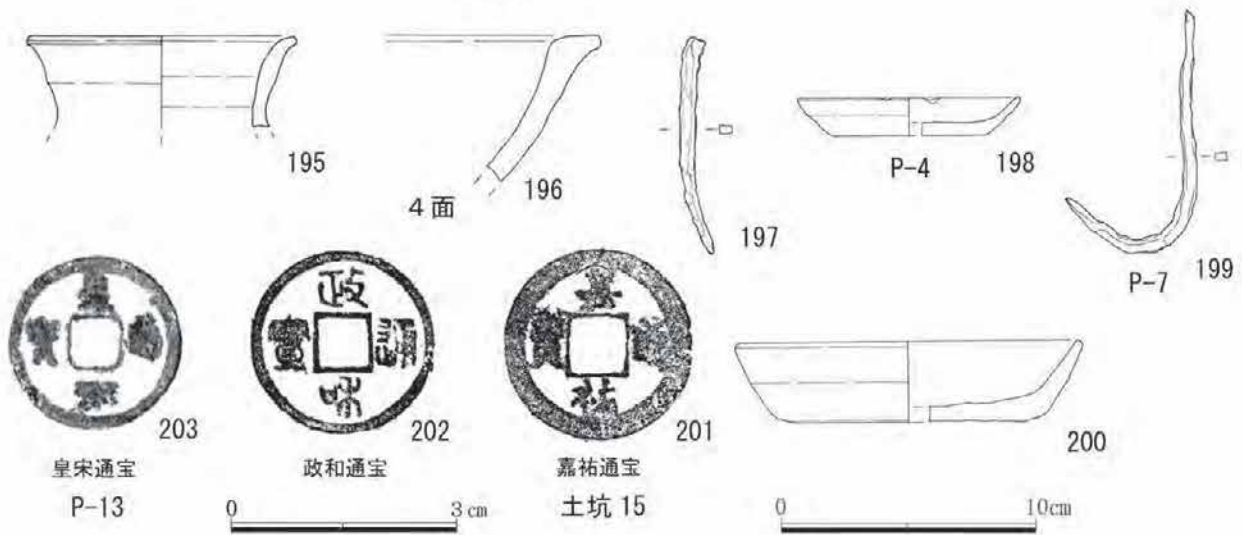
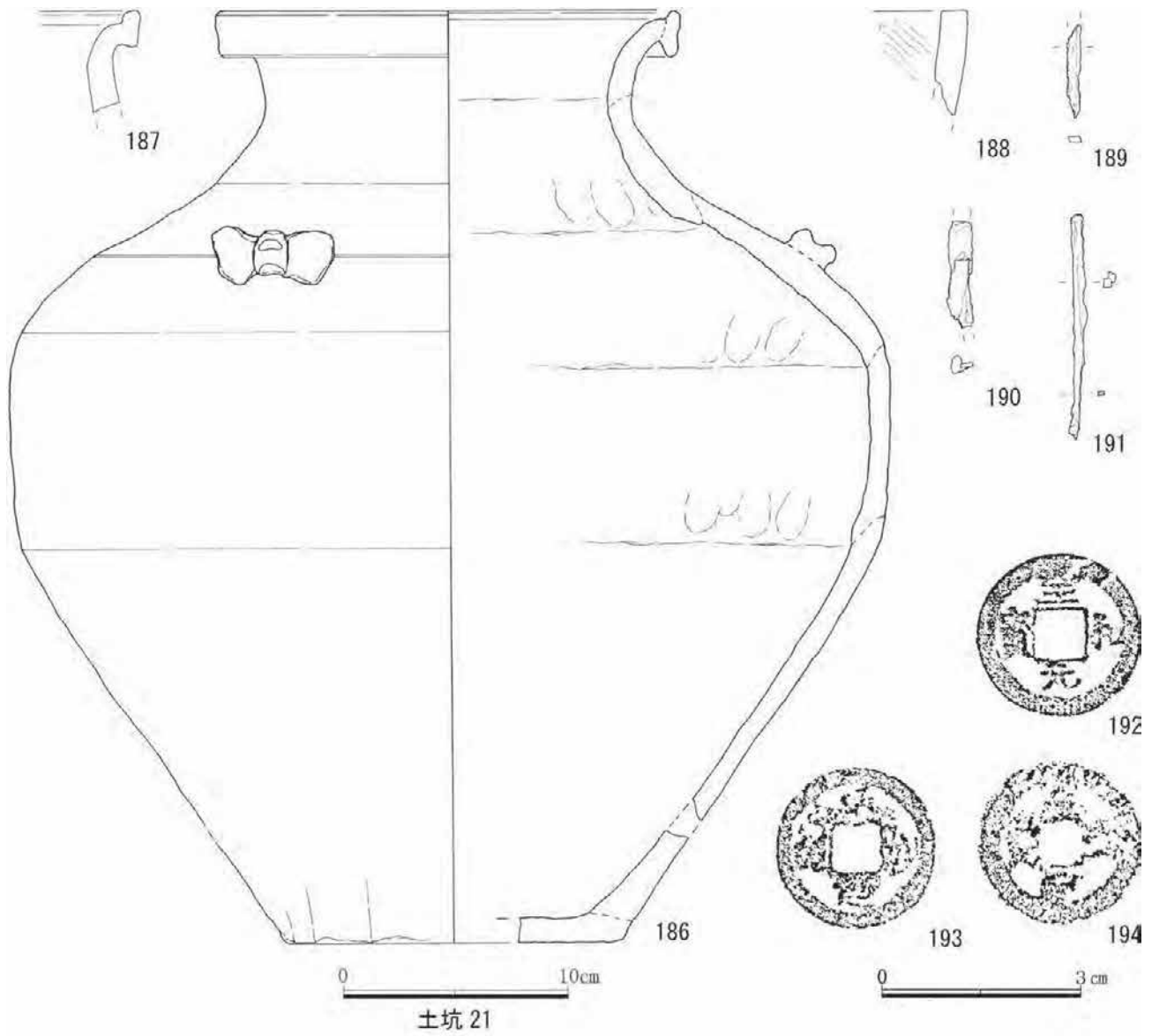


図 12 2面遺構、3面、3面遺構の遺物の遺物



### 第3節 第3面の遺構と遺物（図6、図12、図版7・8、図版15）

#### 土坑と柱穴

土坑が6穴、柱穴は19穴確認されたが建物にするには規則性がない。遺物の量も多くなく、かわらけ、渥美小壺片、火鉢、銭が数点出土したのみである。

### 第4節 最終トレンチ（図6、図版9）

3面の調査終了後に、幅1m、長さ2mのトレンチを設定し掘り下げた。所謂中世地山の黄灰色砂層を掘り下げたが、遺構・遺物の出土はなかった。

## 第三章 まとめ

当長谷小路周辺遺跡（由比ヶ浜三丁目254番1地点）では、道路遺構・溝・土坑・柱穴が発見された。調査地の北辺で東西方向に延びる道路遺構が検出確認された。現在の由比ヶ浜通り（国道134号線）の六地蔵より西を『鎌倉市史』では長谷小路と想定し、遺跡区分けでも由比ヶ浜通り周辺を長谷小路周辺遺跡としていることからこれに習うこととした。

今回、検出確認した道路遺構はまさに長谷小路の道筋に当たるものと考えられる。道路の構造は、10～30cm大の土丹と砂を交互に積み叩き締めたもので、幾度も補修を重ねた様子が伺える。併せて南端でも別の道路面と側溝と考えられる溝1が検出された。この道筋は調査地の南側を南西方向、塔ノ辻から分かれ稲瀬川河口に向かって延びる現市道に沿っていることから、六地蔵の西側から始まり塔ノ辻、稲瀬川河口を経て稲村ヶ崎に向かう稲村崎路と推定される。他の長谷小路周辺遺跡（由比ヶ浜三丁目258番1地点・由比ヶ浜三丁目194番40地点）の調査でも同じく稲村崎路と考えられる道路遺構が、塔ノ辻から稲瀬川河口までの間に確認されている。遺跡地は北側を東西に延びる長谷小路、南側を海に向かう稲村崎路の交わる塔ノ辻（交差点）の西隣に位置していたことになる。残念なことに長谷小路、稲村崎路ともに、路面が現道路下に潜り込んでしまうため道路幅は不明である。

これまでに調査された長谷小路周辺遺跡は、道路に沿った軸方位を持つ竪穴建物とその裏手にある井戸・土坑といった構成であった（②由比ヶ浜三丁目254番15地点 遺構の軸方位は長谷小路、④由比ヶ浜三丁目258番8地点 遺構の軸方位は長谷小路、⑤由比ヶ浜三丁目258番1地点 遺構の軸方位は稲村崎路、⑥由比ヶ浜三丁目194番40地点 遺構の軸方位は稲村崎路）が、当遺跡内では長谷小路、稲村崎路に挟まれ狭いためか確認された遺構は土坑と柱穴で竪穴建物と井戸は発見されていない。

遺物を概観するならば、1面道路遺構の時期の溝や土坑から出土する遺物のうち常滑甕の口縁部では、縁帯部が上下に伸びきっておらず常滑編年6a型式に相当するものが中心と思われる。ことから年代的に13世紀中葉。かわらけは手捏ね成形のかわらけが、2面から2点出土しているが遺構からの出土はない。糸切り成形のかわらけはいわゆる薄手丸深になりきっていないもので、概ね13世紀代後半から14世紀前葉の年代が与えられる。長谷小路の成立に長谷寺創建が関わるのならば、長谷寺で一番古い梵鐘の文永元年（1264）7月15日銘が手がかりになるのかもしれない。かわらけは常滑の年代より少し新しい印象であるが中心の年代観はほぼ一致する。以上、遺物から見て当遺跡の年代は、13世紀中葉から14世紀前葉が当たるものと考えられる。

図7 表土・表採・1面までの遺物

( )は復元法量・単位cm

番号	出土層位・遺構	種別	機種	口径	器高	底径	観察
-1	表土掘削中	土器	かわらけ(小)	(7.5)	1.7	(5.4)	胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-2	表土掘削中	土器	かわらけ(小)	7.8	1.8	5.3	胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙褐色 成形:糸切り・スノコ痕
-3	表土掘削中	土器	かわらけ(小)	(7.9)	1.7	(4.9)	胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙色 成形:糸切り・スノコ痕
-4	表土掘削中	土器	かわらけ(大)	(11.3)	-	-	胎土:雲母・白針・白色粒・黒色粒 色調:橙色 成形:糸切り・スノコ痕
-5	表土掘削中	土器	かわらけ(大)	(12.0)	3.9	(7.4)	胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-6	表土掘削中	土器	かわらけ(大)	(12.4)	3.4	(7.8)	胎土:白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙褐色 成形:糸切り・スノコ痕
-7	表土掘削中	土器	かわらけ(大)	(12.3)	3.1	(7.0)	胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙色 成形:口唇内側肥厚 糸切り・スノコ痕
-8	表土掘削中	土器	かわらけ(大)	(12.4)	3.2	(8.0)	胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-9	表土掘削中	陶器	東播系 片口鉢	-	-	-	胎土:灰褐色 白色微砂 砂多く割れ口ざっくり 口縁部片 口縁三角形
-10	表土掘削中	陶器	瀬戸 折縁鉢	-	-	-	胎土:黄灰色 灰釉ハケ塗り 外面下部ヘラケズリ 中Ⅲ期
-11	表土掘削中	陶器	常滑 甕 口縁部	-	-	-	胎土:長石粒多く含む 緑帯上下に拡張 口縁上部に自然釉 常滑編年6b(1250~1275)
-12	表土掘削中	陶器	常滑 壺 底部	-	-	(10.6)	胎土:明灰色、長石と黒色粒を含む 砂底 やや焼きが甘い
-13	表土掘削中	陶器	瀬戸 褐釉壺	-	-	-	胎土:灰色精良土 体部片 外面鉄釉 渦巻きと曲線で草花文を描く
-14	表土掘削中	磁器	青磁 鎗蓮弁文碗	-	-	4.7	胎土:淡灰色で堅緻、内底に渦巻きと花卉の劃花文、透明淡緑色の施釉 幅広高台無釉
-15	表土掘削中	銅製品	銭 祥符通寶	径2.5	3.2g	-	初鑄年1008 北宋
-16	1面まで	陶器	常滑 甕 口縁部	-	-	-	胎土:細かな長石含む精良土 口縁上部に暗緑色の自然釉 常滑編年5(1220~1250)
-17	1面まで	陶器	常滑 甕 口縁部	-	-	-	胎土:灰色、長石粒を含む 緑帯下部に大きく拡張 常滑編年6b(1275~1300)
-18	1面まで	陶器	常滑 甕 口縁部	-	-	-	胎土:淡灰色、砂が多くザックリした割れ口 帯部上下に拡張 常滑編年6b
-19	1面まで	陶器	常滑 甕 口縁部	-	-	-	胎土:暗灰色、長石粒を含む 緑帯部上下に拡張 常滑編年6b
-20	1面まで	陶器	常滑 甕 口縁部	-	-	-	胎土:灰色、長石粒目立つ 外面陽田釉 緑帯下にやや伸びる 常滑編年6a
-21	1面まで	陶器	常滑 甕 底部	-	-	-	胎土:暗灰色、長石粒を含む 砂底 内底面に暗緑色の自然釉
-22	1面まで	陶器	常滑 甕 底部	-	-	23.0	胎土:暗灰色、長石粒を多く含む 砂底 焼きはずみ大きい
-23	1面まで	陶器	瀬戸 天目茶碗	9.8	-	-	胎土:淡灰色できめ細かく堅緻、内外面に緑灰色~茶灰色の自然釉
-24	1面まで	磁器	白磁 碗	-	-	5.0	胎土:薄青みを帯びた透明釉、体部と内底面の境に一条の沈線が巡る
-25	1面まで	磁器	白磁 口元皿	-	-	-	胎土:灰白色で精良土、乳灰色の釉、口縁部釉剥ぎ取り
-26	1面まで	磁器	白磁 口元皿	-	-	6.0	胎土:白色で堅緻、内外面と底部まで薄い乳灰色の釉
-27	1面まで	磁器	青磁 折縁鉢	12.0	-	-	胎土:灰白色で堅緻、青緑がかつた釉
-28	1面まで	磁器	青磁 鎗蓮弁文碗	-	-	-	胎土:灰色で堅緻、鎗蓮弁文、内外面透明な淡緑色の施釉
-29	1面まで	磁器	青磁 鎗蓮弁文碗	-	-	-	胎土:灰白色で堅緻、鎗蓮弁文、内外面淡緑色の施釉
-30	1面まで	磁器	青磁 鎗蓮弁文碗	-	-	-	胎土:灰白色で堅緻、狭い鎗蓮弁文、内外面淡緑色の施釉、小型品か
-31	1面まで	磁器	青磁 鎗蓮弁文碗	-	-	-	胎土:淡灰色で堅緻、鎗蓮弁文、内外面透明暗緑色の施釉
-32	1面まで	磁器	青磁 鎗蓮弁文碗	-	-	-	胎土:淡灰色で堅緻、狭い鎗蓮弁文、内外面と高台内側まで緑褐色の厚い施釉
-33	1面まで	磁器	青磁 鎗蓮弁文碗	-	-	-	胎土:灰白色で堅緻、狭い鎗蓮弁文、内外面と高台内側まで淡緑色の施釉
-34	1面まで	磁器	青磁 劃花文碗	-	-	6.0	胎土:灰白色で堅緻、内面に劃花文、内外面と高台内側まで淡緑色の施釉

図8 1面までの遺物

( )は復元法量・単位cm

番号	出土層位・遺構	種別	機種	口径	器高	底径	観察
-35	1面まで	土器	かわらけ(小)	6.8	1.3	5.4	胎土:黒色粒 色調:茶褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-36	1面まで	土器	かわらけ(小)	(7.4)	1.3	(5.2)	胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:淡橙色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-37	1面まで	土器	かわらけ(小)	(7.6)	1.6	(4.2)	胎土:白針・精良土 色調:淡橙色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-38	1面まで	土器	かわらけ(小)	(7.6)	1.6	(5.8)	胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-39	1面まで	土器	かわらけ(小)	(7.6)	2.1	(5.0)	胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:橙色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-40	1面まで	土器	かわらけ(小)	(7.8)	1.9	(5.0)	胎土:白針・精良土 色調:暗褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-41	1面まで	土器	かわらけ(小)	(7.8)	1.6	(6.0)	胎土:白針・精良土:明褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-42	1面まで	土器	かわらけ(小)	(7.2)	1.6	(6.0)	胎土:クサリ礫 きめ細かく精良土 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-43	1面まで	土器	かわらけ(小)	(7.4)	2.3	4.2	胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-44	1面まで	土器	かわらけ(大)手捏ね	-	-	-	胎土:きめ細かく堅緻 色調:明褐色 成形:手捏ね 指頭痕 口唇のナデシャープ12c後葉
-45	1面まで	土器	かわらけ(大)	12.0	3.2	6.4	胎土:細かい雲母・精良土 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 口唇内側肥厚
-46	1面まで	土器	かわらけ(大)	(12.2)	3.4	(7.8)	胎土:雲母・白針・クサリ礫・黒色粒 色調:褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-47	1面まで	土器	かわらけ(大)	(12.2)	3.1	(8.0)	胎土:雲母・白針 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 口唇内側やや肥厚
-48	1面まで	土器	かわらけ(大)	(12.2)	2.9	(8.0)	胎土:クサリ礫 砂多い 色調:淡赤褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 口唇内側やや肥厚
-49	1面まで	土器	かわらけ(大)	(12.2)	3.8	(8.0)	胎土:細かい雲母 精良土 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-50	1面まで	土器	かわらけ(大)	(12.8)	3.2	(8.2)	胎土:細かい黒色粒、クサリ礫含む 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-51	1面まで	土器	かわらけ(大)	(12.8)	3.0	(8.0)	胎土:精良土 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 口唇内側やや肥厚
-52	1面まで	土器	かわらけ(大)	(12.8)	3.1	(8.0)	胎土:精良土 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 口唇内側肥厚
-53	1面まで	土器	かわらけ(大)	(12.4)	3.4	(7.8)	胎土:雲母・クサリ礫・粉ばい精良土 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-54	1面まで	土器	かわらけ(大)	(13.8)	3.7	(8.8)	胎土:精良土 色調:淡褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 口唇内側やや肥厚
-55	1面まで	陶器	瀬戸 折縁中皿	(15.2)	3.9	(9.0)	胎土:灰白色 精良土 色調:薄い緑灰色 成形:古瀬戸編年中Ⅰ期(13c末~14c初)
-56	1面まで	陶器	瀬戸 折縁中皿	-	-	(9.0)	胎土:灰白色 精良土 色調:薄緑灰色 成形:糸切り ハケ塗り
-57	1面まで	陶器	瀬戸 折縁中皿	-	-	-	胎土:淡黄灰色 色調:透明緑灰色釉 成形:ツケガケ
-58	1面まで	陶器	瀬戸 折縁中皿	(20.2)	-	-	胎土:淡灰白色 精良土 色調:透明薄緑灰色 成形:内外面ヨコナデ 外面に一条の沈線 古瀬戸編年中Ⅰ期
-59	1面まで	陶器	瀬戸 卸皿	-	-	-	胎土:淡灰色 精良土 色調:釉剥がれ落ちる 成形:外面ヘラケズリ 古瀬戸編年中Ⅱ期(14c前葉)
-60	1面まで	陶器	瀬戸 洗	-	-	-	胎土:灰白色 精良土 色調:緑灰色透明釉 成形:口唇内側やや肥厚 古瀬戸編年前Ⅲ期(13c中葉)
-61	1面まで	陶器	瀬戸 卸皿	-	-	-	胎土:淡灰褐色 精良土 色調:透明緑灰色釉 成形:ハケ塗り 古瀬戸編年中Ⅰ期
-62	1面まで	陶器	瀬戸 卸皿	-	-	-	胎土:淡灰色 精良土 色調:乳褐色 成形:口唇部シャープ 古瀬戸編年中Ⅱ期
-63	1面まで	陶器	瀬戸 卸皿	13.0	3.3	9.0	胎土:灰白色 精良土 色調:淡緑色釉 成形:底面糸切り、内底面に卸目 端部丁寧なナデ 古瀬戸編年中
-64	1面まで	陶器	瀬戸 入子	-	-	-	胎土:淡灰色 精良土 色調:無釉 成形:内外面ナデ 古瀬戸中Ⅱ期
-65	1面まで	陶器	瀬戸 平碗	-	-	-	胎土:淡黄灰色 精良土 色調:薄緑灰色釉 成形:釉ハケ塗り 古瀬戸編年中Ⅲ期(14c中葉)
-66	1面まで	陶器	瀬戸 仏華瓶底部	-	-	8.6	胎土:灰白色 精良土 暗緑灰色~黒褐色の釉 底部内側は無釉 古瀬戸編年中Ⅰ期
-67	1面まで	陶器	瀬戸 柄付片口	(17.2)	-	-	胎土:灰白色 精良土 色調:薄い緑灰色 成形:口唇外の開く 底部以外施釉 体部に葉文様 古瀬戸編年
-68	1面まで	陶器	備前 播鉢	-	-	-	胎土:きめ細かく精良 色調:淡赤灰色 成形:口端部シャープに揃み上がる 卸目9条 備前編年中世3期a(14

遺物観察表 1

-69	1面まで	陶器	常滑Ⅱ類片口鉢	-	-	-	胎土:長石粒及び砂を多く含む 色調:淡赤褐色 成形:内外面ナデ 口端部外面強いナデ 常滑編年9(1400)
-70	1面まで	陶器	常滑Ⅱ類片口鉢	-	-	-	胎土:長石粒含む 堅緻 色調:濁赤褐色 成形:内外面ナデ 常滑編年8(1350~1400)
-71	1面まで	陶器	常滑Ⅱ類片口鉢	-	-	-	胎土:長石粒含む堅緻 色調:暗灰色 成形:内外面ナデ 常滑編年6a
-72	1面まで	陶器	常滑Ⅰ類片口鉢	-	-	-	胎土:長石粒含む 色調:淡灰色 成形:常滑編年6a
-73	1面まで	陶器	常滑Ⅰ類片口鉢	-	-	(14.4)	胎土:白色粒、砂多く含む 色調:灰色 成形:体部外面底部ヘラケズリ 貼付高台 常滑編年6aか
-74	1面まで	陶器	常滑Ⅰ類片口鉢	-	-	-	胎土:砂粒多くザックリした素地 色調:淡灰色 成形:外面底部ヘラケズリ 貼付高台 常滑編年6aか
-75	1面まで	陶器	常滑Ⅰ類片口鉢	-	-	(14.4)	胎土:白色粒、砂多く含む 色調:灰色 成形:体部外面底部ヘラケズリ 貼付高台
-76	1面まで	陶器	常滑 無頸壺	(18.8)	-	-	胎土:長石粒及び赤色粒含む 色調:暗灰色 成形:内外面ナデ 常滑編年6a
-77	1面まで	銅製品	銭 元符通寶	径2.5	3.7g		初鑄年1098 北宋
-78	1面まで	銅製品	銭 太平通寶	径2.5	3.7g		初鑄年976 北宋
-79	1面まで	銅製品	銭 紹聖通寶	径2.5	3.0g		初鑄年1094 北宋
-80	1面まで	銅製品	銭 祥符通寶	径2.5	3.3g		初鑄年1008 北宋

図9 1面まで・1面遺構の出土遺物

( )は復元法量・単位cm

番号	出土層位・遺構	種別	機種	口径	器高	底径	観察
-81	1面まで	土器	印花文小香炉	(9.0)			口縁外側に沈線と連珠文貼付、体部下半に小印花文 胎土は赤褐色、きめ細かい
-82	1面まで	土器	火鉢ⅣA類	-	-	-	瓦質、口縁部片内外面ヘラ磨き、器表面は黒色磨き、2条の沈線間に菊花文スタンプ、平行して連珠文貼付
-83	1面まで	土器	火鉢ⅠC類	-	-	-	土器質、口縁部はやや外反する、胎土は砂が少なく硬質
-84	1面まで	土器	火鉢Ⅲ類	-	-	-	土器質、口縁外側に径4cm程の菊花文、胎土は赤みを帯びた軟質、表面磨き
-85	1面まで	土器	火鉢ⅣA類	(28.8)	15.6	(21.6)	瓦質短楕圓、器表面は黒色磨き、沈線に印花文スタンプと連珠文貼付
-86	1面まで	軽石	浮子	長6.9	幅5.4	厚2.7	両端面に叩き痕あり 重さ25.7g
-87	1面まで	鉄製品	釘	長6.9	幅0.7	8.5g	断面四角形
-88	1面まで	鉄製品	釘	長6.4	幅0.7	2.6g	断面四角形
-89	1面まで	鉄製品	釘	長6.4	幅0.5	3.4g	断面四角形
-90	1面まで	鉄製品	釘	長6.0	幅0.5	4.2g	断面四角形
-91	1面まで	鉄製品	釘	長5.6	幅0.5	3.1g	断面四角形
-92	1面まで	鉄製品	釘	長4.8	幅0.4	3.3g	断面四角形
-93	1面まで	鉄製品	釘	長4.8	幅0.4	4.2g	螺旋状
-94	1面P20	土器	かわらけ(大)	(12.0)	3.3	6.6	胎土:軟質 きめ細かい素地にクサリ礫粒が混じる 色調:赤灰色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-95	1面P23	土器	かわらけ(大)	(10.6)	2.7	(6.4)	胎土:クサリ礫、土丹粒、雲母少量含む 色調:赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-96	1面土坑1	土器	かわらけ(小)	(7.3)	2.0	(4.0)	胎土:きめ細かい精良土 色調:淡赤灰色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-97	1面土坑1	土器	かわらけ(小)	(7.3)	2.2	(4.2)	胎土:クサリ礫含む細かな砂多い 色調:淡赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-98	1面土坑1	土器	かわらけ(小)	(7.5)	2.1	(4.6)	胎土:細かな雲母含む 色調:淡赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-99	1面土坑1	土器	かわらけ(大)	(12.1)	3.2	(7.0)	胎土:クサリ礫と砂粒を多く含む 色調:明赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-100	1面土坑1	磁器	青磁 鎗蓮弁文碗	-	-	-	口縁部片 胎土が赤褐色に変色 二次焼成を受けている
-101	1面土坑1	石製品	軽石 浮子	長3.9	幅3.0	厚2.0	体部中央に1条の一周する刻まれた溝線と中央に穿孔 紐で網に結びつけるためのもの 重さ6.1g
-102	1面土坑2	土器	かわらけ(小)	(7.6)	2.1	(5.4)	胎土:細かなクサリ礫含む細かな素地 色調:淡赤灰色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-103	1面土坑2	土器	かわらけ(小)	(7.8)	1.6	(6.0)	胎土:細かな砂が多い 色調:淡茶灰色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-104	1面土坑2	土器	かわらけ(大)	-	-	-	胎土:細かな砂が多い 色調:赤褐色 成形:糸切り・器壁薄い 内底ナデ有り
-105	1面土坑2	石製品	砥石 中砥	長(5.2)	幅(6.6)	厚(3.7)	色調:マール状の赤灰色 天草産
-106	1面土坑2	自然遺物	骨 加工品	長16.3	幅3.1	厚1.5	鯨により9mm幅で裁断、骨材としてU字形の骨片を切り出した残り
-107	1面土坑3	土器	かわらけ(小)	(7.8)	1.6	(5.8)	胎土:微細な雲母多く含む 色調:淡茶灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-108	1面土坑3	土器	かわらけ(小)	(7.5)	1.7	(5.4)	胎土:白針、クサリ礫を含む 色調:赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-109	1面土坑3	土器	かわらけ(小)	(7.6)	1.6	(5.2)	胎土:きめ細かい精良土 色調:淡赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-110	1面土坑3	土器	かわらけ(小)	(7.3)	2.1	(4.0)	胎土:微細な雲母、クサリ礫を含む 色調:淡赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 燈明皿
-111	1面土坑3	土器	かわらけ(小)	7.3	1.8	5.1	胎土:決め細かく黒色砂多く含む 色調:淡赤灰色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り 燈明皿
-112	1面土坑3	土器	かわらけ(大)	(12.7)	3.1	(9.3)	胎土:精良な素地で焼きは堅緻 色調:淡赤灰色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-113	1面土坑3	土器	かわらけ(大)	(12.1)	3.4	(6.9)	胎土:きめ細かく多いが焼きは堅緻 色調:茶褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-114	1面土坑3	陶器	瀬戸 褐釉小壺	-	-	1.8	胎土:きめ細かく精良 色調:淡茶灰色に焦げ茶～茶色の鉄釉 瀬戸編年中Ⅲ期(14c中葉)
-115	1面土坑4	土器	かわらけ(大)	(11.9)	3.3	(7.2)	胎土:きめ細かく堅緻 色調:淡灰褐色 成形:糸切り・スノコ痕 内底ナデ有り
-116	1面土坑4	磁器	白磁 口瓦皿	-	-	-	胎土:精良土 色調:乳白色に透明な釉
-117	1面土坑4	陶器	常滑Ⅰ類片口鉢	-	-	-	胎土:長石粒多く含む 堅緻 口唇部に一条の沈線 色調:灰色 常滑編年6a(1250~1275)
-118	1面土坑4	陶器	常滑Ⅰ類片口鉢	-	-	(13.0)	胎土:2mm大の砂粒を多く含む 色調:淡灰色 成形:体部下半ヘラケズリ 常滑編年6a
-119	1面土坑6	陶器	常滑Ⅰ類片口鉢	-	-	-	胎土:きめ細かく堅緻 色調:暗灰色 常滑編年6a
-120	1面土坑6	陶器	常滑Ⅰ類片口鉢	-	-	-	胎土:2mm大の砂粒を多く含む 色調:淡灰色 成形:体部下半ヘラケズリ 内面自然釉 高台剥離

図10 1面遺構・2面までの遺物

( )は復元法量・単位cm

番号	出土層位・遺構	種別	機種	口径	器高	底径	観察
-121	1面溝1	土器	かわらけ(小)	(7.6)	2.1	(4.2)	胎土:白針、雲母、クサリ礫と砂粒を含む 色調:赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-122	1面溝1	土器	かわらけ(小)	(8.6)	1.6	(7.0)	胎土:白針、雲母、クサリ礫を含む 色調:明赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り 底部径大きく口端部断面三
-123	1面溝1	土器	かわらけ(大)	(12.0)	2.9	7.4	胎土:白針、雲母、クサリ礫と砂粒を含む 色調:明赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-124	1面溝1	土器	かわらけ(大)	(12.6)	3.6	(7.0)	胎土:白針、雲母含む 色調:赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-125	1面溝1	土器	かわらけ(大)	(13.2)	3.1	(8.2)	胎土:白針、雲母、クサリ礫と砂粒を含む 色調:明赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-126	1面溝1	磁器	白磁 口瓦皿	-	-	-	胎土:灰白色で精良土、乳白色透明の釉、口縁部釉剥ぎ取り
-127	1面溝1	磁器	青磁 鎗蓮弁文碗	-	-	-	胎土:灰白色で堅緻、鎗蓮弁文、内外面透明な淡緑色の施釉
-128	2面まで	土器	かわらけ(小)	7.8	1.5	6.2	胎土:白針、雲母、土丹粒に微砂を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-129	2面まで	土器	かわらけ(小)	(8.4)	1.5	(6.6)	胎土:白針、雲母、クサリ礫に微砂を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-130	2面まで	土器	かわらけ(小)	8.1	1.7	6.2	胎土:白針、雲母と砂粒を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-131	2面まで	土器	かわらけ(小)	(7.8)	1.6	(6.4)	胎土:白針、雲母と砂粒を含む 色調:赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-132	2面まで	土器	かわらけ(大)	(12.1)	2.0	(8.9)	胎土:白針、雲母、クサリ礫と砂粒を含む 色調:赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-133	2面まで	土器	かわらけ(大)	(12.4)	3.2	(8.3)	胎土:白針、雲母、クサリ礫と砂粒を含む 色調:赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-134	2面まで	土器	かわらけ(大)	(12.6)	3.5	(8.4)	胎土:白針と砂粒を含む 色調:淡赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-135	2面まで	土器	かわらけ(大)	(13.0)	3.5	(8.0)	胎土:白針、雲母、クサリ礫、土丹粒を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り

遺物観察表2



-136	2面まで	陶器	常滑 甕 口縁部	-	-	-	胎土:長石、礫粒含む 色調:灰褐色に黄緑色の自然釉 常滑編年6a(1250~1275)
-137	2面まで	陶器	常滑 甕 口縁部	-	-	-	胎土:2mmほどの長石、砂を含む 色調:灰色 淡黄~灰緑色の自然釉厚い 常滑編年6a
-138	2面まで	陶器	常滑 甕 口縁部	(22.2)	-	-	胎土:長石、石英、礫粒多く含む 色調:灰色に褐色~緑灰色の自然釉 常滑編年6a
-139	2面まで	陶器	常滑 甕 底部	-	-	(14.0)	胎土:長石、石英、礫粒多く含む 色調:褐色~赤褐色の自然釉
-140	2面まで	陶器	常滑 甕 底部	-	-	(18.2)	胎土:長石粒、黒色粒含む 色調:明黄褐色 底部砂底 内底面に暗灰緑色の自然釉
-141	2面まで	陶器	常滑 甕 底部	-	-	-	胎土:長石、石英、礫粒含む 色調:茶色 内底面に緑茶色の自然釉
-142	2面まで	陶器	常滑 甕 底部	-	-	-	胎土:長石、黒色粒を含む 色調:淡赤褐色 内底面に暗緑色の自然釉
-143	2面まで	瓦器	火鉢 IA類	-	-	-	器壁が開き、口縁断面が釘頭状、胎土は砂が多いが焼成は硬め
-144	2面まで	陶器	常滑 I類片口鉢	-	-	(14.0)	胎土:長石、石英礫粒含む 色調:灰色
-145	2面まで	磁器	青白磁 合子蓋	7.2	1.5	-	胎土:灰白色で精良土 透明な青緑色の釉 外面全体に花と葉を陽刻
-146	2面まで	磁器	白磁 口元皿	-	-	-	胎土:乳灰白色で精良土、透明な釉、口縁部釉剥ぎ取り
-147	2面まで	磁器	白磁 口元皿	-	-	-	胎土:乳白色で精良土、乳灰色不透明の釉、口縁部釉剥ぎ取り
-148	2面まで	磁器	白磁 口元皿	-	-	-	胎土:灰白色で精良土、灰白色半透明の釉、口縁部釉剥ぎ取り
-149	2面まで	磁器	青磁 鎗蓮弁文碗	-	-	-	胎土:灰白色で堅緻、鎗蓮弁文、内外面透明な青緑色の施釉
-150	2面まで	磁器	青磁 鎗蓮弁文碗	(16.2)	-	-	胎土:灰白色で堅緻、鎗蓮弁文、内外面透明な灰緑色半透明な釉
-151	2面まで	銅製品	銭 皇宋通寶	径2.5	3.6g	-	初鑄年1038年 北宋
-152	2面まで	銅製品	銭 熙寧元寶	径2.5	2.8g	-	初鑄年1068年 北宋

図11 2面まで・2面遺構の遺物

( )は復元法量・単位cm

番号	出土層位・遺構	種別	機種	口径	器高	底径	観察
-153	2面まで	土器	かわらけ(小)手捏ね	(7.7)	1.1	-	胎土:黒色粒を含む精良土 色調:赤褐色 薄手 手捏ね成形 在地産では無いか
-154	2面まで	土器	かわらけ(大)	(10.0)	2.8	(6.1)	胎土:白針、雲母含む精良土 色調:淡褐色 糸切り
-155	2面まで	土器	かわらけ(大)手捏ね	-	-	-	胎土:黒色粒を含む精良土 色調:淡赤褐色 手捏ね成形 13c前半
-156	2面まで	陶器	常滑 II類片口鉢	-	-	-	胎土:長石粒多く含む赤褐色の噴き出し有り 色調:暗褐色 内面に篋描き文様有り 常滑編年6a(1250~1275)
-157	2面まで	陶器	常滑 甕 口縁部	-	-	-	胎土:長石含む堅緻 色調:暗褐色 常滑編年5(1220~1250)
-158	2面まで	磁器	青磁 鎗蓮弁文碗	-	-	-	胎土:灰白色の精良土 堅緻 鎗蓮弁文 内外面淡緑色の透明な釉
-159	2面まで	鉄製品	釘	長6.0	幅0.5	厚0.3	断面四角形 重さ3.4g
-160	2面まで	銅製品	銭 祥符元寶	径2.5	7.6g	-	初鑄年1008 北宋 付着物有り
-161	2面	磁器	白磁 口元皿	-	-	-	胎土:灰白色で精良土 透明な釉 口縁部釉剥ぎ取り
-162	2面	石製品	石	径11.0	-	厚3.7	花崗岩製 直径10.7~11.1cm 厚さ3.6cm ほぼ円形 叩き石及び擦り石か 煤付着 重さ695g
-163	2面土坑10	土器	かわらけ(小)	-	1.8	6.9	胎土:クサリ礫、微砂、細かな気泡を多く含む 色調:褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-164	2面土坑10	土器	かわらけ(大)	(11.8)	3.0	(7.2)	胎土:細かな白針、雲母、クサリ礫に微砂を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り 口唇煤付着
-165	2面土坑10	陶器	常滑 口縁玉縁壺	7.2	-	-	胎土:長石、黒色噴き出し有り 色調:明茶色 口唇部折り返しシャープ 常滑編年6a
-166	2面土坑11	土器	かわらけ(大)	11.4	2.8	7.0	胎土:雲母、チャート、黒色微砂を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り 口唇打ち欠きと煤付着
-167	2面土坑11	土器	かわらけ(小)	(8.0)	1.7	(6.7)	胎土:白針、雲母、微砂を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り 口唇部煤付着 燈明皿
-168	2面土坑11	土器	かわらけ(小)	(8.1)	1.5	(5.7)	胎土:白針、雲母、微砂を含む 色調:淡黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-169	2面土坑19	土器	かわらけ(大)	12.1	3.6	7.9	胎土:白針、雲母、土丹粒に微砂を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-170	2面土坑20	土器	かわらけ(大)手捏ね	(11.9)	3.2	-	胎土:黒色微砂を含む精良土 色調:明赤褐色 手捏ね成形
-171	2面土坑20	土器	かわらけ(大)	(13.2)	3.2	-	胎土:微細な黒色微砂を含む精良土 色調:淡黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-172	2面土坑20	土器	かわらけ(大)	12.5	3.8	6.8	胎土:黒色微砂を含む 色調:淡黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-173	2面土坑20	土器	土丹加工品 円盤	5.3	5.2	1.8	用途不明 重さ40.1g
-174	2面土坑20	銅製品	銭 元豊通寶	径2.5	4.3g	-	初鑄年1078 北宋
-175	2面土坑17	陶器	常滑 甕 口縁部	46.0	-	-	胎土:長石多く含む堅緻 色調:暗茶灰色 外面首部に両区灰色の釉 常滑編年6a(1250~1275)
-176	2面土坑17	石製品	硯 破片	長8.7	幅1.1	厚1.1	重さ24.4g 黒灰色 鳴滝産
-177	2面土坑21	土器	かわらけ(小)	(7.4)	1.8	(5.6)	胎土:白針、黒色砂に微砂を含む 色調:淡黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-178	2面土坑21	土器	かわらけ(小)	(7.6)	1.5	(6.4)	胎土:クサリ礫、土丹粒、微砂を含む 色調:黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-179	2面土坑21	土器	かわらけ(小)	(7.0)	1.5	(5.4)	胎土:白針、クサリ礫に微砂を含む 色調:淡黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-180	2面土坑21	土器	かわらけ(小)	(7.6)	1.5	(6.0)	胎土:白針、微砂を含む 色調:淡黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-181	2面土坑21	土器	かわらけ(小)	(7.8)	1.7	(6.2)	胎土:土丹粒、黒色微砂を含む精良土 色調:淡黄褐色 成形:糸切り
-182	2面土坑21	土器	かわらけ(小)	(8.0)	1.7	(5.6)	胎土:白針、土丹粒に微砂を含む 色調:赤褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-183	2面土坑21	土器	かわらけ(小)	(8.6)	1.7	(6.4)	胎土:雲母、黒色微砂を含む 色調:淡黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-184	2面土坑21	土器	かわらけ(小)	(8.4)	1.3	(7.0)	胎土:クサリ礫、微砂を含む 色調:淡黄褐色 成形:糸切り
-185	2面土坑21	土器	かわらけ(大)	(12.2)	3.1	(8.0)	胎土:白針、クサリ礫、微砂を含む 色調:明黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り

図12 2面遺構・3面・3面遺構出土の遺物

( )は復元法量・単位cm

番号	出土層位・遺構	種別	機種	口径	器高	底径	観察
-186	2面土坑21	陶器	常滑 三耳壺	20.4	(42.0)	15.0	胎土:長石多く含む堅緻 色調:表面茶色~茶褐色に緑褐色の自然釉 常滑編年6a(1250~1275)
-187	2面土坑21	陶器	常滑 甕 口縁部	-	-	-	胎土:黒色噴き出し有り 堅緻 色調:淡茶褐色~茶褐色 口縁上部に自然釉 常滑編年5(1220~1250)
-188	2面土坑21	石製品	滑石鍋	-	-	-	口縁部片 内外面に煤付着
-189	2面土坑21	鉄製品	釘	長4.2	幅0.5	厚0.3	断面四角形 重さ2.0g
-190	2面土坑21	鉄製品	釘	長4.7	幅0.5	厚0.2	鑄付着 重さ6.1g
-191	2面土坑21	鉄製品	釘	長10.0	幅0.4	厚0.4	断面四角形 重さ7.4g
-192	2面土坑21	銅製品	銭 至和元寶	径2.5	4.1g	-	初鑄年1054 北宋
-193	2面土坑21	銅製品	銭 宗通元寶	径2.4	3.0g	-	初鑄年960 北宋
-194	2面土坑21	銅製品	銭 不明	径2.4	3.5g	-	銭種不明
-195	3面	陶器	渥美 小壺	(12.2)	-	-	胎土:微砂含む砂っぽい 色調:淡灰褐色に内外面灰釉のハケ塗り 渥美編年2b(13c前半)
-196	3面	土器	火鉢 IA類	-	-	-	器壁が開き、口縁断面が釘頭状、胎土は砂が多く焼成は軟質
-197	3面	鉄製品	釘	長8.8	幅0.5	厚0.4	断面四角形 重さ6.3g
-198	3面P4	土器	かわらけ(小)	(8.8)	1.5	(5.8)	胎土:微細な白針、クサリ礫に微砂を含む精良土 色調:淡褐色 薄手 成形:糸切り 内底ナデ有り
-199	3面P7	鉄製品	釘	長14.3	幅0.6	厚0.4	重さ13.6g 先端部が鉤針状に曲がる
-200	3面土坑15	土器	かわらけ(大)	(13.4)	3.2	(9.4)	胎土:白針、に砂と気泡を多く含む 色調:淡黄褐色 成形:糸切り 内底ナデ有り
-201	3面土坑15	銅製品	銭 嘉祐通寶	径2.5	3.8g	-	初鑄年1056 北宋
-202	3面土坑15	銅製品	銭 政和通寶	径2.5	3.4g	-	初鑄年1111 北宋
-203	3面P13	銅製品	銭 皇宋通寶	径2.3	3.3g	-	初鑄年1039 北宋

遺物観察表3





1. 由比ヶ浜通り（旧国道 246 号）大仏方向



2. 由比ヶ浜通り（旧国道 246 号）下馬方向



3. 道路断面



4. 検出確認した道路面（南西から）



5. 検出確認した道路面（東から）

図版2



1. 1区1面(南から)  
2. 2区1面(北から)



3. 2区1面(北から)  
4. 1区1面(北から) 手前道路







1. 1区東壁



2. 2区東壁



3. 道路断面（土丹による補修）

4. 道路側面



5. 道路縦方向（道路幅不明）

図版4



1. 1面土坑2・1・4 西から



2. 1面土坑2 北から



3. 土坑6 西から



4. 土坑5 西から



6. 溝1 かわらけ出土状況



5. 溝1 西から





1. 1区2面全景(南から)  
2. 2区2面全景(北から)



3. 2区2面全景(北から)  
4. 1区2面全景(北から)







1. 土坑 10・11・12



2. 土坑 11



3. 土坑 19・17・20

4. 土坑 21(東から)



5. 土坑 21(南から)



6. 土坑 21 常滑三耳壺出土状況



1. 1区3面全景(南から)  
2. 2区3面全景(北から)



3. 2区3面全景(南から)  
4. 1区3面全景(北から)







1. 3面土坑 15



2. 土坑 22



3. 3面土坑 23·24、2面土坑 21



5. 溝 2 · P28



4. 土坑 23·24 · P27



1. 最終トレンチ位置（南から）



2. 最終トレンチ位置（北から）



3. 最終トレンチ南壁（北から）



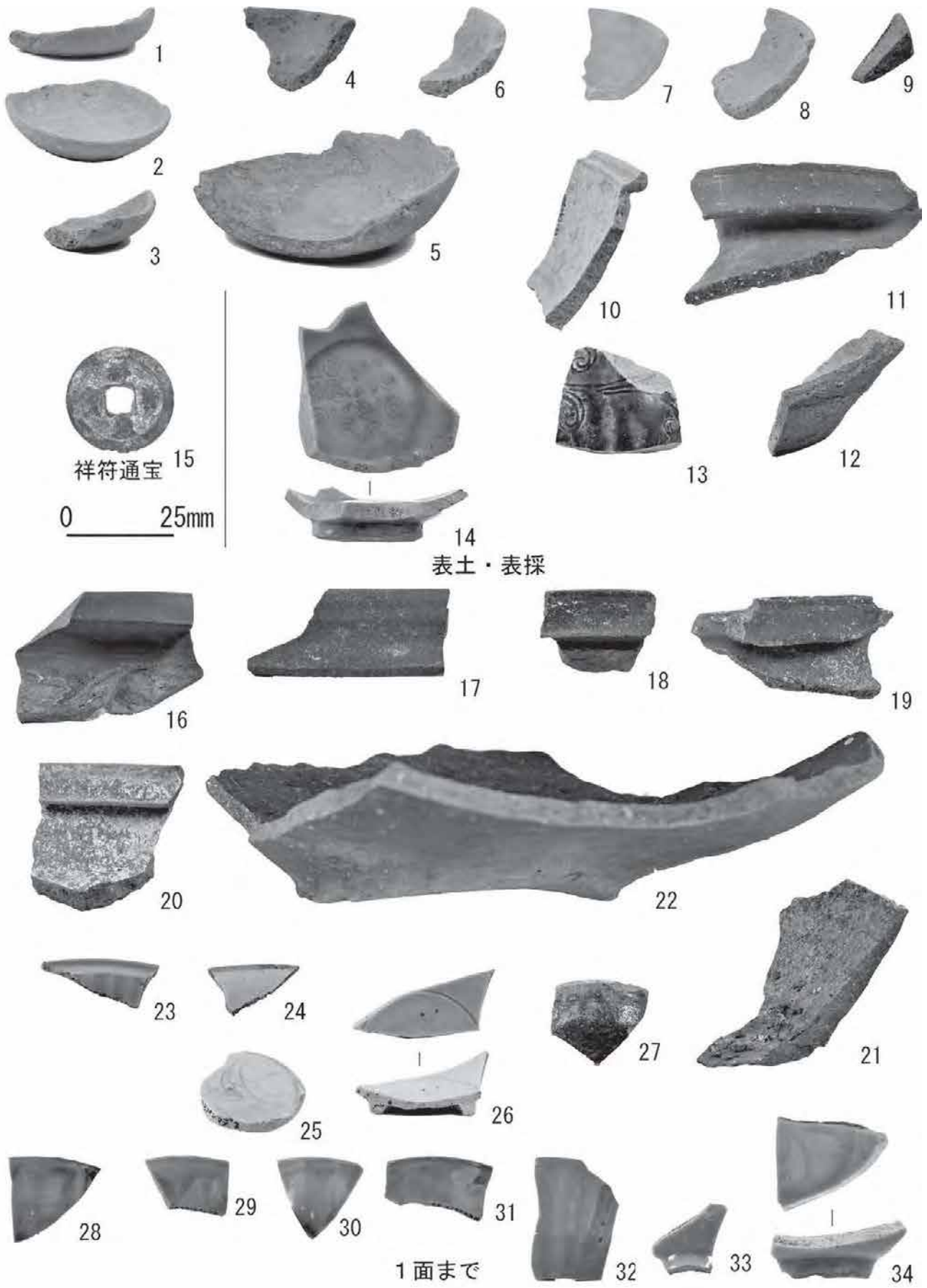
4. 最終トレンチ東壁（西から）



5. 最終トレンチ西壁（東から）



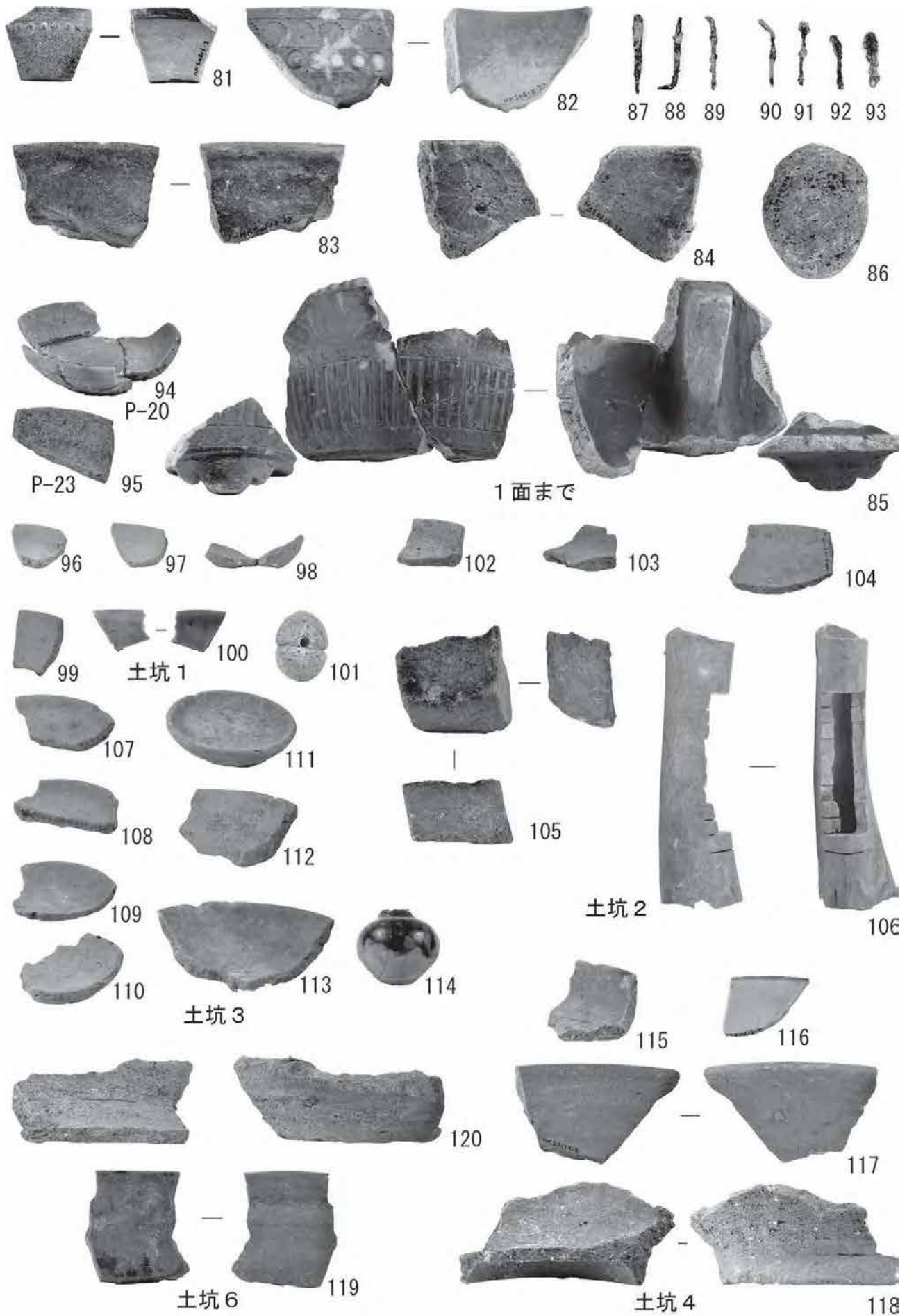
図版 10

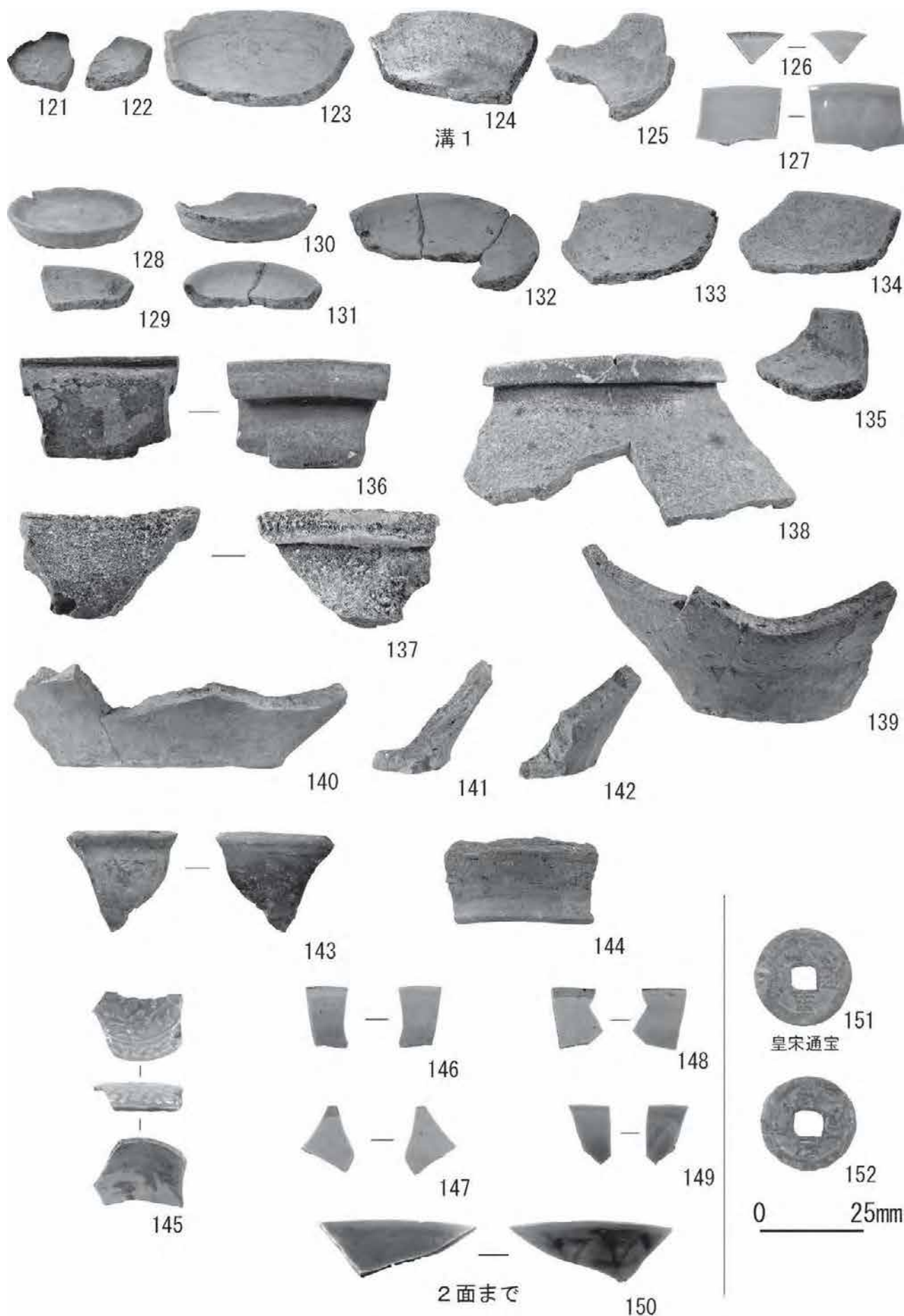






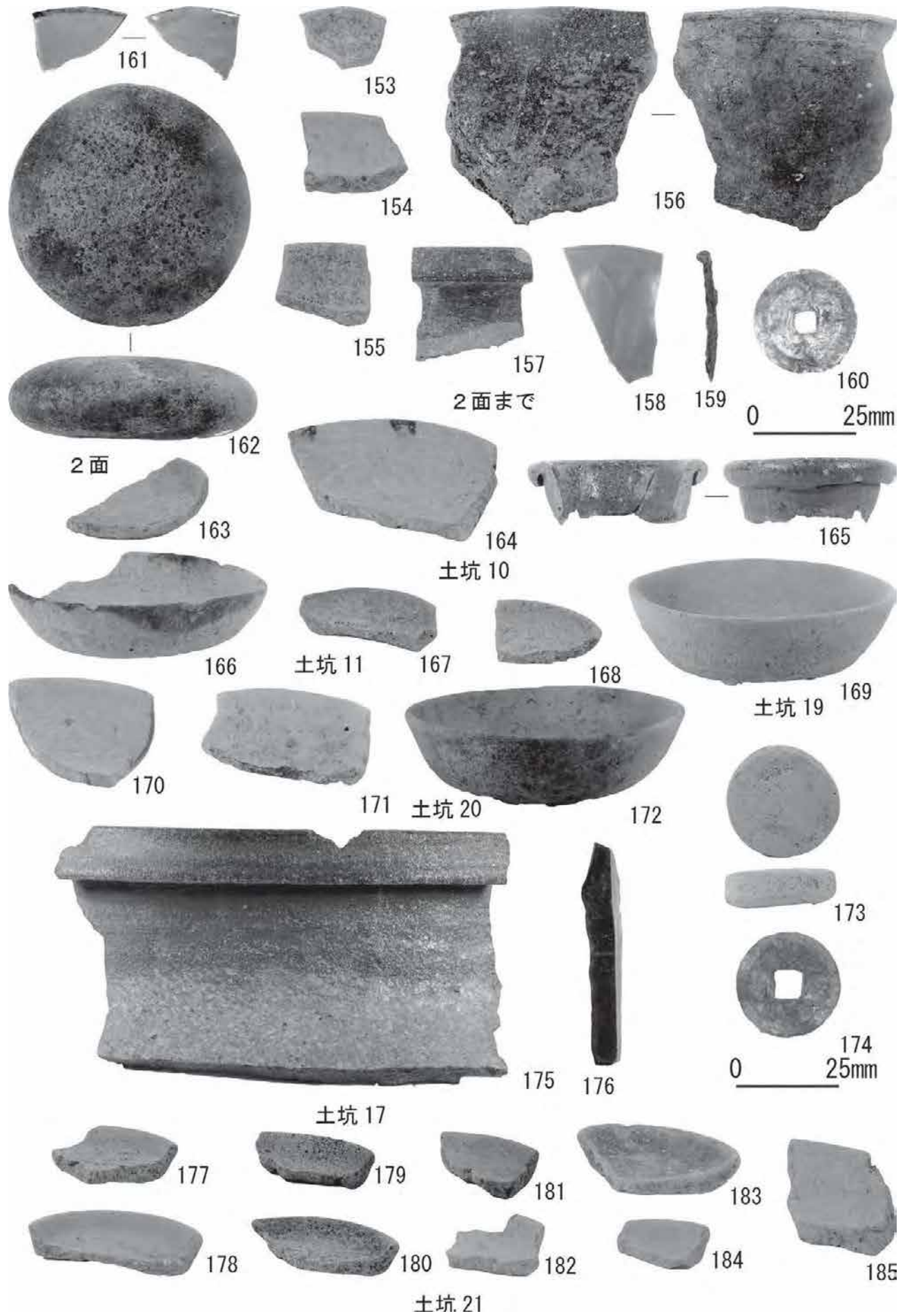
図版 12

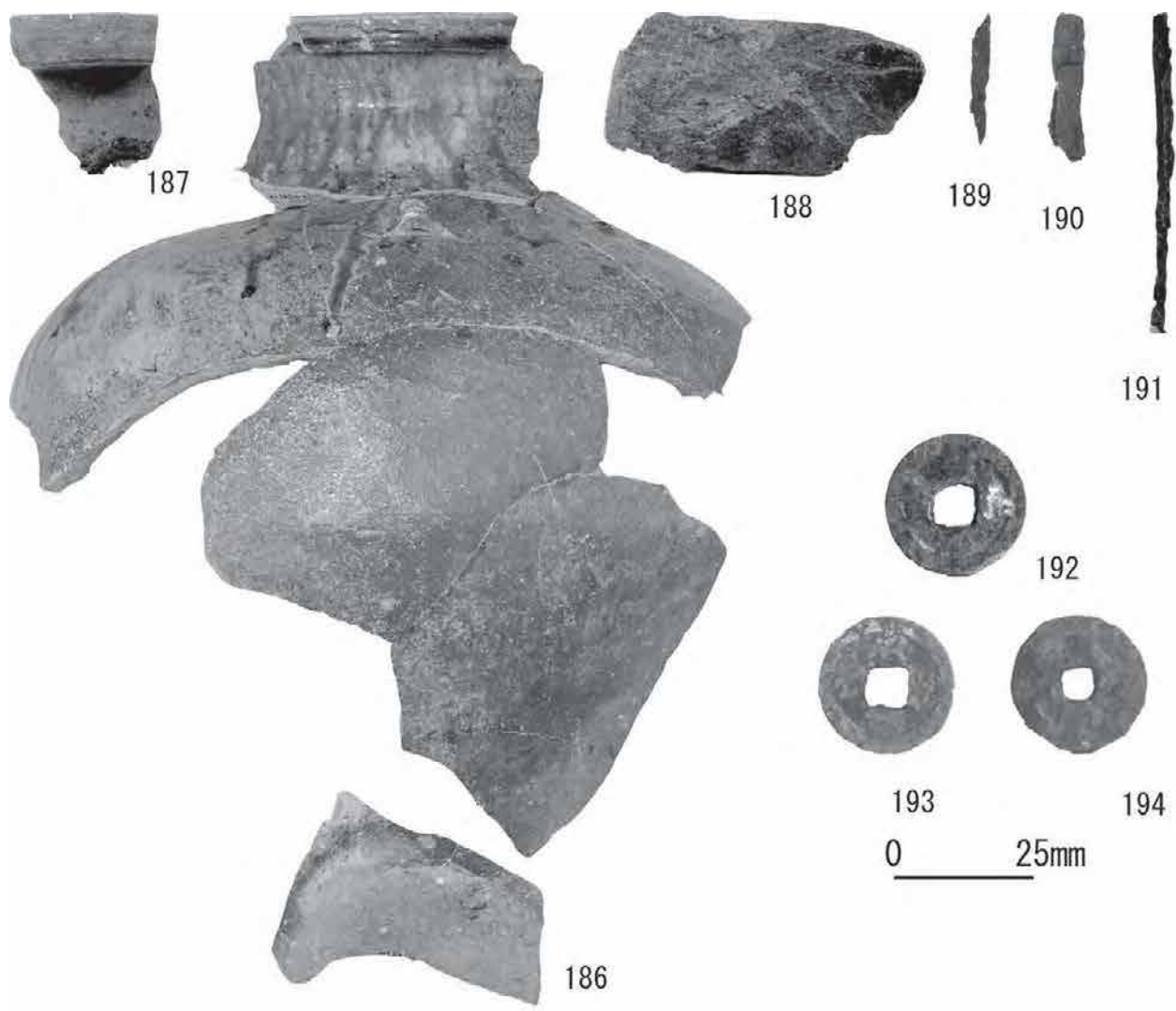






図版 14





土坑 21



3 面



土坑 15



8 チョウセンハマグリ

1 イボキサゴ



9 ハマグリ



6 シオフキガイ



15 アワビ



17 アカニシ



14 サザエ







1 イボキサゴ



10 スガイ



20 ダンベイキサゴ



19 バテイラ



12 ツメタガイ



18 バイガイ



4 イボウミニナ



16 ヒメヨウラクガイ



3 ホソウミニナ



5 アラムシロガイ



14 無棘型サザエ



14 サザエ蓋



14 有棘型サザエ



2 ウミニナ



17 アカニシ



7 カニモリガイ







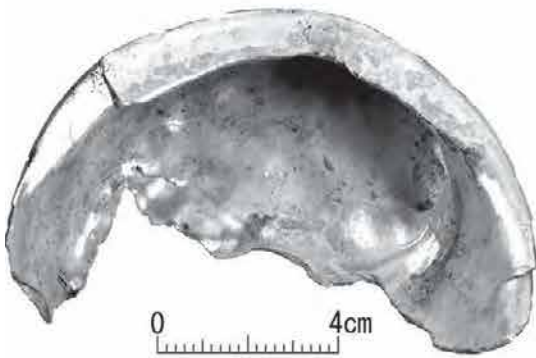
13 サルボウガイ



6 シオフキガイ



9 ハマグリ



15 アワビ



11 アサリ



8 チョウセンハマグリ

0 4cm

# 材木座町屋遺跡 (No.261)

材木座二丁目 208 番 1 地点

## 例 言

1. 本報は材木座町屋遺跡（神奈川県遺跡台帳 No. 261）に所在する鎌倉市材木座二丁目 208 番 1 地点における個人専用住宅の建設に伴う緊急発掘調査報告である。
2. 調査は平成 19 年 2 月 26 日から同年 5 月 1 日にかけて実施した。
3. 調査体制は以下の通りである。

担当者 伊丹まどか  
調査員 石元道子・宇都洋平・鈴木絵美・本城裕  
調査作業員 片山直文・倉澤六郎・田島道夫

4. 本報作成分担は以下の通りである。

遺物実測 菅野知子・柁岡ケイト・三瓶裕子・渡邊美佐子  
遺構図版作成 菅野知子・渡邊美佐子  
遺物図版作成 菅野知子・渡邊美佐子  
遺物観察表 柁岡ケイト  
破片遺物集計表 小野夏菜  
遺構写真 宇都洋平  
遺物写真 須佐仁和  
写真図版作成 柁岡ケイト  
執筆・編集 伊丹まどか・渡邊美佐子

5. 出土品等発掘調査に係る資料は鎌倉市教育委員会が管理している。

6. 本報図版の遺構・遺物の縮尺は以下の通りである。

遺構全測図：1 / 60 個別遺構図：1 / 40 遺物実測図：1 / 3（\* 銭は原寸）  
なお各挿図にはスケールを表示してある。

7. 検出した遺構の計測値・実測遺物観察・実測できなかった遺物を含む総出土点数は表にまとめて掲載した。

8. 発掘調査及び報告書作成に際して以下の方よりご教授、ご協力を賜りました。記して深謝いたします。（五十音順・敬称略）

秋山哲雄・菊川泉・齋木秀雄・汐見一夫・田畑衣理・原廣志・松尾宣方・松吉大樹



# 目次

第一章 調査地点の位置と歴史的環境	46
1. 歴史的環境	
2. 遺跡の位置とグリッド配置図	
3. 堆積土層	
第二章 検出した遺構と遺物	54
1. 第1面の遺構と遺物 (図4・図6～図10)	
2. 第2面の遺構と遺物 (図4・図11～図17)	
3. 第3面の遺構と遺物 (図5・図18～図25)	
4. 第4面の遺構と遺物 (図5・図26～図36)	
第三章 まとめ	92
・遺構計測表	
・遺物観察表	
・出土遺物破片数表	

## 挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡図	45	図16 第2面・遺構27・遺構34・遺構39・ 遺構40	68
図2 遺跡位置図・グリッド配置図	47	図17 第2面・面上・構成土出土遺物	70
図3 堆積土層図・最終トレンチ位置図	49	図18 第3面・遺構31	71
図4 第1面・第2面全測図	52	図19 第3面・遺構31出土遺物	72
図5 第3面・第4面全測図	53	図20 第3面・遺構44	73
図6 第1面個別遺構図(1) (遺構1・2・3・4・7・8・9・10・17・18・ 19・20・21・26)	55	図21 第3面・遺構44出土遺物	74
図7 第1面個別遺構図(2) (遺構32・33・36・37・42・43)	57	図22 第3面・遺構53	75
図8 第1面・遺構出土遺物	58	図23 第3面個別遺構図(遺構35・57・59・ 65・70a・70b・74・76・77・95)	76
図9 第1面・面上出土遺物	59	図24 第3面遺構出土遺物(遺構46・50・57・ 59・65・70・74・76・77)	77
図10 第1面・構成土出土遺物	60	図25 第3面・構成土出土遺物	78
図11 第2面・遺構13・遺構16	62	図26 第4面・遺構51	79
図12 第2面・遺構22・遺構28	63	図27 第4面・遺構51出土遺物(1)	80
図13 第2面・遺構22出土遺物	64	図28 第4面・遺構51出土遺物(2)	81
図14 第2面・遺構24・遺構25	65	図29 第4面・遺構54(1)	82
図15 第2面・遺構38・遺構39・遺構45	67	図30 第4面・遺構54(2)	83

図 31 第 4 面・遺構 54 (3) ……………	84	図 34 第 4 面遺構出土遺物 (遺構 91・96・	98・109・112・117・119・122・125・
図 32 第 4 面・遺構 54 (4) ……………	85	146)……………	87
図 33 第 4 面個別遺構図 (遺構 80・81・91・	92・96・107・109・110・112・119・	図 35 第 4 面・面上出土遺物 ……………	90
125・128・130・135) ……………	86	図 36 表土出土遺物 ……………	90

## 図版目次

図版 1 第 1 面全景・第 2 面遺構 13・遺構 24…	113	図版 11 第 2 面面上・第 2 面構成土・	
図版 2 第 2 面全景……………	114	第 3 面遺構出土遺物 ……………	123
図版 3 第 3 面全景・遺構 31・遺構 53 ……	115	図版 12 第 3 面遺構出土遺物 ……………	124
図版 4 第 4 面遺構 51 ……………	116	図版 13 第 3 面遺構・第 3 面構成土・	
図版 5 第 4 面遺構 51・遺構 130 ……………	117	第 4 面遺構出土遺物 ……………	125
図版 6 第 4 面遺構 54・トレンチ 2 西壁 …	118	図版 14 第 4 面遺構 51 出土遺物……………	126
図版 7 第 1 面出土遺物……………	119	図版 15 第 4 面遺構 54 出土遺物……………	127
図版 8 第 1 面面上・第 1 面構成土・		図版 16 第 4 面遺構 54 出土遺物……………	128
第 2 面遺構出土遺物……………	120	図版 17 第 4 面遺構・第 4 面面上・	
図版 9 第 2 面遺構出土遺物……………	121	表土出土遺物 ……………	129
図版 10 第 2 面遺構出土遺物 ……………	122		

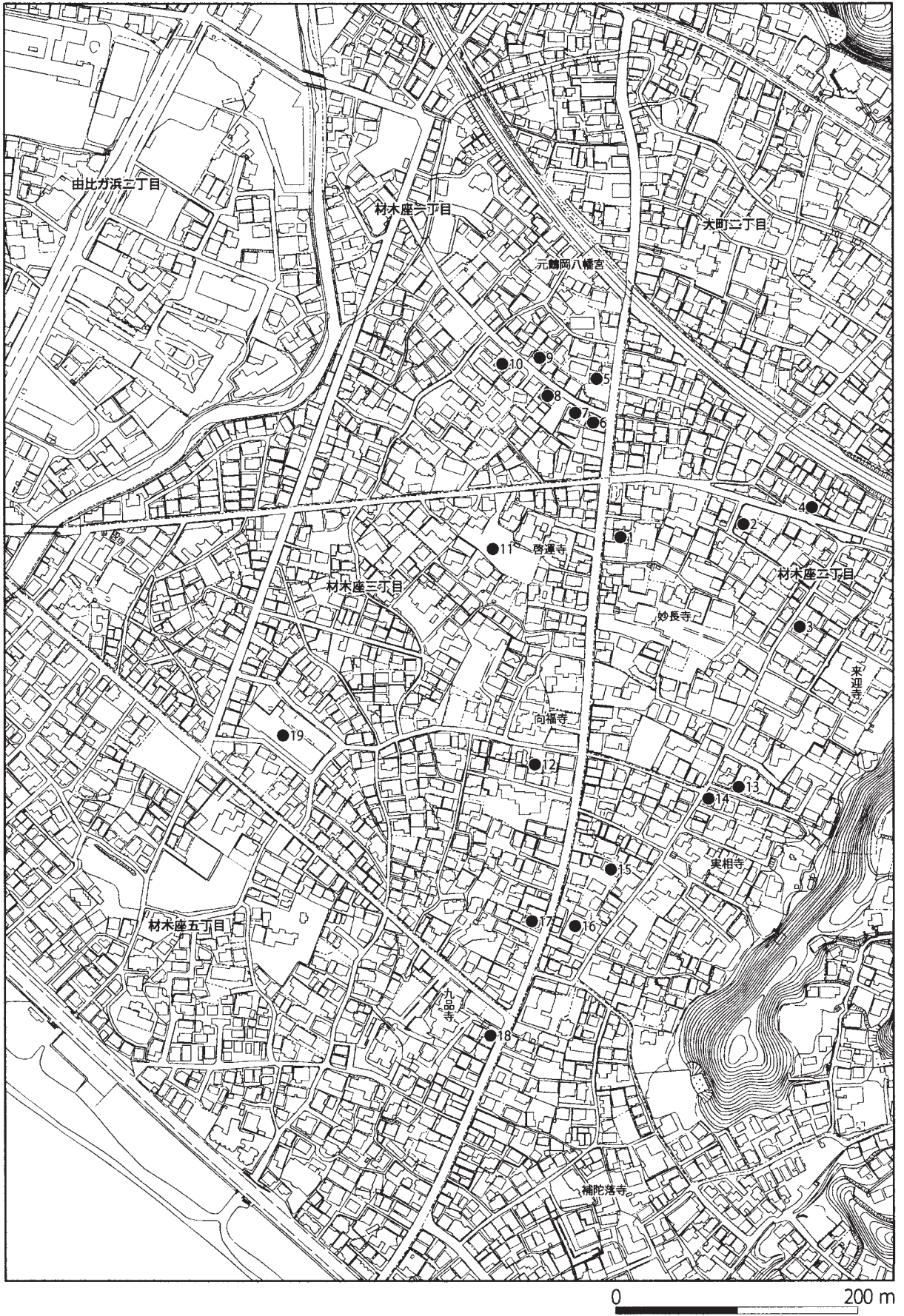


図 1 調査地点と周辺の遺跡図



# 第一章 調査地点の位置と歴史的環境

## 1 歴史的環境 (図 1)

本調査地は鎌倉市材木座二丁目 208 番 1 地点に所在する。調査地点のある「材木座町屋遺跡 (No. 261)」は鎌倉市街地の南東域にあり、北は東西に走る横須賀線、南は相模湾、東は「能蔵寺跡」「実相寺旧境内」の遺跡地を含む丘陵、西は滑川までを限りとするやや広域な一帯である。「材木座町屋遺跡」内での調査は近年になって事例が増えつつあるが、遺跡指定域が広範であるために点在する調査事例からは遺跡地の性格を捉える成果は上がっていない。

調査地の北側を東西に走る道路は「水道路」と呼ばれている。「水道路」は軍備増強のために新たな水道の供給を測った旧日本海軍が明治 45 年 (1912) から 10 年の年月を経て、愛甲郡愛川町半原石小屋地区の中津川から 53km 離れた横須賀市逸見まで引いた水道管の上を走る道路である。調査地の西に隣接する南北に走る道路は、北に向かうと中世鎌倉の東西を結ぶ主要な交通路であった「大町大路 (古東海道)」と交差して「小町大路」に通じ、鎌倉の物流を担った六浦の港へ向かう「六浦路」に繋がる。南に向かうと外港として機能していた「和賀江島 (現在日本最古の築港址で国指定史跡になっている)」に向かい、「小坪路」と呼ばれる逗子・三浦方面へ抜ける道に通じ、中世鎌倉の中から外へ、外から中へと物資、人の移動が盛んに行われた道筋に立地し、幕府から「町屋免許」を得た重要な商業地域という性格を持つと共に、調査地点西側に啓運寺 (日蓮宗)、東に長勝寺 (日蓮宗)、南に妙長寺・実相寺 (日蓮宗)、向福寺 (時宗)、九品寺 (浄土宗)、補陀洛寺 (真言宗) 等と、周辺には 12 世紀末から 16 世紀初頭と開山・建立の时期的なずれはあるが多くの寺院の点在する特異な宗教域でもある。

周辺の調査では、調査地点から西に 80m 離れた地点 11 では南北道路・建物・井戸・土坑墓が発見され、13 世紀前半から中頃と 13 世紀後半から 14 世紀代の遺構に時代が二分され。竪穴建物からは切断痕のある石材片・鉄滓・鞆の羽口の出土があり、石製品・鉄製品製作の職人集団の存在を示唆している。遺跡地の基盤層は飛砂からなる灰褐色砂層で、下層には縄文後期の海退による沈殿層と考える黒色粘土層が堆積する事が確認された。東に 100m 離れた地点 2 では 13 世紀前半から 15 世紀初頭に至る 3 枚の遺構面から方形竪穴建築址・方形土坑、多くの柱穴・土坑が検出されている。さらに 60m 東に行った地点 4 では 14 世紀前半から 15 世紀前半以降の遺構を発見し、大半が 15 世紀以降の遺構群に比定された。調査地に隣接する道路を北に 130m 向かった地点 5 では 13 世紀後半から 14 世紀代の南北方向の溝・柱穴・土坑が発見されている。南に 320m 下った地点 16 では 14 世紀から 15 世紀に比定される南北方向の溝・土坑・方形土坑・竪穴建物・礎石建物が発見され、道を挟んだ地点 17 では竪穴建物・方形土坑・土坑・ピットが発見され、13 世紀初めから 15 世紀半ばごろまでの変遷が明らかになった。さらに 430 m 下った地点 18 では 13 世紀初頭から前半にかけての土坑・ピット・竪穴建物が発見されている。

### 【参考文献】

- 『廃寺事典』 貫達人・川副竹胤 有隣堂 1980 年
- 『日本歴史地名大系 14 神奈川県地名』 平凡社 1984 年
- 『鎌倉市史』考古編 (再版) 赤星直忠 鎌倉市 1967 年
- 『鎌倉市史』総説編 高柳光寿 鎌倉市 1959 年
- 『鎌倉市史』社寺編 (再版) 高柳光寿・佐藤栄智・川副竹胤・貫達人 鎌倉市 1959 年



	日本測地系		世界測地系	
3級基準点[53408]	x=-76736.768	y=-25185.234	x=-76380.0813	y=-25478.7027
4級基準点[D004]	x=-76787.247	y=-25197.09	x=-76430.5596	y=-25490.5617
B	x=-76783.17	y=-25182.915	x=-76426.483	y=-25476.3868
A	x=-76784.19	y=-25171.958	x=-76427.5035	y=-25465.4299

図2 遺跡位置図・グリッド配置図

## 2 遺跡位置とグリッド配置図（図2）

調査開始にあたって調査区に任意の方眼軸を設け、基本点Aと、見返り点Bを設定し遺構の測量・図面作成に使用した。基本点Aと見返り点Bは鎌倉市4級基準点成果表に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行ったが、調査時の成果表は日本測地系（座標AREA9）の国土座標値を使用したため、本報告作成に際しては国土地理院が公開する座標変換ソフト「WEB版TKY2JGD」で世界測地系第IX形に変換し、図2に表記した。

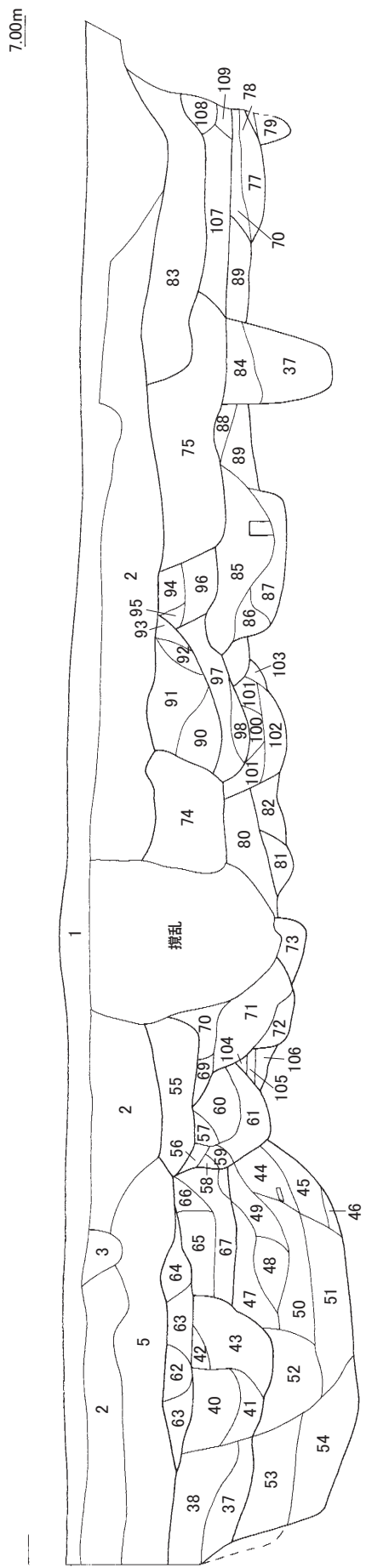
## 3 堆積土層

現地表、海拔6.50～6.90mであった表土から約60cmを重機によって除去し、第1面を検出する作業を行った。本報告では第1面以下、4枚の生活面に分けて報告しているが、どの生活層も地業層を掘りこんだ遺構ではなく砂層の堆積層を掘りこんでおり、また大きく遺構が切りあっていたために、調査区壁で観察した土層堆積のほとんどは遺構覆土の観察となった。

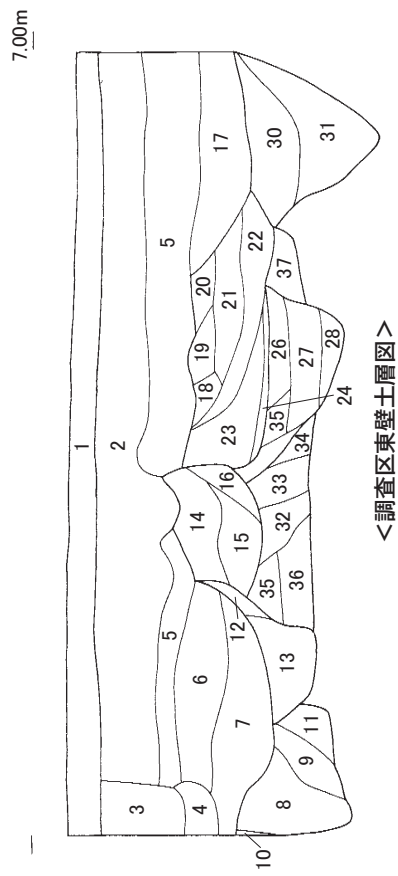
### 【調査地点一覧】

- 地点1 本調査地点
- 地点2 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書11 第2分冊』「材木座二丁目21番6地点」1995年
- 地点3 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23 第2分冊』「材木座二丁目294番3外地点」2007年
- 地点4 『鎌倉市材木座町屋遺跡（No.261）発掘調査報告書』「材木座二丁目294番3外地点」2014年（榊博通）
- 地点5 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23 第2分冊』「材木座一丁目921番5外地点」2007年
- 地点6 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24』「材木座一丁目889番5地点」2008年
- 地点7 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24』「材木座一丁目889番4地点」2008年
- 地点8 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書24』「材木座一丁目194番4地点」2008年
- 地点9 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書16 第1分冊』「材木座一丁目890番7地点」2000年
- 地点10 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書7』「材木座一丁目144番3地点」1991年3月
- 地点11 『材木座町屋遺跡発掘調査報告書』「材木座三丁目164番他」2011年（有）鎌倉遺跡調査会
- 地点12 『神奈川県鎌倉市材木座町屋遺跡（No.261）発掘調査報告書』「材木座三丁目372番26地点」2015年（榊博通）
- 地点13 『能蔵寺跡—材木座御所神社境内所在遺跡の発掘』「材木座二丁目274番4外地点」1995年 能蔵寺遺跡発掘調査団
- 地点14 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書23 第1分冊』「材木座二丁目294番3外地点」2007年
- 地点15 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18 第2分冊』「材木座四丁目256番1地点」2002年
- 地点16 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書6』「材木座四丁目260番1外地点」1990年
- 地点17 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13 第1分冊』「材木座三丁目364番1地点」1997年
- 地点18 『鎌倉市材木座町屋遺跡（No.261）発掘調査報告書』博通52 「材木座五丁目462番2地点」2010年（榊博通）
- 地点19 『鎌倉市材木座町屋遺跡調査報告書』「材木座三丁目62番19地点」2008年（有）鎌倉遺跡調査会

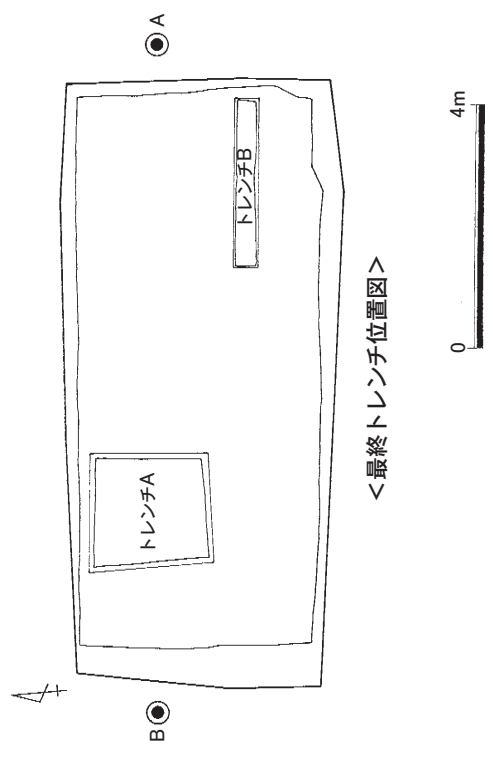




<調査区南壁土層図>



<調査区東壁土層図>



<最終トレンチ位置図>

図3 堆積土層図・最終トレンチ位置図

## <土層注記>

1. 暗褐色砂質土 堅く地業（現代埋土）
2. 暗褐色砂質土 炭化物（現代埋土）
3. 暗褐色砂質土 泥岩・泥岩粒による地業（現代埋土）
4. 暗褐色砂質土 泥岩・泥岩粒による地業（現代埋土）
5. 暗褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物・15世紀代の遺物混入
6. 茶褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物（第1面構成土）
7. 暗茶褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物・貝砂・貝
8. 茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂（遺構57）
9. 茶褐色砂質土 炭化物・貝砂（遺構57）
10. 灰色粘土 黄褐色砂（遺構57）
11. 茶褐色砂質土 炭化物・貝砂・黄褐色砂（遺構57）
12. 茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物（遺構13）
13. 茶褐色砂質土 炭化物・貝砂・黄褐色砂（遺構13）
14. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物（遺構16）
15. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂・黄褐色砂（遺構16）
16. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物（遺構16）
17. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物（遺構17）
18. 暗褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物・褐色粘土（遺構22）
19. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・黄褐色砂（遺構22）
20. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・黄褐色砂・褐色粘土（遺構22）
21. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂・黄褐色砂・貝（遺構22）
22. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝（遺構22）
23. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・泥岩・炭化物・貝砂・黄褐色砂・貝（遺構22）
24. 暗茶褐色砂質土 貝（遺構22）
25. 暗茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・黄褐色砂（遺構85）
26. 暗褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物・褐色粘土（遺構85）
27. 暗褐色砂質土 炭化物・貝砂・黄褐色砂・褐色有機質土（遺構85）
28. 黄褐色砂 炭化物・褐色砂質土（遺構85）
29. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・黄褐色砂（遺構85）
30. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・褐色粘土・貝砂（遺構28）
31. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・黄褐色砂・貝砂・貝（遺構28）
32. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・黄褐色砂
33. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物
34. 褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物
35. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・黄褐色砂質土・貝
36. 褐色砂質土 炭化物・黄褐色砂・貝砂
37. 褐色砂質土 炭化物・貝砂（遺構85）
38. 黄茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂・褐色粘土・貝（遺構17）
39. 黄茶褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・褐色砂・貝砂・貝（遺構17）
40. 褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物・貝砂・貝（遺構17）
41. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂・褐色粘土（遺構17）
42. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂・貝（遺構17）
43. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・褐色粘土（遺構17）
44. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・黄褐色砂・褐色砂（遺構28）
45. 黒色炭化物 暗褐色砂質土（遺構28）
46. 黒色炭化物（遺構28）
47. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・黄褐色砂・貝（遺構28）
48. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・褐色粘土粒・貝（遺構28）
49. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物（遺構28）
50. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂（遺構28）
51. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂・褐色砂（遺構28）
52. 暗褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物（遺構28）
53. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂・黄褐色砂（遺構28）
54. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・黄褐色砂・褐色砂（遺構28）
55. 暗褐色砂質土 泥岩粒（遺構3）
56. 暗褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物（遺構56）
57. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・褐色粘土粒（遺構56）
58. 褐色砂質土 細砂（遺構56）
59. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物（遺構56）
60. 褐色砂質土 泥岩（遺構56）
61. 褐色砂質土 炭化物・黄褐色砂・貝砂（遺構56）
62. 褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物
63. 褐色砂質土 泥岩・貝砂
64. 暗褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物
65. 暗褐色砂質土 泥岩・炭化物・貝砂（遺構28）
66. 暗褐色砂質土 炭化物（遺構28）
67. 暗褐色砂質土 泥岩・炭化物・貝砂・貝（遺構28）
68. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂（遺構28）
69. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物（遺構55）
70. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂（遺構55）
71. 褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物・黄褐色砂（遺構55）
72. 褐色砂質土 褐色有機質土・黄褐色砂・貝砂（遺構55）
73. 褐色砂質土 炭化物・黄褐色砂（遺構108）
74. 暗褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物（遺構37）
75. 暗褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物・貝砂・灰（遺構45）
76. 暗褐色砂質土 炭化物・黄褐色砂・貝砂（遺構87）
77. 褐色砂質土 炭化物・貝砂（遺構87）
78. 褐色砂質土 貝砂（遺構86）
79. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物（遺構86）
80. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂（遺構55）
81. 褐色砂質土 炭化物・黄褐色砂・褐色粘土粒（遺構142）
82. 褐色砂質土 褐色砂・黄褐色砂・炭化物
83. 暗茶褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物（遺構41）
84. 暗褐色砂質土 暗褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・褐
85. 褐色砂質土 炭化物・褐色有機質土・黄褐色砂・貝砂（遺構69）
86. 暗褐色砂質土 炭化物・褐色有機質土・褐色粘土・貝砂（遺構69）
87. 灰白色砂質土 黄褐色砂（遺構69）
88. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂（遺構69）
89. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・灰白色砂（遺構69）
90. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・貝砂
91. 暗褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物・貝砂
92. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・褐色粘土粒

- |                                  |  |
|----------------------------------|--|
| 93. 暗褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物・褐色砂        | 102. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・褐色粘土粒・黃褐色砂・貝砂 (遺構 143) |
| 94. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物                | 103. 黃褐色砂 飛砂・褐色有機質土点在 (遺構 143)             |
| 95. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・褐色砂            | 104. 褐色砂質土 炭化物・貝砂                          |
| 96. 褐色砂質土 泥岩・泥岩粒・炭化物・褐色砂         | 105. 暗褐色砂質土 貝砂                             |
| 97. 褐色砂質土 泥岩粒・褐色砂・褐色粘土粒・貝砂・貝     | 106. 暗褐色砂質土 黃褐色砂                           |
| 98. 黑色炭化物 暗褐色砂質土・泥岩粒             | 107. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物                         |
| 99. 褐色砂質土 黃褐色砂・褐色砂               | 108. 褐色砂質土 泥岩粒・炭化物・黃褐色砂                    |
| 100. 暗褐色砂質土 泥岩粒・炭化物 (遺構 143)     | 109. 褐色砂質土 泥岩粒                             |
| 101. 褐色砂質土 炭化物・褐色砂・暗褐色砂 (遺構 143) |  |



X-76427.5035

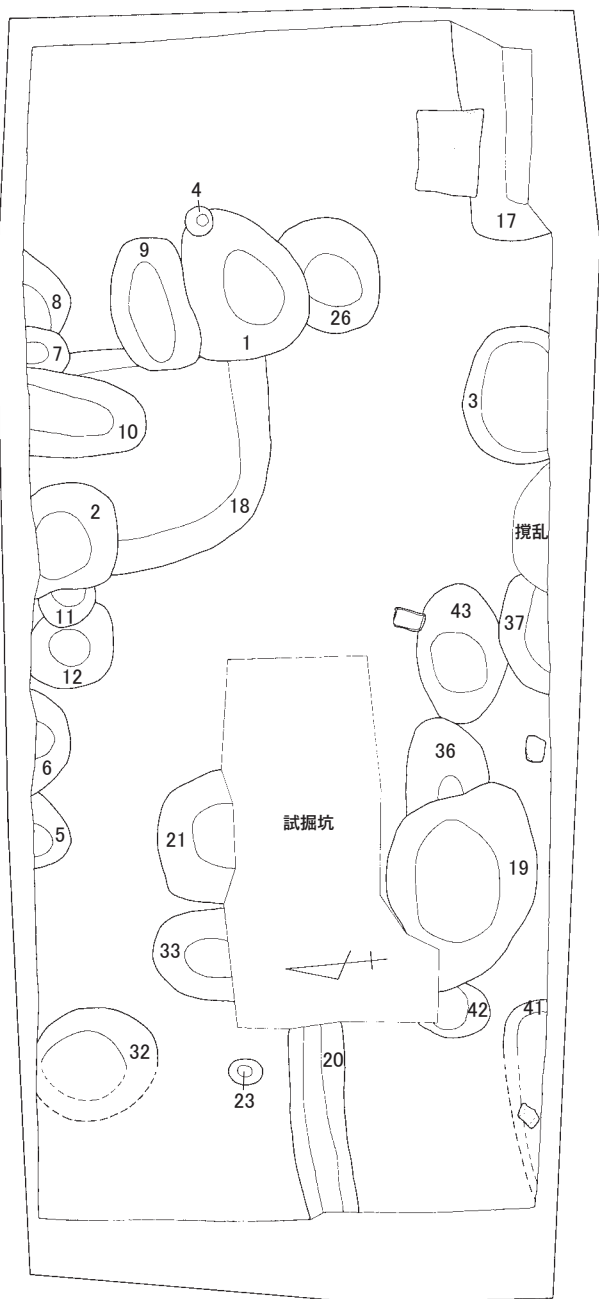
Y-25465.4299

●  
A

X-76427.5035

Y-25465.4299

●  
A

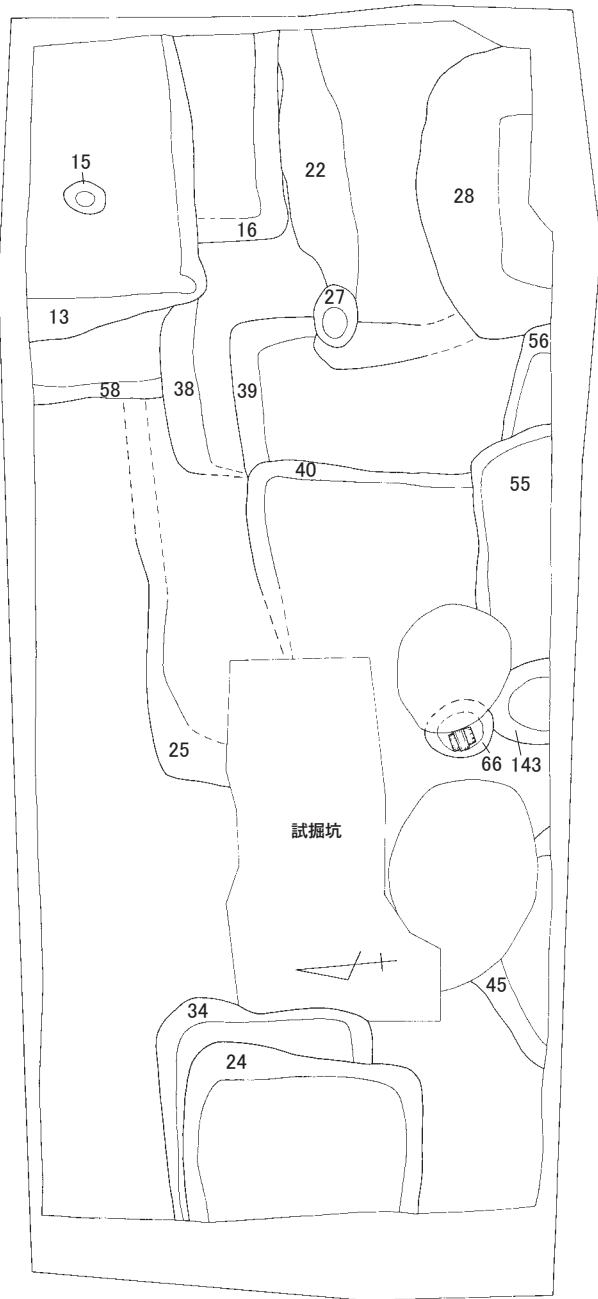


●  
B

X-76426.483

Y-25476.3868

第1面全測図



●  
B

X-76426.483

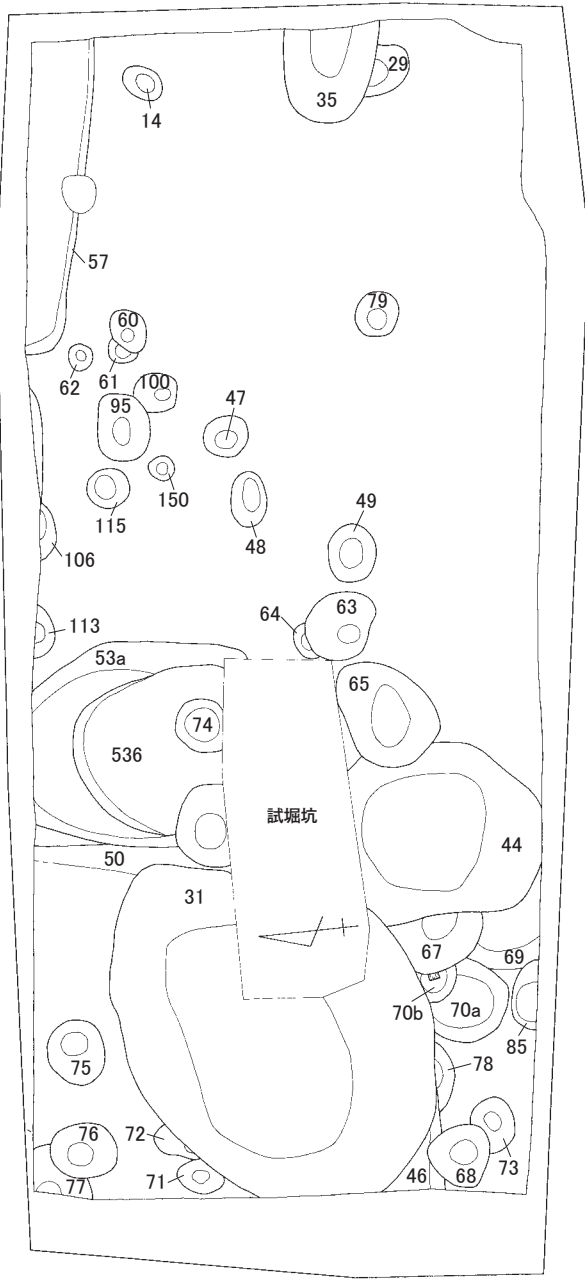
Y-25476.3868

第2面全測図

0 2m

图4 第1面·第2面全測図

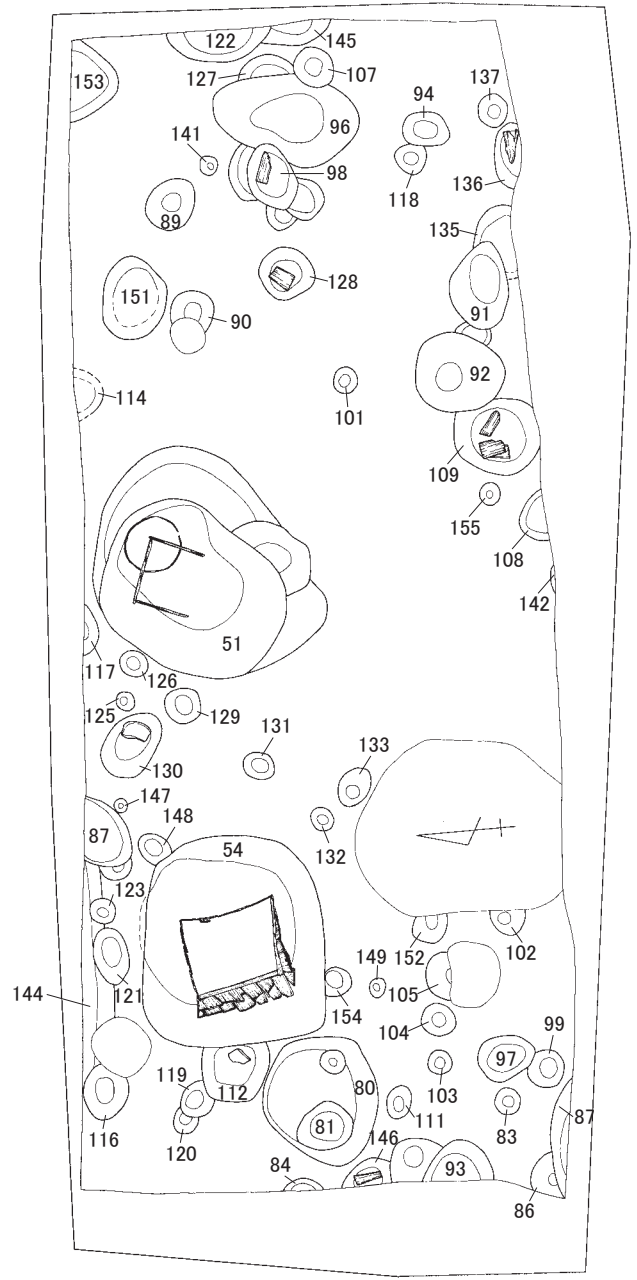
X-76427.5035  
Y-25465.4299  
●  
A



●  
B  
X-76426.483  
Y-25476.3868

第3面全測図

X-76427.5035  
Y-25465.4299  
●  
A



●  
B  
X-76426.483  
Y-25476.3868

第4面全測図

0 2m

图5 第3面・第4面全測図

## 第二章 検出した遺構と遺物

本報告で第1面とした遺構確認面上層に中世遺物包含層を発見したが、調査地の堆積層が砂層であったことや、重機による表土掘削を行ったために層位を追って生活面を確認することができず、調査区壁での観察となった。調査区壁から採集した遺物には器壁が厚く外反するかわらけが出土し、15世紀を下る生活層であったと考えている。堆積土は暗褐色砂質土。多量の泥岩・炭化物を含み褐色粘土粒を含む、やや硬く締まった層であったことを確認しているが、調査区壁からは遺構を確認できず空閑地であったのかもしれない。本報告では以下の堆積層を上層から4枚の生活面を分けて提示した。発見した遺構は地業層上に造られた遺構ではなく、砂層を掘りこんで頻繁に造り替えを行っていたため、発見・検出した順に提示していない。また、遺構No.は調査時に作業を簡便に進めるために付しており遺構の新旧を表すものではない。個別に図示していない遺構は全測図で形状を、遺構計測表で規模を、実測遺物は観察表に報告し本文中では詳細を省いている。

### 1. 第1面の遺構と遺物（図4・図6～図10）

第1面は褐色砂質土上で検出した。中世遺物包含層を取り除いた後、遺構プランを確認した層を面として報告しているが、調査区全体に遺構が重複し、後述する第2面遺構と重なり合っただけで遺構を発見、検出しているため、第2面共に遺構検出後の全景写真は遺構の底面を残すのみとなってしまった。第1面で発見した遺構は土坑17基・溝状土坑1基・ピット5穴・竪穴建物2軒である。遺構の大半は上層の堆積層によって削平を受けていた。第1面遺構は遺構覆土の観察から大きく3期に分けられ、いずれの期も遺構覆土内には炭化物を多く含んでいた。

#### ・遺構1（図6・図8）

不正円形を呈する土坑である。遺構9に切られ、遺構26を切る。遺構覆土は褐色砂質土。覆土底面に炭化物を多く含む黄褐色砂質土が堆積する。

#### ・出土遺物（図8）

1～3はかわらけ。4～6は常滑片口鉢Ⅰ類。7はチャート。図示したかわらけは3点だが、破片でかわらけ（大）57・（小）7が出土している。その他に破片で常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・羽釜・鉄製品釘・骨・貝などが出土している。

#### ・遺構2（図6・図8）

不正円形を呈する土坑である。遺構18を切る。遺構覆土は褐色砂質土。泥岩粒・泥岩・炭化物を多く含む。

#### ・出土遺物（図8）

8はかわらけ。その他にかわらけ・青磁鉢・青白磁梅瓶・瀬戸碗・常滑甕・貝が破片で出土している。

#### ・遺構3（図6・図8）

調査区外に遺構が延びているために正確な形状・規模は不明。円形を呈する土坑である。遺構覆土は黒褐色砂質土。泥岩粒・泥岩・炭化物を含む。

#### ・出土遺物（図8）

9は常滑片口鉢Ⅰ類。その他にかわらけ・褐釉壺・瀬戸折縁皿・常滑甕・常滑片口鉢Ⅱ類・鉄滓・貝が破片で出土している。

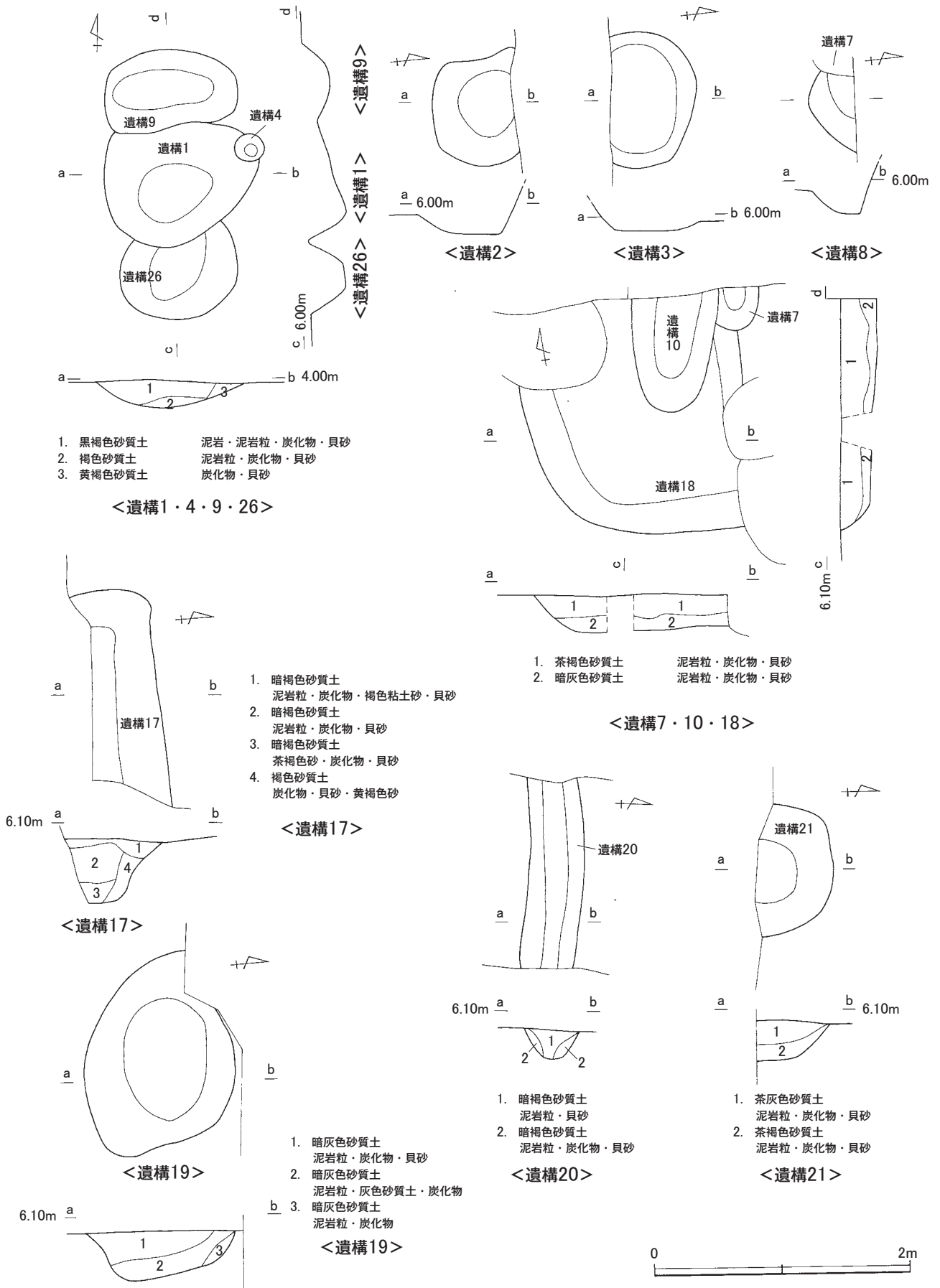


図6 第1面個別遺構図(1)



・遺構 4 (図 6)

遺構 1 を切る。円形のピットである。遺構覆土は暗褐色砂質土。泥岩粒・炭化物を含む。出土遺物はかわらけ・渥美甕・瓦器質火鉢が破片で出土している。

・遺構 7 (図 6)

遺構 10 に切られる。調査区外に遺構が延び正確な形状・規模は不明。遺構覆土は褐色砂質土。泥岩粒・炭化物を含む。遺物はかわらけ・常滑甕・貝・骨が破片で出土している。

・遺構 8 (図 6・図 8)

遺構 7 に切られる。調査区外に遺構が延び、正確な形状・規模は不明。遺構覆土は褐色砂質土。泥岩粒・炭化物をわずかに含む。

・出土遺物 (図 8)

10 は鉄製品釘。その他にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

・遺構 9 (図 6・図 8)

遺構 1 を切る。楕円形の土坑である。遺構覆土は暗褐色砂質土。泥岩粒・炭化物を多量に含む。

・出土遺物 (図 8)

11 はかわらけ。その他にかわらけ・常滑甕・貝・炭が破片で出土している。

・遺構 10 (図 6)

調査区外に遺構が延びる。楕円形の土坑である。遺構覆土は茶灰色砂質土。泥岩・炭化物を多く含み、泥岩粒を含む。遺物はかわらけ・鉄製品釘・獣骨が破片で出土している。

・遺構 17 (図 6・図 8)

調査区外に遺構が延び形状・規模は不明となったが、竪穴建物であった可能性を考えている。遺構覆土は暗褐色砂質土。泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

・出土遺物 (図 8)

12～15 はかわらけ。16～18 は常滑片口鉢Ⅰ類。その他にかわらけ・青磁鎚蓮弁文碗・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・貝・軽石が破片で出土している。

・遺構 18 (図 6・図 8)

調査区外に遺構が延び規模は不明。方形を呈する土坑であるが竪穴建物であった可能性も考えている。遺構覆土は茶褐色砂質土。泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

出土遺物 (図 8)

19～21 はかわらけ。22 は手づくね成形かわらけ。23 は常滑片口鉢Ⅱ類。24 は鉄製品釘。図示したかわらけは 3 点だが、破片でかわらけ (大) 54・(小) 10、手づくね (大) 4・(小) 1 が出土している。その他に青磁鎚蓮弁文碗・青白磁梅瓶・常滑甕・常滑壺・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類・鉄製品釘・貝が破片で出土している。

・遺構 19 (図 6・図 8)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗灰色砂質土。泥岩粒・炭化物・貝砂・灰色砂質土を含む。

・出土遺物 (図 8)

25 はかわらけ。26 は鉄製品釘。図示したかわらけは 1 点だが、破片でかわらけ (大) 52・(小) 9 が出土している。その他に青磁器種不明・褐釉器種不明・瀬戸器種不明・瀬戸壺・常滑甕・渥美器種不明・瓦器質火鉢・鉄製品釘・緑泥片岩が破片で出土している。

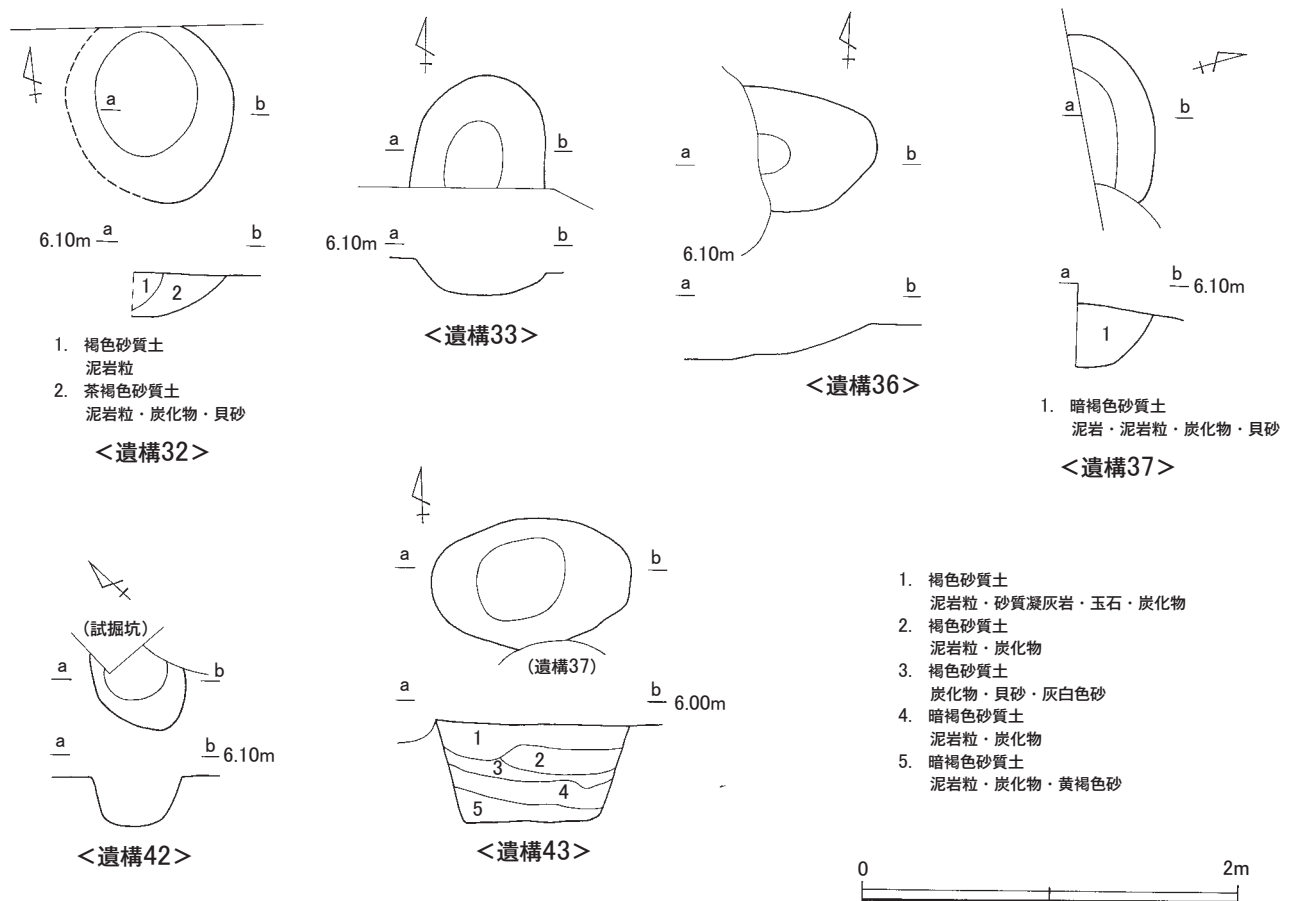


図7 第1面個別遺構図(2)

・遺構20 (図6・図8)

調査区外に遺構が延び規模は不明。溝状を呈する土坑である。土坑の断面形は半円形。遺構覆土は暗褐色砂質土。泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

・出土遺物 (図8)

27はかわらけ。28は瀬戸折縁深皿。29は常滑片口鉢Ⅱ類。30～31は鉄製品釘。その他にかわらけ・瀬戸折縁皿・瀬戸器種不明・常滑甕・常滑片口鉢Ⅱ類・鉄製品釘・貝・獣骨が破片で出土している。

・遺構21 (図6・図8)

調査区外に遺構が延び規模は不明。円形を呈する土坑である。遺構覆土は茶灰色砂質土。泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

・出土遺物 (図8)

32は常滑甕。その他にかわらけ・青磁鎬蓮弁文碗・常滑甕・常滑壺・鉄製品釘・土師器甕・獣骨が破片で出土している。

・遺構26 (図6)

遺構1に切られる。土坑である。遺構覆土は暗灰色砂質土。泥岩・炭化物・貝砂を含む。遺物は破片でかわらけが出土している。

・遺構32 (図7・図8)

楕円形を呈する土坑である。上層の攪乱によって遺構の大半が失われ、遺構西側はプランでの確認となった。遺構覆土は褐色砂質土。泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

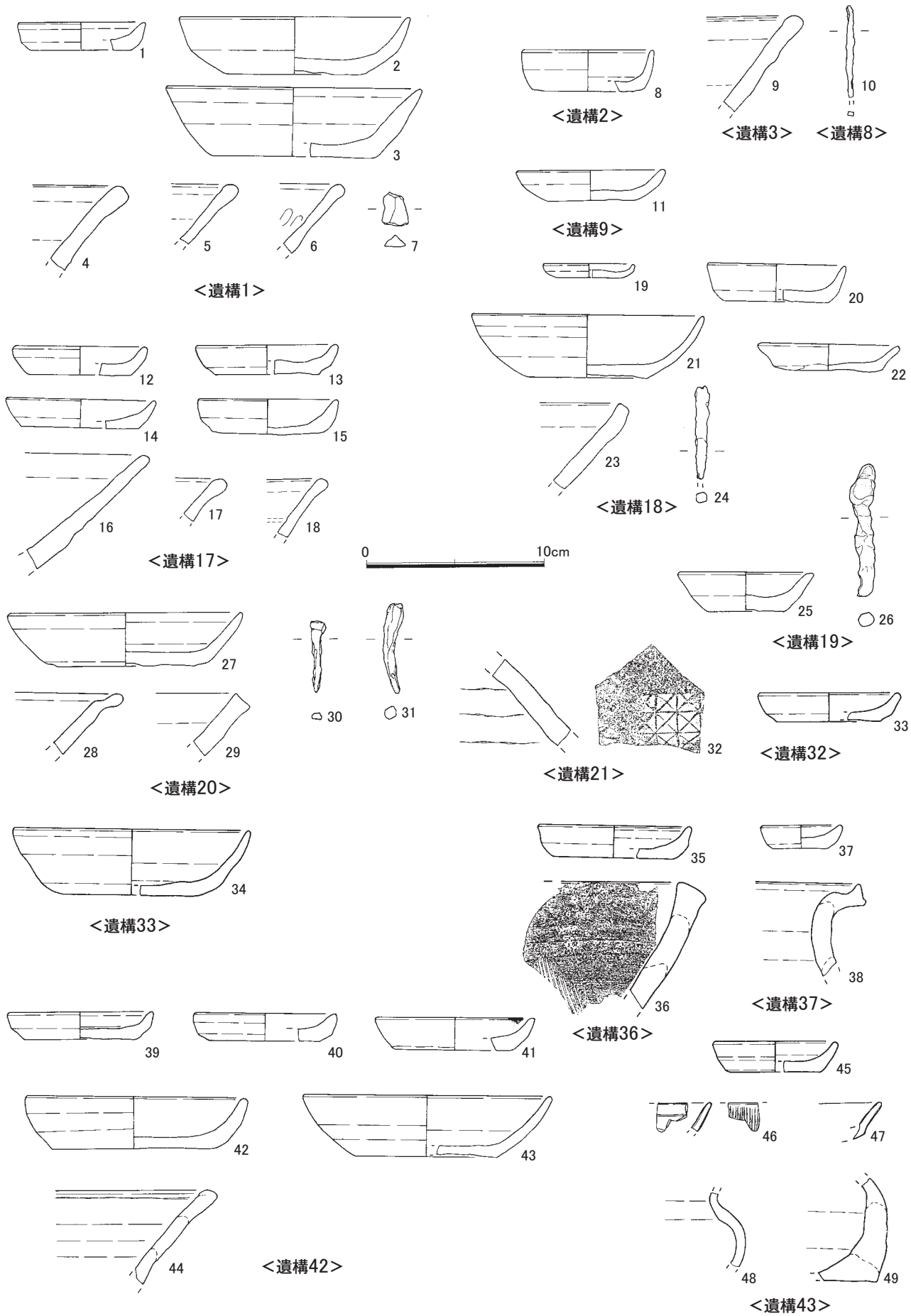


図8 第1面 遺構出土遺物

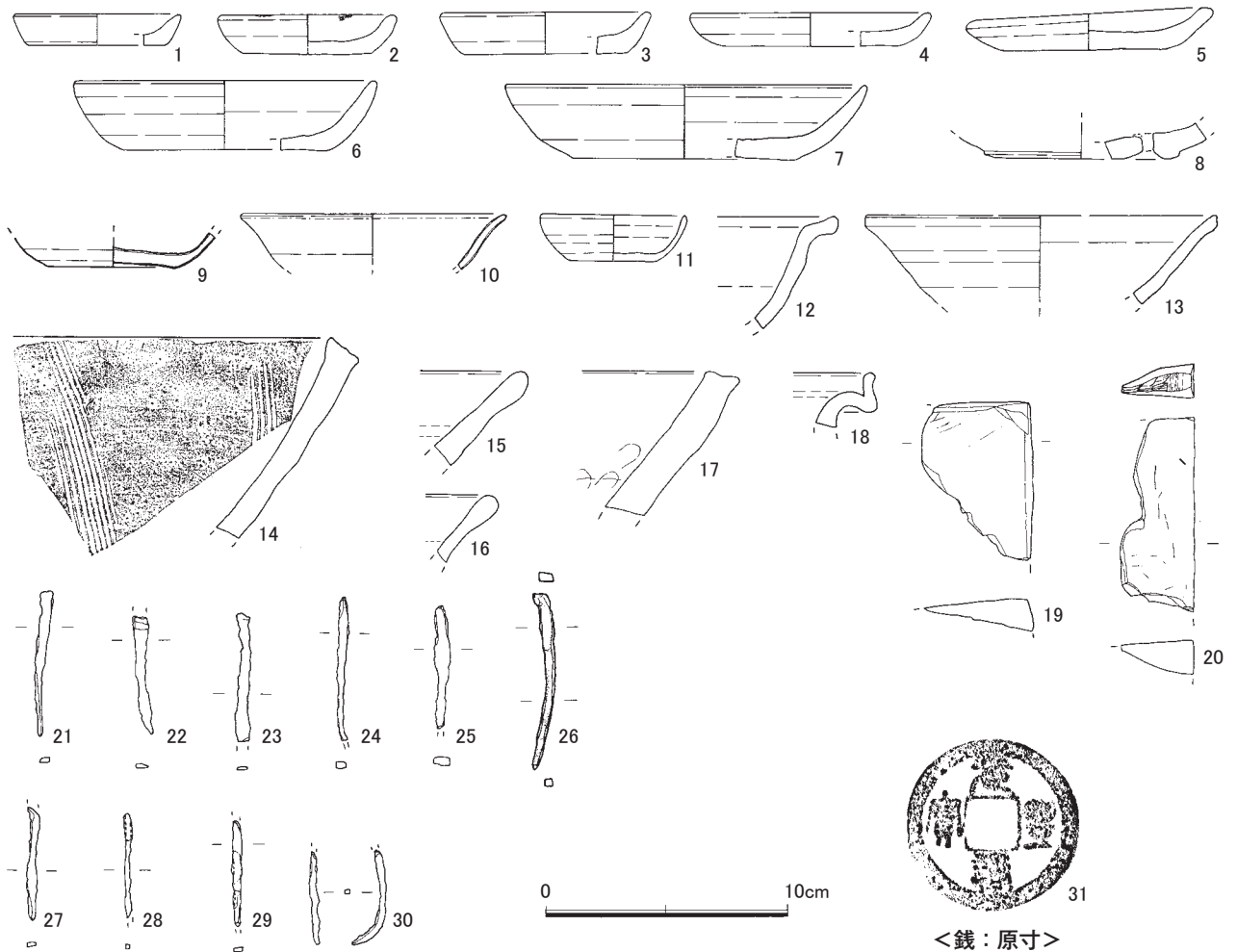


図9 第1面面上出土遺物

・出土遺物 (図8)

33 はかわらけ。その他にかわらけ・手づくね・瀬戸器種不明・常滑甕・鉄製品釘・轡の羽口・獣骨が破片で出土している。

・遺構 33 (図7・図8)

試掘坑に切られて規模は不明となった。楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗褐色砂質土。泥岩粒・炭化物・褐色粘質土・貝砂を含む。

・出土遺物 (図8)

34 はかわらけ。その他にかわらけ・常滑甕・獣骨が破片で出土している。

・遺構 36 (図7・図8)

楕円形を呈する土坑である。上層の攪乱と遺構 19 に大きく削平を受けている。遺構覆土は暗褐色砂質土。泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

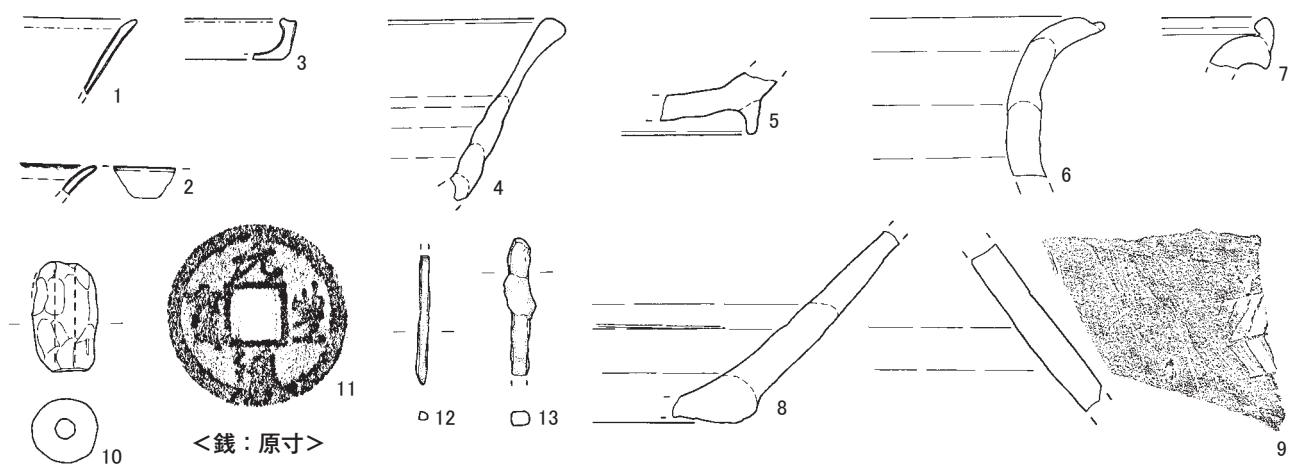
・出土遺物 (図8)

35 はかわらけ。36 は備前播鉢。その他にかわらけ・手づくね・常滑甕・備前器種不明・貝が破片で出土している。

・遺構 37 (図7・図8)

調査区外に遺構が延び形状・規模は不明となった。土坑である。遺構覆土は暗褐色砂質土。泥岩・





<銭：原寸>

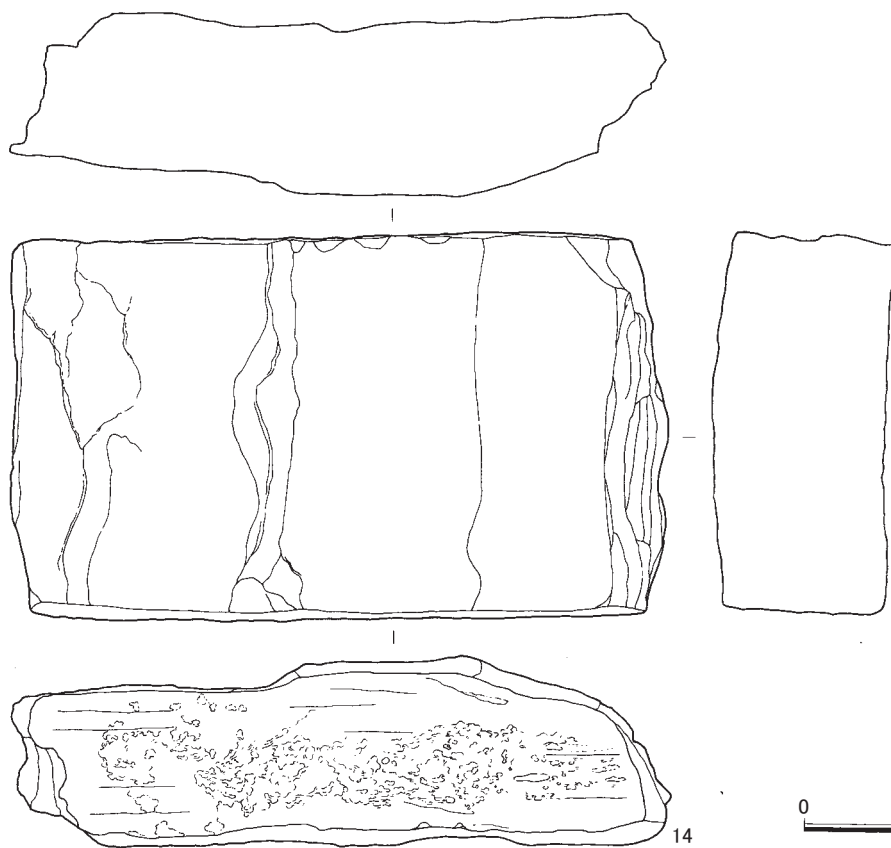


図10 第1面構成土出土遺物

泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

・出土遺物 (図8)

37はかわらけ。38は常滑甕。その他にかわらけ・瓦器質火鉢が破片で出土している。

・遺構42 (図7・図8)

遺構19・試掘坑に切られ規模は不明となった。土坑である。遺構覆土は茶灰色砂質土。泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

・出土遺物 (図8)

39～43はかわらけ。41は口唇部に油煤痕。44は常滑片口鉢Ⅱ類。その他にかわらけ・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類・鉄製品釘が破片で出土している。

### ・遺構 43 (図 7・図 8)

楕円形を呈する土坑である。深さ約 60cm と浅い土坑であるが、覆土内の堆積層は最低でも 2 時期にわたって埋められていたと思われ、覆土上層は泥岩粒・砂質凝灰岩・玉石を用い堅く締まっていた。遺構覆土は褐色砂質土。泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

### ・出土遺物 (図 8)

45 はかわらけ。46 は青磁碗。47 は青磁皿。48～49 は渥美壺。その他にかかわらけ・常滑甕・貝が破片で出土している。

### ・第 1 面面上出土遺物 (図 9)

第 1 面精査時に採集した遺物である。1～8 はかわらけ。9～10 は白磁口元皿。11 は瀬戸入子。12 は瀬戸折縁深皿。13 は山茶碗。14 は備前播鉢。15～16 は常滑片口鉢 I 類。17 は常滑片口鉢 II 類。18 は常滑甕。19 は滑石鍋転用品。20 は石製品砥石。21～30 は鉄製品釘。31 は銭。

### ・第 1 面構成土出土遺物 (図 10)

第 1 面検出後、第 2 面までの堆積層内で採集した遺物である。1～2 は白磁口元皿。3 は白磁合子。4～5 は常滑片口鉢 I 類。6～9 は常滑甕。10 は土製品土垂。11 は銭。12～13 は鉄製品釘。14 は石製品用途不明。

## 2. 第 2 面の遺構と遺物 (図 4・図 11～図 17)

第 1 面と第 2 面に分けて報告したが、同一面上で発見した遺構を、それぞれの切り合いで 2 枚の生活面に分けて報告している。第 2 面で発見した竪穴建物は短期間に造り替えが行われた様子が窺え、切りあい、覆土の観察から少なくとも 2 時期の遺構であったと考えているが、上層の遺構、堆積層によって大きく削平を受けていたために遺存状態は悪い。発見した遺構は土坑 3 基・ピット 3 穴・竪穴建物 1 3 軒である。

### ・遺構 13 (図 11)

調査区外に遺構が延び規模は不明となった。竪穴建物である。遺構底面には黄褐色砂が敷き詰められたように堆積し、根太の痕跡が薄く残っていた。遺構覆土は暗灰色砂質土。泥岩粒・炭化物・貝砂・黄褐色砂を含む。

### ・出土遺物 (図 11)

1～10 はかわらけ。11 は青磁皿。12～14 は青磁碗。15 は山茶碗。16～17 は山皿。18 は常滑片口鉢 I 類。19 は常滑片口鉢 II 類。20～24 は常滑甕。25～27 は鉄製品釘。28 は銭。図示したかわらけは 10 点だが、破片でかわらけ (大) 53・(小) 15・手づくね (大) 11・(小) 3 が出土している。その他に青磁鎬蓮弁文碗・青磁劃花文碗・青磁碗・青磁櫛搔文皿・青磁皿・白磁口元皿・青白磁皿・常滑甕 (85 個)・常滑壺・常滑片口鉢 I 類・渥美器種不明・山茶碗・山皿・瓦器質火鉢・鉄製品釘・鉄滓・銭・骨・貝・果核が破片で出土している

### ・遺構 16 (図 11)

遺構 18 に切られ、調査区外に遺構が延びているために規模は不明になった。竪穴建物である。遺構覆土は暗灰色砂質土。泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。

### ・出土遺物 (図 11)

29 はかわらけ。30 は常滑片口鉢 I 類。31 は常滑甕。32 は骨製品筭。その他にかかわらけ・常滑甕・

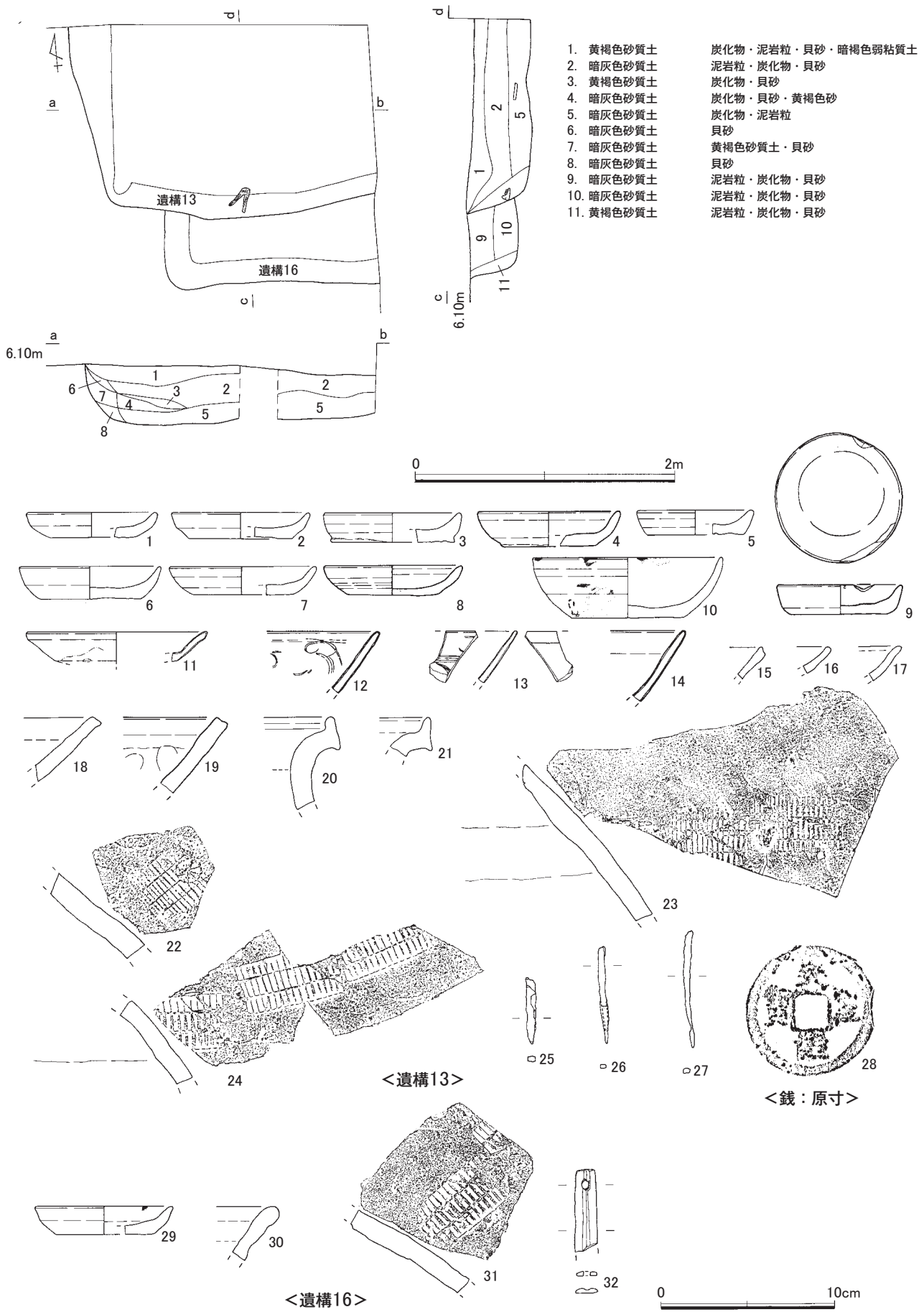


圖 11 第 2 面 遺構 13・遺構 16

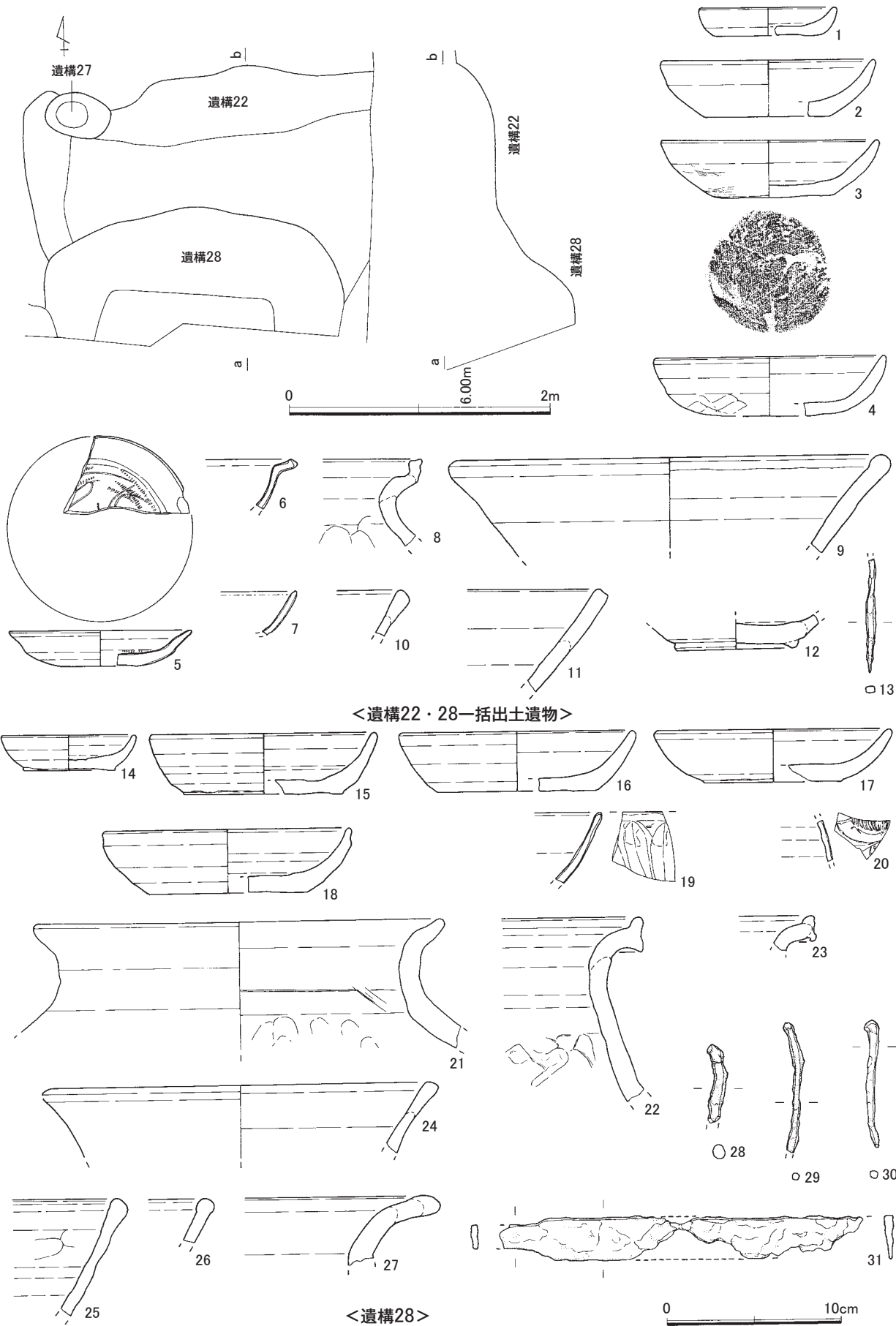


図12 第2面 遺構22・遺構28



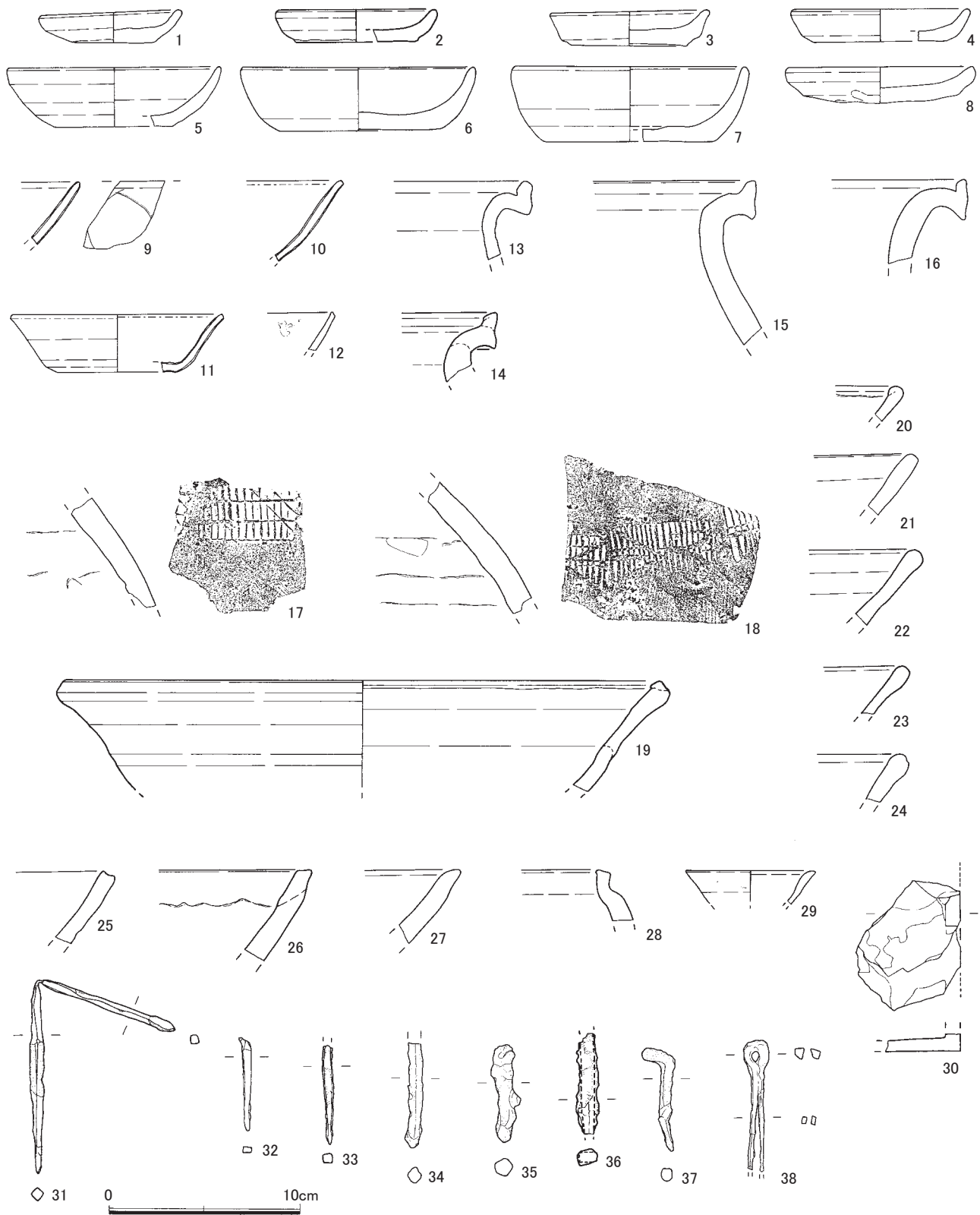


図 13 第 2 面 遺構 22 出土遺物

白磁器種不明・常滑片口鉢 I 類・鉄製品釘・貝が破片で出土している。

・遺構 22 (図 12・図 13)

遺構 27・28 に切れ、調査区外に遺構が延びているために規模は不明となった。竪穴建物である。遺構覆土は暗灰色砂質土。泥岩粒・炭化物・貝砂を含み、多量の黄灰色砂が混入する。また、覆土

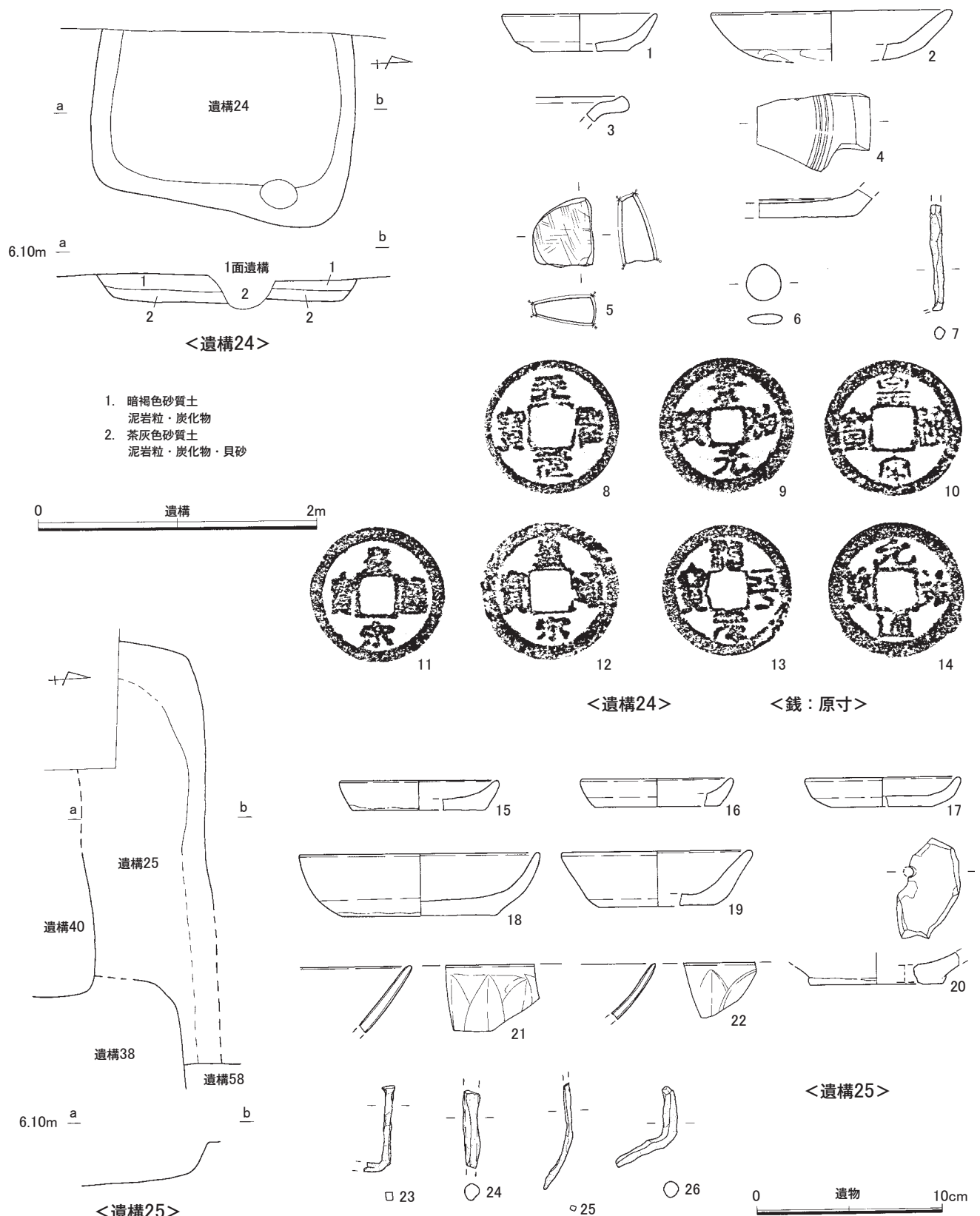


図14 第2面 遺構24・遺構25

内にはカキ・ダンベイキサゴ・ハマグリ・サザエ等の貝類が多く混入し、貝溜りの様相を呈していた。貝の他には中世遺物・炭・獣骨・魚骨が確認され、貝同様に獣骨の出土も多い。すべて一括して廃棄したようである。

#### ・出土遺物 (図 13)

1～7 はかわらけ。8 は手づくね。9 は青磁鎬蓮弁文碗。10 は白磁口兀碗。11 は白磁口兀皿。12 は瀬戸入子。13～18 は常滑甕。19～24 は常滑片口鉢Ⅰ類。25～26 は常滑片口鉢Ⅱ類。27 は渥美片口鉢。28 は渥美片口碗。29 は黒縁瓦器皿。30 は滑石製品硯。31 は鉄製品箸状。32～37 は鉄製品釘。38 は鉄製品用途不明か。その他にかわらけ・手づくね・青磁碗・常滑甕・瓦器質火鉢が破片で出土している。

#### ・遺構 24 (図 14)

方形を呈する土坑である。第1面で発見した遺構 23 に切られる。遺構覆土は暗灰色砂質土。泥岩粒・貝砂・多量の炭化物を含む。遺存状態が悪く、検出・採集することは出来なかったが、井戸枠あるいは柱と考えられる木材が覆土内に混入していた。出土遺物で報告した銭は重なり、まとまって出土している。やや小型の竪穴建物であった可能性もある。

#### ・出土遺物 (図 14)

1 はかわらけ。2 は手づくね。3・4 は瀬戸折縁深皿。5 は石製品用途不明。6 は石製品基石。7 は鉄製品釘。8～14 は銭。その他にかわらけ・手づくね・青磁鉢・獣骨が破片で出土している。

#### ・遺構 25 (図 14)

上層の遺構に大きく削平を受け、遺構 38・40・58・試掘坑に切られており規模は不明となった。竪穴建物である。遺構覆土は暗灰褐色砂質土。泥岩粒・炭化物を含む。

#### ・出土遺物 (図 14)

15～20 はかわらけ。21・22 は青磁鎬蓮弁文碗。23～26 は鉄製品釘。その他にかわらけ・手づくね・青磁鉢・白磁碗・瀬戸折縁鉢・瀬戸入子・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・鉄製品釘・貝・獣骨が破片で出土している。

#### ・遺構 27 (図 16)

遺構 22・遺構 39 を切る。ピットである。遺構覆土は灰褐色砂質土。泥岩粒を含む。遺物はかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

#### ・遺構 28 (図 12)

調査区外に遺構が延び規模は不明となった。遺構 22 を切る。土坑である。遺構覆土は灰色砂質土。炭化物・貝砂・黄褐色砂を含む。覆土内に不整形な砂質凝灰岩が数点混入していた。

#### ・出土遺物 (図 12)

遺構発見時は1軒の竪穴建物と認識して調査を進めたが、検出途中で堆積土層の観察から竪穴建物と土坑に分かれることを確認したため、遺物のうち数点は遺構 28 と前述した遺構 22 の遺物を一括して採集している。

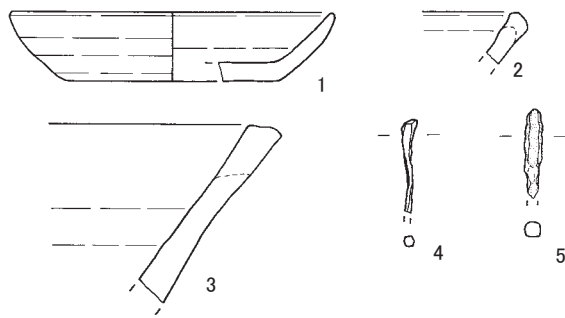
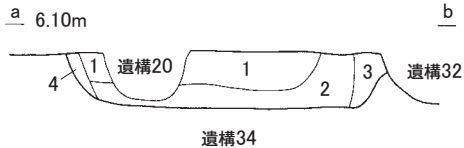
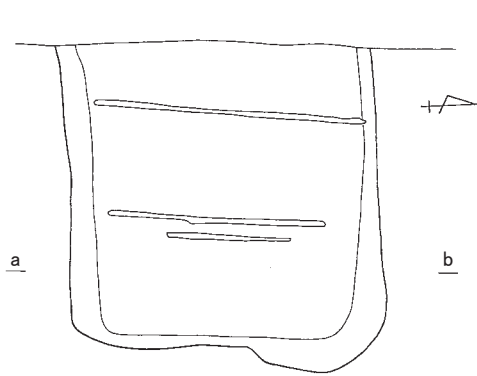
1～13 は遺構 22・遺構 28 一括採集遺物である。1～3 はかわらけ。4 は手づくね。5 は青磁櫛搔文皿。6 は青磁折縁皿。7 は白磁口兀皿。8 は常滑甕。9・10 は常滑片口鉢Ⅰ類。11 は常滑片口鉢Ⅱ類。12 は山茶碗。13 は鉄製品釘。14～31 は遺構 28 出土遺物である。14～18 はかわらけ。19 は青磁鎬蓮弁文碗。20 は青白磁梅瓶。21 は常滑広口壺。22・23 は常滑甕。24～26 は常滑片口鉢Ⅰ類。27 は渥美甕。28～30 は鉄製品釘。31 は鉄製品刀子。その他にかわらけ・手づくね・常滑片口鉢Ⅱ類・貝・獣骨が破片で出土している。

#### ・遺構 34 (図 16)

遺構 24 に切られる。遺構底面に薄くではあるが根太の木質が遺存していた。遺構 24 と同様に小型

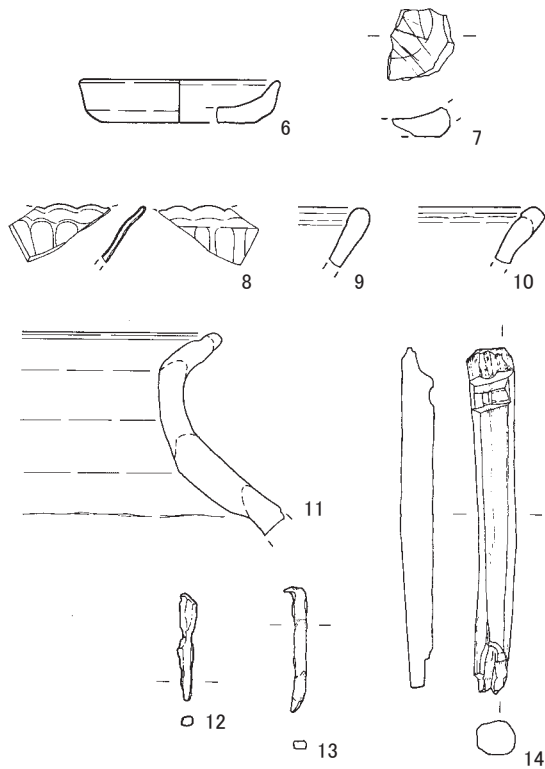
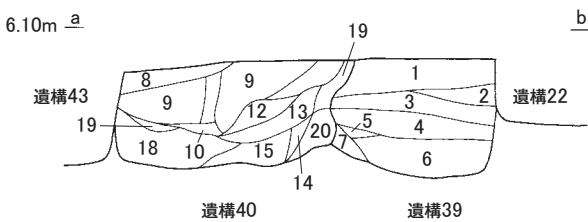
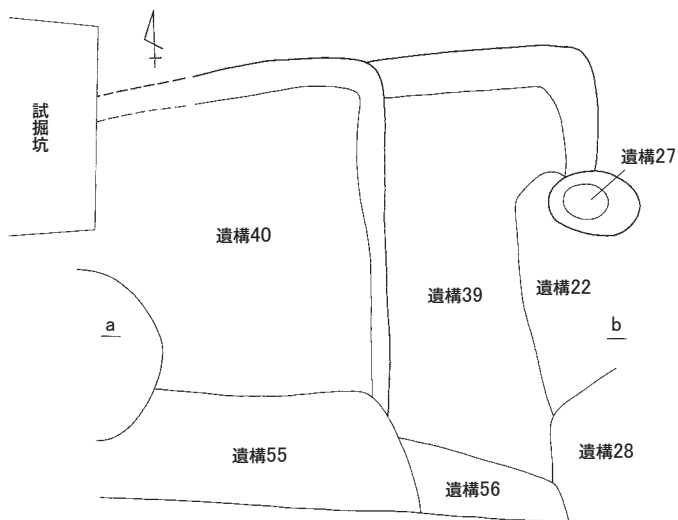






- 1. 茶灰色砂質土  
泥岩粒・炭化物・貝砂
- 2. 茶灰色砂質土  
泥岩・泥岩粒・炭化物・貝砂
- 3. 褐色砂質土  
泥岩・炭化物・貝砂
- 4. 褐色砂質土  
泥岩・泥岩粒・炭化物

〈遺構34〉



- |                             |                             |
|-----------------------------|-----------------------------|
| 1. 暗褐色砂質土<br>炭化物・泥岩粒・貝砂     | 11. 暗褐色砂質土<br>炭化物・泥岩・泥岩粒・貝砂 |
| 2. 暗褐色砂質土<br>泥岩・泥岩粒・炭化物・貝砂  | 12. 暗褐色砂質土<br>炭化物・貝砂        |
| 3. 暗褐色砂質土<br>炭化物・泥岩・貝砂      | 13. 暗褐色砂質土<br>炭化物・貝砂        |
| 4. 暗褐色砂質土<br>炭化物・泥岩・貝砂・黃褐色砂 | 14. 暗褐色砂質土<br>炭化物・貝砂        |
| 5. 褐色砂質土<br>褐色粘土・貝砂         | 15. 暗褐色砂質土<br>炭化物・泥岩・泥岩粒・貝砂 |
| 6. 暗褐色砂質土<br>炭化物・泥岩・貝砂・褐色粘土 | 16. 黑褐色砂質土<br>炭化物           |
| 7. 暗褐色砂質土<br>炭化物・泥岩・貝砂      | 17. 暗褐色砂質土<br>炭化物・泥岩粒       |
| 8. 暗褐色砂質土<br>灰褐色粘質土・炭化物     | 18. 褐色砂質土<br>泥岩粒・炭化物・貝砂     |
| 9. 暗褐色砂質土<br>炭化物・灰・泥岩粒・貝砂   | 19. 暗褐色砂質土<br>泥岩・泥岩粒・炭化物・貝砂 |
| 10. 暗褐色砂質土<br>炭化物・泥岩粒・貝砂    | 20. 暗褐色砂質土<br>炭化物・泥岩粒・貝砂    |

〈遺構39・40〉

図 16 第 2 面 遺構 27・遺構 34・遺構 39・遺構 40

の竪穴建物であった可能性を考えている。遺構覆土は褐色砂質土。泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。掘り方部分は泥岩粒・泥岩を多く含み、固く締まっていた。

・出土遺物 (図 16)

1 はかわらけ。2 は常滑片口鉢 I 類。3 は常滑片口鉢 II 類。4・5 は鉄製品釘。その他にかわらけ・常滑甕・鉄製品釘が破片で出土している。

・遺構 38 (図 15)

遺構 38 は遺構 13・39・40 に切られるが遺構の立ち上がりが一部遺存していた。竪穴建物であったと考えている。遺構覆土は暗褐色砂質土。泥岩粒・炭化物・褐色粘土粒・黄褐色砂を含む。

・出土遺物 (図 15)

遺構プラン確認時は後述する遺構 39 と合わせて一つの遺構と考えて掘り進んだ為、採集遺物が一部混乱してしまい、遺構 38・遺構 39 一括遺物と、それぞれの遺構に所属する遺物に分けて提示した。

1～15 は遺構 38・遺構 39 一括出土遺物である。1～3 はかわらけ。4 は白かわらけ。5 は青磁鉢。6～10 は常滑甕。11 は常滑甕加工品。12 は銭。13～15 は鉄製品釘。16・17 は遺構 38 出土。16 はかわらけ。17 は山茶碗。その他に手づくね・常滑甕・山皿・貝が破片で出土している。

・遺構 39 (図 15・図 16)

遺構 40 に切られる。竪穴建物である。遺構覆土は暗褐色砂質土。泥岩・泥岩粒・炭化物・褐色砂・褐色粘土を含み、黄褐色砂が筋状に堆積する。

・出土遺物 (図 15)

18～20 はかわらけ。21 は常滑甕。22 は土製品土錘。23 はチャート。24～26 は鉄製品釘。その他に手づくね・青磁櫛搔文碗・常滑片口鉢 I 類・渥美甕・獣骨が破片で出土している。

・遺構 40 (図 16)

遺構 55 に切れ、遺構 39 を切る。竪穴建物である。遺構覆土は暗褐色砂質土。泥岩粒・貝砂・炭化物を多量に含む。

・出土遺物 (図 16)

6・7 はかわらけ。7 は小片ではあるが内底に線刻が残る。8 は青白磁坏。9・10 は常滑片口鉢 I 類。11 は常滑壺。12・13 は鉄製品釘・14 は加工骨用途不明。その他にかわらけ・手づくねが破片で出土している。

・遺構 45 (図 15)

遺構 19 に切れ調査区外に遺構が延びているために規模は不明となった。円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗灰色砂質土。炭化物・貝砂・褐色粘土を含む。

・出土遺物 (図 15)

27 は常滑片口鉢 I 類。28 は常滑壺。29 は鉄製品釘。その他にかわらけ・瀬戸皿・瀬戸折縁深皿・常滑甕が破片で出土している。

・遺構 66 (図 4)

上層の遺構によって大きく削平を受けていたため個別に図示はしていない。楕円形を呈するピットである。遺構覆土は暗褐色砂質土。炭化物・褐色有機質土・黄褐色砂を含む。遺構底面に二枚の板材が遺存していた。礎板であったと考えている。遺物はかわらけ・手づくね・青磁櫛搔文皿が破片で出土している。

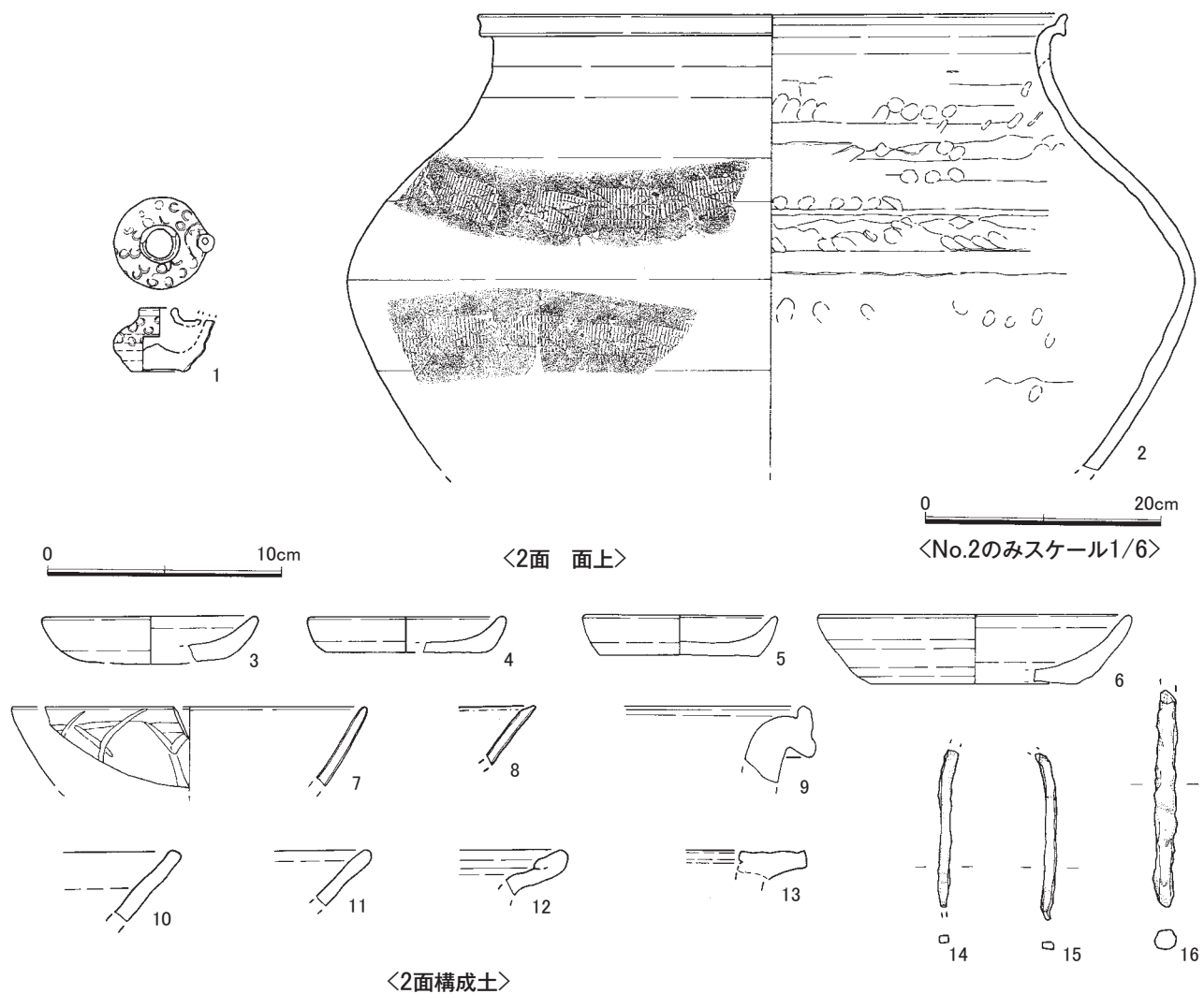


図 17 第 2 面 面上・構成土出土遺物

・第 2 面面上出土遺物 (図 17)

第 2 面精査時に採集した遺物である。1 は瀬戸水注。2 は常滑甕。

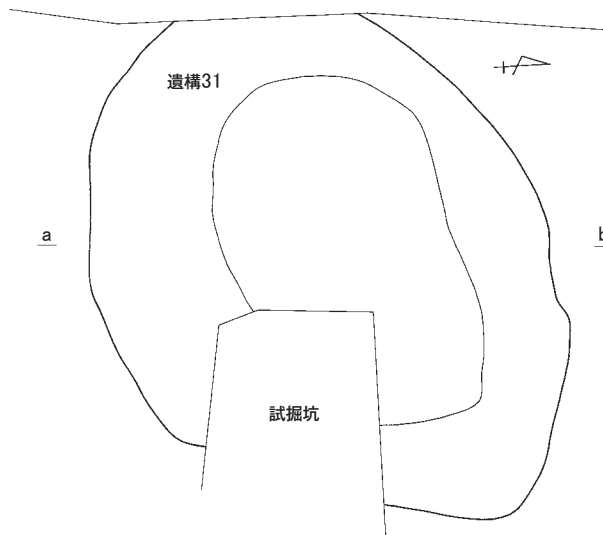
・第 2 面構成土出土遺物 (図 17)

第 2 面検出後、第 3 面までの堆積層内で採集した遺物である。3 は手づくね。4～6 はかわらけ。7 は青磁鎬蓮弁文碗。8 は白磁口元皿。9 は常滑甕。10 は常滑片口鉢 I 類。11 は山茶碗。12 は伊勢系土鍋。13 は産地不明・鍔釜・珍しい器形である。14～16 は鉄製品釘。

3. 第 3 面の遺構と遺物 (図 5・図 18～図 25)

第 2 面では調査区全体に竪穴建物が発見されたが、第 3 面では土坑・ピットが発見され調査地の様相が一変する。発見した遺構は調査区の西側に集中し東側はやや空閑地が広がるようである。礎板を伴うピットや、柱材であった可能性のある有機質土を含むピットなどを数穴確認しているが、上層の遺構によって削平を受けていたためか建物址を推定することは出来なかった。覆土・切りあいから 3 時期の遺構が確認できた。第 3 面で発見した遺構は土坑 14 基・ピット 24 穴・竪穴建物 2 軒・井戸 1 基である。

・遺構 31 (図 18・図 19)



1. 黑色砂質土  
泥岩·泥岩粒·炭化物·貝砂
2. 茶灰色砂質土  
炭化物·貝砂
3. 灰色砂質土  
泥岩粒·炭化物·貝砂
4. 灰色砂質土  
泥岩·炭化物·黃褐色砂
5. 灰色砂質土  
泥岩粒·炭化物
6. 灰色砂質土  
泥岩粒
7. 明灰色砂質土  
炭化物·貝砂

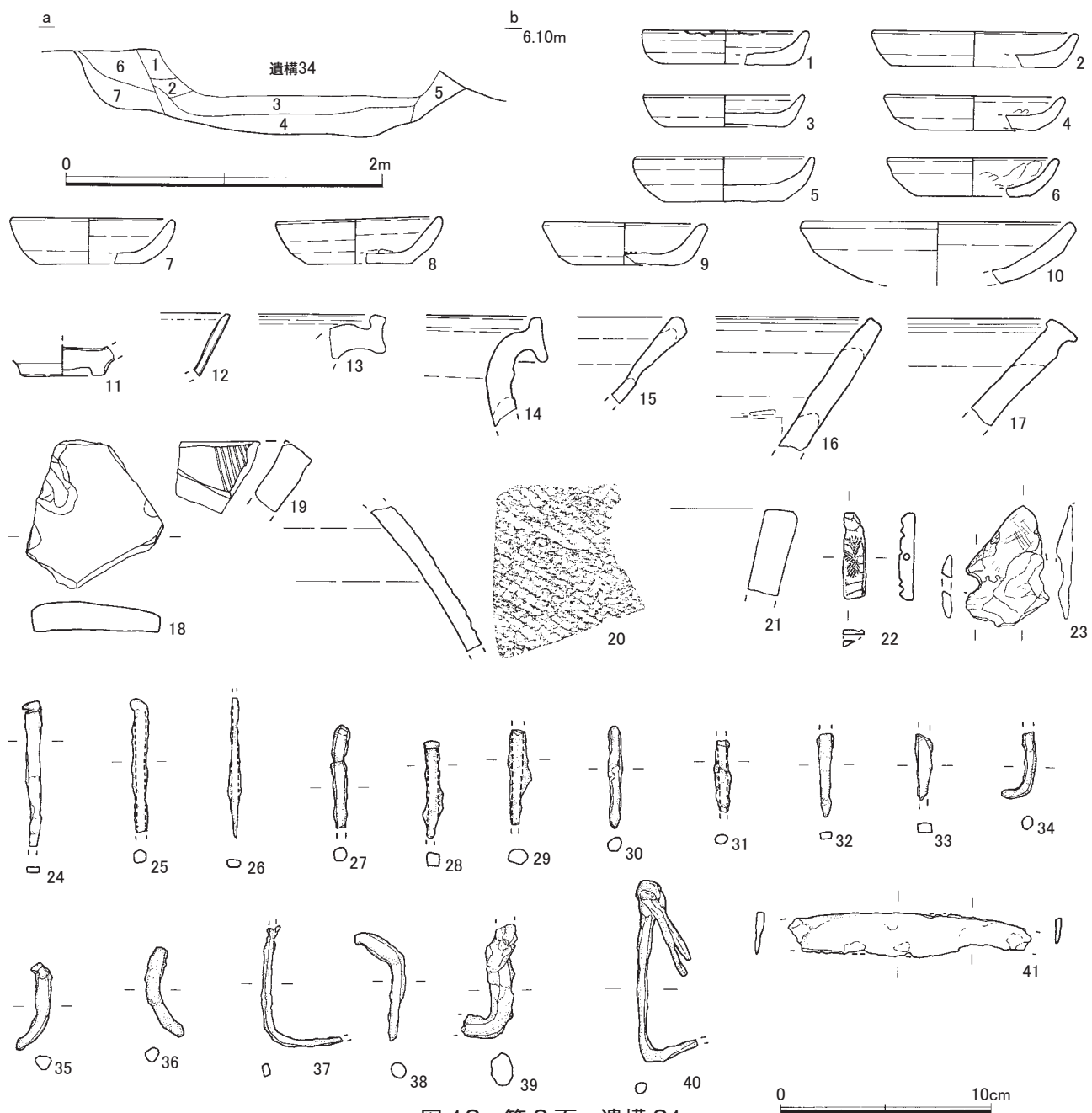


圖 18 第 3 面 遺構 31



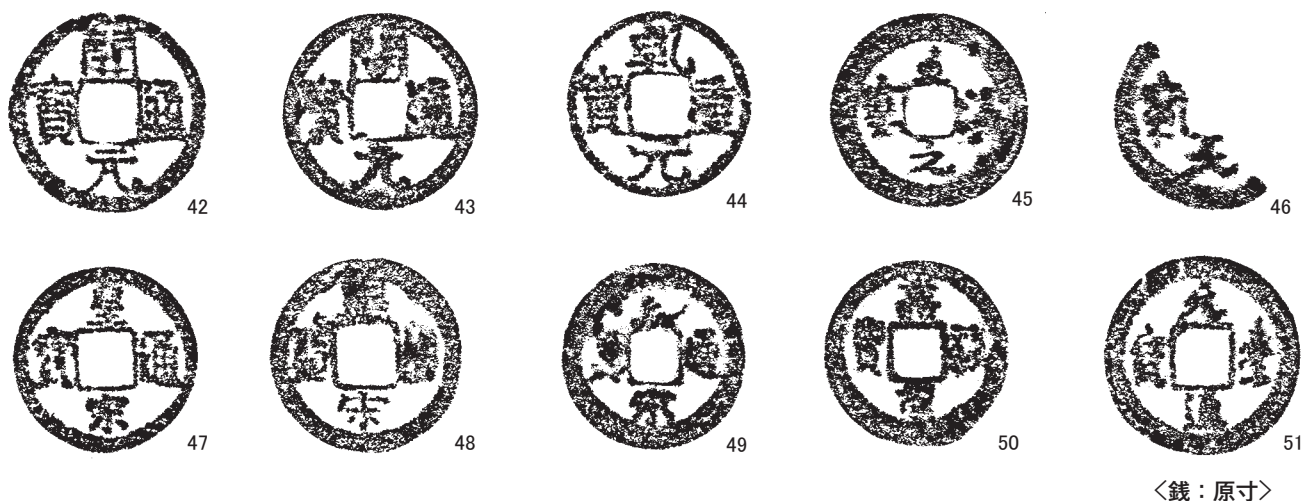


図 19 第 3 面遺構 31 出土遺物

円形を呈する土坑であるが、遺構側面に掘り方が遺存し、褐色粘土を含む堆積層が直立して立ち上がる等から、同位置で検出した第 2 面の遺構 24・遺構 34 同様に小型の竪穴建物であった可能性を考えている。遺構覆土は灰色砂質土。泥岩粒・炭化物・褐色粘土・黄褐色砂を含み、貝が多量に混入していた。

・出土遺物 (図 18・図 19)

1～9 はかわらけ。10 は手づくね。11 は青磁碗。12 は白磁口元皿。13・14 は常滑甕。15 は常滑片口鉢 I 類。16・17 は常滑片口鉢 II 類。18 は常滑甕加工品。19 は備前播鉢。20 は亀山甕。21 は瓦器質火鉢。22・23 は滑石鍋加工品。24～39 は鉄製品釘。40 は鉄製品掛け金具。41 は鉄製品刀子。42～51 は銭。

・遺構 35 (図 23)

調査区外に遺構が延び規模は不明。土坑である。遺構覆土は褐色砂質土。炭化物・貝砂・褐色粘土・黄褐色砂を含む。遺物は出土していない。

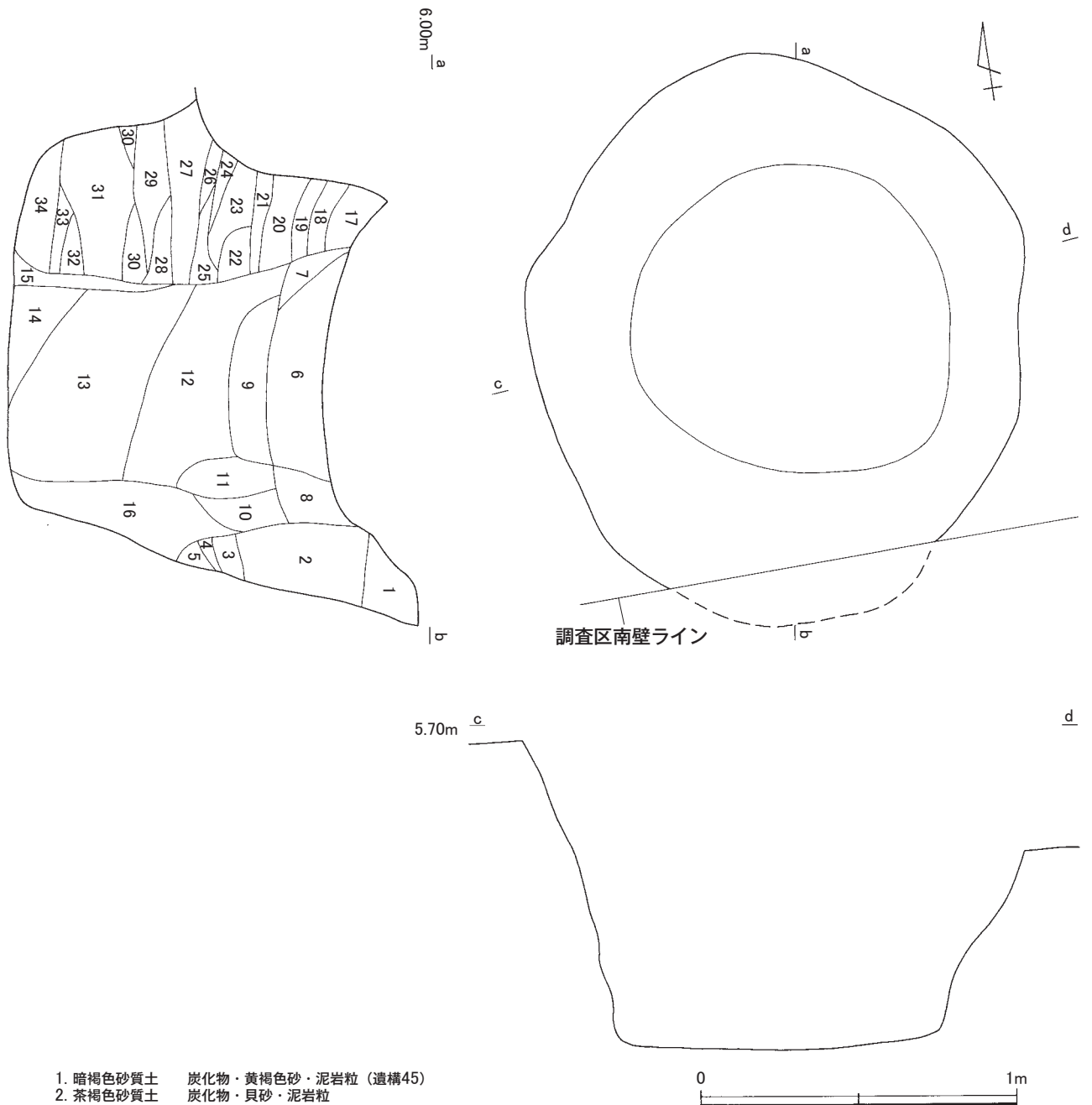
・遺構 44 (図 20・図 21)

遺構 63 に切られ、調査区外に遺構が延びていた。井戸である。掘り方を含めて遺構を検出してしまったが、土層堆積の状況から 1 辺約 65 cm のやや小型の井戸であったことが分かった。また遺構覆土内には大量の褐色粘土が混入し、底面上部の堆積土には意図的に粘土を混ぜて底面を補強した痕跡が残る。遺構覆土は土層堆積図を参照していただきたい (図 20)

・出土遺物 (図 21)

採集遺物は、井戸覆土内上層と下層・掘り方と共に、遺構内一括に分けて報告している。

- ・ 1～9 は一括出土遺物である。1 は手づくね。2 は青磁碗。3 は瀬戸卸皿。4 は縁釉小皿。5 は瀬戸瓶子。6 は瀬戸播鉢。7 は産地不明壺。8 は渥美片口鉢。9 は石製品砥石。
- ・ 10～13 は上層出土遺物である。10 は手づくね。11・12 は常滑片口鉢 I 類。13 は銭。
- ・ 14～20 は下層出土遺物である。14～16 はかわらけ。17 は瀬戸折縁皿。18 は常滑壺。19 は鉄滓。20 は土器質鏝釜。
- ・ 21～23 は掘り方出土遺物である。21・22 はかわらけ。23 は瀬戸折縁深皿。



- |             |                     |            |             |
|-------------|---------------------|------------|-------------|
| 1. 暗褐色砂質土   | 炭化物・黄褐色砂・泥岩粒 (遺構45) | 24. 黄褐色砂   | 貝砂          |
| 2. 茶褐色砂質土   | 炭化物・貝砂・泥岩粒          | 25. 灰色粘土   | 炭化物         |
| 3. 黄褐色砂     |                     | 26. 暗褐色砂質土 | 炭化物         |
| 4. 灰色粘土     |                     | 27. 黒色弱粘質土 | 炭化物・貝砂・褐鉄   |
| 5. 黄褐色砂     |                     | 28. 灰色粘土   | 黄褐色砂・炭化物    |
| 6. 暗褐色砂質土   | 炭化物・黄褐色砂・泥岩粒 (遺構44) | 29. 黄褐色砂   | 泥岩粒・褐色有機質土  |
| 7. 暗褐色砂質土   | 灰色粘土・黄茶褐色砂・泥岩粒      | 30. 灰色粘土   | 泥岩粒・炭化物     |
| 8. 暗褐色弱粘質土  | 灰色粘土・泥岩・泥岩粒         | 31. 黄褐色砂   | 泥岩粒・褐色有機質土  |
| 9. 暗褐色砂質土   | 炭化物・黄褐色砂・泥岩粒・褐色粘土   | 32. 灰色粘土   |             |
| 10. 暗褐色弱粘質土 | 灰色粘土・泥岩粒            | 33. 黒色弱粘質土 | 炭化物・褐色有機質土  |
| 11. 暗褐色弱粘質土 | 灰色粘土・泥岩粒・褐色砂質土      | 34. 黒色弱粘質土 | 黄褐色砂・褐色有機質土 |
| 12. 暗褐色砂質土  | 炭化物・褐色粘土・泥岩・暗褐色弱粘質土 |            |             |
| 13. 暗褐色砂質土  | 炭化物・褐色粘土・泥岩・褐色有機質土  |            |             |
| 14. 黄褐色砂    | 褐色有機質土・褐色粘土         |            |             |
| 15. 灰色粘土    | 泥岩粒                 |            |             |
| 16. 灰色粘土    | 炭化物・泥岩・泥岩           |            |             |
| 17. 茶褐色砂質土  | 炭化物・泥岩粒・泥岩          |            |             |
| 18. 茶色砂質土   | 貝砂                  |            |             |
| 19. 茶褐色砂質土  | 炭化物・黄茶褐色砂・泥岩粒       |            |             |
| 20. 灰色粘土    | 泥岩粒・黄茶褐色砂・炭化物       |            |             |
| 21. 暗褐色砂    | 灰色粘土                |            |             |
| 22. 灰色粘土    | 炭化物・泥岩粒・泥岩          |            |             |
| 23. 暗褐色砂    | 褐色有機質土              |            |             |

図 20 第 3 面 遺構 44

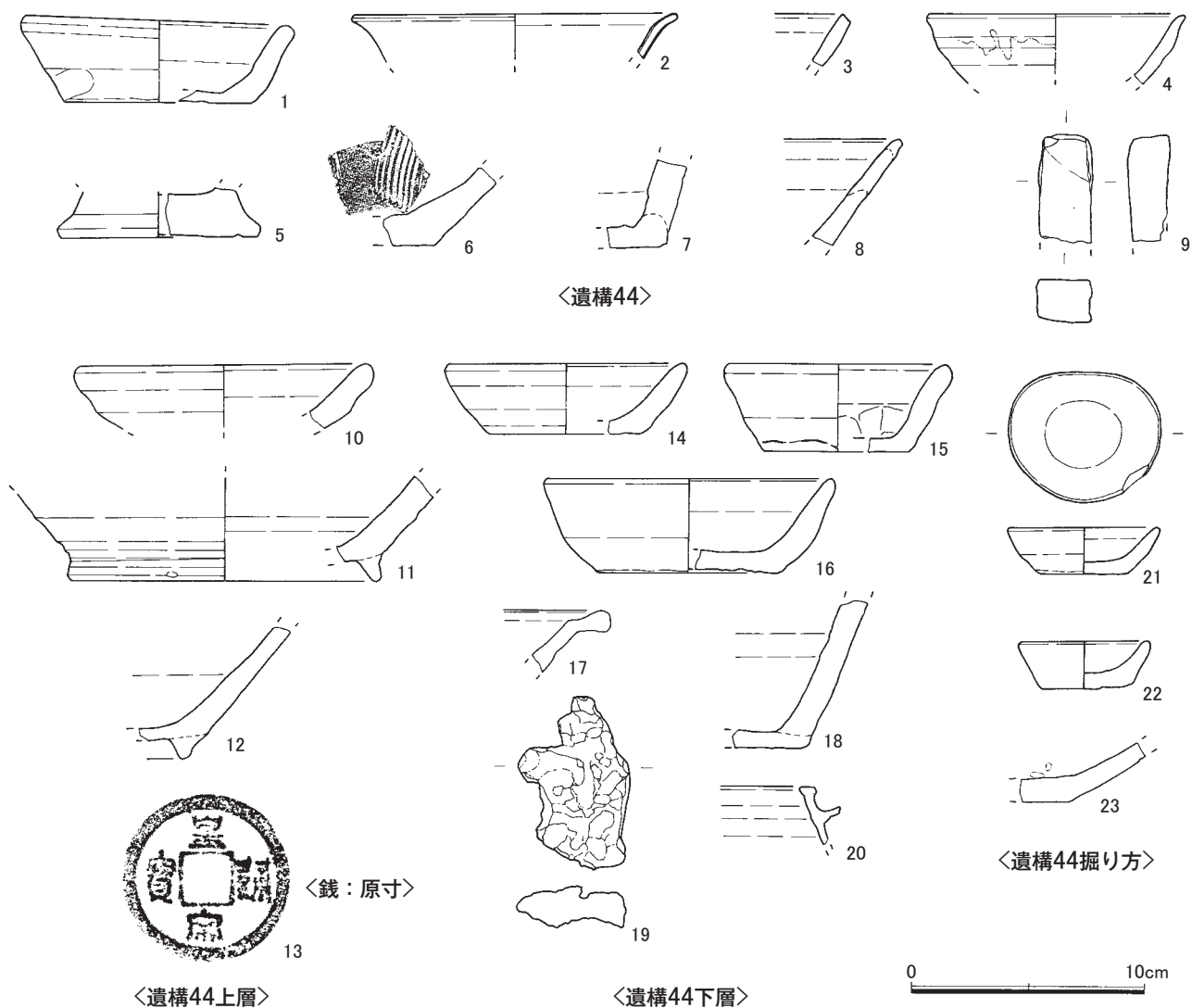


図 21 第 3 面 遺構 44 出土遺物

その他に常滑甕・貝が破片で出土している。

・遺構 46 (図 5・図 24)

個別に図示はしていない。遺構 31 に大きく切られ、調査区外に遺構が延びてしまっているために規模・形状は不明となった。遺構覆土は暗褐色砂質土。炭化物・貝砂・褐色有機質土を含む。

・出土遺物 (図 24)

1・2 はかわらけ。3・4 は青磁碗。5～7 は鉄製品釘。その他に常滑甕・貝が破片で出土している。

・遺構 50 (図 5・図 24)

遺構 46 同様に、遺構 31 に大きく切られ、調査区外に遺構が延びてしまっているために規模・形状は不明となった。遺構の形状から遺構 46 と同一遺構として考えると竪穴建物であった可能性もある。遺構覆土は暗褐色砂質土。泥岩・泥岩粒・褐色粘土・貝砂・炭化物を多く含む。

・出土遺物 (図 24)

8 はかわらけ。9 は白磁口兀碗。10 は青白磁合子蓋。11 は常滑片口鉢Ⅱ類。12 は常滑甕。13 は東幡系鉢。14・15 は石製品砥石。16・17 は鉄製品釘。その他に青白磁梅瓶・瀬戸壺・渥美甕・獣骨・貝が破片で出土している。

・遺構 53 (図 22)

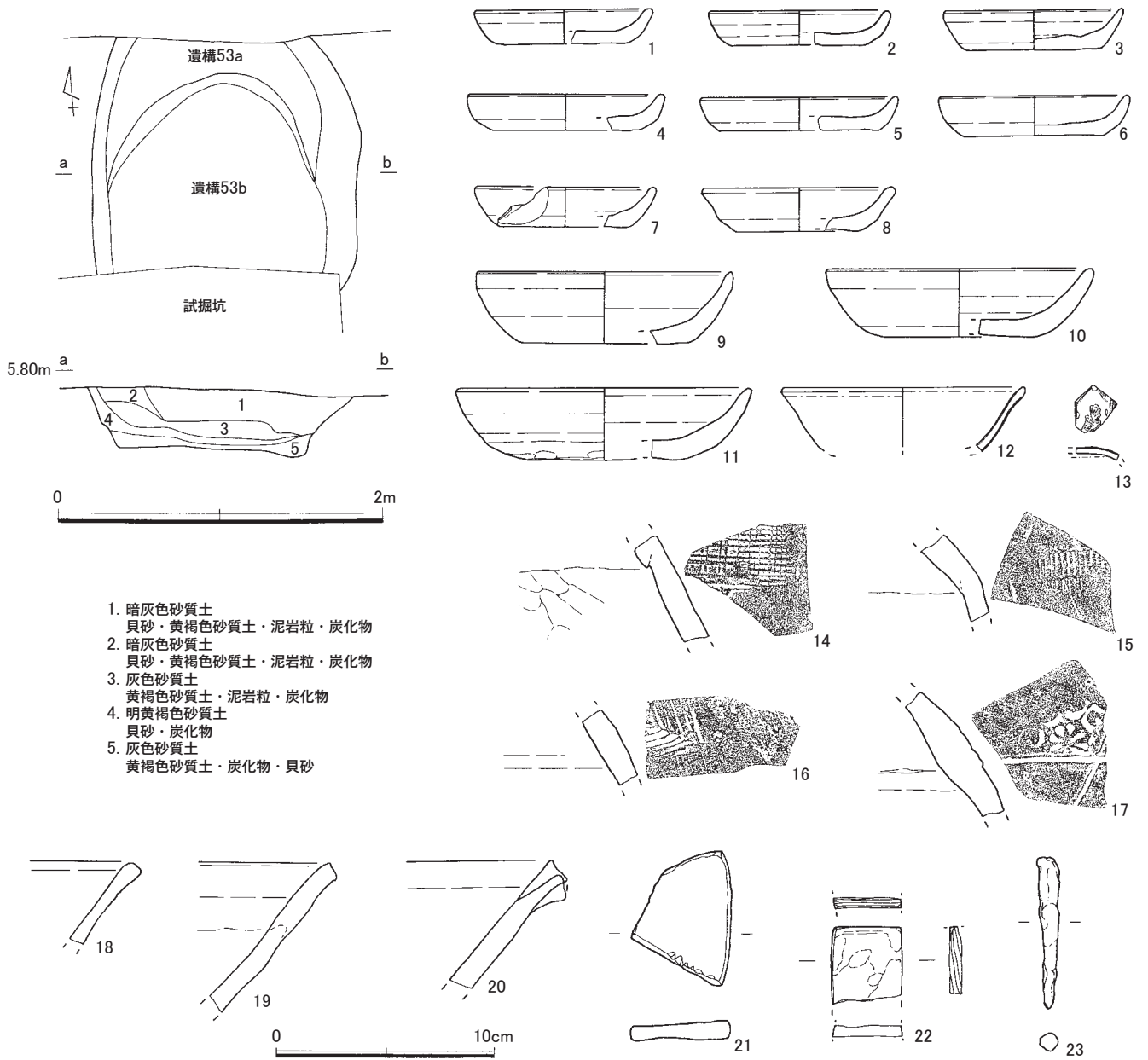


図22 第3面 遺構53

円形を呈する土坑である。遺構プラン確認時には一つの遺構であると考えて調査を進めたが、同位置、上下に二つの土坑が重なり合っていた事を堆積土の観察から確認した。遺構53 aの遺構覆土は暗黄褐色砂質土。炭化物・貝砂を含む。遺構53 bの遺構覆土は暗灰色砂質土。泥岩粒・炭化物・貝砂・黄褐色砂質土を含む。

・出土遺物 (図22)

遺構53の遺物はa・bを一括して採集している。1～10はかわらけ。11は手づくね。12は白磁口兀皿。13は青白磁合子蓋。14～17は常滑甕。18～20は常滑片口鉢Ⅱ類。21は常滑甕加工品。22は石製品砥石。23は鉄製品釘。その他に青磁劃花文碗・常滑壺・常滑片口鉢Ⅰ類・渥美器種不明・チャート・貝・獣骨が破片で出土している。

・遺構57 (図23・図24)

調査区外に遺構が延び規模は不明となった。竪穴建物であったと考えている。遺構覆土は茶褐色砂



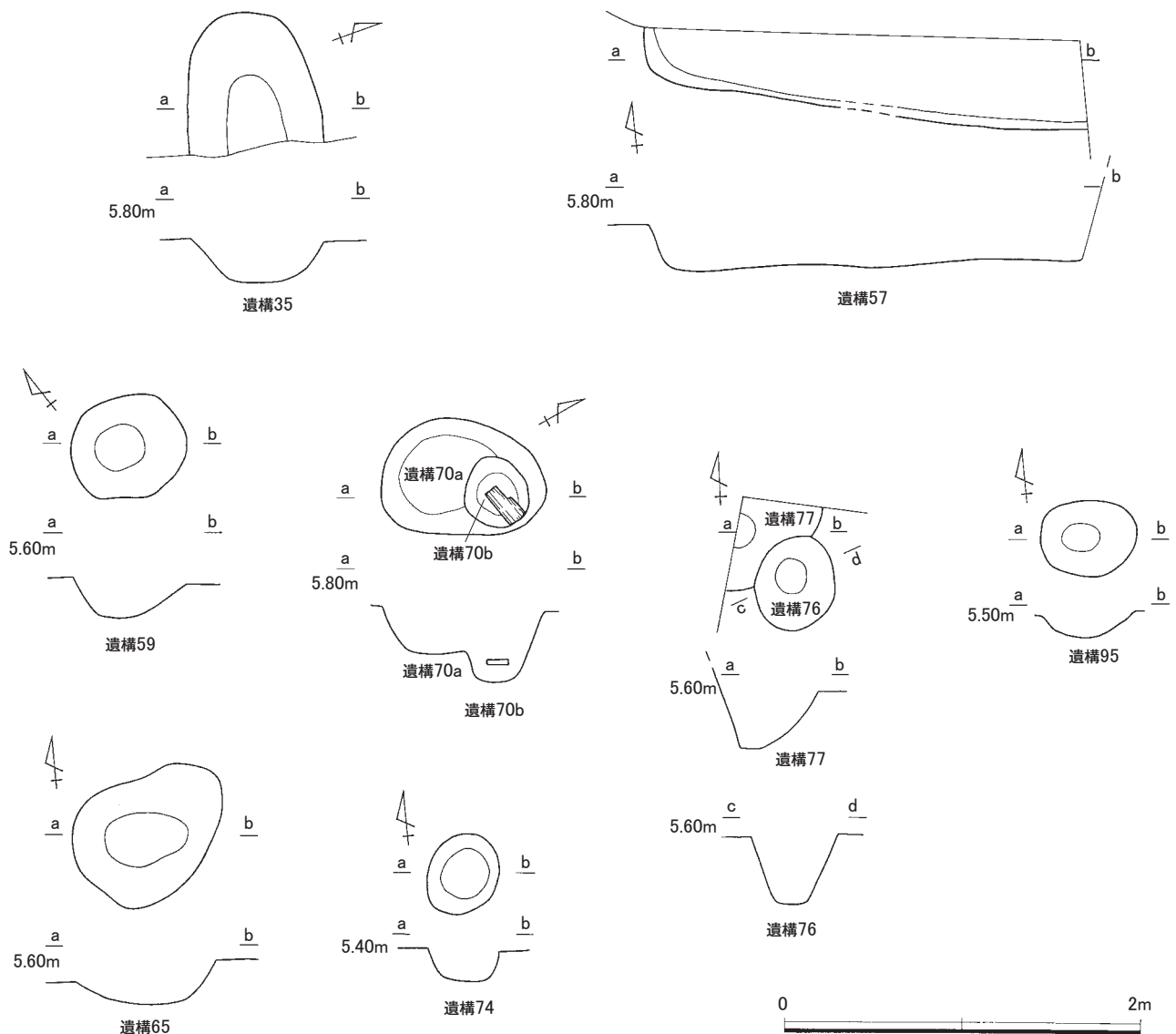


図 23 第 3 面個別遺構 (遺構 35・57・59・65・70a・70b・74・76・77・95)

質土。炭化物・泥岩粒・貝砂を含む。

・出土遺物 (図 24)

18 は青磁皿。19 は常滑甕。20 は常滑壺。21 は山茶碗。22 は鉄製品、刀子か。23 は須恵器甕。その他に青磁碗・渥美壺・瀬戸器種不明・貝・骨が破片で出土している。

・遺構 59 (図 23・図 24)

円形を呈する土坑である。遺構覆土は茶褐色砂質土。炭化物・貝砂・黄褐色砂を含む。

・出土遺物 (図 24)

24 は青磁鎚蓮弁文碗。25 は青磁輪花碗。その他にかわらけ・手づくね・青磁劃花文碗・常滑甕・山茶碗・獣骨が破片で出土している。

・遺構 65 (図 23・図 24)

不正円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗褐色砂質土。泥岩・泥岩粒・炭化物を含む。

・出土遺物 (図 24)

26・27 はかわらけ。28 は手づくね。29・30 は常滑甕。31 は常滑片口鉢 I 類。32・33 は常滑片口鉢 II 類。34 は鉄製品釘。その他にかわらけ・常滑甕・渥美器種不明・鉄製品釘・貝が破片で出土している。

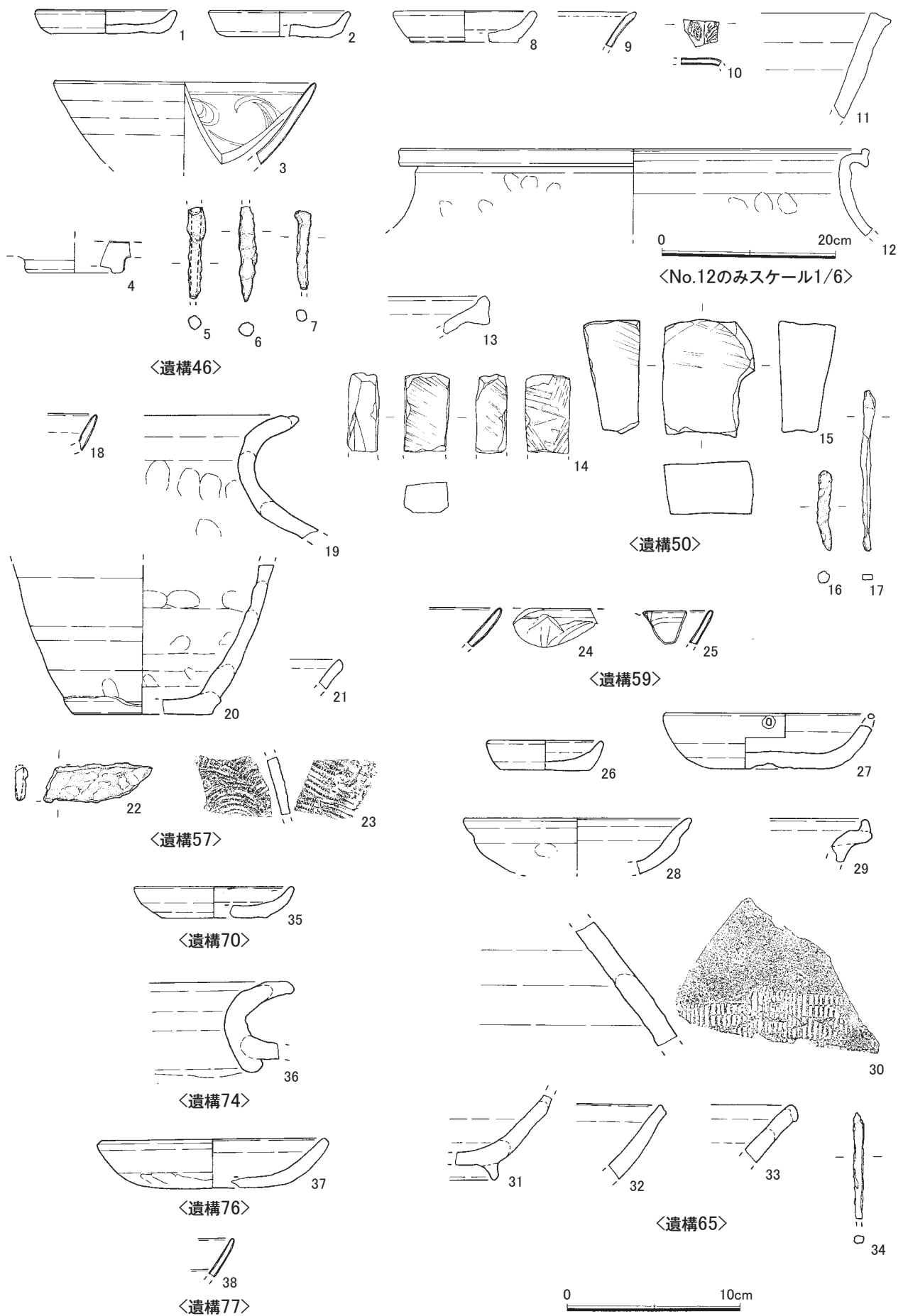


図24 第3面 遺構出土遺物 (遺構46・50・57・59・65・70・74・76・77)

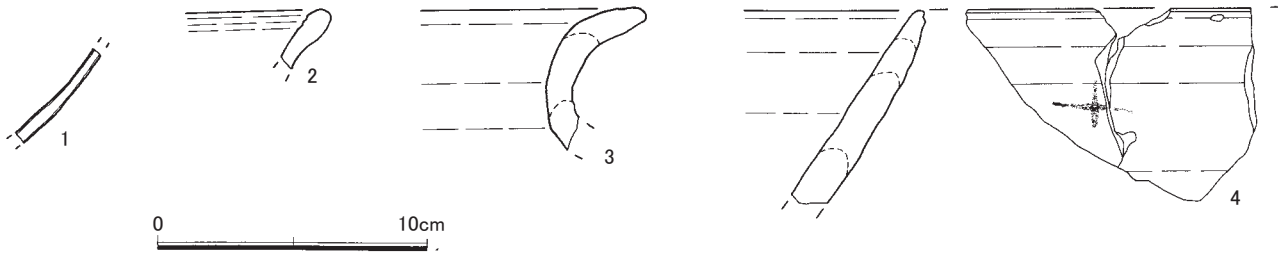


図 25 第 3 面構成土出土遺物

・遺構 68 (図 5)

個別に図示はしていない。不正円形を呈するピットである。遺構覆土は暗褐色砂質土。泥岩粒・炭化物・貝砂を含む。遺構底面に礎板状の木質が遺存していたが、腐食しており記録・採集することは出来なかった。遺物はかわらけ・手づくね・常滑甕・貝が破片で出土している。

・遺構 70 (図 23・図 24)

遺構プラン確認時には一つの土坑として調査を進めたが、堆積土層の確認から二つの遺構として分けている。遺構 70 a は遺構 70 b に切られる。遺構 70 a は楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗灰色砂質土。炭化物・貝砂を含む。遺構 70 b は礎板が遺構底面に遺存するピットである。遺構覆土は暗灰色砂質土。褐色有機質土・貝砂・黄褐色砂を含む。

・出土遺物 (図 24)

35 はかわらけ。その他に手づくね・常滑甕・貝・獣骨が破片で出土している。

・遺構 74 (図 23・図 24)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗灰色砂質土。泥岩粒・炭化物を含む。

・出土遺物 (図 24)

36 は渥美甕。その他に手づくねが破片で出土している。

・遺構 76 (図 23・図 24)

円形を呈するピットである。遺構覆土は褐色砂質土。貝砂・褐色有機質土を多く含む。

・出土遺物 (図 24)

37 は手づくね。その他にかわらけ・獣骨が破片で出土している。

・遺構 77 (図 23・図 24)

遺構 76 に切られ、調査区外に遺構が延びていたために規模は不明。土坑である。遺構覆土は褐色砂質土。黄褐色砂・貝砂・有機質土を含む。

・出土遺物 (図 24)

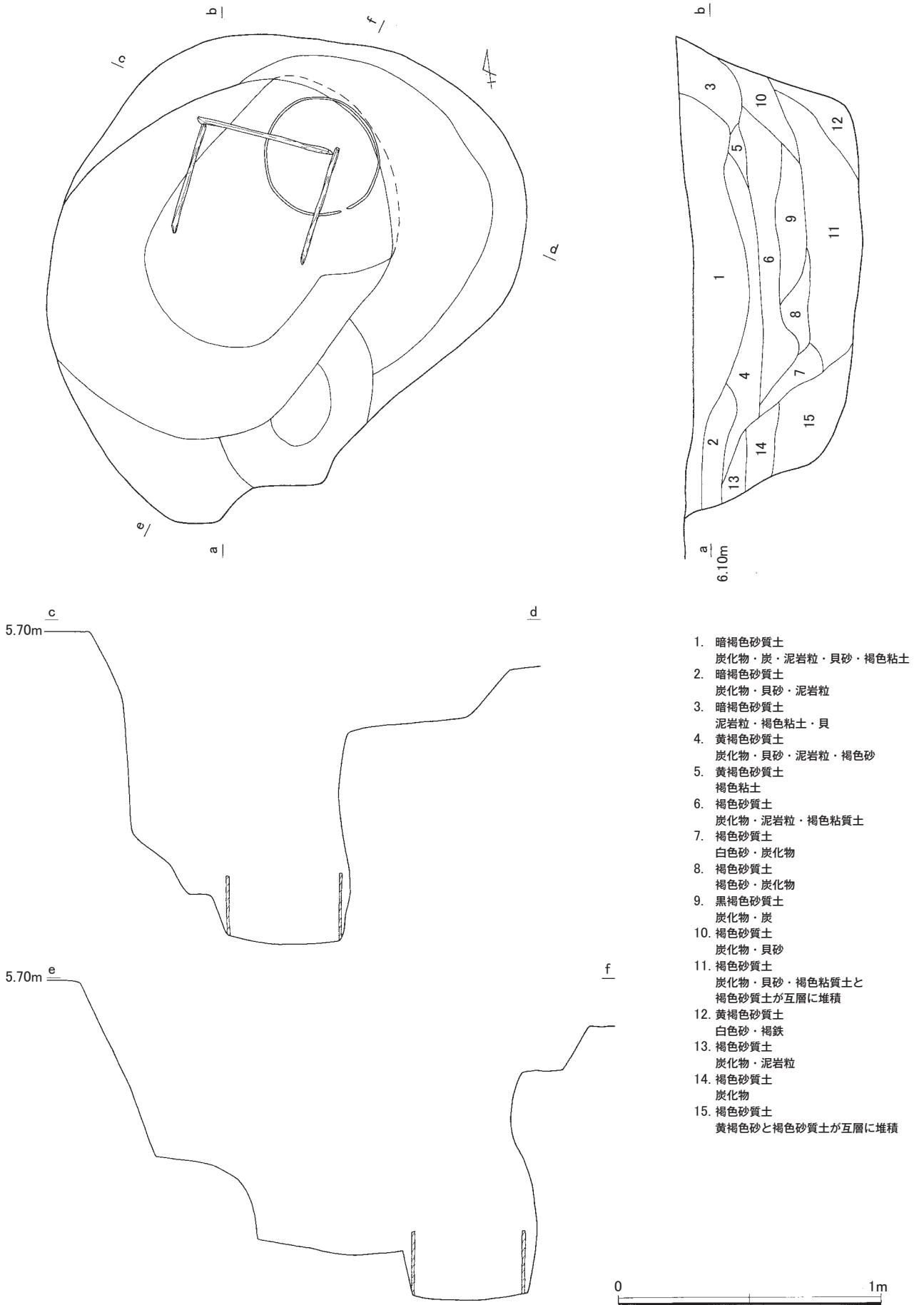
38 は青磁碗。その他にかわらけ・手づくね・常滑甕が破片で出土している。

・遺構 95 (図・図)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗灰色砂質土。炭化物・黄褐色砂を含む。遺物は出土していない。

・第 3 面面上出土遺物

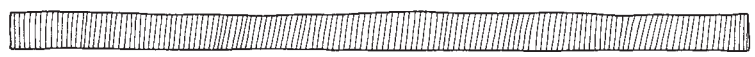
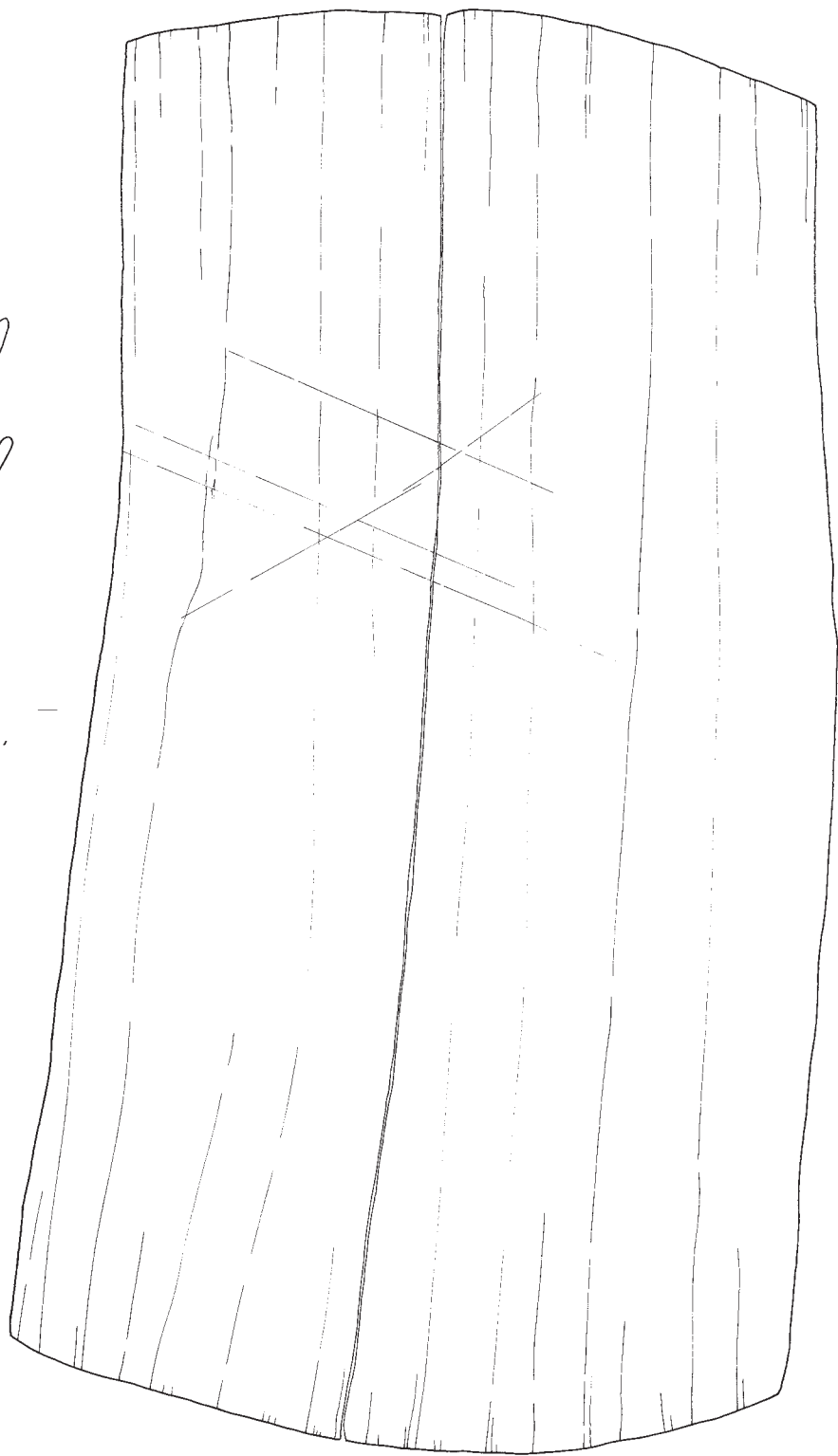
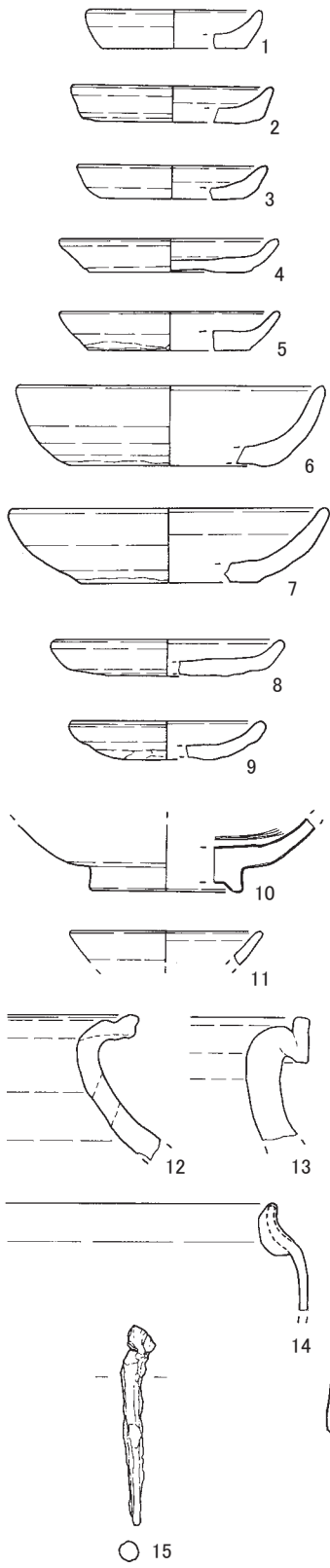
第 1 面から第 3 面にかけて、調査区全体に遺構が重複して検出されたことや、調査地点の堆積層が砂層のため生活層としての地業を確認できず、第 3 面面上出土として採集した遺物はない。



1. 暗褐色砂質土  
炭化物・炭・泥岩粒・貝砂・褐色粘土
2. 暗褐色砂質土  
炭化物・貝砂・泥岩粒
3. 暗褐色砂質土  
泥岩粒・褐色粘土・貝
4. 黄褐色砂質土  
炭化物・貝砂・泥岩粒・褐色砂
5. 黄褐色砂質土  
褐色粘土
6. 褐色砂質土  
炭化物・泥岩粒・褐色粘質土
7. 褐色砂質土  
白色砂・炭化物
8. 褐色砂質土  
褐色砂・炭化物
9. 黒褐色砂質土  
炭化物・炭
10. 褐色砂質土  
炭化物・貝砂
11. 褐色砂質土  
炭化物・貝砂・褐色粘質土と  
褐色砂質土が互層に堆積
12. 黄褐色砂質土  
白色砂・褐鉄
13. 褐色砂質土  
炭化物・泥岩粒
14. 褐色砂質土  
炭化物
15. 褐色砂質土  
黄褐色砂と褐色砂質土が互層に堆積

図 26 第 4 面 遺構 51

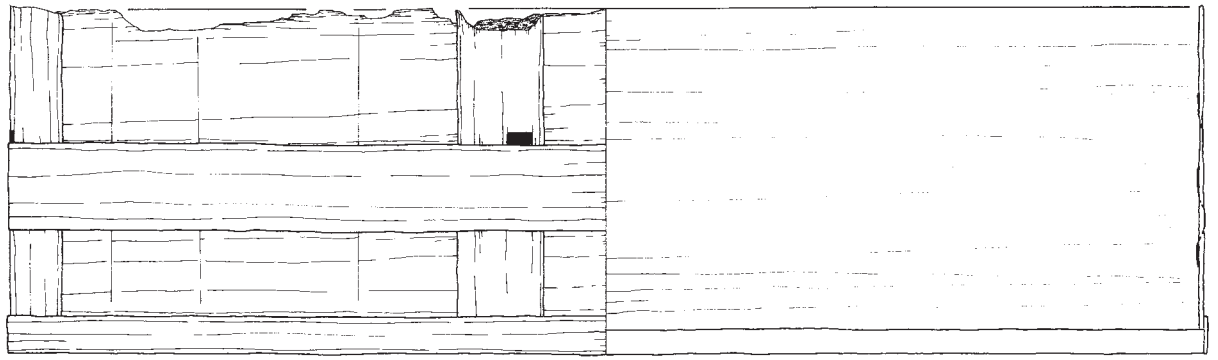




16



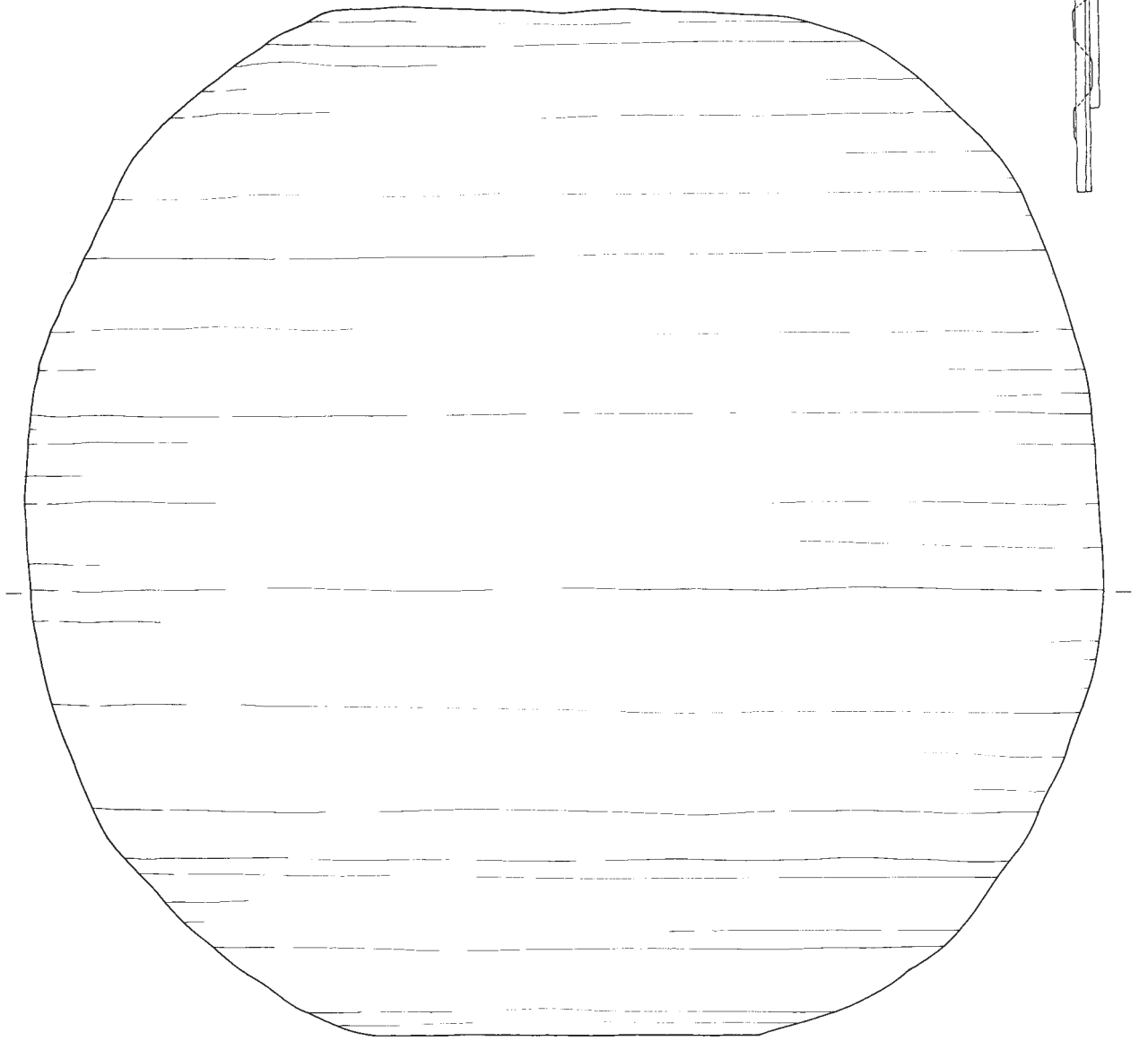
图 27 第 4 面 遺構 51 出土遺物 (1)



17

0 10cm

※側板の綴じ方模式図→



18

図28 第4面 遺構51出土遺物(2)

・第3面構成土出土遺物（図25）

第3面検出後、第4面までの堆積土層から出土した遺物である。1は白磁碗。2は常滑片口鉢I類。3は渥美甕。4は渥美鉢。

4. 第4面の遺構と遺物（図5・図26～図36）

第3面では調査区東側が空閑地の様相を呈していたが、第4面では調査区全体に遺構が広がる。礎板が覆土内に遺存するピットを多く発見し掘立柱建物の存在を考え調査を進めたが、建物址を推定することは出来なかった。調査区のほぼ中央には井戸を2基検出しており、屋敷地の外れであったのかもしれない。第4面の遺構は褐鉄を多く含む黄褐色砂質土上に広がるが、後述するトレンチによる下

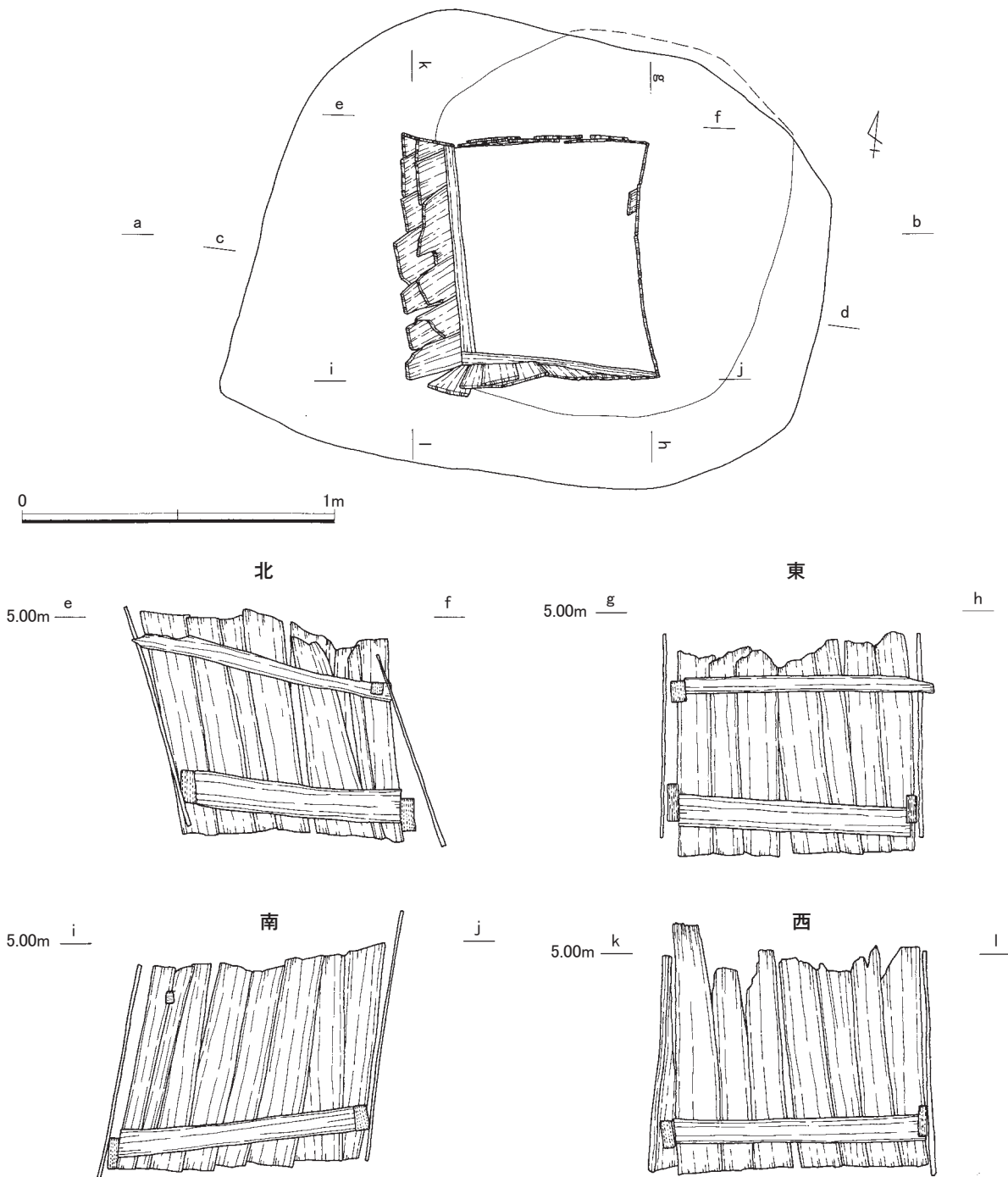
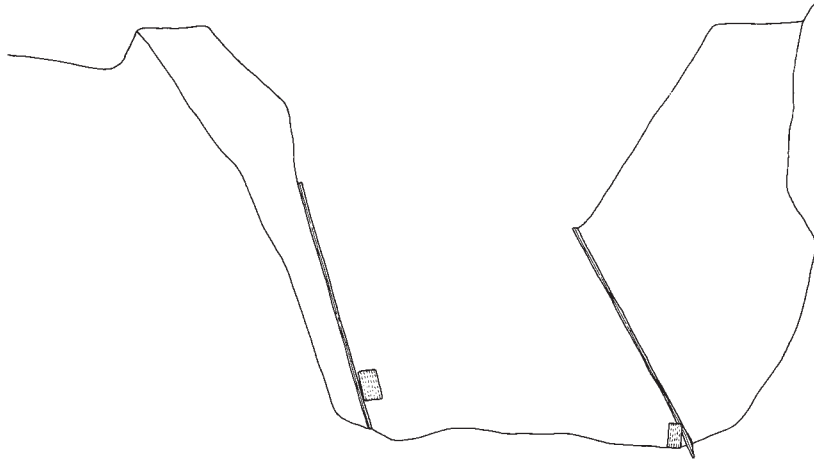


図29 第4面遺構54(1)

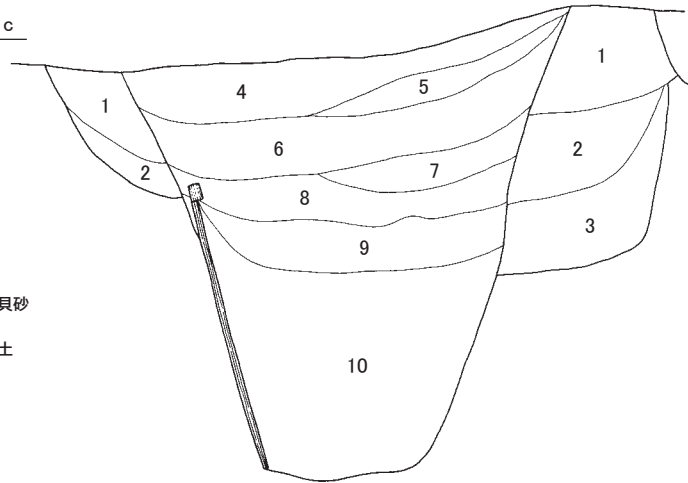
5.50m a



b

1. 暗褐色砂質土  
炭化物・泥岩粒・褐色砂  
黃褐色砂
2. 黃褐色砂質土  
炭化物・泥岩粒・貝砂
3. 暗褐色砂質土  
炭化物・貝砂

5.50m c



4. 黃褐色砂質土  
炭化物・貝砂
5. 黃褐色砂質土  
炭化物(多)・貝砂
6. 黑褐色砂質土  
炭化物・褐色粘土
7. 灰褐色砂質土  
炭化物・泥岩粒

d

8. 黑褐色砂  
炭化物
9. 黃茶褐色砂  
炭化物・貝砂
10. 黃茶褐色砂  
炭化物・褐色有機質土

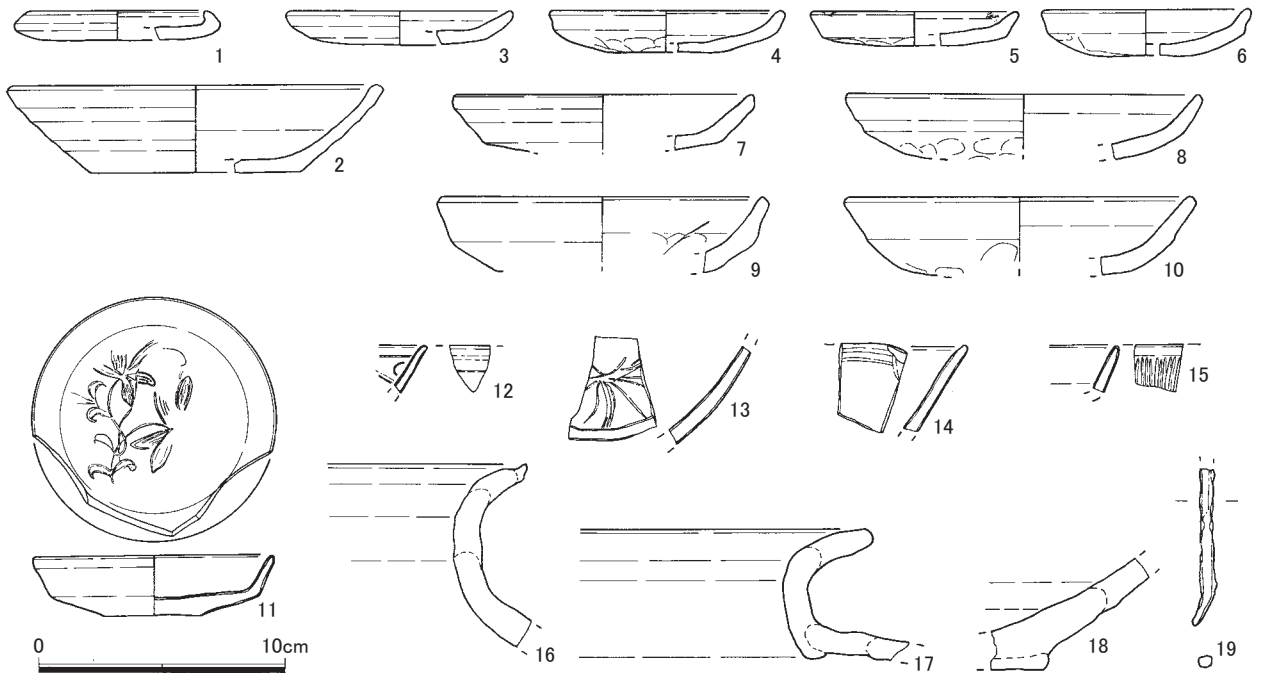
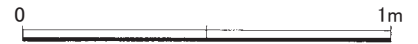


圖 30 第 4 面 遺構 54 (2)



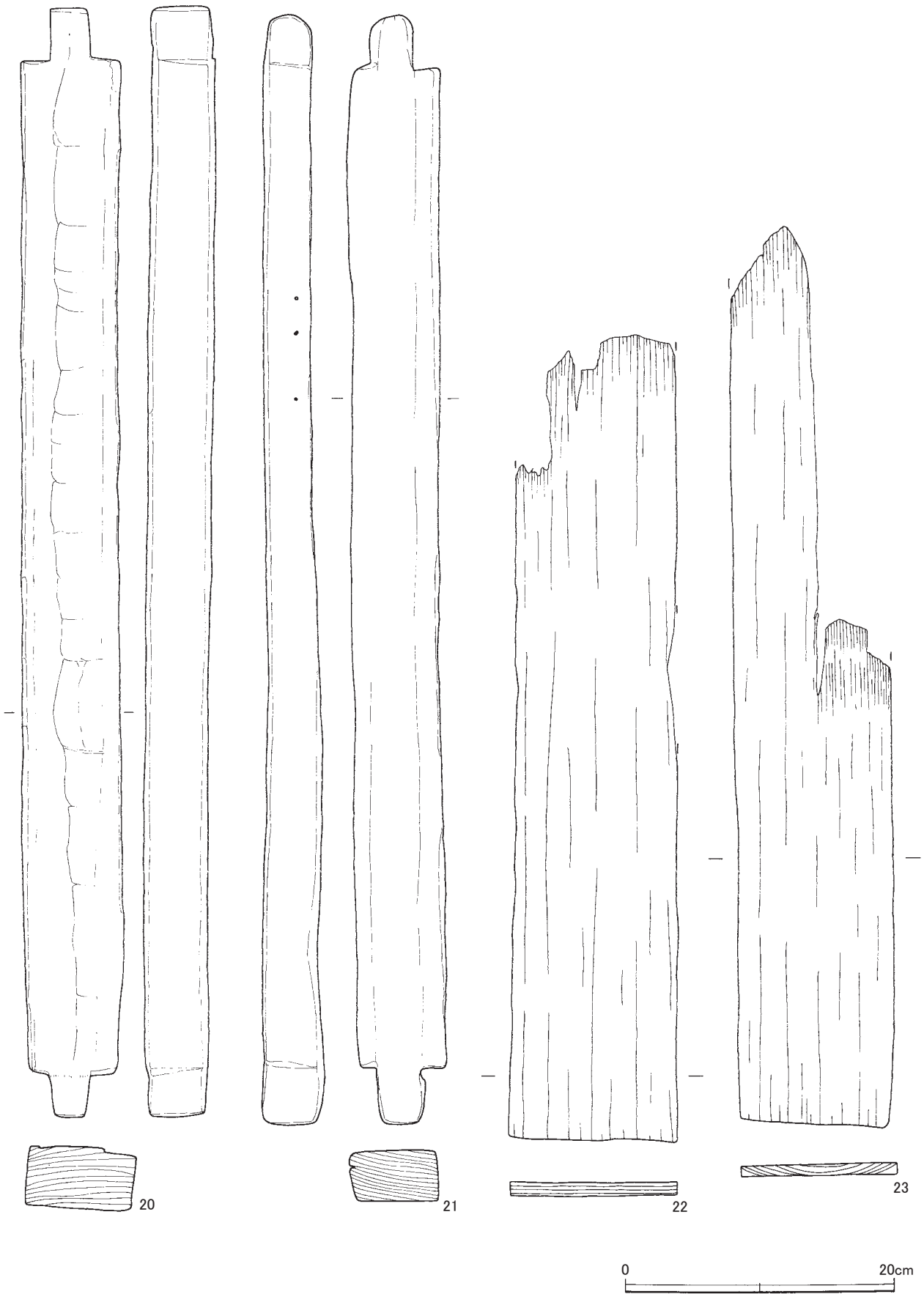


図 31 第 4 面 遺構 54 (3)

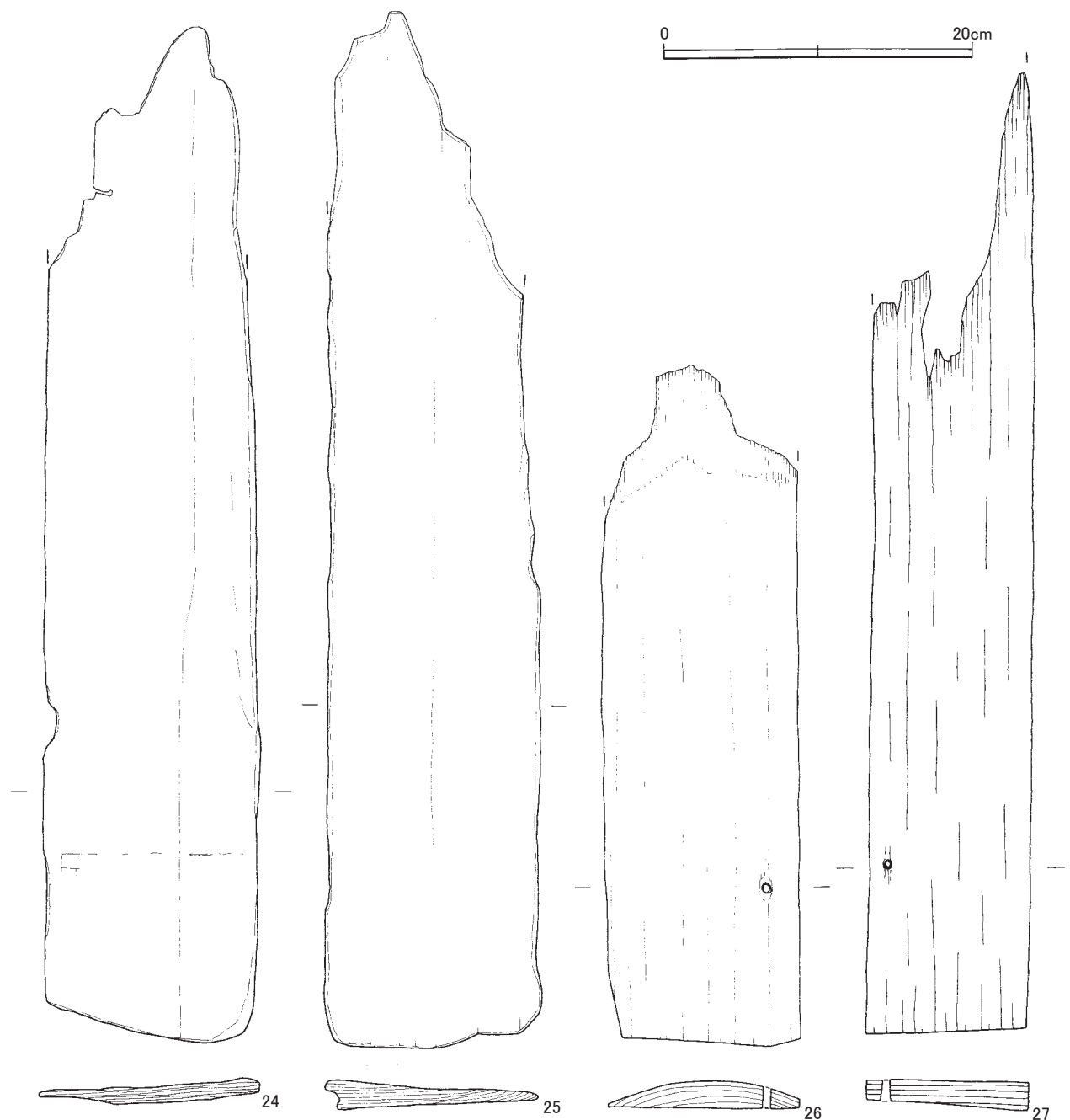


図 32 第 4 面 遺構 54 (4)

層堆積の観察では第 4 面構成土からの出土遺物はない。発見した遺構は土坑 11 基・ピット 58 穴・井戸 2 基である。

#### 遺構 51 (図 26 ~ 図 28)

井戸である。三方の側板が遺存していたが、腐食しており採集することはできなかった。側板の下層には底のない大きな曲物が、やや中心から外れた位置で発見されている。当初は井戸中心に据えられたものであったと思われるが、井戸を廃棄し埋める時点でずれが生じたと考えている。遺存していた三方の側板は現地にて計測し実測図を報告していない。側板の遺存値は、北側 - 幅 53cm・高さ 25cm・厚さ 4 cm、東側 - 幅 47cm・高さ 26cm・厚さ 3.5cm、西側 - 幅 43cm・高さ 23cm・厚さ 3.5cmであった。曲物は底板がない状態で発見されたが、遺構覆土下層から円盤状の木製品が出土しており、発見した

曲物の底板であったと考えている。

・出土遺物 (図 27・図 28)

1～7はかわらけ。8～9は手づくね。10は青磁碗。11は山皿。12・13は常滑甕。14は鉄製品鍋。15は鉄製品釘。16は木製品円盤状。17は曲物、上部は破損していた。18は曲物底板。その他に渥美器種不明・瓦器質火鉢・チャートが破片で出土している。

・遺構 54 (図 29～図 32)

木組みの側板を持つ井戸である。遺存していた四方の側板は東に倒れ込むような形で検出した。角材を枘によって方形に組み横棧とし外側に側板を並べているが、通常この形式の井戸に見る四隅の支柱は発見されなかった。井戸廃棄時に支柱は抜き取ったのかもしれない。掘り方はやや方形を呈する。遺構覆土は土層堆積図を参照していただきたい。(図 30)

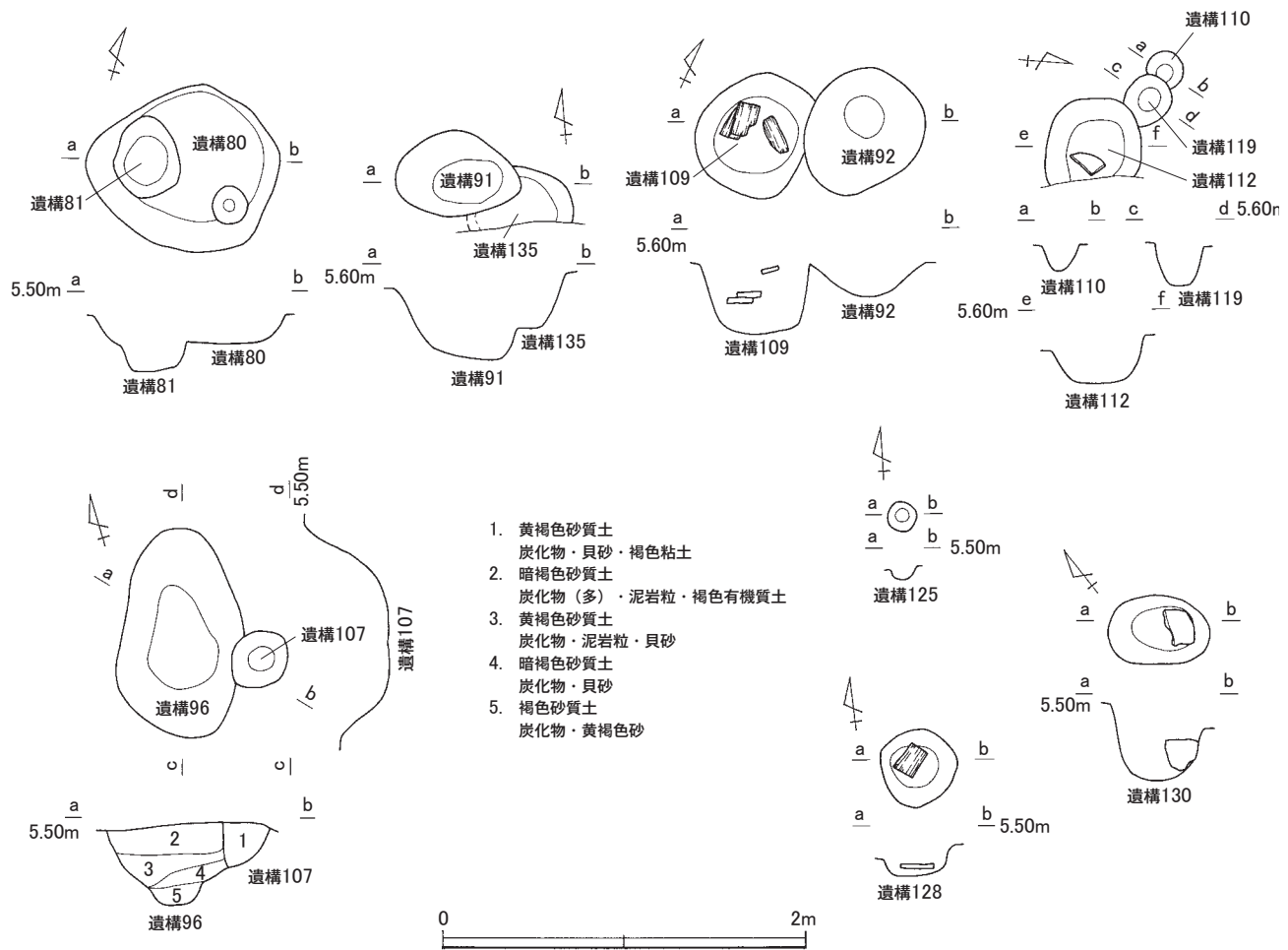


図 33 第4面遺構 (遺構 80・81・91・92・96・107・109・110・112・119・125・128・130・135)

・出土遺物 (図 30～図 32)

1・2はかわらけ、1は内折れのかわらけ。3～10は手づくね。11は青磁劃花文皿。12～13は青磁劃花文碗。14は青磁輪花碗。15は青磁皿。16は常滑甕。17・18は渥美甕。19は鉄製品釘。20～27は井戸側板の一部を掲載した。20～21は横棧の材。22～27は側板の材、側板の幅・厚みなどに一定の規格はなかった。その他に渥美甕・鞆の羽口・貝・獣骨が破片で出土している。

・遺構 80 (図 33)

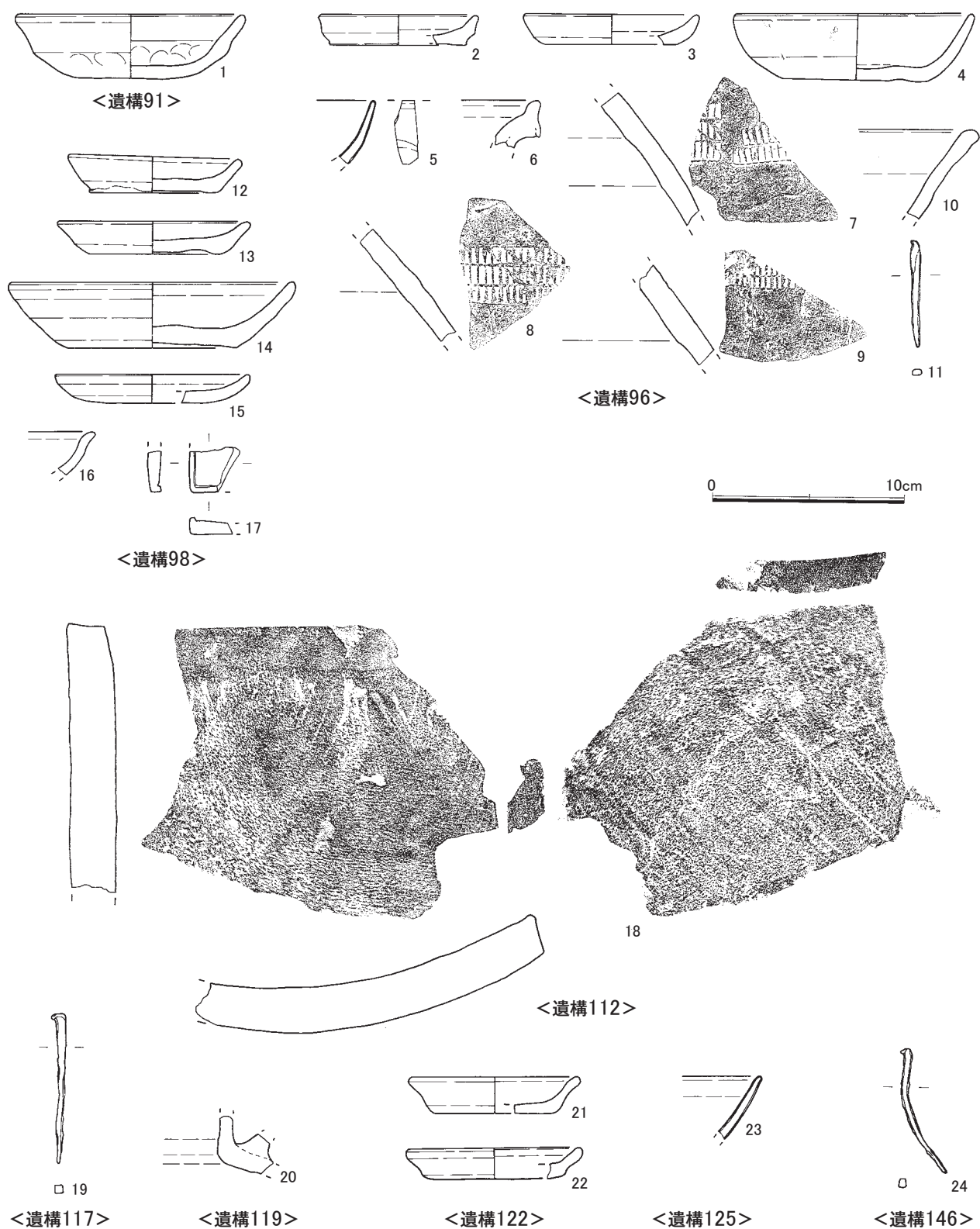


図 34 第 4 面遺構出土遺物（遺構 91・96・98・109・112・117・119・122・125・146）

不正円形を呈する土坑である。遺構 81 に切られる。遺構覆土は暗褐色砂質土。炭化物・貝砂を含む。遺物はかわらけ・手づくね・貝・獣骨が破片で出土している。

・遺構 81（図 33）

不正円形を呈するピットである。遺構 80 を切る。遺構覆土は炭化物・黄褐色砂を含む。覆土内出土



の遺物はなく、貝が出土している。

・遺構 91 (図 33・図 34)

楕円形を呈するピットである。遺構 135 を切る。遺構覆土は暗褐色砂質土。炭化物・黄褐色砂・褐色有機質土を含む。遺構底部に礎板が遺存していたが、腐食しており採集することは出来なかった。

・出土遺物 (図 34)

1 は手づくね。その他にかわらけ・手づくねが破片で出土している。

・遺構 92 (図 34)

円形を呈する土坑である。遺構 109 を切る。遺構覆土は暗褐色砂質土。炭化物・泥岩粒・貝砂を含む。遺物にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

・遺構 96 (図 33・図 34)

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は土層注記を参照していただきたい。

・出土遺物 (図 34)

2～4 はかわらけ。5 は青磁碗。6～9 は常滑甕。10 は常滑片口鉢 I 類。11 は鉄製品釘。その他に手づくね・石製品硯・鞆の羽口・貝が破片で出土している。

・遺構 98 (図 5・図 34)

個別に図示はしていない。楕円形を呈するピットである。遺構 96 を切る。遺構覆土は暗褐色砂質土。泥岩粒・炭化物を含む。覆土内に礎板が遺存していた。

・出土遺物 (図 34)

12～14 はかわらけ。15 は手づくね。16 は山皿。17 は石製品硯。

・遺構 107 (図 33)

円形を呈するピットである。遺構 96 を切る。遺構覆土は土層注記を参照していただきたい。遺物は出土していない。

・遺構 109 (図 33・図 34)

不正円形を呈するピットである。遺構 92 に切られる。覆土内に礎板・柱状の板材が遺存していた。遺構覆土は暗灰色砂質土。炭化物・泥岩粒・褐色有機質土を含む。遺物には手づくね・青磁碗・貝が破片で出土している。

・遺構 110 (図 33)

円形を呈するピットである。遺構 119 に切られる。遺構覆土は暗灰色砂質土。貝砂・黄褐色砂を含む。遺物には手づくねが破片で出土している。

・遺構 112 (図 33・図 34)

円形を呈するピットである。遺構 54 に切られる。暗灰色砂質土。炭化物・泥岩粒・黄褐色砂を含む。

・出土遺物 (図 34)

18 は女瓦。その他にかわらけ・貝が破片で出土している。

・遺構 117 (図 5・図 34)

個別に図示はしていない。調査区外に遺構が延び規模・形状は不明となった。遺構覆土は暗灰色砂質土。炭化物・褐色有機質土を含む。

・出土遺物 (図 34)

19 は鉄製品釘。その他にかわらけが破片で出土している。

・遺構 119 (図 33・図 34)

円形を呈するピットである。遺構 112 に切られる。遺構覆土は暗灰色砂質土。炭化物・黄褐色砂を含む。

・ **出土遺物 (図 34)**

20 は褐釉壺・耳環部。その他に遺物は出土していない。

・ **遺構 122 (図 5・図 34)**

個別に図示はしていない。調査区外に遺構が延び規模は不明。土坑である。遺構覆土は暗褐色砂質土。炭化物・泥岩粒・褐色有機質土を含む。

・ **出土遺物 (図 34)**

21 はかわらけ。22 は手づくねかわらけ。その他にかわらけが破片で出土している。

・ **遺構 125 (図 33・図 34)**

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗灰色砂質土。黄褐色砂を含む。

・ **出土遺物 (図 34)**

25 は青磁碗。

・ **遺構 128 (図 33)**

円形を呈するピットである。遺構底面に礎板が遺存していた。遺構覆土は暗灰色砂質土。炭化物・泥岩粒を含む。遺物は出土していない。

・ **遺構 130 (図・図)**

楕円形を呈するピットである。覆土内に礎石だろうか、上面を平らに加工した砂質凝灰岩が遺存していた。遺物は出土していない。

・ **遺構 132 (図 5)**

個別に図示はしていない。円形を呈するピットである。覆土内に杭状に粘土が残っており柱穴であったと考えられる。後述する遺構 142 に遺構覆土は近似しており、柱、あるいは杭列となった可能性もある。柱、あるいは杭列とした場合、その距離は芯芯で 158cm を測る。遺構覆土は暗灰色砂質土。炭化物・黄褐色砂を含む。遺物は出土していない。

・ **遺構 135 (図 33)**

遺構 91 に切られ、調査区外に遺構が延びていたために規模は不明。ピットである。遺物は出土していない。

・ **遺構 145 (図 5)**

個別に図示していない。調査区外に遺構が延び、規模・形状は不明となった。遺構覆土は暗褐色砂質土。炭化物・泥岩粒・褐色有機質土を含む。遺物は常滑甕の胴部片が多く混入しており、据え甕の破片であった可能性もある。

**遺構 146 (図 5・図 34)**

個別に図示はしていない。調査区外に遺構が延び規模は不明となった。ピットである。遺構底部に礎板遺存。遺構覆土は暗灰色砂質土。炭化物・黄褐色砂を含む。

・ **出土遺物 (図 34)**

24 は鉄製品釘。その他に手づくねが破片で出土している。

**遺構 147 (図 5)**

個別に図示はしていない。小型のピットである。遺構覆土は暗褐色砂質土。覆土内に褐色有機質土を多く含む。杭の痕跡かもしれない。遺物は出土していない。

・ **第 4 面面上出土遺物 (図 35)**

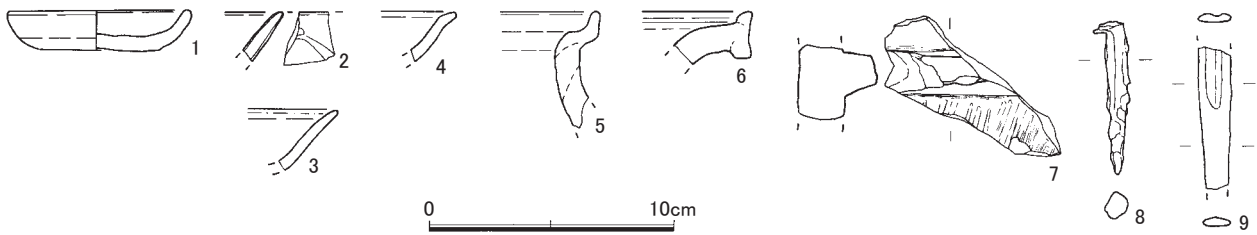


図 35 第 4 面面上出土遺物

第 4 面遺構精査時に出土した遺物である。1 はかわらけ。2 は青磁鎬蓮弁文碗。3 は白磁口元皿。4 は山茶碗。5・6 は常滑甕。7 は石製品滑石鍋。8 は鉄製品釘。9 は骨製品筭。

・表土出土遺物 (図 36)

現地表から第 1 面検出までの堆積層で出土した遺物である。1～15 はかわらけ。16 は青磁劃花文碗。17 は青磁鉢。18 は白磁口元皿。19 は瀬戸卸皿。20 は瀬戸折縁皿。21 は瀬戸播鉢。22 は常滑壺。

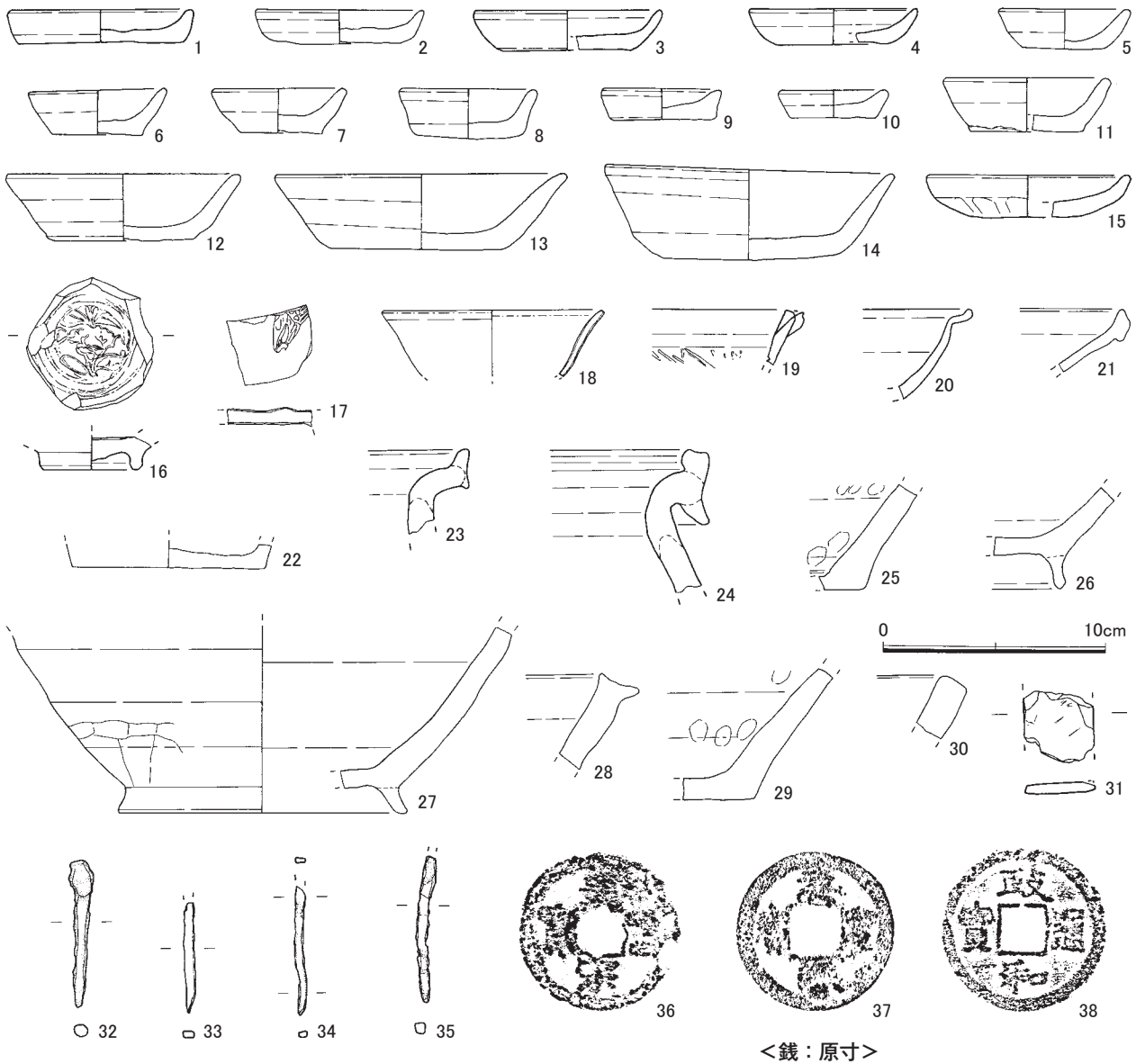


図 36 表土出土遺物

23～25は常滑甕。26・27は常滑片口鉢Ⅰ類。28・29は常滑片口鉢Ⅱ類。30は瓦器質火鉢。31は石製品砥石。32～35は鉄製品釘。36～38は銭。

・最終トレンチ (図3)

第4面検出後、下層の堆積を確認するために調査区の東と西にトレンチを設けた。トレンチ底からの湧水が激しく記録は写真のみとなったが、第4面下層は自然砂層の水平堆積であったことを確認している。2か所のトレンチを設けたが、どちらのトレンチからも遺物は出土していない。



## 第三章 まとめ

本調査地が所在する「材木座町屋遺跡」は幕府から町屋免許を得た商業域であり、調査地西に接し南北に走る道路はその物流に大きな任を背負う道路であった。道路に沿った南北域では竪穴建物を含む多くの遺構・遺物が発見され、活発な営みや往来があった様子が窺える。しかし遺跡指定された全域が商業域であったわけではなく、指定城南西部のほとんどは海拔も低く中世においては湿地、あるいは氾濫原・潟湖と推定されており、居住域ではなかったことが周辺の調査成果からも確認されている。また北西に位置する遺跡からは古代の官衙関連と想定する大型の掘立柱建物群、道路状遺構、溝による区画等が発見され、北東域では中世後期になると土坑墓が集中する地域となる。遺跡指定域が広範なためもあり、遺跡の性格が散漫な様相を示すことになったともいえるが、ある意味この混沌とした様相が、「町屋」の性格を示しているのかもしれない。

### 検出した遺構と遺物

第1面上層には中世遺物包含層が堆積していた。調査区壁の観察からは遺構を発見することは出来ず、第1面上層は空地であった可能性も考えられる。また、出土遺物も少量であった。この包含層は出土した遺物から15世紀を下る堆積層であったと考えている。

以下の遺構検出面を本調査では4枚の生活面に分けて報告した。最終面より下層の堆積はトレンチを設けて確認を試みたが、湧水が激しく堆積した砂層が雪崩れるようにトレンチ壁が崩れていってしまうため、堆積層の記録は写真のみとなってしまった。本調査で出土した遺物は整理箱数にして計25箱、内6箱が木製品であった。

第1面は調査区全体に遺構を発見したが、上層の堆積層に削平され総じて検出した遺構深度は浅い。発見した遺構は土坑が大半であったが、土坑下層に深度は浅いが竪穴建物を発見している。第1面は2時期の遺構が切りあって検出されている。また、第1面と後述する第2面の遺構はほぼ同一層上で重複して発見された。第1面は14世紀を下る年代が与えられる。

第2面で発見した遺構の大半は竪穴建物である。遺構検出範囲は調査区全体に広がるが、第1面同様に上層の堆積層によって削平を受けており遺構深度は浅い。また、発見した竪穴建物は同位置で頻繁に造り替えを行い、正確な規模・形状を捉える事が出来なかった。第2面は3時期の遺構を確認した。

第3面は多くの竪穴建物を検出した第2面とは様相を一変し、北東隅に竪穴建物と考えられる浅い土坑を1基検出したが、その他は井戸・土坑・ピットが広がる。若干調査区東側に空地が目立つが上層の遺構群に削平を受けたと考えている。遺構が重複して発見されているために、遺物の採集が混乱してしまった部分もあるが、第1面から第3面までは出土遺物の観察からは大きな時期差を認める事が出来なかった。第2面、第3面は13世紀半ば以降の年代が与えられる。

第4面は井戸・土坑とともに礎板を遺構底面に持つピットを多く発見した。調査区が狭小なためにそれぞれのピットから建物址を推定することは出来なかったが、住居、井戸といった調査地の生活を窺わせる遺構を発見している。第4面の遺構は中世基盤層と考える黄褐色砂質土を掘りこんでいる。第4面は13世紀前半の年代が与えられる。

## まとめ

本調査では13世紀前半から15世紀にかけての遺構の変遷を確認した。発見した遺構は短期間に造り替えを行っていたが、第1面は土坑が、第2面は重複して検出された竪穴建物が主となり、第3面・第4面は礎板を持つピットが調査区全体に広がり、掘立柱建物の存在をうかがわせた。第1面から第3面までに発見した遺構の覆土には炭化物・炭・泥岩が多く混入し、調査地の遺構を廃棄する14世紀代には他方から運ばれてきた客土によって整地が行われたと思われる。特徴的な出土遺物はなく遺物から遺跡地の性格を判断することは出来なかったが、第2面の竪穴建物群は倉庫としての利用を考えると、中世鎌倉の物流の要の一つであったと考える道路に接する遺跡地としての特徴であるといえる。近隣の調査成果からは、本調査で確認した第4面以下の堆積層下に縄文海進時の内湾またはその後のラグーンの堆積物を含む黒色粘質土層が広がることを確認しているが、本調査地では第4面以下、約80cmまでは飛砂が堆積していたことを確認して終了した。

## 【参考文献】

- ・「材木座町屋遺跡発掘調査報告書」 鎌倉市材木座三丁目62番19 2008年3月 (有)鎌倉遺跡調査会
- ・「材木座町屋遺跡」 材木座6丁目653番1外 2009年3月 玉川文化財研究所
- ・「材木座町屋遺跡発掘調査報告書」 鎌倉市材木座三丁目164番他地点 2011年3月 (有)鎌倉遺跡調査会
- ・「材木座町屋遺跡発掘調査報告書」 鎌倉市材木座五丁目462番2地点・三丁目602番5の一部地点 2012年9月 (株)博通
- ・「材木座町屋遺跡発掘調査報告書」 鎌倉市材木座二丁目2250番8地点 2014年9月 (株)博通
- ・「材木座町屋遺跡発掘調査報告書」 鎌倉市材木座三丁目372番26地点 2015年3月 (株)博通



遺物観察表

図版 番号	No.	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
8	1	第1面 遺構1	かわらけ	(7.0)	(5.6)	1.6	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・黒色粒・雲母・海綿骨芯(粗土) c.黄灰色 e.やや甘い f.1/5
8	2	第1面 遺構1	かわらけ	(12.8)	(7.9)	3.2	a.ロクロ・内底横ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・白色粒・黒色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.橙色 e.良好 f.2/3
8	3	第1面 遺構1	かわらけ	(14.2)	(9.0)	3.8	a.ロクロ・内底強くナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・黒色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.橙色 e.良好 f.器壁外反して立ち上がる f.2/3
8	4	第1面 遺構1	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 白色粒・黒色粒・長石 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片 内面黒色に変色 g.6a形式
8	5	第1面 遺構1	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 黒色粒・白色粒・長石・石英 d.灰緑色自然釉 e.硬質 f.口縁部小片 g.6a形式
8	6	第1面 遺構1	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 白色粒・黒色粒・長石 c.灰色 e.硬質 f.口縁部小片 g.6a形式
8	7	第1面 遺構1	石製品 チャート	1.8	1.45	0.65	
8	8	第1面 遺構2	かわらけ	(7.2)	(6.2)	2.3	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・黒色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.橙色 e.良好 f.1/2
8	9	第1面 遺構3	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰黒色 白色粒・長石 c.赤褐色 e.硬質 f.口縁部片 g.5形式
8	10	第1面 遺構8	鉄製品 釘	(5.1)	0.3	0.25	g.断面方形
8	11	第1面 遺構9	かわらけ	(8.1)	(4.9)	1.7	a.ロクロ・内底横ナデ・ b.微砂・赤色粒・白色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.黄橙色 e.良好 f.1/2
8	12	第1面 遺構17	かわらけ	(7.3)	(6.6)	1.6	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・黒色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.橙色 e.良好 f.1/3 g.全体摩耗する
8	13	第1面 遺構17	かわらけ	(7.8)	(6.8)	1.65	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・赤色粒・白色粒・黒色粒・雲母海綿骨芯 c.黄橙色 e.良好 f.1/2
8	14	第1面 遺構17	かわらけ	(8.2)	(6.7)	1.55	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・白色粒・黒色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.黄橙色 e.良好 f.1/3
8	15	第1面 遺構17	かわらけ	8.7	6.2	1.95	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・白色粒・黒色粒・雲母・海綿骨芯 c.黄橙色 e.良好 f.完形
8	16	第1面 遺構17	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 白色粒・黒色粒・長石・小石粒 c.灰黒色 d.緑掛った降灰 e.硬質 f.口唇部～底部片 g.5形式
8	17	第1面 遺構17	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 白色粒・黒色粒・赤色粒・長石 c.灰色 e.硬質 f.口縁部小片 g.5形式
8	18	第1面 遺構17	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 白色粒・黒色粒・赤色粒 c.灰色 e.硬質 f.口縁部小片 g.降灰あり・5形式
8	19	第1面 遺構18	かわらけ	(5.0)	(3.7)	0.8	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・赤色粒・黒色粒・雲母・やや硬質 c.橙色 e.良好 f.1/4 g.小型
8	20	第1面 遺構18	かわらけ	(7.7)	(6.0)	2.1	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・白色粒・雲母・海綿骨芯 c.黄橙色 e.良好 f.1/3
8	21	第1面 遺構18	かわらけ	(12.8)	6.6	3.5	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・黒色粒・雲母・海綿骨芯 c.橙色 e.良好 f.3/4
8	22	第1面 遺構18	かわらけ	(7.6)	(6.2)	1.5	a.手づくね・内底ナデ・外側面回転ナデ b.微砂・白色粒・黒色粒・雲母・海綿骨芯 c.赤紫色 e.良好 f.1/4
8	23	第1面 遺構18	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a.輪積み b.灰褐色 砂粒・小石粒・長石 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁部片 g.内面降灰釉が厚くかかる・6a形式
8	24	第1面 遺構18	鉄製品 釘	5.2	0.6	0.5	g.断面方形
8	25	第1面 遺構19	かわらけ	(7.5)	(4.2)	2.2	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・黒色粒・雲母・海綿骨芯・小石粒 c.黄橙色 e.良好 f.4/5 g.器形歪む
8	26	第1面 遺構19	鉄製品 釘	(7.4)	(1.3)	(1.0)	g.錆付着の為段面形不明
8	27	第1面 遺構20	かわらけ	(13.0)	(7.8)	3.0	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4
8	28	第1面 遺構20	瀬戸 折縁深皿	—	—	—	a.ロクロ b.砂粒・雲母 良土 c.灰白色 e.良好 f.口縁部片 g.外面刷毛塗り痕
8	29	第1面 遺構20	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・長石・雲母 良土 c.暗褐色 e.良好 f.口縁部片
8	30	第1面 遺構20	鉄製品 釘	4.0	0.6	0.4	g.断面方形
8	31	第1面 遺構20	鉄製品 釘	5.0	0.6	0.7	g.断面方形
8	32	第1面 遺構21	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.白色粒・長石 良土 c.暗褐色 e.良好 f.胴部片 g.正方形の格子の中を対角線で四分割した文様で押印
8	33	第1面 遺構32	かわらけ	(7.7)	(5.7)	1.6	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・海綿骨芯・雲母・小石粒 やや粗土 c.橙色 e.良好
8	34	第1面 遺構33	かわらけ	(13.1)	(7.4)	3.7	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・土丹粒・海綿骨芯・雲母・小石粒 良土 c.橙色 e.良好 f.1/8
8	35	第1面 遺構36	かわらけ	(8.4)	(6.6)	1.8	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・海綿骨芯・小石粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.1/6
8	36	第1面 遺構36	備前 播鉢	—	—	—	a.輪積み b.褐色 砂粒・白色粒・石英 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁部片 g.条線単位9条
8	37	第1面 遺構37	かわらけ	(4.4)	(3.0)	1.3	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・黒色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.淡黄褐色 e.良好 f.1/3 g.小型
8	38	第1面 遺構37	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・雲母・長石・ c.褐色 e.硬質 f.口縁部片

単位 (cm)



遺物観察表

図版番号	No.	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
8	39	第1面遺構42	かわらけ	(8.0)	(6.2)	1.55	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/6
8	40	第1面遺構42	かわらけ	(7.9)	(6.2)	1.55	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・土丹粒 粗土 c.橙色 e.良好 f.1/6
8	41	第1面遺構42	かわらけ	(8.8)	(6.6)	1.8	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/8 g.内外口唇部一部黒色に変色
8	42	第1面遺構42	かわらけ	12.2	9.2	3.0	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.ほぼ完形
8	43	第1面遺構42	かわらけ	(13.8)	(8.0)	3.4	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.1/3
8	44	第1面遺構42	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁部片
8	45	第1面遺構43	かわらけ	(6.8)	(5.0)	1.7	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・海土丹粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/3 g.口唇部外辺が黒色に変色
8	46	第1面遺構43	青磁碗	—	—	—	a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.緑灰色 e.良好 f.口縁部片 g.外面櫛搔文・内面横方向に片切り彫り・口唇部鉄釉を施釉か黒色に変色
8	47	第1面遺構43	青磁皿	—	—	—	a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.緑灰色 e.良好 f.口縁部片 g.文様不明
8	48	第1面遺構43	不明壺	—	—	—	a.ロクロ b.灰色・やや砂質・精緻 c.灰色 e.良好 f.胴部片 g.搬入品か
8	49	第1面遺構43	常滑壺	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・石英・小石粒 c.灰色 d.降灰 e.硬質 f.底部片・外面下部に手頭による調整痕
9	1	第1面上	かわらけ	(6.8)	(5.7)	1.3	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・黒色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.赤橙色 e.良好 f.1/2
9	2	第1面上	かわらけ	(7.2)	(5.4)	1.6	a.ロクロ 内底強くナデ b.微砂・白色粒・黒色粒・雲母・海綿骨芯 c.黄橙色 e.良好 f.口唇部の一部黒く変色 f.1/3
9	3	第1面上	かわらけ	(8.6)	(6.8)	1.7	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・黒色粒・雲母・海綿骨芯 c.橙色 e.良好 f.1/3
9	4	第1面上	かわらけ	(9.8)	(7.1)	1.4	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・黒色粒・雲母・海綿骨芯 c.橙色 e.良好 f.1/6
9	5	第1面上	かわらけ	9.6	6.8	1.5	a.ロクロ 内底強く横ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・黒色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.黄橙色 e.良好 f.4/5
9	6	第1面上	かわらけ	(12.4)	(8.4)	2.9	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.赤茶色 e.やや甘い f.1/3
9	7	第1面上	かわらけ	(14.9)	(9.3)	3.1	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・黒色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.黄橙色 e.良好 f.2/3
9	8	第1面上	かわらけ	—	(8.0)	—	a.ロクロ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・白色粒・黒色粒・雲母・海綿骨芯 c.黄橙色 e.やや甘い f.1/3 g.見込み端に穿孔あり 内外面に煤付着
9	9	第1面上	白磁皿	—	5.2	—	a.ロクロ b.灰白色 黒色粒 精良堅緻 c.灰白色 d.淡緑色 e.良好 f.底部片 g.外底部斑に無釉
9	10	第1面上	白磁口元皿	(10.8)	—	—	a.ロクロ b.白色 黒色粒 精良堅緻 d.青味掛った乳白色 不透明釉を極く薄施釉 f.口唇～胴体部片
9	11	第1面上	瀬戸入子	5.8	3.6	1.95	a.ロクロ 外底部筒によるナデ整形 b.淡灰色 白色粒・黒色 良土 c.黄灰色 e.良好 硬質 f.2/3 g.降灰
9	12	第1面上	瀬戸折縁深皿	—	—	—	a.ロクロ b.灰黄色 砂粒・黒色粒 良土 c.灰緑色 d.釉は横位に刷毛塗り e.やや軟質 f.口唇～胴体部片
9	13	第1面上	山茶碗	—	—	—	a.ロクロ b.砂粒・白色粒・黒色粒・石英 緻密良土 c.灰色 e.良好 f.口縁部小片
9	14	第1面上	備前播鉢	—	—	—	a.輪積み b.灰褐色 砂粒・黒色粒・赤色粒・石英・長石・小石粒 c.赤茶色 e.硬質 f.口唇～胴体部片 g.8条の条線
9	15	第1面上	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰褐色 砂粒・白色粒・黒色粒・長石・小石粒 c.灰白色 e.硬質 f.口縁部小片
9	16	第1面上	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.灰黒色 e.硬質 f.口縁部小片
9	17	第1面上	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.黒茶色 砂粒・白色粒・黒色粒・石英・長石・小石粒 c.茶褐色 e.硬質 f.口唇～胴体部片
9	18	第1面上	常滑甕	—	—	—	a.輪積み b.黄茶色 砂粒・白色粒・黒色粒 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁部小片
9	19	第1面上	滑石鍋転用品	(6.5)	(4.5)	(1.3)	g.方形に整形して使用・全体に煤付着・温石として使用した製品と思われる
9	20	第1面上	石製品砥石	(8.0)	(3.0)	(1.4)	g.仕上砥・側面切り出し痕・鳴滝産
9	21	第1面上	鉄製品釘	(6.2)	0.4	0.2	g.断面方形
9	22	第1面上	鉄製品釘	(5.2)	0.5	0.15	g.断面方形
9	23	第1面上	鉄製品釘	(5.3)	0.5	0.1	g.断面方形
9	24	第1面上	鉄製品釘	(6.0)	0.4	0.3	g.断面方形
9	25	第1面上	鉄製品釘	(5.05)	0.6	0.35	g.断面方形
9	26	第1面上	鉄製品釘	7.2	0.55	0.4	g.断面方形
9	27	第1面上	鉄製品釘	(5.2)	0.35	0.15	g.断面方形

単位 (cm)

遺物観察表

図版番号	No.	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
9	28	第1面 面上	鉄製品 釘	(4.3)	0.2	0.15	g.断面方形
9	29	第1面 面上	鉄製品 釘	(4.35)	0.4	0.15	g.断面方形
9	30	第4面 面上	鉄製品 釘	(4.6)	0.2	0.15	g.断面方形
9	31	第1面 面上	銭	径2.4	孔径0.6×0.6		g.完形 元豊通宝 初铸北宋1078年 篆書
10	1	第1面 構成土	白磁 口兀碗	—	—	—	a.ロクロ b.白色 精良堅緻 d.灰白色 f.口縁部片
10	2	第1面 構成土	白磁 口兀皿	—	—	—	a.ロクロ b.白色 精良堅緻 d.白色 f.口縁部小片 g.口唇部油煤痕
10	3	第1面 構成土	白磁 合子	—	—	—	a.ロクロ b.白色 精良堅緻 d.白色 f.1/10 g.合子の身
10	4	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片
10	5	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰白色 砂粒・雲母・長石・小石粒 c.灰白色 e.硬質 f.底部片
10	6	第1面 構成土	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰白色 砂粒・雲母・長石・小石粒 c.灰白色 e.硬質 f.口縁部片
10	7	第1面 構成土	常滑 壺	—	—	—	a.輪積み b. 砂粒・白色粒・長石・石英 c.褐色 d.灰褐色 e.硬質 f.口縁部片
10	8	第1面 構成土	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.暗灰褐色 砂粒・白色粒・長石・小石粒・礫 c.暗茶褐色 e.硬質 f.底部片
10	9	第1面 構成土	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰白色 砂粒・雲母・長石・小石粒 c.灰白色 e.硬質 f.胴部片 g.矢羽根の押印
10	10	第1面 構成土	土製品 土錘	長さ4.4	径2.6	孔径0.8	c.淡黄橙色
10	11	第1面 構成土	銭	径2.3	孔径0.7×0.7		f.元豊通寶 初铸1078年 行書
10	12	第1面 構成土	鉄製品 釘	(5.1)	0.4	0.35	g.断面方形
10	13	第1面 構成土	鉄製品 釘	(5.4)	0.7	0.55	g.断面方形
10	14	第1面 構成土	石 用途不明	(26.1)	15.1	6.9	f.輝緑凝灰岩 側面加工痕不明 搬入品 産地不明
11	1	第2面 遺構13	かわらけ	(7.3)	(4.9)	1.5	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・白色粒・黒色粒・小石粒・雲母・海綿骨芯 c.黄橙色 e.良好 f.1/3 g.底面黒色に変色
11	2	第2面 遺構13	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.5	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・白色粒・黒色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.黄橙色 e.良好 f.1/3
11	3	第2面 遺構13	かわらけ	(7.8)	(7.1)	1.7	a.ロクロ・内底ナデ・外底部ゆるい糸切り b.微砂・赤色粒・白色粒・黒色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.黄橙色 e.良好 f.1/3
11	4	第2面 遺構13	かわらけ	(8.0)	(5.0)	2	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好 f.3/4
11	5	第2面 遺構13	かわらけ	(6.5)	(5.6)	1.4	a.ロクロ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・黒色粒・雲母・海綿骨芯・小石粒 c.赤橙色 e.良好 f.1/3 g.外面黒色に変色
11	6	第2面 遺構13	かわらけ	(8.1)	(5.8)	1.85	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・白色粒・黒色粒・雲母・海綿骨芯 c.黄橙色 e.良好 f.1/2
11	7	第2面 遺構13	かわらけ	(8.3)	(5.7)	1.6	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・赤色粒・白色粒・黒色粒・雲母・海綿骨芯 c.黄橙色 e.良好 f.1/3
11	8	第2面 遺構13	かわらけ	(7.8)	(5.0)	1.7	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/2
11	9	第2面 遺構13	かわらけ	7.1	5.8	1.8	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好 f.ほぼ完形 g.内面油煤痕・外面口唇部に油煤痕・胴部に煤痕・口唇部打ち掻げ
11	10	第2面 遺構13	かわらけ	(10.8)	(6.4)	3.5	a.ロクロ。内底横ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・黒色粒・海綿骨芯 c.黄橙色 e.良好 f.1/2 g.内面灰色の付着物・外面黒色に変色
11	11	第2面 遺構13	青磁 皿	(10.2)	(7.0)	(1.8)	a.ロクロ b.灰色 黒色粒 精良堅緻 d.緑掛った透明釉を薄く施釉 貫入 ツヤあり f.1/4 g.同安窯系
11	12	第2面 遺構13	青磁 劃花文碗	—	—	—	a.ロクロ b.暗灰色 精良堅緻 c.淡緑色 d.淡緑色 e.良好 f.口縁部片 g.内面劃花文・竜泉窯
11	13	第2面 遺構13	青磁 劃花文碗	—	—	—	a.ロクロ b.灰白色 黒色粒 精良堅緻 d.緑掛った透明釉を薄く施釉 f.口縁部片 g.竜泉窯
11	14	第2面 遺構13	青磁 碗	—	—	—	a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 c.暗灰色 d.淡緑色・内外面口唇部近くに貫入 e.良好 f.口縁部片 g.内外面無文・焼成前に器面に傷が入っていた様子で均一に施釉されていない・竜泉窯
11	15	第2面 遺構13	山茶碗	—	—	—	a.ロクロ b.砂粒・白色粒・長石 c.赤茶褐色 e.良好 f.口縁部小片 g.7形式
11	16	第2面 遺構13	東遠系 皿	—	—	—	a.ロクロ b.白色粒・黒色粒 良土 c.灰色 e.良好 f.口縁部
11	17	第2面 遺構13	山皿	—	—	—	a.ロクロ b.砂粒・白色粒・黒色粒 c.灰色 e.良好 f.口縁部 g.内側降灰あり・5形式
11	18	第2面 遺構13	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片 g.内側降灰あり・胎土がⅠ類に近似していたためⅠ類として提示したが口唇部形に疑問が残る
11	19	第2面 遺構13	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a.輪積み b.茶褐色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁部小片

単位 (cm)

遺物観察表

図版番号	No.	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.軸調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
11	20	第2面 遺構13	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰黒色 砂粒・白色粒・黒色粒 c.灰黒色 e.硬質 f.口唇部～頸部小片 g.5形式
11	21	第2面 遺構13	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石 c.灰色 e.硬質 f.口縁部小片 g.6a形式
11	22	第2面 遺構13	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・長石・石英 c.赤褐色 e.硬質 f.肩部片 g.格子に菊花の押印
11	23	第2面 遺構13	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰黒色 砂粒・白色粒・黒色粒・長石・石英 c.灰黒色 e.硬質 f.胴部片 g.格子に不規則な斜線の押印
11	24	第2面 遺構13	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・長石・石英・小石粒 c.灰色 e.硬質 f.胴 体部小片 g.格子に不規則な斜線の押印
11	25	第2面 遺構13	鉄製品 釘	3.8	0.5	0.3	g.断面方形
11	26	第2面 遺構13	鉄製品 釘	5.6	0.4	0.2	g.断面方形
11	27	第2面 遺構13	鉄製品 釘	6.7	0.4	0.3	g.断面方形
11	28	第2面 遺構13	銭	径2.65	孔径0.5×0.5		g.天聖元宝 初铸北宋1023年 篆書
11	29	第2面 遺構16	かわらけ	(7.8)	(5.6)	1.6	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・黒色粒・雲母 c.黄 橙色 e.良好 f.1/3 g.全体摩耗する・口唇部一部に煤痕
11	30	第2面 遺構16	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 白色粒・黒色粒・長石・小石粒 c.灰色 e.硬質 f.口縁部小片 g.6a形式
11	31	第2面 遺構16	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.茶褐色 砂粒・白色粒・黒色粒・長石 c.茶褐色 e.硬質 f.堅部片 g.格 子に不規則な斜線の押印
11	32	第2面 遺構16	骨製品 筭	4.65	1.25	0.25	g.端部に孔径があく・瓶面片側は平に整形・片側は中央に窪みを成形・丁寧な造りで ある
12	1	第2面 遺構22・ 28一括	かわらけ	(7.6)	(6.0)	1.6	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/8
12	2	第2面 遺構22・ 28一括	かわらけ	(12.0)	(7.0)	3.2	a.ロクロ b.微砂・白色粒・海綿骨芯・雲母 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/6
12	3	第2面 遺構22・ 28一括	かわらけ	12.3	7.0	3.3	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・海綿骨芯・小石粒・雲母 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.ほぼ方形 g.内外口唇部黒色に変色・外底面に線刻・外側面一部にも刃 物痕
12	4	第2面 遺構22・ 28一括	かわらけ	(13.0)	(6.0)	3.4	a.手づくね・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/8
12	5	第2面 遺構22・ 28一括	青磁 櫛搔文皿	(10.2)	(4.0)	2	a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 気孔径あり c.淡緑色 d.淡緑色 e.良好 f.1/3 g.底 部は焼成前に釉を掻き取っている・内面見込みに櫛状工具による文様と片切り彫によ る線文・同安窯系
12	6	第2面 遺構22・ 28一括	青磁 折縁鉢	—	—	—	a.ロクロ b.白色 精良堅緻 気孔径あり d.淡青色 e.良好 f.口縁部片 g.内面蓮弁 文
12	7	第2面 遺構22・ 28一括	白磁 口元皿	—	—	—	a.ロクロ b.白色 精良堅緻 c.灰白色 d.白色 e.良好 f.口縁部片
12	8	第2面 遺構22・ 28一括	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石・礫 c.暗褐色 e.硬質 f.口縁部片
12	9	第2面 遺構22・ 28一括	常滑 片口鉢Ⅰ類	(24.0)	—	—	a.輪積み b.灰白色 砂粒・白色粒・長石 c.灰白色 d.淡緑色 e.硬質 f.口縁部片 g.6a形式
12	10	第2面 遺構22・ 28一括	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰白色 砂粒・白色粒・長石 c.灰白色 e.硬質・良好 f.口縁部片
12	11	第2面 遺構22・ 28一括	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a.輪積み b.茶褐色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁部片
12	12	第2面 遺構22・ 28一括	山茶碗	—	(6.8)	—	a.輪積み b.灰白色 砂粒・白色粒・長石 c.灰白色 d.淡緑色の降灰 e.硬質 f.口 縁部 g.高台壘み付きモミガラ痕・高台部貼り付け
12	13	第2面 遺構22・ 28一括	鉄製品 釘	(6.5)	0.5	0.4	g.断面方形
12	14	第2面 遺構28	かわらけ	(7.5)	(5.2)	2.0	a.ロクロ・内底回転ナデ・外底部一部ナデ b.微砂・白色粒・土丹粒・海綿骨芯・小石 粒 粗土 c.黄橙色 e.良好 f.2/3
12	15	第2面 遺構28	かわらけ	(12.7)	(9.1)	3.5	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・土丹粒・海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/8
12	16	第2面 遺構28	かわらけ	(13.2)	(9.0)	3.4	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・土丹粒・海綿骨芯・小石粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.1/4
12	17	第2面 遺構28	かわらけ	(13.2)	(7.8)	4.0	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.1/3
12	18	第2面 遺構28	かわらけ	(13.9)	(9.0)	3.6	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・土丹粒・海綿骨芯 良土 c.淡橙色 e.良好 f.1/3
12	19	第2面 遺構28	青磁 鎚蓮弁文碗	—	—	—	a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 細かい気孔径あり d.淡緑色 f.口縁部片 g.二次焼 成を受けたためか内外面に共に釉が変色・竜泉窯

単位 (cm)

遺物観察表

図版 番号	No.	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
12	20	第2面 遺構28	青白磁 梅瓶	—	—	—	a.口クロ b.精良堅緻 c.白色 d.淡青色 f.胴体部片
12	21	第2面 遺構28	常滑 広口壺	(23.0)	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石・石英 c.褐色 d.灰緑色 e.硬質 f.口縁部片
12	22	第2面 遺構28	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・土丹粒・雲母・長石 c.暗灰褐色 d.降灰 e.硬質 f.口縁部片
12	23	第2面 遺構28	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.黒灰色 砂粒・長石・石英 c.黒褐色 d.降灰 e.硬質 f.口縁部片
12	24	第2面 遺構28	常滑 片口鉢Ⅰ類	(21.6)	—	—	a.輪積み b.淡黄褐色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.淡褐色 e.硬質 f.口縁部片
12	25	第2面 遺構28	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・雲母・長石 c.灰色 d.降灰 e.硬質 f.口縁部片
12	26	第2面 遺構28	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石 c.灰色 d.透明・淡緑色の降灰 e.硬質 f.口縁部片
12	27	第2面 遺構28	渥美 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒 白色粒 長石 c.暗灰色 d.淡緑色 e.硬質 f.口縁部片 g.2b形式
12	28	第2面 遺構28	鉄製品 釘	(4.4)	0.8	0.8	g.断面方形
12	29	第2面 遺構28	鉄製品 釘	(7.3)	0.4	0.4	g.断面方形
12	30	第2面 遺構28	鉄製品 釘	(7.2)	0.45	0.45	g.断面方形
12	31	第2面 遺構28	鉄製品 刀子	(20.7)	1.3~2.5	0.5	
13	1	第2面 遺構22	かわらけ	7.3	4.2	1.6	a.口クロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・海綿骨芯 良土 c.橙色 e.良好 f.5/6
13	2	第2面 遺構22	かわらけ	(8.2)	(6.3)	1.7	a.口クロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄褐色 e.良好 f.1/6
13	3	第2面 遺構22	かわらけ	8.2	6.0	1.8	a.口クロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.褐色 e.良好 f.5/6
13	4	第2面 遺構22	かわらけ	(9.2)	(7.0)	1.7	a.口クロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.淡黄色 e.良好 f.1/5
13	5	第2面 遺構22	かわらけ	(11.0)	(6.0)	3.1	a.口クロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・海綿骨芯 良土 c.淡黄色 e.良好 f.1/60
13	6	第2面 遺構22	かわらけ	(12.0)	(8.0)	3.3	a.口クロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 f.2/3
13	7	第2面 遺構22	かわらけ	(12.0)	(8.6)	3.9	a.口クロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・海綿骨芯 良土 c.褐色 e.良好 f.1/2
13	8	第2面 遺構22	かわらけ	(9.7)	4.6	1.9	a.手づくね・内底部回転ナデ・外底部指頭痕 b.微砂・白色粒・海綿骨芯・雲母 良土 c.淡黄色 e.良好 f.1/2
13	9	第2面 遺構22	青磁 鎗蓮弁文碗	—	—	—	a.口クロ b.精良堅緻 c.灰色 d.淡青色 e.良好 f.口縁部片
13	10	第2面 遺構22	白磁 口元碗	—	—	—	a.口クロ b.精良堅緻 c.灰白色 d.透明 e.良好 f.口縁部片
13	11	第2面 遺構22	白磁 口元皿	(11.0)	(6.1)	3.0	a.口クロ b.精良堅緻 c.灰緑色 d.透明 e.良好 f.1/2
13	12	第2面 遺構22	瀬戸 入子	—	—	—	a.口クロ b.微砂 良土 c.灰白色 e.良好 f.口縁部片 g.内面に赤色の色素付着・顔料か
13	13	第2面 遺構22	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・長石 良土 c.茶灰色 e.良好 f.口縁部片 g.5形式
13	14	第2面 遺構22	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・雲母 c.暗褐色 d.降灰 e.硬質 f.口縁部片 g.5形式
13	15	第2面 遺構22	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・長石 良土 c.灰褐色 e.良好 f.口縁部片 g.6a形式
13	16	第2面 遺構22	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・長石・粘性強 良土 c.暗褐色 e.良好 f.口縁部片 g.6a形式
13	17	第2面 遺構22	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・長石 良土 c.灰色 e.良好 f.胴部片 g.格子に斜線の押印
13	18	第2面 遺構22	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・長石 良土 c.暗灰色 e.良好 f.胴部片 g.格子の押印
13	19	第2面 遺構22	常滑 片口鉢Ⅰ類	(31.0)	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石 c.灰色 d.降灰 e.硬質
13	20	第2面 遺構22	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・長石・雲母 やや粗土 c.灰色 e.良好 f.口縁部片
13	21	第2面 遺構22	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・長石 c.茶褐色 e.良好 f.口縁部片
13	22	第2面 遺構22	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・小石粒・礫 やや粗土 c.灰色 d.灰緑色 e.良好 f.口縁部片
13	23	第2面 遺構22	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・小石粒・礫 やや粗土 c.灰色 d.灰緑色 e.良好 f.口縁部片
13	24	第2面 遺構22	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・長石・石英 良土 c.灰色 e.良好 f.口縁部片
13	25	第2面 遺構22	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・礫 良土 c.暗褐色 e.良好 f.口縁部片
13	26	第2面 遺構22	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・長石・石英 やや粗土 c.茶褐色 d.暗褐色 e.良好 f.口縁部片

単位 (cm)



遺物観察表

図版番号	No.	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.軸調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
13	27	第2面遺構22	渥美片口鉢	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・雲母・小石粒 良土 c.灰色 e.良好 f.口縁部片
13	28	第2面遺構22	渥美片口碗	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒 c.灰褐色 e.良好 f.口縁部片
13	29	第2面遺構22	瓦器黒縁皿	(6.7)	—	—	b.精緻 e.良好 f.口縁部片・小型
13	30	第2面遺構22	石製品碗	—	—	—	g.僅かに陸部分立ち上がりが遺存
13	31	第2面遺構22	鉄製品箸状	(17.8)	(0.6)	(0.7)	g.断面方形
13	32	第2面遺構22	鉄製品釘	4.9	(0.5)	(0.3)	g.断面方形
13	33	第2面遺構22	鉄製品釘	(5.1)	0.5	0.5	g.断面方形
13	34	第2面遺構22	鉄製品釘	(5.4)	(0.7)	(0.8)	g.断面方形
13	35	第2面遺構22	鉄製品釘	(5.1)	(1.1)	(0.9)	g.断面方形
13	36	第2面遺構22	鉄製品釘	(5.2)	(0.8)	(0.5)	g.断面方形
13	37	第2面遺構22	鉄製品釘	(5.4)	(0.7)	(0.7)	g.断面方形
13	38	第2面遺構22	鉄製品不明	(6.8)	(1.3)	(0.6)	g.先端部環状になり、端部は二股に分かれる・断面方形
14	1	第2面遺構24	かわらけ	(8.2)	(5.1)	2.0	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/5
14	2	第2面遺構24	かわらけ	(12.8)	—	—	a.手づくね・内底ナデ b.微砂・白色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4
14	3	第2面遺構24	瀬戸折縁深皿	—	—	—	a.ロクロ b.砂粒・白色粒 良土 c.灰白色 d.灰緑色 e.良好 f.口縁部片
14	4	第2面遺構24	瀬戸折縁深皿	—	—	—	a.ロクロ・外底部篋による整形 b.白色粒 良土 c.灰白色 d.灰緑色 e.良好 f.底部片 g.見込み周囲に3本の沈線が廻る
14	5	第2面遺構24	石製品用途不明	(3.6)	(3.2)	(1.5)	g.全体に磨耗・細かな削痕が残る
14	6	第2面遺構24	石製品基石	1.9	1.8	0.5	g.黒色
14	7	第2面遺構24	鉄製品釘	(6.7)	(0.6)	(0.6)	g.断面方形
14	8	第2面遺構24	銭	径2.4	孔径0.8×0.8		g.天聖元寶 初鑄年1023年 篆書
14	9	第2面遺構24	銭	径2.4	孔径0.6×0.6		g.景祐元寶 初鑄年1034年 真書
14	10	第2面遺構24	銭	径2.4	孔径0.8×0.8		g.皇宋通寶 初鑄年1038年 篆書
14	11	第2面遺構24	銭	径2.4	孔径0.6×0.7		g.皇宋通寶 初鑄年1038年 真書
14	12	第2面遺構24	銭	径2.5	孔径0.7×0.7		g.皇宋通寶 初鑄年1038年 真書
14	13	第2面遺構24	銭	径2.3	孔径0.7×0.7		g.治平元寶 初鑄年1064年 篆書
14	14	第2面遺構24	銭	径2.4	孔径0.7×0.7		g.元祐通寶 初鑄年1086年 行書
14	15	第2面遺構25	かわらけ	(8.4)	(7.0)	1.6	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.橙色 e.良好 f.1/5
14	16	第2面遺構25	かわらけ	(8.0)	(6.6)	1.5	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/6 g.内外面全体に煤付着・内底部に穿孔・穿孔断面にも煤付着
14	17	第2面遺構25	かわらけ	(8.1)	(5.2)	1.6	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4
14	18	第2面遺構25	かわらけ	(12.8)	(8.2)	3.3	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.4/5
14	19	第2面遺構25	かわらけ	(10.0)	(6.2)	2.9	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/5
14	20	第2面遺構25	かわらけ	—	(7.0)	—	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.4/12・底面に穿孔あり・内外面共に黒色に変色
14	21	第2面遺構25	青磁鎚蓮弁文碗	—	—	—	a.ロクロ b.精良堅緻 c.灰白色 d.淡緑色 e.良好 f.口縁部片 g.竜泉窯
14	22	第2面遺構25	青磁鎚蓮弁文碗	—	—	—	a.ロクロ b.精良堅緻 c.灰白色 d.淡緑色 e.良好 f.口縁部片 g.竜泉窯
14	23	第2面遺構25	鉄製品釘	(4.7)	(0.7)	(0.5)	g.断面方形
14	24	第2面遺構25	鉄製品釘	(4.2)	(0.9)	(0.9)	g.断面方形
14	25	第2面遺構25	鉄製品釘	(5.7)	(0.4)	(0.3)	g.断面方形
14	26	第2面遺構25	鉄製品釘	(4.4)	(0.75)	(0.85)	g.断面方形

単位 (cm)

遺物観察表

図版 番号	No.	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
15	1	第2面 遺構38・ 39一括	かわらけ	(7.8)	(6.0)	2.0	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.1/8
15	2	第2面 遺構38・ 39一括	かわらけ	(7.4)	(6.0)	1.6	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/6
15	3	第2面 遺構38・ 39一括	かわらけ	(7.2)	(5.0)	1.7	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4 g.内外口縁部辺黒色に変色
15	4	第2面 遺構38・ 39一括	かわらけ	(10.8)	(6.4)	4.1	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・長石 やや粗土 c.灰白色 e.良好 f.1/5 g.硬質な胎土・薄い器壁・白かわらけ
15	5	第2面 遺構38・ 39一括	青磁鉢	—	—	—	a.ロクロ b.白色 黒色粒 精良堅緻 d.淡緑灰色 内外貫入 e.良好・堅緻 f.口縁部片 g.内面蓮弁文・竜泉窯
15	6	第2面 遺構38・ 39一括	常滑甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・長石・石英・小石粒 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片 g.5形式
15	7	第2面 遺構38・ 39一括	常滑甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・長石・石英・小石粒 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片 g.5形式
15	8	第2面 遺構38・ 39一括	常滑甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 c.暗褐色 e.硬質 f.口縁部片 g.6b形式
15	9	第2面 遺構38・ 39一括	常滑甕	—	—	—	a.輪積み b.灰白色 砂粒・白色粒・長石 c.灰白色 d.降灰 e.硬質 f.口縁部片 g.6a形式
15	10	第2面 遺構38・ 39一括	常滑甕	—	—	—	a.輪積み b.黄灰色 砂粒・白色粒・長石 c.暗褐色 e.硬質 f.胴体部片 g.格子文の押印
15	11	第2面 遺構38・ 39一括	常滑 転用品	—	—	—	g. 常滑甕、胴部片を転用・胴部片周囲が摩耗・用途不明
15	12	第2面 遺構38・ 39一括	銭	径2.4	孔径0.7×0.7		g.元豊通寶 初鑄1078年 行書
15	13	第2面 遺構38・ 39一括	鉄製品 釘	(4.4)	0.7	0.7	g.断面方形
15	14	第2面 遺構38・ 39一括	鉄製品 釘	(6.4)	1.0	0.95	g.断面方形
15	15	第2面 遺構38・ 39一括	鉄製品 釘	(4.5)	1.0	0.8	g.断面方形
15	16	第2面 遺構38	かわらけ	7.7	4.9	1.7	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・海綿骨芯 良土 c.橙色 e.良好 f.完形
15	17	第2面 遺構38	山茶碗	—	—	—	a.ロクロ b.灰色 砂粒・雲母・長石 c.灰白色 e.硬質 f.口縁部片
15	18	第2面 遺構39	かわらけ	8.8	(6.9)	1.8	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.橙色 e.良好 f.1/8
15	19	第2面 遺構39	かわらけ	7.4	(4.6)	1.5	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.1/8
15	20	第2面 遺構39	かわらけ	(13.0)	(7.4)	3.05	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.1/3
15	21	第2面 遺構39	常滑 甕	(49.0)	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石・石英 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁部片
15	22	第2面 遺構39	土製品 土錘	3.9	2.2	孔径0.7	
15	23	第2面 遺構39	火打石?	3.1	2.4	2.0	
15	24	第2面 遺構39	鉄製品 釘	(3.9)	0.7	0.6	g.断面方形
15	25	第2面 遺構39	鉄製品 釘	(5.9)	0.9	0.5	g.断面方形
15	26	第2面 遺構39	鉄製品 釘	13.2	1.8	0.7	g.断面方形
15	27	第2面 遺構45	常滑 片口鉢I類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石・石英・小石粒 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片
15	28	第2面 遺構45	常滑 壺	—	—	—	a.輪積み b.灰褐色 砂粒・白色粒 c.淡褐色 e.硬質 f.胴体部片 肩部に4条の沈線
15	29	第2面 遺構45	鉄製品 釘	(5.3)	0.9	0.8	g.断面方形・全体煤付着
16	1	第2面 遺構34	かわらけ	(12.6)	(8.4)	2.75	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.橙色 e.やや甘い f.1/6
16	2	第2面 遺構34	常滑 片口鉢I類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片

単位 (cm)

遺物観察表

図版番号	No.	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.軸調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
16	3	第2面 遺構34	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a.輪積み b.茶褐色 砂粒・長石・石英・礫 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁部片
16	4	第2面 遺構34	鉄製品 釘	(3.7)	0.4	0.4	g.断面方形
16	5	第2面 遺構34	鉄製品 釘	(3.5)	0.6	0.6	g.断面方形
16	6	第2面 遺構40	かわらけ	(7.8)	(6.2)	1.7	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4
16	7	第2面 遺構40	かわらけ	—	—	—	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.底部片 g.内底に線刻残る
16	8	第2面 遺構40	青白磁 坏	—	—	—	b.灰白色 黒色粒 精良堅緻 d.緑灰色透明釉を薄く施釉 f.口縁部片 g.口唇部稜 花状・内外面蓮弁文
16	9	第2面 遺構40	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	b.砂粒・白色粒・小石粒 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片
16	10	第2面 遺構40	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰白色 砂粒・白色粒・石英 c.灰色 d.灰釉 e.硬質 f.口縁部片
16	11	第2面 遺構40	常滑 壺	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石・炭粒 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁部片
16	12	第2面 遺構40	鉄製品 釘	4.3	0.4	0.4	g.断面方形
16	13	第2面 遺構40	鉄製品 釘	(5.0)	0.5	0.3	g.断面方形
16	14	第2面 遺構40	加工骨 用途不明	13.5	1.5	1.3	g.骨種不明・端部に刻みが入る
17	1	第2面 面上	瀬戸 小型水注	1.4	2.2	2.7	a.ロクロ・底部糸切り b.灰白色 精良堅緻 c.淡緑色 d.淡緑色 e.良好 f.注口部と 口唇部一部欠損 g.外側面上部全体に竹管文を配す・注口部貼り付け痕あり・二次 焼成を受けたか・釉が一部剥離している
17	2	第2面 面上	常滑 甕	(49.6)	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・雲母・長石 c.灰褐色 d.暗褐色 e.硬質 f.口縁部 ～胴部 g.格子に斜線の押印
17	3	第2面 構成土	かわらけ	(9.0)	—	—	a.手づくね・内底ナデ b.微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.
17	4	第2面 構成土	かわらけ	(8.2)	(6.8)	1.5	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4
17	5	第2面 構成土	かわらけ	(8.0)	(6.8)	1.7	a.ロクロ・内底強くなデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4
17	6	第2面 構成土	かわらけ	(13.1)	(8.8)	1.9	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯・小石粒 やや 粗土 c.橙色 e.良好 f.1/4
17	7	第2面 構成土	青磁 鎚蓮弁文碗	(15.0)	—	—	a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 気孔径あり c.灰白色 d.灰緑色 e.良好 f.口縁部片 g.雑な彫り方で蓮弁文を形作っている・竜泉窯
17	8	第2面 構成土	白磁 口元皿	—	—	—	a.ロクロ b.精良堅緻 c.灰白色 d.灰白色 f.口縁部片
17	9	第2面 構成土	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰白色 砂粒・白色粒・長石・ c.茶褐色 e.硬質 f.口縁部片
17	10	第2面 構成土	常滑 片口Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片
17	11	第2面 構成土	山茶碗	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片
17	12	第2面 構成土	伊勢系 土鍋	—	—	—	a.輪積み b.灰白色 砂粒・長石(多) c.淡黄橙色 e.硬質 f.口縁部片 g.外面煤付 着
17	13	第2面 構成土	産地不明 鍔釜	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石・ c.淡黄橙色 e.硬質 f.口縁部(鍔部)片・土 鍋に近似する胎土を持つ・器壁厚い・草戸千軒遺跡出土の土製鍋B類に器形は似る か・14世紀後半から15世紀
17	14	第2面 構成土	鉄製品 釘	(6.6)	0.5	0.3	g.断面方形
17	15	第2面 構成土	鉄製品 釘	(7.0)	0.5	0.3	g.断面方形
17	16	第2面 構成土	鉄製品 釘	(9.1)	0.9	0.9	g.断面方形
18	1	第3面 遺構31	かわらけ	(7.8)	(6.2)	1.6	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・土丹粒・雲母・海綿 骨芯 良土 c.橙色 e.良好 f.1/3 g.口唇部油煤痕
18	2	第3面 遺構31	かわらけ	(9.5)	(7.8)	1.65	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/8
18	3	第3面 遺構31	かわらけ	7.5	5.7	1.5	a.ロクロ・内底横ナデの後見込み周囲を回転ナデ・底部板状圧痕 b.微砂・白色粒・雲 母・海綿骨芯 良土 c.橙色 e.良好 f.ほぼ完形
18	4	第3面 遺構31	かわらけ	(8.4)	(5.6)	1.6	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・海綿骨芯・小石粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4
18	5	第3面 遺構31	かわらけ	(8.3)	(5.6)	2.1	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒 やや粗土 c.黄・橙色 e.良好 f.1/6
18	6	第3面 遺構31	かわらけ	(8.0)	(5.3)	1.8	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・土丹粒 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.1/6
18	7	第3面 遺構31	かわらけ	7.6	4.8	2.2	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好 f.2/3
18	8	第3面 遺構31	かわらけ	7.7	4.9	2.2	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・海綿骨芯 良土 c. 橙色 e.良好 g.ほぼ完形
18	9	第3面 遺構31	かわらけ	(7.4)	(4.8)	2.0	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.赤橙色 e.良好 f.1/2

単位 (cm)

遺物観察表

図版 番号	No.	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
18	10	第3面 遺構31	かわらけ	(12.6)	—	—	a.手づくね・内底ナデ b.微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.やや甘い f.1/6
18	11	第3面 遺構31	青磁 碗	—	(3.5)	—	b.灰白色 黒色粒 精良堅緻 d.淡青色 g.底部貼り付け痕・高台内部露胎・曇み付 け露胎・内外面文様不明
18	12	第3面 遺構31	白磁 口元皿	—	—	—	a.口クロ b.白色 黒色粒 精良堅緻 d.半透明釉やや薄く施釉 f.口縁部片
18	13	第3面 遺構31	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・雲母・小石粒 c.灰色 d.降灰 e.硬質 f.口縁部片
18	14	第3面 遺構31	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石 c.褐色 e.硬質 f.口縁部片
18	15	第3面 遺構31	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・土丹粒・長石 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片
18	16	第3面 遺構31	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a.輪積み b.茶褐色 砂粒・白色粒・長石・石英 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁部片
18	17	第3面 遺構31	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a.輪積み b.淡黄橙色 砂粒・白色粒・小石粒・長石・礫 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片
18	18	第3面 遺構31	常滑甕 転用品	6.4	6.4	1.3	b.灰白色 砂粒・白色粒・土丹粒・雲母・長石 c.褐色 e.硬質 f.胴部片 g.端部摩 耗・端部のみを使用か
18	19	第3面 遺構31	備前 播鉢	—	—	—	a.輪積み b.灰白色 砂粒・雲母・長石 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁部片 g.条線単位 不明
18	20	第3面 遺構31	亀山 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰白色 砂粒・雲母・小石粒 c.灰色 e.硬質 f.胴部片
18	21	第3面 遺構31	瓦器質 火鉢	—	—	—	b.灰色 砂粒・白色粒・小石粒 c.橙色 e.良好 f.口縁部片
18	22	第3面 遺構31	石製品 スタンプ	4.0	(1.0)	(0.8)	g.滑石製・文様不明・桐文か・貫通した孔径があく
18	23	第3面 遺構31	滑石	(3.9)	5.3	(0.8)	g.滑石鍋転用途中の端材か?・一部に孔径痕
18	24	第3面 遺構31	鉄製品 釘	(6.9)	0.6	0.3	g.断面方形
18	25	第3面 遺構31	鉄製品 釘	(6.3)	0.6	0.6	g.断面方形
18	26	第3面 遺構31	鉄製品 釘	(6.6)	0.6	0.4	g.断面方形
18	27	第3面 遺構31	鉄製品 釘	(4.9)	0.6	0.6	g.断面方形
18	28	第3面 遺構31	鉄製品 釘	(4.6)	0.65	0.6	g.断面方形
18	29	第3面 遺構31	鉄製品 釘	(4.5)	0.9	0.9	g.断面方形
18	30	第3面 遺構31	鉄製品 釘	4.8	0.6	0.6	g.断面方形
18	31	第3面 遺構31	鉄製品 釘	(3.4)	0.6	0.4	g.断面方形
18	32	第3面 遺構31	鉄製品 釘	(4.4)	0.5	0.3	g.断面方形
18	33	第3面 遺構31	鉄製品 釘	(3.1)	0.7	0.5	g.断面方形
18	34	第3面 遺構31	鉄製品 釘	(3.2)	0.5	0.5	g.断面方形
18	35	第3面 遺構31	鉄製品 釘	(4.1)	0.7	0.65	g.断面方形
18	36	第3面 遺構31	鉄製品 釘	(4.2)	0.6	0.6	g.断面方形
18	37	第3面 遺構31	鉄製品 釘	(5.5)	0.6	0.4	g.断面方形
18	38	第3面 遺構31	鉄製品 釘	(5.0)	0.7	0.7	g.断面方形
18	39	第3面 遺構31	鉄製品 釘	(5.5)	1.0	1.5	g.全体に厚く錆付着
18	40	第3面 遺構31	鉄製品 掛け金具	(8.5)	0.7	0.6	g.断面方形
18	41	第3面 遺構31	鉄製品 刀子	(11.5)	2.1	0.4	
19	42	第3面 遺構31	銭	径2.4	孔径0.7×0.7		g.開元通宝 初鑄唐621年
19	43	第3面 遺構31	銭	径2.4	孔径0.7×0.7		g.開元通宝 初鑄唐621年
19	44	第3面 遺構31	銭	径2.3	孔径0.7×0.7		g.乾元重寶 初鑄唐759年
19	45	第3面 遺構31	銭	径2.4	孔径0.6×0.6		g.至道元寶 初鑄995年 草書
19	46	第3面 遺構31	銭	—	—	—	g.●元●寶
19	47	第3面 遺構31	銭	径2.3	孔径0.7×0.7		g.皇宋通宝 初鑄1038年 真書

単位 (cm)



遺物観察表

図版番号	No.	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.軸調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
19	48	第3面 遺構31	銭	径2.4	孔径0.7×0.7		g.皇宋通宝 初鑄1038年 真書
19	49	第3面 遺構31	銭	径2.3	孔径0.65×0.65		g.皇宋通寶 初鑄1038年 真書
19	50	第3面 遺構31	銭	径2.3	孔径0.6×0.6		g.嘉祐元寶 初鑄1056年 篆書
19	51	第3面 遺構31	銭	径2.4	孔径0.7×0.7		g.元豊通寶 初鑄1078年 行書
21	1	第3面 遺構44	かわらけ	(11.2)	(8.0)	3.5	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・海綿骨芯・小石粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.2/3 g.外面下部に指頭痕1ヶ所
21	2	第3面 遺構44	青磁 碗	(13.7)	—	—	b.灰白色 精良堅緻 d.灰緑色半透明釉をやや薄く施釉 f.口縁部小片 g.竜泉窯・ 内外面無文
21	3	第3面 遺構44	瀬戸 卸皿	—	—	—	a.ロクロ b.灰白色 良土e.硬質 f.口縁部片
21	4	第3面 遺構44	瀬戸 縁釉小皿	(10.9)	—	—	a.ロクロ b.灰白色 砂粒 d.淡緑色 e. f.口縁部
21	5	第3面 遺構44	瀬戸 瓶子	—	(8.4)	—	a.ロクロ・底部糸切り痕 b.灰白色 砂粒 良土 d.淡灰緑色 e.良好 硬質
21	6	第3面 遺構44	瀬戸 播鉢	—	—	—	a.ロクロ b.黄橙色 砂粒・長石・小石粒 c.暗褐色 e.良好 f.底部片 g.条線単位不 明
21	7	第3面 遺構44	産地不明 壺	—	—	—	a.輪積み b.褐色 砂粒 c.褐色 e.硬質 f.底部片・常滑に色調は似るが胎土は精良 で褐釉、あるいは胎載か？
21	8	第3面 遺構44	常滑 片口鉢 I 類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・小石粒 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片
21	9	第3面 遺構44	石製品 砥石	(4.6)	2.2	1.8	g.中砥・上野産
21	10	第3面 遺構44 上層	かわらけ	(12.2)	—	—	a.手づくね b.微砂・海綿骨芯・小石粒 良好 c.黄橙色 e.良好 f.1/6
21	11	第3面 遺構44 上層	常滑 片口鉢 I 類	—	(13.0)	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・雲母・小石粒 c.灰色 e.硬質 f.底部1/4 g.内面 摩耗
21	12	第3面 遺構44 上層	常滑 片口鉢 I 類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 白色粒・長石・小石粒 c.灰色 e.硬質 f.底部～胴体部片
21	13	第3面 遺構44 上層	銭	径2.45	孔径0.65×0.65		g.皇宋通寶 初鑄年北宋1038年 篆書
21	14	第3面 遺構44 下層	かわらけ	(10.0)	(6.4)	4.0	a.ロクロ b.微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/6
21	15	第3面 遺構44 下層	かわらけ	(9.2)	(6.1)	3.8	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・海綿骨芯・小石粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4
21	16	第3面 遺構44 下層	かわらけ	(12.0)	(7.6)	4.0	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・雲母・海綿骨芯・小石粒 良好 c.黄橙色 e.やや粗土 f.1/2
21	17	第3面 遺構44 下層	瀬戸 折縁深皿	—	—	—	b.灰白色 精良堅緻 気孔径あり d.暗灰緑色 f.口縁部片
21	18	第3面 遺構44 下層	常滑 壺	—	—	—	a.輪積み b.灰黒色 砂粒・白色粒・長石粒・黒色粒 c.赤褐色 e.硬質 f.底部片
21	19	第3面 遺構44 下層	鉄宰	7.4	4.8	1.6	
21	20	第3面 遺構44 下層	土器質 鏝釜	—	—	—	b.砂粒・長石・小石 c.黄灰色 e.良好 f.口縁部片 g.胴部煤付着
21	21	第3面 遺構44 掘り方	かわらけ	6.4	3.8	2.0	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・海綿骨芯・小石粒 良土 c.橙色 e.良好 f.完形 g.器形歪み大
21	22	第3面 遺構44 掘り方	かわらけ	5.5	3.9	2.1	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・海綿骨芯・小石粒 や や粗土 c.橙色 e.良好 f.完形
21	23	第3面 遺構44 掘り方	瀬戸 折縁深皿	—	—	—	a.ロクロ b.灰白～灰色 d.灰緑色 e. f.底部片 g.内面釉刷毛塗り
22	1	第3面 遺構53	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.6	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・土丹粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/2
22	2	第3面 遺構53	かわらけ	(8.1)	(6.0)	1.6	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯・小 石粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4
22	3	第3面 遺構53	かわらけ	(8.2)	(6.5)	1.9	a.ロクロ・内底強くナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕・糸切り痕は薄い b.微砂・赤色粒・ 白色粒・雲母・海綿骨芯・小石粒 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/8
22	4	第3面 遺構53	かわらけ	(8.9)	(6.6)	1.7	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 や や粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4

単位 (cm)

遺物観察表

図版 番号	No.	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
22	5	第3面 遺構53	かわらけ	(8.9)	(7.3)	1.6	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・海綿骨芯・小石粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4
22	6	第3面 遺構53	かわらけ	(8.6)	(6.4)	1.9	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・海綿骨芯・雲母・小石粒 や や粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4
22	7	第3面 遺構53	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.8	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 や や粗土 c.橙色 e.良好 f.1/8 g.断面摩耗
22	8	第3面 遺構53	かわらけ	(8.6)	(5.6)	2.0	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・海綿骨芯・硬質 良土 c.黄灰色 e.良好 f.1/8
22	9	第3面 遺構53	かわらけ	(11.6)	(7.8)	3.3	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/3
22	10	第3面 遺構53	かわらけ	(12.2)	(7.0)	3.1	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/2
22	11	第3面 遺構53	かわらけ	(13.4)	(6.5)	3.3	a.手づくね・内底ナデ・外底部粗い整形 b.微砂・海綿骨芯・雲母 やや粗土 c.黄橙 色 e.良好 f.1/8
22	12	第3面 遺構53	白磁 口元皿	(11.0)	—	—	a.ロクロ b.白色 黒色粒 精良堅緻 d.白色 f.口縁部片
22	13	第3面 遺構53	青白磁 合子	—	—	—	a.ロクロ b.白色 黒色粒 精良堅緻 d.淡青色 f.蓋 g.頂部に文様
22	14	第3面 遺構53	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・小石粒 c.茶褐色 e.硬質 f.肩部片 g.格子の押 印
22	15	第3面 遺構53	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰褐色 砂粒・白色粒・長石 c.茶褐色 e.硬質 f.肩部片 g.格子の押 印
22	16	第3面 遺構53	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.淡灰褐色 e.硬質 f.肩部片 g.矢 羽根の押印
22	17	第3面 遺構53	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰白色 砂粒・白色粒・小石粒 c.茶褐色 d.緑灰色 e.硬質 f.肩部片 g.窯印か線刻あり・菊花と不明文様の押印
22	18	第3面 遺構53	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片
22	19	第3面 遺構53	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a.輪積み b.灰褐色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.茶色 e.硬質 f.口縁部片
22	20	第3面 遺構53	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a.輪積み b.灰褐色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁部片
22	21	第3面 遺構53	常滑片口鉢 転用品	—	—	—	g.口縁部片転用品・口唇部摩耗・断面工具による刻みが入る
22	22	第3面 遺構53	石製品 砥石	3.5	3.3	0.5	c.淡橙色 g.仕上砥・鳴滝産・側面切り出し痕
22	23	第3面 遺構53	鉄製品 釘	6.8	0.9	0.8	g.断面方形
24	1	第3面 遺構46	かわらけ	(7.9)	(6.2)	1.4	a.ロクロ・内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良 土 c.橙色 e.良好 f.1/4
24	2	第3面 遺構46	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.5	a.ロクロ・内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母 やや粗土 c. 橙色 e.良好 f.1/3 g.内外面黒色に変色
24	3	第3面 遺構46	青磁 劃花文碗	(15.0)	—	—	a.ロクロ b.灰白色 黒色粒 精良堅緻 気孔あり d.緑灰色 e.良好 f.口縁部片 g.同安窯系
24	4	第3面 遺構46	青磁 碗	—	(5.4)	—	a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 気孔あり d.緑灰色 e.良好 f.底部片 g.高台底部・ 高台壘み付き露胎 竜泉窯
24	5	第3面 遺構46	鉄製品 釘	(5.3)	1.1	0.8	g.断面方形
24	6	第3面 遺構46	鉄製品 釘	(5.4)	0.9	0.8	g.断面方形
24	7	第3面 遺構46	鉄製品 釘	(4.5)	0.7	0.9	g.断面方形
24	8	第3面 遺構50	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.85	a.ロクロ・内底回転ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.灰褐色 e.良 好 f.1/4
24	9	第3面 遺構50	白磁 口元碗	—	—	—	a.ロクロ b.堅緻 c.灰白色 d.透明 e.良好 f.口縁部片
24	10	第3面 遺構50	青白磁 合子蓋	—	—	—	a.ロクロ b.堅緻・白色粒・黒色粒 c.淡青色 d.青白色 e.良好 f.胴部片・蓋頂部に 文様
24	11	第3面 遺構50	常滑 片口Ⅱ類	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・長石 c.灰黒色 e.硬質 f.口縁部片 g.外面筒による整形 痕
24	12	第3面 遺構50	常滑 甕	(54.0)	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・長石・泥岩粒 c.灰褐色 e.良好 f.口縁部片
24	13	第3面 遺構50	東幡系 鉢	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・石英 c.灰褐色 e.良好 f.口縁部片
24	14	第3面 遺構50	石製品 砥石	(4.5)	(2.6)	1.8	g.中砥 上野産
24	15	第3面 遺構50	石製品 砥石	(6.7)	(5.2)	3.3	g.中砥 伊予産
24	16	第3面 遺構50	鉄製品 釘	—	—	—	
24	17	第3面 遺構50	鉄製品 釘	—	—	—	
24	18	第3面 遺構57	青磁 皿	—	—	—	a.ロクロ b.白色 黒色粒 精良堅緻 d.淡緑色 f.口縁部小片 g.内面上部に沈線が 廻る 同安窯
24	19	第3面 遺構57	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・雲母・長石・小石粒・礫 c.茶褐色 d.暗灰緑色 e. 硬質 f.肩部片 g.2b形式

単位 (cm)

遺物観察表

図版番号	No.	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.軸調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
24	20	第3面 遺構57	常滑 壺	—	(7.8)	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・雲母・長石・小石粒 c.茶褐色 e.硬質 f.底部片 g.外底部はがれ砂付着
24	21	第3面 遺構57	山茶碗	—	—	—	a.ロクロ b.灰白色 砂粒・白色粒・雲母 c.灰白色 e.良好 硬質 f.口縁部片
24	22	第3面 遺構57	鉄製品 刀子	(6.2)	2.2	0.5	
24	23	第3面 遺構57	須恵器 甕	—	—	—	a.ロクロ b.褐色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.暗灰色 e.良好 f.胴部片
24	24	第3面 遺構59	青磁 鎗連弁文碗	—	—	—	a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.淡緑色 f.口縁部小片・竜泉窯
24	25	第3面 遺構59	青磁 碗	—	—	—	a.ロクロ b.灰白色 黒色粒 精良堅緻 d.淡緑色 f.口縁部 g.内面片彫りで草花文・竜泉窯 口縁部輪花型
24	26	第3面 遺構65	かわらけ	(6.5)	(5.2)	1.7	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 f.1/6
24	27	第3面 遺構65	かわらけ	11.8	7.2	3.2	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・黒色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.橙色 e.良好 f.ほぼ完形 g.口唇部1か所に打ち掻き痕・器壁上部に一個所焼成後に穿孔・外底部中央に凹みあり・穿孔途中か・外側面下部一部に筥状工具による整形痕
24	28	第3面 遺構65	かわらけ	(13.0)	—	—	a.手づくね b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.橙色 e.良好 f.1/8
24	29	第3面 遺構65	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.暗灰色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.茶褐色 d.暗灰緑色 e.硬質 f.口縁部片
24	30	第3面 遺構65	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.灰色 e.硬質 f.肩部片 g.格子に不規則な斜線の押印
24	31	第3面 遺構65	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・長石・小石粒 c.茶褐色 e.硬質 f.底部片
24	32	第3面 遺構65	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a.輪積み b.淡灰色 砂粒・白色粒・雲母・長石 c.茶褐色 e.硬質 f.口縁部片
24	33	第3面 遺構65	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a.輪積み b.茶褐色 砂粒・白色粒・長石(多) c.黒灰色 e.硬質 f.口縁部片
24	34	第4面 遺構65	鉄製品 釘	(6.1)	0.6	0.5	g.断面方形
24	35	第3面 遺構70	かわらけ	(9.5)	(6.0)	1.8	a.ロクロ・内底強クナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・海綿骨芯 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 f.1/2 g.内面口唇部黒色に変色
24	36	第3面 遺構74	渥美 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.暗灰褐色 d.灰緑色 e.硬質 f.口縁部片
24	37	第3面 遺構76	かわらけ	(12.8)	(7.0)	2.8	a.手づくね・内底ナデ b.微砂・白色粒 良土 c.黄褐色 e.良好 f.1/4 g.内外面斑に黒色に変色
24	38	第3面 遺構77	青磁 碗	—	—	—	a.ロクロ b.灰白色 黒色粒 精良堅緻 d.淡緑色 f.口縁部小片 g.同安窯系
25	1	第3面 構成土	白磁 碗	—	—	—	a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 気孔径あり d.淡緑色 f.胴部片
25	2	第3面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片
25	3	第3面 構成土	渥美 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.灰色 d.降灰 e.硬質 f.口縁部片 g.2b形式
25	4	第3面 構成土	渥美 鉢	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒 白色粒 長石・小石粒・礫・粗い胎土 c.灰色 e.硬質 f.口縁部 g.外面やや上部に十字?の墨書あり・胎土に挟雑物が多く混入し常滑産の胎土に近似する。
27	1	第4面 遺構51	かわらけ	(7.1)	(6.0)	1.6	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母 良土 c.淡黄褐色 e.良好 f.1/8
27	2	第4面 遺構51	かわらけ	(8.2)	(6.0)	1.5	a.ロクロ b.微砂・白色粒・小石粒 やや粗土 c.灰黄色 e.やや甘い f.1/4 g.全体に磨耗
27	3	第4面 遺構51	かわらけ	(7.8)	(6.0)	1.4	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・海綿骨芯・小石粒 やや粗土 c.灰黄色 e.やや甘い f.1/4
27	4	第4面 遺構51	かわらけ	9.0	6.8	1.4	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・海綿骨芯 良土 c.黄褐色 e.良好 f.2/3
27	5	第4面 遺構51	かわらけ	(9.0)	(6.8)	1.6	a.ロクロ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・海綿骨芯・硬質 良土 c.橙色 e.良好 f.1/8
27	6	第4面 遺構51	かわらけ	(12.6)	(8.0)	3.3	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄褐色 e.良好 f.1/6
27	7	第4面 遺構51	かわらけ	(13.0)	(7.3)	3.1	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄褐色 e.良好 f.1/4
27	8	第4面 遺構51	かわらけ	(9.4)	(5.0)	1.5	a.手づくね・内底ナデ b.微砂 良土 c.黄褐色 e.良好 f.1/4
27	9	第4面 遺構51	かわらけ	(8.0)	(4.0)	1.6	a.手づくね・外面底部丁寧な整形 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯・良土 c.黄褐色 e.良好・硬質 f.1/4
27	10	第4面 遺構51	青磁 劃花文碗	—	(6.2)	—	a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 c.暗緑色 d.暗灰緑色 e.良好 f.底部片 g.内面劃花文・竜泉窯
27	11	第4面 遺構51	山皿	(7.8)	—	—	a.ロクロ b.灰白色 微砂・白色粒 e.良好 硬質
27	12	第4面 遺構51	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰褐色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.暗褐色 e.硬質 f.口縁部片
27	13	第4面 遺構51	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・雲母・小石粒 c.暗褐色 e.硬質 f.口唇部～頸部片
27	14	第4面 遺構51	鉄製品 鍋	14.7	4.8	3.0	f.口縁部片 g.全体に錆が付着しており遺存状態は悪い

単位 (cm)

遺物観察表

図版番号	No.	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
27	15	第4面遺構51	鉄製品 釘	8.2	1.0	0.9	f.ほぼ完形 g.断面方形
27	16	第4面遺構51	木製品 曲物 底板	60.8	(31.8)	1.5	
28	17	第4面遺構51	木製品 曲物	径48.2	器高12.0	0.3~0.5	
28	18	第4面遺構51	木製品 曲物 底板	径約48.0	—	1.0	
30	1	第4面遺構54	かわらけ	(7.2)	(8.1)	1.2	a.手づくね・内底ナデ b.微砂・白色粒 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/8 g.口唇部内折れ
30	2	第4面遺構54	かわらけ	(14.6)	(8.4)	3.5	a.ロクロ b.微砂・白色粒・黒色粒・海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好・硬質 f.1/4
30	3	第4面遺構54	かわらけ	(9.0)	(3.6)	1.4	a.手づくね・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/6 g.外面薄く黒色に変色
30	4	第4面遺構54	かわらけ	(9.3)	(4.0)	1.7	a.手づくね・内底ナデ b.微砂 良土 c.黄橙色 e.良好 f.2/3
30	5	第4面遺構54	かわらけ	(8.2)	(4.0)	1.4	a.手づくね・内底ナデ b.微砂・白色粒・海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4 g.口唇部黒色に変色
30	6	第4面遺構54	かわらけ	(8.2)	(3.6)	1.9	a.手づくね・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.橙色 e.良好 f.1/4
30	7	第4面遺構54	かわらけ	(12.0)	—	2.3	a.手づくね b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/8
30	8	第4面遺構54	かわらけ	(14.2)	—	2.5	a.手づくね・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/8
30	9	第4面遺構54	かわらけ	(13.0)	—	—	a.手づくね・内底ナデ b.微砂・黒色粒・海綿骨芯・海綿骨芯・雲母 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/5
30	10	第4面遺構54	かわらけ	(13.8)	—	3.1	a.手づくね・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.灰黄色 e.やや甘い f.1/4
30	11	第4面遺構54	青磁 皿	9.7	4.0	2.5	a.ロクロ・底部糸切り b.灰白色 精良堅緻 d.淡灰緑色 f.3/4 g.内底片彫り花文・竜泉窯
30	12	第4面遺構54	青磁 碗	—	—	—	a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 d.淡灰緑色 f.口縁部小片 g.内面劃花文
30	13	第4面遺構54	青磁 劃花文碗	—	—	—	a.ロクロ b.灰色 精良堅緻 d.淡緑色 f.胴部片 g.内面劃花文・外面無文
30	14	第4面遺構54	青磁 碗	—	—	—	a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 d.淡緑色 f.口縁部片 g.竜泉窯・内面に片彫りの蓮華文らしき文様・口縁部輪花型
30	15	第4面遺構54	青磁 楡目文皿	—	—	—	b.灰白色 黒色粒 精良堅緻 d.淡緑色 f.口縁部小片 g.内面上部に沈線が廻る・外面楡目文
30	16	第4面遺構54	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・雲母・長石・小石粒 c.茶色 d.緑灰色 e.硬質 f.口縁部片 g.4形式
30	17	第4面遺構54	渥美 甕	(23.3)	—	—	a.輪積み b.淡灰黄色 砂粒・白色粒・小石粒 c.暗灰色 d.暗褐色 e.良好 f.口縁部片 g.2b形式
30	18	第4面遺構54	渥美 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.黒灰色 d.外面下部は無釉・内面降灰釉 e.硬質 f.底部片
30	19	第4面遺構54	鉄製品 釘	(6.4)	0.5	0.4	g.断面方形
31	20	第4面遺構54	木製品 井戸部材	82.4	7.2	4.6	
31	21	第4面遺構54	木製品 井戸部材	82.2	6.4	3.9	g.釘孔が3か所遺存
31	22	第4面遺構54	木製品 板状	(59.4)	12.4	1.0	
31	23	第4面遺構54	木製品 板状	(66.0)	11.6	0.9	
32	24	第4面遺構54	木製品 井戸部材	(65.2)	13.8	1.0	圧痕
32	25	第4面遺構54	木製品 井戸部材	(66.6)	13.6	1.5	
32	26	第4面遺構54	木製品 板状	(43.6)	12.5	1.6	
32	27	第4面遺構54	木製品 板状	(60.4)	10.4	1.8	
34	1	第4面遺構91	かわらけ	(11.7)	(5.4)	3.5	a.手づくね・内底ナデ b.微砂・白色粒 雲母・海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/3
34	2	第4面遺構96	かわらけ	(8.2)	(7.1)	1.6	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・雲母・海綿骨芯・小石粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4
34	3	第4面遺構96	かわらけ	(9.0)	(7.0)	1.55	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒 やや粗土 c.黄橙色 e.良好 f.1/4
34	4	第4面遺構96	かわらけ	12.4	7.5	3.6	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・海綿骨芯 良土 c.黄橙色 e.良好 f.完形 g.内面口唇部・外面一部黒色に変色
34	5	第4面遺構96	青磁 器種不明	—	—	—	a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 気孔径あり d.淡灰青色 g.器表面陽刻の文様か
34	6	第4面遺構96	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.暗灰色 砂粒・白色粒・長石 c.暗灰褐色 d.淡緑色 e.硬質 f.口縁部片
34	7	第4面遺構96	常滑 甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.灰色 e.硬質 f.肩部片 g.格子の押印

単位 (cm)



遺物観察表

図版番号	No.	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
34	8	第4面遺構96	常滑甕	—	—	—	a.輪積み b.淡灰色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.淡茶褐色 e.硬質 f.肩部片 g.格子の押印
34	9	第4面遺構96	常滑甕	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.暗灰色 e.硬質 f.肩部片 g.格子の押印
34	10	第4面遺構96	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a.輪積み b.灰白色 砂粒・白色粒・長石 c.灰白色 e.硬質 f.口縁部片
34	11	第4面遺構96	鉄製品釘	(5.5)	0.5	0.3	g.断面方形
34	12	第4面遺構48	かわらけ	8.9	6.8	2.0	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・小石粒 良土 c.黄褐色 e.良好 f.完形
34	13	第4面遺構48	かわらけ	(9.8)	(6.8)	1.7	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母 良土 c.黄褐色 e.良好 f.4/5
34	14	第4面遺構48	かわらけ	(14.8)	(8.8)	3.4	a.ロクロ・内底強くナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.灰黄色 e.良好 f.1/2
34	15	第4面遺構48	かわらけ	(10.0)	(5.0)	1.5	a.手づくね・内底ナデ b.微砂・白色粒・海綿骨芯・小石粒 やや粗土 c.灰黄色 e.良好 f.1/4
34	16	第4面遺構48	山皿	—	—	—	a.ロクロ b.灰白色 砂粒・白色粒・小石粒 d.淡緑色の降灰 e.良好 硬質
34	17	第4面遺構48	石製品硯	(2.6)	(2.4)	0.9	g.陸部遺存・滑石製・滑石鍋の転用品かいは不明
34	18	第4面遺構112	瓦 女瓦	—	—	2.4	a.凸面:離れ砂・斜位のナデ 凹面:離れ砂・横位のナデ 側面:篋削り 端面:篋削り b.灰白色・砂粒・白色粒 良土 c.灰白色 e.良好 f.1/4
34	19	第4面遺構117	鉄製品釘	(7.8)	0.4	0.4	g.断面方形
34	20	第4面遺構119	褐釉壺	—	—	—	a.ロクロ b.淡褐色 砂粒・白色粒・長石・小石粒 c.暗茶褐色 e.硬質 f.肩部片 g.耳付
34	21	第4面遺構122	かわらけ	(8.6)	(6.0)	1.9	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 良土 c.黄褐色 e.良好 f.1/8
34	22	第4面遺構122	かわらけ	(9.0)	(6.0)	1.6	a.てづくね b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 c.黄褐色 e.良好 f.1/6
34	23	第4面遺構125	青磁碗	—	—	—	a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 d.淡緑色 f.口縁部片 g.内外面無文
34	24	第4面遺構146	鉄製品釘	(6.5)	0.4	0.4	g.断面方形
35	1	第4面上	かわらけ	7.2	5.0	1.7	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・小石粒 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 f.ほぼ完形
35	2	第4面上	青磁 鎗蓮弁文碗	—	—	—	a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 d.暗灰緑色 f.口縁部片 g.竜泉窯
35	3	第4面上	白磁 口元皿	—	—	—	a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 d.灰白色 f.口縁部片
35	4	第4面上	山茶碗	—	—	—	a.ロクロ b.淡灰 砂粒 c. d.淡灰緑色 灰釉 e.硬質 f.口縁部片
35	5	第4面上	常滑甕	—	—	—	a.輪積み b.灰黒色 砂粒・白色粒・小石粒 c.暗茶褐色 e.硬質 f.口縁部片
35	6	第4面上	常滑甕	—	—	—	a.輪積み b.淡橙褐色 砂粒・白色粒 c.橙褐色 e.硬質 f.口縁部片
35	7	第4面上	石製品 滑石鍋	—	—	—	f.口縁部片・外面縦位の磨き・外面黒色・内面細かいキズが付く
35	8	第4面上	鉄製品釘	6.1	1.1	0.9	g.断面方形
35	9	第4面上	骨製品 筭	(5.8)	1.3	0.3	g.両端部欠損
36	1	表土	かわらけ	(8.1)	(7.5)	1.5	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・白色粒・雲母 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 f.1/8
36	2	表土	かわらけ	7.5	5.8	1.55	a.ロクロ 内底ナデの後見込み周囲をナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・黒色粒・雲母・海綿骨芯 c.橙色 e.良好 f.ほぼ完形
36	3	表土	かわらけ	(8.3)	(5.8)	1.8	a.ロクロ・内底ナデ b.微砂・雲母・海綿骨芯 良土 c.灰黄色 e.やや甘い f.1/3 g.内外面黒色に変色
36	4	表土	かわらけ	(7.4)	(5.0)	1.6	a.ロクロ・内底ナデ・外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・白色粒・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c.黄褐色 e.良好 f.1/4
36	5	表土	かわらけ	(5.8)	(3.8)	1.8	a.ロクロ 内底面全体にナデ b.微砂・赤色粒・黒色粒・雲母・海綿骨芯 c.橙色 e.良好 f.3/4
36	6	表土	かわらけ	6.1	4.1	2.05	a.ロクロ 内面全体にナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・黒色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.橙色 e.良好 f.ほぼ完形
36	7	表土	かわらけ	5.9	3.7	2	a.ロクロ 内面全体にナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・黒色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.橙色 e.良好 f.完形
36	8	表土	かわらけ	(6.0)	(4.8)	2.25	a.ロクロ 内面全体にナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 底部粘土版貼り付け b.微砂・赤色粒・黒色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.橙色 e.良好 f.ほぼ完形
36	9	表土	かわらけ	5.2	4.8	1.45	a.ロクロ 内面全体にナデ b.微砂・赤色粒・黒色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.黄褐色 e.良好 f.完形
36	10	表土	かわらけ	(4.7)	(3.8)	1.25	a.ロクロ 内底ナデ b.微砂・赤色粒・黒色粒・雲母・海綿骨芯 c.黄褐色 e.良好 f.1/2 g.器形の歪み激しい
36	11	表土	かわらけ	(7.2)	(5.1)	2.4	a.ロクロ 内底ナデ b.微砂・赤色粒・黒色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.黄褐色 e.良好 f.1/4
36	12	表土	かわらけ	10.4	6.3	3.05	a.ロクロ 内底強く横ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・黒色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.橙色 e.良好 f.4/5

単位 (cm)

遺物観察表

図版 番号	No.	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
							a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
36	13	表土	かわらけ	13.0	7.8	3.35	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・雲母・海綿骨芯・土丹粒 c.橙色 e.良好 f.ほぼ完形
36	14	表土	かわらけ	12.9	7.7	4.05	a.ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b.微砂・赤色粒・黒色粒・土丹粒・雲母・海綿骨芯 c.橙色 e.良好 f.4/5
36	15	表土	かわらけ	(9.0)	(4.6)	1.9	a.手づくね b.微砂・白色粒・雲母 良土 c.黄橙色 e.良好 f.1/5
36	16	表土	青磁 劃花文碗	—	4.2	—	a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 d.淡緑色 e.良好 f.底部片 g.内底環状に釉薬を意図的に拭う・内底中央は片彫りで牡丹文が描かれる・高台中心は削り残しの突起あり・高台部畳み付きは無釉・筥による整形を行い畳み付き部分は2〜3ミリ幅に整形している・竜泉窯
36	17	表土	青磁 鉢	—	—	—	a.ロクロ b.黒色粒・白色粒 精良堅緻 d.灰緑色 半透明釉を厚く施釉 f.胴部片 g.内底に双魚文貼り付け
36	18	表土	白磁 口元皿	(10.0)	—	—	a.ロクロ b.灰白色 黒色粒少量 精良堅緻 d.乳白色 不透明釉を薄く施釉 f.口縁〜胴体部片
36	19	表土	瀬戸 卸皿	—	—	—	a.ロクロ b.淡黄白色 砂粒・雲母・小石粒 c.灰黄色 e.良好 硬質 f.口縁部片 g.わずかに片口部分が遺存
36	20	表土	瀬戸 折縁皿	—	—	—	a.ロクロ b.灰白色 d.淡黄緑色 刷毛塗り e.良好 やや軟質 f.口縁部片
36	21	表土	瀬戸(美濃系) 播鉢	—	—	—	b.黄褐色 c.黒赤色 e.軟質 f.口縁部片
36	22	表土	常滑 壺	—	(8.7)	—	a.輪積み b.灰黒色 砂粒・白色粒・長石 c.黒茶色 e.硬質 f.底部1/4残存
36	23	表土	常滑 壺	—	—	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・雲母 c.灰色 e.硬質 f.口縁部 g.5形式
36	24	表土	常滑 壺	—	—	—	a.輪積み b.灰白色 砂粒・白色粒・長石 c.灰色 e.硬質 f.口縁部片 g.6b形式
36	25	表土	常滑 壺	—	—	—	a.輪積み b.茶褐色 砂粒・白色粒・長石・石英・小石粒 c.黄灰色 e.硬質 f.底部〜胴体部小片 内面煤付着
36	26	表土	常滑 片口鉢I類	—	—	—	a.輪積み b.砂粒・白色粒・黒色粒・長石・石英・小石粒 c. e.硬質 f.底部〜胴体部小片
36	27	表土	常滑 片口鉢I類	—	(12.9)	—	a.輪積み b.灰色 砂粒・白色粒・長石・石英・小石粒 c.灰色 e.硬質 f.底部〜胴体部片
36	28	表土	常滑 片口鉢II類	—	—	—	a.輪積み b.赤色粒・砂粒・白色粒・長石・石英・小石粒 e.硬質 f.口縁部小片 g.9形式
36	29	表土	常滑 片口鉢II類	—	—	—	a.輪積み b.灰茶色 砂粒・白色粒・長石・石英・小石粒 c.黒赤色 e.硬質 f.底部〜胴体部小片
36	30	表土	瓦器質 火鉢	—	—	—	a.輪積み c.灰黒色 f.磨きと炭素吸着による黒色処理 f.口縁部小片
36	31	表土	石製品 砥石	—	—	—	f.剥離片 g.仕上げ砥
36	32	表土	鉄製品 釘	6.5	0.6	0.5	g.断面方形
36	33	表土	鉄製品 釘	(4.8)	0.5	0.3	g.断面方形
36	34	表土	鉄製品 釘	(5.8)	0.5	0.3	g.断面方形
36	35	表土	鉄製品 釘	(6.6)	0.5	0.5	g.断面方形
36	36	表土	銭	径2.4	孔径0.7×0.6		f.完形 皇宋通宝 北宋1038年初鑄 篆書
36	37	表土	銭	径2.35	孔径0.7×0.7		f.完形 元豊通宝 北宋1078年初鑄 篆書
36	38	表土	銭	径2.3	孔径0.6×0.6		f.政和通宝 初鑄1111年 隸書

単位 (cm)

破片遺物集計表

			表採合計	1面合計	2面合計	3面合計	4面合計	合計	比率	
船載品	青磁	蓮弁文碗	1	10	13	7	0	31	0.64	
		劃花文碗	1	1	3	4	5	14	0.29	
		碗	0	2	8	2	2	14	0.29	
		皿	0	1	4	1	2	8	0.17	
		鉢	2	3	4	0	0	9	0.19	
		その他・不明	2	1	1	0	0	4	0.08	
	白磁	碗	0	2	1	1	1	5	0.1	
		口兀皿	3	6	10	4	0	23	0.48	
		合子	0	1	0	0	0	1	0.02	
		壺	1	0	1	1	0	3	0.06	
器種不明		0	1	1	0	0	2	0.04		
青白磁	梅瓶	1	6	1	3	0	11	0.23		
	合子	0	0	0	1	0	1	0.02		
	壺	0	1	0	0	0	1	0.02		
	皿	0	1	3	0	0	4	0.08		
	その他・不明	1	2	1	1	0	5	0.1		
	緑釉	0	6	0	0	0	6	0.12		
	黄釉	0	1	0	0	0	1	0.02		
国産陶器	瀬戸	入子	0	1	3	0	0	4	0.08	
		皿	2	0	1	0	0	3	0.06	
		折縁皿	1	9	5	4	0	19	0.39	
		卸皿	1	0	0	1	0	2	0.04	
		壺	0	3	0	2	0	5	0.1	
		瓶子	0	2	1	1	0	4	0.08	
		花瓶	0	2	0	1	0	3	0.06	
		その他・不明	1	11	2	1	1	16	0.33	
			山茶碗	0	1	7	4	1	13	0.27
			常滑	47	142	448	149	52	838	17.31
		壺	1	3	4	5	0	13	0.27	
		片口鉢Ⅰ類	3	22	29	17	2	73	1.51	
		片口鉢Ⅱ類	4	11	10	13	0	38	0.78	
		擦り常滑	1	2	1	2	1	7	0.14	
	渥美	壺	0	4	18	4	7	33	0.68	
		捏鉢	0	0	2	1	2	5	0.1	
		壺	0	1	0	0	0	1	0.02	
		種別不明	0	4	6	2	1	13	0.27	
土器・	備前 東播系 鉢 かわらけ		0	2	2	0	0	4	0.08	
			0	0	0	1	0	1	0.02	
			ロクロ	59	514	639	471	106	1789	36.95
			手捏ね	3	32	99	87	133	354	7.31
			白(ロクロ・手)	0	0	1	2	1	4	0.08
			瓦	0	4	3	1	1	9	0.19
			瓦器製品	1	0	1	1	0	3	0.06
			火鉢	3	6	8	6	1	24	0.5
			土鍋	0	1	2	1	0	4	0.08
			轆の羽口	0	2	0	1	7	10	0.21
石製品		土錘	0	1	1	0	0	2	0.04	
		硯	0	1	1	0	1	3	0.06	
		砥石	3	1	1	4	0	9	0.19	
		滑石	0	3	3	2	0	8	0.17	
			鍋	0	0	0	1	0	1	0.02
			温石	0	0	0	1	0	1	0.02
			スタンプ	0	0	0	1	0	1	0.02
			基石	0	0	1	0	0	1	0.02
			チャート	0	1	1	1	1	4	0.08
		金属製品		釘	7	62	63	39	7	178
釘	1			5	10	1	0	17	0.35	
鉄製品	3			5	10	12	0	30	0.62	
銅銭	0			0	0	1	0	1	0.02	
銅製品	0			0	1	1	0	2	0.04	
骨角製品		不明	0	0	1	1	0	2	0.04	
			0	0	1	1	0	2	0.04	
木製品			0	0	0	0	3	3	0.06	
			0	0	0	0	3	3	0.06	
自然遺物		骨	5	50	492	48	9	604	12.47	
		骨	8	67	130	135	178	518	10.7	
		種	0	2	2	0	0	4	0.08	
		その他	0	4	3	1	0	8	0.17	
			0	3	0	2	0	5	0.1	
古代以前	土師器	種別不明	0	0	1	0	0	1	0.02	
			0	0	0	1	0	1	0.02	
			0	0	0	1	0	1	0.02	
			0	2	0	1	0	3	0.06	
			0	0	0	1	0	1	0.02	
	須恵器	壺	0	0	0	1	0	1	0.02	
		杯	0	2	0	1	0	3	0.06	
		種別不明	0	0	0	1	0	1	0.02	
合計			166	1031	2064	1056	525	4842	100	
比率			3.43	21.29	42.63	21.81	10.84	100		

遺構計測表

層位	遺構名	長軸	短軸	深さ	層位	遺構名	長軸	短軸	深さ
第1面	1	118.0	96.0	22.8	第3面	60	34.0	29.0	18.5
	2	83.0	(69.0)	18.9		61	25.0	(13.0)	8.4
	3	106.0	(65.0)	5.7		62	19.0	17.0	9.5
	4	21.0	20.0	17.3		63	58.0	52.0	38.8
	5	(58.0)	(28.0)	7.7		64	(29.0)	(8.0)	19.9
	6	(76.0)	(25.0)	7.5		65	92.0	70.0	45.1
	7	(31.0)	(30.0)	17.8		67	72.0	(43.0)	27.4
	8	(55.0)	(37.0)	32.3		68	49.0	45.0	32.7
	9	102.0	65.0	26.1		69	(50.0)	(47.0)	13.8
	10	(91.0)	64.0	16.6		70a	93.0	65.0	25.5
	11	44.0	(28.0)	14.7		70b	37.0	35.0	45.6
	12	(65.0)	(65.0)	19.0		71	37.0	29.0	16.1
	17	(158.0)	(54.0)	54.2		72	43.0	29.0	20.2
	18	(188.0)	172.0	30.0		73	39.0	(23.0)	40.5
	19	162.0	115.0	31.9		74	46.0	40.0	12.9
	20	163.0	42.0	29.0		75	50.0	47.0	26.4
	21	104.0	(61.0)	35.0		76	54.0	44.0	35.6
	23	32.0	19.0	14.0		77	(54.0)	(45.0)	29.5
	26	91.0	(63.0)	28.5		78	65.0	53.0	27.0
	32	(96.0)	(87.0)	22.0		79	35.0	34.0	20.5
	33	70.0	(58.0)	11.3		85	55.0	(19.0)	55.9
	36	(65.0)	64.0	26.2		95	54.0	42.0	12.5
	37	(98.0)	(42.0)	32.2		100	33.0	30.0	20.3
41	(154.0)	(32.0)	8.5	106	(49.0)	(10.0)	14.7		
42	(58.0)	(46.0)	21.5	113	(48.0)	(14.0)	7.6		
43	107.0	(68.0)	59.8	115	34.0	32.0	30.5		
第2面	13	(221.0)	(128.0)	47.4	150	20.0	19.0	11.6	
	15	33.0	27.0	10.3	51	183(150)	156(118)	84.5	
	16	(162.0)	(69.0)	32.5	54	181.0	141.0	109.7	
	22	(265.0)	(110.0)	37.8	80	104.0	90.0	18.2	
	24	187.0	(141.0)	22.4	81	46.0	37.0	31.4	
	25	(300.0)	83.0	31.8	82	(45.0)	45.0	7.7	
	27	49.0	34.0	19.2	83	21.0	19.0	10.1	
	28	(228.0)	(100.0)	45.8	84	(30.0)	(10.0)	18.0	
	30	—	—	—	86	(37.0)	(20.0)	32.2	
	34	(174.0)	(166.0)	20.9	87	—	—	5.9	
	38	(183.0)	(119.0)	25.4	89	44.0	35.0	29.3	
	39	(222.0)	(113.0)	45.0	90	33.0	(24.0)	27.1	
	40	(177.0)	(150.0)	10.5	91	62.0	45.0	39.1	
	45	(168.0)	(59.0)	21.5	92	73.0	62.0	30.8	
	55	(183.0)	(55.0)	13.5	93	57.0	(30.0)	30.3	
	56	(76.0)	(36.0)	47.7	94	37.0	28.0	8.4	
	58	(100.0)	(59.0)	22.7	96	116.0	70.0	37.9	
66	55.0	(25.0)	29.0	97	46.0	34.0	32.0		
143	64.0	(47.0)	—	98	53.0	36.0	12.3		
第3面	14	34.0	24.0	17.4	99	31.0	28.0	27.1	
	29	58.0	38.0	23.5	101	22.0	22.0	9.4	
	31	350.0	234.0	47.0	102	27.0	(17.0)	21.5	
	35	(78.0)	73.0	26.0	103	20.0	18.0	14.8	
	44	182.0	153.0	66.9	104	28.0	26.0	29.1	
	46	(153.0)	(78.0)	19.2	105	(35.0)	(20.0)	22.9	
	47	34.0	31.0	25.5	107	30.0	27.0	39.2	
	48	41.0	28.0	31.7	108	36.0	(21.0)	9.0	
	49	49.0	35.0	16.2	108	40.0	(19.0)	9.2	
	50	—	—	—	109	68.0	58.0	43.2	
	53	(170.0)	(162.0)	13.3	110	(32.0)	(30.0)	32.5	
	57	(248.0)	(47.0)	24.2	111	28.0	18.0	18.3	
59	64.0	58.0	18.9	112	52.0	(43.0)	20.2		

単位 (cm)



遺構計測表

層位	遺構名	長軸	短軸	深さ	層位	遺構名	長軸	短軸	深さ
	114	40.0	(22.0)	11.2					
	116	(42.0)	33.0	18.2					
	117	—	—	6.8					
	118	26.0	23.0	11.5					
	119	(26.0)	25.0	23.8					
	120	21.0	(14.0)	13.7					
	121	46.0	28.0	15.6					
	122	(70.0)	(15.0)	20.5					
	123	20.0	20.0	15.0					
	124	27.0	(13.0)	21.7					
	125	16.0	15.0	9.1					
	126	23.0	21.0	10.9					
	127	(47.0)	(16.0)	28.0					
	128	45.0	41.0	12.0					
	129	28.0	26.0	14.5					
	130	57.0	37.0	42.7					
	131	24.0	20.0	8.0					
	132	18.0	17.0	21.6					
	133	31.0	23.0	12.1					
第4面	134	27.0	(8.0)	24.7					
	135	—	—	23.8					
	136	(51.0)	(20.0)	53.1					
	137	27.0	22.0	13.3					
	138	32.0	(21.0)	11.0					
	139	24.0	(18.0)	14.4					
	140	(47.0)	(17.0)	12.5					
	141	17.0	14.0	4.8					
	142	—	—	—					
	144	—	—	13.9					
	145	(57.0)	(19.0)	(20.1)					
	146	(40.0)	(18.0)	14.7					
	147	10.0	9.0	9.3					
	149	15.0	13.0	10.8					
	151	67.0	48.0	11.1					
	152	(24.0)	25.0	36.1					
	153	64.0	(38.0)	9.9					
	154	(24.0)	24.0	15.9					
	155	17.0	15.0	9.3					
	156	19.0	18.0	22.5					

単位 (cm)



第1面全景 (東から) ◀



第1面全景 (西から) ▶



◀ 第2面遺溝 13 (北から)

第2面遺溝 24 (西から) ▶

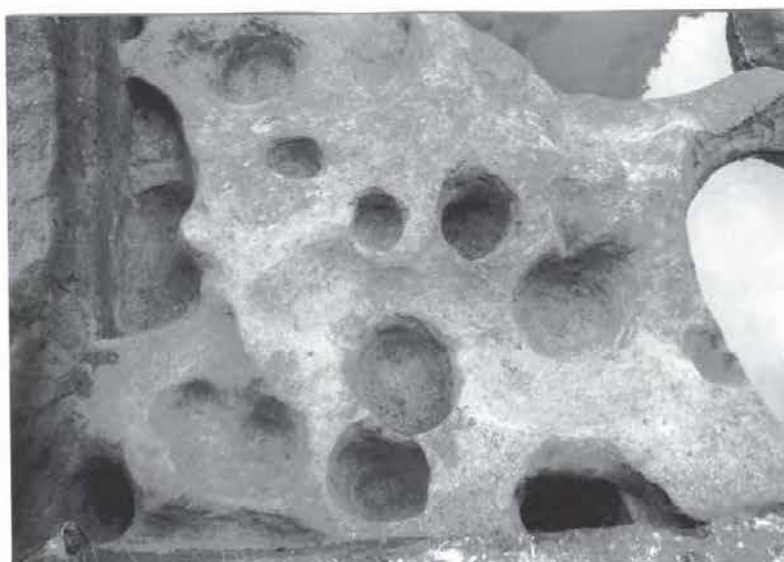




第2面全景（東から）



第2面全景（西から）



第2面調査区南西隅





◀ 第3面遺溝 31 (西から)



第3面遺溝 53 (北から) ▶



第3面全景 (西から) ▶

▶ 第3面全景 (東から)





图版4



第4面遺溝51完掘



第4面遺溝51曲物



第4面遺溝51曲物



第4面遺溝 51 井戸枠 (北から)



第4面遺溝 51 井戸枠アップ



第4面遺溝 130 (西から)

図版 6



第4面遺溝 54 (北から)



第4面遺溝 54 (南から)



トレンチ2西壁





8-3



8-9



8-14



8-15



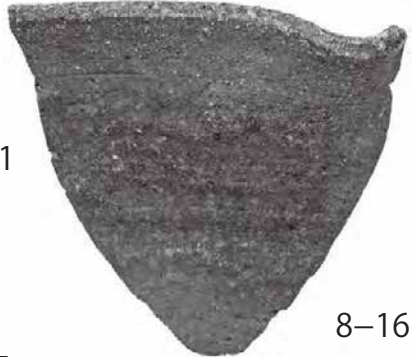
8-4

▲第1面遺構 1



8-11

▲第1面遺構 9



8-16

▲第1面遺構 17



8-19

8-22



8-23

▲第1面遺構 18



8-25

▲第1面遺構 19



8-27

▲第1面遺構 20



8-28



8-30



8-36

▲第1面遺構 36



8-38

▲第1面遺構 37



8-42

▲第1面遺構 42



8-44



8-46



8-49

▲第1面遺構 43



9-8



9-9

▲第1面 面上

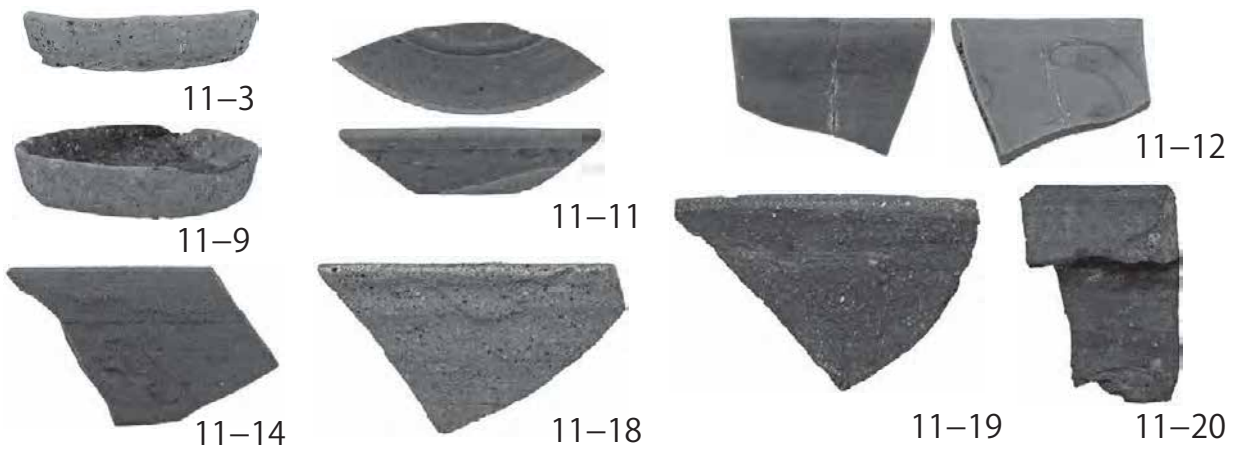


9-10



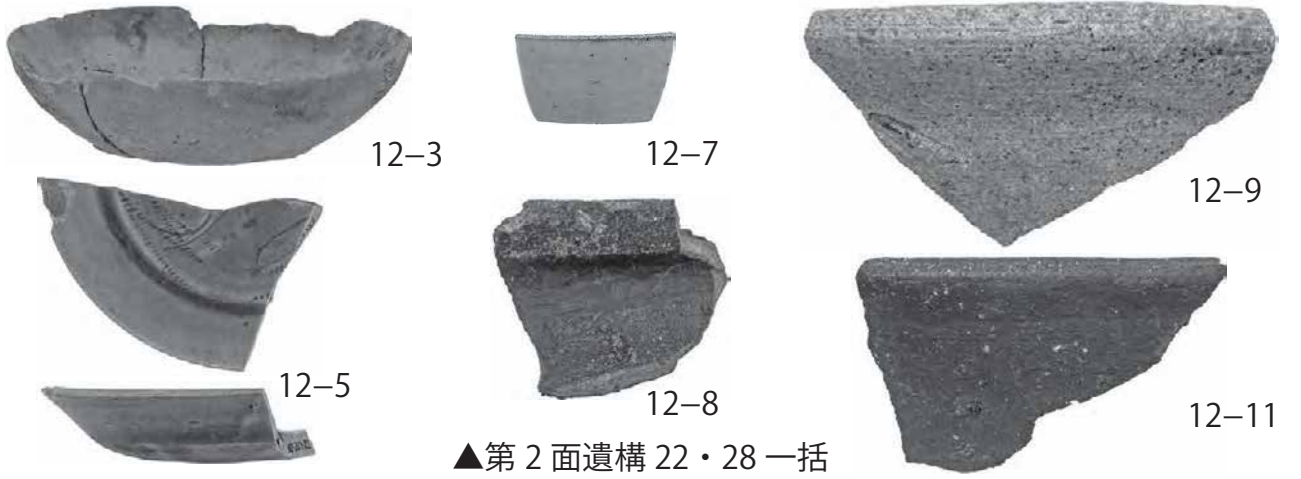
9-11



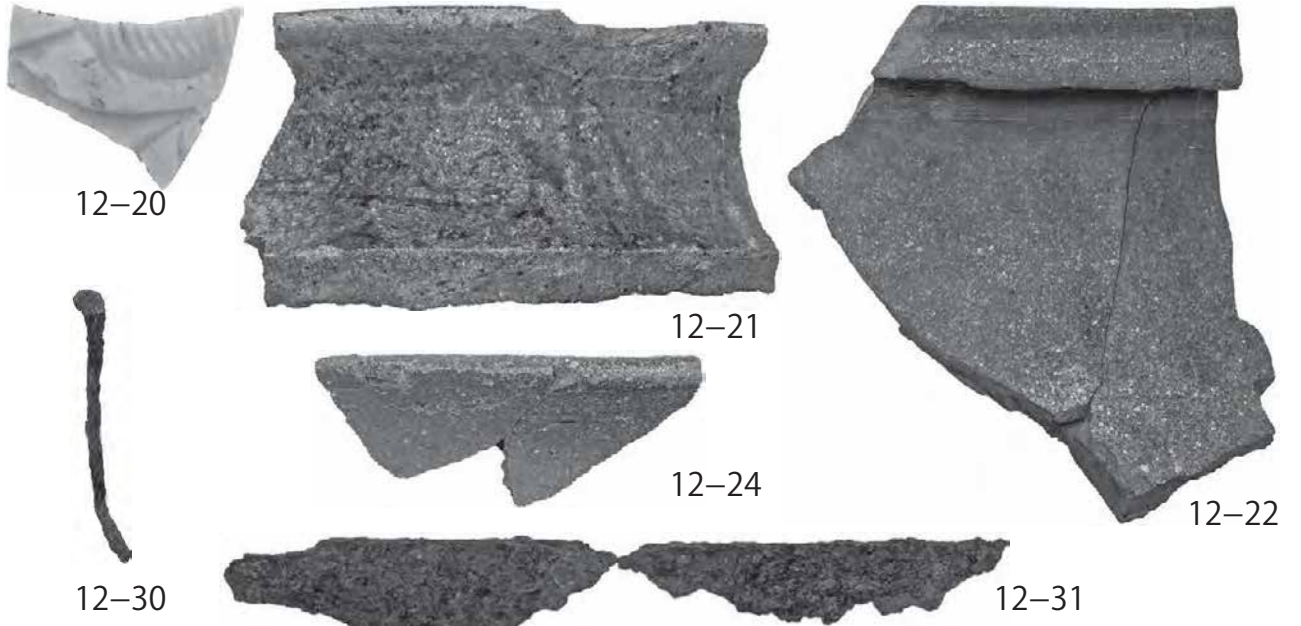


▲第 2 面遺構 13

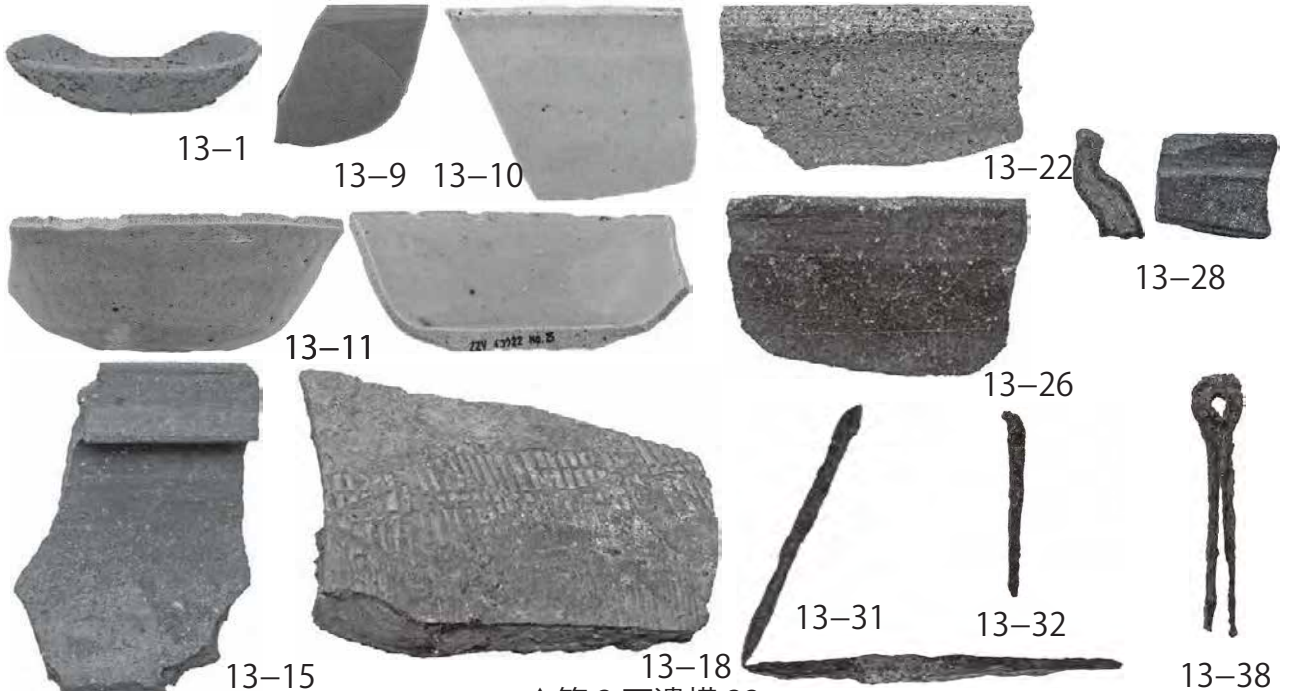
▲第 2 面遺構 16



▲第2面遺構 22・28 一括

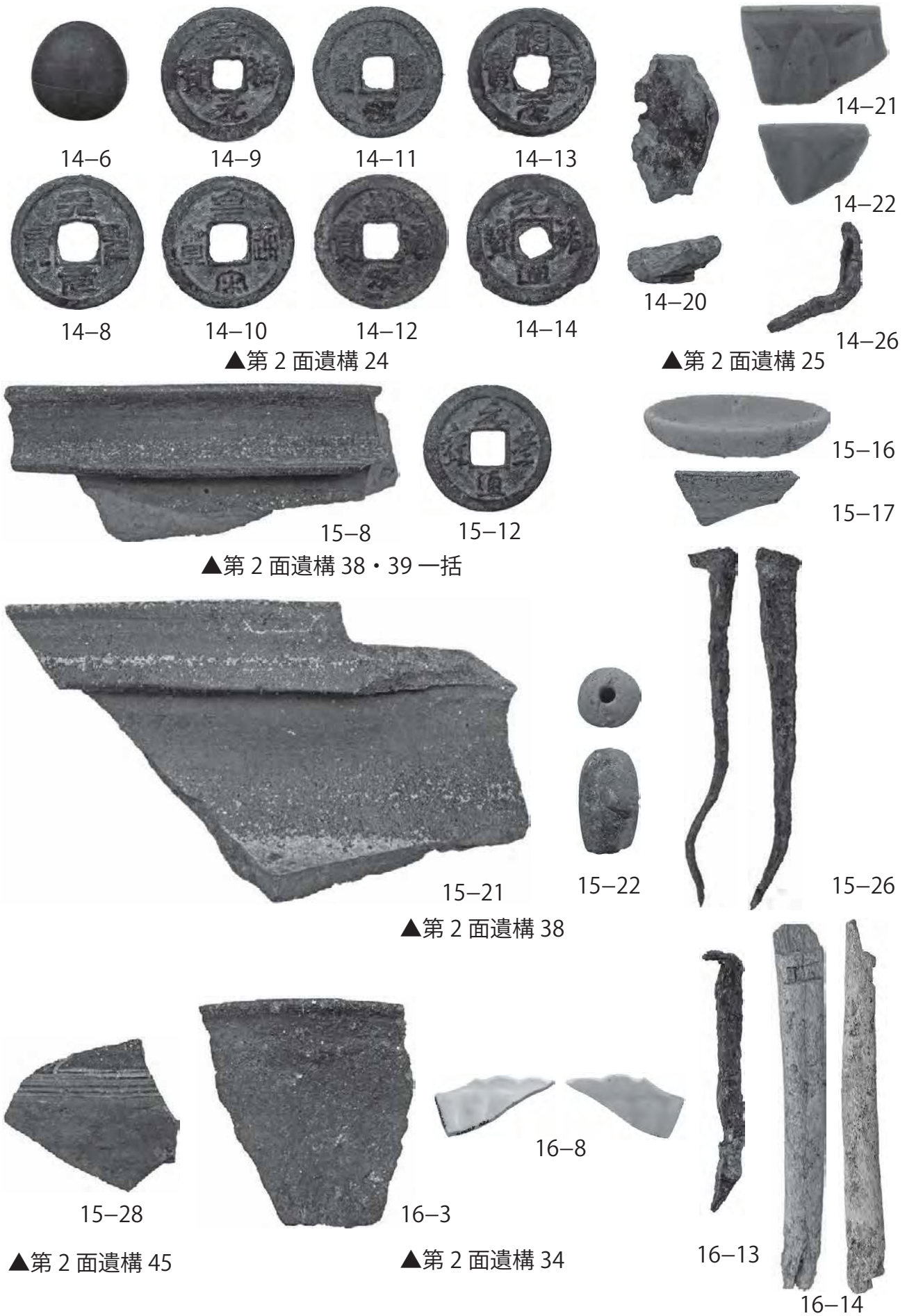


▲第2面遺構 28



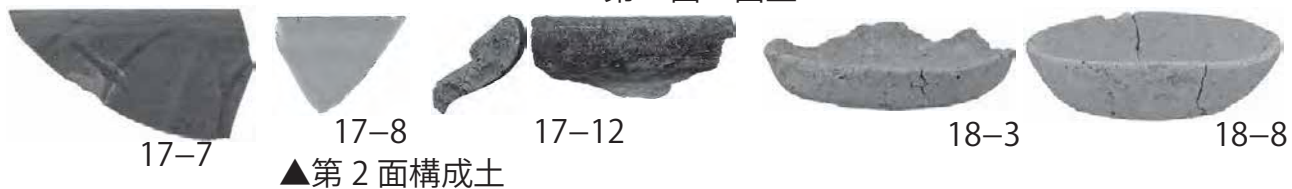
▲第2面遺構 22







▲第2面 面上



▲第2面構成土



▲第3面遺構 31

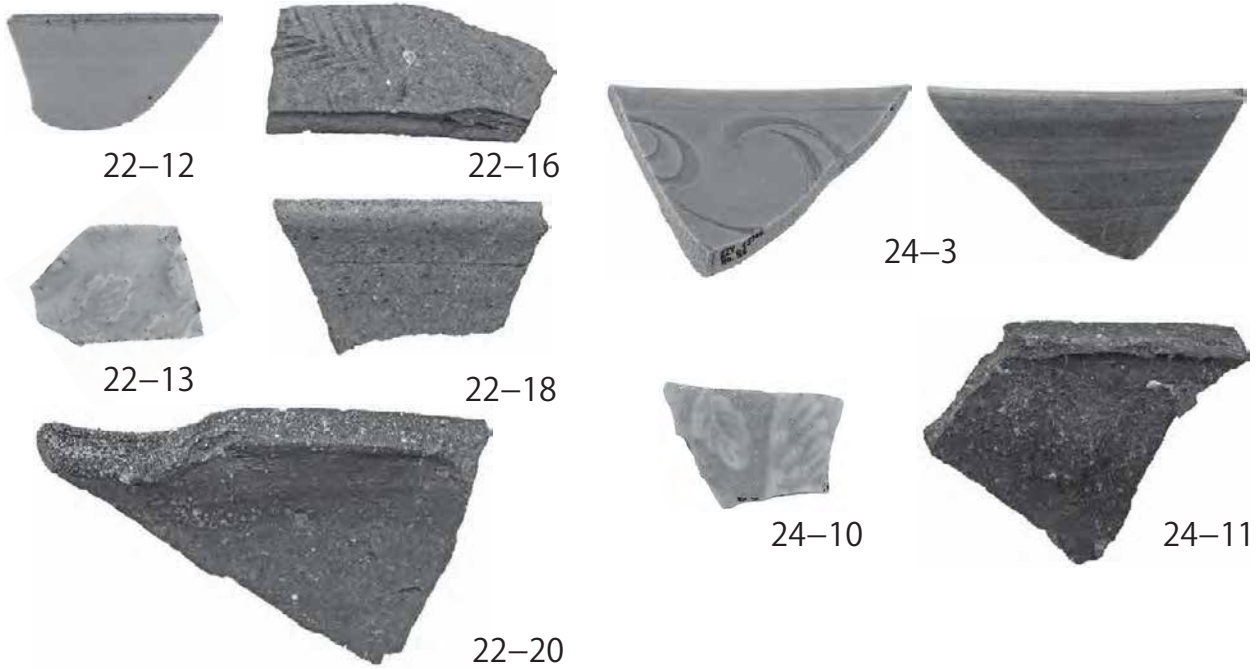




▲第3面遺構 31



▲第3面遺構 44



▲第3面遺構 53

▲第3面遺構 50



24-12

▲第 3 面遺構 50

24-15



24-19



24-27



24-23



24-30

▲第 3 面遺構 57



24-36



24-32

▲第 3 面遺構 74

▲第 3 面遺構 65



25-3



27-4



25-4

▲第 3 面構成土



27-10

27-15

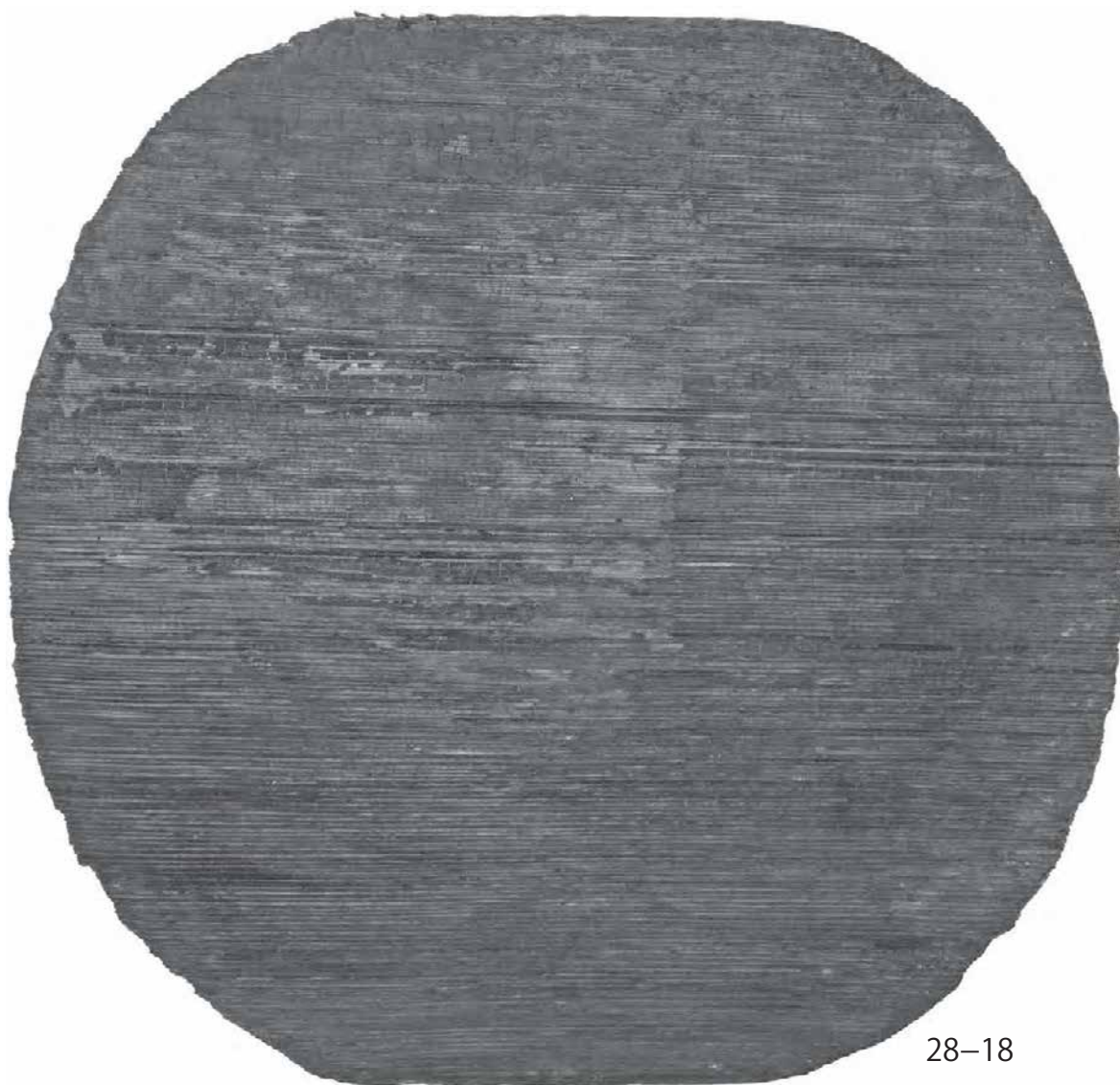
▲第 4 面遺構 51



▲遺構 51 曲物検出状況



▲第 4 面遺構 51 曲物採集（現場にて）



▲第 4 面遺構 51





30-1

30-11



30-13

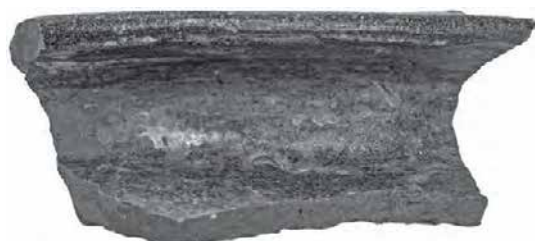
30-14



30-15



30-16



30-17



31-20

31-21

▲第4面遺構 54





31-22



31-23



32-24



32-25

▲第 4 面遺構 54



34-4

▲第 4 面遺構 96



34-10



34-12



34-13

▲第 4 面遺構 48



34-18



▲第 4 面遺構 112



34-19 34-24



35-1



36-2



36-6



35-3



35-4



36-7



36-8



36-9



35-5



36-12



36-13



35-8



35-9



36-16



36-17



36-19



36-20



36-21

▲第 4 面 面上



36-24



36-28



36-32



36-36

▲表土



36-37



36-38



## 下馬周辺遺跡 (No.200)

由比ガ浜二丁目 54 番 15 地点



## 例 言

1. 本報は鎌倉市由比ガ浜二丁目 54 番 15 地点に所在する遺跡の発掘調査である。
2. 発掘調査は個人専用住宅にかかる建築範囲約 20㎡を対象とし、平成 20 年 6 月 9 日から 7 月 9 日にかけて実施した。
3. 現地での調査体制は以下の通り  
担当者 伊丹まどか  
調査員 石元道子  
作業員 赤坂進・浅香文保・牛嶋道夫・小口照男・片山直文・金丸義一・藤枝正義
4. 本報作成は以下の分担で行った。  
遺物実測 清水由加里  
遺物図版作成 清水由加里  
遺構図版作成 清水由加里・渡邊美佐子  
観察表 清水由加里・渡邊美佐子  
遺構計測表 清水由加里  
遺構写真 伊丹まどか  
遺物写真 須佐仁和  
写真図版作成 清水由加里  
グリッド図作成 梶岡ケイト  
執筆・編集 伊丹まどか・渡邊美佐子
5. 出土品などの発掘調査資料は、鎌倉市教育委員会が管理・保存している。
6. 本報図版の遺構・遺物の縮尺は以下の通り。  
遺構図版：1 / 60 個別遺構図：1 / 40 実測遺物図：1 / 3 銭：1 / 1
7. 本文の都合から遺物に関する詳細は観察表にまとめて掲載している。また復元して実測した遺物は計測値に ( ) を付して表している。  
・文中で「かわらけ」と記載したものは「轆轤成形かわらけ」を指し、「手づくね成形かわらけ」は「手づくね」と記載している。
8. 発掘調査及び報告書作成に際して以下の方よりご教授、ご協力を賜りました。記して深謝いたします。(五十音順・敬称略)  
菊川泉・後藤健・齋木秀雄・汐見一夫・田畑衣理・原廣志・福田誠・吉田桂子

# 目 次

第一章 遺跡概要	136
1. 調査地点の位置と歴史的環境	
2. 調査の経過	
3. 堆積土層	
第二章 発見された遺構と遺物	140
1. 第1面の遺構と遺物	
2. 第2面の遺構と遺物	
3. 第3面の遺構と遺物	
第三章 まとめ	149
・遺物観察表	
・実測不可木製品計測表	
・破片遺物計数表	
・出土具数量表	

## 挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡	134	図6 第1面構成土出土遺物	141
図2 グリッド設定図	137	図7 第2面個別遺構	142
図3 堆積土層図	138	図8 第2面面上・構成土出土遺物	143
図4 第1面・第2面・第3面全測図・最終ト レンチ位置図	139	図9 第3面個別遺構	144
図5 第1面 遺構2	140	図10 第3面個別遺構・面上・構成土出土遺物	146
		図11 表採遺物	147

## 図版目次

図版1 第1面全景・第1面遺構2・第2面全景	161	図版4 第2面出土遺物	164
図版2 第2面遺構12・第3面全景	162	図版5 第2面構成土・第3面出土遺物	165
図版3 第1面出土遺物	163	図版6 第3面・表採出土遺物	166

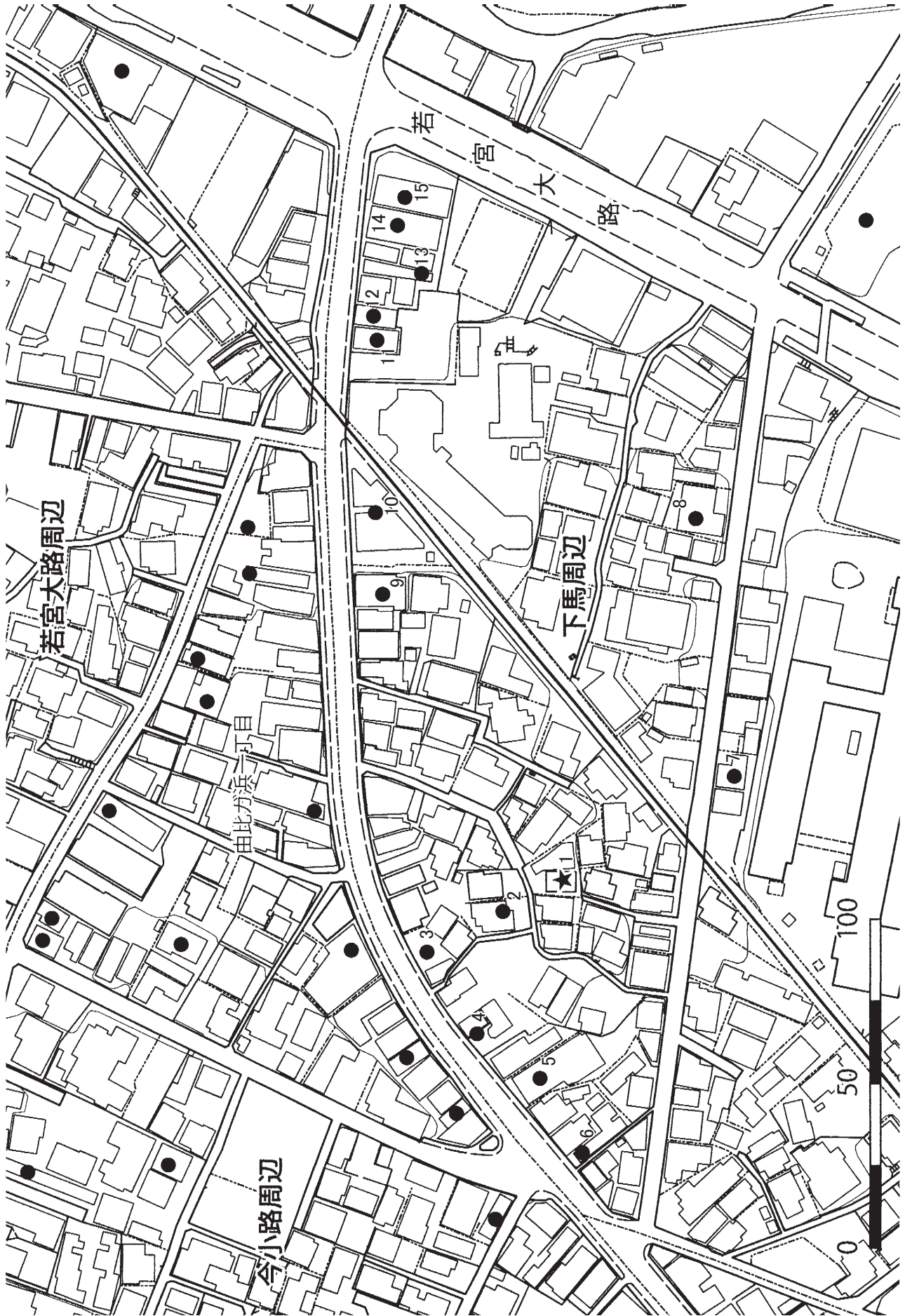


図1 調査地点と周辺の遺跡

【下馬周辺】						
	調査地番	担当者	刊行年	執筆者	タイトル	発行人
1	由比ガ浜二丁目54番15	伊丹まどか	本調査地点			
2	由比ガ浜二丁目110番5	菊川英政 小林重子	2001	菊川英政	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書17-1	鎌倉市教育委員会
3	由比ガ浜二丁目113番5外	伊丹まどか	2011	伊丹まどか	神奈川県埋蔵文化財調査報告56	神奈川県教育委員会
4	由比ガ浜二丁目107番5	鈴木絵美	2009		神奈川県埋蔵文化財調査報告54	神奈川県教育委員会
5	由比ガ浜二丁目107番1	馬淵和雄 汐見一夫	1997	汐見一夫 川又隆央 ほか	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書13-2	鎌倉市教育委員会
6	由比ガ浜二丁目106番6・7	汐見一夫	2002	汐見一夫 田畑衣理 ほか	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書18-1	鎌倉市教育委員会
7	由比ガ浜二丁目39番14	原廣志	2010	原廣志	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書26-1	鎌倉市教育委員会
8	由比ガ浜二丁目27番9	田代郁夫	1990		神奈川県埋蔵文化財調査報告32	神奈川県教育委員会
9	由比ガ浜二丁目19番4	馬淵和雄	2013	馬淵和雄 沖本道 根元志保	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書29-1	鎌倉市教育委員会
10	由比ガ浜二丁目18番12	宗臺秀明	1992	宗臺秀明 宗臺富貴子	下馬周辺遺跡	下馬周辺遺跡発掘調査団
11	由比ガ浜二丁目3番6	宮田眞 滝沢晶子	2010	宮田眞	下馬周辺遺跡発掘調査報告書	株式会社 博通
12	由比ガ浜二丁目3番7	田代郁夫	2007		神奈川県埋蔵文化財調査報告51	神奈川県教育委員会
13	由比ガ浜二丁目2番12	齋木秀雄 熊谷満	1998	熊谷満 齋木秀雄	鎌倉遺跡調査会調査報告7 下馬周辺遺跡発掘調査報告書4	下馬周辺遺跡発掘調査団 鎌倉遺跡調査会
14	由比ガ浜二丁目2番10	福田誠	1992		神奈川県埋蔵文化財調査報告34	神奈川県教育委員会
15	由比ガ浜二丁目2番2	福田誠	1990		神奈川県埋蔵文化財調査報告32	神奈川県教育委員会

調査地点名



# 第一章 遺跡概要

## 1. 調査地点の位置と歴史的環境（図1）

鎌倉市街地のほぼ中心を南北に貫く若宮大路は、北の鶴岡八幡宮から南の相模湾に向かっている。若宮大路には上・中・下、三ヶ所の下馬があったとされ、現在の地名で「下馬四つ角」と称される交差点がかつての「下の下馬」である。この交差点で若宮大路を東西に横切る県道311号線は、古代においては宝亀2年（771）以前の古東海道、また中世期では大町大路と考えられている。この大町大路は、東は名越の切通し、西は極楽寺坂・大仏坂へと至り、鎌倉とその域外とを東西に結ぶ中世鎌倉の幹線道路であった。大町大路は下の下馬を境に、東は町屋免許を持つ米町・魚町などの商業地域であったとされ、西は近年の調査成果によって道路に沿うような形で方形竪穴建物が立ち並ぶことがわかってきている。

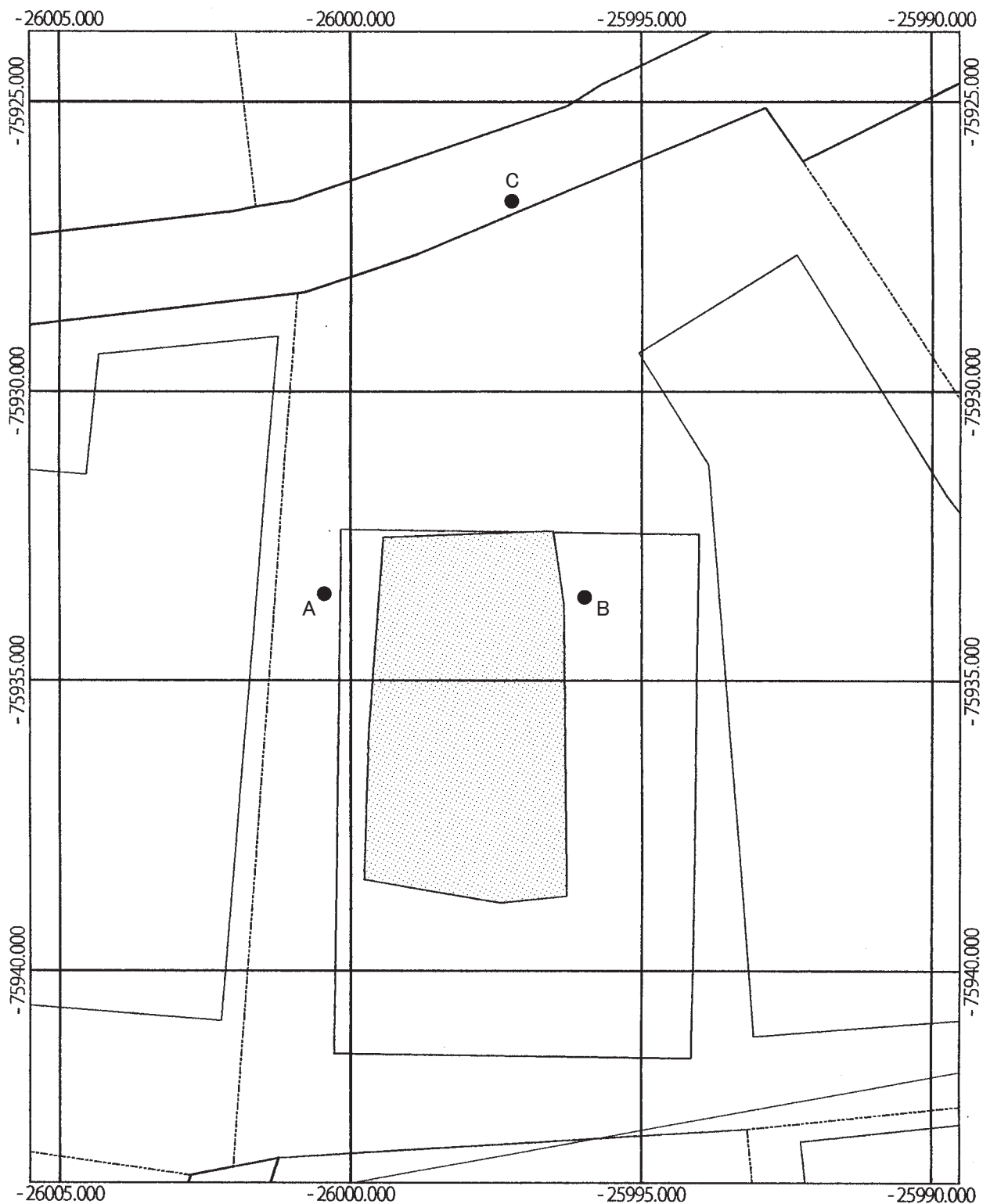
「下の下馬」から約350m西では、若宮大路の西を南北に平行して走る今小路と交叉する六地藏がある。大町大路と考える道路はここから遺跡表記を長谷小路と変えている。長谷小路は一般的には鎌倉中期以降に創建された長谷寺と六地藏までの道筋を言うが、中世に他の大路（小路）のように幹線道路として通称されていたかは定かではない。この道筋にも倉庫や工房などの機能が想定される方形竪穴が立ち並び、出土遺物からみると職能人が多く移住した地域であったことが明らかにされている。遺跡地は「下馬四つ角」から西へ約250m行き、道路から約50m南に入ったところに位置する。

## 2. 調査の経過（図2）

調査開始にあたって調査区に任意の方眼軸を設け、基本点Aと、見返り点Bを設定し遺構の測量・図面作成に使用した。基本点Aと見返り点Bは鎌倉市4級基準点成果表に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行ったが、調査時の成果表は日本測地系（座標AREA9）の国土座標値を使用したため、本報告作成に際しては国土地理院が公開する座標変換ソフト「WEB版TKY2JGD」で世界測地系第IX形に変換し、図2に表記した。

## 3. 堆積土層（図3）

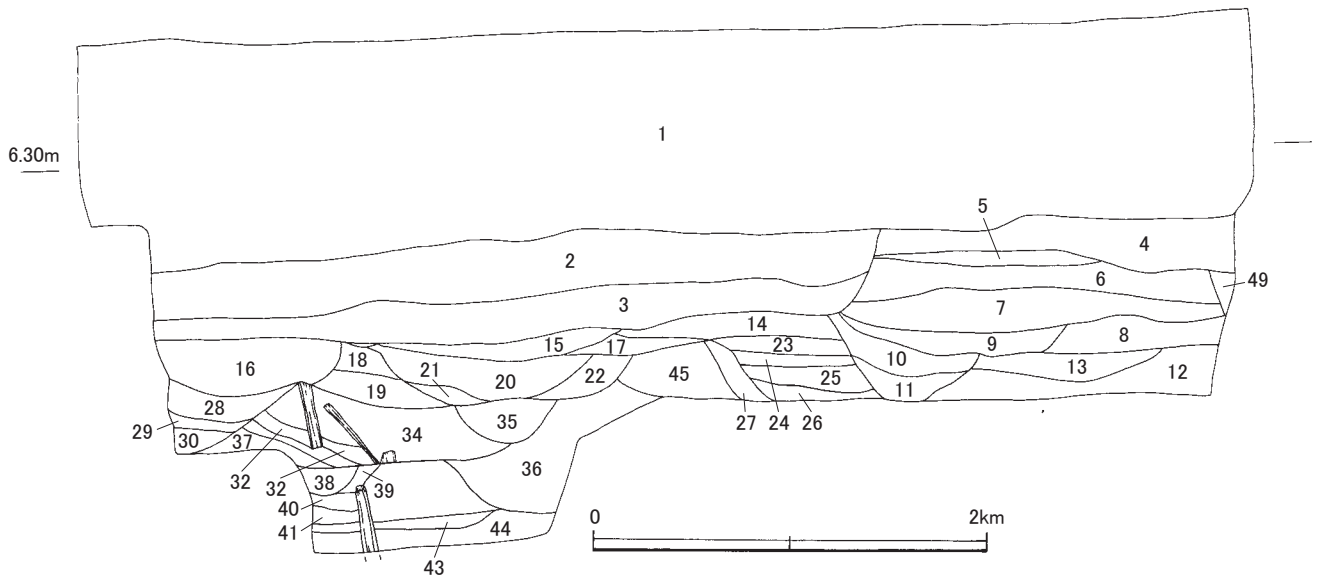
現地表の海拔高は約7mを測り、ほぼ平坦な宅地を形成していた。現地表下約100cmまで堆積していた近・現代の客土を重機によって除去した後、中世遺構の確認を実施した。除去した客土以下で3枚の生活面を調査し記録している。第1面は炭化物・泥岩粒・貝を含む堅く締まった暗茶褐色弱粘質土（第6層）上で遺構を発見した。第1面の海拔高は約5.9mを測る。第1面で発見した遺構は落ち込み状遺構・竪穴建物・ピットである。第1面構成土を約20cm掘り下げ、泥岩粒・炭化物を含むやや締まりの良い茶褐色弱粘質土（10・11・12・13層）上で第2面の遺構を発見した。第2面の海拔高は約5.7mを測る。第2面で発見した遺構は土坑・ピットである。第2面の構成土を約30cm掘り下げ、泥岩粒・泥岩・灰褐色砂質土・褐色有機質土を含む、締まった茶褐色弱粘質土（17・22・34・35層）上で遺構を発見した。第3面で発見した遺構は土坑・ピット・溝である。第3面の遺構確認後、調査区北東にトレンチを設け下層の堆積を確認し、第3面を約20cm掘り下げた層で礎板を伴うピットを発見し、現地表下約310cmまで掘り下げたところで中世基盤層と考える青灰色砂層を確認している。



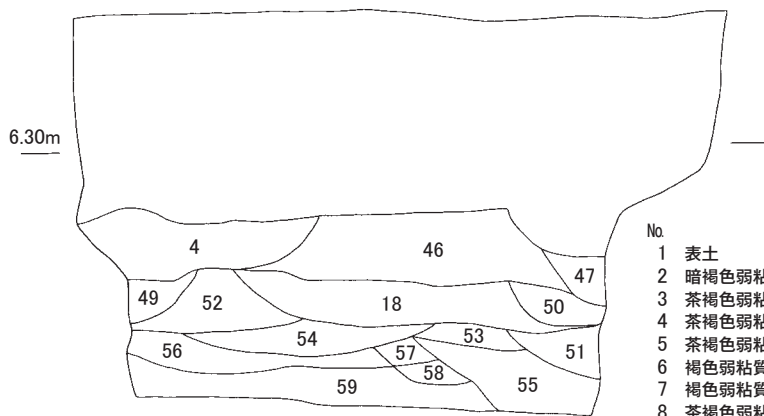
地点	日本測地系		世界測地系	
	X	Y	X	Y
A	-76290.211	-75707.028	-75933.505	-26000.465
B	-76290.267	-25702.548	-75933.562	-25995.985
C	-76283.405	-25703.793	-75926.700	-25997.230

図2 グリッド配置図

<調査区 東壁セクション>

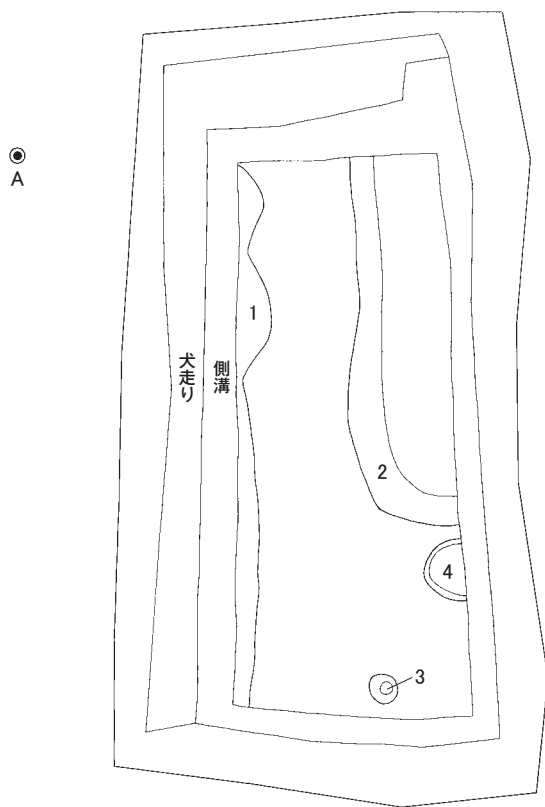


<調査区 西壁セクション>

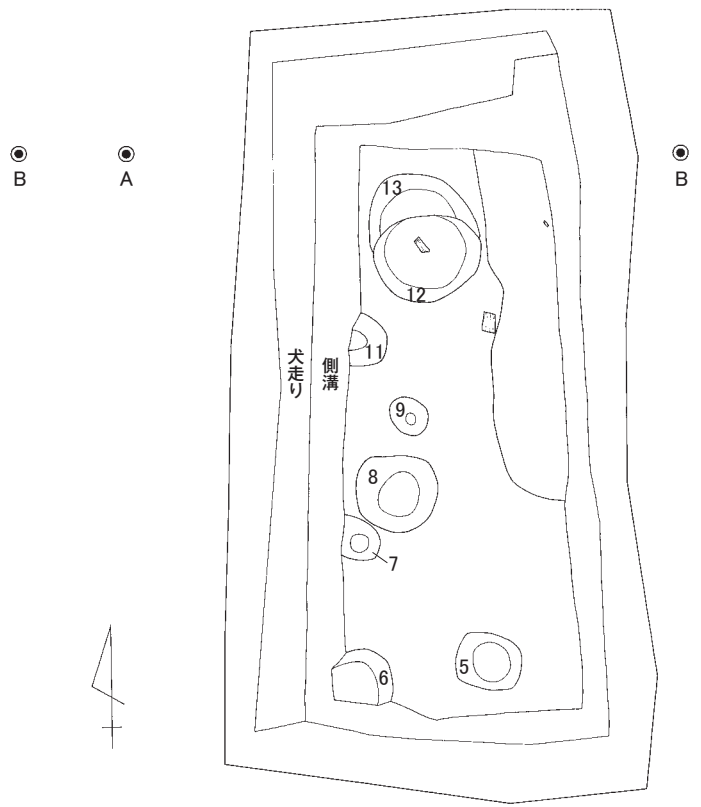


- | No. | 土層注記  |
|-----|---|
| 1   | 表土  |
| 2   | 暗褐色弱粘質土-泥岩粒 (遺構2)                             |
| 3   | 茶褐色弱粘質土-泥岩粒・炭化物・褐色有機質土                        |
| 4   | 茶褐色弱粘質土-泥岩粒・炭化物・褐鉄・硬く締まる                      |
| 5   | 茶褐色弱粘質土-貝・硬く締まる (第2面構成土)                      |
| 6   | 褐色弱粘質土-炭化物・貝・褐色有機質土・青灰色砂質土 (第2面構成土)           |
| 7   | 褐色弱粘質土-炭化物・貝・泥岩粒・泥岩・貝砂 (第2面構成土)               |
| 8   | 茶褐色弱粘質土-灰褐色砂質土と茶褐色弱粘質土の互層・炭化物・褐色有機質土 (第3面構成土) |
| 9   | 暗褐色弱粘質土-褐色有機質土                                |
| 10  | 暗褐色弱粘質土-褐色有機質土                                |
| 11  | 暗褐色弱粘質土-褐色砂質土・炭化物・貝砂                          |
| 12  | 暗褐色弱粘質土-炭化物・褐色砂質土・貝・褐色有機質土                    |
| 13  | 暗褐色弱粘質土-泥岩粒・炭化物                               |
| 14  | 暗褐色弱粘質土-泥岩粒・炭化物・褐色有機質土・貝 (第3面構成土)             |
| 15  | 暗褐色弱粘質土-泥岩粒・褐色有機質土・褐色砂質土                      |
| 16  | 暗褐色弱粘質土-泥岩粒・褐色有機質土 (溝)                        |
| 17  | 暗褐色弱粘質土-泥岩粒・褐色有機質土・褐色砂質土 (第3面構成土)             |
| 18  | 茶褐色弱粘質土-灰褐色砂質土と茶褐色弱粘質土の互層・炭化物・褐色有機質土 (第3面構成土) |
| 19  | 暗褐色弱粘質土-褐色砂質土 (溝)                             |
| 20  | 暗褐色弱粘質土-褐色砂質土・褐色有機質土・貝砂 (溝)                   |
| 21  | 暗褐色弱粘質土-褐色砂質土 (溝)                             |
| 22  | 暗褐色弱粘質土-褐色砂質土・褐色有機質土・貝砂・硬く締まる (溝)             |
| 23  | 茶褐色弱粘質土-褐色有機質土・貝砂                             |
| 24  | 炭化物層-褐色有機質土                                   |
| 25  | 暗褐色弱粘質土-泥岩粒・炭化物                               |
| 26  | 暗褐色弱粘質土-褐色砂質土                                 |
| 27  | 暗褐色弱粘質土-褐色砂質土                                 |
| 28  | 暗褐色弱粘質土-褐色砂質土・炭化物・泥岩粒・貝砂 (溝)                  |
| 29  | 暗褐色弱粘質土-褐色有機質土・貝砂・白色粒 (溝)                     |
| 30  | 茶褐色有機質土-炭化物 (溝)                               |
| 31  | 暗褐色弱粘質土-炭化物・褐色砂質土・貝・褐色砂 (溝)                   |
| 32  | 暗褐色弱粘質土-貝砂 (溝)                                |
| 33  | 褐色弱粘質土-泥岩粒・貝砂・褐色有機質土 (溝)                      |
| 34  | 暗褐色弱粘質土-泥岩粒・褐色有機質土 (溝)                        |
| 35  | 暗褐色弱粘質土-炭化物・黒色有機質土・貝砂 (溝)                     |
| 36  | 黒色粘質土-褐色有機質土・炭化物                              |
| 37  | 灰褐色砂質土-褐色有機質土・貝砂                              |
| 38  | 茶褐色弱粘質土-炭化物・褐色有機質土 (溝)                        |
| 39  | 暗褐色弱粘質土-炭化物                                   |
| 40  | 褐色砂質土-褐色有機質土・貝砂 (溝)                           |
| 41  | 暗褐色弱粘質土-泥岩粒・褐色有機質土・貝砂 (溝)                     |
| 42  | 黒色粘質土-茶色有機質土                                  |
| 43  | 茶色有機質土-炭化物                                    |
| 44  | 灰褐色弱粘質土-炭化物・褐色有機質土・植物遺体                       |
| 45  | 暗褐色弱粘質土-褐色有機質土・貝砂                             |
| 46  | 暗褐色弱粘質土-泥岩粒・炭化物・硬く締まる (第1面構成土)                |
| 47  | 暗褐色弱粘質土-泥岩粒・炭化物・褐鉄・褐色砂質土                      |
| 48  | 茶褐色弱粘質土-炭化物・泥岩粒                               |
| 49  | 茶褐色弱粘質土-炭化物・泥岩粒・泥岩・褐色有機質土                     |
| 50  | 暗褐色弱粘質土-泥岩粒・炭化物・褐鉄                            |
| 51  | 暗褐色弱粘質土-泥岩粒・炭化物                               |
| 52  | 茶褐色弱粘質土-炭化物・泥岩粒・青灰色砂質土・褐色有機質土                 |
| 53  | 暗褐色弱粘質土-炭化物・褐色有機質土・灰褐色砂質土                     |
| 54  | 暗褐色弱粘質土-泥岩粒・炭化物・褐色有機質土                        |
| 55  | 暗褐色弱粘質土-炭化物・青灰色砂質土・褐色有機質土                     |
| 56  | 茶褐色砂質土-灰褐色砂質土・褐色有機質土・炭化物 (第3面構成土)             |
| 57  | 暗褐色弱粘質土-褐色有機質土                                |
| 58  | 貝層  |
| 59  | 暗褐色弱粘質土-褐色砂質土・炭化物                             |

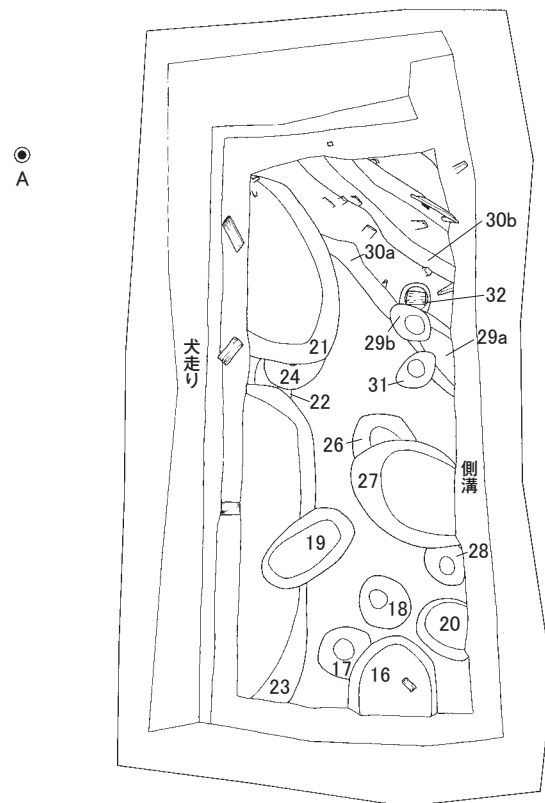
図3 堆積土層図



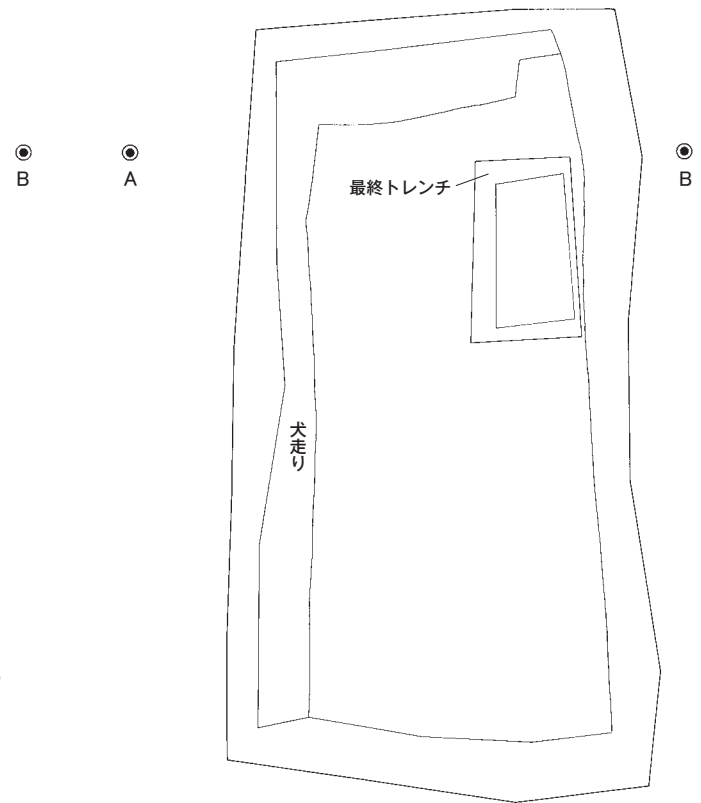
第1面全測図



第2面全測図



第3面全測図



最終トレンチ配置図



図4 第1面・第2面・第3面全測図・最終トレンチ位置図



## 第二章 発見された遺構と遺物

重機によって表土掘削を行った。現地表から約50cm掘り下げた時点で、湧水によって調査区の壁が崩れていくような状況となったため調査区四周に側溝を設けた。また、調査区の一部を排水処理のために深堀し、常時ポンプによる排水をしながら調査を行った。調査地内での廃土の処理場が狭小であったことや、水を多く含んだ廃土の処理に困難な現場であった。本調査では3枚の生活面と、それぞれの面で竪穴建物・溝・土坑・ピットを発見した。遺物はかわらけ・常滑窯製品・瀬戸窯製品などの中世遺物とともに、少量ではあるが土師器・須恵器などの古代遺物を発見している。遺構番号は調査時の作業の簡便を測るために遺構のプランに対して付してあり、必ずしも番号の新旧が時代の新旧を表すものではない。以下、層位毎に発見した遺構・遺物の説明を加えていく。

### 1. 第1面の遺構と遺物 (図4～図6)

表土から約100cmの厚さで堆積した現代埋土を重機によって除去し、貝・炭化物を含む締まりの良

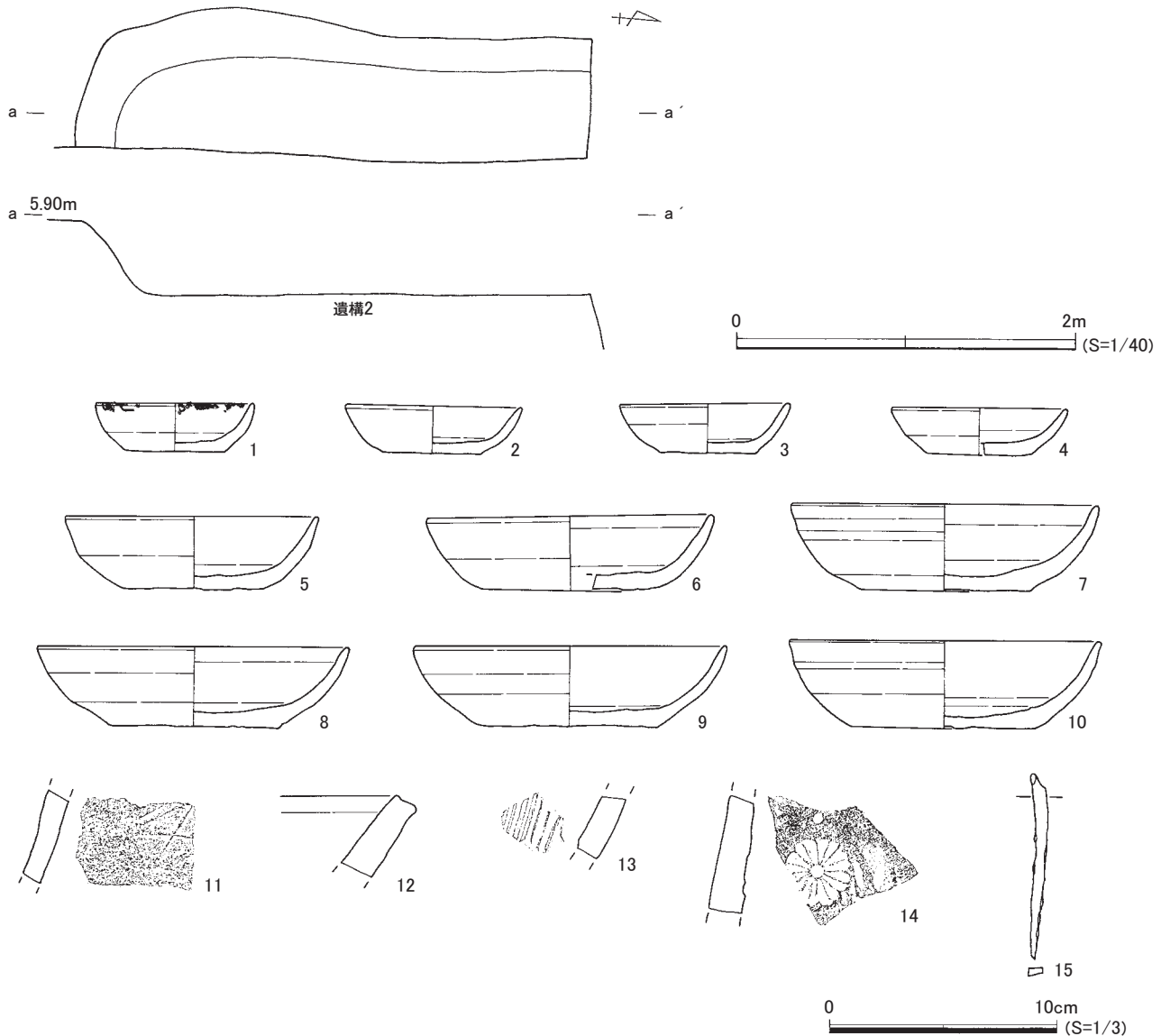


図5 第1面 遺構2

い暗茶褐色弱粘質土上で第1面遺構を確認した。発見した遺構は竪穴建物1軒・ピット1穴・土坑1基・溝状遺構1基と少なく、出土した遺物も少量である。調査区西壁に沿って発見した遺構1は溝状遺構として記録したが、調査区外に遺構が延びており形状・規模は不明である。

### ・遺構2 (図5)

調査区外に遺構が延び規模は不明、遺構上層を削平され深度は浅くなったが竪穴建物である。遺構覆土は貝・炭化物・植物遺体を含む暗褐色弱粘質土。

### ・出土遺物 (図5)

1～10はかわらけ。1は口唇部に油煤痕。11は常滑甕。12は常滑片口鉢Ⅱ類。13は備前播鉢。14は瓦器質火鉢。15は鉄製品釘。その他に常滑片口鉢Ⅱ類・獣骨が破片で出土している。また実測したかわらけは10点であるが破片でかわらけ(大)107片・(小)6片が出土した。

### ・第1面構成土出土遺物 (図6)

第1面検出後、第2面までの掘り下げ時に発見した遺物である。1・2は常滑片口鉢Ⅰ類。3は常滑片口鉢Ⅱ類。4は瓦器質火鉢。5は石製品硯。6は石製品砥石。その他にかわらけ・手づくね・瀬戸皿・常滑甕・土器質火鉢・須恵器甕・獣骨が破片で出土している。

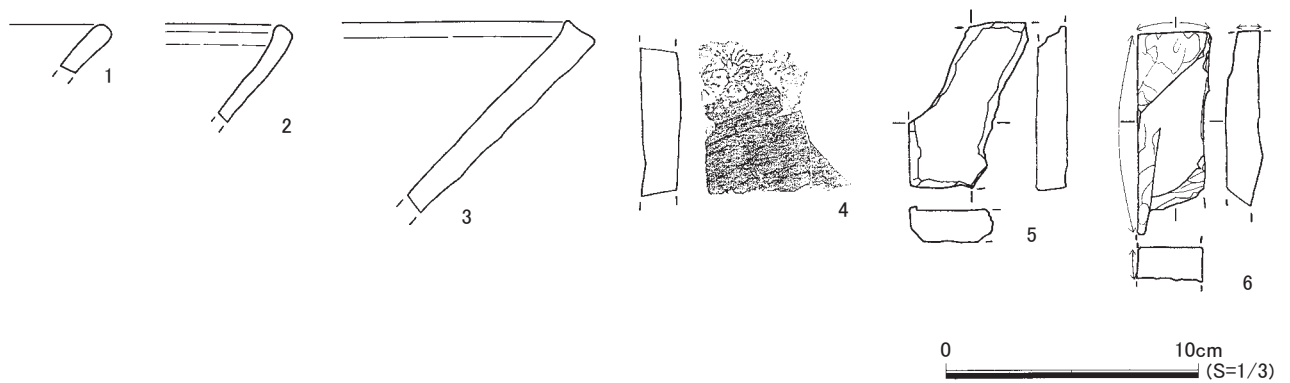


図6 第1面構成土出土遺物

## 2. 第2面の遺構と遺物 (図4・図7・図8)

第1面検出後、約20cm掘り下げて、炭化物・貝・泥岩粒・泥岩を含む締まりの良い茶褐色弱粘質土上で第2面を確認した。発見した遺構は土坑6基・ピット3穴である。土坑内、面上に礎板状の板材が遺存していたが、建物址を推定することは出来なかった。第2面で発見した遺構の覆土には炭化物が多く含まれ、焼痕の残る木片・石材なども発見されている。

### ・遺構5 (図7)

円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物・貝を含む暗褐色弱粘質土。

### ・出土遺物 (図7)

1・2はかわらけである。その他に常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類・獣骨が破片で出土している。

### ・遺構7 (図7)

調査区外に遺構が延び形状は不明。ピットである。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物を含む暗褐色

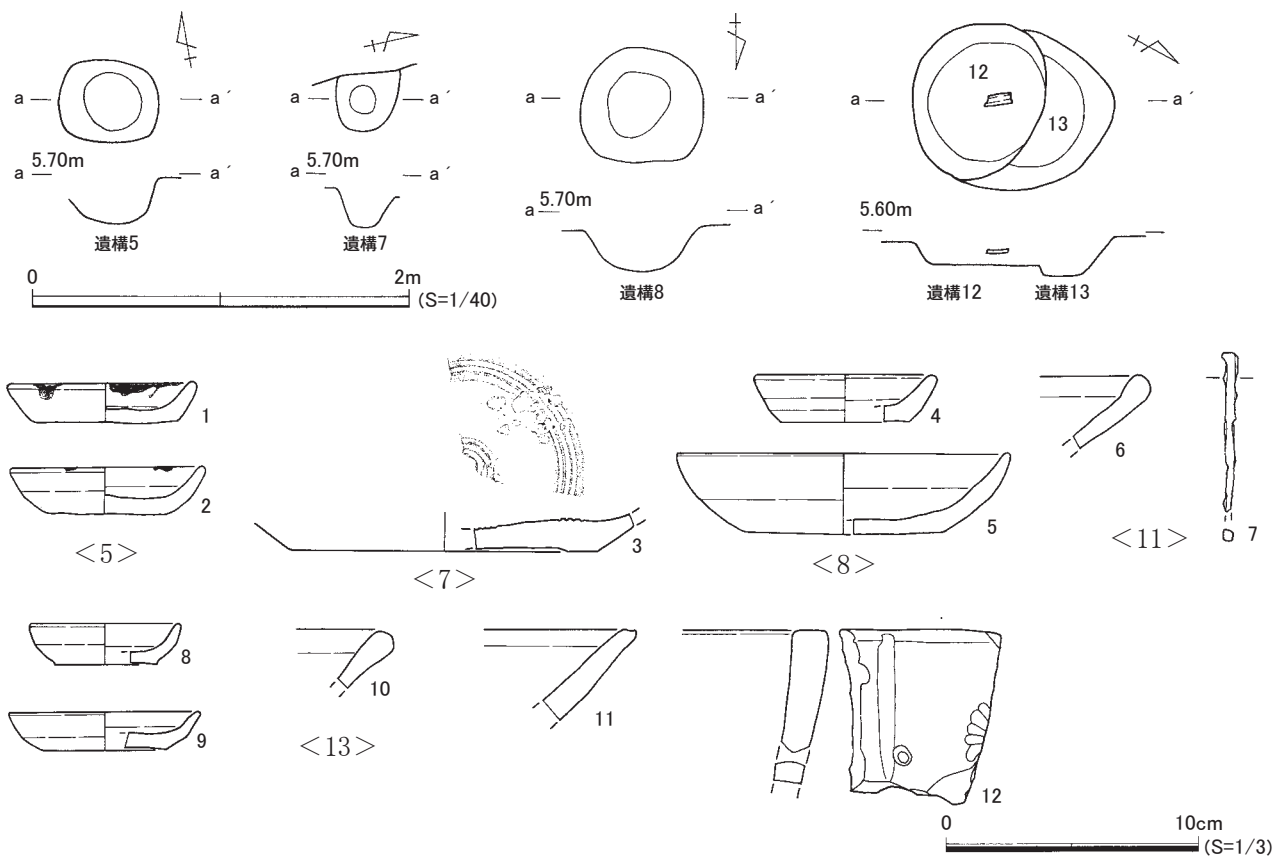


図7 第2面個別遺構

弱粘質土。

・出土遺物 (図7)

3は瀬戸折縁皿。その他にかわらけが破片で出土している。

・遺構8 (図7)

円形を呈する土坑である。遺構覆土は泥岩・泥岩粒・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。

・出土遺物 (図7)

4・5はかわらけ。その他に常滑甕・石製品硯が破片で出土している。

・遺構11 (図4)

個別に図示していない。調査区外に遺構が延びており規模は不明となった。土坑である。遺構覆土は泥岩・炭化物を含む暗褐色弱粘質土。

・出土遺物 (図7)

6は常滑片口鉢I類。7は鉄製品釘。その他にかわらけが破片で出土している。

・遺構12 (図7)

遺構12と遺構13は当初同一遺構として掘り下げたが、覆土断面から二つの土坑が切りあっていたことを確認したため、出土遺物は遺構13に一括して記録した。楕円形を呈する土坑である。土坑底面近くに礎板を有する。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・火熱を受け炭化物を吸着する安山岩・灰を含む。

・遺構13 (図7)

遺構12に切られる。土坑である。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・炭化物・木片・植物遺体を含む。

・出土遺物 (図7)

8・9はかわらけ。10・11は常滑片口鉢Ⅰ類。12は瓦器質輪花型火鉢。その他に常滑甕・常滑片口鉢Ⅱ類・獣骨が破片で出土している。

・第2面面上出土遺物 (図8)

第1面構成土を掘り下げ、第2面とした茶褐色弱粘質土上で発見した遺物である。

1は常滑片口鉢Ⅱ類。その他に瀬戸壺・常滑甕・常滑片口鉢Ⅱ類・瓦器質火鉢・獣骨が破片で出土している。

・第2面構成土出土遺物 (図8)

第2面検出後、第3面までの掘り下げ時に発見した遺物である。

2～7はかわらけ。8は青磁折縁鉢。9は山茶碗。10・11は常滑甕。12・13は常滑片口鉢Ⅰ類。14は常滑片口鉢Ⅱ類。15は備前播鉢。16は土器質火鉢。17は土器質鍔釜。18・19は石製品砥石。その他に青磁無文椀・青白磁梅瓶蓋・常滑壺・常滑片口鉢Ⅱ類・伊勢系土鍋・不明土製品・瓦器質火鉢・獣骨が破片で出土している。

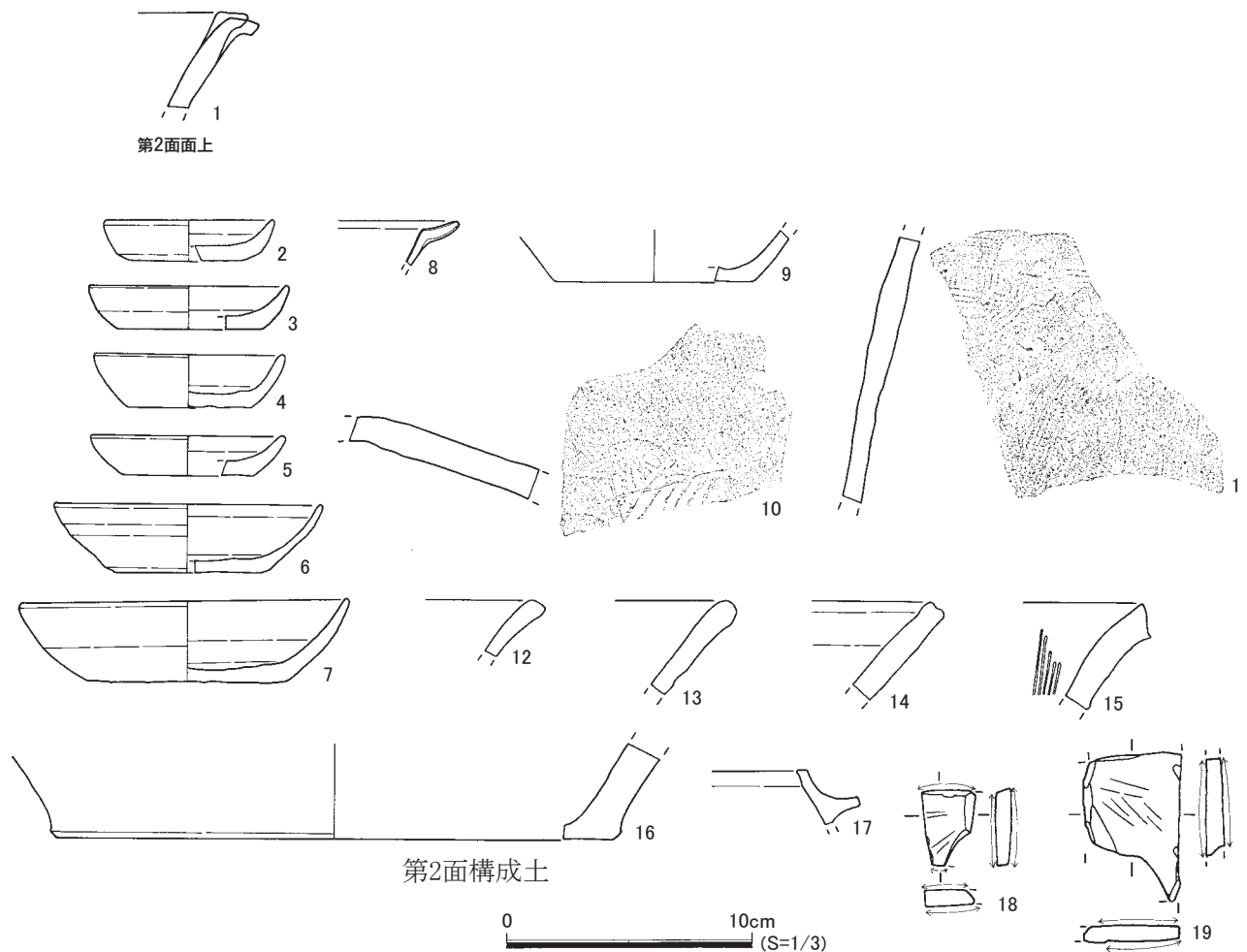


図8 第2面面上・構成土出土遺物

3. 第3面の遺構と遺物 (図4・図9・図10)

第2面検出後、約30cm掘り下げて、炭化物・貝・泥岩粒・泥岩・灰褐色砂質土を含む締まりの良い茶褐色弱粘質土上で第3面を確認した。発見した遺構は土坑8基・ピット7穴・溝2条である。2時



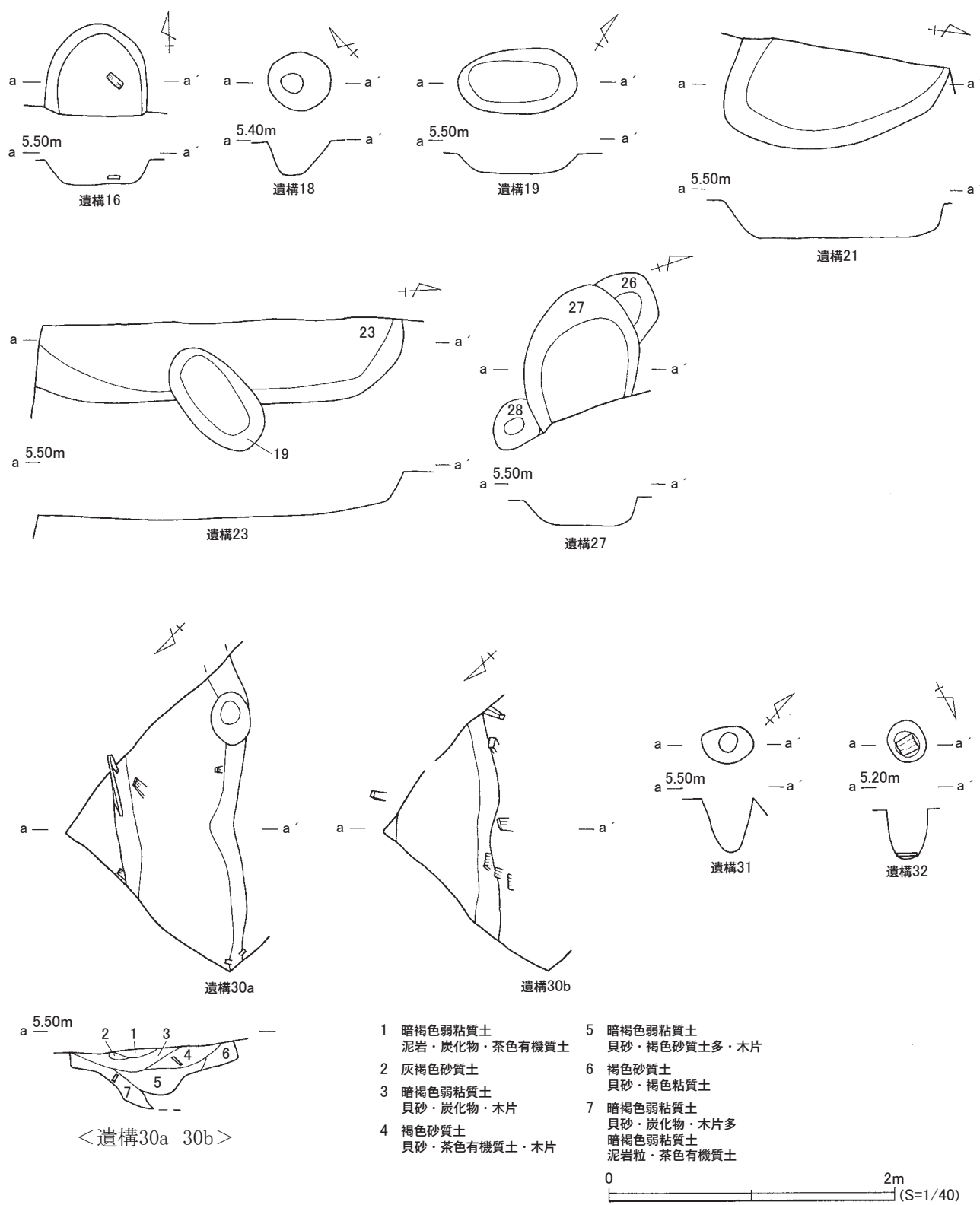


図9 第3面個別遺構

期の遺構が切りあっていた。第2面同様に、面上・遺構覆土内に礎板を発見しているが建物を推定することは出来なかった。

・遺構16 (図9)

調査区外に遺構が延び、規模・形状は不明。遺構底面近くに礎板状の木片を有する。遺構覆土は暗

褐色弱粘質土・木片・青灰色砂質土・褐色粘土を含む。

・**出土遺物 (図 10)**

1 は瀬戸卸皿。2 は黄釉盤。3 は鉄製品釘。その他にかわらけ・青磁鎚蓮弁文碗・瀬戸洗・常滑甕・常滑片口鉢 I 類・獣骨が破片で出土している。

・**遺構 18 (図 9)**

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗褐色弱粘質土・泥岩粒・炭化物・木片を含む。

・**出土遺物 (図 10)**

4 は常滑片口鉢 I 類。5 は鉄製品釘。その他にかわらけ・常滑甕・獣骨が破片で出土している。

・**遺構 19 (図 9)**

楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗褐色弱粘質土。木片・青灰色砂質土を含む。

・**出土遺物 (図 10)**

6 は骨製品用途不明。その他にかわらけ・常滑甕が破片で出土している。

・**遺構 21 (図 9)**

調査区外に遺構が延び、規模・形状は不明となった。土坑である。遺構覆土は暗褐色弱粘質土。炭化物・褐色有機質土・木片を含む。

・**出土遺物 (図 10)**

7・8 はかわらけ。9 は渥美甕。10 は石製品加工途中。その他に白磁皿・常滑甕・漆喰・獣骨が破片で出土している。

・**遺構 22 (図 4)**

個別に図示していない。遺構 23・遺構 24 に切られる。土坑である。遺構覆土は暗褐色弱粘質土。炭化物・褐色有機質土・青灰色砂質土・褐鉄を含む。

・**出土遺物 (図 10)**

11 は常滑片口鉢 I 類。その他にかわらけ・瀬戸卸皿・常滑甕が破片で出土している。

・**遺構 23 (図 9)**

調査区外に遺構が延び、規模・形状は不明となった。土坑である。遺構 19 に切られる。遺構覆土は暗褐色弱粘質土。火熱を受けた安山岩・炭化物・貝・礎板、部材等の木片を多く含む。

・**出土遺物 (図 10)**

12 は白磁碗。13～15 はかわらけ。16 は常滑片口鉢 I 類。17 は常滑片口鉢 II 類。18 はかわらけ加工品。その他にかわらけ・常滑甕・瓦器質火鉢・石製品硯・獣骨が破片で出土している。実測は出来なかったが、かわらけは (大) 85 片・(小) 4 片を数えた。

・**遺構 26 (図 9)**

遺構 27 に切られる。ピットである。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土。貝・青灰色砂質土を含む。遺物はかわらけ・常滑甕・獣骨が破片で出土している。

・**遺構 27 (図 9)**

調査区外に遺構が延び規模は不明。楕円形を呈する土坑である。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土。炭化物・褐色有機質土・泥岩粒を含む。

・**出土遺物 (図 10)**

19 は常滑甕。その他にかわらけ・手づくね・常滑片口鉢 I 類・常滑片口鉢 II 類・獣骨が破片で出土している。

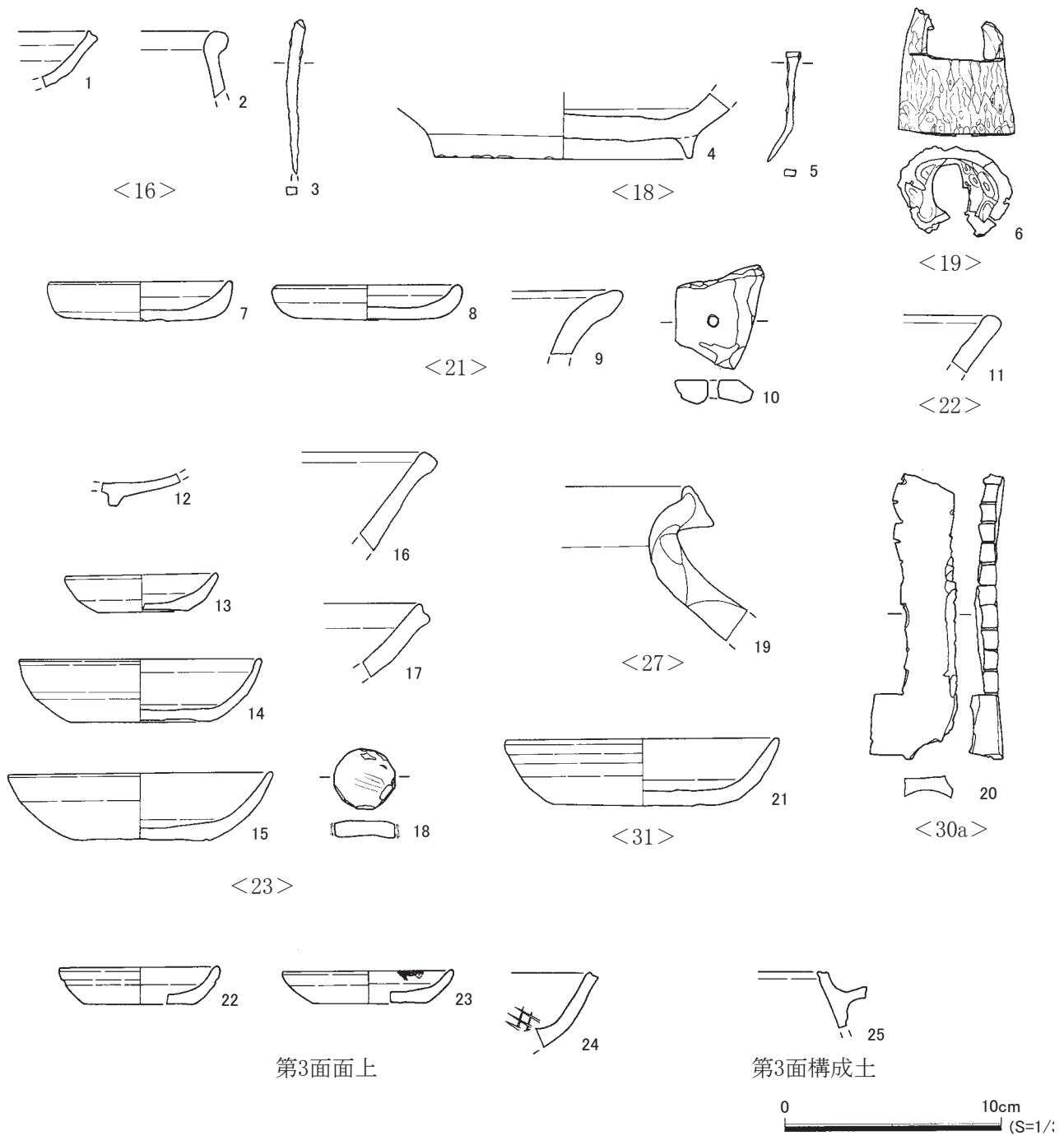


図10 第3面遺構・第3面面上・構成土出土遺物

・遺構28 (図9)

遺構27に切られる。円形を呈するピットである。遺構覆土は暗褐色弱粘質土。貝・炭化物・泥岩粒・青灰色砂質土を含む。遺物はかわらけ・手づくね・漆喰が破片で出土している。

・遺構30a (図9)

調査区外に遺構が延び規模は不明となった。溝である。流下方向は不明。幅約84cmのやや狭い溝であるが、杭を打ち溝壁に沿って側板を止める方法で護岸を行っていることが分かった。遺構覆土は暗褐色弱粘質土。泥岩粒・褐色砂質土・褐色有機質土を含む。後述する遺構30bを切る。平面で確認したのは遺構30aと遺構30bの2条であったが、第3面の調査後にトレンチを設け堆積層確認を行った際、

ほぼ同位置に杭と側板を使った護岸を持つ溝が下層に2条あったことが分かった。遺存していた何本かの杭の先端には焼痕があり火災などの火熱を受けた様子である。

・出土遺物 (図 10)

遺構 30a と遺構 30b は遺物採集時に混乱してしまい、遺物を分ける事が出来なかったため一括して採集している。20 は骨製品用途不明。その他にかわらけ・手づくね・瀬戸折縁皿・褐釉壺・常滑甕・常滑壺・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑片口鉢Ⅱ類・獣骨が破片で出土している。

・遺構 30b (図 9)

調査区外に遺構が延び正確な規模は不明となった。約 80cm の幅を持つ溝である。流下方向は不明。遺構覆土は暗褐色弱粘質土。褐色砂質土を多く含み、貝砂・褐色有機質土を含む。遺物は遺構 30a に一括して採集した。

・遺構 31 (図 9)

円形を呈するピットである。遺構覆土は暗褐色弱粘質土。炭化物・貝を含む。

・出土遺物 (図 10)

21 はかわらけ。その他に獣骨が出土している。また、焼痕のある箸状木製品を覆土内に多く含んでいた。

・遺構 32 (図 9)

円形を呈するピットである。遺構底面に礎板を有する。遺構覆土は暗茶褐色弱粘質土。泥岩・茶色有機質土を含む。遺物は貝・木片・果核が出土している。

・第 3 面面上出土遺物 (図 10)

第 2 面構成土を掘り下げ、第 3 面とした茶褐色弱粘質土上で発見した遺物である。22～23 はかわらけ。24 は瀬戸卸皿。その他に常滑甕・常滑壺・常滑片口鉢Ⅰ類・渥美甕・瓦器質火鉢・チャート・獣骨が破片で出土している。

・第 3 面構成土出土遺物 (図 10)

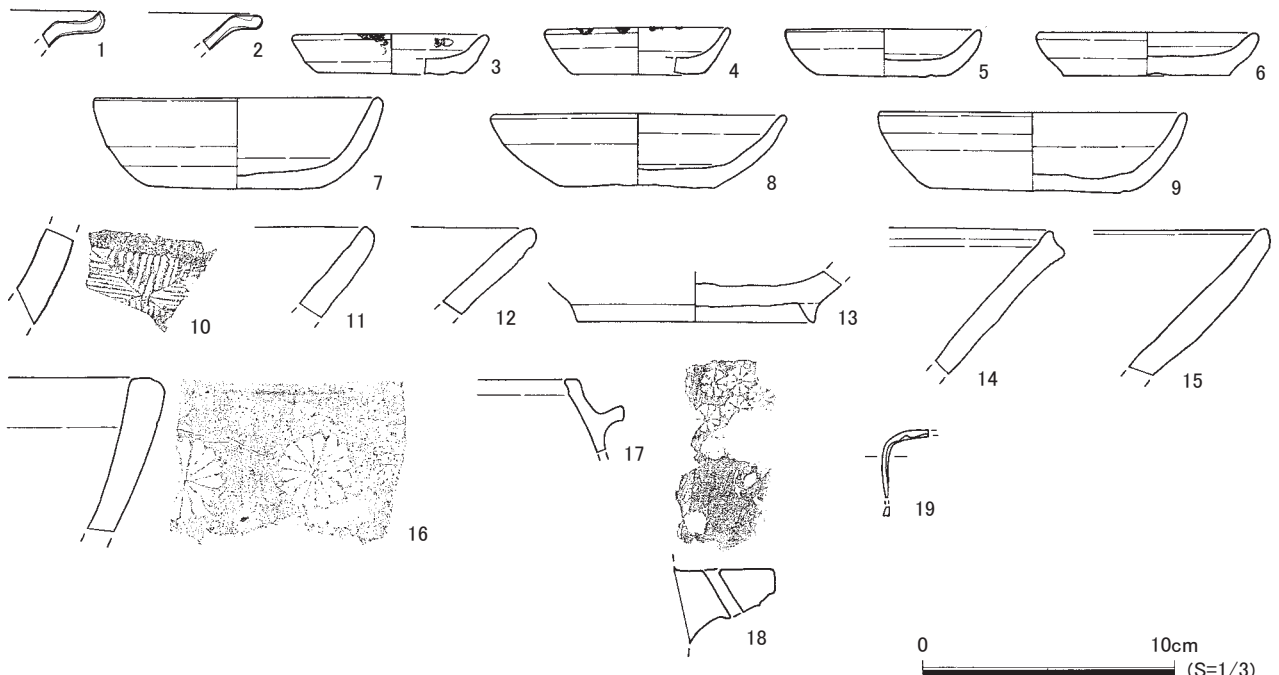


図 11 表採



第3面検出後トレンチを設け下層の堆積層を確認した際に発見した遺物である。25は土器質罏釜。その他にかわらけ・手づくね・常滑甕・伊勢系土鍋が破片で出土している。

・表採出土遺物（図11）

表土から第1面面上までの堆積土中で発見した遺物である。

1～9はかわらけ。10は常滑甕。11～13は常滑片口鉢Ⅰ類。14・15は常滑片口鉢Ⅱ類。16・18は瓦器質火鉢。17は土器質罏釜。19は鉄製品釘。

<遺構計測表>

層位	遺構名	長軸	短軸	深さ	層位	遺構名	長軸	短軸	深さ
第1面	1	(440.0)	(29.0)	(26.4)	第3面	16	(65.0)	72.0	16.7
	2	(302.0)	(85.0)	33.2		17	43.0	(33.0)	18.5
	3	25.0	23.0	20.3		18	42.0	42.0	26.8
	4	(33.0)	49.0	22.9		19	83.0	45.0	13.5
第2面	5	53.0	45.0	24.7		20	(42.0)	50.0	19.8
	6	(48.0)	(43.0)	18.5		21	142.0	(74.0)	26.2
	7	(31.0)	33.0	21.0		22	(33.0)	33.0	22.4
	8	66.0	62.0	23.8		23	(245.0)	(58.0)	33.4
	9	33.0	27.0	13.1		24	(36.0)	49.0	24.6
	11	(28.0)	45.0	12.9		26	(25.0)	50.0	19.9
	12	88.0	70.0	14.0		27	(84.0)	79.0	20.9
	13	84.0	(35.0)	22.1		28	(31.0)	31.0	22.4
						29a	(50.0)	40.0	12.7
						29b	38.0	27.0	18.3
						30a	(184.0)	84.0	31.6
						30b	(115.0)	-	12.0
					31	35.0	26.0	36.8	
					32	30.0	25.0	34.7	

単位 (cm)

### 第三章 まとめ

本調査地は湧水が激しいため調査区壁に沿って側溝を設けポンプによって常時排水を行い、水を含んだ廃土の処理を狭小な調査地内で処理する困難等に多くの時間を割いた調査となったが、比較的良好に遺構を検出している。現地表から約100cmの深さで堆積していた近・現代の堆積土は重機によって掘り下げ、暗茶褐色弱粘質土上で第1面を検出した。第1面は上層の堆積土によって削平を受け、発見した遺構・遺物は少ない。第1面構成土上層は貝・炭化物を含み固く締まり、下層は貝・植物遺体・細礫を含む暗褐色砂質土が堆積していた。第2面は土坑・ピットを発見している。調査区が狭小なため、調査区外に遺構が延び建物を推定することは出来なかったが、遺構覆土に礎板を伴うピットや、面上に礎板状の板材を発見している。第2面は泥岩・泥岩粒を含む堅く締まった茶褐色弱粘質土上で検出した。遺構覆土は泥岩粒を含む暗褐色弱粘質土と、青灰色砂質土を含む暗褐色弱粘質土の二種類があり、遺構の切り合いを確認することは出来なかったが2時期に分かれるのかもしれない。第2面構成土は貝・炭化物・褐色有機質土・泥岩・泥岩粒を含む堅く締まった暗褐色弱粘質土。第1面と第2面は、出土遺物から14世紀から15世紀の年代が与えられる。第3面は茶褐色弱粘質土上で2時期の遺構を発見した。第2面同様に遺構覆土内に礎板を伴うピットや、面上に礎板状の板材を発見しているが建物址を推定することは出来なかった。その他に第3面では東西に延びる溝を発見している。本報告では2時期の溝を提示しているが、トレンチを設け溝の堆積を確認したところ、下層に少なくとも2時期の溝があったことを確認し、4時期の溝が比較的短期間に造り替えを行っていた様子である。また、この溝の護岸に使用した杭などの木材は、先端に焼痕が残り調査地の火災を示唆している。第3面構成土は木片・褐色有機質土を含む青灰色砂質土で、焼痕を有する木片・石などを多く含む。第3面は出土遺物から13世紀後半から14世紀の年代が与えられる。第3面の遺構を検出後、調査区壁に沿って掘り下げた側溝で、第3面検出レベルから約20cm下で第4面と考える生活面を確認している。この堆積土上では礎板と考える板材を発見しており建物址の存在を窺わせる。また、第3面で発見した溝(遺構30)下層で確認した溝はこの層の遺構であったと考えている。第4面構成土からは、破片のため実測遺物の報告はないがかわらけ・常滑甕とともに、手づくねかわらけが破片で出土している。出土遺物が少量であり、遺構の確認もできなかったため年代の比定は難しいが、概ね13世紀後半の年代を与えている。第3面検出後、トレンチを設け下層の堆積を確認したが、湧水が激しく凶面等を記録することができなかった。現地表から約310cm掘り下げたところで中世基盤層と考える青灰色砂層を確認した。

本調査地北を東西に走る県道311号線を境に北側と南側で現地表では海拔高に差がないが、中世遺構を発見する海拔高に100cm以上の差があり、中世期には南に向かって海拔高が下がり調査地周辺は後背湿地であったことが近年の調査成果によってわかっている。また、発見する遺構は北側では竪穴建物が中心となるが南側では掘立柱建物、あるいは板壁建物が中心となる。本調査でも建物址を推定することは出来なかったが、遺構覆土内と面上に遺存していた礎板から掘立柱建物の存在が窺えた。第1面と第2面は遺物の出土量が少量であったことや、湧水による調査区壁の崩落などによって、採集に多少の混乱があったため、大きく14世紀から15世紀の年代を与えたが、第3面は14世紀初めから13世紀後半までの間に収まると考えている。しかし、第4面としたトレンチ壁によって確認した第4面は出土遺物が少なく、13世紀後半を遡る確証は得られなかった。



遺物観察表

図版	No.	出土面 遺構	種別	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (高さ)	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
5	1	第1面 遺構2	かわらけ	(6.8)	4.4	2.2	a.ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b.微砂 赤色粒 海綿骨芯 雲母 土丹粒 c.黄橙色 e.良好 f.2/3 g.内外面口唇部に油煤痕 外底糸切の後糸切痕をナデ消しか?
5	2	第1面 遺構2	かわらけ	7.6	4.2	2.1	a.ロクロ・内底横ナデ b.微砂 赤色粒 海綿骨芯 雲母 c.黄橙色 e.良好 f.完形
5	3	第1面 遺構2	かわらけ	7.4	4.2	2.3	a.ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b.微砂 赤色粒 海綿骨芯 雲母 c.黄橙色 e.良好 f.完形
5	4	第1面 遺構2	かわらけ	(7.6)	(4.6)	2.1	a.ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b.微砂 赤色粒 海綿骨芯 雲母 c.黄橙色 e.良好 f.1/2 g.口唇部の一部黒色に変色
5	5	第1面 遺構2	かわらけ	11.1	6.2	3.25	a.ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b.微砂 赤色粒 海綿骨芯 雲母 c.黄橙色 e.良好 f.ほぼ完形 g.内外面の一部黒色に変色
5	6	第1面 遺構2	かわらけ	(12.4)	(7.8)	3.3	a.ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b.微砂 赤色粒 海綿骨芯 雲母 黒色粒 小石粒 c.黄橙色 e.良好 f.1/3
5	7	第1面 遺構2	かわらけ	(13.4)	(7.4)	3.3	a.ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b.微砂 海綿骨芯 雲母 c.黄橙色 e.良好 f.1/3
5	8	第1面 遺構2	かわらけ	13.4	7.4	3.6	a.ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b.微砂 赤色粒 海綿骨芯 小石粒 雲母 c.橙色 e.良好 f.完形
5	9	第1面 遺構2	かわらけ	13.8	7.8	3.6	a.ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b.微砂 赤色粒 海綿骨芯 小石粒 雲母 c.黄橙色 e.良好 f.完形
5	10	第1面 遺構2	かわらけ	(13.4)	(8.2)	3.8	a.ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底強く横ナデ b.微砂 赤色粒 海綿骨芯 雲母 c.黄橙色 e.良好 f.1/3
5	11	第1面 遺構2	常滑 甕				a.輪積み技法 b.黒灰色 砂粒 白色粒 小石粒 c.暗褐色 e.良好・硬質 f.胴部片 g.格子と斜線の押印
5	12	第1面 遺構2	常滑 片口鉢Ⅱ類				a.輪積み技法 b.暗褐色 砂粒 白色粒 小石粒 c.暗褐色 e.良好・硬質 f.口縁部片
5	13	第1面 遺構2	備前 播鉢				b.赤灰色、砂粒 白色粒 黒色粒 小石粒 c.橙褐色 e.良好・硬質 f.13c~14c g.7条の溝
5	14	第1面 遺構2	瓦器質 火鉢				a.輪積み技法 b.砂粒 雲母 小石粒 白色粒 c.灰褐色 e.良好 f.体部小片 g.Ⅲ類 外側面に16弁の菊花文の押印 14c以降
5	15	第1面 遺構2	鉄製品 釘	(8.1)	(0.6)	(0.6)	a.鍛造・断面方形 f.下端欠損
6	1	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類				a.輪積み技法 b.灰色 砂粒 白色粒 黒色粒 c.灰色 e.良好・硬質 f.口縁部片
6	2	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類				a.輪積み技法 b.黒灰色 砂粒 白色粒 c.暗灰色 e.良好・硬質 f.口縁部片
6	3	第1面 構成土	常滑 片口鉢Ⅱ類				a.輪積み技法 b.灰色 砂粒 白色粒 小石粒 c.暗褐色 e.良好・硬質 f.口縁部片 g.内面摩耗
6	4	第1面 構成土	瓦器質 火鉢				a.輪積み技法 b.砂粒 黒色粒 小石粒 c.黒灰色 e.良好・軟質 f.胴部片 g.外面横位の磨き痕 Ⅲ類
6	5	第1面 構成土	石製品 硯	6.6	4.8	1.3	f.破片 g.赤間ヶ関産
6	6	第1面 構成土	石製品 砥石	8.0	2.9	1.4	c.黄白色 f.破片 g.カワ遺存 伊予産 中砥
7	1	第2面 遺構5	かわらけ	7.3	5.8	1.7	a.ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b.微砂 海綿骨芯 土丹粒 雲母 c.黄橙色 e.良好 f.ほぼ完形 g.内外面口唇部が黒色に変色
7	2	第2面 遺構5	かわらけ	7.6	4.8	2.0	a.ロクロ・外底回転糸切・内底強く回転ナデ b.微砂 赤色粒 海綿骨芯 小石粒 雲母 c.橙色 e.良好 f.2/3 g.口唇部内外面の一部に油煤痕あり
7	3	第2面 遺構7	瀬戸 折縁皿			(12.2)	a.ロクロ b.砂粒 良土 c.灰色 d.灰緑色 ツケ掛け e.良好・硬質 f.1/3 g.内底中央と見込み周囲に4条の沈線がめぐり 内底に目痕
7	4	第2面 遺構8	かわらけ	(7.0)	(5.2)	1.9	a.ロクロ・外底回転糸切 b.微砂 海綿骨芯 雲母 赤色粒 c.黄橙色 e.良好 f.1/4
7	5	第2面 遺構8	かわらけ	(13.0)	(8.0)	3.2	a.ロクロ・外底回転糸切 b.微砂 海綿骨芯 雲母 小石粒 c.黄橙色 e.良好 f.1/2 g.内側面の一部黒色に変色
7	6	第2面 遺構11	常滑 片口鉢Ⅰ類				a.輪積み技法 b.暗灰色 砂粒 白色粒 黒色粒 小石粒 c.暗灰色 e.良好・硬質 f.口縁部片 g.6a
7	7	第2面 遺構11	鉄製品 釘	(6.3)	(0.6)	(0.5)	a.鍛造・断面方形 g.下端欠損
7	8	第2面 遺構13	かわらけ	(5.8)	(4.0)	1.6	a.ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b.微砂 赤色粒 海綿骨芯 雲母 c.黄橙色 e.良好 f.1/5
7	9	第2面 遺構13	かわらけ	(7.4)	(4.8)	1.5	a.ロクロ・外底回転糸切・内底回転ナデ b.微砂 赤色粒 海綿骨芯 小石粒 雲母 c.黄橙色 e.良好 f.1/4
7	10	第2面 遺構13	常滑 片口鉢Ⅰ類				a.輪積み技法 b.灰色 砂粒 白色粒 黒色粒 小石粒 c.灰色 e.良好・硬質 f.口縁部片 g.外面と口縁部に黒色のもの付着 漆か
7	11	第2面 遺構13	常滑 片口鉢Ⅰ類				a.輪積み技法 b.灰色 砂粒 黒色粒 小石粒 c.灰色 e.良好・硬質 f.口縁部片 g.外面の一部二次焼成をうけたか黒色に変色 1b
7	12	第2面 遺構13	瓦器質 輪花型火鉢				a.輪積み技法 b.黄橙色 砂粒 雲母 黒色粒 白色粒 c.灰黒色 e.軟質 f.口縁部片 g.器壁に穿孔あり 外側面に菊花文の押印弁数不明
8	1	第2面 面上	常滑 片口鉢Ⅱ類				a.輪積み技法 b.黒灰色 砂粒 白色粒 c.暗灰色 e.良好・硬質 f.口縁部片
8	2	第2面 構成土	かわらけ	(6.8)	(4.8)	1.7	a.ロクロ・外底回転糸切 b.微砂 雲母 海綿骨芯 小石粒 c.黄橙色 e.良好 f.1/3
8	3	第2面 構成土	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.8	a.ロクロ・外底回転糸切 b.微砂 雲母 海綿骨芯 黒色粒 c.暗灰色 e.良好 f.1/4
8	4	第2面 構成土	かわらけ	(7.6)	(5.0)	2.2	a.ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b.微砂 雲母 海綿骨芯 赤色粒 c.黄橙色 e.良好 f.1/2
8	5	第2面 構成土	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.6	a.ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b.微砂 雲母 小石粒 c.橙色 e.良好 f.1/3
8	6	第2面 構成土	かわらけ	(10.8)	(6.0)	2.8	a.ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b.微砂 雲母 海綿骨芯 黒色粒 赤色粒 c.黄橙色 e.良好 f.1/3
8	7	第2面 構成土	かわらけ	13.3	8.2	3.5	a.ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b.微砂 雲母 海綿骨芯 赤色粒 c.黄橙色 e.良好 f.1/2

単位 (cm)



遺物観察表

図版	No.	出土面 遺構	種別	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (高さ)	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
8	8	第2面 構成土	青磁 折縁鉢				a.ロクロ b.灰白色 精良堅緻 d.灰緑色 半透明 厚い e.良好 f.口縁部片 g.貫入あり
8	9	第2面 構成土	南部系 山茶碗			(8.2)	a.ロクロ b.砂粒 白色粒 小石粒 c.暗灰色 e.良好・硬質 f.1/6 g.内面摩耗
8	10	第2面 構成土	常滑 甕				a.輪積み技法 b.灰色 砂粒 白色粒 黒色粒 小石粒 c.暗褐色 d.灰緑色 e.良好・硬質 f.肩部片 g.文様不明
8	11	第2面 構成土	常滑 甕				a.輪積み技法 b.灰色 砂粒 白色粒 c.黒褐色 e.良好・硬質 f.胴部片 g.格子の押印
8	12	第2面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類				a.輪積み技法 b.砂粒 白色粒 黒色粒 c.灰色 e.良好・硬質 f.口縁部片
8	13	第2面 構成土	常滑 片口鉢Ⅰ類				a.輪積み技法 b.灰色 砂粒 白色粒 黒色粒 小石粒 c.灰色 e.良好・硬質 f.口縁部片
8	14	第2面 構成土	常滑 片口鉢Ⅱ類				a.輪積み技法 b.黒灰色 砂粒 白色粒 c.暗褐色 e.良好・硬質 f.口縁部片
8	15	第2面 構成土	備前 播鉢				b.灰色 砂粒 白色粒 黒色粒 小石粒 c.黒褐色 e.良好・硬質 f.注口部片 g.5条の条線が確認される
8	16	第2面 構成土	土器質 火鉢				a.輪積み技法 b.灰色 砂粒 黒色粒 小石粒 赤色粒 c.灰橙色 e.良好・軟質 f.1/6 g.底部はなれ砂付着
8	17	第2面 構成土	土器質 罌釜				b.黒灰色 砂粒 白色粒 雲母 c.暗灰色 e.良好 f.口縁部片
8	18	第2面 構成土	石製品 砥石	3.1	2.2	0.8	c. f.破片 g.鳴滝産 2面使用 仕上砥
8	19	第2面 構成土	石製品 砥石	6.1	4.0	0.7	c. f.破片 g.鳴滝産 2面使用 カワ遺存 仕上砥
9	1	第3面 遺構16	瀬戸 卸皿				a.ロクロ b.微砂 良土 c.淡黄灰色 d.灰緑色・ハケ塗り e.良好 f.口縁部片
9	2	第3面 遺構16	黄釉 盤				b.明灰色 砂粒 黒色粒 白色粒 c.灰緑色 d.口縁部 黄褐色 胴部内外面 灰緑色 e.良好 f.口縁部片 g.小片の為鉄絵の有無は不明 口縁の釉を拭き取ったものが薄く残存
9	3	第3面 遺構16	鉄製品 釘	(7.2)	(0.6)	(0.6)	a.鍛造・断面方形 f.下端欠損
9	4	第3面 遺構18	常滑 片口鉢Ⅰ類			(12.0)	b.灰色 砂粒 白色粒 黒色粒 小石粒 c.灰色 e.良好・硬質 f.1/2 g.内底部摩耗 外底部糸切痕
9	5	第3面 遺構18	鉄製品 釘	(5.1)	(0.7)	(0.5)	a.鍛造・断面方形
9	6	第3面 遺構19	骨製品 用途不明				g.くりがた制作途中か
9	7	第3面 遺構21	かわらけ	(8.4)	(7.0)	1.8	a.ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b.微砂 赤色粒 海綿骨芯 雲母 c.赤橙色 e.良好 f.1/2
9	8	第3面 遺構21	かわらけ	(8.4)	(6.6)	1.6	a.ロクロ・外底回転糸切 b.微砂 黒色粒 雲母 小石粒 c.黄褐色 e.良好 f.2/3
9	9	第3面 遺構21	渥美 甕				a.輪積み技法 b.灰色 砂粒 白色粒 黒色粒 小石粒 c.灰色 e.良好・硬質 f.口縁部片
9	10	第3面 遺構21	石製品 滑石鍋加工品				c.銀灰色 g.滑石鍋転用品 温石として加工か
9	11	第3面 遺構22	常滑 片口鉢Ⅰ類				a.輪積み技法 b.灰色 砂粒 白色粒 黒色粒 c.灰色 e.良好・硬質 f.口縁部片
9	12	第3面 遺構23	白磁 碗				a.ロクロ b.白色 精緻 d.乳白色 ツケ掛け e.良好 f.高台部～体部 g.高台部露胎
9	13	第3面 遺構23	かわらけ	(7.0)	(4.0)	1.7	a.ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b.微砂 赤色粒 雲母 c.黄褐色 e.良好 f.1/3
9	14	第3面 遺構23	かわらけ	(11.0)	(6.4)	2.9	a.ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b.微砂 赤色粒 海綿骨芯雲母 c.黄褐色 e.良好 f.1/2 g.糸切の後整形したような痕あり
9	15	第3面 遺構23	かわらけ	12.0	6.4	3.15	a.ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b.微砂 赤色粒 海綿骨芯 雲母 c.黄褐色 e.良好 f.2/3
9	16	第3面 遺構23	常滑 片口鉢Ⅰ類				a.輪積み技法 b.暗灰色 砂粒 白色粒 黒色粒 小石粒 c.暗灰色 e.良好・硬質 f.口縁部片 g.内面摩耗 6a
9	17	第3面 遺構23	常滑 片口鉢Ⅱ類				a.輪積み技法 b.黒灰色 白色粒 小石粒 c.黒灰色 e.良好・硬質 f.口縁部片
9	18	第3面 遺構23	かわらけ 加工品		2.8	1.4	g.円盤状に加工
9	19	第3面 遺構27	常滑 甕				a.輪積み技法 b.黒灰色 砂粒 白色粒 小石粒 c.暗褐色 d.灰緑色 e.良好・硬質 f.口縁部片 6a
9	20	第3面 遺構30	骨製品 用途不明	13.2	4.0	1.1	g.加工骨 8mm～10mmの間隔でさざみ入る
9	21	第3面 遺構31	かわらけ	(12.4)	(8.3)	3.1	a.ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b.微砂 赤色粒 雲母 海綿骨芯 小石粒 c.黄褐色 e.良好 f.1/2
10	1	第3面 面上	かわらけ	(7.4)	(5.2)	1.7	a.ロクロ・外底回転糸切 b.微砂 雲母 赤色粒 海綿骨芯 c.橙色 e.良好 f.1/3 g.底部内外面の一部黒色に変色
10	2	第3面 面上	かわらけ	(7.8)	(5.2)	1.5	a.ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b.微砂 雲母 海綿骨芯 c.黄褐色 e.良好 f.1/3 g.内面口唇部に油煤痕あり
10	3	第3面 面上	瀬戸 卸皿				a.ロクロ b.明灰色 砂粒 雲母 小石粒 c. d.灰緑色・刷毛塗り e.良好 f.口縁部片
10	4	第3面 面上	土器質 罌釜				b.黒灰色 砂粒 白色粒 雲母 c.暗灰色 e.良好 f.口縁部片
11	1	表採	青磁 折縁鉢				b.黄褐色 黒色微砂 d.淡茶色 e.不良 f.口縁部片 g.焼成不良か 胎土・釉色は米色青磁に相似 貫入なし
11	2	表採	青磁 折縁鉢				b.灰色 精良堅緻 d.灰緑色 e.良好 f.口縁部片
11	3	表採	かわらけ	(7.4)	(5.8)	1.6	a.ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b.微砂 雲母 赤色粒 海綿骨芯 黒色粒 c.黄褐色 e.良好 f.1/2 g.口唇部の一部油煤痕あり

単位 (cm)

遺物観察表

図版	No.	出土面 遺構	種別	口径 (長さ)	底径 (幅)	器高 (高さ)	a.成形 b.胎土・素地 c.色調 d.釉調 e.焼成 f.遺存値 g.備考
11	4	表採	かわらけ	(7.2)	(5.2)	1.9	a.ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b.微砂 雲母 赤色粒 海綿骨芯 土丹粒 黒色粒 c.橙色 e.良好 f.1/3 g.口唇部の一部油煤痕あり
11	5	表採	かわらけ	(7.6)	(5.2)	1.9	a.ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b.微砂 雲母 海綿骨芯 小石粒 c.黄灰 色 e.良好 f.1/2 g.口唇部の一部黒色に変色
11	6	表採	かわらけ	(8.6)	(6.6)	1.7	a.ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b.微砂 黒色粒 雲母 海綿骨芯 赤色粒 c.橙色 e.良好 f.1/2
11	7	表採	かわらけ	(11.2)	(7.2)	3.7	a.ロクロ・外底回転糸切・内底横ナデ b.微砂 雲母 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 c.赤橙色 e.良好 f.1/2
11	8	表採	かわらけ	(11.4)	6.0	2.9	a.ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b.微砂 雲母 赤色粒 黒色粒 海綿骨芯 小石粒 c.黄橙色 e.良好 f.1/2
11	9	表採	かわらけ	(12.0)	(8.2)	3.2	a.ロクロ・外底回転糸切・板状圧痕・内底横ナデ b.微砂 雲母 海綿骨芯 赤色粒 黒色粒 小石粒 c.黄橙色 e.良好 f.1/2
11	10	表採	常滑 甕				a.輪積み技法 b.灰色 砂粒 白色粒 黒色粒 雲母 c.暗褐色 d.灰緑色 e.良好・硬質 f.胴部片 g.格子と斜線の押印
11	11	表採	常滑 片口鉢Ⅰ類				a.輪積み技法 b.黒灰色 砂粒 白色粒 黒色粒 c.暗褐色 e.良好・硬質 f.口縁部片
11	12	表採	常滑 片口鉢Ⅰ類				a.輪積み技法 b.黒褐色 砂粒 白色粒 小石粒 c.暗褐色 e.良好・硬質 f.口縁部片
11	13	表採	常滑 片口鉢Ⅰ類				a.輪積み技法 b.灰色 砂粒 白色粒 黒色粒 小石粒 c.灰色 e.良好・硬質 f.1/4 g.内 底部摩耗 高台部貼付け
11	14	表採	常滑 片口鉢Ⅱ類				a.輪積み技法 b.橙色 砂粒 白色粒 黒色粒 小石粒 c.暗褐色 e.良好・硬質 f.口縁部 片 g.口唇部内面上部に油煤痕
11	15	表採	常滑 片口鉢Ⅱ類				a.輪積み技法 b.褐色 砂粒 白色粒 小石粒 雲母 c.褐色 e.良好・硬質 f.口縁部片 g.3型式
11	16	表採	瓦質器 火鉢				a.輪積み技法 b.灰褐色 砂粒 赤色粒 黒色粒 雲母 白色粒 c.灰黒色 e.良好 f.口 縁部片 g.黒色処理 外面に14弁の菊花文押印
11	17	表採	土器質 罌釜				b.黒灰色 砂粒 白色粒 雲母 c.暗灰色 e.良好 f.口縁部片
11	18	表採	瓦器質 火鉢				a.輪積み技法 b.灰色 砂粒 雲母 c.黒色 e.良好 f.罌部片 g.8弁の小型の菊花文の押 印 穿孔1ヶ所あり
11	19	表採	鉄製品 釘	(2.65)	(0.3)	(0.3)	a.鍛造・断面方形 f.両端部欠損

単位 (cm)

破片遺物集計表

GYN 下馬周辺遺跡			第1面遺物	第2面遺物	第3面遺物	合計	%	
かわらけ		糸 大	328	139	241	708	54.2	
		糸 小	21	23	20	64	4.9	
		手 大	2		18	20	1.5	
		手 小			1	1	0.1	
		用途不明 転用品		1		1	0.1	
舶載陶磁器	青磁	蓮弁文碗	1		1	2	0.2	
		無文碗	1	1		2	0.2	
		折縁皿		1	1	2	0.2	
		器種不明	1			1	0.1	
	米色青磁	折縁皿	1			1	0.1	
		青白磁	壺	2			2	0.2
	白磁	梅瓶 蓋		1		1	0.1	
		皿			1	1	0.1	
		碗			1	1	0.1	
		彩釉陶磁器	褐釉	壺		1	1	0.1
国産陶器	瀬戸	皿	1			1	0.1	
		折縁皿	1	1		2	0.2	
		卸皿	1		2	3	0.2	
	常滑	壺		1	1	2	0.2	
		洗			1	1	0.1	
		器種不明	1			1	0.1	
		甕	99	33	78	210	16.1	
			壺		1	2	3	0.2
			片口鉢Ⅰ類	13	8	10	31	2.4
		片口鉢Ⅱ類	4	6	6	16	1.2	
		山茶碗		1		1	0.1	
		備前 擂鉢	1	1		2	0.2	
		渥美 甕			3	3	0.2	
		器種不明		1		1	0.1	
	土製品		火鉢	4			4	0.3
		伊勢系土鍋	1	1	1	3	0.2	
		円盤			1	1	0.1	
		不明土器		1		1	0.1	
瓦質製品		火鉢	7	6	6	19	1.5	
		器種不明	1		1	2	0.2	
石製品		砥石(仕上げ)	2	2		4	0.3	
		硯	1	1	1	3	0.2	
		使用痕跡有り玉石	1			1	0.1	
滑石製品		種別不明		1	1	2	0.2	
鉄製品		釘	2	2	2	6	0.5	
骨角製品		用途不明 加工骨			1	1	0.1	
自然遺物		玉石	2	8	6	16	1.2	
		チャート			1	1	0.1	
		漆喰			2	2	0.2	
		骨	43	32	71	146	11.2	
		魚骨	2		5	7	0.5	
		馬歯			1	1	0.1	
		器種不明	1			1	0.1	
土師器		甕	1			1	0.1	
須恵器		甕	1			1	0.1	
合計		合計	546	273	488	1307	100	
%		%	41.8	20.9	37.3	100		

実測不可木製品計測表

出土面	出土遺構	種別	長	幅	厚
1面	側溝	箸状木製品	9.0	0.6	0.3
1面		箸状木製品	10.5	0.4	0.4
1面		箸状木製品	(10.2)	0.5	0.4
1面		篋状木製品	15.4	0.8	0.5
1面		篋状木製品	10.7	0.6	0.3
1面		加工品	10.6	0.9	0.6
1面		部材	19.5	8.5	1.2
1面		部材	11.0	8.0	7.0
1面		部材	12.5	6.1	2.8
1面		棒状木製品	17.3	0.9	0.7
1面		棒状木製品	15.4	1.0	0.6
1面		棒状木製品	17.8	0.5	0.5
1面		棒状木製品	15.6	0.5	0.5
1面		棒状木製品	12.6	0.4	0.3
1面		棒状木製品	16.4	0.6	0.3
1面		棒状木製品	14.4	0.6	0.3
1面		棒状木製品	13.9	0.5	0.4
1面		棒状木製品	14.5	0.6	0.6
1面		棒状木製品	16.1	0.6	0.5
1面		棒状木製品	11.8	0.6	0.6
1面		棒状木製品	14.1	0.7	0.4
1面		棒状木製品	12.6	0.6	0.5
1面		棒状木製品	14.8	0.7	0.3
1面		棒状木製品	14.5	0.5	0.3
1面		棒状木製品	12.0	0.6	0.5
1面		棒状木製品	11.9	0.6	0.3
1面		棒状木製品	11.4	0.5	0.4
1面		棒状木製品	10.4	0.4	0.4
1面		棒状木製品	10.6	0.7	0.3
1面		棒状木製品	10.1	0.6	0.5
1面		棒状木製品	10.7	0.7	0.5
1面		棒状木製品	16.5	0.9	0.4
1面		棒状木製品	13.0	0.9	0.6
1面		棒状木製品	12.0	0.7	0.5
1面		棒状木製品	11.4	0.7	0.5
1面		棒状木製品	10.6	0.7	0.7
1面		棒状木製品	11.1	0.6	0.3
1面		棒状木製品	10.2	0.5	0.5
1面		棒状木製品	9.2	0.8	0.7
1面		棒状木製品	10.5	0.7	0.3
1面		棒状木製品	7.5	0.8	0.4
1面		棒状木製品	8.8	0.5	0.4
1面		棒状木製品	11.5	0.6	0.4
1面		棒状木製品	7.1	0.8	0.5
1面		棒状木製品	9.3	0.8	0.2
1面		棒状木製品	10.2	0.7	0.5
1面		棒状木製品	8.4	0.7	0.2
1面		棒状木製品	8.5	0.6	0.4
1面		棒状木製品	9.3	1.0	0.2
1面		棒状木製品	10.3	0.3	0.3
1面		棒状木製品	7.5	0.9	0.5
1面		棒状木製品	10.4	0.7	0.4
1面		棒状木製品	6.0	0.8	0.5
1面		棒状木製品	7.0	0.7	0.5
1面		棒状木製品	5.5	0.7	0.2
1面		棒状木製品	5.8	1.0	0.3
1面		棒状木製品	5.5	0.7	0.2
1面		棒状木製品	6.6	0.6	0.6
1面		棒状木製品	7.1	0.6	0.4
1面		棒状木製品	5.3	0.6	0.3
1面		棒状木製品	6.5	0.5	0.3
1面		棒状木製品	5.9	1.1	0.3
1面		円形木製品	3.2	3.0	0.1
1面		チュウ木状製品	(8.0)	0.5	0.4
2面	2面構成土	棒状木製品	13.4	2.0	1.3
2面		漆小片			
3面	3面上	用途不明木製品	21.2	1.2	0.4
3面		用途不明木製品	4.5	1.4	0.3
3面		曲物側板	(7.5)	4.0	1.0
3面		曲物側板	7.0	4.5	0.7
3面	3面構成土	人形	10.8	3.4	0.6
3面		篋状木製品	4.0	1.4	0.2
3面	遺構21	部材	18.5	5.4	3.0
3面		箸状木製品	16.3	0.7	0.3
3面		箸状木製品	16.1	0.7	0.5
3面		箸状木製品	16.3	0.7	0.4
3面		曲物底板	21.4	6.1	0.5

単位 (cm)



実測不可木製品計測表

出土面	出土遺構	種別	長	幅	厚	
3面	遺構21	棒状木製品	14.6	0.9	0.2	
3面		棒状木製品	5.9	1.1	0.2	
3面		棒状木製品	13.0	0.6	0.3	
3面		棒状木製品	10.0	0.7	0.5	
3面		棒状木製品	15.5	0.9	0.3	
3面		棒状木製品	12.5	0.7	0.4	
3面		棒状木製品	13.4	0.7	0.3	
3面		棒状木製品	12.0	0.6	0.4	
3面		棒状木製品	15.5	0.5	0.5	
3面		棒状木製品	木片	5.0	2.2	2.6
3面	遺構17	棒状木製品				
3面	遺構23	漆碗片	8.0	2.3	0.5	
3面		用途不明木製品	(14.0)	0.6	0.5	
3面		用途不明木製品	(12.5)	0.7	0.5	
3面		用途不明木製品	(11.5)	0.4	0.4	
3面	遺構28	木片	7.2	0.8	0.4	
3面		木片	5.1	0.5	0.5	
3面		木片	2.8	0.8	0.2	
3面	遺構29	漆碗片	3.8	2.1	0.6	
3面		箸状木製品	(3.2)		0.5	
3面		箸状木製品	(4.5)		0.4	
3面		箸状木製品	(4.9)		0.5	
3面		箸状木製品	(5.8)	0.6	0.3	
3面		箸状木製品	(6.9)	0.5	0.4	
3面		箸状木製品	(10.2)	0.5	0.3	
3面		箸状木製品	(10.1)	0.5	0.4	
3面		箸状木製品	(13.3)		0.5	
3面		箸状木製品	(14.5)	0.7	0.5	
3面		棒状木製品	(8.0)	0.6	0.4	
3面		棒状木製品	(8.3)	0.7	0.7	
3面		棒状木製品	(8.0)	0.6	0.3	
3面		棒状木製品	(9.0)	0.8	0.4	
3面		杭	36.0	4.0	3.0	
3面		遺構26	調度具膳脚	8.5	2.5	2.0
3面			不明木製品	(8.9)	3.5	1.5
3面		炭	4.0	3.5	2.6	
3面	遺構30	漆碗片	3.2	1.5	0.4	
3面		板草履芯	(6.2)	2.2	0.2	
3面		板草履芯	(8.2)	0.6	0.3	
3面		板草履芯	1.4	0.4	3.5	
3面		板草履芯	(7.0)	0.6	0.4	
3面		板草履芯	5.7	1.0	0.4	
3面		板草履芯	(6.7)	0.8	0.3	
3面		板草履芯	7.0	0.8	1.2	
3面		用途不明木製品	(6.0)	0.9	0.6	
3面		用途不明木製品	2.9	1.3	0.5	
3面		用途不明木製品	(8.4)	0.5	1.0	
3面		用途不明木製品	(8.7)	1.2	0.4	
3面		経木折敷	(14.5)	(1.2)	0.2	
3面		経木折敷	(13.0)	(2.8)	0.1	
3面		板折敷	(26.0)	(3.0)	0.3	
3面		箸状木製品	(15.1)	0.5	0.3	
3面		篋状木製品	14.8	0.9	0.5	
3面		チュウ木状製品	16.6	0.5	0.5	
3面		チュウ木状製品	11.6	0.6	0.3	
3面		チュウ木状製品	13.5	0.6	0.5	
3面		チュウ木状製品	15.5	0.6	0.4	
3面		棒状木製品	(14.0)	1.5	0.3	
3面		棒状木製品	13.2	1.3	0.5	
3面	棒状木製品	(20.5)	1.3	0.4		
3面	棒状木製品	(16.9)	(2.4)	0.5		
3面	棒状木製品	(7.3)	2.0	0.5		
3面	棒状木製品	(15.0)	1.0	0.5		
3面	棒状木製品	(13.1)	1.3	0.7		
3面	棒状木製品	20.7	0.8	0.5		
3面	棒状木製品	(15.3)	0.6	0.6		
3面	棒状木製品	(20.0)	0.6	0.4		
3面	棒状木製品	(16.0)	0.7	0.7		
3面	棒状木製品	(11.7)	1.0	0.5		
3面	棒状木製品	(12.6)	0.8	0.6		
3面	棒状木製品	16.0	0.9	0.5		
3面	棒状木製品	(18.9)	0.8	0.7		
3面	棒状木製品	(18.1)	0.9	0.5		
3面	棒状木製品	(17.3)	0.9	0.3		
3面	棒状木製品	(15.4)	0.8	0.3		
3面	棒状木製品	(12.1)	0.7	0.8		
3面	棒状木製品	(16.9)	1.1	0.4		

単位 (cm)

実測不可木製品計測表

出土面	出土遺構	種別	長	幅	厚
3面	遺構30	棒状木製品	15.3	0.6	0.6
3面		棒状木製品	16.2	0.7	0.7
3面		棒状木製品	12.0	0.9	0.4
3面		棒状木製品	(14.4)	0.7	0.6
3面		棒状木製品	(14.4)	0.7	0.7
3面		棒状木製品	(13.3)	0.7	0.6
3面		棒状木製品	(13.1)	0.6	0.7
3面		棒状木製品	(17.5)	0.7	0.4
3面		棒状木製品	(15.6)	0.8	0.3
3面		棒状木製品	(17.9)	1.1	0.4
3面		棒状木製品	(14.0)	0.9	0.5
3面		棒状木製品	(16.0)	0.8	0.4
3面		棒状木製品	(4.5)	0.7	0.3
3面		棒状木製品	(6.0)	0.7	0.3
3面		棒状木製品	(7.7)	0.6	0.5
3面		棒状木製品	(7.8)	0.8	0.4
3面		棒状木製品	(8.4)	0.8	0.4
3面		棒状木製品	(8.0)	0.9	0.4
3面		棒状木製品	(8.9)	1.2	0.3
3面		棒状木製品	(8.3)	0.8	0.5
3面		棒状木製品	(8.6)	0.7	0.5
3面		棒状木製品	(8.9)	0.6	0.5
3面		棒状木製品	(9.1)	0.7	0.4
3面		棒状木製品	(10.1)	0.9	0.7
3面		棒状木製品	(10.5)	0.8	0.3
3面		棒状木製品	(11.3)	0.7	0.7
3面		棒状木製品	(10.8)	0.8	0.3
3面		棒状木製品	(10.9)	0.6	0.5
3面		棒状木製品	(12.0)	0.8	0.4
3面		棒状木製品	(13.3)	0.6	0.5
3面		棒状木製品	(15.0)	0.9	0.4
3面		棒状木製品	(14.7)	0.7	0.5
3面		棒状木製品	(14.0)	0.8	0.5
3面		棒状木製品	(14.5)	0.8	0.4
3面		棒状木製品	(13.3)	1.2	0.5
3面		棒状木製品	(3.7)	0.6	0.5
3面		棒状木製品	(4.0)	0.5	0.5
3面		棒状木製品	(4.6)	0.6	0.4
3面		棒状木製品	(4.5)	0.5	0.5
3面		棒状木製品	(5.0)	0.7	0.3
3面		棒状木製品	(5.1)	0.6	0.2
3面		棒状木製品	(6.0)	0.7	0.4
3面		棒状木製品	(5.5)	0.6	0.6
3面		棒状木製品	(5.6)	0.7	0.2
3面		棒状木製品	(6.2)	0.4	0.3
3面		棒状木製品	(6.0)	0.5	0.3
3面		棒状木製品	(6.0)	0.6	0.5
3面		棒状木製品	(6.5)	0.5	0.4
3面		棒状木製品	(6.4)	0.5	0.5
3面		棒状木製品	(6.8)	0.5	0.5
3面		棒状木製品	(6.3)	0.7	0.4
3面		棒状木製品	(7.2)	0.7	0.4
3面		棒状木製品	(7.7)	0.7	0.3
3面		棒状木製品	(7.1)	0.7	0.3
3面		棒状木製品	(8.0)	0.7	0.5
3面		棒状木製品	(9.3)	0.6	0.2
3面		棒状木製品	(9.7)	0.5	0.7
3面		棒状木製品	(10.0)	0.6	0.3
3面		棒状木製品	(10.0)	0.9	0.2
3面		棒状木製品	(10.3)	0.7	0.5
3面		棒状木製品	(10.6)	0.5	0.5
3面		棒状木製品	(10.0)	0.7	0.4
3面		棒状木製品	(10.5)	0.5	0.5
3面		棒状木製品	(12.0)	0.6	0.4
3面		棒状木製品	(11.6)	0.5	0.5
3面		棒状木製品	(12.0)	0.5	0.5
3面		棒状木製品	(13.5)	0.5	0.4
3面		棒状木製品	(13.3)	0.4	0.4
3面		棒状木製品	(13.3)	0.6	0.6
3面		棒状木製品	13.5	0.5	0.6
3面		棒状木製品	(13.5)	0.5	0.5
3面		棒状木製品	(13.1)	0.5	0.4
3面		棒状木製品	(13.5)	0.6	0.4
3面		棒状木製品	15.0	0.5	0.6
3面		棒状木製品	(15.0)	0.5	0.6
3面		棒状木製品	(15.6)	0.5	0.5
3面		棒状木製品	(15.6)	0.4	0.5

単位 (cm)

実測不可木製品計測表

出土面	出土遺構	種別	長	幅	厚
3面	遺構30	棒状木製品	(15.9)	0.6	0.6
3面		棒状木製品	(16.0)	0.6	0.5
3面		棒状木製品	(18.5)	0.5	0.6
3面		棒状木製品	(5.2)	0.8	0.2
3面		棒状木製品	(6.5)	0.9	0.4
3面		棒状木製品	(6.5)	0.6	0.5
3面		棒状木製品	(8.0)	0.7	0.6
3面		棒状木製品	(9.4)	0.7	0.3
3面		棒状木製品	(10.8)	0.7	0.6
3面		棒状木製品	(11.9)	0.5	0.4
3面		棒状木製品	(11.5)	1.3	0.3
3面		棒状木製品	(11.7)	1.6	0.7
3面		棒状木製品	(16.0)	1.3	1.1
3面		棒状木製品	14.5	1.5	1.5
3面		棒状木製品	8.0	1.4	1.1
3面	遺構32	部材	11.0	5.0	1.0
3面		部材	3.0	2.4	2.4
3面		篋状木製品	(6.2)	0.8	0.2
3面	最終トレンチ	折敷	5.8	1.6	0.2
3面		箸状木製品	7.6	0.4	0.3
3面		箸状木製品	(10.4)	0.5	0.3
3面		箸状木製品	(13.2)	0.6	0.6
3面		箸状木製品	(13.1)	0.5	0.4
3面		箸状木製品	(12.7)	0.6	0.5
3面		箸状木製品	(14.5)	0.5	0.4
3面		箸状木製品	(14.7)	0.5	0.5
3面		棒状木製品	(14.5)	0.7	0.7
3面		棒状木製品	(14.3)	0.7	0.5
3面		棒状木製品	(13.3)	0.6	0.6
3面		チュウ木状製品	(8.1)	0.9	0.4
3面		チュウ木状製品	(11.0)	0.8	0.5
3面		部材	44.5	5.8	2.5
3面		杭	55.8	5.2	3.8
3面	杭	50.9	3.6	2.4	
3面	杭	38.9	4.0	3.2	
3面	角材	10.0	7.0	1.5	
3面	角材	13.4	10.7	4.2	
3面		棒状木製品	9.2	0.6	0.5

単位 (cm)









第1面全景（北から）



第1面遺溝（東から）



第2面全景（北から）



第2面遺溝12

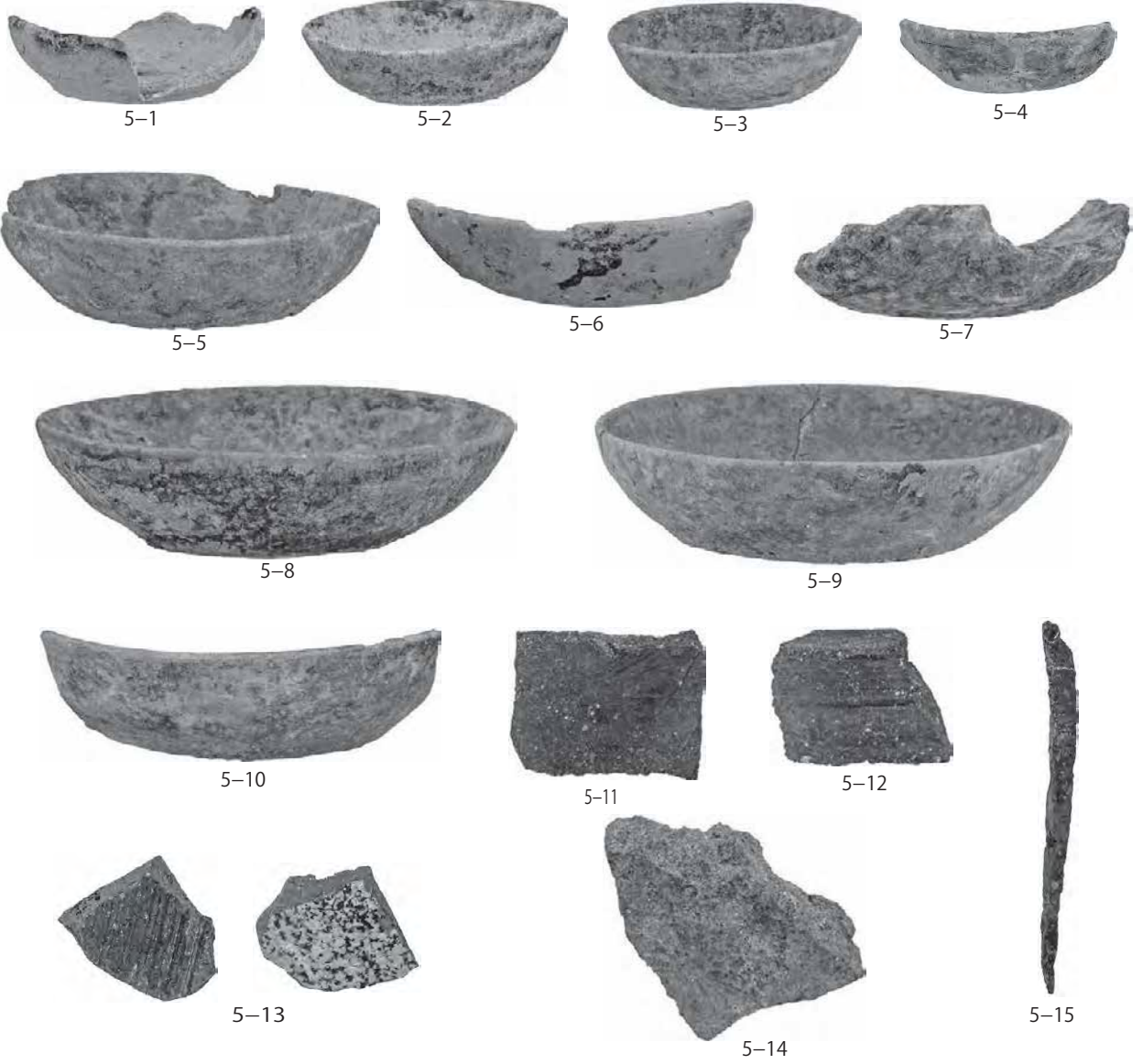


第3面全景（北から）

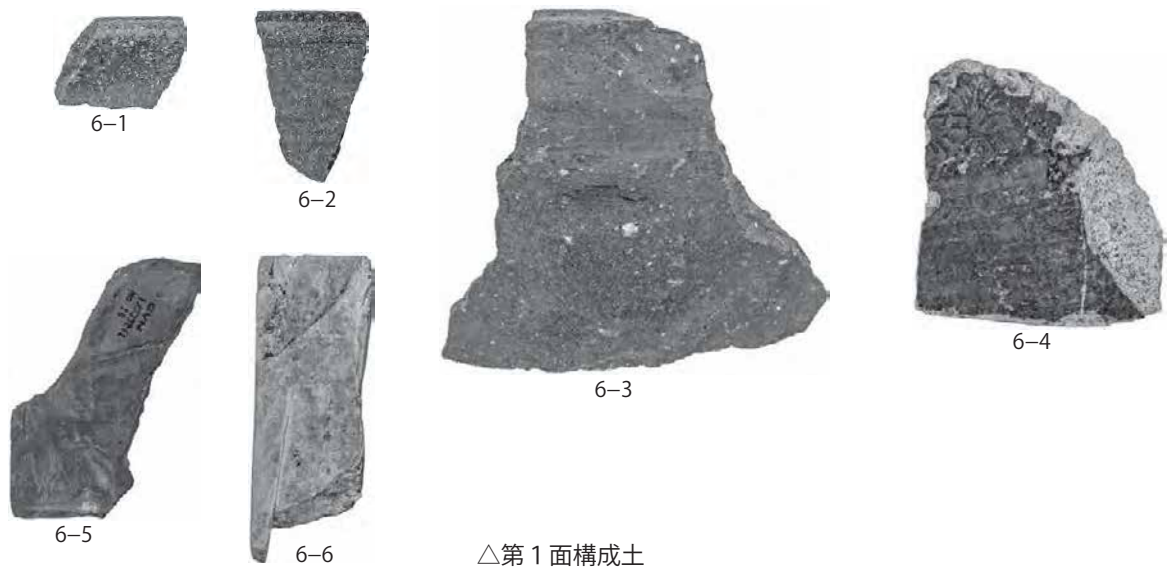


第3面全景（南から）

▼第1面



△遺構2



△第1面構成土



图版4

▼第2面



7-1



7-2  
△遺構5



7-3  
△遺構7



7-4



7-5  
△遺構8



7-6



7-7  
△遺構11



7-8



7-9



7-10



7-12



7-11

△遺構13



8-1

△第2面面上



8-2



8-3



8-4



8-5



8-6



8-7



8-8



8-9



8-10



8-11

△第2面構成土



8-12



8-13

▼第2面



▼第3面



▼第3面



10-19  
△遺構 27



10-20  
△遺構 30



10-22

10-23



10-21

△遺構 31



10-24



10-25

△第3面面上



11-1



11-2



11-3



11-4



11-5



11-6



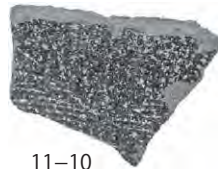
11-7



11-8



11-9



11-10



11-11



11-12



11-13



11-14



11-15



11-17



11-16



11-18

△表採

# 由比ヶ浜南遺跡 (No.315)

鎌倉市長谷二丁目 176 番 8 地点



## 例 言

1. 本報は鎌倉市長谷二丁目 176 番 8 地点に所在する遺跡の発掘調査である。
2. 発掘調査は個人専用住宅にかかる建築範囲約 55㎡を対象とし、平成 20 年 7 月 22 日から 8 月 7 日にかけて実施した。
3. 現地での調査体制は以下の通り  
担当者 伊丹まどか  
調査員 山口正紀  
作業員 浅香文保・天野隆男・杉浦永章・鈴木啓之（社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）
4. 本報作成は以下の分担で行った。  
遺物実測 梶岡ケイト  
遺物図版作成 梶岡ケイト  
遺構図版作成 梶岡ケイト  
遺物観察表 梶岡ケイト・田畑衣理  
遺構計測表 梶岡ケイト・田畑衣理  
遺構写真 山口正紀  
遺物写真 須佐仁和  
写真図版作成 田畑衣理  
執筆・編集 田畑衣理
5. 出土品などの発掘調査資料は、鎌倉市教育委員会が管理・保存している。
6. 本報図版の遺構・遺物の縮尺は以下の通り。  
遺構全測図：1／60 個別遺構図：1／40 実測遺物図：1／3 銭：1／1  
なお各挿図にはスケールを表示してある。
7. 本文の都合から遺物に関する詳細は観察表にまとめて掲載している。また復元して実測した遺物は計測値に（ ）を、最大遺存値に [ ] を付して表している。
  - ・ 遺物の分類及び編年は下記を参考にした。  
瀬戸・尾張型山茶碗：藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院  
常滑：中野晴久 2012『愛知県史別編窯業 3 中世・近世常滑系』愛知県  
渥美：安井俊則 2012『愛知県史別編窯業 3 中世・近世常滑系』愛知県  
貿易陶磁：大宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡 X V - 陶磁器分類編 -』  
火鉢：河野真知郎 1993「中世鎌倉火鉢考」『考古論叢 神奈川第 2 集』神奈川県考古学会  
瓦：原廣志 2002「第 4 章 出土瓦について」『永福寺跡 - 遺物・考察編 -』鎌倉市教育委員会
  - ・ 文中で「かわらけ」と記載したものは「轆轤成形かわらけ」を指し、「手づくね成形かわらけ」は「手づくね」と記載している。
8. 本報告では世界測地系（第 IX 系）の座標軸に基づく測量成果を掲げたが、平成 23（2011）年 3 月 11 日の東日本大震災以前の測量数値を使用している。また原点移動に関しては熊谷満・伊藤博邦（鎌倉遺跡調査会）のご協力を賜りました。
9. 発掘調査及び報告書作成に関しては下記の方々よりご教授、ご協力を賜りました。記して深く感謝いたします。（敬称略・五十音順）  
押木弘己・汐見一夫・清水由加里・原廣志・福田誠・渡邊美佐子

# 目次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	170
1. 遺跡の位置と歴史的環境	
2. 調査の経過・方法と調査区設定	
3. 堆積土層	
第二章 検出された遺構と遺物	176
1. 第1面の遺構と遺物	
2. 第2面の遺構と遺物	
3. 第3面全測図・最終トレンチ位置図	
第三章 まとめ	185
1. 検出された遺構と遺物	
2. まとめ	

## 挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡	171	図7 第1面面上・構成土・出土遺物	180
図2 調査区配置図	174	図8 第2面全測図	181
図3 堆積土層図	175	図9 第2面各遺構・出土遺物	182
図4 第1面全測図	176	図10 第2面面上・構成土・表土・出土遺物	183
図5 第1面各遺構・出土遺物(1)	178	図11 第3面全測図・最終トレンチ位置図	184
図6 第1面各遺構・出土遺物(2)	179		

## 表目次

表1 出土遺物観察表	187	表3 遺構計測表	190
表2 出土遺物破片数表	189		

## 図版目次

図版1	191	図版2	192
第1面全景(西から)		調査区北壁(南から)	
第1面全景(東から)		調査区西壁(東から)	
第2面全景(西から)		調査区東壁(西から)	
第3面全景(西から)		調査地点近景(南から)	
図版3 出土遺物1	193	図版4 出土遺物2	194

# 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

## 1. 遺跡の位置と歴史的環境 (図1)

本調査地点は鎌倉のほぼ中心を南北に流れる滑川の西側一帯に形成された砂丘状に位置している。この砂丘は、東は滑川西岸、西は当時の稲瀬川の古い流路があった江ノ島電鉄線の長谷駅周辺、北は下馬交差点から長谷観音堂前に至る現在国道134号線を東西に広がる。中世においては「由比ヶ浜」あるいは部分的には「前浜」と言われた地域である。「由比ヶ浜」の地名は『新編相模国風土記稿』によれば稲村ヶ崎を鎌倉側に越えた所にある坂ノ下から小坪の飯島(西浜)まで広がる鎌倉の浜全体の総称としている。『極楽寺律要文録』、『足利尊氏書状案』によると、「前浜」の支配権は和賀江島を含め忍性以来極楽寺長老に与えられている。また現在の国道134号線は、中世においては長谷小路(大町大路)と考えられ、鎌倉七口のうち大仏坂・極楽寺坂から都市中心部へと繋ぐ重要な道筋であった。この長谷小路をはさんだ北側の山沿い地域は「甘縄」と呼ばれ、甘縄神明社、長楽寺、万寿寺等の寺社の他に安達一族の屋敷をはじめ、多くの御家人や被官がその居宅を構えた場所である。中世以前においても鎌倉群衙の存在と関係して奈良時代の宝亀2年(771年)まで古東海道の道筋であったと考えられる。「前浜」の西端に位置する稲瀬川(水無瀬川)は『万葉集』に詠まれ、和田塚周辺には「下向原古墳群」があったことが『新編相模国風土記稿』に書かれ、妥女塚古墳から出土した人物埴輪が京都大学に保存されている。

本調査地点が位置する「由比ヶ浜南遺跡(No.315)」は「長谷小路周辺遺跡(No.236)」の南側一帯、「由比ヶ浜中世集団墓地遺跡(No.372)」の西側に位置しており、今回の調査で5地点目である。以下に順に説明する。

稲瀬川東岸に位置する地点2は未報告な為詳細は不明だが、中世遺構確認面は海拔2.5m前後で方形竪穴建築址・井戸・溝・土坑などが検出、概ね14世紀代としている。中世以前では多くの遺物が出土しているが、遺構は検出されていない。海拔1.8m前後には、ほぼ平坦な「波蝕台」が検出している。地点3の中世遺構確認面は海拔9.5m前後で方形竪穴建築址・溝状土坑・ピットなどを検出し、概ね14世紀代としている。中世以前では海拔8.1m前後で竪穴建築址の可能性を示唆できる遺構が4棟と多数の土器片などが検出、概ね7世紀末～10世紀代としている。遺跡周辺区域の中でも高い位置にあり、由比ヶ浜北側に形成された砂丘の頂部に近い場所に営まれた遺跡と言える。地点4は「前浜」の中心地に位置し、北側に隣接する「由比ヶ浜中世集団墓地遺跡」と同様に海拔5.3m前後で多数の埋葬遺構が検出している。海拔5m前後では河川に接する土塁や柵で囲まれた礎石建物もつ屋敷・道路・竪穴遺構や土坑・井戸等も検出、更に海拔2m前後まで中世遺構が存在している。中世遺構の年代は屋敷内の礎石建物範囲内から出土した嘉元三(1305)年の銘をもつ板碑やかわらけ・瀬戸窯製品の年代から13世紀中葉～14世紀中葉を主とし、部分的に15世紀後半まで存続していた可能性を示唆している。地点5は「由比ヶ浜南遺跡」の西端に位置し、海拔5.8mから厚く堆積していた風成砂層を除去した海拔3.1m～1.7mの北から南に傾斜する暗褐色砂質土層を中世遺構面としている。周辺の調査事例と比べて遺構の密度は比較的希薄ではあるが、海拔2m前後で大多数の土坑・井戸・集石場遺構が検出、遺物は漁労具関係の出土が多い。下層から出土する遺物の磨滅状態も含め、当時の海岸線は海拔1.5m付近に存在し、一般的な生活遺構というよりは漁業関係の遺構と推察している。古代遺構は検出されず、概ね13世紀中葉～14世紀代としている。

砂丘状に形成される「前浜」一帯は、当時の生活面の海拔が現在と大きく変化しており、砂丘に伴





図1 調査地点と周辺の遺跡



< 調査地点一覧 >

○**由比ヶ浜南遺跡 (No.315)** 1. 長谷二丁目 176 番 8 地点 (本調査地点) 2. 長谷二丁目 122 番 9・10 (1989 年調査・未報告) 3. 長谷二丁目 118 番 2 (瀬田 1995 『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書(以下、市緊急報告書) 11-1』 鎌倉市教育委員会 (以下、省略) 4. 由比ガ浜四丁目 1102 番 2 (斉木他 2002 『由比ヶ浜南遺跡』 由比ヶ浜南遺跡発掘調査団) 5. 長谷二丁目 85 番 1 (櫻井他 2004 『由比ガ浜南遺跡』 神奈川考古学財団)

○**由比ヶ浜中世集団墓地遺跡 (No.372)** 6. 由比ガ浜四丁目 1181 番 (玉林 1983 『鎌倉市埋蔵文化財発掘調査年報 I』) 7. 由比ガ浜四丁目 1171 番 3 (斉木 2001 『鎌倉市遺跡調査会調査報告書 22 集 由比ヶ浜中世集団墓地遺跡』) 8. 由比ガ浜四丁目 1179 番 1 (大河内 2001 『鎌倉市遺跡調査会調査報告書 22 集 由比ヶ浜中世集団墓地遺跡』 鎌倉遺跡調査会) 9. 由比ガ浜四丁目 1170 番 1 (斉木 1994 『由比ヶ浜 4-6-9 地点発掘調査報告』 由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団) 10. 由比ガ浜 4 丁目 1170 番 1 (宮田他 2014 『由比ガ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書』 (株) 博通) 11・12. 由比ガ浜四丁目 1136 番 11 (斉木他 1997 『由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書 1・2・3 分冊』 由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団) 13. 由比ガ浜四丁目 1130 外 (大河内 1999 『貿易陶磁研究集会 鎌倉大会資料集 - 相模国・鎌倉市街地における中世前期の貿易陶磁』 貿易陶磁研究会・鎌倉市教育委員会) 14. 由比ガ浜四丁目 1134 番 1 (大河内 1996 『由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書 第 1 分冊・古代編』 由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査団) 15. 由比ガ浜四丁目 1142 番 12 (宮田 1996 『由比ヶ浜中世集団墓地遺跡発掘調査報告書』 鎌倉考古学研究所) 16. 由比ガ浜四丁目 1142 番 1 (玉林 1984 『鎌倉氏由比ヶ浜中世集団墓地遺跡 - 特殊養護老人ホーム鎌倉静養館 - 鎌倉市教育委員会』) 17. 由比ガ浜四丁目 1133 番 1 外 (2,002 年調査 宗臺他 2004 ~ 05 『第 14 回 遺跡市遺跡調査・研究発表会 発表要旨』 / 『鎌倉之埋蔵文化財 8 平成 14・15 年度』 鎌倉市考古学研究所・鎌倉市教育委員会) 18. 由比ガ浜二丁目 1235 番 4 (2007 年調査 未報告)

○**長谷小路周辺遺跡 (No.236)** 19. 長谷一丁目 252 番 1 (菊川 1991 『市緊急報告書 7』) 20. 長谷二丁目 1171 番 4 (斉木他 2012 『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』 鎌倉遺跡調査会) 21. 由比ガ浜三丁目 207 番 1 (斉木 2007 年調査) 22. 由比ガ浜三丁目 203 番 6 外 (森 2015 『市緊急報告書 31-1』) 23. 由比ガ浜三丁目 202 番 2 (斉木・宗臺 1992 『長谷小路南遺跡発掘調査報告書』 長谷小路南遺跡発掘調査団) 24. 由比ガ浜三丁目 204 番 5 (山口 2011 年調査 未報告) 25. 由比ガ浜三丁目 199 番 1 (斉木 1990 『由比ヶ浜三丁目 199 番 1 地点遺跡発掘調査報告書』 由比ガ浜三丁目 199 番 1 地点遺跡発掘調査団) 26. 由比ガ浜三丁目 2 番 200 (宮田 1997 『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』 長谷小路周辺遺跡発掘調査団) 27. 由比ガ浜三丁目 200 日産保養所用地 (玉林 1979 年調査 未報告) 28. 由比ガ浜三丁目 194 番 24 (宗臺 1991 『市緊急報告書 7』) 29. 由比ガ浜三丁目 194 番 25 (斉木 1989 『市緊急報告書 5』 / 斉木 1990 『由比ヶ浜三丁目 194 番 25 外遺跡調査報告』 長谷小路周辺遺跡発掘調査団) 30. 由比ガ浜三丁目 194 番 71 (伊丹 2014 年調査) 31. 由比ガ浜三丁目 194 番 50 (汐見 2004 『市緊急報告書 20』) 32. 由比ガ浜三丁目 1175 番 2 外 (馬淵 1994 『市緊急報告書 10』) 33. 由比ガ浜三丁目 194 番 40 (大河内 1997 『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』 長谷小路周辺遺跡発掘調査団) 34. 長谷一丁目 205 番 12 (汐見 2002 『市緊急報告書 18』) 35. 由比ガ浜三丁目 1173 番 3 外 (大河内他 2001 『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』 長谷小路周辺遺跡発掘調査団) 36. 由比ガ浜三丁目 258 番 8 (斉木 1990 『市緊急報告書 6』) 37. 由比ガ浜三丁目 258 番 1 (斉木 1995 『長谷小路周辺遺跡 由比ヶ浜三丁目 258 番 1 地点』 長谷小路周辺遺跡発掘調査団) 38. 由比ガ浜三丁目 9 番 41 (斉木 1990 『神奈川県埋蔵文化財調査報告 32』 神奈川県教育委員会) 39. 由比ガ浜三丁目 254 番 15 外 2 筆 (福田他 2001 『市緊急報告書 17』) 40. 由比ガ浜三丁目 254 番 1 (鈴木 2006 年調査) 41. 由比ガ浜三丁目 223 番 11 (斉木 1991 『神奈川県埋蔵文化財調査報告 33』 神奈川県教育委員会) 42. 由比ガ浜三丁目 228 番 2 (宗臺 1998 『市緊急報告書 14』) 43. 由比ガ浜三丁目 228・229 番 8 (宗臺 1993 『市緊急報告書 9』) 44. 由比ガ浜三丁目 1262 番 6 (宮田他 2000 『長谷小路周辺遺跡』 長谷小路周辺遺跡発掘調査団) 45. 由比ガ浜三丁目 1256 番 4・5 (宮田他 2005 『長谷小路周辺遺跡』 (株) 博通) 46. 由比ガ浜三丁目 1262 番 2、1251 番 1・2 (宗臺他 2002 『長谷小路周辺遺跡発掘調査報告書』 東国歴史考古学研究所) 47. 由比ガ浜三丁目 194 番 1 (斉木 2016 年調査)

う高低差から中世の生活面が平坦でないことを示す。土地利用も一般的な「街」としての生活空間とは異なった用いられ方をしており、古くから人骨が多く発見され、かなり広い範囲で埋納遺構が営まれていることから埋葬の地として使われてきたことがわかる。また周辺の加工痕の残る骨類や鑄造・鍛冶関連遺物の出土により職能集団の存在も推察できる地域と言える。歴史的環境を記すにあたっての引用・参考文献は末稿にまとめて記載した。

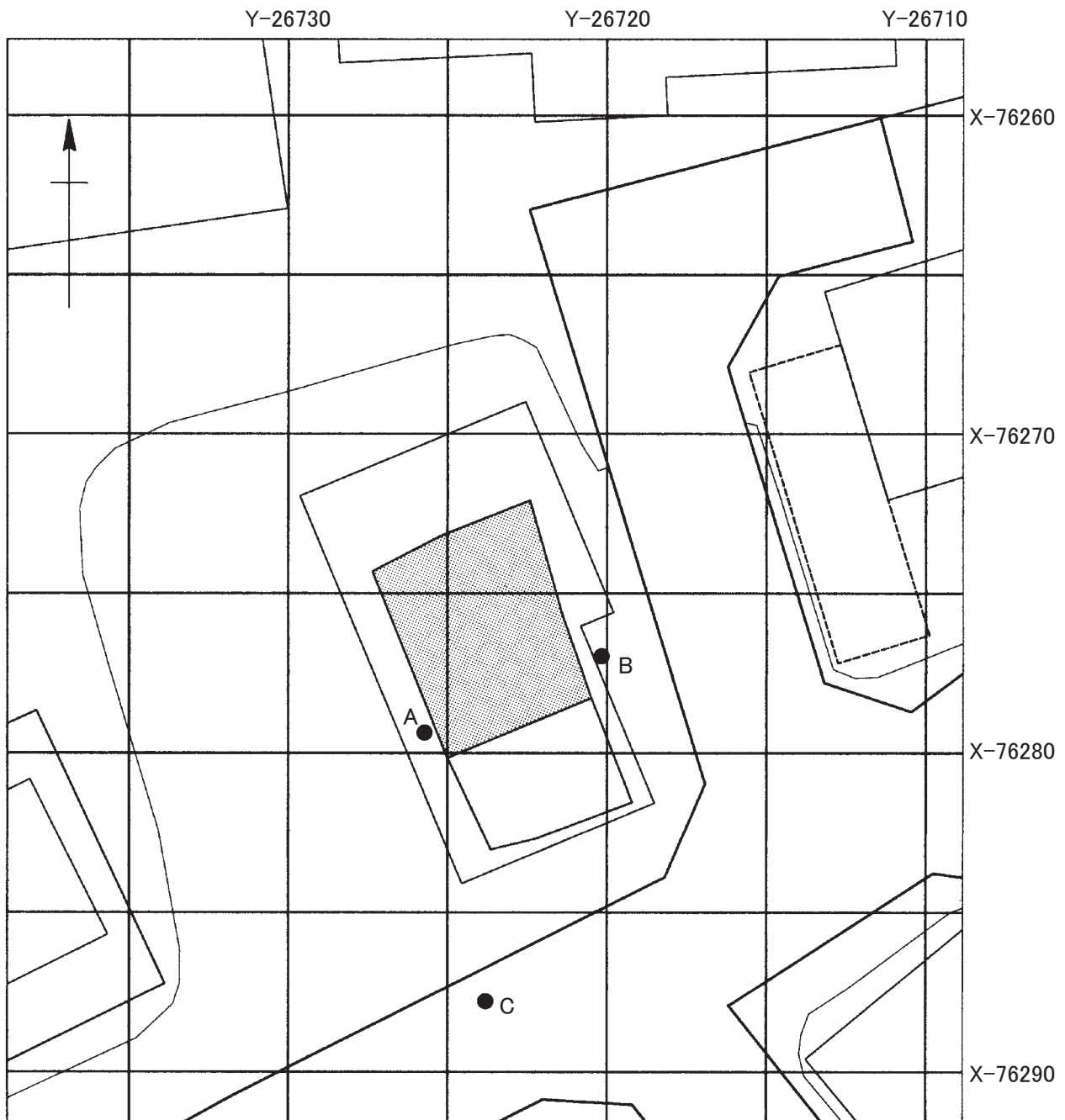
## 2. 調査の経過・方法と調査区設定（図2）

本調査は鎌倉市長谷二丁目176番8地点における、個人専用住宅建設に伴う事前調査として、鎌倉市教育委員会が平成20年2月26日から2月27日に行った確認調査の結果に基づき実施された。調査に伴う残土を敷地内で処理する必要から調査区は南北に二分割し、北半をⅠ区、南半をⅡ区とした。しかしⅠ・Ⅱ区全面を一括で表土掘削した所、現地表下60cm付近でⅡ区より大量の湧水となり、また調査地が砂地という点からも今後調査区崩壊の恐れがある為、Ⅰ区のみ調査となった。調査期間は平成20年7月22日から8月7日まで、調査面積は27.5（本来55）㎡、現地表海拔は6.2m。調査開始にあたっては調査区に任意の方眼紙を設け、基本点Aと見返り点Bを設定して遺構の測量・図面作成に使用した。基本点Aと見返り点Bは鎌倉市4級基準点成果表に基づき国土座標に倣った座標値の移設を熊谷満・伊藤博邦（鎌倉遺跡調査会）両氏の協力のもと行なった。現地調査では日本測地系（座標AREA9）の国土座標値を使用した。本報告作成に際して国土地理院が公開する座標変換ソフトweb版「TKY2JGD」で世界測地系（第IX系）に変換し、図2に表記した。

## 3. 堆積土層（図3）

本調査地は砂丘上に位置しており、基本的に客土を用いた地業面を検出することはなく、自然堆積の風成砂層上に生活面が構築されている。そのため遺構を検出・確認した層を生活面として捉えて調査した。調査区北壁・東壁で確認した土層堆積図より堆積状況を上層より説明する。湧水処理のため調査区壁下に排水溝や犬走りを設置したことにより、図示した調査区壁の堆積土層図は平面調査の検出状況とは合致していないことを前もって明記する。

調査前の現地表海拔は6.2m前後でほぼ平坦な造成を形成していた。現地表から約30cmの表土を重機によって除去し、あとは人力によって海拔5.6m前後（現地表下60cm）で検出された貝砂・炭化物・土器片を含む締まりのある黄褐色砂質土（第3層）を第1面とした。第1面は現代埋土によって大きく攪乱され、一部遺構が壊されている。遺構の重複が多く、本来なら1a面・1b面と分けて調査すべきではあるが、この段階での大量の湧水と土質を考慮して同時期に掘り上げている。第2面は海拔5.4m前後（現地表下80cm）で検出された貝砂・炭化物・褐鉄粒を含むやや締まりのある明黄褐色砂質土（第9層）上とした。湧水のため排水溝・犬走り設置で調査面積が狭小となり、第1面に比べて遺構密度は低い。第3面は東壁側溝で斜面堆積と思われる落ち込みを確認し、生活面としては捉え難いものの、貝砂・黄白色砂を含むやや締まりのある褐色砂質土（第15層）上とした。確認レベルは海拔5m前後（地表面下120cm）。湧水の為に全体的に掘下げるのが困難な為、調査区南側に最終トレンチを設置。遺構の底面（海拔4.7m）を検出し、斜面堆積が溝状遺構であることが判明した。海拔4.7m以下は明黄褐色砂質土の無遺物層となり、中世基盤層と思われる。



地点	日本測地系		世界測地系	
	X	Y	X	Y
A	-76636.144	-26432.287	-76279.3934	-26725.7161
B	-76633.735	-26426.789	-76276.9848	-26720.2179
C	-76644.511	-26430.408	-76287.7602	-26723.8374

図 2 調査区配置図

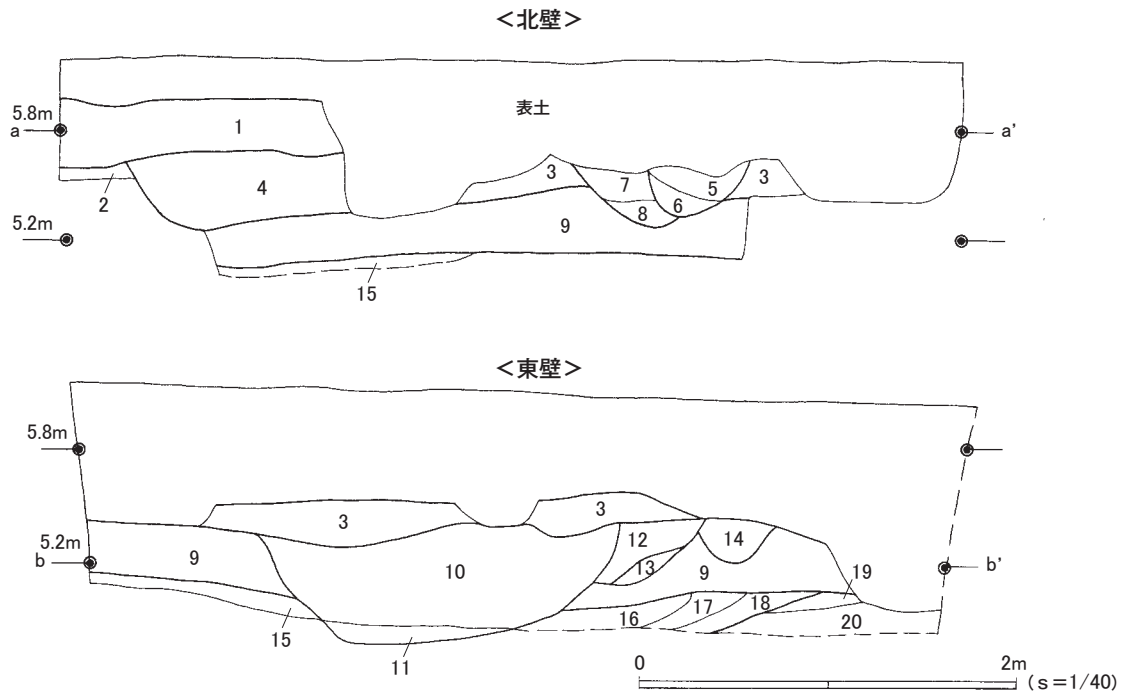


図3 堆積土層図

<土層注記 (図3)>

- |            |   |
|------------|---|
| 1 青灰色砂質土   | 貝砂・炭化物・泥岩粒多量・かわらけ片少量。縮まりあり。中世遺物包含層。         |
| 2 褐色砂質土    | 貝砂・炭化物少量。縮まりあり。                             |
| 3 黄褐色砂質土   | 貝砂多量・炭化物・かわらけ片少量。縮まりあり。(第1面構成土)             |
| 4 茶褐色砂質土   | 貝砂多量・泥岩(5cm)少量・かわらけ片少量。縮まりなし。(遺構5覆土)        |
| 5 暗褐色砂質土   | 貝砂多量・炭化物少量・泥岩粒・縮まりあり(遺構27覆土)                |
| 6 褐色砂質土    | 貝砂多量・炭化物少量・縮まりあり(遺構27覆土)                    |
| 7 暗褐色砂質土   | 貝砂・炭化物多量・縮まりややあり。(遺構25覆土)                   |
| 8 褐色砂質土    | 貝砂多量・炭化物少量。縮まりなし。(遺構25覆土)                   |
| 9 明黄褐色砂質土  | 貝砂・炭化物微量・褐鉄粒多量。縮まりあり。(第2面構成土)               |
| 10 褐色砂質土   | 貝砂多量・炭化物・かわらけ片少量。黄褐色砂混じる。縮まりややあり。(遺構36覆土)   |
| 11 褐色砂質土   | 貝砂多量・黄白色砂ブロック少量・炭化物少量。縮まりややあり。(遺構36覆土)      |
| 12 褐色砂質土   | 貝砂多量・炭化物・かわらけ片少量・黄褐色砂混じる。縮まりややあり。           |
| 13 褐色砂質土   | 貝砂多量・炭化物少量・黄白色砂ブロック少量混じる。縮まりややあり。           |
| 14 褐色砂質土   | 貝砂多量・炭化物・かわらけ片少量・黄褐色砂混じる。縮まりややあり。(遺構38覆土)   |
| 15 褐色砂質土   | 貝砂多量・黄白色砂少量。縮まりややあり。(第3面構成土)                |
| 16 灰褐色砂質土  | 暗褐色砂質土・やや粗い貝砂含む。縮まりややあり。(3面溝状遺構覆土)          |
| 17 灰白色砂    | 褐色砂ブロック多量・粗い貝砂を含む。縮まりなし。飛砂に似ている。(3面溝状遺構覆土)  |
| 18 灰褐色砂質土  | 白色の貝砂・暗褐色砂質土混じる。有機物を一部含む。縮まりややあり。(3面溝状遺構覆土) |
| 19 明黄褐色砂質土 | 貝粒多量・炭化物少量・褐鉄粒多量。褐色砂混じる。縮まりあり。              |
| 20 明黄褐色砂質土 | 貝粒多量・炭化物少量・褐鉄粒多量。縮まりあり。無遺物層。(中世基盤層)         |



## 第二章 検出された遺構と遺物

本調査では現地表から約30cm下まで重機によって表土掘削を行ない、その後は人力によって遺構の発見・記録をした。調査区は南北5.8m×東西4.8mで、本報告では3面に分けて報告している。報告の際の遺構番号は、遺構確認時点で付した番号であり、遺構の新旧を表すものではない。本文内では各面の特徴的な遺構・実測遺物のあった遺構のみを説明しており、その他は遺構計測表にまとめて提示した。

出土遺物は遺物整理箱に総数2箱と非常に少なく、その大半は小破片や自然遺物であるため報告数は少ない。各面で発見した遺物の詳細は出土遺物観察表にまとめ、その他の遺物の様相は遺物破片数表を提示した。以下、発見した遺構は上層から下層の順に第1面から第3面・最終トレンチと分けて報告した。調査開始前現地表の海拔は6.2mである。

### 1. 第1面の遺構と遺物 (図4～7)

第1面は海拔5.6m前後(現地表下60cm)で検出された貝砂・炭化物・土器片を含む締まりのある黄褐色砂質土(第3層)上を遺構確認面とした。発見した遺構は、溝1条・溝状土坑2基・土坑9基・ピット17穴である。第1面は現代埋土によって大きく攪乱され、一部遺構が壊されている。遺構の重複関係から、本来ならば1a面・1b面と2時期に分けて調査するべきではあったが、この段階での大量の湧水と土質を考慮して同時期に掘り上げている。遺物はかわらけ(手捏ね・糸切り)、青磁、瀬戸、常滑、備前、火鉢、瓦、鉄製品、石製品、骨角製品、貝、古代の土師器・須恵器が出土している。

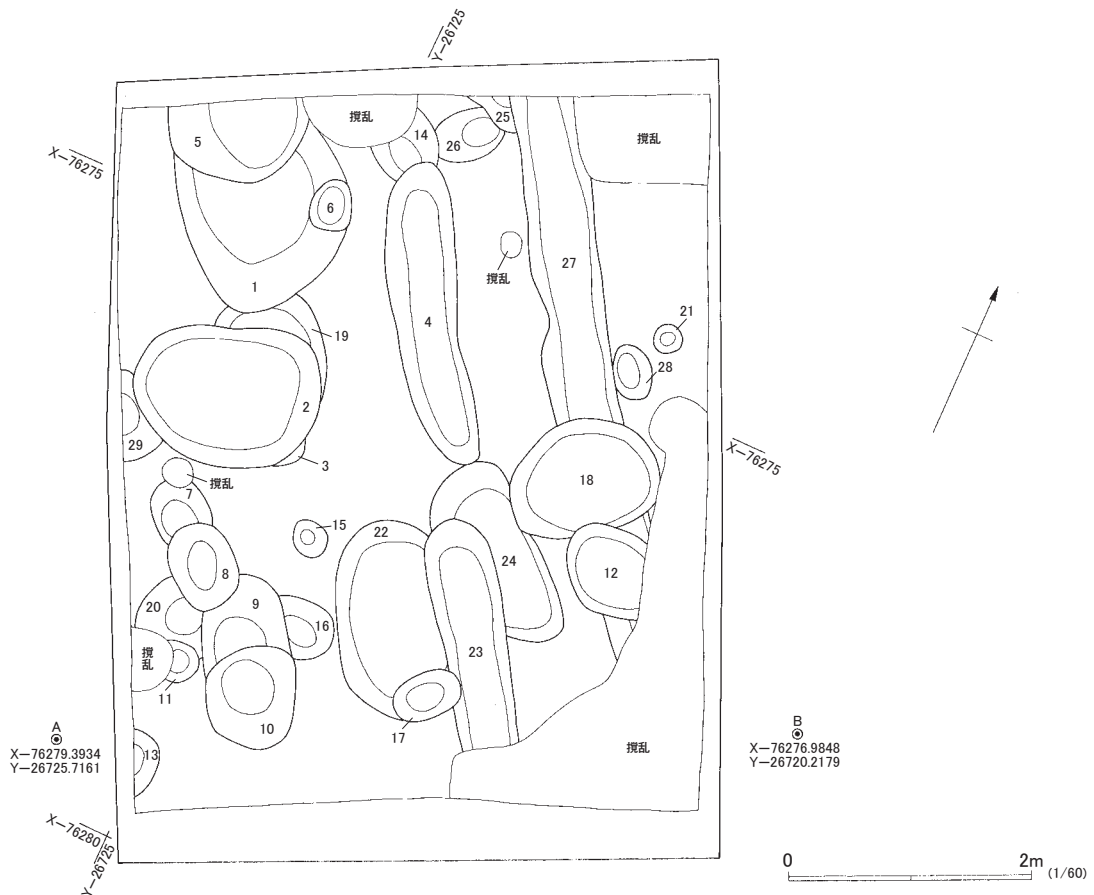


図4 第1面全測図

#### 遺構 1 (図 4 ~ 5)

調査区の北東隅で検出された楕円形状土坑。北側は遺構 5 に切られる。検出規模は長径 150cm 以上 × 短径 136cm、確認面からの深さ 20cm (海拔 5.3 m) 前後を測る。覆土は貝粒多量・泥岩粒・黄色砂ブロックが混じる茶褐色砂質土。南北軸方位は N - 51° - W を示す。

出土遺物: 図 5 - 1 は小型かわらけ。やや器高のある碗型を呈する。2 は常滑片口鉢 I 類の口縁部片。その他に破片でかわらけ、瀬戸瓶子、常滑甕が出土している。

#### 遺構 2 (図 4 ~ 5)

調査区の西部で検出された楕円形状土坑。検出規模は長径 153cm × 短径 116cm、確認面からの深さ 28cm (海拔 5.25 m) 前後を測る。覆土は貝粒多量・炭化物・青灰色砂ブロック多量が混じる褐色砂質土。南北軸方位は N - 20° - W を示す。

出土遺物: 図 5 - 3 は小型かわらけ。4 は常滑片口鉢 I 類の口縁部片。5 は瓦器質輪花型火鉢の口縁部片。6 は加工骨の未製品。片端面に 2 箇所切痕と表面は微かに火をうけ煤付着する。7 は須恵器甕の肩部小片。平行状のタタキ目痕がのこる。その他に破片でかわらけ・常滑片口鉢 I 類・甕、土器質火鉢、土師器甕、貝が出土している。かわらけは轆轤成形の中に 1 点だけ手づくねが混じる。

#### 遺構 4 (図 4 ~ 5)

調査区中央部で検出された溝状土坑。検出規模は長径 250cm × 短径 50cm、確認面からの深さ 11cm (海拔 5.4 m) 前後を測る。覆土は貝粒多量・炭化物多量を含む黄白色砂質土。南北軸方位は N - 30° - W を示す。

出土遺物: 図 5 - 8 は滑石鍋転用品で、スタンプの加工途中か。その他に破片でかわらけ、貝が出土している。

#### 遺構 5 (図 4 ~ 5)

調査区北東部で検出された土坑。北側は調査区外に続くため全体の規模・形状は不明。検出規模は長径 115cm × 短径 65cm 以上、確認面からの深さ 22cm (海拔 5.35 m) 前後を測る。覆土は貝粒多量・泥岩少量・かわらけ片少量を含む茶褐色砂質土。南北軸方位は N - 28° - W を示す。

出土遺物: 図 5 - 9 はかわらけ。通常の小型よりやや小振りな碗型を呈する。10 ~ 11 は常滑片口鉢 I 類の小片。12 は備前播鉢の小片。条線は 5 本確認できる。13 は巴文の鏡瓦。その他に破片でかわらけ、瀬戸折縁深皿、常滑甕、瓦器質火鉢、貝が出土している。

#### 遺構 8 (図 4 ~ 5)

調査区南西部に検出された楕円形状ピット。検出規模は長径 70cm × 短径 52cm、確認面からの深さ 23cm (海拔 5.3 m) 前後を測る。覆土は貝粒多量・炭化物少量を含む暗青灰色～茶褐色砂質土。南北軸方位は N - 58° - W を示す。

出土遺物: 図 5 - 14 は小型のかわらけ。その他に破片でかわらけ、常滑甕・片口鉢 II 類、貝が出土している。

#### 遺構 12 (図 4 ~ 5)

調査区南東部に検出された楕円形状土坑。東側は攪乱に切られる。検出規模は長径 70cm × 短径 60cm 以上、確認面からの深さ 18cm (海拔 5.3 m) 前後を測る。覆土は貝粒多量・炭化物・青灰色砂ブロック多量を含む褐色砂質土。南北軸方位は N - 20° - W を示す。

出土遺物: 図 5 - 15 は骨角製品の筭転用品か。先端 2 箇所を再加工している。その他に破片でかわらけ、常滑片口鉢 II 類、貝が出土している。

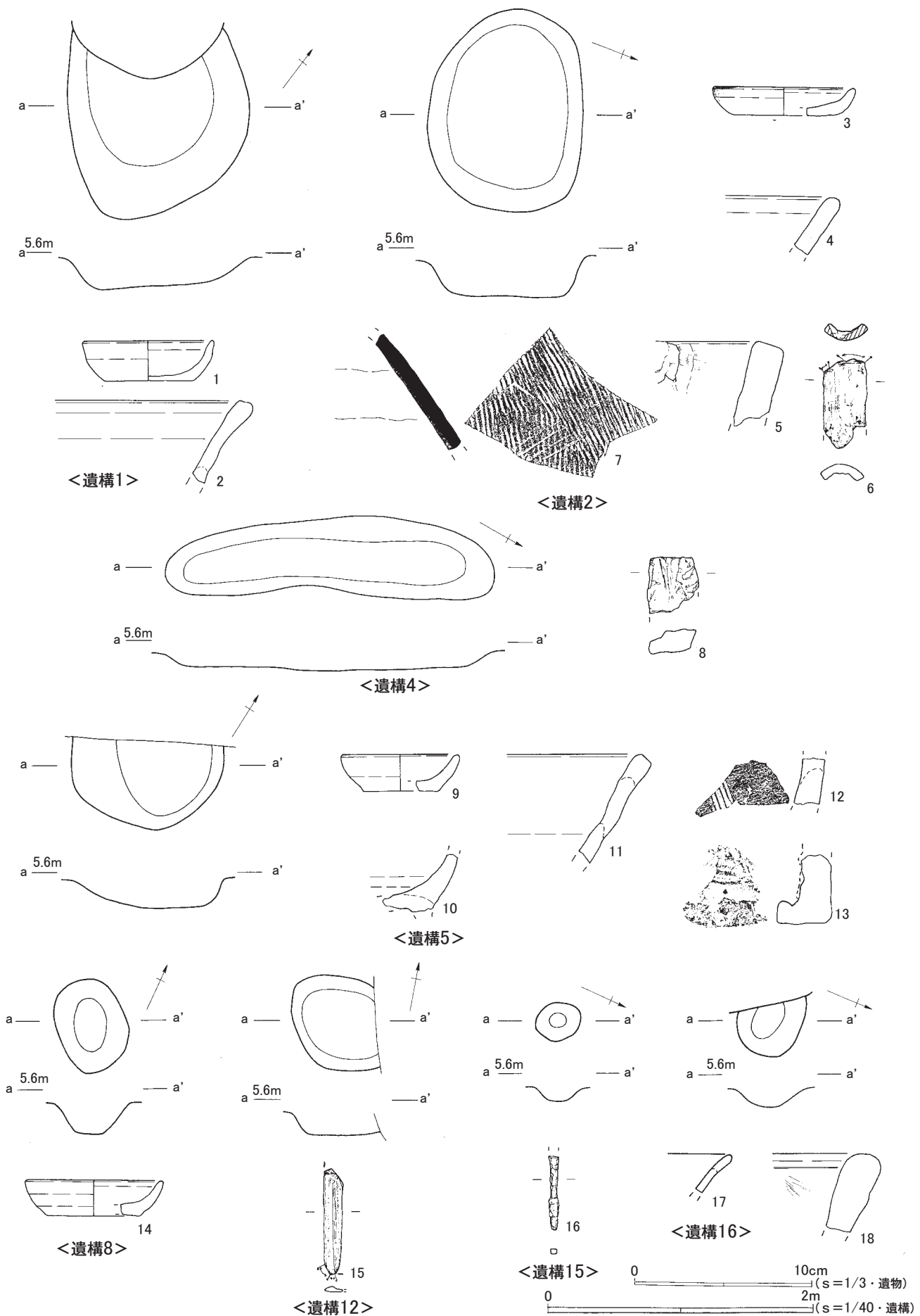


図5 第1面各遺構・出土遺物(1)

### 遺構 15 (図 4 ~ 5)

調査区中央部に検出された円形状ピット。検出規模は長径 32m × 短径 28cm、確認面からの深さ 10cm (海拔 5.4 m) 前後。覆土は貝粒・炭化物少量を含む褐色砂質土。南北軸方位は N - 25° - W を示す。

出土遺物：図 5 - 16 は鉄釘。その他に破片でかわらけ、常滑甕、骨、貝が出土している。

### 遺構 16 (図 4 ~ 5)

調査区南西部に検出された楕円形状ピット。西側は遺構 9 に切られる。検出規模は長径 52cm 以上 × 短径 50cm、確認面からの深さ 13cm (海拔 5.3 m) 前後を測る。覆土は貝粒・炭化物少量を含む褐色砂質土。南北軸方位は N - 7° - E を示す。

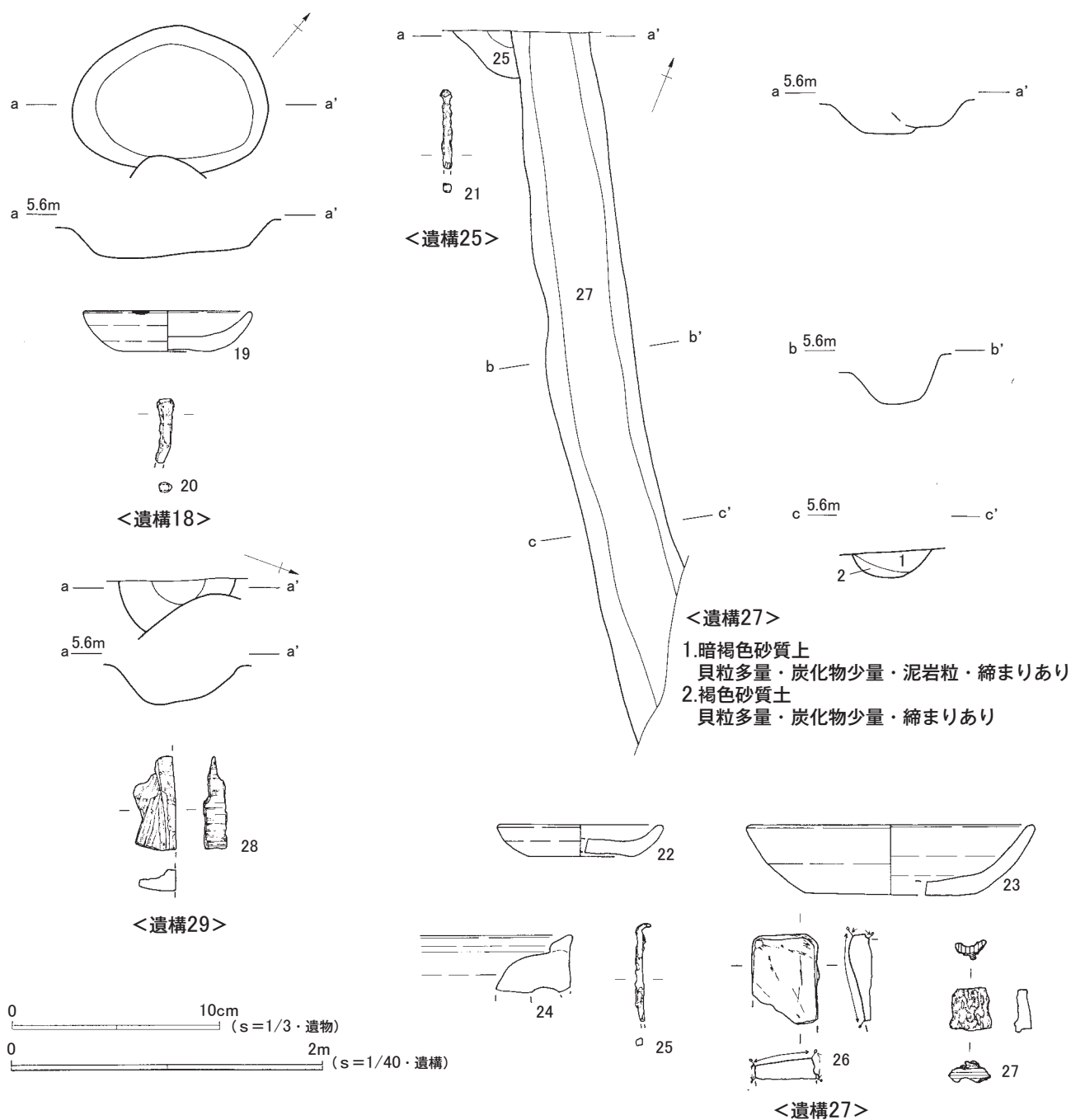


図 6 第 1 面各遺構・出土遺物 (2)



出土遺物：図5-17は尾張型山茶碗の口縁部片。18は土器質火鉢の口縁部片。その他に破片でかわらけ、青磁蓮弁文碗、常滑甕、土師器坏が出土している。

### 遺構 18 (図4・6)

調査区東部に検出された楕円形状土坑。南側は遺構12に切られる。検出規模は長径125cm×短径85cm、確認面からの深さ20cm(海拔5.3m)前後を測る。覆土は貝粒多量・炭化物多量・青灰色砂ブロック多量に含む褐色砂質土。南北軸方位はN-40°-Wを示す。

出土遺物：図6-19は小型のかわらけ。20は鉄釘。その他に破片でかわらけ、常滑片口鉢Ⅱ類、貝が出土している。

### 遺構 25 (図4・6)

調査区北東部に検出されたピット。北側は調査区外、東側は遺構27に切られているため全体の規模と形状は不明。検出規模は長径35cm以上×短径30cm以上、確認面からの深さ20cm(海拔5.3m)前後を測る。覆土は貝粒多量・炭化物・かわらけ片少量を含む締まりのない褐色砂質土。南北軸方位はN-28°-Wを示す。

出土遺物は図6-21は鉄釘。その他に破片でかわらけ、貝が出土している。

### 遺構 27 (図4・6)

調査区北東隅を南北に走る溝。北側は調査区外、南側は攪乱のため全体の規模と形状は不明。検出規模は長径450cm以上×短径45~55cm、確認面からの深さ15~25cm(海拔5.35~5.2m)前後を測る。覆土は貝粒多量・炭化物少量・泥岩粒を含む暗褐色~褐色砂質土。南北軸方位はN-33°-Wを示す。

出土遺物は図6-22は小型、23は大型かわらけ。23は底部糸切り後のナデ調整が、手づくねと見間違う様相を呈している。24は常滑甕、25は鉄釘、26は鳴滝産仕上砥、27は用途不明の加工骨。その他に破片でかわらけ、常滑甕、貝が出土している。

### 遺構 29 (図4・6)

調査区西部に検出された土坑。左側は調査区外、東側は遺構2に切られているため全体の規模と形状は不明。検出規模は長径75cm×短径33cm以上、確認面からの深さ20cm(海拔5.3m)前後を測る。覆土は貝粒多量・炭化物・かわらけ片少量を含む締まりのない褐色砂質土。南北軸方位はN-45°-Wを示す。

出土遺物は図6-28は鳴滝産硯転用不明品。その他に破片でかわらけ、加工骨、貝が出土している。

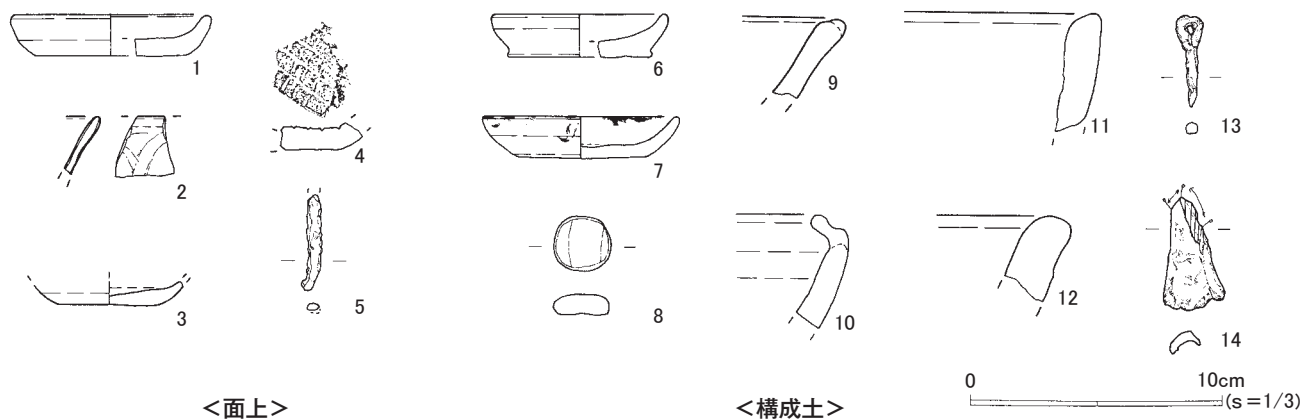


図7 第1面面上・構成土・出土遺物

## 第1面面上・構成土・出土遺物（図7）

図7-1～5は面上出土遺物。1は小型のかわらけ。2は竜泉窯鎬蓮弁文碗の口縁部小片。内面によるキズあり。3は瀬戸入子の底部片。4は瀬戸卸皿の底部片。露胎の為、釉調や施釉方法は不明。内底面の卸目は浅い。外底部脇～底部はロクロ成形後にヘラケズリ調整を施している。5は鉄釘。

図7-6～14は構成土出土遺物。6～7は小型のかわらけ。6は口径底径比の差が少ない箱形状のタイプを呈する。7は灯明皿か。8はかわらけ転用の円盤状土製品。9～10は常滑諸製品。9は片口鉢I類の口縁部片。10は片口碗の口縁部片。11～12は火鉢の口縁部片。13は先端を折り曲げて接続させている環状金具。14は骨角未製品。

## 2. 第2面の遺構と遺物（図8～10）

第2面は海拔5.4m前後（現地地表下80cm）で検出された貝砂・炭化物・褐鉄粒を含むやや締まりのある明黄褐色砂質土（第9層）上とした。発見した遺構は、溝状土坑1基・土坑4基・ピット7穴である。湧水のため排水溝・犬走り設置で調査面積が狭小となり、第1面に比べて遺構密度は低い。深度や覆土の様相に大きな変化が見られないことから、調査の段階では面として捉えているが、短期間の遺構の造り替えと考えられる。出土遺物はかわらけ、青磁、青白磁、常滑、鉄製品、骨角製品、貝、古代の土師器・須恵器が出土している。全体的に磨滅が激しく、調整が不明瞭な遺物が大多数の為に実測できたものは少ない。

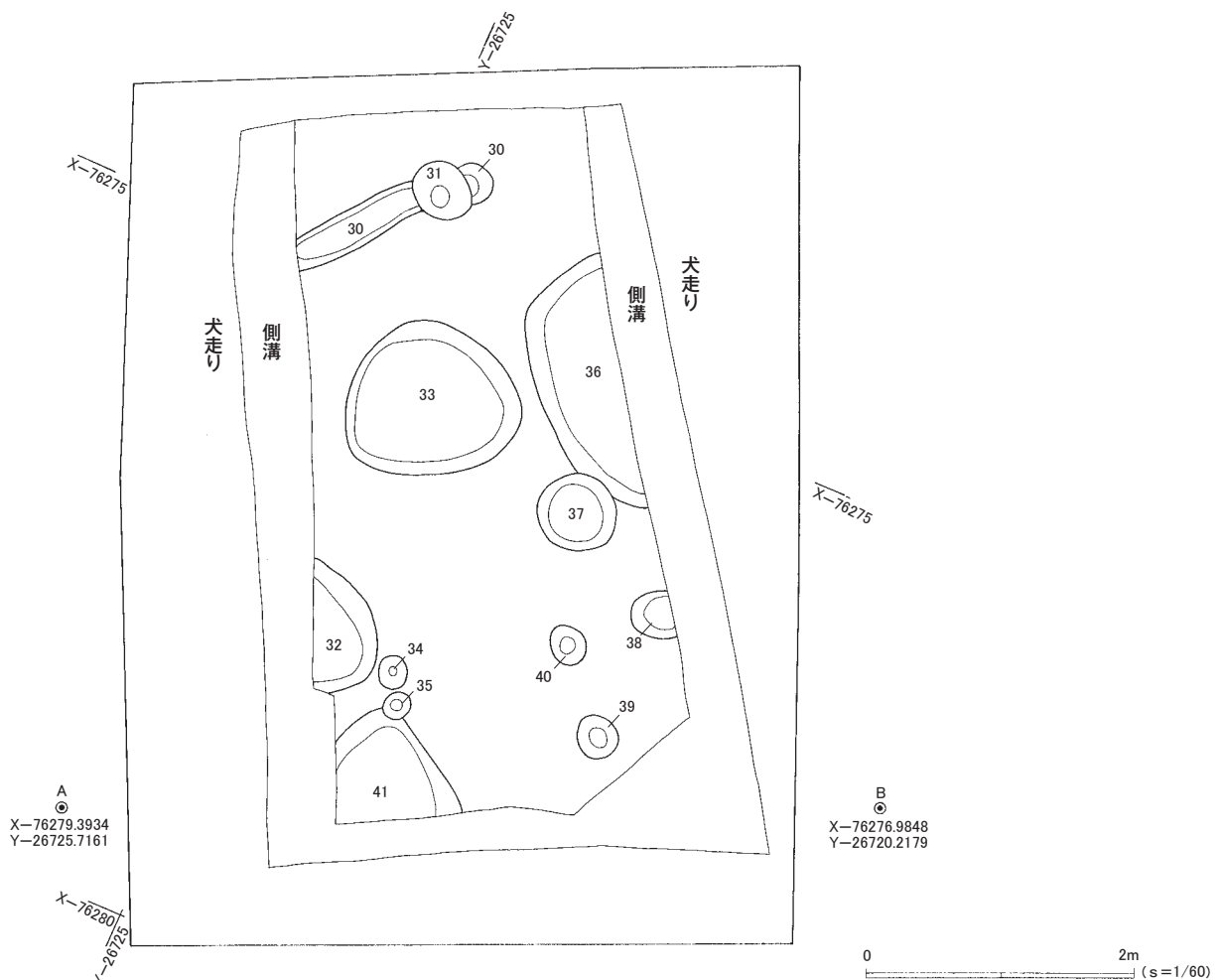


図8 第2面全測図

### 遺構 30 (図 8 ~ 9)

調査区北東部に検出された溝状土坑。西側は調査区外、中央部で遺構 31 に切られる。検出規模は長径 155cm 以上×短径 25cm、確認面からの深さ 30cm (海拔 4.95 m) 前後を測る。覆土は貝粒多量・炭化物・かわらけ片少量・黄白砂ブロックを含む褐色砂質土。軸方位は N - 40° - E を示す。

出土遺物は図 9 - 1 は小型かわらけ。その他に破片でかわらけ、常滑甕、弥生式土器が出土している。

### 遺構 36 (図 8 ~ 9)

調査区東部に検出された楕円形状土坑。東側は調査区外、南東隅を遺構 37 に切られる。検出規模は長径 190cm × 短径 63cm 以上、確認面からの深さ 50cm (海拔 4.7 m) 前後を測る。覆土は貝粒多量・炭化物・かわらけ片・黄白砂ブロックを含む褐色砂質土。軸方位は N - 30° - W を示す。

出土遺物は図 9 - 2 は土師器の比企型坏。内外面に丁寧なミガキと赤彩が施される。3 は土師器の相模型甕。その他に破片でかわらけ、青磁蓮弁文碗、チャートが出土している。

### 遺構 37 (図 8 ~ 9)

調査区東部に検出された円形状ピット。検出規模は長径 58cm × 短径 57cm、確認面からの深さ 5cm (海拔 5.1 m) 前後を測る。覆土は貝粒多量・炭化物・かわらけ片・褐鉄粒を含む青味かかった褐色砂質土。軸方位は N - 34° - W を示す。

出土遺物は図 9 - 4 は竜泉窯青磁鎬蓮弁文碗の小片。5 は鉄製品の鉾か。その他に破片でかわらけ、貝が出土している。

### 遺構 41 (図 8 ~ 9)

調査区東部に検出された楕円形状土坑。東側は調査区外、南東隅を遺構 37 に切られる。検出規模は長径 94cm 以上×短径 83cm 以上、確認面からの深さ 25cm (海拔 4.9 m) 前後を測る。覆土は貝粒・炭化物・灰色白砂を含む褐色砂質土。軸方位は N - 40° - E を示す。遺構底面で中世基盤層と思われる明黄褐色砂質土が確認できる。2つの遺構が絡む可能性もあったが、湧水のため確認することはできなかった。

出土遺物：図 9 - 6 は土師器の平底盤状坏。体部内面に放射状の暗文が微かに確認できる。その他に破片でかわらけ、土師器甕が出土している。

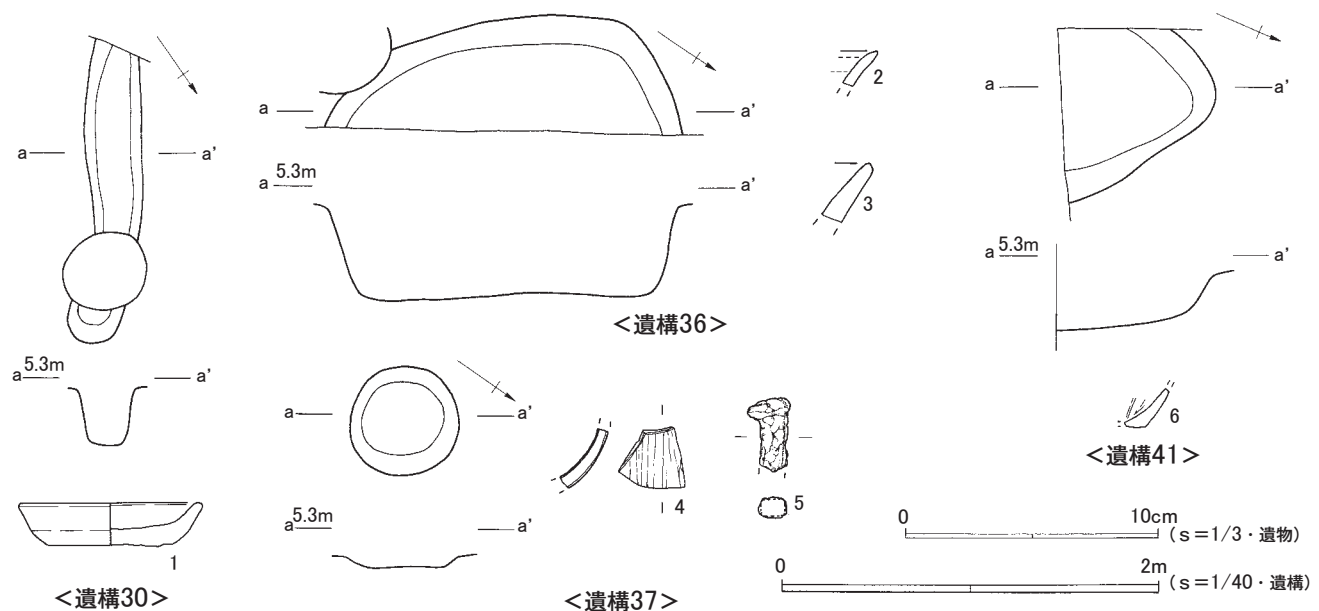


図 9 第 2 面各遺構・出土遺物

## 第2面面上・構成土・表土出土遺物 (図10)

図10 - 1～2は面上出土遺物。1は竜泉窯青磁鎗蓮弁文碗の体部片、2は青白磁碗の底部片。

図10 - 3～13は構成土出土遺物。3は小型かわらけ、4～6は尾張型山茶碗の口縁部片、7は常滑片口鉢Ⅰ類の口縁部片、8は常滑片口鉢Ⅱ類の口縁部片、9は須恵器坏蓋、10～12は土師器相模型甕の口縁部片、13は土師器台付甕の脚部片。

図10 - 14～17は表土。14は青白磁梅瓶の蓋。15は男瓦。小片の為判別が難しかったが、側縁をヘラケズリで2面の面取りをしていることから男瓦とした。16～17は鉄釘。

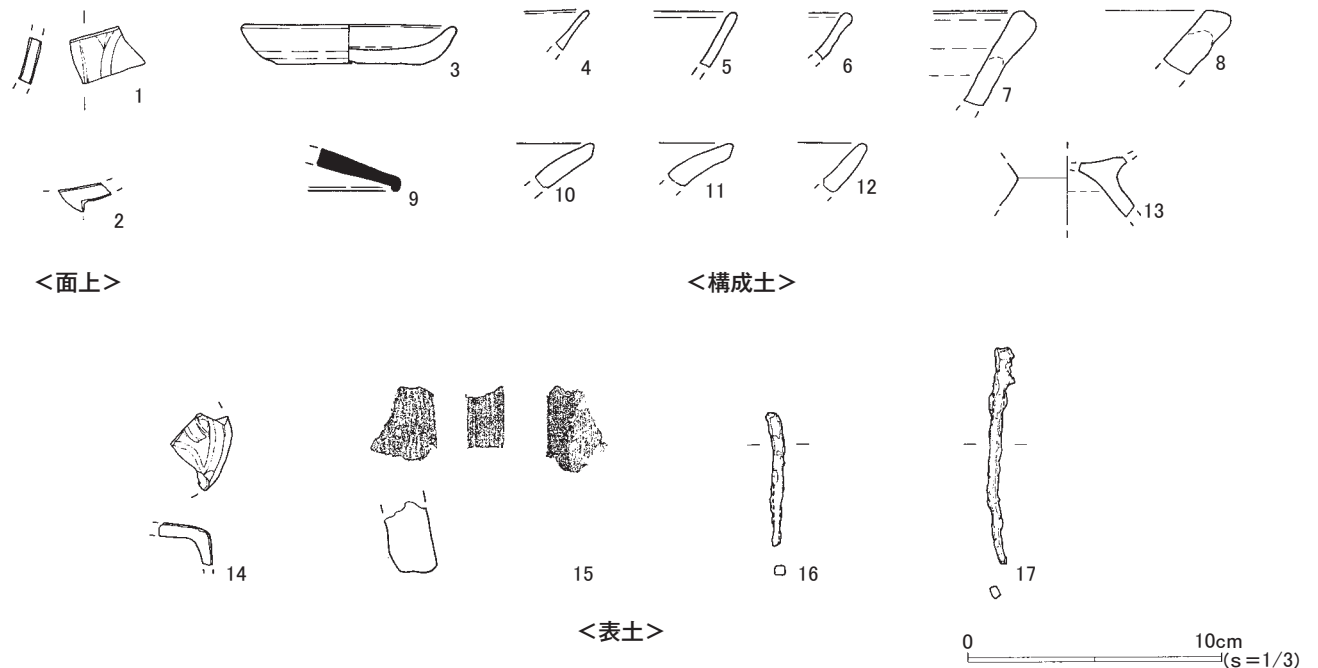


図10 第2面面上・構成土・表土・出土遺物

## 3. 第3面・最終トレンチ (図11)

第3面は東壁側溝で斜面堆積と思われる落ち込みを確認し、面としては捉え難いものの海拔5～5.05mで平面上にひろげた。湧水で全体的に掘下げることが困難な為、調査区南側に最終トレンチを設置。遺構の底面(海拔4.7m)が確認でき、斜面堆積が溝状遺構であることが判明した。

溝状遺構は調査区を東西に走るが、西壁は湧水の為に未確認である。検出規模は長径340cm以上×短径140cm以上、確認面からの深さ30～35cm(海拔4.7m前後)を測る。覆土は暗褐色砂質土・粗い白色貝砂を含む灰白色砂～黄茶褐色砂質土。軸方位はN-82°-Eを示す。海拔4.7m以下は貝粒多量・炭化物少量・褐鉄粒多量で締まりのある明黄褐色砂質土を呈し、それ以降は無遺物層となる。中世基盤層と思われる。掘り下げ時の堆積層からは、土師器・須恵器が多数出土している。



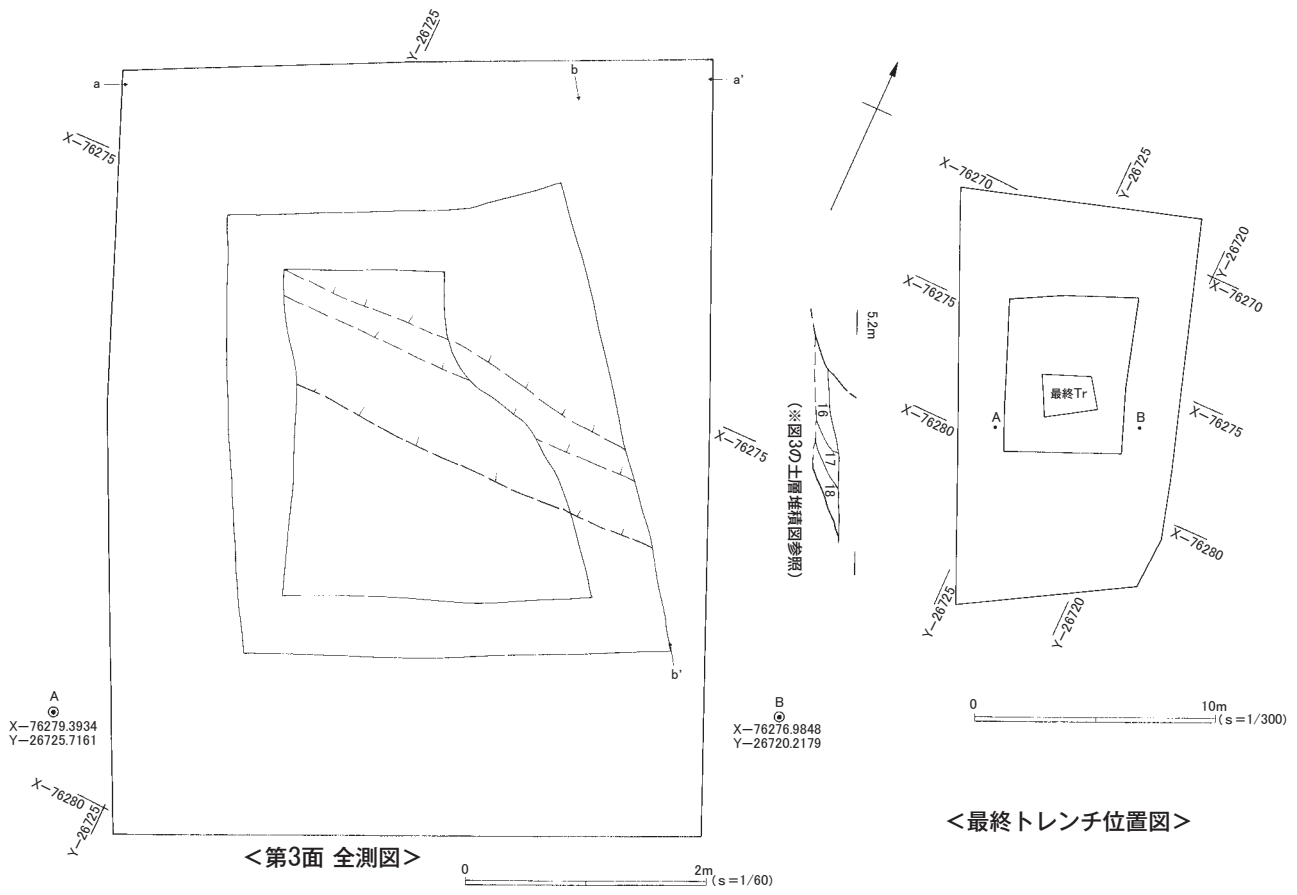


図 11 第 3 面全測図・最終トレンチ位置図

## 第三章 まとめ

今回の調査は大量の湧水で調査区を縮小したため、十分な成果が得られたとは言い難い。周辺の調査結果をふまえて、検出した遺構・遺物について簡単なまとめを行ないたい。

### 1. 検出された遺構と遺物

本報告では遺構検出面を3面に分けて報告しているが、本調査地は砂丘上に位置しており、基本的に客土を用いた地業面を検出することはなく、自然堆積の風成砂層上に生活面が構築されている。検出遺構は溝2条・土坑17基(内、溝状4基)・ピット24穴である。第1面～第2面で検出した遺構は深度や覆土の様相に大きな変化はなく、短期間で遺構の造り替えをしていると考えられる。建物を復元することは不可能だが、区画を示す場合が多い溝や溝状土坑の軸方位が概ねN-30°-W前後であった。第3面～最終トレンチで検出した溝の軸方位はN-82°-Eと様相が異なり、遺構の底面(海拔4.7m)以下では無遺物層を確認できた。

本調査地点の遺物層出土点数は、接合後の破片数で1,353点(遺物整理箱2箱)を数える。その大半は小破片や自然遺物であるため図示できた報告数は少ない。出土遺物の傾向としては、80%程度をかわらけ(内、手づくね0.4%)、10%程度を貝類、2%程度を骨角製品含む獣骨類が占める。大多数のかわらけが小片のため、明確な遺物分類が出来ていない可能性もあるが、所謂「薄手丸深」タイプや法量的な「中型」はみられなかった。「手づくね」は数点その他には舶載品、瀬戸窯や常滑窯の諸製品、火鉢や瓦など土器類や石製品、金属製品となる。瀬戸窯は中期の製品、常滑窯は5～7型式、瓦は永福寺Ⅲ期、かわらけや備前窯の出土もふまえて、本遺跡の年代は概ね13世紀中葉～14世紀中葉と考える。古代遺物は全体の2%程であった。

### 2. まとめ

特筆する点は、かわらけ・滑石鍋・硯・骨角製品の転用品や加工途中と思われる未製品の出土である。数的には僅かではあるが、周辺の調査同様に職能集団の存在を推察できる地域ということを示すことは出来たと思われる。また第2面以降の出土遺物は、全体的に磨滅が激しいものが多かった。「由比ヶ浜南遺跡(No.315)」の地点5では、北から南の海側に傾斜し、遺構の分布は北側海拔2m以上に占地。海拔1.5m以下の遺物は水流により表面磨滅したものが多く、海水によって磨滅を受けたものだと仮定して、当時の海岸線は海拔1.5m付近に存在していたことを推察している。地点4では方形竪穴建物・井戸・溝等が検出された居住区域とそれより低い平坦な海浜部を、海拔2.6m前後で形成されている溝状土坑で区分している。海浜部は荷重痕跡と呼ばれる地層変化が確認され、人工的な遺構は確認されていない。また地点2では海拔1.8m前後に、ほぼ平坦な「波蝕台」を検出している。但し、地点3においては砂丘の頂部に近い場所に営まれた遺跡と言えるため、海拔8.1m前後で古代遺構確認面を検出している。以上の点をふまえて、海外線から北に400m離れている本調査地点での海拔5.6m前後(現地地表下60cm)からの大量の湧水、海拔4.7m以下の無遺物層確認は、当時の海岸線は現在より北側で、本調査地点周辺にむかって内湾していたと推察できる。近年調査の地点46では古墳時代の石棺墓や古代末～中世初期と古墳時代初めの時期差の異なる2層の黒色砂層が確認されている。この発見は今後の浜一帯の古代から鎌倉時代初期にかけての地形復元の足掛かりになるであろう。本調査地点南側周辺を含めた今後の調査事例の成果が待ち遠しい。

<引用・参考文献>

高柳光寿 『鎌倉市史 総説編』1959年 吉川弘文館

高柳光寿・貫達人 『鎌倉市史 社寺編』1959年 吉川弘文館

貫達人・川副武胤 『鎌倉廃寺事典』1980年 有隣堂

白井英二 「鎌倉事典」1976年 東京堂出版

上本進二 「鎌倉・逗子の地形発達史と遺跡形成」『東国歴史考古学研究所調査研究報告 第26集 神奈川県逗子市棧敷戸遺跡発掘調査報告書』2000年3月

表1 出土遺物観察表

図版番号	出土層位 出土遺構	種別	口径/長さ	底径/幅	器高/厚さ	観察内容
			単位:cm/( ):復元値	[ ]:残存値		
図5-1	第1面遺構1	かわらけ	(7.2)	(5.0)	2.3	a:成形・調整 b:胎土・素地・材質 c:色調 d:釉調 e:焼成 f:遺存値 g:備考 a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒多・黒色粒・海綿骨芯を含む粉質気味やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
	-2	常滑片口鉢Ⅰ類				a:輪積み技法 b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・長石・小石粒 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:5~6a型式
-3	第1面遺構2	かわらけ	(7.9)	(5.7)	1.6	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・白色粒・黒色粒・海綿骨芯を含む粉質気味やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:1/5 g:器表面部分的に黒く変色
-4		常滑片口鉢Ⅰ類				a:輪積み技法 b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6a型式
-5		瓦器質火鉢				a:輪積み技法 内外面共に縦位のミガキ・炭素吸着黒色処理 b:灰白色 砂粒・白色粒・黒色粒を含む粗土 c:灰~黒灰色 e:良好 f:口縁部片 g:輪花状
-6		加工骨未製品	[4.9]	2.4	0.5	g:片端面2箇所切断痕あり 全体が薄らと黒く焼ける
-7		須臾器				a:輪積み技法 外面平行状のタタキ・内面ヨコナデ b:明灰色 砂粒・黒色粒・白色粒を含む良土 c:灰色 e:良好・硬質 f:肩部片
-8	第1面遺構4	石製品滑石銅転用品	[3.1]	2.9	0.9~1.2	c:銀灰色 g:滑石銅転用スタンプか? モチーフは不明だが何らかの意匠を削り出そうとした痕跡あり 側面に煤付着
-9	第1面遺構5	かわらけ	(6.5)	(4.2)	2.0	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯を含む粉質良土 c:橙色 e:良好・硬質 f:1/5
-10		常滑片口鉢Ⅰ類				a:輪積み技法 b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・長石・小石粒 c:灰色 e:良好・硬質 f:底部片(高台は欠損)
-11		常滑片口鉢Ⅰ類				a:輪積み技法 b:淡灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 c:淡灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6a型式
-12		備前挿鉢				a:輪積み技法 b:赤灰色 砂粒・白色粒・やや粗土 c:灰褐色 e:良好・硬質 f:胴部小片 g:条線5本
-13		巴文鏡瓦	瓦当部分			b:灰白色 赤色粒・黒色粒・白色粒を含むやや粗土 c:灰褐色 e:軟質 f:瓦当部小片 g:外区内縁に珠文・圏線を伴う巴文 永福寺Ⅲ期?
-14	第1面遺構8	かわらけ	(7.5)	(5.2)	2.0	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒を含む粉質気味やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/5
-15	第1面遺構12	骨角製品筭転用品	[5.9]	[1.0]	0.1~0.3	a:片面溝をもつ薄板状で丁寧に研磨 b:鹿骨(四肢骨) f:片側面以外は欠損し、先端部2箇所再加工(研磨)
-16	第1面遺構15	鉄製品釘	[4.1]	0.4	0.3	a:断面形状に鑄造 f:片端部欠損 g:錆の付着激しい
-17	第1面遺構16	尾張型山茶碗土器質火鉢				a:ロクロ b:灰色 砂粒・黒色粒・白色粒を含むやや粗土 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6~7型式
-18						a:輪積み技法 口縁部内外面ヨコナデ・内面斜位のハケ目・外面指頭痕 b:灰色微砂多・黒色粒・白色粒 c:灰色~灰褐色 e:軟質 f:口縁部片 g:1b類
図6-19	第1面遺構18	かわらけ	(8.0)	(4.3)	1.9	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒多・白色粒・黒色粒・海綿骨芯・泥岩粒を含む粉質気味やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:2/3 g:口唇部に油煤痕(灯明皿)
-20		鉄製品釘	[3.1]	0.4	0.4	a:断面形状に鑄造 f:片端部欠損 g:錆の付着激しい
-21	第1面遺構25	鉄製品釘	[3.1]	0.4	0.3	a:断面形状に鑄造 f:先端部欠損 g:錆の付着激しい
-22	第1面遺構27	かわらけ	(7.7)	(5.0)	1.5	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂多・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯を含む砂質気味良土 c:橙色 e:良好 f:1/2
-23		かわらけ	(13.6)	(8.3)	3.3	a:ロクロ・外底回転系切(ナデ調整あり)・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒を含む砂質気味やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/3 g:器表面部分的に黒く変色
-24		常滑壺				a:輪積み技法 b:灰色 砂粒・白色粒・黒色粒・長石・小石粒 c:茶褐色 e:硬質 f:縁部小片(縁部下端欠損) g:6b~7型式
-25		鉄製品釘	[4.7]	0.3	0.3	a:断面形状に鑄造 f:先端部欠損 g:錆の付着激しい
-26		石製品砥石	[4.3]	3.0	(1.2)	a:砥面は表面のみ、裏面剥離で不明 両側面切り出し痕 小口は生産地加工痕 b:流紋岩質細粒凝灰岩 c:淡褐色~灰色 g:鳴滝産(葛蒲ヶ谷?) 仕上砥
-27		加工骨用途不明品	(1.9)	(1.8)	(0.7)	a:断面U字形 両端面切断痕 b:鹿骨
-28	第1面遺構29	石製品碗転用不明品	[4.4]	[2.1]	[1.0]	c:灰黒色 g:鳴滝産 碗の内側を鬚状に削る
図7-1	第1面上	かわらけ	(7.7)	(6.1)	1.6	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒を含む粉質気味やや粗土 c:黄褐色 良好 f:1/4
-2		青磁鑄蓮弁文碗				a:ロクロ b:灰色 精良緻密土 d:緑灰色透明釉薬をやや薄く施釉 e:堅緻 f:口縁部小片 g:竜泉窯 大宰府樹Ⅱ-b類
-3		瀬戸入子		(4.0)		a:ロクロ 底部系切り痕 b:黄灰色 砂粒 c:淡黄灰色 e:硬質 f:底部片 g:中期前半
-4		瀬戸卸皿				a:ロクロ 外底部脇~底部にかけてへラケズリ調整 b:灰色 砂粒多 c:灰色 d:底部露胎の為不明 e:硬質 f:底部片 g:中期
-5		鉄製品釘	(3.8)	0.5	0.4	a:断面形状に鑄造 f:片端部欠損 g:錆の付着激しい
-6	第1面構成土	かわらけ	(6.8)	(5.6)	1.7	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・黒色粒・赤色粒・海綿骨芯・泥岩粒を含む粉質やや粗土 c:淡黄褐色 e:良好 f:1/5
-7		かわらけ	7.7	5.1	2.1	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・赤色粒・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒を含む粉質やや粗土 c:淡黄褐色 e:良好 g:器表面は磨滅 口唇部に油煤痕(灯明皿)
-8		かわらけ転用円盤状土製品	径2.2×厚さ0.8			a:かわらけ底部を転用し、円盤状に削りを施す b:微砂・雲母・黒色粒・赤色粒・白色粒を含む砂質土 c:橙色 e:良好
-9		常滑片口鉢Ⅰ類				a:輪積み技法 b:灰色 砂粒・白色粒・小石粒 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:5型式
-10		常滑片口鉢				a:輪積み技法 b:灰色 砂粒・白色粒・小石粒を多く含む粗土 c:灰~赤褐色 e:良好・硬質 f:口縁部小片 g:4型式?
-11		瓦器質火鉢				a:輪積み技法 b:灰褐色 微砂・赤色粒多・白色粒 c:灰~灰褐色 e:硬質 f:口縁部片 g:器表内外面共に部分的に剥離 Ⅲ類か?
-12		土器質火鉢				a:輪積み技法 b:橙色 砂粒・白色粒・黒色粒 c:暗灰色 e:硬質 f:口縁部小片 g:1b類



表 1 出土遺物観察表

図版 番号	出土層位 出土遺構	種別	口径／長さ	底径／幅	器高／厚さ	観察内容
			単位:cm/( ):復元値 [ ]:残存値			
図7-13	第1面 構成土	鉄製品 環状金具	3.5	0.4	0.4	a:断面方形形状に鑄造し、頂部は環状に接続 g:錆の付着激しい
		加工骨 用途不明品	[4.5]	[2.4]	0.4	a:断面U字形 先端部2箇所切断痕、表面上部は研磨、裏面は海綿質が残る
図9-1	第2面 遺構30	かわらけ	7.1	5.0	1.7	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母多・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒を含む粉質やや粗土 c:黄橙色 e:良好 f:ほぼ完形
-2	第2面 遺構36	土師器 坏				a:内外面横方向のミガキ・赤彩を施す b:微砂・赤色粒・白色粒 c:赤褐色 e:良好 f:口縁部小片 g:比企型
-3		土師器 壺				b:微砂多・黒色粒多・白色粒 c:橙色 e:良好 f:口縁部小片 g:相模型
-4	第2面 遺構37	青磁 鎗蓮弁文碗				a:ロクロ b:灰色 精良緻密土 d:不透明な灰黄緑色釉をやや厚く施釉 細かい貫入・気泡多い e:堅緻 f:胴部小片 g:竜泉窯系 大宰府碗Ⅱ-b類
-5		鉄製品 鉾か	[2.9]	1.1	0.8	a:断面長方形形状に鑄造し、頭頂部を鉾とする g:錆の付着激しい
-6	第2面 遺構41	土師器 盤状坏				a:体部外面下部～底部はヘラケズリ b:微砂・赤色粒 c:橙色 e:良好 f:底部小片 g:体部内面にかすかに放射状暗文あり
図10-1	第2面 面上	青磁 鎗蓮弁文碗				a:ロクロ b:灰色 精良緻密土 d:灰緑色不透明釉をやや薄く施釉 二次焼成の為失透・気泡有り f:胴部小片 g:竜泉窯 大宰府碗Ⅱ-b類
-2		青白磁 碗				a:ロクロ b:灰色 精良緻密土 d:灰緑色透明釉をやや薄く施釉 f:底部小片
-3	第2面 構成土	かわらけ	(8.3)	(5.8)	1.6	a:ロクロ・外底回転系切・板状圧痕・内底ナデ b:微砂・雲母・白色粒・海綿骨芯・泥岩粒を含む粉質気味やや粗土 c:橙色 e:良好 f:1/4
-4		尾張型 山茶碗				a:ロクロ b:灰色 砂粒・黒色粒・白色粒を含むやや粗土 c:灰色 e:硬質 f:口縁部片 g:第6～7型式
-5		尾張型 山茶碗				a:ロクロ b:灰色 砂粒・黒色粒・白色粒を含むやや粗土 c:灰色 e:硬質 f:口縁部片 g:第6～7型式
-6		尾張型 山茶碗				a:ロクロ b:灰色 砂粒・黒色粒・白色粒を含むやや粗土 c:灰色 e:硬質 f:口縁部片 g:6～7型式
-7		常滑 片口鉢Ⅰ類				a:輪積み技法 b:灰色 微砂・白色粒・黒色粒・長石 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6a型式
-8		常滑 片口鉢Ⅱ類				a:輪積み技法 b:灰色 砂粒・白色粒・小石粒 c:灰色 e:良好・硬質 f:口縁部片 g:6a型式
-9		須恵器 蓋				a:ロクロ 体部内外面回転ナデ b:灰色 砂粒・白色粒を含むやや粗土 c:暗灰色 e:良好・硬質 f:器表内面はあれている
-10		土師器 壺				a:輪積み技法 内外面ヨコナデ b:微砂・黒色粒・白色粒・小石粒 c:橙色 e:良好 f:口縁部小片 g:相模型
-11		土師器 壺				a:輪積み技法 内外面ヨコナデ b:微砂・黒色粒・白色粒・小石粒 c:橙色 e:良好 f:口縁部小片 g:相模型
-12		土師器 壺				a:輪積み技法 内外面ヨコナデ b:微砂・黒色粒・白色粒・小石粒 c:橙色 e:良好 f:口縁部小片 g:相模型
-13		土師器 台付壺				a:輪積み技法 内外面ヨコナデ? b:微砂・黒色粒・白色粒・小石粒 c:灰橙色 e:良好 f:脚部片
-14	表土	青白磁 梅瓶蓋				a:型作り b:灰白色 精良緻密土 d:水色透明釉を薄く施釉 貫入有り e:堅緻 f:1/5 g:頂部の文様不明
-15		男瓦			1.8	a:凹面布目叩き 凸面縦位ナデ 側縁をヘラケズリで2面の面取り b:灰白色 砂粒・小石粒を含む粗土 c:灰白～灰黒色(凸面のみ炭素吸着?) e:硬質 f:側縁部小片 g:永福寺Ⅲ期?
-16		鉄製品 釘	5.3	0.4	0.3	a:断面方形形状に鑄造 f:先端部欠損 g:錆の付着激しい
-17		鉄製品 釘	8.5	0.5	0.3	a:断面方形形状に鑄造 f:先端部欠損 g:錆の付着激しい

表2 遺物破片数表

		第1面 遺構	第1面 遺構外	第2面 遺構	第2面 遺構外	表土 攪乱	合計	%		
かわらけ	糸・大	577	207	42	71	108	1005	74.3		
	糸・小	32	9	6	3	5	55	4.1		
	手・大	1	4				5	0.4		
	転用品 (磨り・円盤状)	2	1		1	1	5	0.4		
舶載陶磁器	青磁	蓮弁文碗	1	1	1	2	5	0.4		
		折腰鉢		1			1	0.1		
		器種不明				1	1	2	0.1	
	青白磁	碗			1		1	0.1		
	梅瓶・蓋					1	1	0.1		
国産陶器	瀬戸	瓶子	1				1	0.1		
		折縁皿	1	1			2	0.1		
		卸皿		1				1	0.1	
		皿		1				1	0.1	
	常滑	甕	24	5	1	1	10	41	3.0	
		壺	1					1	0.1	
		片口鉢Ⅰ類	3	1		1	1	6	0.4	
		片口鉢Ⅱ類	5			1		6	0.4	
		片口碗		1				1	0.1	
	山茶碗	1			6		7	0.5		
備前	擂鉢	1					1	0.1		
土器・ 土製品類	火鉢	土器質	1	2			3	0.2		
		瓦器質	3	1				4	0.3	
	瓦	男瓦						1	0.1	
		鏡瓦	1					1	0.1	
	不明土器	1	1				2	0.1		
石製品	滑石	鍋		1			1	0.1		
		転用途中品	1					1	0.1	
	砥石	仕上砥	1					1	0.1	
	硯	転用品	1					1	0.1	
	チャート			2	1		3	0.2		
金属製品	鉄釘	4	1			2	7	0.5		
	その他		1	1			2	0.1		
骨角製品	筭	1					1	0.1		
	用途不明加工骨	5	3				8	0.6		
自然遺物	獣骨		9	2		2	3	16	1.2	
	貝	巻貝	マダカアワビ	1				1	0.1	
			アワビ系	2			2		4	0.3
			イボキサゴ	3			1		4	0.3
			キサゴ	2	4				6	0.4
			ダンベイキサゴ	11	2		5	1	19	1.4
			サザエ	11	1	2	4		18	1.3
			サザエ蓋	4					4	0.3
			イボウミナ	1	2				3	0.2
			ツメタガイ	2	4		2		8	0.6
			アカニシ	5	3	1	1		10	0.7
		バイ	2	1		1		4	0.3	
		二枚貝	サトウガイ	1	1				2	0.1
	サルボウガイ			1		1		2	0.1	
	マガキ		1	5		0		6	0.4	
	チョウセンハマグリ		12	2	1	9	1	25	1.8	
	ハマグリ	6		2	1		9	0.7		
	不明					1	1	0.1		
	中世以前	土師器	甕	4	2	1	4	1	12	0.9
			台付甕				1		1	0.1
杯			1		3			4	0.3	
器種不明			1	4		1	1	7	0.5	
須恵器		甕	1					1	0.1	
		蓋				1		1	0.1	
弥生式		台付甕			1			1	0.1	
合計	合計	749	277	65	124	138	1353	100.0		
%	%	55.4	20.5	4.8	9.2	10.2	100.0			

表 3 遺構計測表 (単位：cm)

遺構No.	長径	短径	深さ	遺構No.	長径	短径	深さ
1	(150)	136	20	22	164	(85)	14
2	153	116	28	23	(190)	50	43
3	(30)	(7)	—	24	158	(70)	15
4	247	50	11	25	(35)	(30)	20
5	115	(65)	22	26	(55)	42	15
6	42	35	27	27	(450)	45~55	15~25
7	(40)	45	12	28	45	30	12
8	70	52	23	29	75	(33)	25
9	(60)	70	20	30	(155)	25	30
10	83	74	17	31	45	38	7
11	(30)	32	5	32	(100)	48	20
12	70	(64)	18	33	130	114	23
13	50	(20)	9	34	25	20	—
14	(50)	53	16	35	20	20	—
15	32	28	10	36	190	(63)	50
16	(52)	50	13	37	58	57	5
17	58	37	11	38	(31)	36	8
18	125	95	20	39	32	30	18
19	(90)	(85)	10	40	31	25	9
20	(50)	70	20	41	(94)	(83)	24
21	24	24	5				

※調査区外に遺構が延びていたもの、他の遺構に切られていたものに関しては、遺存値を( )で表記した。



第1面全景（西から）



第1面全景（東から）



第2面全景（西から）

第3面全景（西から）





図版2



調査区北壁（南から）



調査区西壁（東から）

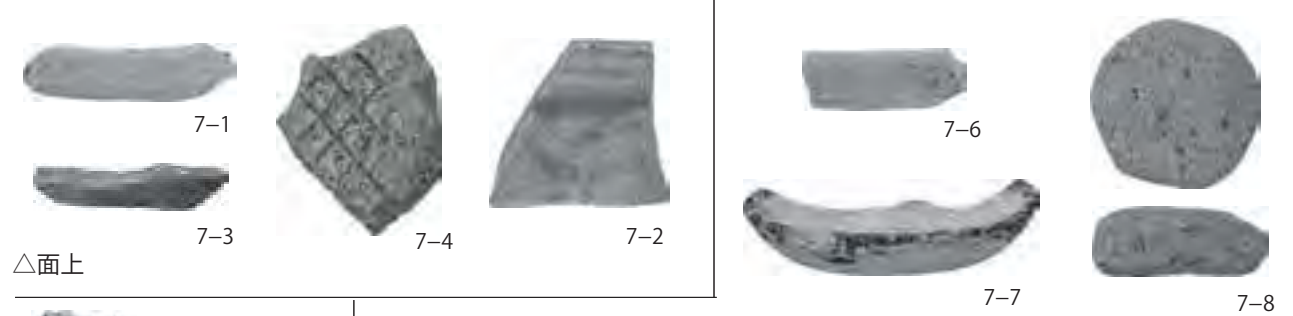


調査区東壁（西から）

調査地点近景（南から）

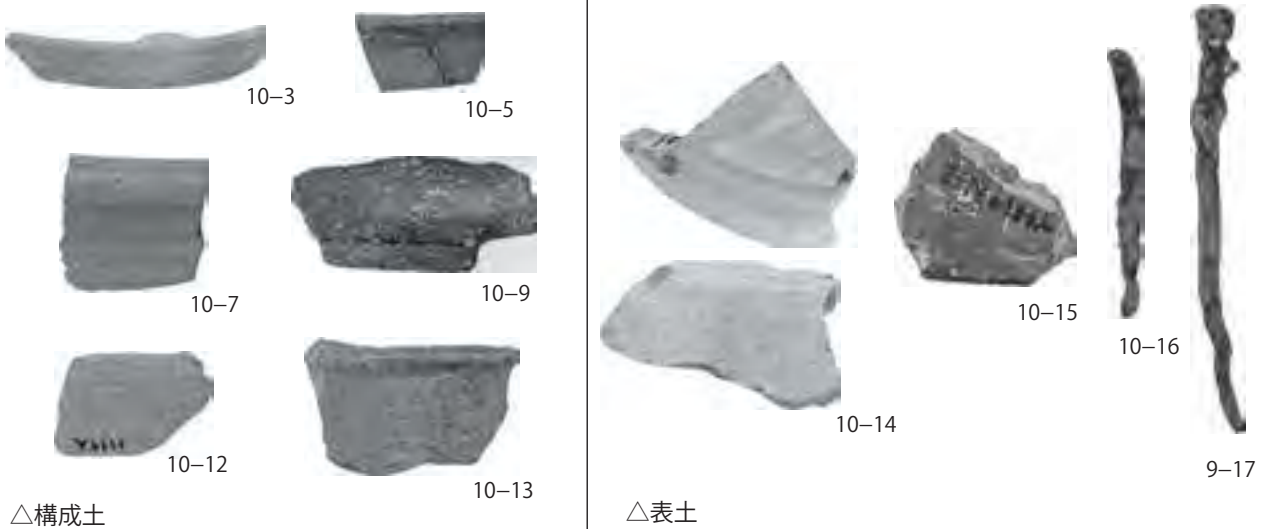


▼第1面

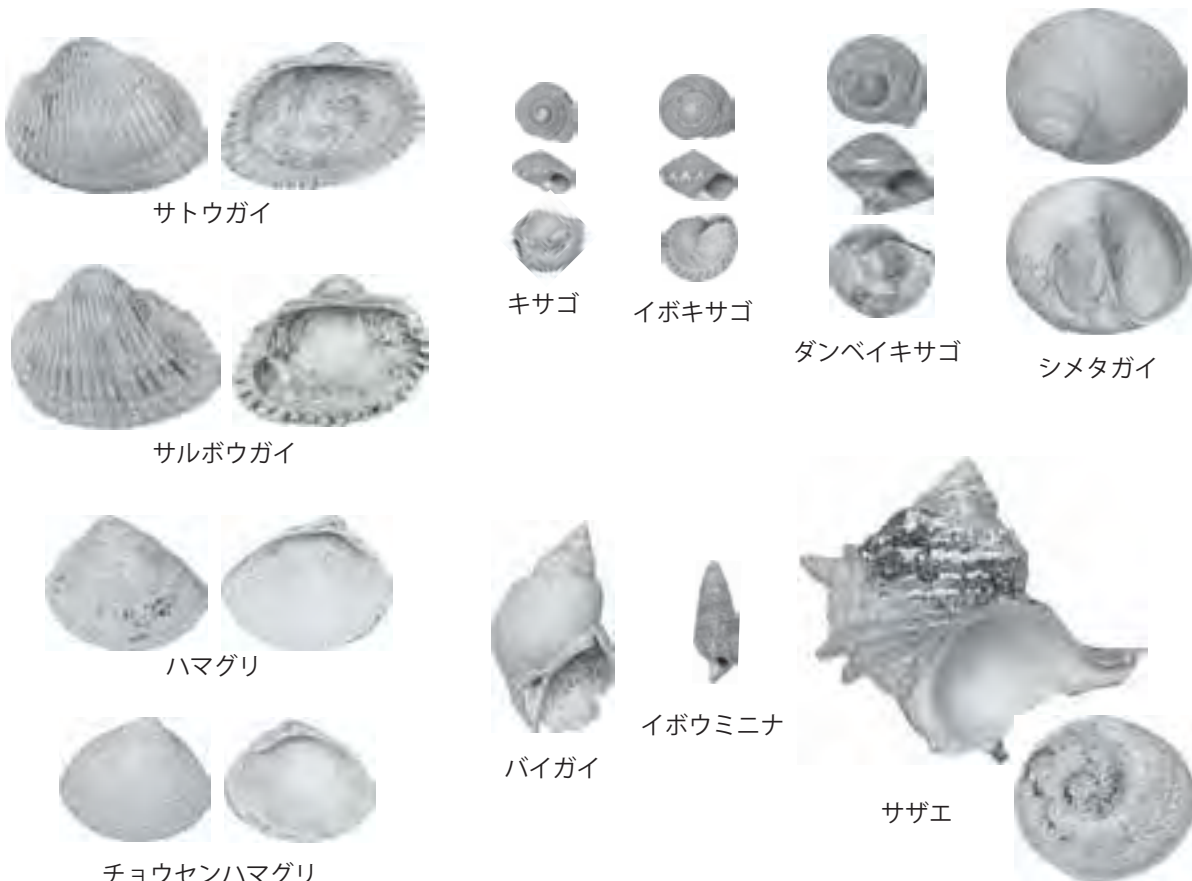


図版4

▼第2面



▼出土貝各種(一部)



# 今小路西遺跡 (No.201)

由比ガ浜一丁目 134 番 4 地点



## 例 言

1. 本報告は鎌倉市由比ガ浜一丁目 134 番 4 地点において実施した「今小路西遺跡（神奈川県遺跡台帳No. 201）」の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は平成 20 年 10 月 17 日から同年 11 月 10 日にかけて、個人住宅建設に伴う国庫補助事業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査の対象面積は 48m<sup>2</sup>である。
3. 発掘調査体制は以下の通りである。

担当者	伊丹まどか
調査員	岡田慶子・吉田桂子
作業員	赤坂進・清水政利・中須洋二・沼上美代治
測量	須佐直子・須佐仁和

4. 本報作成体制は以下の通りである。

遺物実測	吉田桂子・渡邊美佐子
遺物図版	渡邊美佐子
遺構図版	吉田桂子
遺物観察表	吉田桂子
破片数表	清水由加里
遺構写真	伊丹まどか
遺物写真	須佐仁和
写真図版	榎岡ケイト
グリッド図	榎岡ケイト
執筆・編集	伊丹まどか・渡邊美佐子

5. 出土品等発掘調査資料は、鎌倉市教育委員会が管理・保存している。
6. 本報図版の遺構・遺物の縮尺は以下の通り。  
遺構全測図：1/40 実測遺物：1/3 銭：1/1
7. ・実測遺物は可能な限り復元して実測したが、紙面の都合からすべての実測図を掲載していない。  
また、遺物に関する詳細は観察表にまとめて掲載している。
  - ・ 復原して実測した遺物は、計測値に（ ）を付して表している。
  - ・ 文章中で「かわらけ」と記載したものはロクロ成形のかわらけを指し、手づくね成形のかわらけは「手づくね」と記載している。
  - ・ それぞれの陶磁器に関しては。生産地での編年を参考に観察表にその年代を示したが、破片の為に不安の残るものは割愛した。常滑は中野晴久氏、瀬戸製品は藤澤良祐氏の編年に基づいて分類した。

## 目 次

第一章 遺跡の概要	201
1. 歴史的環境	
2. 遺跡位置とグリッド配置図	
3. 堆積土層	
第二章 発見された遺構と遺物	204
1. 第1面の遺構と遺物	
2. 第2面の遺構と遺物	
第三章 調査成果	209
遺物観察表	
破片遺物集計表	

## 挿図目次

図1 調査地点と周辺の遺跡	198
図2 グリッド設定図	202
図3 第1面・第2面全測図 調査区壁土層図	203
図4 第1面遺構2・遺構6・遺構7・8・第1面構成土出土遺物(1)	206
図5 第1面構成土(2)・第2面遺構9・第2面面上出土遺物	207
図6 表土出土遺物	208

## 図版目次

図版1 第1面・第2面全景 第1面遺構6かわらけ出土状況	215
図版2 第1面出土遺物	216
図版3 第2面・表土出土遺物	217
図版4 表土出土遺物	218

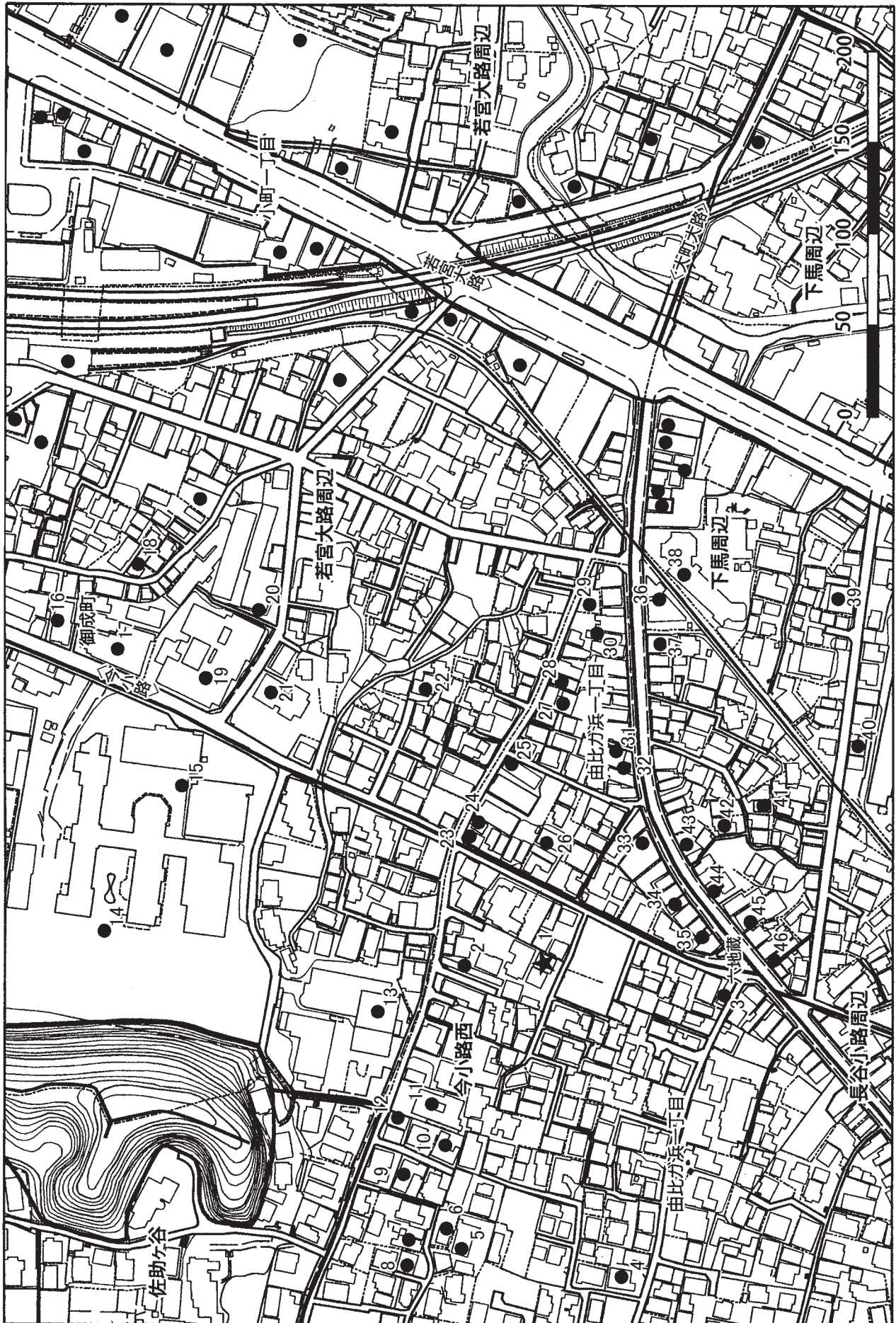


図1 調査地点と周辺の遺跡



一今小路西遺跡一①本調査地点 由比ガ浜一丁目 134 番 4 ②由比ガ浜一丁目 136 番 1[2008 宮田眞]2011 宮田・滝沢晶子【今小路西遺跡 (No. 201) 発掘調査報告書】(株)博通 ③由比ガ浜一丁目 183 番 1[2000 汐見一夫]2000 汐見【鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18-2】鎌倉市教育委員会 ④由比ガ浜一丁目 165 番 2[2008 齋木]2012 鯉淵義紀・降矢順子【鎌倉遺跡調査会調査報告書 74 集】(有)鎌倉遺跡調査会 ⑤由比ガ浜一丁目 147 番 1[2007 齋木]2012 齋木・鯉淵【神奈川県埋蔵文化財調査報告書 54】神奈川県教育委員会 ⑥由比ガ浜一丁目 147 番 2 外 [2007 原廣志]2009 原【神奈川県埋蔵文化財調査報告書 54】神奈川県教育委員会 ⑦由比ガ浜一丁目 151 番 1[2007 熊谷満]2011 熊谷・降矢【鎌倉遺跡調査会調査報告書 67】(有)鎌倉遺跡調査会 ⑧由比ガ浜一丁目 157 番 7 外 [2005・2006 馬淵和雄]2012 馬淵・沖本道・根元志保【鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 28-2】鎌倉市教育委員会 ⑨由比ガ浜一丁目 148 番 11[1983 赤星直忠]1984 赤星【神奈川県埋蔵文化財調査報告 26】神奈川県教育委員会 ⑩由比ガ浜一丁目 148 番 5[2001 宮田]宮田・滝沢【鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 20-1】鎌倉市教育委員会 ⑪由比ガ浜一丁目 141 番 5 外 [2006 小林義典]2007 香川達郎【今小路西遺跡発掘調査報告書】玉川文化財研究所 ⑫由比ガ浜一丁目 148 番 1[2000 野本賢二]2002 野本【鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18-1】鎌倉市教育委員会 ⑬御成町 625 番 2[1989 河野眞知郎]1993 河野・清水菜穂ほか【今小路西遺跡発掘調査報告書】鎌倉市教育委員会 ⑭御成町 625 番 3[1984・1985 河野]1990 河野・宮田ほか【今小路西遺跡 (御成小学校内) 発掘調査報告書】今小路西遺跡発掘調査団・鎌倉市教育委員会 ⑮御成町 625 番 3[1991・1992 河野・宮田]1993 河野【今小路西遺跡 (御成小学校内) 第 5 次発掘調査概報】今小路西遺跡発掘調査団・鎌倉市教育委員会

一若宮大路周辺遺跡群一

⑯御成町 788 番 6[2013 齋木]2015 齋木【神奈川県埋蔵文化財調査報告書 60】神奈川県教育委員会 ⑰御成町 786 番 1[1999 齋木]2002 齋木・降矢順子【鎌倉遺跡調査会調査報告書 25】若宮大路周辺遺跡群発掘調査団・鎌倉遺跡調査会 ⑱御成町 792 番 3・16[2011 齋木]2015 齋木【鎌倉遺跡調査会調査報告書 94】(有)鎌倉遺跡調査会 ⑲御成町 783 番 1 外 [2005 齋木]2009 齋木・降矢・押木弘己【鎌倉遺跡調査会調査報告書 59】(有)鎌倉遺跡調査会 ⑳御成町 778 番 1[1988 田代]1989 田代【神奈川県埋蔵文化財調査報告 31】神奈川県教育委員会 ㉑御成町 763 番 5[2007 齋木]2011 齋木・降矢【鎌倉遺跡調査会調査報告 68】(有)鎌倉遺跡調査会 ㉒御成町 727 番 12・19[1990 木村美代次]1992 木村【神奈川県埋蔵文化財調査報告 34】神奈川県教育委員会 ㉓由比ガ浜一丁目 126 番 1[2005 齋木]2009 熊谷満【鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 25-2】鎌倉市教育委員会 ㉔由比ガ浜一丁目 126 番 11[2005 齋木]2009 熊谷【鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 25-2】鎌倉市教育委員会 ㉕由比ガ浜一丁目 123 番 5[1994 馬淵]1995 馬淵【鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 11-1】鎌倉市教育委員会 ㉖由比ガ浜一丁目 127 番 1[2003 田代郁夫]2006 宗臺ほか【鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 22-2】鎌倉市教育委員会 ㉗由比ガ浜一丁目 118 番 [1987・1988 馬淵]1995 馬淵【鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 11-1】鎌倉市教育委員会 ㉘由比ガ浜一丁目 118 番 7[1995 田代]1997 遠藤雅一【鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 13-2】鎌倉市教育委員会 ㉙由比ガ浜一丁目 116 番 9[2011 齋木]2015 齋木【鎌倉遺跡調査会調査報告書 93】(有)鎌倉遺跡調査会 ㉚由比ガ浜一丁目 117 番 1[1988 齋木]1991 齋木・汐見【由比ガ浜 1-117-1 地点遺跡】若宮大路周辺遺跡群発掘調査団 ㉛由比ガ浜一丁目 120 番 2・14[2008 齋木]2012 降矢・齋木【若宮大路周辺遺跡群遺跡調査会 81 集】(有)鎌倉遺跡調査会 ㉜由比ガ浜一丁目 120 番 6[1991・1992 原]1993 原【神奈川県埋蔵文化財調査報告 35】神奈川県教育委員会 ㉝由比ガ浜一丁目 128 番 7[1986 馬淵]1988 馬淵【鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 4-2】鎌倉市教育委員会 ㉞由比ガ浜一丁目 128 番 21[2013 宮田]2015 宮田・滝沢晶子【神奈川県埋蔵文化財調査報告 60】神奈川県教育委員会 ㉟由比ガ浜一丁目 129 番 5[1993 宮田]1995 清水菜穂【若宮大路周辺遺跡群発掘調査報告書】若宮大路周辺遺跡群発掘調査団

一下馬周辺遺跡一⑳由比ガ浜二丁目 18 番 12[1990 宗臺秀明]1992 宗臺・宗臺富貴子【下馬周辺遺跡】下馬周辺遺跡発掘調査団 ㉑由比ガ浜二丁目 19 番 1[2006 馬淵]2013 馬淵・沖元・根本【鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 29-1】鎌倉市教育委員会 ㉒由比ガ浜二丁目 18 番 1[2001 田代]2003 田代・汐見【神奈川県埋蔵文化財調査報告 45】神奈川県教育委員会 ㉓由比ガ浜二丁目 27 番 9[1988 田代]1990 田代【神奈川県埋蔵文化財調査報告 32】神奈川県教育委員会 ㉔由比ガ浜二丁目 39 番 14[2004 原]2010 原【鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 26-1】鎌倉市教育委員会 ㉕由比ガ浜二丁目 54 番 15[2008 伊丹まどか]2010 伊丹【神奈川県埋蔵文化財調査報告 55】神奈川県教育委員会 ㉖由比ガ浜二丁目 110 番 5[1999 菊川英政]2001 菊川・小林重子【鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 17-1】鎌倉市教育委員会



⑬由比ガ浜二丁目 113 番 5 外 [2009 伊丹 ]2011 伊丹【神奈川県埋蔵文化財調査報告 56】神奈川県教育委員会 ⑭由比ガ浜二丁目 107 番 5[2007 福田誠 ]2009 鈴木絵美【神奈川県埋蔵文化財調査報告書 54】神奈川県教育委員会 ⑮由比ガ浜二丁目 107 番 1[1995 馬淵 ]1997 汐見・川又隆央ほか【鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 13-2】鎌倉市教育委員会 ⑯由比ガ浜二丁目 106 番 6・7[2000 汐見 ]2002 汐見・田畑衣理【鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 18-1】鎌倉市教育委員会

註

・[ ]内の年号は調査年・氏名は担当者名。以下の年号は報告書刊行年・氏名は編・著者名。

# 第一章 遺跡の概要

## 1. 歴史的環境 (図 1)

本調査地が位置する今小路西遺跡は、JR 鎌倉駅西に南北に走る道路の西側に細長く広がる遺跡地である。この道路は鎌倉市街地の中心を南北に走る若宮大路と並行するように走り、北は寿福寺辺りから南は六地蔵の間が「今小路」と呼称する道であったと考えられ、この道路の西側に広がる遺跡地として「今小路西遺跡」の遺跡名が付された。今小路は寿福寺より北に進むと仮粧坂を通り武蔵の国へとつながる「武蔵大路」と名を変え。南限の六地蔵では現県道 311 号線にぶつかり、東西方向へと道が分かれ、東に進むと「大町大路」、西に進むと「長谷小路」と名を変える。本調査地は今小路西遺跡の南端に位置する。本報告の周辺の遺跡図 (図 1) には今小路西遺跡全範囲を掲載していないが、遺跡指定地北端には木組みの溝が発見され、今小路が側溝を持つ規模の大きな路だった事を裏付けている。また、今小路西遺跡のほぼ真ん中辺り、現御成小学校 (地点 14・15) の地には古代の鎌倉郡衙跡や中世の高級武家屋敷が発見され、その周辺の地点でも大型の武家屋敷群と竪穴建物を発見している。今小路西遺跡南限にある六地蔵の、やや北方右側に鎌倉時代の処刑場があり、長い間耕作もせず荒れていたので「飢渴畠 (けかちばた)」と呼ばれ、そこで処刑された罪人、および刑場跡を弔うために六地蔵が安置されたと伝承されるが、これまでの調査成果からは地点 34 で宝永 4 年 (1707) の富士山降灰層より新しい土坑墓群が発見されただけで、調査地を含む今小路西遺跡の南側は墓域というより町屋的な様相を示している。

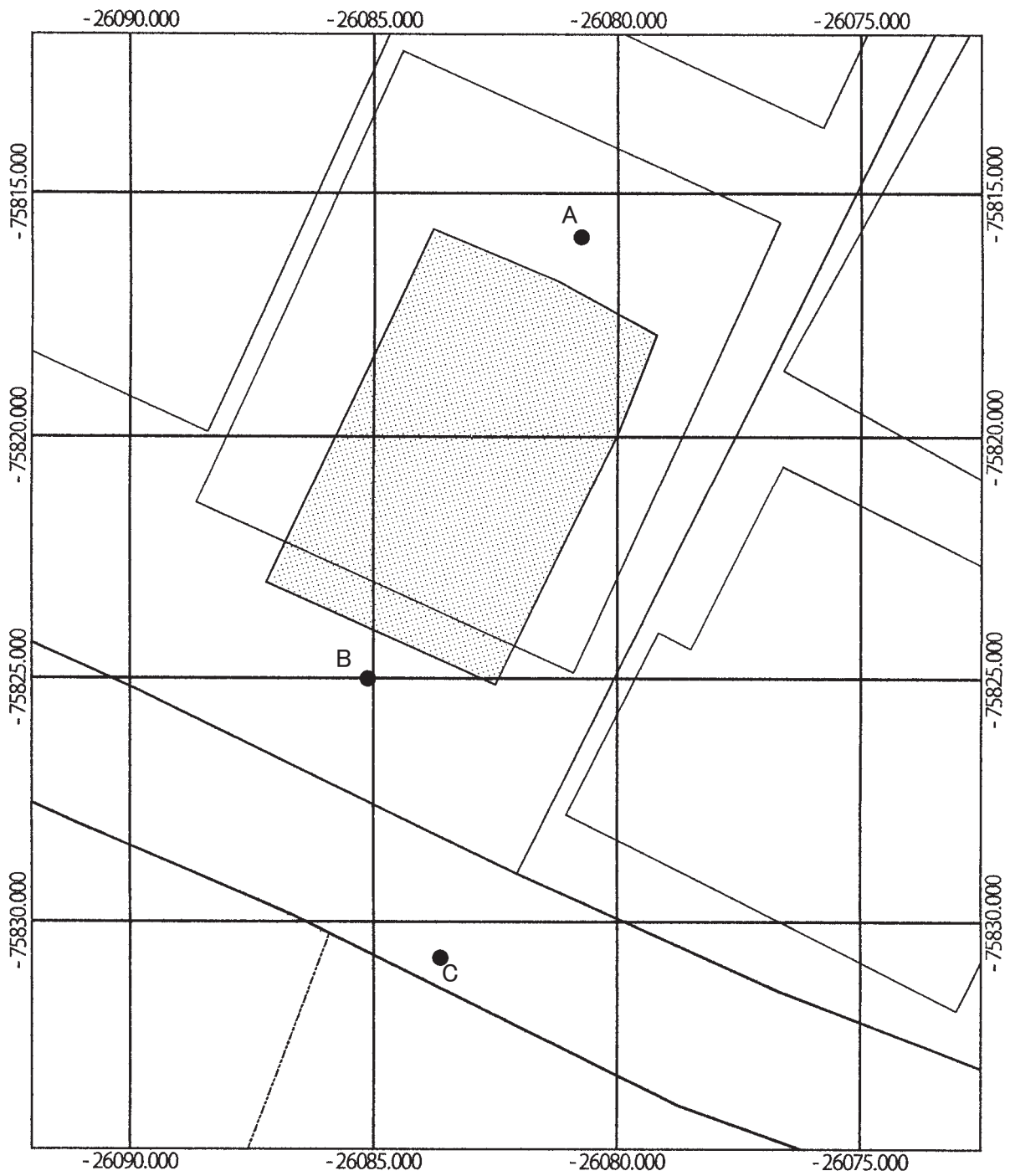
縄文時代前期の海進時、本調査地周辺は海中にあったとされ、縄文時代中期から弥生時代末期まで海退期となり、現在の一の鳥居付近に砂丘を形成していき、鎌倉市街地は約 1m 前後の厚さの泥炭、もしくは粘土層が堆積する後背湿地として陸化していき、調査地周辺は砂泥質平地となる。今小路をはさんで東に現地表の海拔高は下がり調査地周辺では 8.4m 近くの海拔高を示すが、東へ約 250m 行った地点 36 では約 5m の高低差を示し、それは中世基盤層の海拔高にも反映される。

## 2. 遺跡位置とグリッド配置図 (図 2)

調査開始にあたって調査区に任意の方眼軸を設け、基本点 A と、見返り点 B を設定し遺構の測量・図面作成に使用した。基本点 A と見返り点 B は鎌倉市 4 級基準点成果表に基づき国土座標に倣った座標値の移設を行ったが、調査時の成果表は日本測地系 (座標 AREA9) の国土座標値を使用したため、本報告作成に際しては国土地理院が公開する座標変換ソフト「WEB 版 TKY2JGD」で世界測地系第 IX 形に変換し、図 2 に座標値を表記した。

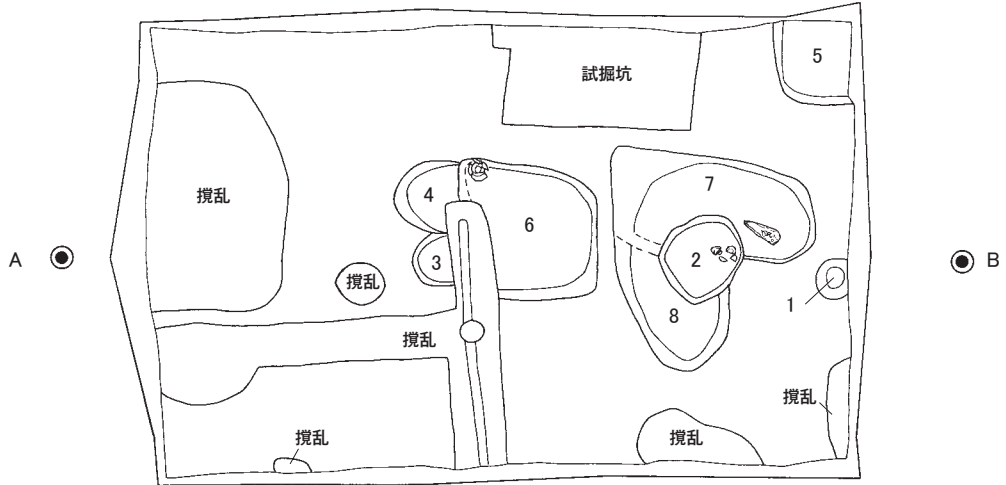
## 3. 堆積土層 (図 3)

現地表から 60cm～70cm 掘り下げて暗褐色砂質土上で第 1 面を検出したが、上層の近・現代埋土によって第 1 面の遺構上層は大きく削平をうけていた。第 1 面は遺構覆土、構成土ともに炭化物を多く含む。第 2 面は第 1 面の約 20cm 下で確認しているが、掘削深度に制限があり、遺構プランを確認・記録して終了した。



地点	日本測地系		世界測地系	
	X	Y	X	Y
A	-76172.587	-25787.321	-75815.8792	-26080.7509
B	-76181.684	-25791.693	-75824.9757	-26085.1234
C	-76187.475	-25790.192	-75830.7666	-26083.6226

図2 グリッド設定図

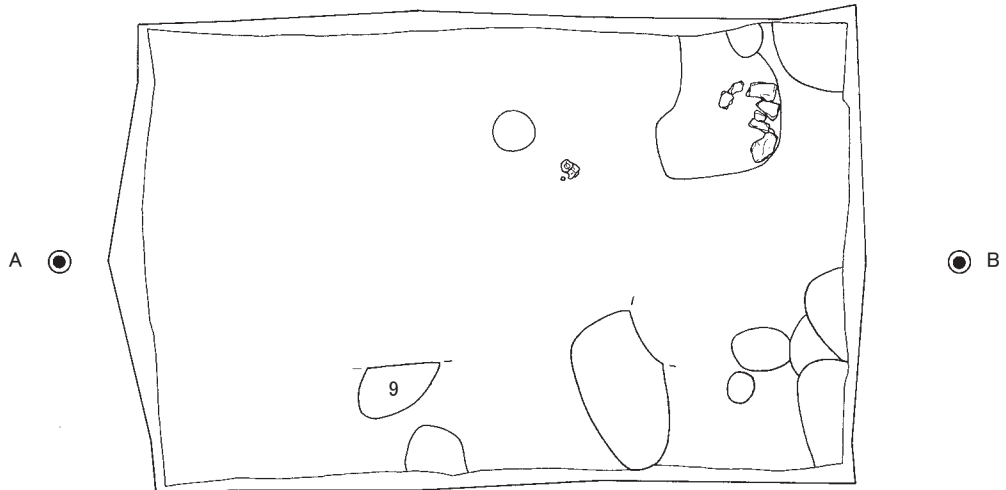


A X-75824.9757  
Y-26085.1234

B X-75815.8792  
Y-26080.7509

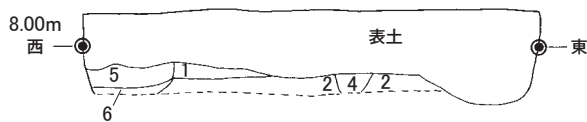
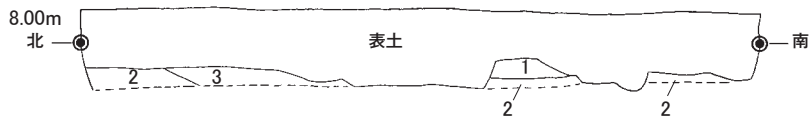
(世界測地系)

第1面全測図



第2面全測図

東壁土層堆積図



1. 暗褐色砂質土 炭化物・泥岩粒・茶褐色砂質土
  2. 暗褐色砂質土 炭化物・泥岩粒・泥岩
  3. 茶褐色砂質土 炭化物・泥岩・茶褐色砂
  4. 暗褐色砂質土 炭化物・泥岩粒・土泥（現代攪乱）
  5. 茶褐色砂質土 炭化物・泥岩粒・焼痕のある泥岩
  6. 明茶褐色砂質土 泥岩粒・灰褐色砂・層状に炭化物が堆積
- <土層注記>



図3 第1面・第2面全測図. 調査区壁土層図



## 第二章 発見された遺構と遺物

### 1. 第1面の遺構と遺物（図3～図5）

表土から約70cmを重機によって掘り下げると、本報告で第1面とした暗褐色砂質土層が現れるが、客土を使用した地業層ではなく、近・現代の埋土によって削平を受けた中世生活面の堆積層下層であるため、発見した遺構も遺構底面が残るのみで正確な規模・形状は不明となった。

第1面で発見した遺構は土坑6基・ピット1穴である。個別に遺構図面は掲載していない。

#### ・遺構1（図3）

円形を呈するピットである。長軸45cm・単軸（37cm）・深さ14cmを測る。遺構覆土は茶褐色砂質土・炭化物を含む。遺物はかわらけ・鉄製品釘が破片で出土している。

#### ・遺構2（図3）

円形を呈する土坑である。長軸96cm・短軸90cm・深さ（21）cmを測る。遺構覆土は暗褐色砂質土・炭化物・泥岩粒・泥岩を含む。

#### ・出土遺物（図4）

1～5はかわらけ。6は常滑片口鉢Ⅱ類。7は銭。8は鉄製品釘。9は骨製品筭。その他に常滑甕・土師器甕・獣骨・貝が破片で出土している。

#### ・遺構3（図3）

現代の下水管跡に切られ規模は不明。土坑である。長軸（60）cm・単軸（43）cm・深さ14.5cmを測る。遺構覆土は茶褐色砂質土・炭化物・泥岩粒を含む。遺物はかわらけが破片で出土している。

#### ・遺構4（図3）

現代の攪乱に切られ規模は不明。土坑である。長軸81cm・単軸（70）cm・深さ13cmを測る。遺構覆土は茶褐色砂質土・炭化物・泥岩粒を含む。遺物はかわらけ・瀬戸壺・常滑甕が破片で出土している。

#### ・遺構5（図3）

調査区外に遺構が延び規模・形状は不明。土坑である。長軸（94）cm・単軸（84）cm・深さ20cmを測る。遺構覆土は茶褐色砂質土・炭化物・泥岩粒・褐鉄を含む。遺物はかわらけが破片で出土している。

#### ・遺構6（図3）

現代の下水管跡に切られる。方形を呈する土坑である。長軸（151）cm・短軸152cm・深さ15cmを測る。遺構覆土は暗褐色砂質土・炭化物・泥岩粒・泥岩を含む。遺構隅でほぼ完形のかわらけ2枚を伏せた状態で発見した（図4-11・12）。

#### ・出土遺物（図4）

10～12はかわらけ。13は青白磁合子。14～15は鉄製品釘・16は鉄製品用途不明。その他に常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・瓦器質火鉢・獣骨・貝が破片で出土している。

#### ・遺構7（図3）

楕円形を呈する土坑である。遺構2に切られる。長軸200cm・単軸（107）cm・深さ26cmを測る。遺構覆土は茶褐色砂質土・炭化物・泥岩粒・黄褐色砂を含む。遺構7と遺構8は遺構掘り上げの際、遺物採集が混乱してしまい両遺構の出土遺物を合わせて採集している。

#### ・遺構8（図3）

楕円形を呈する土坑である。遺構2・遺構7に切られる。長軸（129）cm・短軸111cm・深さ18cmを測る。

遺構覆土は暗褐色砂質土・泥岩粒・炭化物・泥岩を含む。

#### ・遺構 7・8 出土遺物 (図 4)

17 はかわらけ。18・19 は常滑片口鉢Ⅱ類。20 は備前播鉢。21・22 は鉄製品釘。その他に白磁壺・常滑甕・常滑片口鉢Ⅰ類・常滑加工品・瓦器質火鉢・土師器甕・獣骨・貝が破片で出土している。

#### ・第 1 面構成土出土遺物 (図 4・図 5)

23～29 はかわらけ。29 は口縁部に工具による刻みをいれている・用途不明。30 は青磁鎬蓮弁文碗。31 は白磁口元皿。32 は瀬戸仏華瓶。33 は常滑片口碗。34～39 は常滑甕。40～41 は常滑片口鉢Ⅰ類。42～44 は常滑片口鉢Ⅱ類。45・46 は常滑転用品。47 は瓦器質火鉢。48 は火鉢・胎土不明。49 は伊勢系土鍋。50 は土製品壺。51～54 は砥石。55～57 は鉄製品釘。58 は鉄製品用途不明。59 は骨製品筭。

## 2. 第 2 面の遺構と遺物 (図 3・図 5)

本調査での掘削深度は現地表から 90cm までと制限があり、第 1 面検出後は深度制限まで掘り下げて下層を確認したが、地業面とは言えず、遺構プランとおぼしきものの輪郭を観察・記録するにとどまった。

#### ・遺構 9 (図 3)

上層の攪乱に切られる。規模・形状は不明。長軸 (73) cm・単軸 (55) cm を確認した。遺構覆土は茶褐色砂質土・炭化物・泥岩粒を含む。かわらけを 3 点報告しているが、遺構プラン上層で発見しており、第 1 面構成土出土の遺物であった可能性もある。

#### ・出土遺物 (図 5)

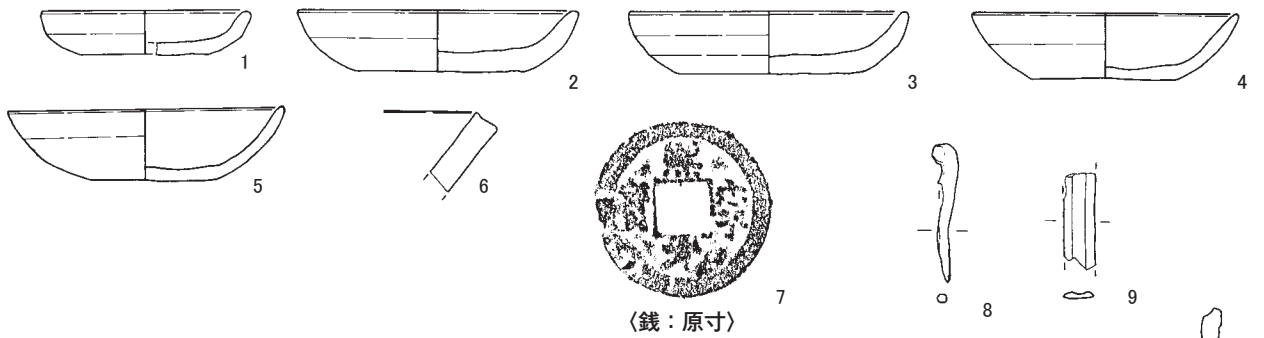
60～62 はかわらけ。

#### ・第 2 面面上出土遺物 (図 5)

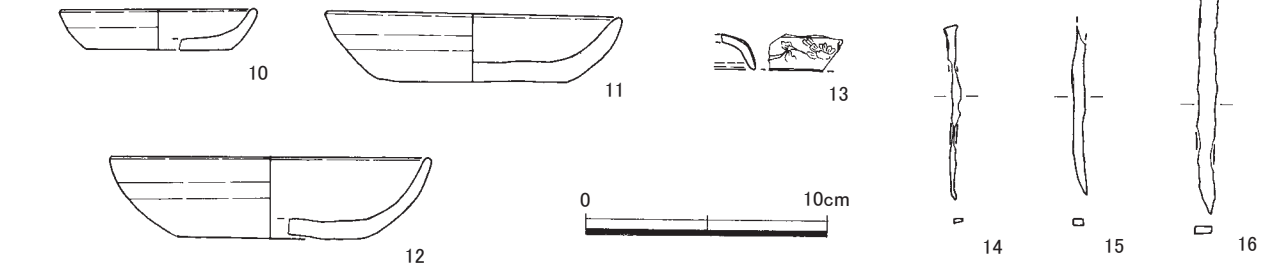
63～70 はかわらけ。71 は白磁口元皿。72 は瀬戸卸皿。73 は瓦器質火鉢。74～77 は鉄製品釘。78 は鉄製品刀子。

#### ・表土出土遺物 (図 6)

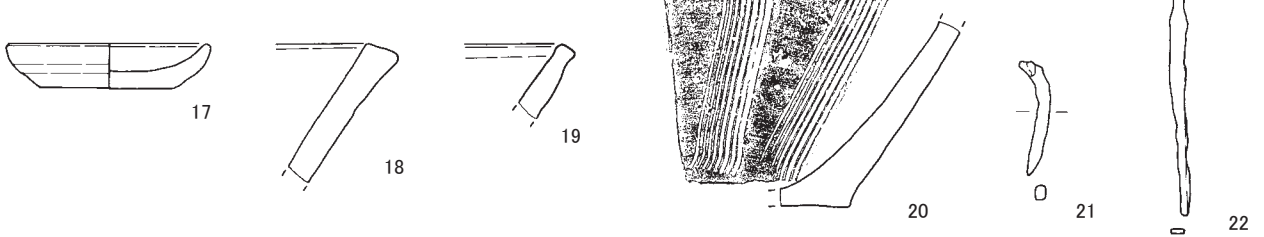
79～88 はかわらけ。89 は青磁劃花文碗。90 は白磁口元皿。91 は青白磁梅瓶。92 は瀬戸折縁皿。93～97 は常滑甕。98～103 は常滑片口鉢Ⅰ類。104～109 は常滑片口鉢Ⅱ類。110～112 は瓦器質火鉢。113 は羽釜。114～116 は石製品砥石。117～119 は鉄製品釘。120 は鉄滓。121 は骨製品筭。122 は須恵器蓋。



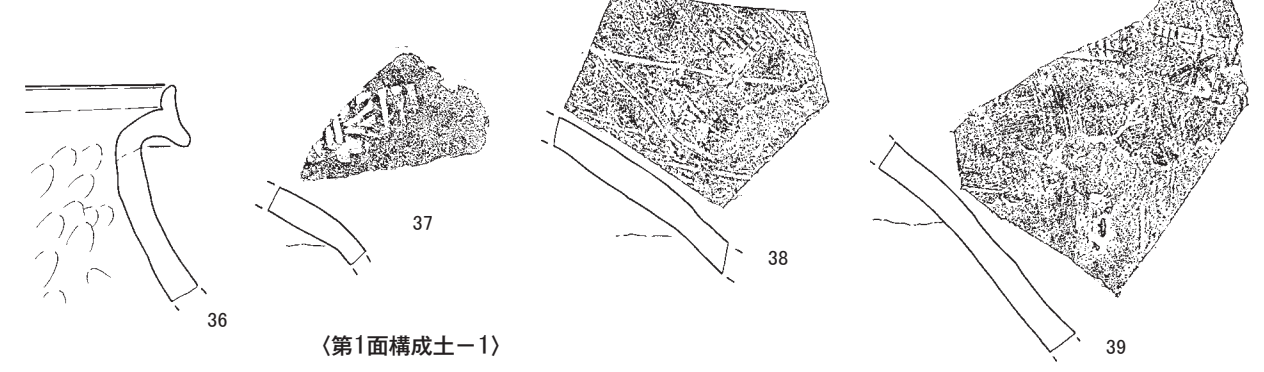
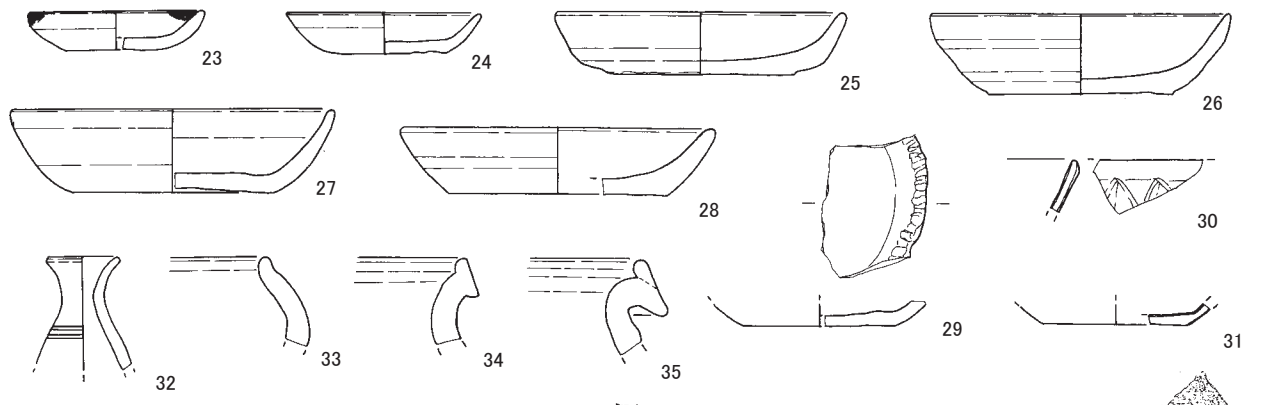
〈遺構2〉



〈遺構6〉

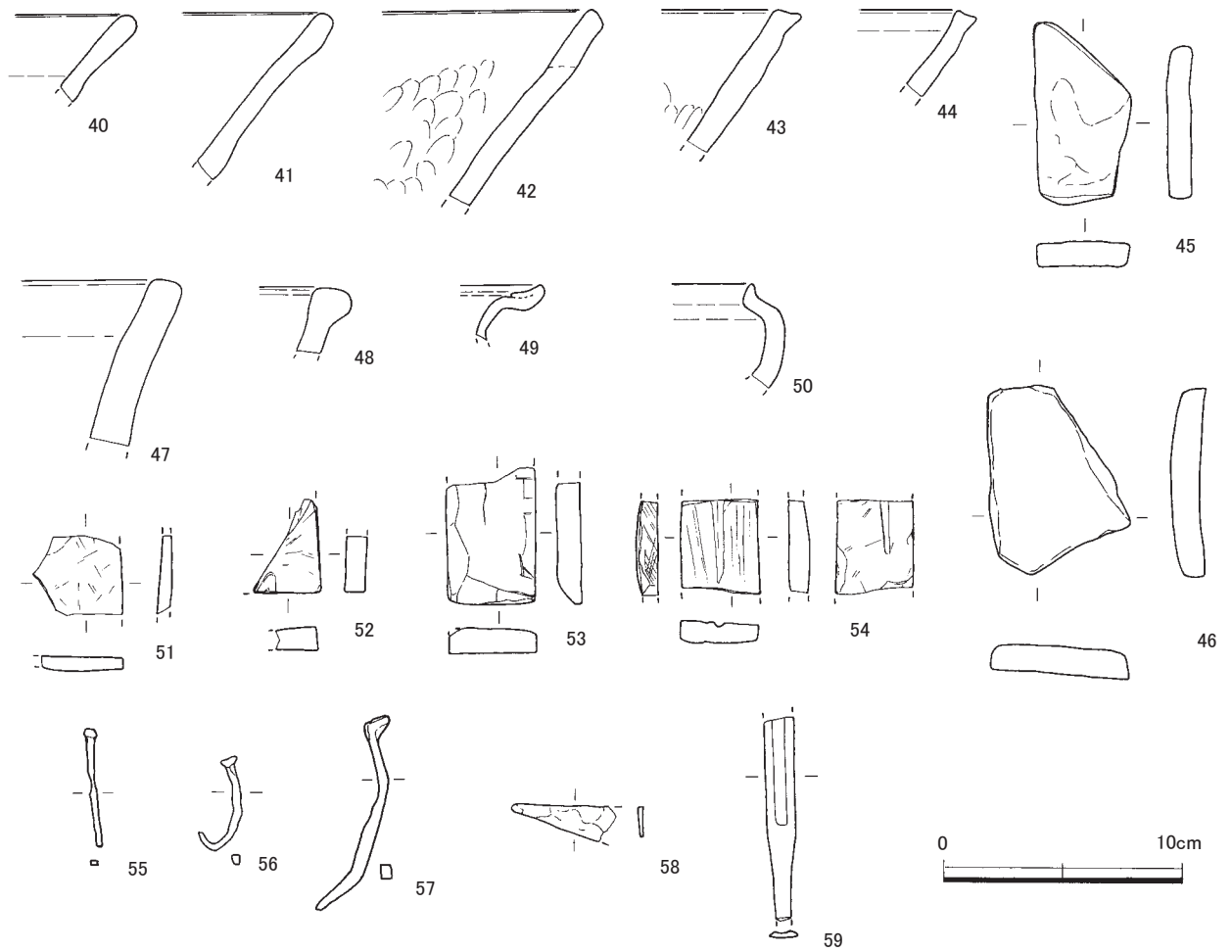


〈遺構7.8〉

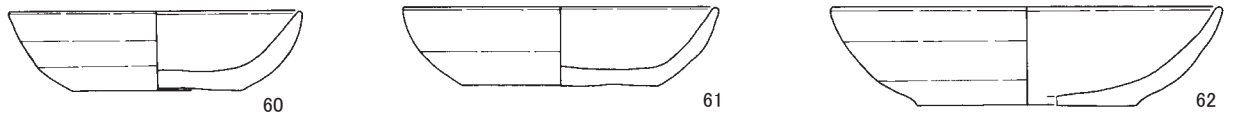


〈第1面構成土-1〉

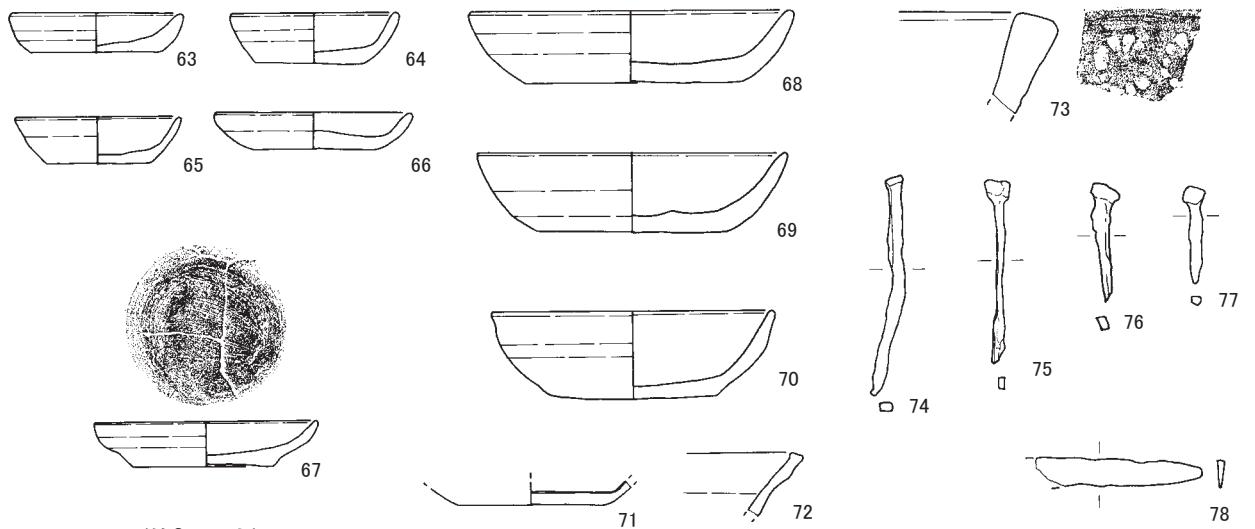
図4 第1面遺構2・遺構6・遺構7・8・第1面構成土出土遺物(1)



〈第1面構成土-2〉



〈遺構9〉



〈第2面面上〉

图5 第1面構成土(2)・第2面遺構9・第2面面上出土遺物



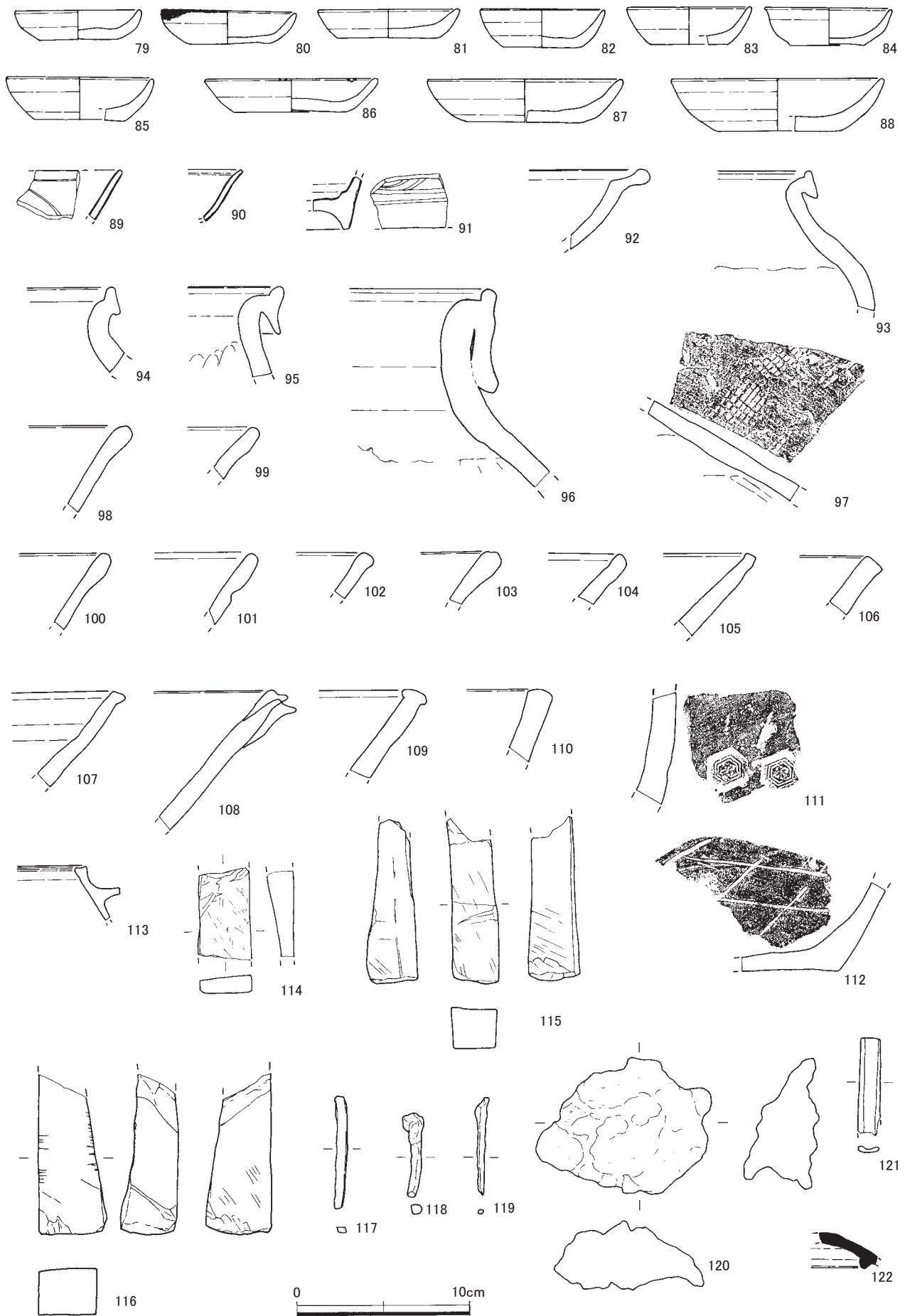


图6 表土出土遺物

### 第三章 調査成果

前文で述べたように、第1面・第2面共に地業層上で発見した遺構面ではない。第1面は近・現代の埋土を取り除いた遺物包含層上で発見した遺構と遺物であり、第2面は掘削深度制限まで掘り下げた時点で発見した遺構と遺物でありともに調査成果は少ない。調査地東に南北に走る今小路を挟んだ東側辺には鎌倉時代に処刑場があったとされ、本調査地でもそれを裏付ける遺構・遺物の発見を期待したが、処刑場あるいは墓域といった様相は想定できず、発見した遺構は土坑が中心であり、遺物からも調査地の性格を想定することはできなかった。

出土遺物は概ね14世紀から15世紀前半の遺物が出土し、破片ではあるが第1面構成土と、表土から古代遺物が出土している。

#### <引用・参考文献> (本報分に共通する)

- ・『日本歴史大系 14 巻』 「神奈川県地名」 平凡社 1984 年
- ・『鎌倉市史 総説編』 吉川弘文館 1956 年
- ・『鎌倉市史 考古編』 吉川弘文館 1967 年
- ・『鎌倉事典』 東京堂出版 平成 4 年 白井永二
- ・『中世瀬戸窯の研究』 高志書院 藤澤良祐 2008 年
- ・『愛知県史別編窯業 3 中世・近世常滑系』 愛知県 常滑・中野晴久 2012 年



出土遺物観察表

図版	No.	出土面	遺構No.	器種	口径 (長さ)	底径 (幅)	高さ (厚さ)	a. 成形 b. 胎土・素地 c. 色調 d. 釉調 e. 焼成 f. 遺存値 g. 備考
4	1	1面	遺構2	かわらけ	(8.4)	(5.2)	1.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4
4	2	1面	遺構2	かわらけ	11.3	7.4	3.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. ほぼ完形
4	3	1面	遺構2	かわらけ	11.3	7.8	2.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 5/6
4	4	1面	遺構2	かわらけ	(10.7)	(6.0)	2.7	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/3
4	5	1面	遺構2	かわらけ	11.2	5.4	2.9	a. ロクロ 内底ナデ 回転ナデした後、横ナデ b. 外底部板状圧痕・糸切り痕 c. 微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 5/6
4	6	1面	遺構2	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a. 輪積み b. 赤褐色 砂粒・白色粒・長石 c. 赤褐色 f. 口縁部小片
4	7	1面	遺構2	銭	外径2.4	孔径0.6		熙寧元寶 初铸年1068年 北宋 真書
4	8	1面	遺構2	鉄製品釘	5.6	0.3	0.3	g. 断面方形
4	9	1面	遺構2	骨製品筭	(3.8)	1.3	0.2	f. 両端部欠損
4	10	1面	遺構6	かわらけ	(8.0)	(6.0)	1.7	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4
4	11	1面	遺構6	かわらけ	12.0	7.8	2.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 3/4
4	12	1面	遺構6	かわらけ	(13.0)	(7.8)	3.3	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/2
4	13	1面	遺構6	青白磁合子	—	—	—	a. 型作り b. 灰白色 精良堅緻密 d. 青白色 f. 蓋部小片
4	14	1面	遺構6	鉄製品釘	7.2	0.3	0.2	g. 断面方形
4	15	1面	遺構6	鉄製品釘	(6.8)	0.4	0.3	f. 上部欠損 g. 断面方形
4	16	1面	遺構6	鉄製品用途不明	12.3	0.7	0.3	g. 断面方形 工具か?
4	17	1面	遺構7.8	かわらけ	(8.2)	(5.6)	1.9	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4
4	18	1面	遺構7.8	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・長石・石英 c. 灰褐色 f. 口縁部片
4	19	1面	遺構7.8	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・白色粒・長石 c. 褐色 f. 口縁部片
4	20	1面	遺構7.8	備前措鉢	—	—	—	a. 輪積み b. 褐灰色 砂粒・白色粒・小石粒 c. 褐灰色 f. 口縁部片 g. 7条の条線
4	21	1面	遺構7.8	鉄製品釘	4.9	0.5	0.6	g. 断面方形
4	22	1面	遺構7.8	鉄製品釘	10.6	0.5	0.2	g. 断面方形
4	23	1面構成土	かわらけ	(7.0)	(4.2)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4 g. 内外面一部、黒色に変色	
4	24	1面構成土	かわらけ	7.9	5.0	1.7	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・白色粒 やや粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 5/6	
4	25	1面構成土	かわらけ	(11.8)	(7.8)	2.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 4/5	
4	26	1面構成土	かわらけ	(12.2)	(7.6)	3.3	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 やや粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4	
4	27	1面構成土	かわらけ	(13.2)	(8.0)	3.4	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4	
4	28	1面構成土	かわらけ	(12.6)	(9.0)	2.7	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粗土 c. 黄橙色 e. 良好 f. 1/4	
4	29	1面構成土	かわらけ用途不明品	—	(6.2)	—	—	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒・泥岩粗土 c. 黄橙色 e. 良好 g. 口縁部に工具により刻みをつけている
4	30	1面構成土	青磁鎚蓮弁文碗	—	—	—	—	a. ロクロ b. 灰白色 精良堅緻 d. 不透明 青緑色 厚い f. 口縁部片
4	31	1面構成土	白磁口元皿	—	(6.0)	—	—	a. ロクロ b. 白色 精良堅緻 d. 透明 乳白色 薄い f. 底部片
4	32	1面構成土	瀬戸仏華瓶	(2.8)	—	—	—	a. ロクロ b. 灰白色 砂粒・白色粒 良土 d. 灰緑色 ハケ塗り e. 良好 f. 口縁部～頸部片
4	33	1面構成土	常滑片口碗	—	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・白色粒・黒色粒・小石粒 c. 褐色 f. 口縁部片
4	34	1面構成土	常滑壺	—	—	—	—	a. 輪積み b. 褐色 砂粒・小石粒・長石 c. 褐色 f. 口縁部片
4	35	1面構成土	常滑壺	—	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・黒色粒・長石・石英 c. 黒. 灰褐色 f. 口縁部片
4	36	1面構成土	常滑壺	—	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・小石粒・長石 c. 褐色 f. 口縁部片
4	37	1面構成土	常滑壺	—	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・小石粒・・黒色粒・長石・c. 黒褐色 f. 体部片
4	38	1面構成土	常滑壺	—	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・小石粒・・黒色粒・長石・石英 c. 褐色 f. 体部片
4	39	1面構成土	常滑壺	—	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・小石粒・・黒色粒・長石・石英 c. 褐色 f. 体部片
5	40	1面構成土	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・黒色粒・長石・石英 c. 灰褐色 f. 口縁部片
5	41	1面構成土	常滑片口鉢Ⅰ類	—	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・小石粒・長石・石英 c. 灰褐色 f. 口縁部片
5	42	1面構成土	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・小石粒・長石・石英 c. 褐色 f. 口縁部片
5	43	1面構成土	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・白色粒・黒色粒・石英 c. 褐色 f. 口縁部片
5	44	1面構成土	常滑片口鉢Ⅱ類	—	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・小石粒・長石・石英 c. 褐色 f. 口縁部片

単位 (cm)



出土遺物観察表

図版	No.	出土面	遺構No.	器種	口径 (長さ)	底径 (幅)	高さ (厚さ)	a. 成形 b. 胎土・素地 c. 色調 d. 釉調 e. 焼成 f. 遺存値 g. 備考
5	45	1面構成土		常滑 転用品	6.5	3.8	1.0	a. 輪積み b. 灰色 砂粒・黒色粒・長石 c. 灰褐色 g. 断面摩耗・平面部分的に摩耗
5	46	1面構成土		常滑 転用品	7.8	5.9	1.2	a. 輪積み b. 灰色 砂粒・黒色粒・長石 c. 灰褐色 g. 断面摩耗・平面部分的に摩耗
5	47	1面構成土		瓦器質 火鉢	—	—	—	a. 輪積みロクロ整形 内面 横位ミガキ 内面 口縁部片黒色処理 b. 灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 c. 灰黒色 e. 良好 f. 口縁部片 g. 河野編年Ⅲ類 輪花型
5	48	1面構成土		火鉢	—	—	—	a. 輪積みロクロ整形 b. 褐色 砂粒・白色粒・泥岩 c. 赤褐色 f. 口縁部片 g. 内外面 火熱を受けて器壁剥離 河野編年Ⅱ類に似ているが、胎土は、土器質に似る
5	49	1面構成土		伊勢系 土鍋	—	—	—	b. 灰黒色 雲母・白色粒 c. 黄灰色
5	50	1面構成土		土製品 壺	—	—	—	b. 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒やや粗土 c. 橙色 e. 良好
5	51	1面構成土		石製品 砥石	(3.3)	3.7	0.5	a. 砥面1面 小口切り出し痕 裏面剥離 c. 黄灰色 g. 仕上砥 鳴滝産
5	52	1面構成土		石製品 砥石	(3.8)	2.8	1.0	a. 砥面1面 側面・小口切り出し痕 c. 黄灰色 g. 仕上砥 鳴滝産
5	53	1面構成土		石製品 砥石	(5.2)	3.7	1.0	a. 砥面1面 側面切り出し痕 c. 黄灰色 g. 仕上砥 鳴滝産
5	54	1面構成土		石製品 砥石	(3.8)	3.3	0.8	a. 砥面2面 側面切り出し痕 c. 黄灰色 g. 仕上砥 鳴滝産
5	55	1面構成土		鉄製品 釘	5.0	0.3	0.2	g. 断面方形
5	56	1面構成土		鉄製品 釘	5.1	0.3	0.3	g. 断面方形
5	57	1面構成土		鉄製品 釘	9.1	0.4	0.6	g. 断面方形
5	58	1面構成土		鉄製品 用途不明	(4.2)	1.2	0.2	f. 残存率不明 g. 工具か?
5	59	1面構成土		骨製品 筭	(8.3)	1.3	0.3	f. 両端部欠損 残存率不明
5	60	2面	遺構9	かわらけ	11.9	7.0	3.2	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 完形
5	61	2面	遺構9	かわらけ	(12.8)	(8.0)	3.2	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 4/5
5	62	2面	遺構9	かわらけ	(15.8)	(9.0)	4.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・赤色粒 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 3/5
5	63	2面	面上	かわらけ	(6.8)	(5.4)	1.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄灰色 e. やや甘い f. 1/3
5	64	2面	面上	かわらけ	6.8	4.5	2.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 5/6
5	65	2面	面上	かわらけ	6.7	4.3	1.9	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. ほぼ完形
5	66	2面	面上	かわらけ	(8.0)	(4.8)	1.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/3
5	67	2面	面上	かわらけ	9.0	5.7	1.9	a. ロクロ 内底部 横ナデ、へら状工具によるナデか? 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. ほぼ完形
5	68	2面	面上	かわらけ	(13.1)	(9.0)	2.9	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 4/5
5	69	2面	面上	かわらけ	(12.6)	(8.0)	3.2	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 4/5
5	70	2面	面上	かわらけ	(11.4)	(7.0)	3.6	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 3/5
5	71	2面	面上	白磁 口元皿	—	(6.0)	—	a. ロクロ b. 灰白色 精良堅緻 d. 透明 g. 底部露胎
5	72	2面	面上	瀬戸 煎戸	—	—	—	a. ロクロ b. 黄灰色 砂粒・白色粒 良土 d. 灰白色 漬けがけ e. 良好 f. 口縁部 g. 藤澤編年 中期Ⅱ
5	73	2面	面上	瓦器質 火鉢	—	—	—	a. 輪積み ロクロ整形 内面横位のへら磨き b. 灰褐色 砂粒・白色粒・海綿骨芯 c. 黒色に処理 e. 良好 f. 口縁部片 g. 河野編年Ⅲ類 外面に菊花文スタンプあり
5	74	2面	面上	鉄製品 釘	10.2	0.5	0.3	g. 断面方形
5	75	2面	面上	鉄製品 釘	7.4	0.3	0.5	g. 断面方形
5	76	2面	面上	鉄製品 釘	4.9	0.4	0.5	g. 断面方形
5	77	2面	面上	鉄製品 釘	4.0	0.4	0.4	g. 断面方形
5	78	2面	面上	鉄製品 刀子	(6.8)	1.2	0.1~0.3	f. 刀身部
6	79	表土	かわらけ	かわらけ	(7.2)	(4.6)	1.8	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母 やや粗土 f. 1/4 g. 内面と外側面一部が黒色に変色
6	80	表土	かわらけ	かわらけ	7.7	4.8	1.9	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 5/6 g. 口唇部全体に油煤痕あり
6	81	表土	かわらけ	かわらけ	(7.8)	(5.8)	1.7	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 1/4
6	82	表土	かわらけ	かわらけ	(7.0)	(4.6)	2.2	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 2/3
6	83	表土	かわらけ	かわらけ	(7.0)	4.4	2.1	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 1/4 g. 口唇部一部 黒色に変色
6	84	表土	かわらけ	かわらけ	7.2	4.3	2.2	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・小石粒 やや粗土 c. 橙色 e. 良好 f. 5/6
6	85	表土	かわらけ	かわらけ	(8.4)	(5.3)	2.4	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨芯・泥岩粒 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 1/4

単位 (cm)

出土遺物観察表

図版	No.	出土面	遺構No.	器種	口径 (長さ)	底径 (幅)	高さ (厚さ)	a. 成形 b. 胎土・素地 c. 色調 d. 釉調 e. 焼成 f. 遺存値 g. 備考
6	86		表土	かわらけ	9.8	6.3	1.9	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨心・泥岩粒 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 完形 口唇部一部油煤痕
6	87		表土	かわらけ	(11.1)	(6.6)	2.5	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨心・泥岩粒 やや粗土 c. 黄褐色 e. 良好 f. 1/3
6	88		表土	かわらけ	(12.2)	(6.9)	3.0	a. ロクロ 内底ナデ 外底部板状圧痕・糸切り痕 b. 微砂・雲母・海綿骨心・泥岩粒 やや粗土 c. 褐色 e. 良好 f. 2/3
6	89		表土	青磁 劃花文碗	—	—	—	a. ロクロ b. 暗灰白色 精良堅緻 d. 透明 灰緑色 薄い貫入あり f. 口縁部片
6	90		表土	白磁 口元皿	—	—	—	a. ロクロ b. 白色 精良堅緻 d. 透明 乳白色 薄い f. 口縁部片
6	91		表土	青白磁 梅瓶	—	—	—	a. ロクロ b. 灰白色 精良堅緻 d. 透明 青白色 薄い f. 底部片 g. 高台底部に釉がガラス化して黒色に変色
6	92		表土	瀬戸 折縁皿	—	—	—	a. ロクロ b. 黄灰白色 砂粒・白色粒 良土 d. 灰緑色 ハケ塗り 漬けがけ e. 良好 f. 口縁部 g. 藤澤編年中期Ⅲ
6	93		表土	常滑 壺	—	—	—	a. 輪積み b. 暗褐色 砂粒・長石・石英・黒色粒 c. 暗褐色 f. 口縁部片 g. 中野編年6a
6	94		表土	常滑 壺	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・長石・石英・黒色粒 c. 暗褐色 f. 口縁部片 g. 中野編年5
6	95		表土	常滑 壺	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・長石・黒色粒 c. 暗褐色 f. 口縁部片 g. 中野編年7
6	96		表土	常滑 壺	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・長石・石英・黒色粒 c. 暗褐色 f. 口縁部片 g. 中野編年9
6	97		表土	常滑 壺	—	—	—	a. 輪積み b. 褐色 砂粒・長石・石英 c. 褐色 f. 胴部片 g. 内面摩耗
6	98		表土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a. 輪積み b. 灰色 砂粒・黒色粒・長石・石英 c. 褐色 f. 口縁部片 g. 中野編年6a
6	99		表土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a. 輪積み b. 灰色 砂粒・黒色粒・長石 c. 灰褐色 f. 口縁部片 g. 中野編年6a
6	100		表土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・黒色粒・小石粒・長石・石英 c. 灰褐色 f. 口縁部片 g. 中野編年6a
6	101		表土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a. 輪積み b. 灰色 砂粒・黒色粒・長石・石英 c. 灰色 f. 口縁部片 g. 中野編年6a
6	102		表土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a. 輪積み b. 灰色 砂粒・長石・石英 c. 灰褐色 f. 口縁部片 g. 中野編年6a
6	103		表土	常滑 片口鉢Ⅰ類	—	—	—	a. 輪積み b. 灰色 砂粒・黒色粒・長石・石英 c. 灰色 f. 口縁部片 g. 中野編年6a
6	104		表土	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a. 輪積み b. 褐色 砂粒・長石・石英 c. 褐色 f. 口縁部片
6	105		表土	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a. 輪積み b. 褐色 砂粒・長石・石英・黒色粒 c. 褐色 f. 口縁部片 g. 中野編年8型式以降
6	106		表土	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a. 輪積み b. 灰褐色 砂粒・長石・石英・黒色粒 c. 褐色 f. 口縁部片 g.
6	107		表土	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a. 輪積み b. 暗茶褐色 砂粒・長石・黒色粒 c. 褐色 f. 口縁部片 g. 中野編年8型式以降
6	108		表土	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a. 輪積み b. 灰色 砂粒・長石・石英・黒色粒 c. 褐色 f. 口縁部片 g. 中野編年8型式以降
6	109		表土	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	—	a. 輪積み b. 褐色 砂粒・長石・石英・黒色粒 c. 褐色 f. 口縁部片 g. 中野編年8型式以降
6	110		表土	瓦器質 火鉢	—	—	—	a. 輪積みロクロ整形 b. 灰褐色 砂粒・白色粒・黒色粒 c. 灰褐色 e. 良好 f. 口縁部片 g. 河野編年Ⅰ類B
6	111		表土	瓦器質 火鉢	—	—	—	a. 輪積みロクロ整形 b. 灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 c. 赤褐色 e. 良好 f. 口縁部片 g. 河野編年Ⅲ類 外面に亀甲花文スタンプ
6	112		表土	瓦器質 火鉢	—	—	—	a. 輪積みロクロ整形 外側面 細かい横位ミガキ b. 灰褐色 砂粒・白色粒・黒色粒 c. 灰褐色 e. 良好 f. 底部片 g. 内底部に格子状の線刻あり、外底部 砂底
6	113		表土	羽釜	—	—	—	b. 灰色 砂粒・白色粒・黒色粒 f. 口縁部片 g. 口縁部～鏝にかけて黒色に変色
6	114		表土	石製品 砥石	(5.0)	3.0	1.0	a. 砥面2面 側面切り出し痕 c. 灰黒色 g. 仕上砥
6	115		表土	石製品 砥石	—	—	—	a. 砥面3面 c. 灰緑色 g. 中砥 上野
6	116		表土	石製品 砥石	—	—	—	a. 砥面4面 c. 灰黄色 g. 中砥 伊予
6	117		表土	鉄製品 釘	6.5	0.5	0.3	g. 断面方形
6	118		表土	鉄製品 釘	4.8	0.6	0.5	g. 断面方形
6	119		表土	鉄製品 釘	5.5	0.4	0.2	g. 断面方形
6	120		表土	鉄製品 鉄滓	8.5	7.5	3.3	g. 人為的に溶解した痕跡あり 用途不明
6	121		表土	骨製品 筭	(5.5)	1.2	0.3	f. 端部欠損
6	122		表土	須恵器 蓋	—	—	—	a. ロクロ b. 灰色 砂粒・雲母・白色粒 c. 灰色 e. 良好

単位 (cm)

破片遺物集計表

	産地等	器種	表土遺物	1面遺物	2面遺物	合計	%
かわらけ		糸(大)	268	475	63	806	55.6
		糸(小)	50	36	11	97	6.7
		手(大)	2		1	3	0.2
		手白かわらけ	1			1	0.1
		加工品		2		2	0.1
舶載陶磁器	青磁	蓮弁文碗		3		3	0.2
		劃華文碗	3			3	0.2
		碗	1			1	0.1
	青白磁	梅瓶 蓋	1			1	0.1
	白磁	碗	3			3	0.2
		皿		2	2	4	0.3
		壺		1		1	0.1
		合子		2		2	0.1
	彩釉陶磁器	黄釉盤			2	2	0.1
国産陶器	瀬戸	折縁皿	1			1	0.1
		仏華瓶		2		2	0.1
		壺	1	1		2	0.1
	常滑	甕	96	180	4	280	19.3
		壺		2		2	0.1
		片口鉢Ⅰ類	24	11	1	36	2.5
		片口鉢Ⅱ類	12	13		25	1.7
		鉢		1		1	0.1
		磨り		6		6	0.4
	渥美	甕		1		1	0.1
	備前	搦鉢	1	3		4	0.3
土製品		ほうろく		2		2	0.1
		土鍋	2	3		5	0.3
瓦質製品		火鉢	9	9	3	21	1.4
石製品		砥石(仕上げ)	6	9		15	1
金属製品		銅銭		1		1	0.1
		鉄釘	20	28	8	56	3.9
		刀子		2	2	4	0.3
		鉄滓	2	1		3	0.2
		不明鉄製品		1		1	0.1
骨角製品		筭	2	3		5	0.3
自然遺物		玉石		2		2	0.1
		骨	13	12		25	1.7
		獣歯		1		1	0.1
		貝	1	6	2	9	0.6
土師器		甕	3	7		10	0.7
須恵器		蓋	1			1	0.1
合計		合計	523	828	99	1450	100
%		%	36.1	57.1	6.8	100	



第1面全景（西から）



第1面・遺構6 かわらけ出土状況（東から）



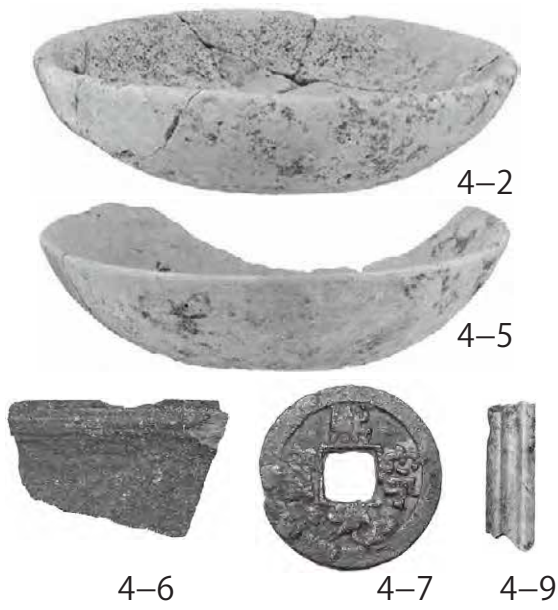
第2面・遺構プラン確認状況

第2面全景（北から）





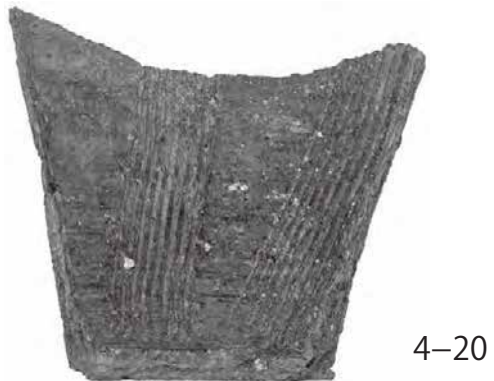
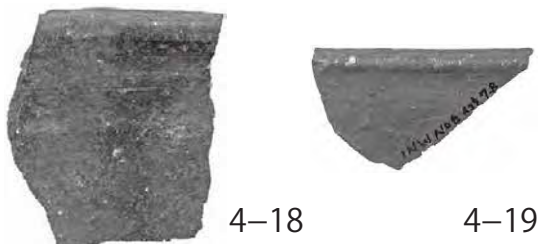
图版2



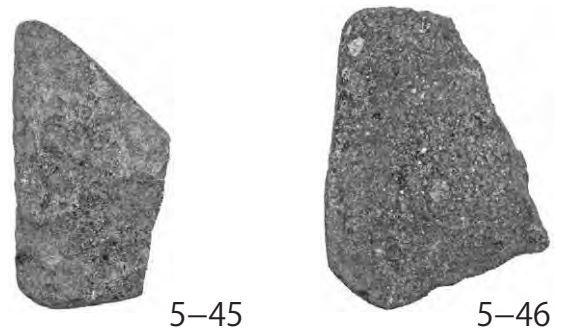
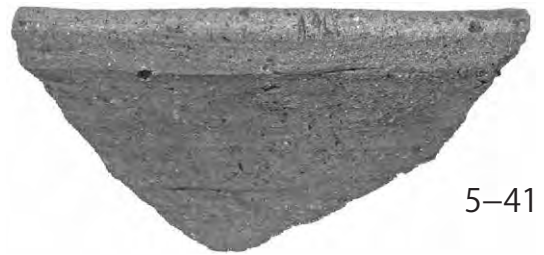
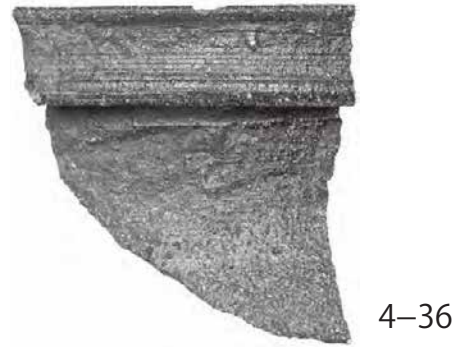
▲第1面 遺構2



▲第1面 遺構6

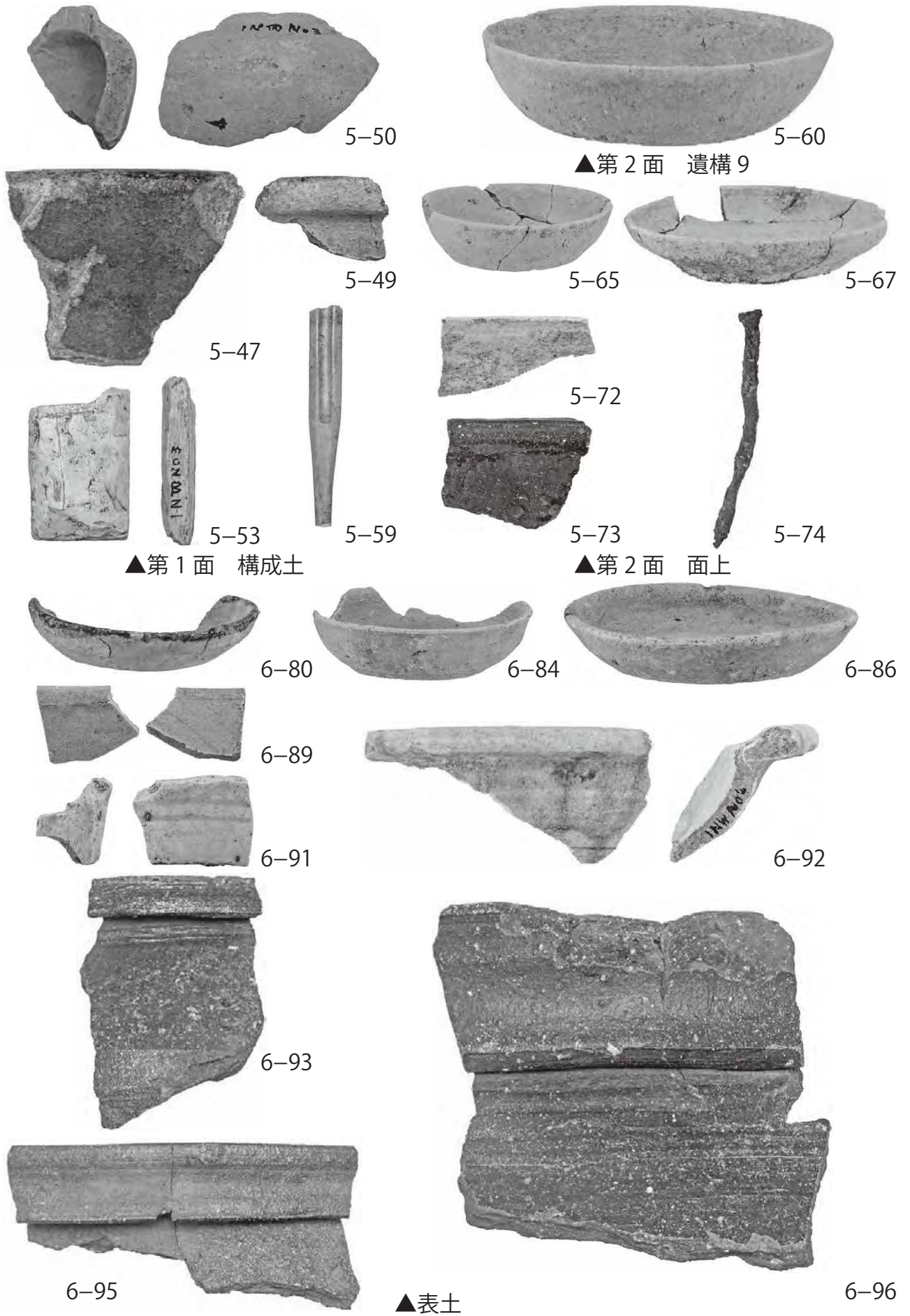


▲第1面 遺構7・8

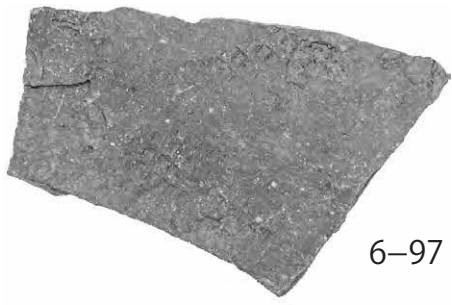


▲第1面 構成土





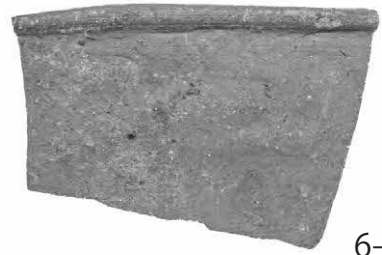
图版4



6-97



6-98



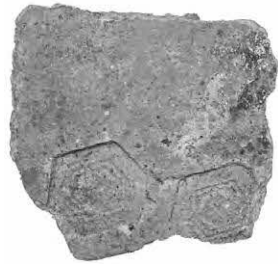
6-107



6-108



6-110



6-111



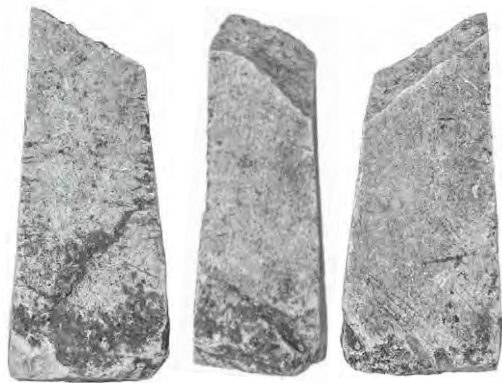
6-112



6-113



6-115



6-116



6-120



6-121



6-122

▲表土

# 極楽寺旧境内遺跡 (No.291)

極楽寺四丁目 923 番 2 の一部地点

## 例 言

1. 本報告は、鎌倉市極楽寺四丁目 923 番 2 の一部で実施した極楽寺旧境内遺跡（鎌倉市 No.291）の発掘調査報告である。
2. 発掘調査は平成 23 年 1 月 31 日から同年 3 月 29 日にかけて、個人専用住宅の建設に伴う国庫補助事業国庫補助業として鎌倉市教育委員会が実施した。調査の対象面積は、59.98㎡である。
3. 発掘調査体制は、以下のとおりである。  
主任調査員 押木弘己（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）  
調 査 員 岡田慶子、高橋江奈（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）  
作 業 員 安藤宗幸、小口照男、金丸義一、鈴木啓之  
（公益社団法人 鎌倉市シルバー人材センター）  
整理作業参加者 押木弘己、岡田慶子（鎌倉市文化財課 臨時的任用職員）
4. 本報告の執筆と編集は、押木が行った。
5. 本報告で使用した写真は、現地・出土遺物とも押木が撮影した。
6. 本報告では世界測地系（第Ⅸ系）の国家座標軸に基づく測量成果を掲げたが、平成 23 年 3 月 11 日以前の測量基準点データを基に測量・作図したため、座標値は東日本大震災後の地殻変動に対応した補正值となっていない。
7. 本調査に係わる出土遺物および各種記録類は、鎌倉市教育委員会が保管している。本調査地の略称は市教育委員会の統一基準に従って「G T 1 0 1 1」とし、出土品への注記などに使用した。

## 凡 例

1. 挿図の縮尺は、遺構・遺物ともに図中に表示している。
2. 本書中に記載した国土座標値は、世界測地系（第Ⅸ系：東日本大震災後の補正前）に基づいている。
3. 挿図に示した方位標は座標北（Y軸）で、真北はこれより 0° 09′ 25″ほど東に振れている。
4. 遺構挿図中の水系高は、海拔値を示す。
5. 出土遺物の年代観は以下の文献を参考としたが、筆者が各所見を理解し切れていない部分もある。
  - ◆かわらけ・遺物全体の様相：宗臺秀明 2005「中世鎌倉の土器・陶磁器」『全国シンポジウム 中世窯業の諸相～生産技術の展開と編年～資料集』
  - ◆輸入陶磁器：太宰府市教育委員会 2000『大宰府条坊跡 X V—陶磁器分類編一』
  - ◆瀬戸窯製品：藤澤良祐 2008『中世瀬戸窯の研究』高志書院
  - ◆常滑・渥美窯製品：愛知県 2012『愛知県史』別編窯業 3 中世・近世常滑系



## 目 次

第一章 遺跡の位置と歴史的環境	222
第1節 遺跡の立地	
第2節 歴史的環境	
第3節 周辺の調査成果	
第二章 調査の方法と経過	225
第1節 調査に至る経緯	
第2節 調査の方法	
第3節 調査の経過	
第三章 基本土層	226
第四章 発見された遺構と遺物	228
第五章 調査成果のまとめ	237

## 挿図目次

図1 調査地点位置図	223	図9 3面遺構1・4面下遺構2立面図	232
図2 調査区配置図	225	図10 出土遺物(1)	233
図3 調査区壁断面図	227	図11 出土遺物(2)	234
図4 1面全体図	228	図12 出土遺物(3)	235
図5 2面全体図	229	図13 出土遺物(4)	236
図6 3面全体図	230	図14 出土遺物(5)	237
図7 4面全体図	231	図15 出土遺物(6)	238
図8 4面下全体図	232	図16 出土遺物(7)	239

## 表 目 次

表1 出土遺物カウント表	240	表2 出土遺物観察表	242
--------------	-----	------------	-----

## 図版目次

図版1	249	図版2	250
1. 現地調査前(南東から)		1. I区冠水状況(南東から)	
2. I区表土掘削(南東から)		2. I区4面(北から)	
3. I区1面(南から)		3. I区4面下(北から)	
4. I区2面(南から)		4. I区柱材(攪乱)検出状況(北から)	
5. I区3面(北から)		5. II区3面(北から)	
6. I区3面(南から)		6. II区3面 遺構1(北から)	
7. I区3面 遺物出土状況		7. II区3面 遺構1(北東から)	
8. I区4面(東から)		8. II区3面 遺構1西護岸材(東から)	
図版3 I区出土遺物	251	図版4・5 II区出土遺物	252



# 第一章 遺跡の位置と歴史的環境

## 第1節 遺跡の立地

極楽寺旧境内遺跡（No.291）は鎌倉市の南西部に位置し、旧市街域の低地部を取り巻く丘陵地形のうち、樹枝状に幾筋も開かれた谷戸内に占地する。現在、極楽寺や市立稲村ヶ崎小学校が立地する主谷部分は極楽寺中心伽藍跡（No.290）として登録されており、ここを除いた谷戸内低地の大部分が旧境内遺跡の範囲となっている。主谷の北方には大きく4筋の支谷が入り、西から西ヶ谷・なし・馬場ヶ谷・新宮谷と呼ばれる。今回の調査地点は西ヶ谷の開口部に位置し、現地表面の標高は27.2 m弱を測る。

## 第2節 歴史的環境

霊鷲山感応院極楽寺は鎌倉で現存する唯一の真言律宗寺院で、奈良西大寺末。通説では正元元年（1259）の創建で開山は良観房忍性、開基は六波羅探題や連署を歴任した北条重時とされる。ただ、忍性の入寺は文永四年（1267）のことで重時没後から6年を経ていることから、実際のところは彼が生前に構えた仏堂などから出発し、死後に彼の子息らによって伽藍の整備が進められたのだろう。「極楽寺境内絵図」（極楽寺蔵）二幅は江戸時代の作である可能性が高く、このうちの一幅は盛時である14世紀頃の寺容を偲んで描かれたようだ。主要伽藍に加え49の子院が在ったといい、前者が「極楽寺中心伽藍跡」に、後者が「極楽寺旧境内遺跡」に所在したと考えられる。鎌倉幕府の滅亡後も後醍醐天皇の勅願寺として寺領を安堵され、鎌倉府下でも絵図が示す寺容を誇ったようであるが、応永三十二年（1425）の火災や永享五年（1433）の地震などに伴い衰退して行った。その後、かつての寺勢を取り戻せなかったのは、康正元年（1455）に鎌倉公方足利成氏が下総古河に逐われるなど鎌倉が政權都市としての地位を失ったこととも関係しているだろう。

本地点の南には月影地藏堂が建つ。江戸時代の作とされる木造地藏立像が安置され、いつの頃か主谷南西側の月影ヶ谷から移されたという。

## 第3節 周辺の調査成果

これまで、極楽寺旧境内遺跡ではやぐらも含め24地点で発掘調査が実施されている。ただ、広域におよぶ遺跡範囲のなか、小規模面積の調査が中心であるため遺跡全体の様相を窺える段階には至っていない。隣接する遺跡での調査は、極楽寺中心伽藍跡で7地点、真言院北やぐら群で2地点、月影ヶ谷北やぐら群で1地点などの事例がある。極楽寺中心伽藍跡では稲村ヶ崎小学校の校舎建て替えに伴い4回、延べ900㎡強の範囲が調査されている（図1-地点2）。前出の古絵図に見える方丈華嚴院に比定可能な地点では、凝灰岩の切石を用いた壇正積基壇や石列が検出され、これらで区画された内部に14～15世紀以降の礎石建物や掘立柱建物が遺存していた。基壇自体は創建期頃まで、石列は13世紀後葉～14世紀前葉頃まで遡る。

中心伽藍跡では、江ノ島電鉄関連施設の工事に伴う2地点でも比較的まとまった面積の発掘が行われている。車両修理施設（仮設）の建設に伴う調査面積は170㎡で、中世では3枚の遺構面が検出され、いずれの面でも小規模なピットが点在してただけで明確な建物遺構は確認されていない。各面とも、出土遺物は13世紀後葉～14世紀前葉に位置付けられる。また、中世から近世にかけて存続した井戸も検出され、戦国期頃に木組みから石組みの井戸枠に改変されたようである（継1999）。操車場の改築に伴う調査は600㎡を対象とし、中世では13世紀後半（後葉）～14世紀前半の間に2時期の



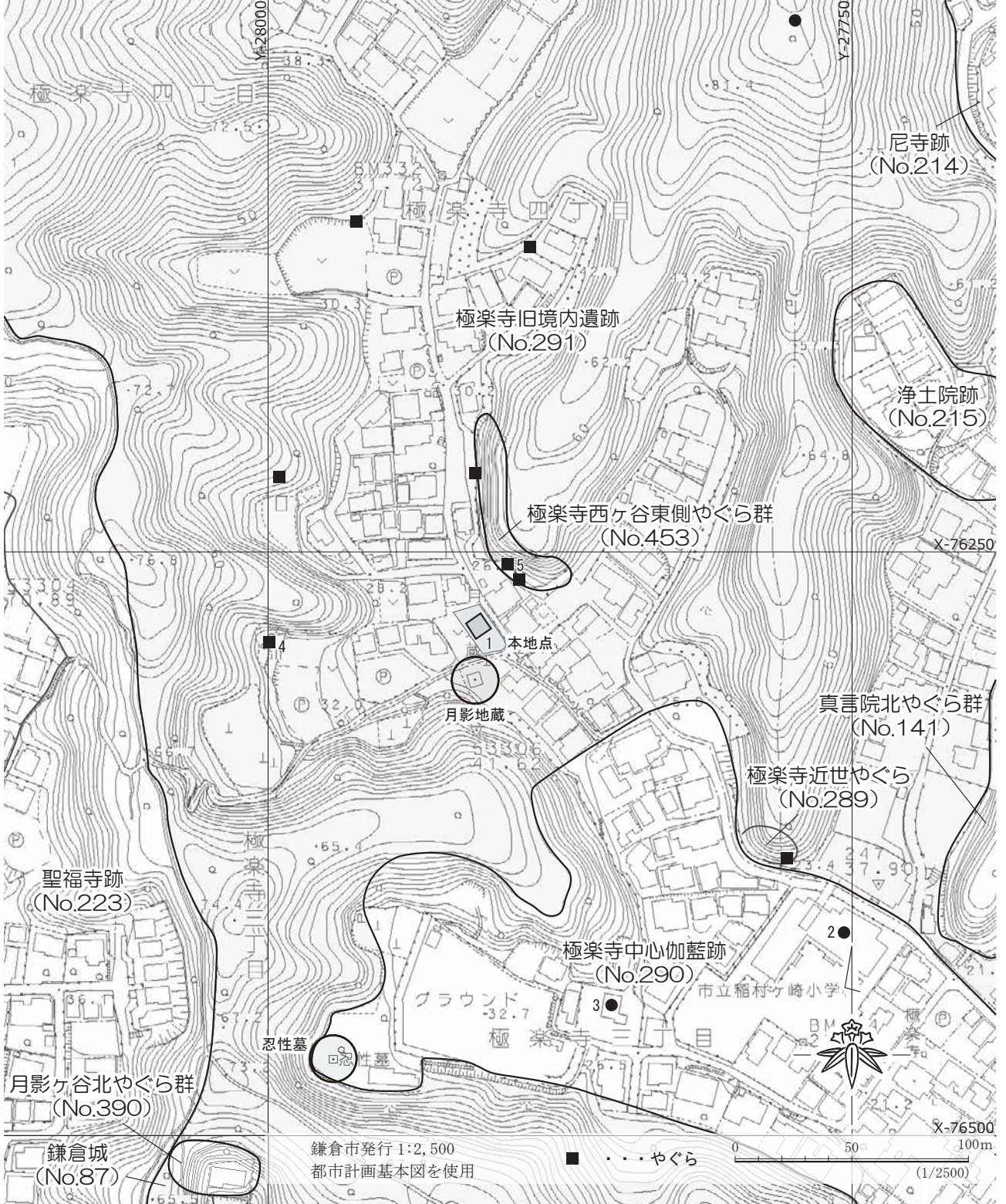
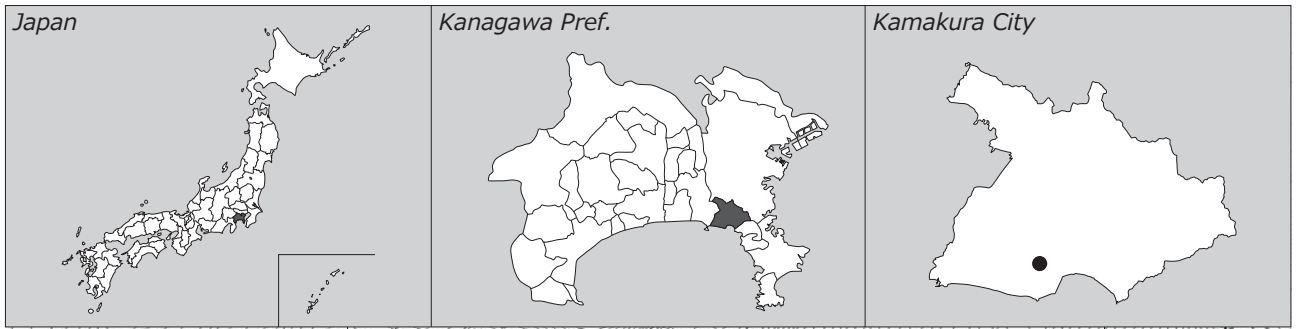


図1 調査地点位置図

遺構変遷が把握されている。13世紀後葉には掘立柱建物や竪穴建物が、13世紀末～14世紀前半には礎石の形跡を残す基壇状遺構や泥岩ブロックを用いた区画施設、小ピットが確認されている。基壇西脇では瓦が集積しており、瓦葺きの礎石建物が存在したのであろう。報告では絵図との比較検討から、薬師堂もしくは築地で囲まれた宝蔵・経蔵・地蔵院といった瓦葺き建物に比定する所見が示されている（齋木 1998）。図 1- 地点 3 では個人専用住宅の建設に伴い 43㎡が調査され、削平岩盤面に始まる計 5 枚の中世遺構面が確認されている。下層の 4 面～2 面までは南北方向に溝が走り、少ない出土遺物からは 13 世紀後葉～14 世紀前葉という年代的位置付けができそうである。1 面は a・b の 2 枚に分かれ、上層の 1a 面では凝灰岩切石や泥岩塊を据え置いた礎石建物が確認されている。出土かわらけには外傾する器形の個体が多く、西暦 1400 年を前後する年代に位置付けられそうである。なお、3 面上堆積土からは多量の水晶片が出土している点、特筆できる（汐見・小泉 2007）。

極楽寺旧境内遺跡のうち、今回の調査地点に近いところでは西方 100 m の谷戸奥部で 25㎡を対象に調査が行われている（図 1- 地点 4）。標高 52 m ほどの丘陵中腹部で、岩盤を削平した平坦面上に柱穴や束柱を支えた小穴が穿たれ、柱穴より浅い播鉢状のピットなども検出されている。山裾側には L 字状に屈曲する小溝があり、これらの痕跡から、やぐらの底面施設だけが遺存したものと考えられている。かわらけや常滑などの出土遺物は、15 世紀前後の様相を備えている（鎌倉市教育委員会 1999）。また、本地点北東の丘陵突端部には極楽寺西ヶ谷東側やぐら群（No.453）が所在し、急傾斜地崩壊対策工事に伴い 2 基のやぐらが調査されている（図 1- 地点 5、「一升枡遺跡（No.293）所在やぐら群」として報告）。出土遺物から、15 世紀後半～16 世紀に二次的改変を受けたとされる（長谷川・大塚 1999）。

## 参考文献

- 大三輪龍彦・玉林美男ほか 1980 『極楽寺旧境内遺跡』 極楽寺旧境内遺跡発掘調査団・鎌倉市教育委員会  
三浦勝男編 1992 『鎌倉の古絵図 I』 鎌倉国宝館  
白井永二編 1992 『新装普及版 鎌倉事典』 東京堂出版  
齋木秀雄 1998 『極楽寺旧境内遺跡』 極楽寺中心伽藍跡群発掘調査団  
鎌倉市教育委員会 1999 「6, 極楽寺旧境内遺跡」『鎌倉の埋蔵文化財 3』（図 1- 地点 4）  
継 実 1999 『極楽寺中心伽藍跡群遺跡』 極楽寺中心伽藍跡群遺跡発掘調査団・東国歴史考古学研究所  
長谷川 厚・大塚健一 1999 『一升枡遺跡（No.293）所在やぐら群』 財団法人かながわ考古学財団（図 1- 地点 5）  
汐見一夫・小泉衣里 2007 「極楽寺中心伽藍跡（No.290）」『鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 23（第 2 分冊）』 鎌倉市教育委員会（図 1- 地点 3）  
秋山哲雄 2010 『都市鎌倉の中世史』 吉川弘文館



## 第二章 調査の方法と経過

### 第1節 調査に至る経緯

今回の調査は個人専用住宅の建設に伴う埋蔵文化財の記録保存調査として鎌倉市教育委員会（以下、市教委）が実施した。

建築計画では基礎工事として最大深度 7.275 m の杭を打設することから、市教委では平成 22 年 8 月 31 日から 9 月 2 日までの三日間にわたって埋蔵文化財の確認調査を実施した。この結果、地表下 110cm で中世の遺物包含層が検出され、地表下 140cm ではやや多くの中世遺物を伴う遺構面（河川跡の可能性も示されている）が確認されたことから、建築工事の実施に先立って本格的な発掘調査を実施する必要があるとの判断に至った。

現地調査は平成 23 年 1 月 31 日～3 月 29 日の約二ヶ月間をかけて実施した。調査範囲は当初 65 m<sup>2</sup> を予定していたが安全面を考慮した結果 59.98 m<sup>2</sup> に狭まった。また、調査期間中に発生した東日本大震災に伴う計画停電のため調査後半には十分な排水ができなかったこともあり、最終的には I 区 32.16 m<sup>2</sup>、II 区 3.66 m<sup>2</sup> の計 35.82 m<sup>2</sup> が調査対象となった。



図2 調査区配置図

## 第2節 調査の方法

調査区は、掘削に伴う残土置き場を確保する必要から北半部のⅠ区と南半部のⅡ区とに分割し、Ⅰ区→Ⅱ区の順に調査を進めた。確認調査の結果を受け、地表下100cmまでを重機で掘削し、以下は人力での掘削に移行した。本地点では表土上位にあった泥岩埋め立て層を除去した地表下80cmで西側の谷戸上方から流下する帯水層に達したため、調査区の西側壁から水が流れ落ちる状況下で作業を進めることになった。調査区壁に沿って排水溝を巡らせて対応したが、出水量が夥しいなか、2月下旬までは小型発電機で揚水せざるを得ず、また3月11日以降には計画停電も重なったため作業は中断を繰り返した。

今回の調査では中世に帰属する1～4面+4面下の計5面を確認し、順次、写真撮影と測量図の作成を行った。測量に当たっては国家座標値を載せた基準杭を敷地内に設定し、主に光波測距儀で測定した座標値を方眼紙にプロットする方法で平面図を作成した。国家座標の移設は市道上の鎌倉市4級基準点「H112」と「H113」の二点間関係をもとに開放トラバース法によって行った。標高は鎌倉市3級基準点「53306」(41.620 m)を起点に、光波測距儀で高低差を測定する方法により敷地内の測量杭に移設した。

一連の移設作業は平成23年2月初旬に行ったため、同年3月11日に発生した東日本大震災に伴う地殻変動を受け座標値補正が必要である。本報告では、未補正の座標値を提示している。

## 第3節 調査の経過

前述のとおり、調査はⅠ区からⅡ区の順に進めた。Ⅰ区の表土掘削は平成23年1月31日に実施し、翌2月1日に調査用具を搬入して本格的に調査に着手した。遺構の確認と掘削、図面の作成および写真撮影などの記録作業を進め、3月10日には重機によるⅠ区埋め戻しとⅡ区表土掘削を行った。この際、前述のような出水状況であったため重機が立ち往生する場面があり、Ⅱ区の表土掘削は予定の1/3程度に留まる結果となった。翌3月11日からⅡ区の人掘削と土留め養生に着手したところ大きな揺れに見舞われ、これ以後は計画停電の合間を縫って排水・調査を進めるしかなかった。この時点で、Ⅱ区の表土未掘削部分については止むを得ず調査対象から除外することとした。

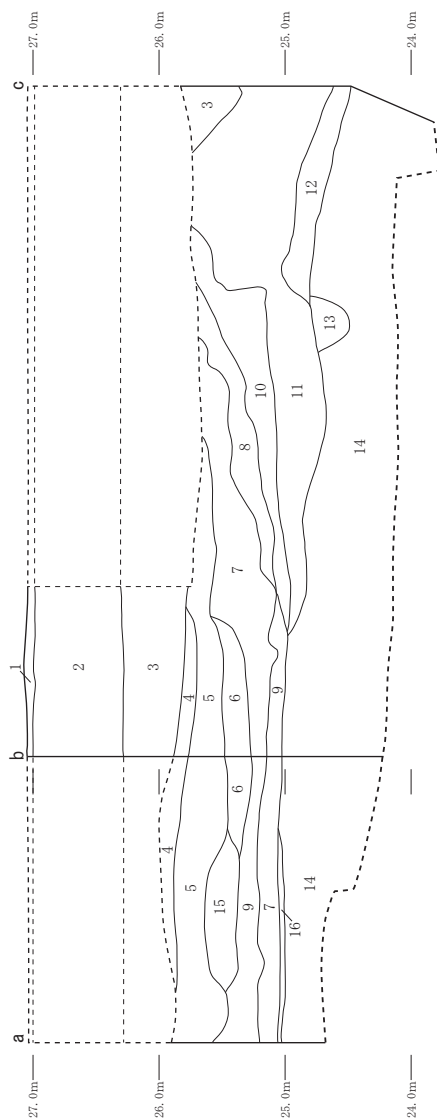
この後はⅡ区を下層まで順次掘り下げ、3月29日には調査用具を撤収して現地での調査工程を全て終了した。なお、確認調査の結果からは中世で3枚の遺構面が想定されており、調査期間もこの想定に基づいて設定されていた。加えて前述した出水・通電の事情もあり、期間・安全面の制約から4面下の下位については掘削・確認には及ばなかった。4面下までに中世基盤層は確認できなかったことから、さらに下位にも中世面が遺存していることが予測できる。

出土品等の整理および本報告の作成は平成25年度から28年度にかけて、鎌倉市教育委員会文化財課分室において断続的に行った。

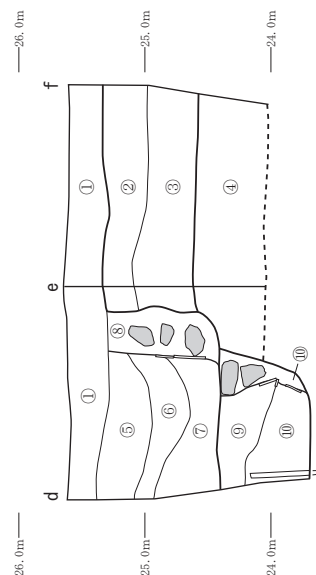
## 第三章 基本土層

本地点は極楽寺西ヶ谷の内にあり、西に延びる支谷の開口部に位置する。このため基盤層は暗褐色～黒褐色の粘質土層かと思われるが、調査で掘削し得た深さ(地表下3.4 m前後)までは泥岩塊が主体、もしくは泥岩粒を交えた中世の造成土が占め、中世基盤層以下、自然作用の堆積は確認できなかった。自然に考えれば、基盤層は南と東に下がって行くだろう。各土層の様相については、図3を参照されたい。





- 1 褐色土 耕作土。現代。
- 2 泥岩ブロック
- 3 黒灰色土 粘質土。水田の耕土と床土。近世～現代。
- 4 黒灰色土 1 cm大の泥岩粒少量。
- 5 黒灰色土 1～10 cmの泥岩粒少量。
- 6 黒灰色土 1～3 cmの泥岩粒とかわらかけ片多い。
- 7 泥岩ブロック 人頭大のブロックが主体。
- 8 黒灰色土 1～3 cmの泥岩粒多い。
- 9 黒灰色土 粘質土。締まり弱い。きめ細かく混入物ない。
- 10 黒灰色土 3～5 cmの泥岩粒多い。
- 11 泥岩ブロック 人頭大のブロックが主体。
- 12 黒灰色土 粘性あり。砂粒、貝殻片少量。
- 13 黒灰色土 粘性あり。砂粒、貝殻片多量。
- 14 泥岩ブロック 5 cm～人頭大の泥岩粒多量。
- 15 黒灰色土 締まりあり。3～5 cmの泥岩粒多い。
- 16 黒灰色砂 締まり弱い。貝殻粒多量。



- ① 黒灰色土 粘性あり。泥岩ブロック多量。
  - ② 黒灰色土 締まりあり。泥岩粒と砂質土が主体。
  - ③ 黒灰色土 締まりあり。拳～人頭大の泥岩ブロック多量。
  - ④ 黒灰色土 締まりあり。人頭大の泥岩ブロックやや多い。砂質土含む。
- 遺構1埋土**
- ⑤ 暗灰色土 粘性ややあり。拳大の泥岩ブロックやや多い。
  - ⑥ 黒灰色土 拳大の泥岩ブロック少量。砂質土含む。
  - ⑦ 黒褐色土 腐植土。粘性あり。締まり弱い。木片多量。
  - ⑧ 黒褐色土 粘性あり。締まり弱い。拳～人頭大の泥岩ブロック少量。
- 遺構2埋土**
- ⑨ 黒褐色土 腐植土。粘性あり。締まり弱い。木片、貝殻片多量。
  - ⑩ 黒褐色土 砂礫と泥岩粒が主体。貝殻粒多量。底面付近に玉石多い。
  - ⑪ 黒褐色土 粘性あり。人頭大の泥岩ブロック多量。

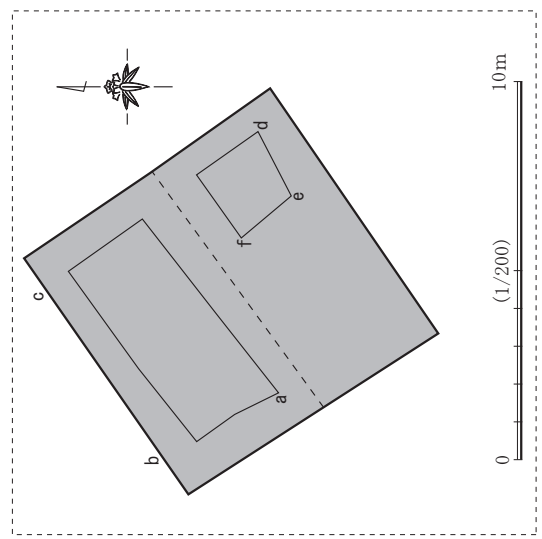
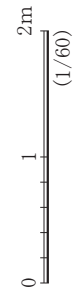


図3 調査区壁断面図

## 第四章 発見された遺構と遺物

今回の調査では、地表下 140cm 以下で計 5 枚の遺構面を確認した。谷戸内という不安定な立地条件であるためか、人頭大ほどもある大ぶりの泥岩塊を乱雑に積み上げた造成土と黒灰色土ベースの間層から成る堆積が目立ち、細かな泥岩粒を用いての丁寧な整地面は確認できなかった。図 3 から分かるように水平を意識して整えられた形跡が希薄であり、また、特に I 区においては各面で明瞭な掘り込みが確認できなかったことから、調査で認識した遺構面 = 生活面としての実態を有していたのか、不確実な部分が残る。3 面と 4 面下の 2 枚については、南北溝や礎板の存在から生活面としての可能性は高いと考える。

以下、各面の状況と検出された遺構について説明する。

### 1 面 (図 4)

I 区では標高 25.7 ~ 25.8 m、II 区では 25.5 m で検出された。I 区では東に向けて緩やかに下がり、

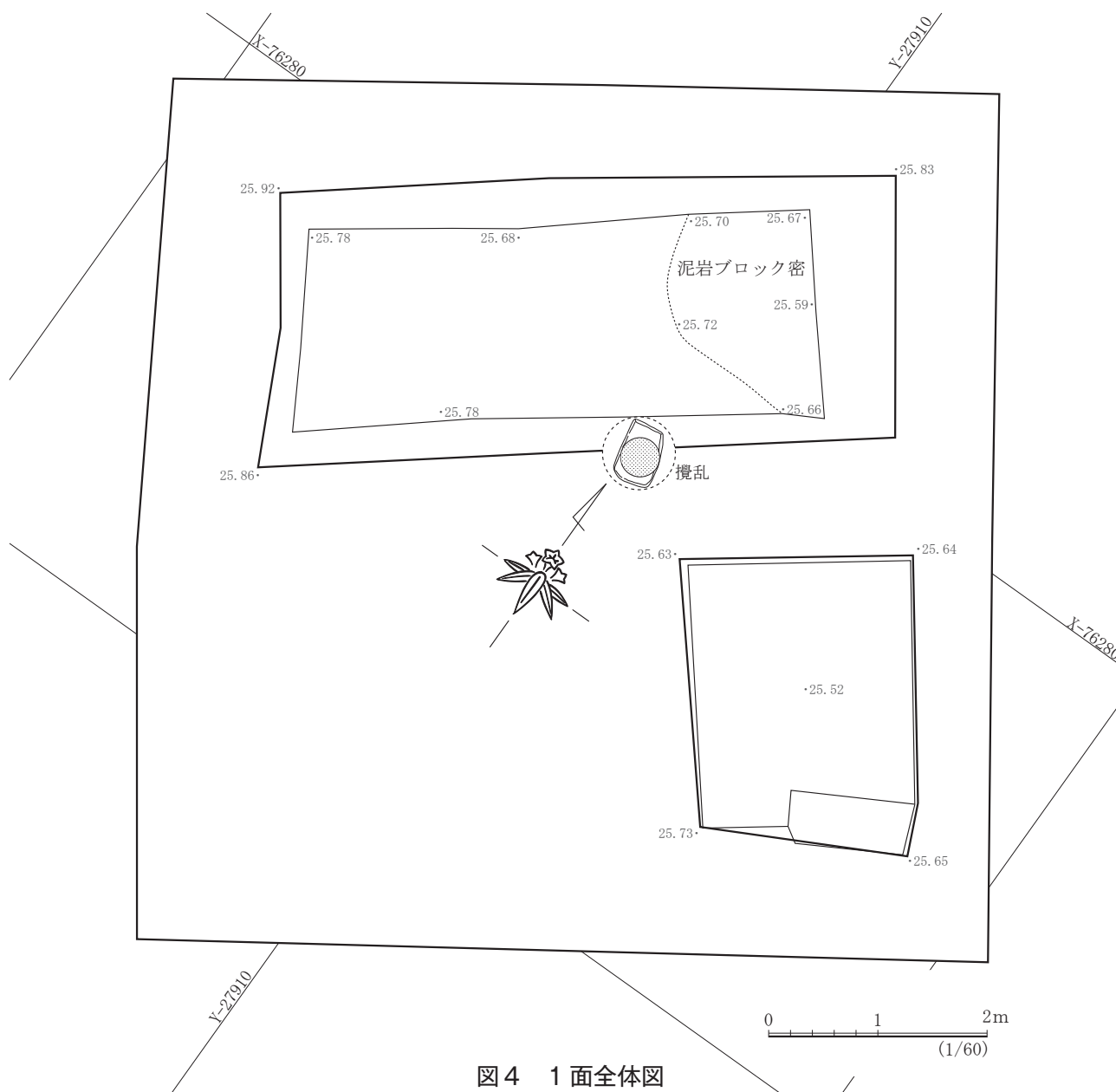


図 4 1 面全体図

東端部近くでは泥岩ブロックが密になる状況が見て取れた。Ⅰ・Ⅱ区ともに掘り込みを伴う遺構は確認できなかった。

上述の如く遺構が確認できなかったこともあり、1面に帰属する出土遺物は抽出できなかった。1面を挟む上下の層序から出土した遺物については、図10にⅠ区出土分を、図13にⅡ区出土分を掲げた。

主体となるかわらけを一見すると、1面より上位の資料に大・中・小という法量差を見て取れるものの器形だけを見ると1面の上下で明瞭な差異は見出せない。各法量とも、身深で内湾基調の器形を呈す。

## 2面 (図5)

Ⅰ区では標高 25.5 ~ 25.6 m、Ⅱ区では 25.4 m で検出された。Ⅰ区では南東に向けて緩やかに下る傾向があり、Ⅰ区内でも造成土中の泥岩ブロックに粗密が見て取れた。1面と同様、Ⅰ・Ⅱ区とも掘り込みを伴う遺構は確認できなかった。

2面に帰属する遺物は抽出できず、上下に挟む層序から出土した遺物について、図10・11 (Ⅰ区) と図13 (Ⅱ区) に掲げた。Ⅱ区の2面下ではかわらけに大・中・小の法量分化が認められ、各法量と

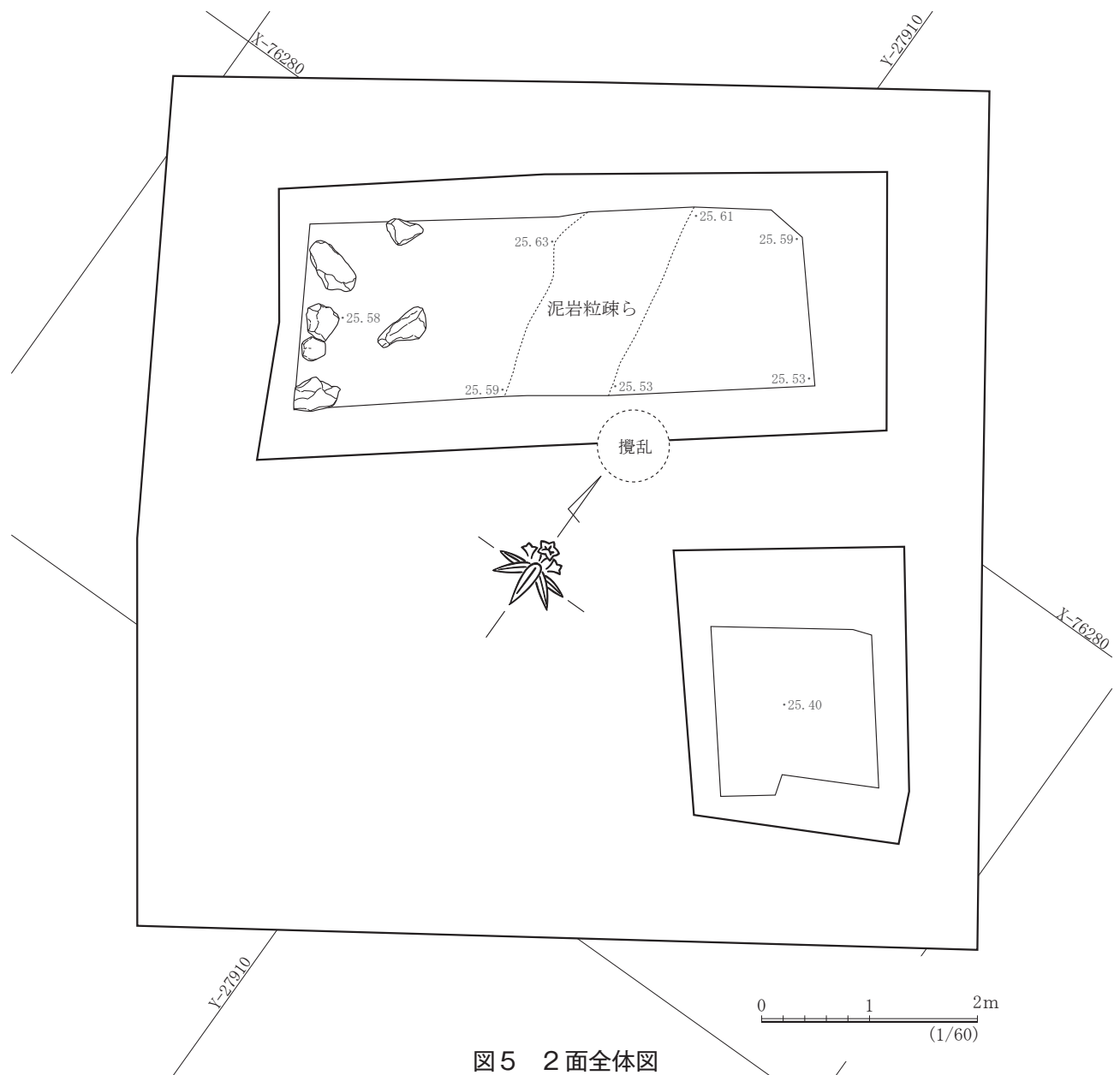


図5 2面全体図

も身深で内湾基調の器形を呈する。全体としては、1面下と2面下のかわらけに明確な器形差は見出せない。常滑製品は小片のみの提示となったが、Ⅱ区2面下では6a・6b型式が最新段階の資料となろう。

### 3面 (図6)

Ⅰ区では標高 25.3 ~ 25.45 m、Ⅱ区では標高 25.3 m 前後で検出され、Ⅰ区では西半域がなだらかな落ち込みとなっていた。Ⅱ区では南北方向に走る溝 (遺構 1) を確認した。

**遺構 1** Ⅱ区の東部で検出された。南北方向の溝で、確認できたのは西辺のみで幅と長さは把握できなかった。断面観察では 99cm の深さを計測し、底面の標高は 24.5 m を測った。検出範囲が限定的であるため明確な流下方向は掴めなかったが、谷戸の地形を考えれば南へ流れていたと見るのが自然であろう。西辺には二段分の横板を縦杭で抑えた護岸を設けており、掘り方の裏込め土には多量の泥岩ブロックが投入されていた。

3面の出土遺物として、図 12-45 ~ 54 にⅠ区西側落ち込みの出土資料を、図 14 にはⅡ区遺構 1 から出土した資料を掲げた。

Ⅰ区の資料のうち、かわらけには大・中・小の三法量が認められるが、大皿と中皿の法量差が顕著

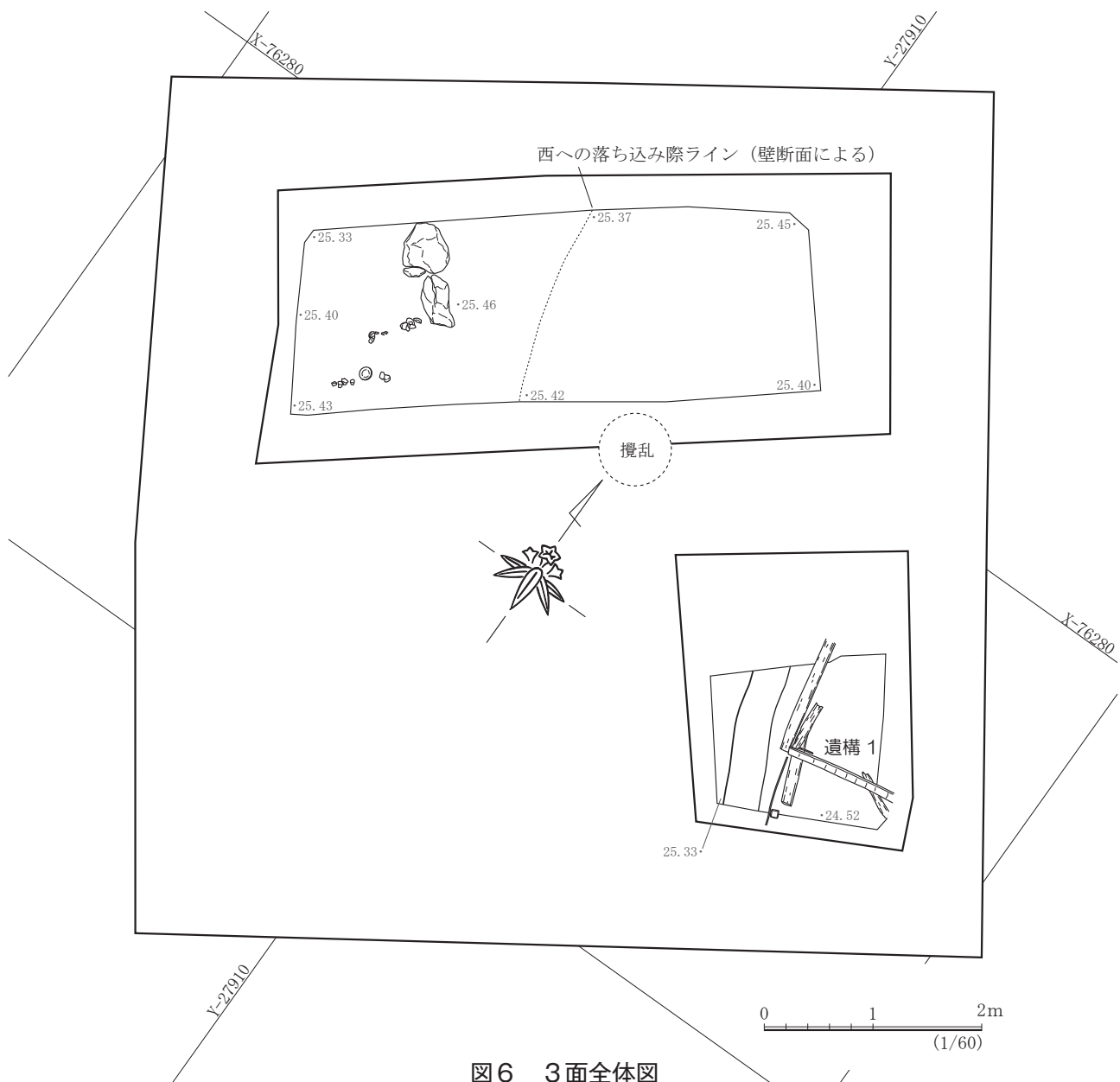


図6 3面全体図



でなく、48などは大皿のうちの小振りな個体という見方もできるかもしれない。三法量とも身深で内湾基調の器形を呈する。

遺構1出土のかわらけについては資料数が少なく、法量・器形上の特徴は見出し難い。

#### 4面 (図7)

I区では標高24.85～25.0m前後で確認したが、II区では近似するレベルで対応する面を把握することはできなかった。I区は全体的に東へ向けて緩やかに下がり、東側1/4付近でやや顕著な落ち方となる。泥岩ブロックが目立つことから面と認識したが、1・2面同様、確実な遺構面とは言い切れない。

3面下～4面の出土遺物のうち、I区出土分は図12-56～69に、II区出土分は図16-164～186に示した。かわらけは大皿の資料数が乏しいが、大・中・小の三法量が存在したことを窺わせる。3面の出土資料と同様、各法量とも身深で内湾基調の器形を呈する資料が主体となるが、小皿には60のように低平で外開きに立ち上がる器形のものも含まれている。

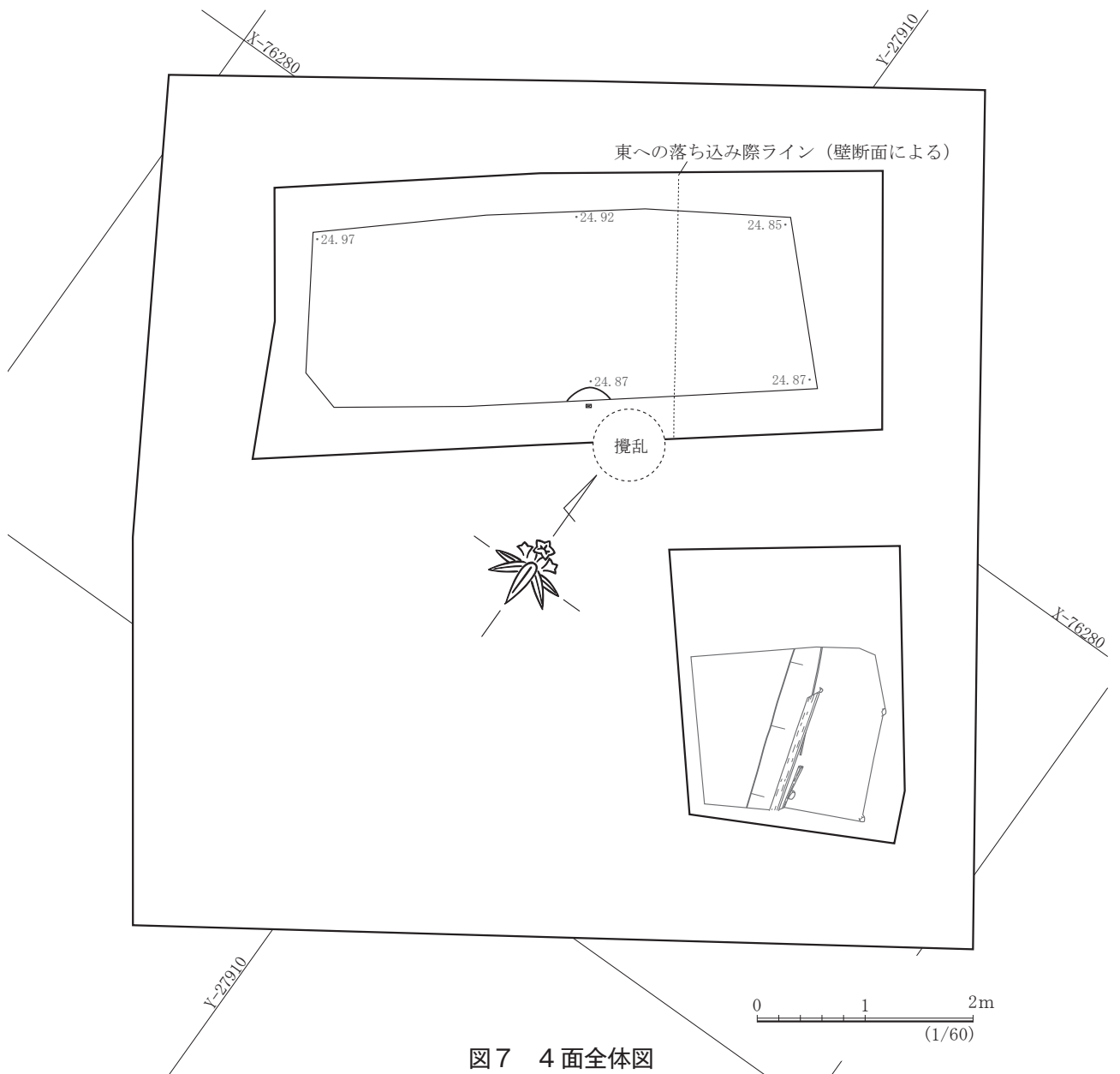


図7 4面全体図

#### 4面下 (図8)

I区では標高24.3～24.4mで確認した。II区は24.4m付近での南北溝(遺構2)の検出を以って面と認識したが、南壁断面の観察によって、遺構2の掘り込み面は24.6m付近にあることが把握できた。I区の方が20cmほど低いことになり、自然地形とは反対の傾斜方向となることから、I区においても24.5～24.6m前後に生活面があったと考えるのが自然であろう。I区で散見された杭の上端が大よそのこのレベルとなるので、これらが打ち込み(または切断)された高さが本来の生活面であったと考えておく。ただ、このレベルでは堆積層の明確な差異は認識できなかった。

**遺構2** II区東部で検出された南北溝で、西辺のみの確認であったため幅と長さは把握できなかった。断面観察では深さ75cmまでを計測し、推定される掘り込み面からは90cm以上の深さがあったと

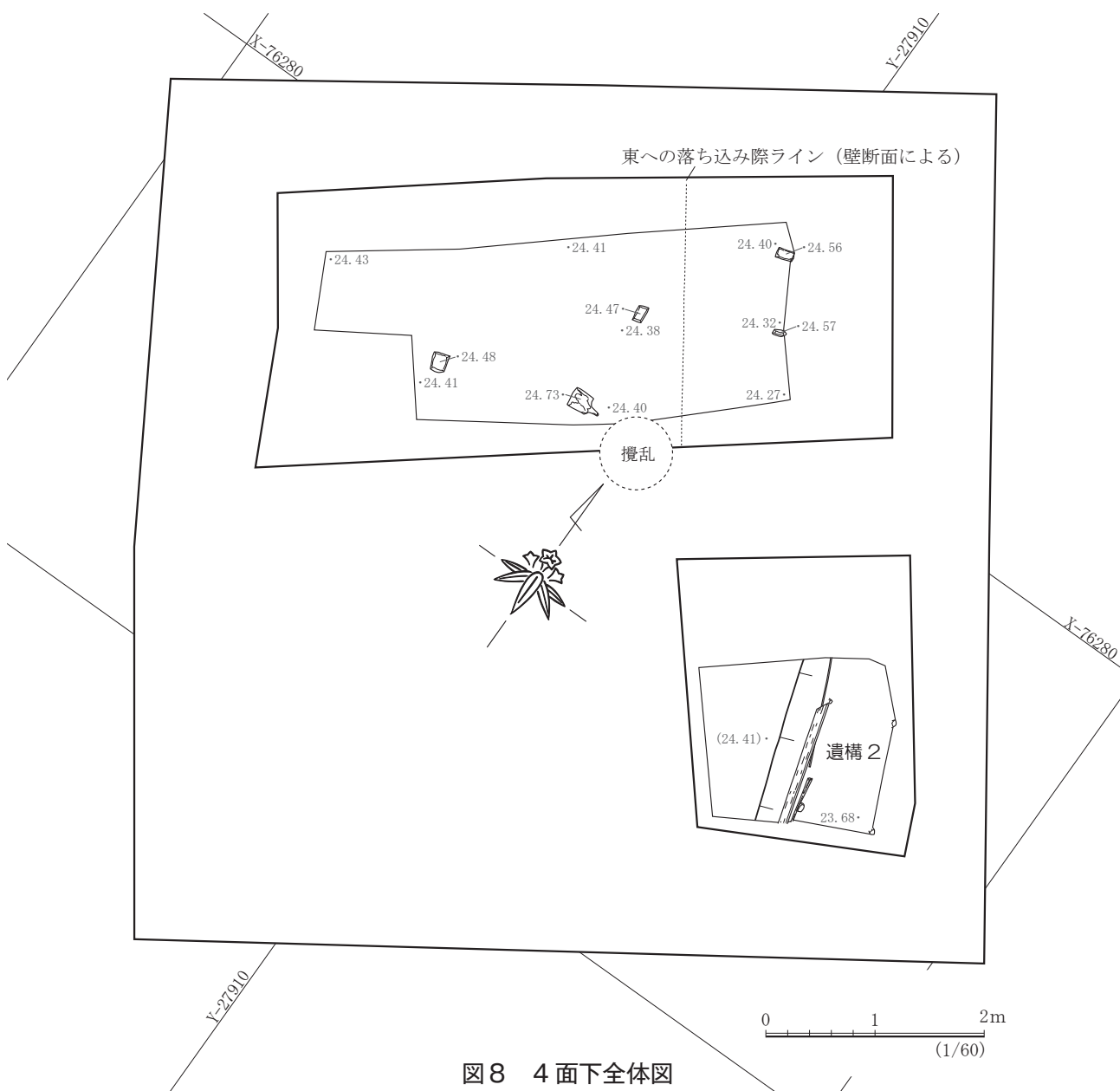
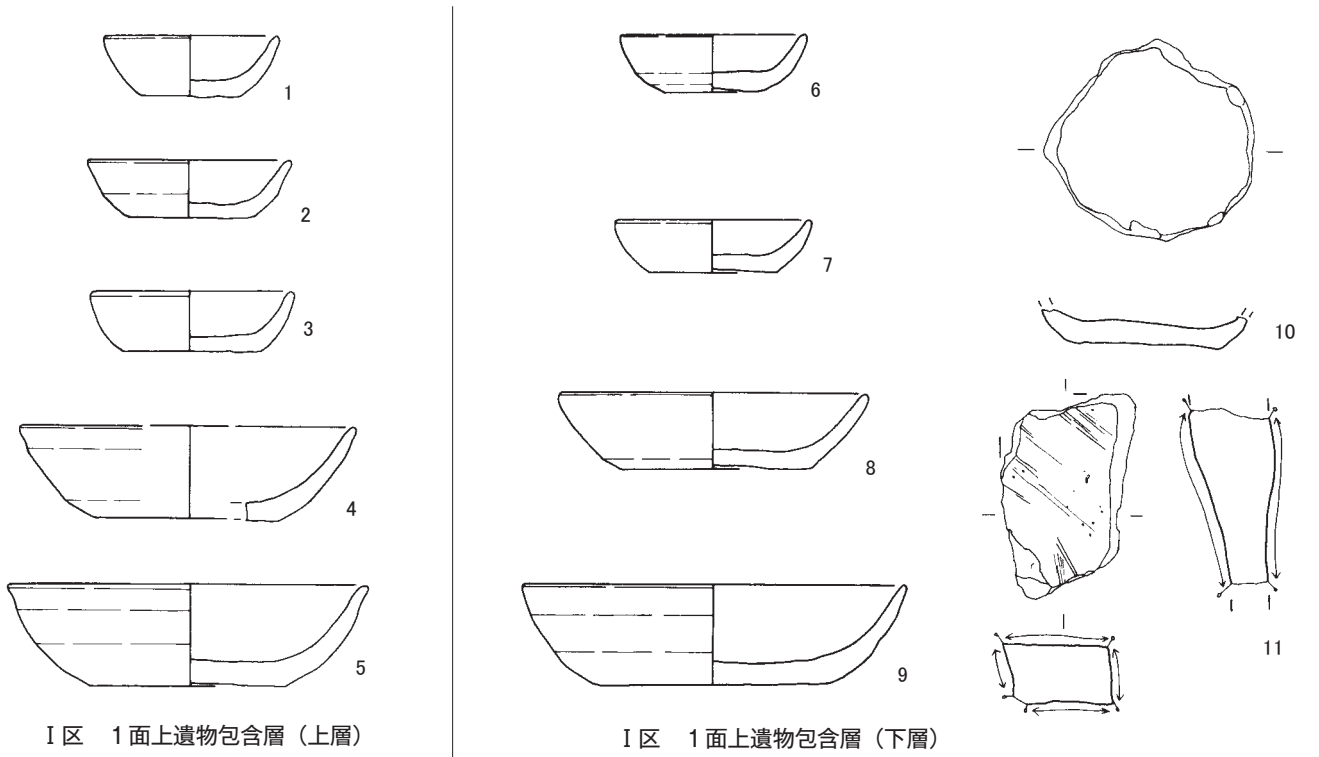


図8 4面下全体図

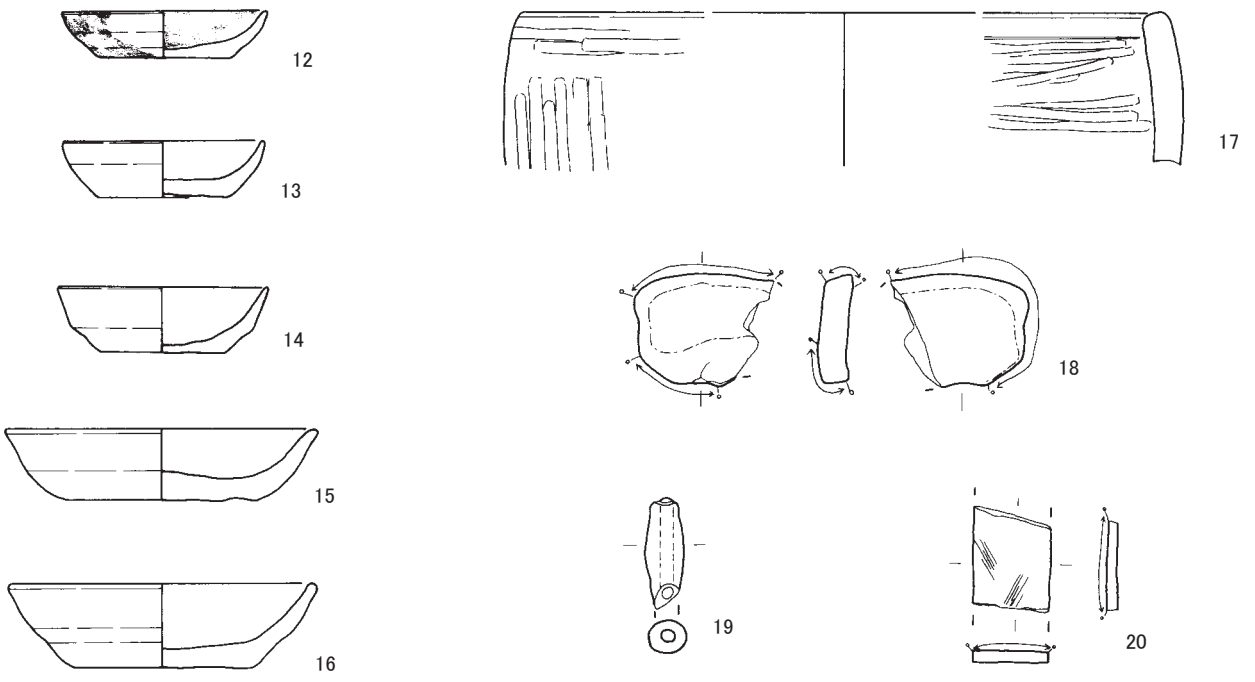


図9 3面 遺構1・4面下 遺構2 立面図

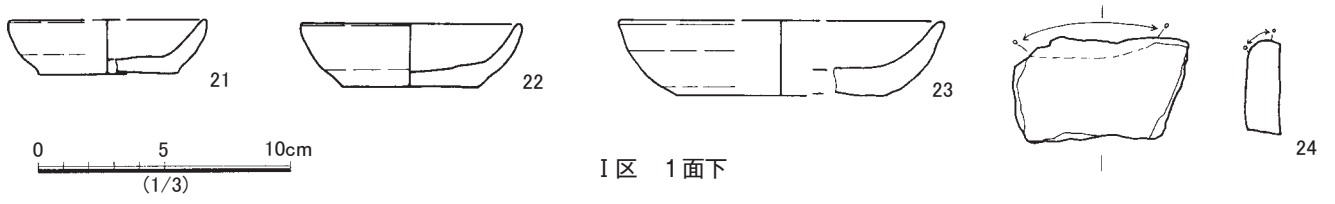


I区 1面上遺物包含層 (上層)

I区 1面上遺物包含層 (下層)



I区 1面下 (水抜き側溝出土)



I区 1面下

图 10 出土遺物 (1)

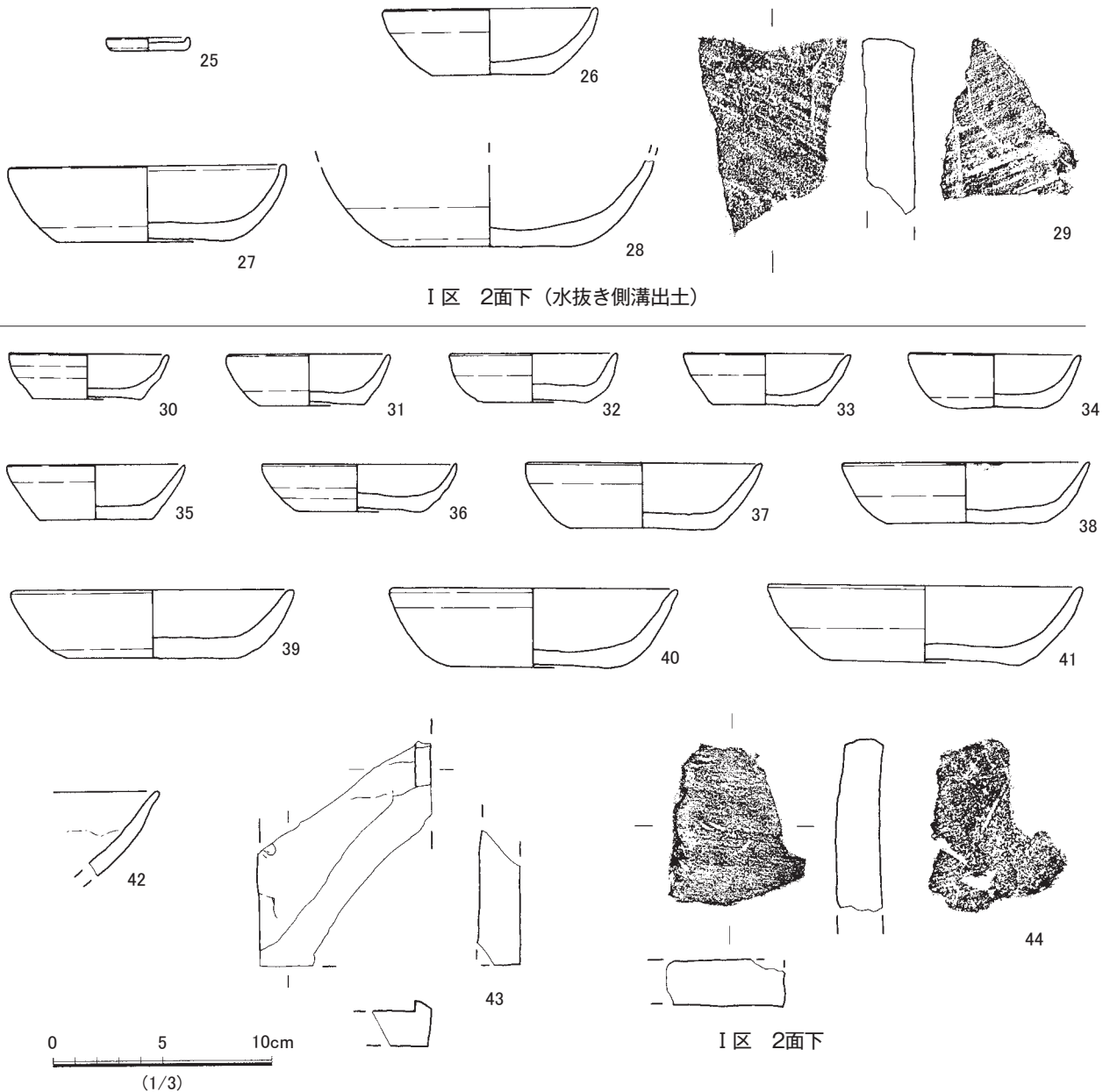


図 11 出土遺物 (2)

考えられる。底面標高は 23.7 m 前後で、上層の遺構 1 と同様、自然地形からは南へ向けて流下していたことが推測できる。西辺には二段分の横板を縦杭で抑えた護岸を設けており、掘り方の裏込め土には多量の泥岩ブロックが投入されていた。

図 12-70～75 は I 区 4 面下、図 15 は II 区遺構 2 の出土遺物である。かわらけには大・中・小の三法量が存在する。図 15-148 は器種不明の石製品で、遺存する 2 面に黒色系漆が塗られ、側面には金蒔絵による唐草文が施されている。152 は鉄板を山形に折り曲げた製品で、平面形は剣形を呈する。中央部に貫通孔があり、飾り釘といった使用方法が推定される。154～163 は遺構 2 の覆土下層から出土した。

かわらけは小皿のみ (154～156) の提示となったため傾向を捉えづらいが、覆土全体の出土品と同様、身深な資料が含まれない点を指摘できる。

遺構 2 の他には、I 区において木杭 5 本を確認している。前述のように、標高 24.5～24.6 m に上端



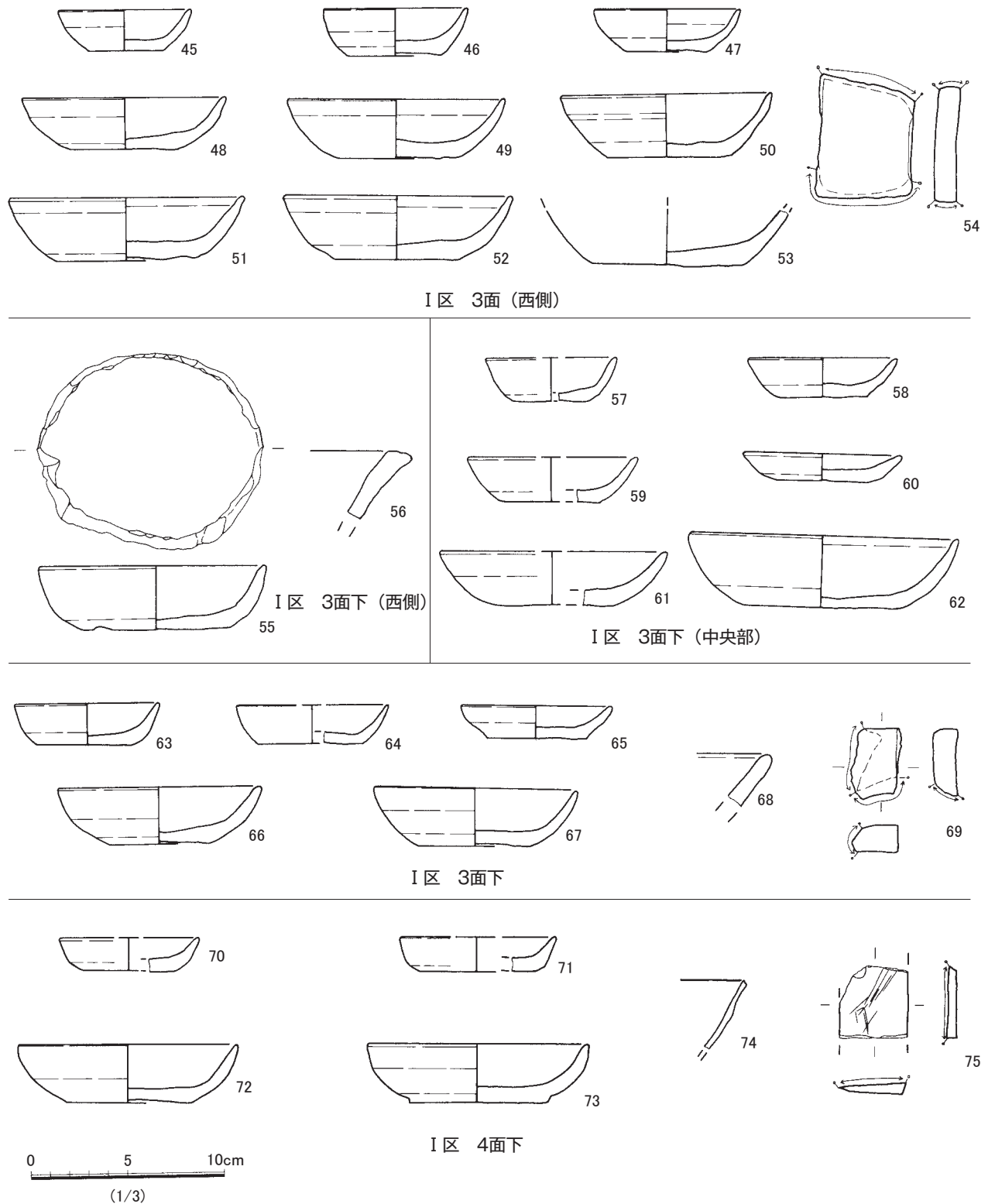


図 12 出土遺物 (3)

のレベルが集中することから、この付近に杭を打ち込む（または切断する）際の生活面があったと考えられる。検出された5本は太さに規格性がなく、調査範囲も狭小であるため杭列をなしていたかは分からないが、杭側面の向きやⅡ区の溝（遺構2）の走方向から判断すれば、概ね真北に近い軸線の構造物をなしていたことが推測できる。

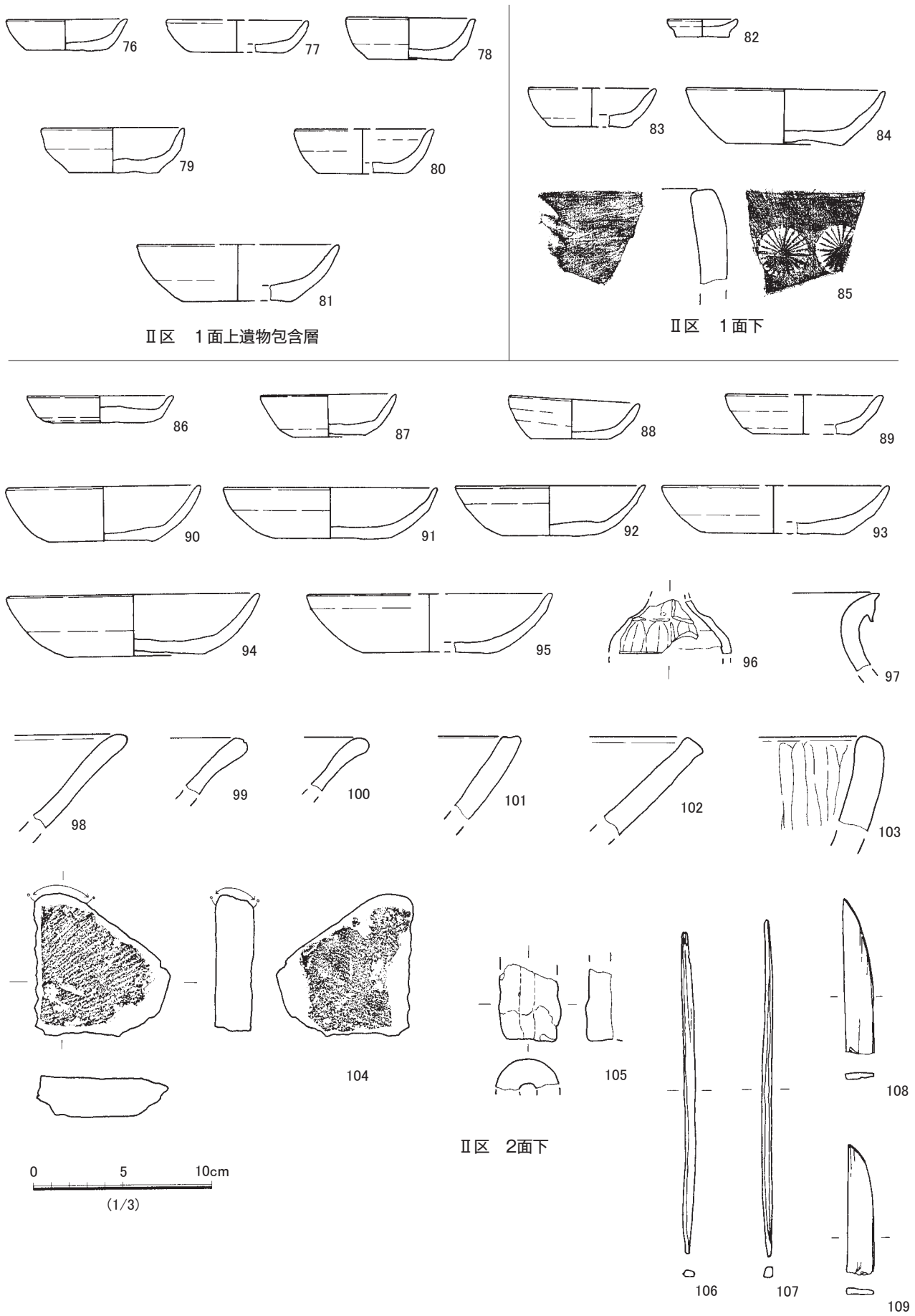
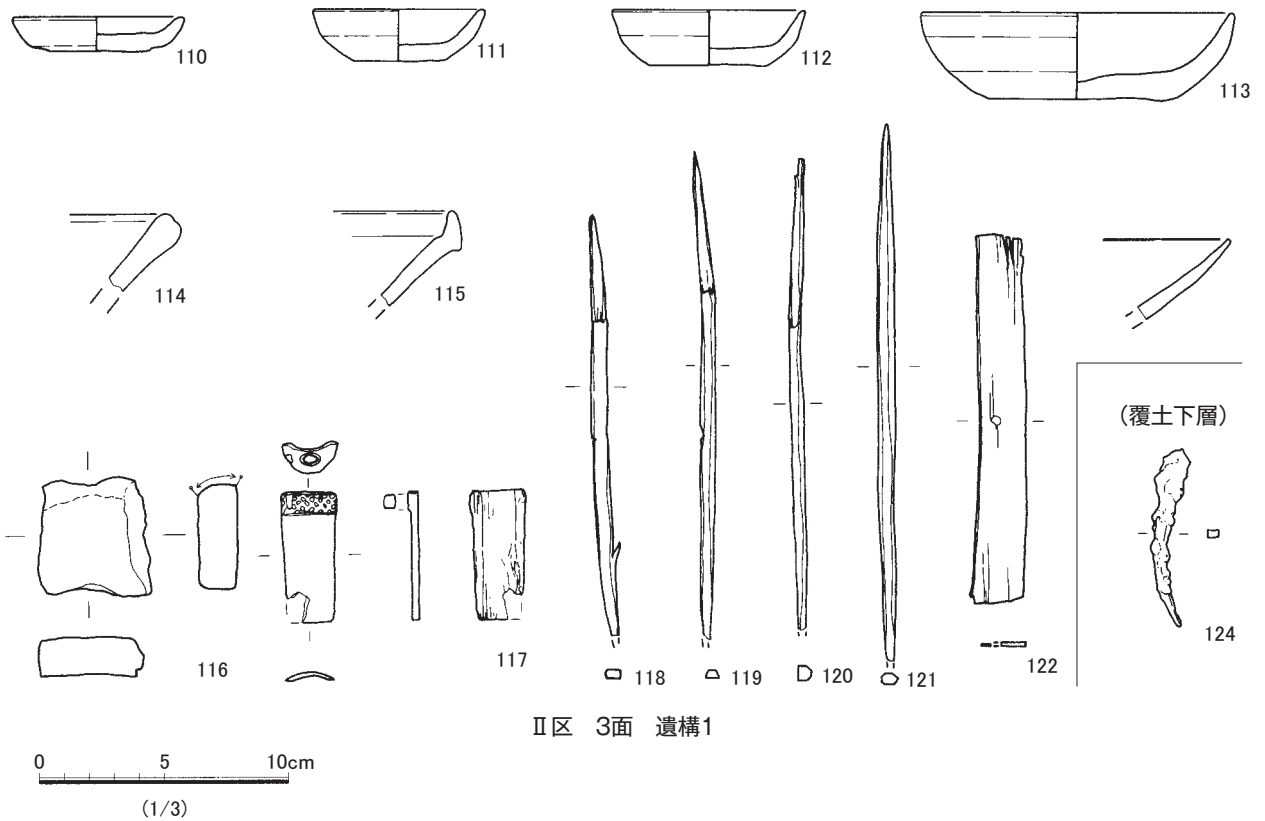


图 13 出土遺物 (4)



II区 3面 遺構1

図 14 出土遺物 (5)

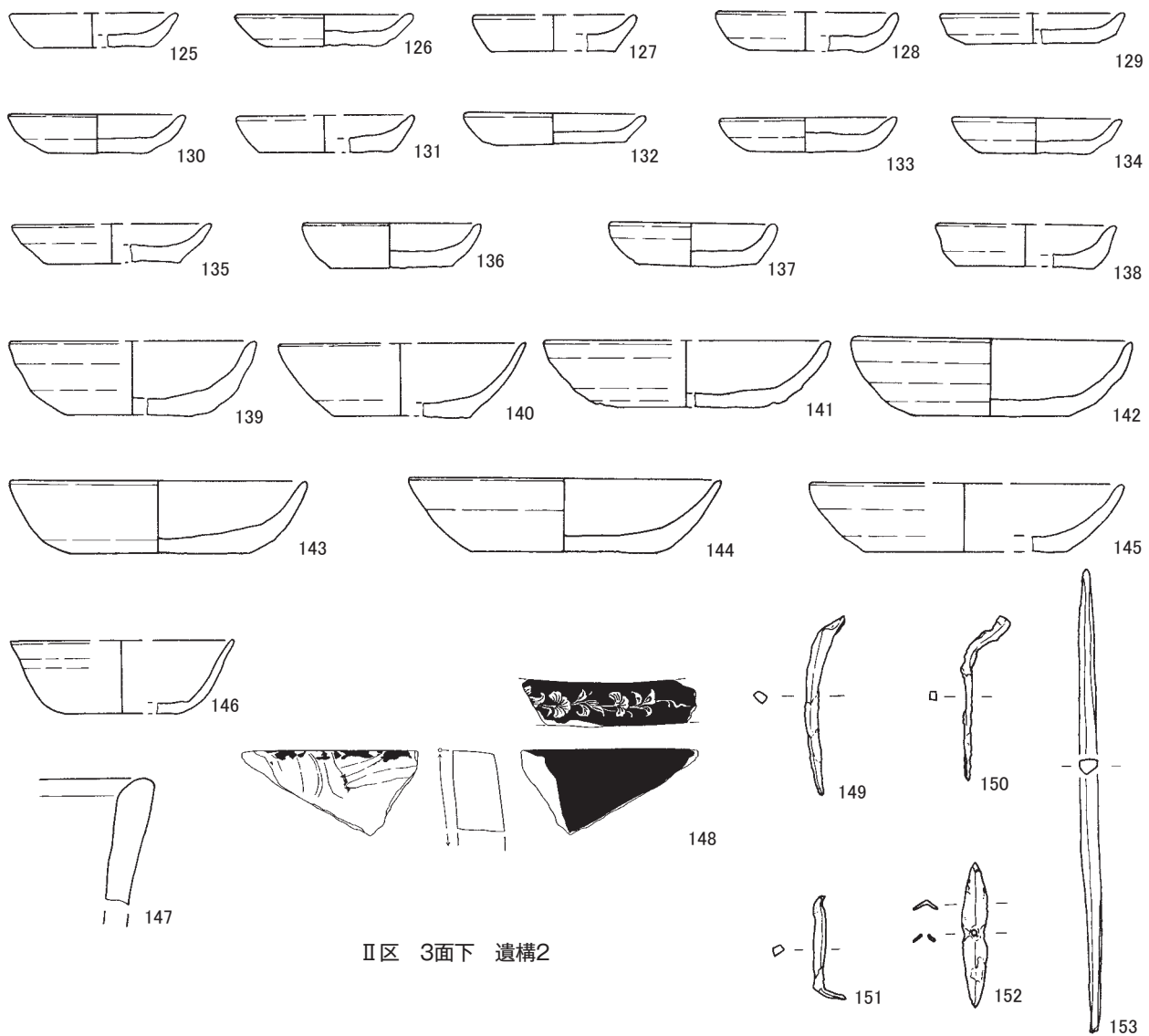
## 第五章 調査成果のまとめ

以上、雑駁な報告に終始してきた。

調査中、東日本大震災という不測の事態が起こったとはいえ、中途半端な形で調査を終わらせざるを得なかった点は担当者の力不足であり、責任を感じている。本調査に伴う掘削は中世層の中で留まっており、中世における土地利用の開始時期を把握することはできなかった。そうした中でも中世の所産となる5枚の遺構面を確認し、泥岩ブロックを積み重ねた土地造成・利用の痕を記録することができた。

上位の1面と2面はそれぞれ泥岩盛土層の上面を以て把握したが、生活面を精緻に整えた痕は窺えず、同一レベルで確認できる泥岩のブロック・粒の大きさには粗密が見られた。明確な遺構もなく、両面を生活面と判断した妥当性は、今後、近隣での発掘調査に際して検証されるべきであろう。1・2面ともに出土遺物の主体が在地産土器のロクロかわらけであり、搬入された窯産品に良好な資料がなく実年代の特定に難はあるが、かわらけは大・小とも体部の内湾具合が弱い製品が多く、概ね14世紀後半頃の傾向と捉えられる。I区の2面下で出土した灰釉平碗は古瀬戸中期様式の後半以降に比定できそうので、2面から1面にかけての造成は、概ね南北朝期の14世紀後半に進んだものと理解したい。

下位の3～4面下でも出土かわらけの特徴に顕著な差異はなく、窯産資料の伴出例も変わらず乏しい。4面下までを通じてかわらけには手づくね成形品が1破片も含まれていないことから、鎌倉で手づくねかわらけの使用が終焉を迎える13世紀後半(後葉)が4面下造成の上限年代といえよう。4面下より下位の層序にも手づくね製品が含まれていないのであれば、本地点の開発開始期を13世紀後半と推測することもできよう。この段階のかわらけには良好なセット資料はなかったものの大・中・小へ



II区 3面下 遺構2

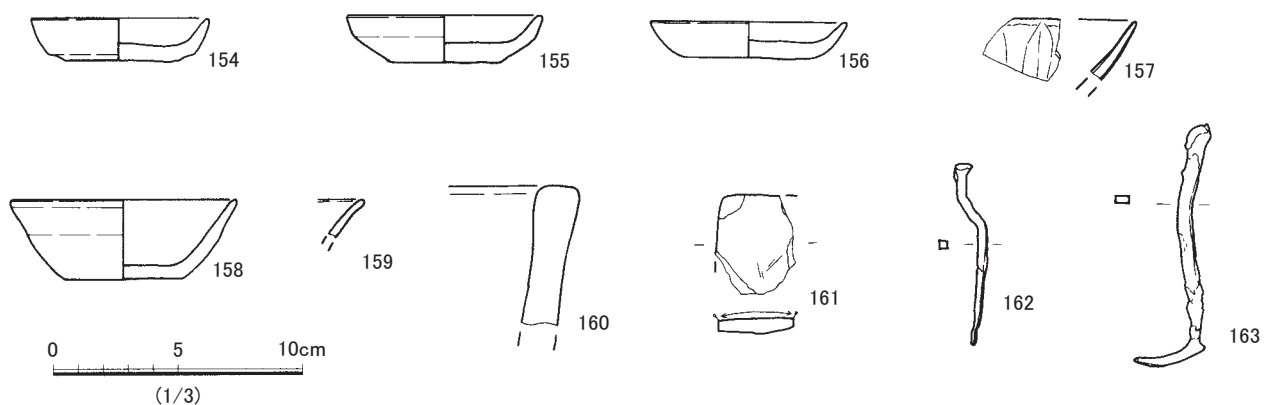


図 15 出土遺物 (6)

の法量分化を窺わせる。大・中の資料に身深で内湾気味の形態が多く、小は浅手が中心となる印象を持つ。積極的な根拠はないが、以上の傾向から3・4面の構築・使用は鎌倉後期の13世紀末～14世紀前半頃に進んだものと推測する。I区の3面下では古瀬戸の灰釉平碗が出土しているので、13世紀末を大きく遡ることはないと思われる。II区で検出された新旧2段階の南北溝は、谷戸内の排水を目的

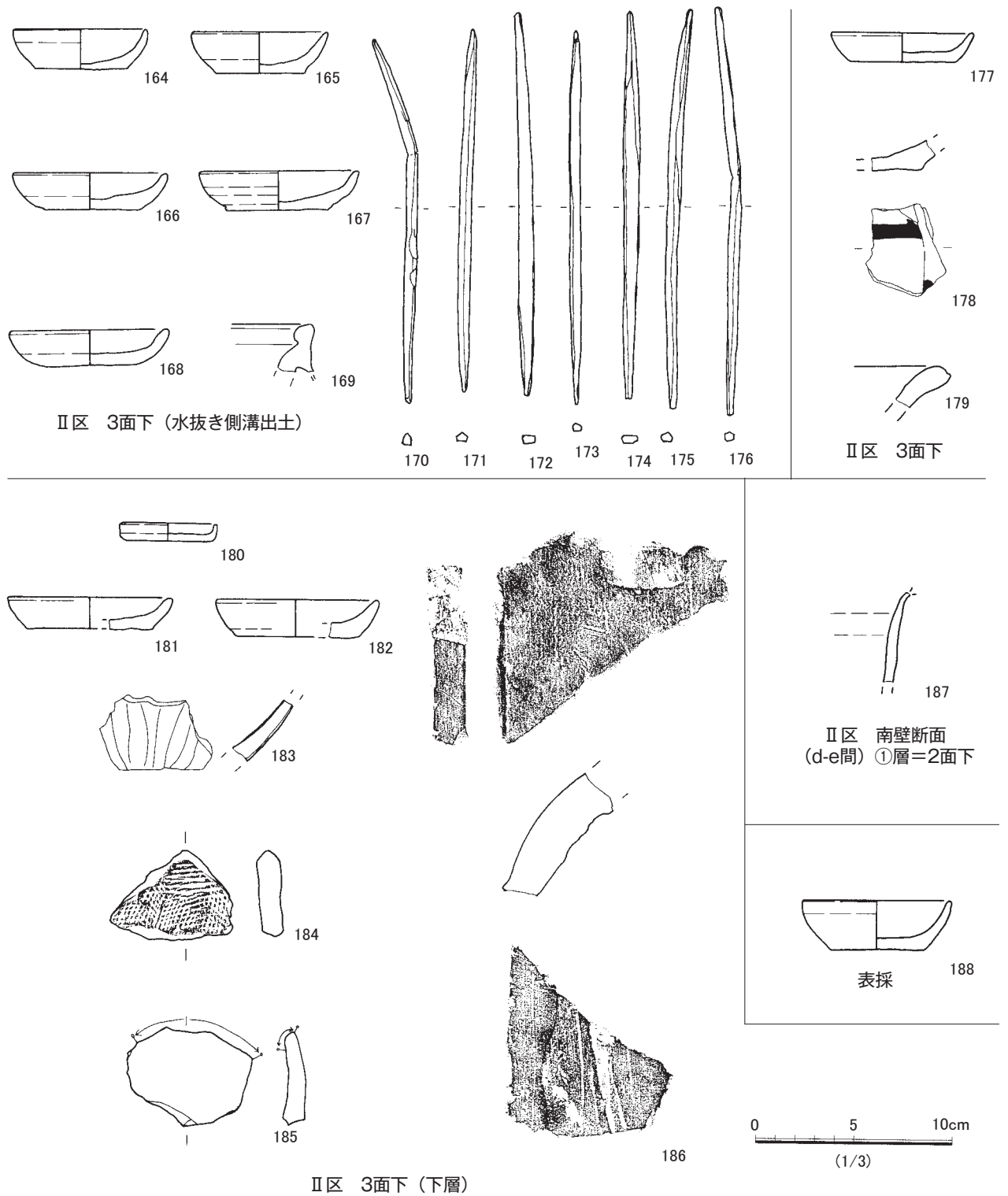


図 16 出土遺物 (7)

に構築されたものであろう。同時に土地区画の機能を併せ持っていたことも考えられるが、調査面積が狭く、また周辺の調査事例も少ないため可能性の提示に留めておく。



表 1 出土遺物カウント表

地区	面	遺構	かわらけ			吉備系 土師器	青白磁		青磁 (龍泉窯系)				瀬戸					
			ロクロ				碗	梅瓶	瓶類	劃花文 碗	蓮弁文 碗	碗・皿	瓶類	平碗	香炉	入子	瓶類	不明
			大	小	極小													
I	表採		8	2														
	0		247	22														
	0下	側溝	193	29							1							
	0-1		29	4														
	1-2		440	32											1			
	2-3		767	50	1								1					
	3		215	14														
	3-4		279	53							1		1					
4-5		208	15							1								
II	0		177	9		1												
	0-1		151	17				1										
	1-2		265	10	1													
	2-3		779	43			1	1		1	1		1	2			2	1
	3	1	275	38														
	3-4		222	21	1					1								
	4	2	335	67		1				2						2		

地区	面	遺構	尾張 ・常滑					東濃	東播 ・龜山		瓦質 土器	瓦	土製品	鉄製品		石製品	
			甗	転用片	壺	片口鉢			山茶碗	鉢				甗	火鉢	不明	管状 土錘
						I類	II類										
I	表採										1						
	0		3														
	0下	側溝	6			1											1
	0-1																
	1-2		1	1		1				2		1					1
	2-3		6														1
	3		3	1													
	3-4		9			2				3							
4-5		1					1				2						3
II	0		2		3	1											
	0-1		1														
	1-2									1							
	2-3		23			3	5	1		2	2	1					
	3	1	6			1			1	1			1				
	3-4		6	1		1				1							
	4	2	8			1		1		2	2		5	1	1	1	1

凡例  
 点数 = 破片数  
 重量単位 = g

地区	面	遺構	骨角製品	木製品・木材			漆器	種子	人骨	獣骨		土器(古代)	近世磁器
			栗形	草履芯	箸	折敷	椀	桃核	部位不明	ウシ・ウマ	不明	甕	碗
I	表採												
	0												
	0下	側溝											1
	0-1												
	1-2												
	2-3											1	
	3								1				
	3-4									1	4		
4-5													
II	0												
	0-1												
	1-2												
	2-3			3	8			1			7		
	3	1	1	2	35	1	1	1			5		
	3-4			3	4						1		
	4	2		1	6	3		2			1		

地区	面	遺構	貝											
			アカニシ	ササエ	ハイ	キサコ	タンペイキサコ	アワビ	カキ	ハマグリ	チョウセンハマグリ	カラスガイ	不明	
I	表採													
	0													
	0下	側溝												
	0-1													
	1-2													
	2-3							2						1
	3													
	3-4			1							4			
4-5			1		1		1							
II	0													
	0-1													
	1-2													
	2-3													
	3	1	6	1	1	1				2				
	3-4			2	1	1		7	1		1	1		
	4	2	1	4	3	2		4		6		6		

表2 出土遺物観察表

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			その他の特徴
			口径	底径	器高	
出土遺物(1)(図10)						
1	土器	ロクロ かわらけ・小	6.4	3.8	2.3	1/4 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
2	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.8	2.2	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
3	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	5.3	2.3	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 黄橙色 外底面に板状圧痕
4	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(7.0)	3.5	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
5	土器	ロクロ かわらけ・大	13.5	7.4	3.9	2/3 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 橙色 外底面に板状圧痕
6	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(3.8)	2.2	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 黄橙色 外底面に板状圧痕
7	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.8	2.0	2/3 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
8	土器	ロクロ かわらけ・中	11.7	7.0	2.9	略完形 [103]g 胎土:白色針状物質、胎土、赤色砂粒 黄橙色 外底面に板状圧痕
9	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.4)	(8.4)	3.8	1/4 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
10	土器	ロクロ かわらけ・大	—	5.6	[1.3]	口～体部打ち欠き 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
11	石製品	砥石	長さ [7.0]	幅 4.7	厚さ 3.0	中砥 凝灰岩 四面を使用
12	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.0	1.8	完形 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
13	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	5.1	2.2	完形 43g 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
14	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(4.9)	2.5	1/4 41g 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
15	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.8)	(7.1)	2.7	1/4 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
16	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.5)	(6.3)	3.2	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
17	瓦質土器	火鉢	(24.3)	—	[5.8]	Ⅲ類か 口1/8
18	陶器	常滑 (転用研磨具)	長さ 4.6	幅 4.3	厚さ 1.0	割れ口周辺が磨耗
19	土製品	管状土錘	長さ [4.3]	外径 1.5	孔径 0.5	2/3 [6]g
20	石製品	砥石	長さ [3.5]	幅 2.9	厚さ 0.4	仕上げ砥 一面を使用
21	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	(5.2)	2.1	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
22	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.3)	5.1	2.4	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
23	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(7.3)	2.9	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
24	瓦質土器	火鉢 (転用研磨具)	長さ 3.6	幅 6.4	厚さ 1.4	割れ口の一辺が磨耗
出土遺物(2)(図11)						
25	土器	ロクロ かわらけ・極小	3.2	3.0	0.6	1/2 内折れ 胎土:角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
26	土器	ロクロ かわらけ・中	(9.8)	(5.4)	3.0	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
27	土器	ロクロ かわらけ・大	12.5	8.0	3.3	完形 168g 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
28	土器	ロクロ かわらけ・特大	—	(8.3)	[3.8]	底1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
29	瓦	平瓦	長さ [9.0]	幅 [6.8]	厚さ 2.4	小片
30	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	(5.0)	2.1	1/4 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
31	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.9	2.3	2/3 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
32	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.8	2.2	4/5 [49]g 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
33	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.9	2.3	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 橙色 外底面に板状圧痕
34	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	4.0	2.5	1/4 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			その他の特徴
			口径	底径	器高	
35	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	5.0	2.5	2/3 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
36	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.8)	5.5	2.2	1/4 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
37	土器	ロクロ かわらけ・中	10.5	6.5	3.0	4/5 [94]g 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 橙色 外底面に板状圧痕
38	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.2)	7.0	2.8	1/4 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕 口縁部に煤付着
39	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.6)	(7.6)	3.1	1/4 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
40	土器	ロクロ かわらけ・大	12.9	7.7	3.6	1/2 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 橙色 外底面に板状圧痕
41	土器	ロクロ かわらけ・大	(14.3)	(8.7)	3.6	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 橙色 外底面に板状圧痕
42	陶器	瀬戸 平碗	—	—	[3.8]	口小片
43	石製品	硯	長さ [10.2]	幅 [8.0]	厚さ 1.8	黒色粘板岩
44	瓦	平瓦	長さ [8.2]	幅 [7.1]	厚さ 2.0	小片

出土遺物(3)(図12)

45	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	3.7	2.1	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
46	土器	ロクロ かわらけ・小	7.4	5.0	2.5	3/4 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
47	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.2	2.3	4/5 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
48	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.4)	(5.4)	2.7	1/4 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
49	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.2)	6.2	3.1	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
50	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.9)	6.4	3.2	2/3 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
51	土器	ロクロ かわらけ・大	12.0	7.0	3.3	完形 156g 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 橙色 外底面に板状圧痕
52	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.6)	6.4	3.3	1/4 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
53	土器	ロクロ かわらけ・大	—	7.5	[2.9]	体・底部 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
54	陶器	常滑 (転用研磨具)	長さ 6.5	幅 5.0	厚さ 1.1	割れ口の三辺が磨耗
55	土器	ロクロ かわらけ・大	11.8	7.4	3.3	口縁欠損 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
56	陶器	尾張 片口鉢	—	—	[3.5]	口小片
57	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.7)	(4.0)	2.2	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
58	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	4.4	2.0	2/3 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
59	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(5.0)	2.3	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
60	土器	ロクロ かわらけ・小	8.0	4.6	1.3	1/4 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
61	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.6)	(6.0)	2.7	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
62	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.8)	(8.2)	3.7	1/4 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
63	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.5)	(5.0)	2.1	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
64	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.4)	2.0	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
65	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	5.0	1.7	1/4 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 橙色 外底面に板状圧痕
66	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.4)	(5.2)	3.0	1/4 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
67	土器	ロクロ かわらけ・中	10.1	5.5	2.9	2/3 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
68	陶器	尾張 片口鉢	—	—	[2.8]	口小片
69	瓦質土器	火鉢 (転用研磨具)	長さ 3.7	幅 2.4	厚さ 1.3	割れ口の三辺が磨耗

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			その他の特徴
			口径	底径	器高	
70	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.1)	(4.8)	1.7	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
71	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	(6.0)	1.8	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
72	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.1)	6.0	3.0	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 黄橙色 外底面に板状圧痕
73	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.3)	7.1	3.0	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 橙褐色 外底面に板状圧痕
74	陶器	東濃 山茶碗	—	—	[3.6]	口小片
75	石製品	砥石	長さ [3.8]	幅 [3.1]	厚さ 0.4	仕上げ砥 頁岩 両端欠損 一面を使用
出土遺物(4)(図13)						
76	土器	ロクロ かわらけ・小	6.7	4.5	1.7	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 黄橙色 外底面に板状圧痕
77	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.4	1.8	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
78	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.2	2.4	3/4 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 橙色 外底面に板状圧痕
79	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	5.0	2.5	1/4 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 橙色 外底面に板状圧痕
80	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.1)	2.5	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
81	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.2)	(6.2)	2.6	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
82	土器	ロクロ かわらけ・極小	3.7	3.0	1.0	3/4 胎土:白色針状物質、砂粒
83	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.9)	(4.5)	2.1	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
84	土器	ロクロ かわらけ・中	(11.0)	(6.5)	3.0	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
85	瓦質土器	火鉢	—	—	[5.3]	Ⅲ類 口小片
86	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	5.0	1.5	2/3 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
87	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.4)	4.0	2.4	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 黄色橙色 外底面に板状圧痕
88	土器	ロクロ かわらけ・小	7.1	4.4	2.4	略完形 [40]g 橙色 外底面に板状圧痕
89	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.5)	5.5	2.2	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 橙色 外底面に板状圧痕
90	土器	ロクロ かわらけ・中	10.7	6.0	3.0	2/3 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
91	土器	ロクロ かわらけ・大	(11.6)	(5.6)	2.8	1/4 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 橙色 外底面に板状圧痕
92	土器	ロクロ かわらけ・中	10.5	5.3	2.8	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
93	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.5)	(7.6)	2.7	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
94	土器	ロクロ かわらけ・大	13.9	7.7	3.4	2/3 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
95	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.5)	(7.1)	3.2	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 黄橙色 外底面に板状圧痕
96	鉄製品	瓜形水注	—	—	[3.0]	胴部復元径は曖昧 内面無軸
97	陶器	常滑 甕	—	—	[4.5]	6a型式 口小片
98	陶器	尾張 片口鉢	—	—	[5.1]	口小片
99	陶器	尾張 片口鉢	—	—	[3.0]	口小片
100	陶器	尾張 片口鉢	—	—	[3.1]	口小片
101	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[4.7]	口小片
102	陶器	常滑 片口鉢Ⅱ類	—	—	[5.4]	口小片
103	瓦質土器	火鉢	—	—	[5.3]	Ⅲ類 口小片
104	瓦	平瓦 (転用研磨具)	長さ [7.7]	幅 [7.6]	厚さ 2.2	割れ口の一边が磨耗



遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			その他の特徴
			口径	底径	器高	
105	土製品	用途不明	長さ [4.3]	径 [3.5]	孔径 0.8	管状製品
106	木製品	箸	長さ 18.0	幅 0.5	厚さ 0.5	完形
107	木製品	箸	長さ 18.7	幅 0.5	厚さ 0.5	完形
108	木製品	草履芯	長さ [8.5]	幅 [1.7]	厚さ 0.3	小片
109	木製品	草履芯	長さ [7.0]	幅 [1.5]	厚さ 0.3	小片

出土遺物(5)(図14)

110	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.1)	4.0	1.4	1/4 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
111	土器	ロクロ かわらけ・小	(6.7)	3.6	2.1	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 橙褐色
112	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(4.6)	2.2	1/3 胎土:白色針状物質 灰褐色 外底面に板状圧痕
113	土器	ロクロ かわらけ・大	12.4	6.9	3.5	2/3 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 橙色
114	陶器	尾張 片口鉢	—	—	[3.0]	口小片
115	須恵器	東播系 鉢	—	—	[3.7]	口小片
116	瓦質土器	火鉢 (転用研磨具)	長さ 4.1	幅 4.2	厚さ 1.6	割れ口の一辺が磨耗
117	骨製品	刀装具	長さ 5.2	幅 2.2	高さ 1.4	栗形? 略完形 [5]g 一部に黒色系漆が付着
118	木製品	箸	長さ [16.6]	幅 0.6	厚さ 0.6	一部欠損
119	木製品	箸	長さ [19.5]	幅 0.5	厚さ 0.6	一部欠損
120	木製品	箸	長さ [18.5]	幅 0.5	厚さ 0.5	一部欠損
121	木製品	箸	長さ [21.3]	幅 0.6	厚さ 0.6	一部欠損
122	木製品	折敷	長さ [14.7]	幅 [1.9]	厚さ 0.2	小片
123	土器	吉備系 碗	—	—	[3.5]	口小片
124	鉄製品	釘	長さ 7.2	幅 0.5	厚さ 0.4	完形

出土遺物(6)(図15)

125	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.1)	1.5	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
126	土器	ロクロ かわらけ・小	7.6	5.0	1.4	1/2 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
127	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	(5.5)	1.6	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 橙褐色 外底面に板状圧痕
128	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.0)	1.7	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
129	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(5.8)	1.3	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 灰褐色 外底面に板状圧痕
130	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(4.2)	1.7	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
131	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	(5.7)	1.6	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
132	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	5.5	1.5	完形 51g 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
133	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.6)	4.9	1.5	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 灰褐色 外底面に板状圧痕
134	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	4.7	1.5	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 橙褐色 外底面に板状圧痕
135	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.7)	(6.0)	1.7	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 橙褐色 外底面に板状圧痕
136	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	5.2	2.0	1/2 胎土:白色針状物質、角閃石 灰褐色 外底面に板状圧痕
137	土器	ロクロ かわらけ・小	7.3	5.3	1.9	2/3 胎土:白色針状物質、角閃石 明褐色 外底面に板状圧痕
138	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.8)	(6.0)	1.8	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 橙褐色 外底面に板状圧痕

遺物番号	種別	器種	法量 (cm)			その他の特徴
			口径	底径	器高	
139	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.7)	(5.6)	3.2	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
140	土器	ロクロ かわらけ・中	(10.2)	(6.0)	3.2	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
141	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.4)	(6.7)	2.9	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
142	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.1)	6.7	3.4	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
143	土器	ロクロ かわらけ・大	(12.3)	7.6	3.2	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
144	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.7)	8.0	3.2	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 橙色 外底面に板状圧痕
145	土器	ロクロ かわらけ・大	(13.4)	(8.9)	3.0	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
146	陶器	瀬戸 入子	(9.8)	(5.0)	3.2	1/8
147	瓦質土器	火鉢	—	—	[5.5]	Ⅲ類か 口小片
148	石製品	器種不明	—	—	[2.2]	小片 [17]g 残存部に黒色系漆塗り、端面に金蒔絵による唐草文
149	鉄製品	釘	長さ [7.8]	幅 0.5	厚さ 0.3	完形 11g
150	鉄製品	釘	長さ 7.2	幅 0.3	厚さ 0.4	完形 3g
151	鉄製品	釘	長さ 4.5	幅 0.5	厚さ 0.5	完形 4g
152	鉄製品	飾り紙?	長さ 6.3	幅 1.1	高さ 0.4	中央部に直径2mmの貫通孔あり
153	木製品	箸	長さ 20.3	幅 0.8	厚さ 0.7	完形
154	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.0)	4.4	1.6	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
155	土器	ロクロ かわらけ・小	7.7	4.3	1.9	1/2 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
156	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.7)	4.8	1.5	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
157	磁器	青磁 蓮弁文碗	—	—	[2.4]	龍泉窯系Ⅲ-2c類か 口小片
158	陶器	瀬戸 入子	(9.0)	(4.6)	3.2	1/3
159	陶器	瀬戸 入子	—	—	[1.5]	口小片
160	瓦質土器	火鉢	—	—	[5.5]	Ⅲ類か 口小片
161	石製品	砥石	長さ [4.1]	幅 3.1	厚さ 0.7	仕上げ砥
162	鉄製品	釘	長さ 7.3	幅 0.4	厚さ 0.4	完形 3g
163	鉄製品	釘	長さ [9.5]	幅 0.6	厚さ 0.3	完形 (折れ曲がり) 12g

出土遺物(7)(図16)

164	土器	ロクロ かわらけ・小	6.8	4.5	2.0	略完形 [39]g 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
165	土器	ロクロ かわらけ・小	6.9	4.5	2.1	3/4 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
166	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.9	1.9	略完形 [52]g 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
167	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.9)	5.3	2.0	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 灰橙色 外底面に板状圧痕
168	土器	ロクロ かわらけ・小	7.8	4.5	1.8	完形 60g 胎土:白色針状物質、角閃石 橙褐色 外底面に板状圧痕
169	陶器	常滑 甕	—	—	[2.5]	6a型式 口小片
170	木製品	箸	長さ 18.5	幅 0.4	厚さ 0.6	完形
171	木製品	箸	長さ 18.5	幅 0.5	厚さ 0.5	完形
172	木製品	箸	長さ 19.8	幅 0.7	厚さ 0.4	完形
173	木製品	箸	長さ 19.1	幅 0.5	厚さ 0.4	完形

遺物 番号	種別	器種	法量 (cm)			その他の特徴
			口径	底径	器高	
174	木製品	箸	長さ 19.3	幅 0.5	厚さ 0.4	完形
175	木製品	箸	長さ 20.4	幅 0.5	厚さ 0.5	完形
176	木製品	箸	長さ 20.8	幅 0.5	厚さ 0.5	完形
177	土器	ロクロ かわらけ・小	(7.2)	5.4	1.5	1/3 胎土:白色針状物質、角閃石 橙灰色
178	土器	ロクロ かわらけ・大	—	—	[1.4]	底部片 胎土:白色針状物質、角閃石 橙褐色 外底面に墨書(判読不明)
179	陶器	尾張 片口鉢	—	—	[2.1]	口小片
180	土器	ロクロ かわらけ・極小	4.9	4.4	0.9	1/2 胎土:角閃石 橙色
181	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.1)	(6.2)	1.6	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
182	土器	ロクロ かわらけ・小	(8.0)	(6.2)	1.9	1/6 胎土:白色針状物質、角閃石 黄橙色 外底面に板状圧痕
183	磁器	青磁 蓮弁文碗	—	—	—	龍泉窯系Ⅱ-b類か 体小片
184	陶器	東播系? 転用研磨具	長さ 4.5	幅 6.0	厚さ 1.2	
185	陶器	常滑? 転用研磨具	長さ 4.7	幅 6.4	厚さ 0.8	割れ口の一辺が磨耗
186	瓦	丸瓦	長さ 9.5	—	—	小片
187	陶器	瀬戸 柄付片口?	—	—	[4.7]	口小片
188	土器	ロクロ かわらけ・小	7.5	4.5	2.5	完形 49g 胎土:白色針状物質、角閃石、赤色砂粒 橙色 外底面に板状圧痕





1. 現地調査前（南東から）



5. I区3面（北から）



2. I区表土掘削（南東から）



6. I区3面（南から）



3. I区1面（南から）



7. I区3面 遺物出土状況



4. I区2面（南から）



8. I区4面（東から）



図版2



1. I区冠水状況（南東から）



5. II区3面（北から）



2. I区4面（北から）



6. II区3面 遺構1（北から）



3. I区4面下（北から）



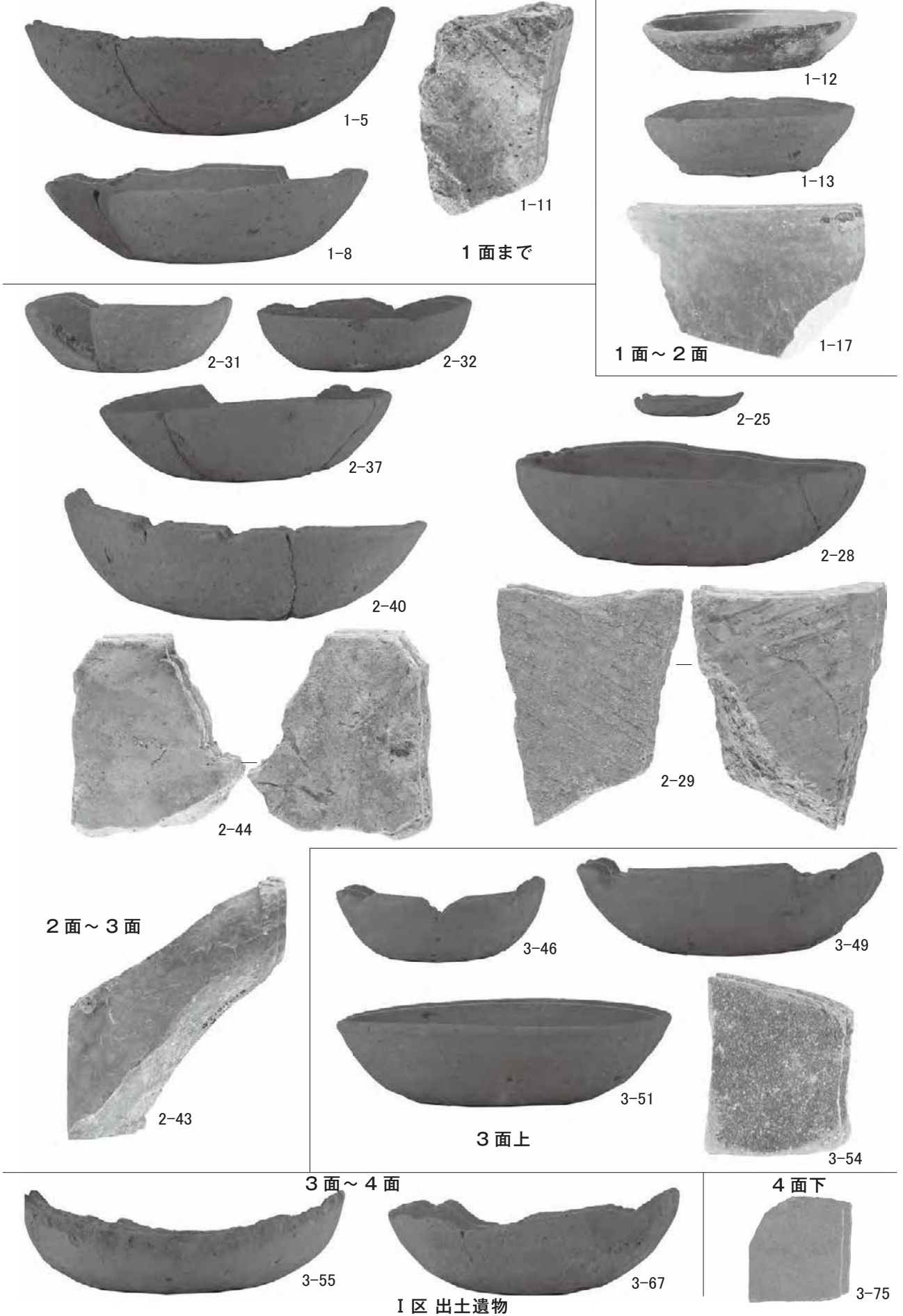
7. II区3面 遺構1（北東から）



4. I区柱材（攪乱）検出状況（北から）

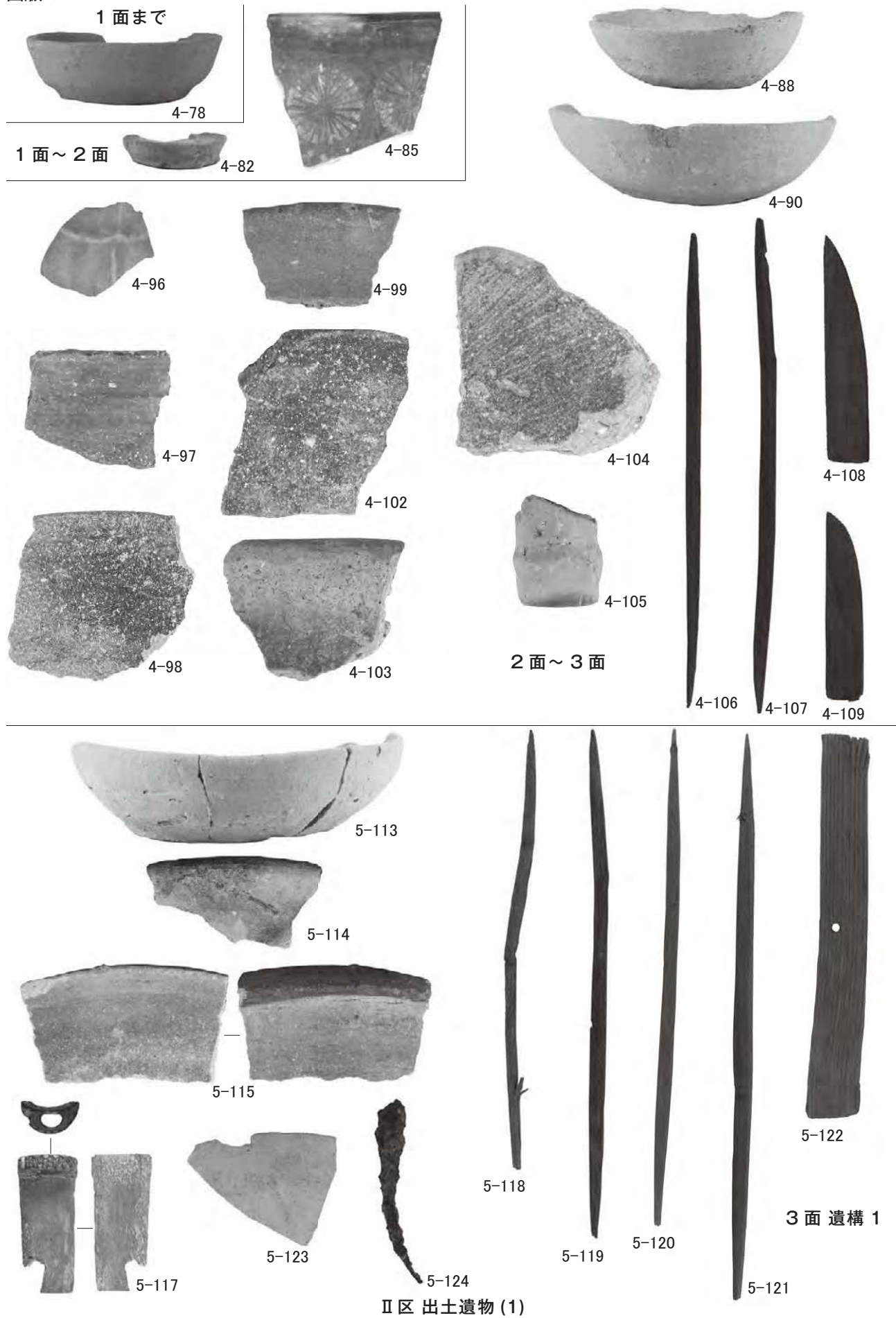


8. II区3面 遺構1 西護岸材（東から）





図版4





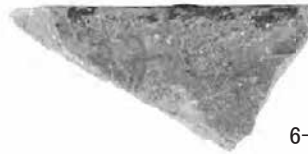
6-132



6-137



6-147



6-148



6-149



6-151



6-150



6-152



6-157



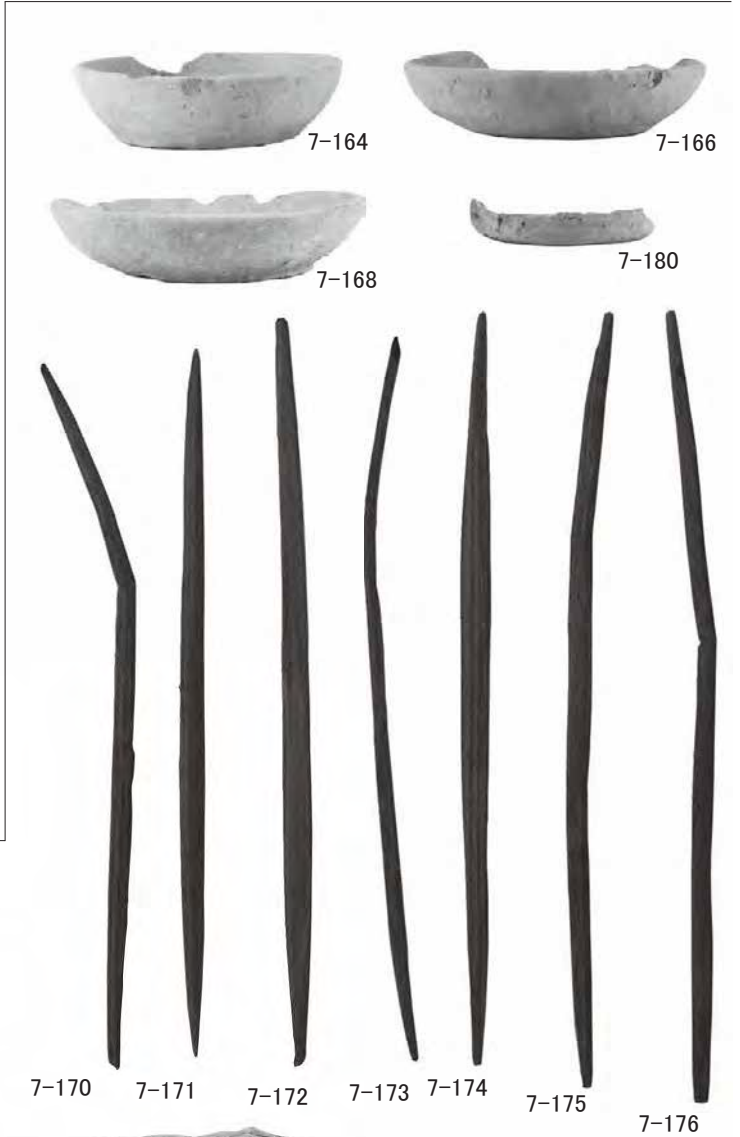
6-162

6-163



6-153

3面下遺構2



7-164



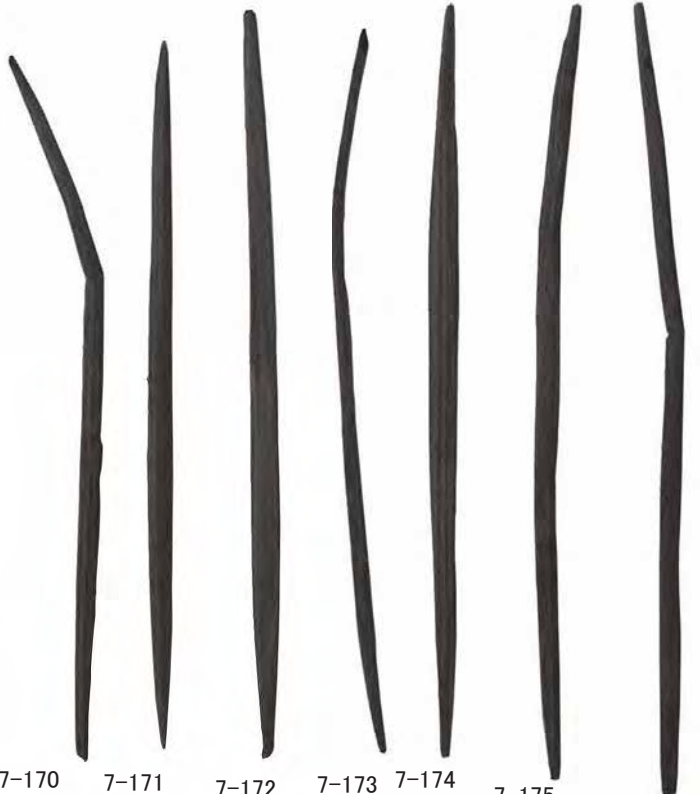
7-166



7-168



7-180



7-170

7-171

7-172

7-173

7-174

7-175

7-176



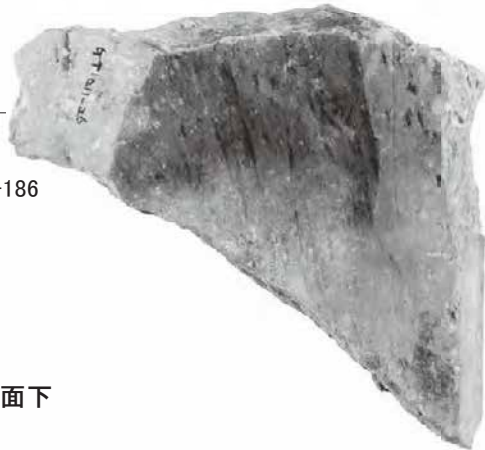
7-183



7-185



7-186



3面下

Ⅱ区出土遺物(2)

南壁①層



7-187

表採



7-188





## 報告書抄録

ふりがな	かまくらしまいぞうぶんかざいきんきゅうちょうさほうこくしょ							
書名	鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書							
副書名	平成28年度調査報告							
巻次	33 (第1分冊)							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者	福田 誠/伊丹まどか・渡辺美佐子/伊丹まどか/田畑衣理/伊丹まどか/押木弘己							
編集機関	鎌倉市教育委員会							
所在地	〒248-8686 鎌倉市御成町18番10号							
発行年月日	西暦2017年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号				(㎡)	
はせこうじしゅうへんいせき 長谷小路周辺遺跡	神奈川県鎌倉市 由比ガ浜三丁目 254番1	14204	236	35° 18' 50"	139° 32' 38"	20060821 ～ 20061003	33.00	自己用店舗併用 住宅 (柱状改良工事)
ざいもくざまちやいせき 材木座町屋遺跡	神奈川県鎌倉市 材木座二丁目 208番1	14204	261	35° 18' 38"	139° 33' 11"	20070226 ～ 20070501	45.00	個人専用住宅兼 事務所 (柱状改良工事)
げばしゅうへんいせき 下馬周辺遺跡	神奈川県鎌倉市 由比ガ浜二丁目 54番15	14204	200	35° 18' 54"	139° 32' 50"	20080610 ～ 20080707	18.00	個人専用 住宅 (鋼管杭工事)
ゆいがはまみなみいせき 由比ヶ浜南遺跡	神奈川県鎌倉市 長谷二丁目 176番8	14204	315	35° 18' 43"	139° 32' 21"	20080723 ～ 20080815	55.00	個人専用 住宅 (基礎工事)
いまこうじにしいせき 今小路西遺跡	神奈川県鎌倉市 由比ガ浜一丁目 134番4	14204	201	35° 18' 58"	139° 32' 47"	20081020 ～ 20081110	48.00	個人専用 住宅 (基礎工事)
ごくらくじきゅうけいだいいせき 極楽寺旧境内遺跡	神奈川県鎌倉市 極楽寺四丁目 923番2の一部	14204	291	35° 18' 43"	139° 31' 35"	20110131 ～ 20110331	65.00	個人専用 住宅 (鋼管杭工事)

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
はせこうじしゅうへんいせき 長谷小路周辺遺跡	都市	中世	道路遺構、溝、土坑、ピット	かわらけ、国産陶器、 舶載陶磁器、巻き貝、 二枚貝	13世紀中から後半の 生活面と長谷小路、 稲村崎路と思われる 道路を検出。
ざいもくざまちやいせき 材木座町屋遺跡	都市	中世	掘立柱建物、竪穴 建物、土坑、ピット、 井戸	かわらけ、国産陶器、 舶載陶磁器、金属製 品、石製品	13世紀前半から15世 紀の竪穴建物群を検 出。
げばしゅうへんいせき 下馬周辺遺跡	都市	中世	溝、土坑、ピット	かわらけ、国産陶器、 舶載陶磁器、土製品、 瓦質製品、金属製品、 石製品、骨角製品	13世紀後半から15世 紀の生活面を検出。 破碎泥岩の地業層を 検出。
ゆいがはまみなみいせき 由比ヶ浜南遺跡	都市	中世	溝、溝状遺構、土 坑、ピット	かわらけ、国産陶器、 舶載陶磁器、瓦質製 品、金属製品、骨角製 品	13世紀中頃から14世 紀前半にかけての砂 丘上に形成された遺 構群。
いまこうじにしいせき 今小路西遺跡	都市	中世	土坑、ピット	かわらけ、国産陶器、 舶載陶磁器、土製品、 瓦質製品、金属製品、 石製品、骨角製品	14世紀から15世紀前 半の生活面を検出。
ごくらくじきゅうけいだいいせき 極楽寺旧境内遺跡	社寺	中世	溝	かわらけ、国産陶器、 舶載陶磁器、木製品、 瓦、金属製品、石製品	13世紀後半から14世 紀後半の土地利用を 確認。金蒔絵を施し た石製品が出土。

鎌倉市埋蔵文化財緊急調査報告書 33

平成 28 年度発掘調査報告

(第 1 分冊)

発行日 平成 29 年 3 月 31 日

編集・発行 鎌倉市教育委員会

印刷 株式会社ポートサイド印刷